

千歳市

# キウス5遺跡(10)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成24年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

# キウス5遺跡(10)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成24年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター





平成19年度 住居跡調査状況（南から）



平成21年度 焼土列（南西から）

カラー図版 2



平成21年度 小柱穴列（南東から）



基本層序（南東から）



S B-3 赤石出土状況（南から）



最花式（大木9式）

## 例 言

1. 本書は、国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路工事に伴い、財団法人 北海道埋蔵文化財センター（平成24年度から「公益財団法人」）が平成15・16・18～21（2003・2004・2006～2009）年度に実施した、千歳市キウス5遺跡台地部の埋蔵文化財発掘調査報告書（『千歳市 キウス5遺跡（10）』北埋調報299）である。その対象は、キウス5遺跡 台地部の第Ⅱ黒色土層より下位の層（縄文時代後期～旧石器時代）の遺構・遺物についてのものである。  
なお、台地南側の低位部は平成15・18（2003・2006）年度に調査し、平成19（2007）年度に「キウス5遺跡（8）」（北埋調報251）を刊行し、台地部の第Ⅰ黒色土層（據文文化期～縄文時代晩期）は、平成23（2011）年度に「キウス5遺跡（9）」（北埋調報284）を刊行している。
2. 当該事業によるキウス5遺跡の調査報告書としては3冊目であるが、当センターでは平成7（1995）年度～平成10（1998）年度に、日本道路公団札幌建設局（当時）による北海道横断自動車道（千歳夕張間）建設工事に伴い、本遺跡を発掘調査し報告書を7冊刊行している。  
当報告書名は、同じ遺跡の発掘調査報告書の連番である「(10)」を付し、当センターにおけるキウス5遺跡の10冊目の調査報告書とする。
3. 本書の執筆は付篇1・2を除き、三浦正人・菊池慈人・越田雅司・皆川洋一・愛場和人・末光正卓・広田良成が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光が行った。
4. 写真撮影は、平成15・16・18年度は菊池慈人、平成19～21年度は各担当者が行き、報告書掲載遺物の撮影は菊池が行った。
5. キウス5遺跡の遺構の位置図について、当センターの調査年報16・17・19～22に掲載したものと、本書の内容と異なる部分があるが、これらは誤記載で、本書の内容を優先する。
6. 自然科学的分析の内容と委託先機関は、次のとおりである。  
黒曜石製遺物原産地推定：株式会社 バレオ・ラボ  
石器及び玉類の岩石鑑定：アースサイエンス株式会社
7. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた。（順不同・敬称略）  
北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター  
恵庭市郷土資料館 厚真町教育委員会 苫小牧市博物館  
千歳市教育委員会：大谷敏三（当時）・田村俊之（当時）・高橋 理・豊田宏良・松田淳子  
恵庭市教育委員会：松谷純一（当時）・上屋真一・森 秀之・長町章弘  
厚真町教育委員会：乾 哲也・奈良智法  
平取町教育委員会：森岡健治  
札幌市埋蔵文化財センター：仙庭伸久 柏木大延  
北海道北方博物館交流協会：野村 崇  
奈良大学文学部文化財学科：植野浩三  
早稲田大学文学学術院：長崎潤一  
中央大学文学部：小林謙一

## 記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。

樽前c 降下軽石・スコリア層 (IV層) より下位のV層・VI層の遺構は「L」を付し、次に記す遺構種別ごとのアルファベット記号を組み合わせた。

H：住居跡	P：土坑	SP：小土坑 (柱穴状ピット)	F：焼土
PS：土器集中	FC：フレイク・チップ集中	S：礫集中	
SB：旧石器ブロック	sp：小柱穴		

2. 遺構図面等の縮尺

竪穴住居跡・土坑：40分の1	大型の竪穴住居跡：60分の1
焼土：50分の1	小柱穴：80分の1
遺物出土状況図：20分の1	地形測量図・遺構位置図：任意

各図にスケールと方位記号 (座標北) を付した。

なお、遺構平面図の「+ (十字) と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・ (ドット) と数値」は、その地点の標高 (m) を表す。

3. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。

復原土器：4分の1	拓本土器：3分の1	土製品：2分の1
剥片石器：2分の1	礫石器：3分の1	石製品：2分の1
剥片石器：2分の1 (一部 3分の2)		

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。一部破壊されているものは現存する計測値を (丸括弧) で示した。

住居跡・土坑：確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深 (m)
焼土：分布範囲の長径×短径/最大厚 (m)
遺物集中：分布範囲の長径×短径 (m)

# 目 次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

## I 章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	2
3. 調査の経緯	3
(1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事	
(2) 遺跡範囲確認調査の実施	
(3) 平成13年度以降のキウス地区の発掘調査	
(4) キウス5遺跡の各年度調査の経緯	
4. 調査結果の概要	12

## II 章 遺跡の立地と環境

1. 位置と立地	13
2. 地質と地形	17
(1) 地質	
(2) 地形	
3. 近現代の環境変化	19
4. キウス5遺跡年度ごとの調査の概要	22
(1) 北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財調査	
(2) 道央圏連絡道路工事埋蔵文化財調査	

## III 章 調査の概要

1. 発掘区の設定	31
(1) 調査グリッドの設定	
(2) 年度ごとの調査区	
(3) 北海道横断自動車道調査区との接合	
2. 基本層序	34
(1) 基本層序	
(2) 土層断面図	



3. 調査の方法	39
(1) 各年度の共通事項	
(2) 年度ごとの概要	
4. 整理の方法	41
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類	46

#### IV章 縄文時代の遺構と出土遺物

1. 概要	47
2. 住居跡	47
LH-1 LH-2 LH-3 LH-4 LH-5 LH-6 LH-7 LH-8 LH-9 LH-10	
LH-11 LH-12 LH-13 LH-14 LH-15 LH-16 LH-17 LH-18 LH-19 LH-20	
LH-21 LH-22 LH-23 LH-24 LH-25A・B LH-26 LH-27 LH-28 LH-29	
LH-30 LH-31 LH-32 LH-33 LH-34 LH-35 LH-36 LH-37 LH-38 LH-39	
H-7 H-10	
3. 土坑・小土坑	149
LP-1 LP-2 LP-3 LP-4 LP-5 LP-6 LP-7 LP-8 LP-9 LP-10	
LP-11 LP-12 LP-13 LP-14 LP-15 LP-16 LP-17 LP-18 LP-19 LP-20	
LP-21 LP-22 LP-23 LP-24 LP-25 LP-26 LP-27 LP-28 LP-29 LP-30	
LP-31 LP-32 LP-33 LP-34 LP-35 LP-36 LP-37 LP-38 LP-39 LP-40	
LP-41 LP-42 LP-43 LP-44 LP-45 LP-46 LP-47 LP-48 LP-49 LP-50	
LP-51 LP-52 LP-53 LP-54 LP-55 LP-56 LP-57 LP-58 LP-59 LP-60	
LP-61 LP-62 LP-63 LP-64 LP-65 LP-66 LP-67 LP-68 LP-69 LP-70	
LP-71 LP-72 LP-73 LP-74 LP-75 LP-76 LP-77 LP-78 LP-79 LP-80	
LP-81 LP-82 LP-83 LP-84 LP-85 LP-86 LP-87 LP-88 LP-89 LP-90	
LP-91 LP-92 LP-93 LP-94 LP-95 LP-96 LP-97 LP-98 LP-99 LP-100	
LP-101 LP-102 LP-103 LSP-1 LSP-2	
4. 小柱穴	185
sp-1~394	
5. 焼土	193
LF-1~245	
(1) 西側焼土列	
(2) 東側焼土列	
6. 遺物集中	199
(1) 土器集中 LPS-6	
(2) フレイト集中 LFC-1~5	
(3) 礫集中 LS-3・4	
7. 遺構出土の遺物	274
(1) 復原土器	
(2) 破片土器・土製品	
(3) 石器等	

<b>V章 包含層出土の遺物 (V層)</b>	
1. 概要	387
2. 土器・土製品	441
(1) 復原土器	
(2) 破片土器・土製品	
3. 石器等	465
(1) LH・H出土の石器	
(2) LP・LFC出土の石器	

<b>VI章 旧石器時代の遺物 (V・VI層)</b>	
1. 概要	489
(1) 調査の経緯と方法	
(2) 調査の概要	
2. 石器ブロック	497
SB-1~3	
3. 接合資料	572
4. まとめ	599

<b>VII章 成果と問題点</b>	
1. 遺構について	605
2. 遺物について	606
(1) 土器	
(2) 石器	
3. 分析の目的と結果の評価	609
(1) 黒曜石製遺物原産地推定 (付篇1)	
(2) 石器及び玉類の岩石学的分析 (付篇2)	
(3) 放射性炭素年代測定結果 (AMS) (北埋調報284 付篇2)	
(4) 炭化材樹種同定 (北埋調報284 付篇3)	
4. H-7・H-10接合について	620
(1) 座標計算による接合	
(2) H-7・10の構造について	
5. 遺構及び焼土の土色について	621

<b>付篇 自然科学的手法による分析結果</b>	
1. 黒曜石製遺物原産地推定	625
2. 石器及び玉類の岩石学的分析	629

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

# 目 次

図 I-3-1	道央圏連絡道路建設計画図	4	図 IV-2-50	LH-21 (3)	110
図 II-1-1	道跡の位置 (1)	14	図 IV-2-51	LH-21 (4)	111
図 II-1-2	道跡の位置 (2)	15	図 IV-2-52	LH-22 (1)	112
図 II-2-1	道跡周辺の地質	16	図 IV-2-53	LH-22 (2)	113
図 II-2-2	道跡周辺の地形	18	図 IV-2-54	LH-23 (1)	114
図 II-2-3	石狩低地東縁断層帯	20	図 IV-2-55	LH-23 (2)	116
図 II-4-1	キウス5道跡年度別調査区	28・29	図 IV-2-56	LH-23 (3)	117
図 III-1-1	調査区設定図	32	図 IV-2-57	LH-24	118
図 III-2-1	土層断面図	39	図 IV-2-58	LH-25A	119
図 IV-1-1	V層遺構位置図 (1)	49	図 IV-2-59	LH-25B (1)	120
図 IV-1-2	V層遺構位置図 (2)	51	図 IV-2-60	LH-25B (2)	122
図 IV-2-1	LH-1	53	図 IV-2-61	LH-26 (1)	123
図 IV-2-2	LH-2 (1)	54	図 IV-2-62	LH-26 (2)	124
図 IV-2-3	LH-2 (2)	55	図 IV-2-63	LH-27 (1)	125
図 IV-2-4	LH-2 (3)	56	図 IV-2-64	LH-27 (2)	126
図 IV-2-5	LH-3	57	図 IV-2-65	LH-27 (3)	128
図 IV-2-6	LH-4 (1)	58	図 IV-2-66	LH-28 (1)	129
図 IV-2-7	LH-4 (2)	59	図 IV-2-67	LH-28 (2)	130
図 IV-2-8	LH-4 (3)	60	図 IV-2-68	LH-29・34 (1)	131
図 IV-2-9	LH-4 (4)	61	図 IV-2-69	LH-29・34 (2)	132
図 IV-2-10	LH-4 (5)	62	図 IV-2-70	LH-30 (1)	134
図 IV-2-11	LH-5 (1)	64	図 IV-2-71	LH-30 (2)	135
図 IV-2-12	LH-5 (2)	65	図 IV-2-72	LH-31・35 (1)	136
図 IV-2-13	LH-5 (3)	66	図 IV-2-73	LH-31・35 (2)	137
図 IV-2-14	LH-5 (4)	67	図 IV-2-74	LH-32・38	139
図 IV-2-15	LH-6	68	図 IV-2-75	LH-33	140
図 IV-2-16	LH-7	70	図 IV-2-76	LH-36	141
図 IV-2-17	LH-8	71	図 IV-2-77	LH-37	143
図 IV-2-18	LH-9	72	図 IV-2-78	LH-39	144
図 IV-2-19	LH-10 (1)	74	図 IV-2-79	H-7	145
図 IV-2-20	LH-10 (2)	75	図 IV-2-80	H-10 (1)	146
図 IV-2-21	LH-10 (3)	76	図 IV-2-81	H-10 (2)	147
図 IV-2-22	LH-11	77	図 IV-2-82	H-10 (3)	148
図 IV-2-23	LH-12 (1)	78	図 IV-3-1	L P-1 ~ 3	150
図 IV-2-24	LH-12 (2)	80	図 IV-3-2	L P-4 ~ 8	151
図 IV-2-25	LH-12 (3)	81	図 IV-3-3	L P-9 ~ 11・14	152
図 IV-2-26	LH-13	82	図 IV-3-4	L P-13・15・17	153
図 IV-2-27	LH-14・L P-12 (1)	84	図 IV-3-5	L P-16・18	154
図 IV-2-28	LH-14・L P-12 (2)	85	図 IV-3-6	L P-19~22	155
図 IV-2-29	LH-14・L P-12 (3)	86	図 IV-3-7	L P-23	156
図 IV-2-30	LH-14・L P-12 (4)	87	図 IV-3-8	L P-24・25	157
図 IV-2-31	LH-15 (1)	88	図 IV-3-9	L P-26・27・42	158
図 IV-2-32	LH-15 (2)	89	図 IV-3-10	L P-28~30	159
図 IV-2-33	LH-16 (1)	90	図 IV-3-11	L P-31・32	160
図 IV-2-34	LH-16 (2)	92	図 IV-3-12	L P-33~37	161
図 IV-2-35	LH-16 (3)	93	図 IV-3-13	L P-38・39	162
図 IV-2-36	LH-17	94	図 IV-3-14	L P-40・41	163
図 IV-2-37	LH-18 (1)	95	図 IV-3-15	L P-43・45~47	164
図 IV-2-38	LH-18 (2)	96	図 IV-3-16	L P-44・57	165
図 IV-2-39	LH-18 (3)	97	図 IV-3-17	L P-48・49・60	166
図 IV-2-40	LH-18 (4)	98	図 IV-3-18	L P-50~52	167
図 IV-2-41	LH-18 (5)	99	図 IV-3-19	L P-53・54	168
図 IV-2-42	LH-19 (1)	100	図 IV-3-20	L P-55・56	169
図 IV-2-43	LH-19 (2)	102	図 IV-3-21	L P-58・59	170
図 IV-2-44	LH-19 (3)	103	図 IV-3-22	L P-61~63	171
図 IV-2-45	LH-19 (4)	104	図 IV-3-23	L P-64~67	172
図 IV-2-46	LH-20 (1)	105	図 IV-3-24	L P-68~70	173
図 IV-2-47	LH-20 (2)	106	図 IV-3-25	L P-71・72	174
図 IV-2-48	LH-21 (1)	107	図 IV-3-26	L P-73・74	175
図 IV-2-49	LH-21 (2)	108	図 IV-3-27	L P-75・76・78~80	176

図IV-3-28	L P-77・81・84・91	177
図IV-3-29	L P-82・83・85	178
図IV-3-30	L P-86・87・89・90・92	179
図IV-3-31	L P-88	180
図IV-3-32	L P-93~96	181
図IV-3-33	L P-97~100	182
図IV-3-34	L P-101~103・L S P-1・2	183
図IV-4-1	s p位置図	184
図IV-4-2	s p (1)	186
図IV-4-3	s p (2)	187
図IV-4-4	s p (3)	188
図IV-4-5	s p (4)	189
図IV-4-6	s p (5)	190
図IV-4-7	s p (6)	191
図IV-4-8	s p (7)	192
図IV-5-1	焼土列	195
図IV-5-2	単独の焼土	197
図IV-6-1	L F C-1~5、L S-3・4	198
図IV-7-1	遺構出土復原土器 (1)	269
図IV-7-2	遺構出土復原土器 (2)	270
図IV-7-3	遺構出土復原土器 (3)	271
図IV-7-4	遺構出土復原土器 (4)	272
図IV-7-5	遺構出土復原土器 (5)	273
図IV-7-6	遺構出土復原土器 (6)	278
図IV-7-7	遺構出土破片土器 (1)	286
図IV-7-8	遺構出土破片土器 (2)	287
図IV-7-9	遺構出土破片土器 (3)	288
図IV-7-10	遺構出土破片土器 (4)	289
図IV-7-11	遺構出土破片土器 (5)	290
図IV-7-12	遺構出土破片土器 (6)	291
図IV-7-13	遺構出土破片土器 (7)	292
図IV-7-14	遺構出土破片土器 (8)	293
図IV-7-15	遺構出土破片土器 (9)	294
図IV-7-16	遺構出土破片土器 (10)	295
図IV-7-17	遺構出土破片土器 (11)	296
図IV-7-18	遺構出土破片土器 (12)	297
図IV-7-19	遺構出土破片土器 (13)	298
図IV-7-20	遺構出土破片土器 (14)	299
図IV-7-21	遺構出土破片土器 (15)	300
図IV-7-22	遺構出土破片土器 (16)	301
図IV-7-23	遺構出土破片土器 (17)	302
図IV-7-24	遺構出土破片土器 (18)	303
図IV-7-25	遺構出土破片土器 (19)	304
図IV-7-26	遺構出土破片土器 (20)	305
図IV-7-27	遺構出土破片土器 (21)	306
図IV-7-28	遺構出土破片土器 (22)	307
図IV-7-29	遺構出土破片土器 (23)	308
図IV-7-30	遺構出土破片土器 (24)	309
図IV-7-31	遺構出土破片土器 (25)	310
図IV-7-32	遺構出土破片土器 (26)	311
図IV-7-33	遺構出土破片土器 (27)	312
図IV-7-34	遺構出土破片土器 (28)	313
図IV-7-35	遺構出土破片土器 (29)	314
図IV-7-36	遺構出土破片土器 (30)	315
図IV-7-37	遺構出土破片土器 (31)	316
図IV-7-38	遺構出土破片土器 (32)	317
図IV-7-39	遺構出土破片土器 (33)	318
図IV-7-40	遺構出土破片土器 (34)	319
図IV-7-41	遺構出土破片土器 (35)	320
図IV-7-42	遺構出土破片土器 (36)	321
図IV-7-43	遺構出土破片土器 (37)	322
図IV-7-44	遺構出土破片土器 (38)	323
図IV-7-45	遺構出土破片土器 (39)	324
図IV-7-46	遺構出土破片土器 (40)	325
図IV-7-47	遺構出土破片土器 (41)	326
図IV-7-48	遺構出土破片土器 (42)	327

図IV-7-49	遺構出土破片土器 (43)	328
図IV-7-50	遺構出土破片土器 (44)	329
図IV-7-51	遺構出土土製品	330
図IV-7-52	遺構出土の石器 (1)	337
図IV-7-53	遺構出土の石器 (2)	338
図IV-7-54	遺構出土の石器 (3)	339
図IV-7-55	遺構出土の石器 (4)	340
図IV-7-56	遺構出土の石器 (5)	341
図IV-7-57	遺構出土の石器 (6)	342
図IV-7-58	遺構出土の石器 (7)	343
図IV-7-59	遺構出土の石器 (8)	344
図IV-7-60	遺構出土の石器 (9)	345
図IV-7-61	遺構出土の石器 (10)	346
図IV-7-62	遺構出土の石器 (11)	347
図IV-7-63	遺構出土の石器 (12)	348
図IV-7-64	遺構出土の石器 (13)	349
図IV-7-65	遺構出土の石器 (14)	350
図IV-7-66	遺構出土の石器 (15)	351
図IV-7-67	遺構出土の石器 (16)	352
図IV-7-68	遺構出土の石器 (17)	353
図IV-7-69	遺構出土の石器 (18)	354
図IV-7-70	遺構出土の石器 (19)	355
図IV-7-71	遺構出土の石器 (20)	356
図IV-7-72	遺構出土の石器 (21)	357
図V-1-1	土器総点数出土分布図	391
図V-1-2	I~IV群土器総点数出土分布図	392
図V-1-3	I群土器総点数出土分布図	393
図V-1-4	II群土器総点数出土分布図	394
図V-1-5	III群土器総点数出土分布図	395
図V-1-6	IV群土器総点数出土分布図	396
図V-1-7	土製品総点数出土分布図	397
図V-1-8	I群土器 (良好) 出土分布図	398
図V-1-9	I群土器 (剝離) 出土分布図	399
図V-1-10	I群土器 (磨耗) 出土分布図	400
図V-1-11	I群土器 (小破片) 出土分布図	401
図V-1-12	II群土器 (良好) 出土分布図	402
図V-1-13	II群土器 (剝離) 出土分布図	403
図V-1-14	II群土器 (磨耗) 出土分布図	404
図V-1-15	II群土器 (小破片) 出土分布図	405
図V-1-16	IV群土器 (良好) 出土分布図	406
図V-1-17	IV群土器 (剝離) 出土分布図	407
図V-1-18	IV群土器 (磨耗) 出土分布図	408
図V-1-19	IV群土器 (小破片) 出土分布図	409
図V-1-20	V I層土器出土分布図	410
図V-1-21	V層土器出土分布図	411
図V-1-22	V 2層土器出土分布図	412
図V-1-23	VI層土器出土分布図	413
図V-1-24	H層 (掘り上げ土) 土器出土分布図	414
図V-1-25	I層 (攪乱層)・その他 (IV層)・ 風倒木痕土器出土分布図	415
図V-1-26	III層土器等総点数出土分布図	416
図V-1-27	V~VII層・H層土器総点数出土分布図	417
図V-1-28	石刀鏃出土分布図	418
図V-1-29	石鏃出土分布図	419
図V-1-30	石槍・ナイフ出土分布図	420
図V-1-31	石錐出土分布図	421
図V-1-32	つまみ付きナイフ出土分布図	422
図V-1-33	スクレイパー出土分布図	423
図V-1-34	U・Rフレイク出土分布図	424
図V-1-35	両面調整石器出土分布図	425
図V-1-36	石核出土分布図	426
図V-1-37	フレイク出土分布図	427
図V-1-38	原石出土分布図	428
図V-1-39	磨製石斧出土分布図	429
図V-1-40	磨製石斧軽用品出土分布図	430
図V-1-41	磨製石斧原石出土分布図	431

図V-1-42 たたき石出土分布図	432
図V-1-43 すり石出土分布図	433
図V-1-44 石錘出土分布図	434
図V-1-45 砥石出土分布図	435
図V-1-46 台石・石皿出土分布図	436
図V-1-47 石製品出土分布図	437
図V-1-48 使用・加工痕のある礫出土分布図	438
図V-1-49 礫出土分布図	439
図V-2-1 包含層Ⅲ復原土器	440
図V-2-2 包含層Ⅲ群破片土器(1)	446
図V-2-3 包含層Ⅲ群破片土器(2)	447
図V-2-4 包含層Ⅲ群破片土器(3)	448
図V-2-5 包含層Ⅲ群破片土器(4)	449
図V-2-6 包含層Ⅲ群破片土器(5)	450
図V-2-7 包含層Ⅲ群破片土器(6)	451
図V-2-8 包含層Ⅲ群破片土器(7)	452
図V-2-9 包含層Ⅲ群破片土器(8)	453
図V-2-10 包含層Ⅲ群破片土器(9)	454
図V-2-11 包含層Ⅲ群破片土器(10)	455
図V-2-12 包含層Ⅲ群破片土器(11)	456
図V-2-13 包含層Ⅲ群破片土器(12)	457
図V-2-14 包含層Ⅲ群破片土器(13)	458
図V-2-15 包含層Ⅲ群破片土器(14)	459
図V-2-16 包含層Ⅲ群破片土器(15)	460
図V-2-17 包含層Ⅲ群破片土器(16)	461
図V-2-18 包含層Ⅳ群破片土器(2)	462
図V-2-19 包含層Ⅰ群破片土器(2)	463
包含層Ⅰ土製品(1)	463
図V-2-20 包含層Ⅰ土製品(2)	464
図V-3-1 包含層出土の石器(1)	468
図V-3-2 包含層出土の石器(2)	469
図V-3-3 包含層出土の石器(3)	470
図V-3-4 包含層出土の石器(4)	471
図V-3-5 包含層出土の石器(5)	472
図V-3-6 包含層出土の石器(6)	473
図V-3-7 包含層出土の石器(7)	474
図V-3-8 包含層出土の石器(8)	475
図V-3-9 包含層出土の石器(9)	476
図VI-1-1 ブロック設定図	493
図VI-1-2 全接合分布図	494
図VI-1-3 旧石器点数分布図	495
図VI-1-4 旧石器重量分布図	496
図VI-2-1 S B-1 遺物分布図	498
図VI-2-2 S B-1 遺物接合状況図	499
図VI-2-3 S B-1 遺物点数・重量分布図	500
図VI-2-4 S B-1 の石器(1)	502
図VI-2-5 S B-1 の石器(2)	503
図VI-2-6 S B-1 の石器(3)	506
図VI-2-7 S B-1 器種別分布図(1)	507
図VI-2-8 S B-1 器種別分布図(2)	508
図VI-2-9 S B-1 器種別分布図(3)	509
図VI-2-10 S B-1 器種別分布図(4)	510
図VI-2-11 S B-1 器種別分布図(5)	511
図VI-2-12 S B-1 器種別分布図(6)	512
図VI-2-13 S B-2 遺物分布図・炭化物集中範囲図	514
図VI-2-14 S B-2 遺物接合状況図	515
図VI-2-15 S B-2 遺物分布図・ 遺物接合状況図(集中範囲)	516
図VI-2-16 S B-2 遺物点数・重量分布図	517
図VI-2-17 S B-2 の石器(1)	519
図VI-2-18 S B-2 の石器(2)	520
図VI-2-19 S B-2 の石器(3)	522

図VI-2-20 S B-2 の石器(4)	523
図VI-2-21 S B-2 の石器(5)	524
図VI-2-22 S B-2 の石器(6)	526
図VI-2-23 S B-2 の石器(7)	528
図VI-2-24 S B-2 の石器(8)	529
図VI-2-25 S B-2 の石器(9)	530
図VI-2-26 S B-2 器種別分布図(1)	531
図VI-2-27 S B-2 器種別分布図(2)	532
図VI-2-28 S B-2 器種別分布図(3)	533
図VI-2-29 S B-2 器種別分布図(4)	534
図VI-2-30 S B-2 器種別分布図(5)	535
図VI-2-31 S B-2 器種別分布図(6)	536
図VI-2-32 S B-2 器種別分布図(7)	537
図VI-2-33 S B-2 器種別分布図(8)	538
図VI-2-34 S B-2 器種別分布図(9)	539
図VI-2-35 S B-2 器種別分布図(10)	540
図VI-2-36 S B-2 器種別分布図(11)	541
図VI-2-37 S B-2 器種別分布図(12)	542
図VI-2-38 S B-2 器種別分布図(13)	543
図VI-2-39 S B-3 遺物分布図	545
図VI-2-40 S B-3 遺物接合状況図	546
図VI-2-41 S B-3 遺物点数・重量分布図	547
図VI-2-42 S B-3 の石器(1)	549
図VI-2-43 S B-3 の石器(2)	551
図VI-2-44 S B-3 の石器(3)	552
図VI-2-45 S B-3 の石器(4)	553
図VI-2-46 S B-3 の石器(5)	555
図VI-2-47 S B-3 の石器(6)	556
図VI-2-48 S B-3 の石器(7)	557
図VI-2-49 S B-3 の石器(8)	558
図VI-2-50 S B-3 器種別分布図(1)	559
図VI-2-51 S B-3 器種別分布図(2)	560
図VI-2-52 S B-3 器種別分布図(3)	561
図VI-2-53 S B-3 器種別分布図(4)	562
図VI-2-54 S B-3 器種別分布図(5)	563
図VI-2-55 S B-3 器種別分布図(6)	564
図VI-2-56 S B-3 器種別分布図(7)	565
図VI-2-57 S B-3 器種別分布図(8)	566
図VI-2-58 S B-3 器種別分布図(9)	567
図VI-2-59 S B-3 器種別分布図(10)	568
図VI-2-60 S B-3 器種別分布図(11)	569
図VI-2-61 ブロック外出土遺物分布図	570
図VI-2-62 ブロック外出土の石器	571
図VI-3-1 接合45(1)	574
図VI-3-2 接合45(2)	575
図VI-3-3 接合45(3)	576
図VI-3-4 接合49	577
図VI-3-5 接合90・97	579
図VI-3-6 接合15・21	580
図VI-3-7 接合16・11	582
図VI-3-8 接合70・96・61	583
図VI-3-9 接合67・62	585
図VI-3-10 接合65・63	586
図VI-3-11 接合81・58	587
図VI-3-12 接合75・73	589
図VI-3-13 接合55	590
図VI-3-14 接合56	592
図VI-3-15 接合57(1)	593
図VI-3-16 接合57(2)・66	594
図VI-3-17 接合78・115	595
図VI-3-18 接合35・114	597
図VI-3-19 接合10・109・110	598
図VII-4-1 グリッド接合範囲図	618
図VII-4-2 H-7・10	619

# 表 目 次

表 I - 4 - 1	確認遺構一覽	10	表 IV - 7 - 32	L P - 49出土復原土器観察表	363
表 I - 4 - 2	出土遺物一覽	11	表 IV - 7 - 33	L P - 50 ( L P S - 6 ) 出土復原土器観察表	363
表 II - 4 - 1	キウス 5 遺跡 発掘調査の概要	27	表 IV - 7 - 34	L P - 52 P P S - 1 出土復原土器観察表	364
表 III - 1 - 1	測量基準点一覽表	33	表 IV - 7 - 35	L P - 53出土復原土器観察表 ( 1 )	364
表 III - 2 - 1	台地部基本層序一覽	36	表 IV - 7 - 36	L P - 53出土復原土器観察表 ( 2 )	364
表 III - 2 - 2	斜面へ低位部層序一覽	37	表 IV - 7 - 37	L P - 54出土復原土器観察表	364
表 III - 2 - 3	部分的に存在する層位	37	表 IV - 7 - 38	L P - 59 P S - 1 出土復原土器観察表	364
表 III - 3 - 1	キウス 5 遺跡 住居跡・土坑 付風遺構の分類体系	40	表 IV - 7 - 39	L P - 68出土復原土器観察表	364
表 III - 5 - 1	土器・土製品時期等分類基準	42	表 IV - 7 - 40	L P - 86・L H - 37・L P - 74 出土復原土器観察表	364
表 III - 5 - 2	土器部位分類基準	42	表 IV - 7 - 41	L F - 163出土復原土器観察表	365
表 III - 5 - 3	土器残存状態分類基準	42	表 IV - 7 - 42	L F - 207・L H - 9・L H - 10 出土復原土器観察表	365
表 III - 5 - 4	土器等器種分類基準	43	表 IV - 7 - 43	L H - 25出土復原土器観察表 ( 1 )	365
表 III - 5 - 5	石器等残存状態分類基準	43	表 IV - 7 - 44	L H - 25出土復原土器観察表 ( 2 )	365
表 III - 5 - 6	岩石分類体系表	44	表 IV - 7 - 45	住居跡出土破片土器観察表	366
表 III - 5 - 7	岩石 ( 石材 ) の略号	45	表 IV - 4 - 46	土坑・小土坑出土破片土器観察表	375
表 IV - 1 - 1	住居跡一覽	227	表 IV - 7 - 47	小柱穴出土破片土器観察表	381
表 IV - 1 - 2	住居跡付風遺構一覽	228	表 IV - 4 - 48	焼土出土破片土器観察表	381
表 IV - 1 - 3	土坑・小土坑一覽	232	表 IV - 7 - 49	復元遺構接合破片土器観察表	383
表 IV - 1 - 4	土坑付風遺構一覽	234	表 IV - 7 - 50	遺構出土土製品観察表	384
表 IV - 1 - 5	小柱穴一覽	235	表 IV - 7 - 51	住居跡出土石器等観察表	385
表 IV - 1 - 6	焼土一覽	241	表 IV - 7 - 52	土坑・フレイク集中 出土石器等観察表	386
表 IV - 1 - 7	遺物集中他一覽	245	表 IV - 7 - 53	V 層遺構フロッパーション結果一覽	386
表 IV - 2 - 1	L H・H 出土土器点数表	245	表 V - 1 - 1	包含層出土土器点数表	389
表 IV - 2 - 2	L H・H 出土石器点数表	250	表 V - 1 - 2	包含層出土石器点数表	390
表 IV - 3 - 1	L P・L S P 出土土器点数表	253	表 V - 2 - 1	26 - 61 区出土復原土器観察表	477
表 IV - 3 - 2	L P 出土石器点数表	260	表 V - 2 - 2	18 - 64 区出土復原土器観察表	477
表 IV - 4 - 1	s p 出土土器点数表	262	表 V - 2 - 3	22 - 57 区出土復原土器観察表	477
表 IV - 4 - 2	s p・L F C・L S 出土石器点数表	262	表 V - 2 - 4	26 - 62 区出土復原土器観察表	477
表 IV - 5 - 1	L F 出土土器点数表	263	表 V - 2 - 5	35 - 64 区出土復原土器観察表	477
表 IV - 5 - 2	L F 出土石器点数表	268	表 V - 2 - 6	29 - 69 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 6 - 1	L P S・L F C 出土土器点数表	267	表 V - 2 - 7	31 - 68 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 1	L H - 2 出土復原土器観察表	358	表 V - 2 - 8	28 - 68 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 2	L H - 4 出土復原土器観察表	358	表 V - 2 - 9	22 - 75 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 3	L H - 5 出土復原土器観察表 ( 1 )	358	表 V - 2 - 10	17 - 57 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 4	L H - 5 出土復原土器観察表 ( 2 )	358	表 V - 2 - 11	19 - 82 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 5	L H - 6 出土復原土器観察表	358	表 V - 2 - 12	24 - 62 区出土復原土器観察表	478
表 IV - 7 - 6	L H - 10 出土復原土器観察表 ( 1 )	358	表 V - 2 - 13	包含層出土土群口縁部破片土器観察表	479
表 IV - 7 - 7	L H - 10 出土復原土器観察表 ( 2 )	359	表 V - 2 - 14	包含層出土土群底部破片土器観察表	484
表 IV - 7 - 8	L H - 12 出土復原土器観察表 ( 1 )	359	表 V - 2 - 15	包含層出土土群側部破片土器観察表	484
表 IV - 7 - 9	L H - 12 出土復原土器観察表 ( 2 )	359	表 V - 2 - 16	包含層出土 IV 群破片土器観察表	485
表 IV - 7 - 10	L H - 14 出土復原土器観察表	359	表 V - 2 - 17	包含層出土 I 群破片土器観察表	486
表 IV - 7 - 11	L H - 18 出土復原土器観察表 ( 1 )	360	表 V - 2 - 18	包含層出土土製品等観察表	486
表 IV - 7 - 12	L H - 18 出土復原土器観察表 ( 2 )	360	表 V - 3 - 1	包含層出土石器等観察表	486
表 IV - 7 - 13	L H - 19 出土復原土器観察表	360	表 VI - 1 - 1	旧石器出土遺物点数・重量一覽	491
表 IV - 7 - 14	L H - 21・L P - 31 出土復原土器観察表	360	表 VI - 1 - 2	旧石器出土地点・石材別組成一覽	492
表 IV - 7 - 15	L H - 21 出土復原土器観察表 ( 1 )	360	表 VI - 1 - 3	石材別組成一覽	492
表 IV - 7 - 16	L H - 21 出土復原土器観察表 ( 2 )	360	表 VI - 2 - 1	旧石器掲載石器観察表 ( 1 )	601
表 IV - 7 - 17	L H - 23・L P - 43 出土復原土器観察表	361	表 VI - 2 - 2	旧石器掲載石器観察表 ( 2 )	602
表 IV - 7 - 18	L H - 25 出土復原土器観察表	361	表 VI - 3 - 1	旧石器接合資料観察表 ( 1 )	603
表 IV - 7 - 19	L H - 25・L H - 5 出土復原土器観察表	361	表 VI - 3 - 2	旧石器接合資料観察表 ( 2 )	604
表 IV - 7 - 20	L H - 32 出土復原土器観察表	361	表 VII - 3 - 1	黒曜石製遺物原産地推定結果一覽 ( 縄文時代 )	610
表 IV - 7 - 21	H - 9 出土復原土器観察表	361	表 VII - 3 - 2	石製品・玉類 岩石学的分析一覽	610
表 IV - 7 - 22	L H - 32 出土復原土器観察表	361	表 VII - 3 - 3	キウス 5 遺跡 放射性炭素年代測定 暦年較正年代 ( 北理調報 284 )	612
表 IV - 7 - 23	L P - 17 出土復原土器観察表	362	表 VII - 3 - 4	住居跡の放射性炭素年代測定結果一覽 ( 縄文時代 )	614
表 IV - 7 - 24	L P - 23 出土復原土器観察表	362	表 VII - 3 - 5	キウス 5 遺跡の炭化材樹種同定結果 ( 北理調報 284 )	615
表 IV - 7 - 25	L P - 25 P P S - 1 出土復原土器観察表	362	表 VII - 4 - 1	H - 7・H - 10 接合座標計算表 ( 日本測地系 4 m グリッド )	617
表 IV - 7 - 26	L P - 33 出土復原土器観察表	362	表 VII - 5 - 1	遺構の土色観察表	622
表 IV - 7 - 27	L P - 38 出土復原土器観察表	362			
表 IV - 7 - 28	L P - 40 出土復原土器観察表	362			
表 IV - 7 - 29	L P - 44 出土復原土器観察表 ( 1 )	363			
表 IV - 7 - 30	L P - 44・L H - 25 出土復原土器観察表	363			
表 IV - 7 - 31	L P - 44 出土復原土器観察表 ( 2 )	363			

# 写真図版目次

<b>カラー図版 1</b>	平成19年度 住居跡調査状況 (南から)	LH-13 完掘状況 (南東から)
	平成21年度 焼土列 (南西から)	LH-14 土層断面1 (北東から)
<b>カラー図版 2</b>		<b>図版13</b> LH-14 土層断面2 (西から)
平成21年度 小柱穴列 (南東から)		LH-14 完掘状況 (北東から)
基本層序 (南東から)		LH-14 土器集中 (北東から)
S B-3 赤石出土状況 (南から)		LH-14 H P-1 (北から)
最花式 (大木9式) 土器		<b>図版14</b> LH-15 東西方向土層断面 (南東から)
		LH-15 南北方向土層断面 (南西から)
		LH-15 完掘状況 (北西から)
<b>モノクロ図版</b>		<b>図版15</b> LH-16 南北方向土層断面 (西から)
<b>図版 1</b>	平成15年度 調査状況 (南西から)	LH-16 H P-2 (南東から)
	平成15年度 調査完了状況 (西から)	LH-16 北側部分南北方向土層断面 (西から)
	平成16年度 調査状況 (西から)	LH-16 南側部分完掘状況 (東から)
	平成18年度 調査完了状況 (北東から)	LH-16 北側部分完掘状況 (南西から)
	平成19年度 調査完了状況 (東から)	<b>図版16</b> LH-17 東西方向土層断面 (南から)
	平成20年度 調査完了状況 (東から)	LH-17 南北方向土層断面 (東から)
	平成21年度 A地区 調査完了状況 (東から)	LH-17 完掘状況 (西から)
	平成21年度 B地区 調査完了状況 (南東から)	<b>図版17</b> LH-18 東西方向土層断面 (南から)
<b>図版 2</b>	LH-1 東西方向土層断面 (南から)	LH-18 南北方向土層断面 (西から)
	LH-1 南北方向土層断面 (東から)	LH-18 調査完了状況 (北東から)
	LH-1 完掘状況 (北西から)	LH-18 完掘状況 (南東から)
<b>図版 3</b>	LH-2 確認状況 (西から)	<b>図版18</b> LH-19 東西方向土層断面 (南から)
	LH-2 遺物出土状況 (南から)	LH-19 東西方向土層断面 (西から)
	LH-2 東西方向土層断面 (南から)	LH-19 完掘状況 (北東から)
	LH-2 南北方向土層断面 (西から)	<b>図版19</b> LH-20 東西方向土層断面 (南西から)
	LH-2 遺物・炭化材出土状況 (南から)	LH-20 南北方向土層断面 (西から)
	LH-3 完掘状況 (西から)	LH-20 完掘状況 (北から)
<b>図版 4</b>	LH-2 完掘状況 (南西から)	<b>図版20</b> LH-21 東西方向土層断面 (南東から)
	LH-4 土層断面 (南東から)	LH-21 南北方向土層断面 (南西から)
	LH-4 炉跡 H P-1 (南東から)	LH-21 玉・炭化材確認状況 (北から)
	LH-4 土器出土状況 (南から)	LH-21 土器出土状況 (東から)
<b>図版 5</b>	LH-4 南側部分完掘状況 (南東から)	LH-21 完掘状況 (北から)
	LH-4 北側部分完掘状況 (南東から)	<b>図版21</b> LH-22 東西方向土層断面 (南から)
<b>図版 6</b>	LH-5 東西方向土層断面 (南から)	LH-22 南北方向土層断面 (西から)
	LH-5 南側部分完掘状況 (南から)	LH-22 完掘状況 (北西から)
	LH-5 北側部分完掘状況 (南西から)	<b>図版22</b> LH-23 東西方向土層断面 (北西から)
	LH-5 石組炉 (南から)	LH-23 南側部分完掘状況 (南西から)
	LH-5 土器出土状況 (南から)	LH-23 北側部分土層断面 (北西から)
<b>図版 7</b>	LH-6 土層断面 (南東から)	LH-23 北側部分完掘状況 (南から)
	LH-6 完掘状況 (南から)	<b>図版23</b> LH-24 東西方向土層断面 (南から)
	LH-6 土器出土状況 (北西から)	LH-24 南北方向土層断面 (東から)
	LH-7 土層断面 (南東から)	LH-24 完掘状況 (西から)
	LH-7・8 土層断面 (南西から)	<b>図版24</b> LH-25A 土層断面 (南東から)
	LH-7 (右)・LH-8 (左)完掘状況 (北西から)	LH-25A 確認状況 (南東から)
<b>図版 8</b>	LH-9 遺物出土状況 (南西から)	LH-25A 土器出土状況 (北東から)
	LH-9 南北方向土層断面 (東から)	LH-25A 完掘状況 (南東から)
	LH-9 完掘状況 (南西から)	<b>図版25</b> LH-25B 東西方向土層断面 (南から)
	LH-9 土器出土状況 (東から)	LH-25B 南北方向土層断面 (西から)
	LH-10 土器出土状況 (東から)	LH-25B 完掘状況 (南から)
	LH-10 完掘状況 (東から)	<b>図版26</b> LH-26 土層断面 (東から)
<b>図版 9</b>	LH-10 東西方向土層断面 (南から)	LH-26 完掘状況 (西から)
	LH-10 南北方向土層断面 (東から)	LH-27 南北方向土層断面 (西から)
	LH-6~10 完掘状況・調査状況 (東から)	LH-27 確認状況 土層断面 (南から)
<b>図版10</b>	LH-11 土層断面 (南東から)	LH-27 東西方向土層断面 (南から)
	LH-11 完掘状況 (南東から)	<b>図版27</b> LH-27 完掘状況 (南から)
	LH-12 南側部分南北方向土層断面 (西から)	LH-28 東西方向土層断面 (南から)
	LH-12 北側部分南北方向土層断面 (西から)	LH-28 完掘状況 (西から)
	LH-12 柱穴 H P-7 (南西から)	<b>図版28</b> LH-29 南北方向土層断面 (西から)
	LH-12 土器出土状況1 (南西から)	LH-29 完掘状況 (西から)
	LH-12 土器出土状況2 (北東から)	<b>図版29</b> LH-30 東西方向土層断面 (南から)
<b>図版11</b>	LH-12 南側部分完掘状況 (南から)	LH-30 南北方向土層断面 (西から)
	LH-12 北側部分完掘状況 (南西から)	LH-30 完掘状況 (南東から)
<b>図版12</b>	LH-13 東西方向土層断面 (南から)	<b>図版30</b> LH-31 東西方向土層断面 (南から)

	L H-31 南北方向土層断面 (西から)	L P-54 土層断面 (西から)
	L H-31 完掘状況 (南から)	L P-55 遺物出土状況 (東から)
図版31	L H-32 土層断面 (南から)	L P-56 完掘状況 (北西から)
	L H-32 完掘状況 (東から)	L P-57 土層断面 (南西から)
	L H-33 土層断面 (西から)	L P-58 遺物出土状況 (南から)
	L H-34 土層断面 (南西から)	L P-59 完掘状況 (西から)
図版32	L H-33 完掘状況 (南西から)	L P-60 土層断面 (南西から)
	L H-35 土層断面 (南西から)	L P-61 完掘状況 (南から)
	L H-36 土層断面 (南から)	L P-62 土層断面 (南から)
	L H-35 完掘状況 (南西から)	L P-63 完掘状況 (北西から)
	L H-37 土層断面 (南から)	L P-64 完掘状況 (南西から)
図版33	L H-37 完掘状況 (北東から)	L P-65 完掘状況 (北西から)
	L H-38 完掘状況 (西から)	L P-66 土層断面 (西から)
	L H-39 完掘状況 (南東から)	L P-67 完掘状況 (南西から)
	H-7 完掘状況 (西から)	L P-68 完掘状況 (東から)
	H-10 完掘状況 (西から)	図版42
	H-10 土層断面 (南西から)	L P-69 遺物出土状況 (西から)
図版34	L P-1 土層断面 (西から)	L P-70 土層断面 (南東から)
	L P-2 土層断面 (南から)	L P-71 完掘状況 (南から)
	L P-3 完掘状況 (東から)	L P-72 土層断面 (南西から)
	L P-4 遺物出土状況 (北東から)	L P-73 土層断面 (南西から)
	L P-5 完掘状況 (西から)	L P-74 完掘状況 (西から)
	L P-6 土層断面 (東から)	L P-75 完掘状況 (南から)
	L P-7 (左)・L P-8 (右)完掘状況(南東から)	L P-76 完掘状況 (南から)
図版35	L P-9 土層断面 (西から)	図版43
	L P-10 完掘状況 (南東から)	L P-77 土層断面 (南東から)
	L P-11 土層断面 (東から)	L P-78 完掘状況 (東から)
	L P-12 土層断面 (南から)	L P-79 完掘状況 (南東から)
	L P-13(右)・L P-14(左)完掘状況(北東から)	L P-80 土層断面 (南東から)
	L P-15 完掘状況 (北西から)	L P-81 完掘状況 (東から)
	L P-16 完掘状況 (北から)	L P-82 土層断面 (南から)
	L P-17 土層断面 (南から)	L P-83 完掘状況 (東から)
図版36	L P-18 土層断面 (南西から)	L P-84 完掘状況 (南東から)
	L P-19 完掘状況 (南から)	L P-85 完掘状況 (東から)
	L P-20 土層断面 (東から)	L P-86(右)・L P-87(左)土層断面(西から)
	L P-21 土層断面 (東から)	L P-88 完掘状況 (北から)
	L P-22 土層断面 (北から)	L P-89 土層断面 (南から)
	L P-23 完掘状況 (南東から)	L P-90 完掘状況 (東から)
	L P-24 磨製石斧集中 (西から)	L P-91 土層断面 (北西から)
	L P-25 土層断面 (西から)	L P-92 土層断面 (東から)
図版37	L P-25(左)・L P-40(右)完掘状況(西から)	L P-93 土層断面 (西から)
	L P-26(左)・L P-27(右)完掘状況(南東から)	図版45
	L P-28 礫集中 (北東から)	L P-94 完掘状況 (南東から)
	L P-29 土層断面 (南から)	L P-95 土層断面 (南西から)
	L P-30 粘土確認状況 (南東から)	L P-96 土層断面 (南西から)
	L P-31 土層断面 (西から)	L P-97 完掘状況 (南東から)
	L P-32 完掘状況 (北から)	L P-98 土層断面 (西から)
	L P-33 遺物出土状況 (東から)	L P-99 完掘状況 (北から)
図版38	L P-34 確認状況 (北東から)	L P-100 完掘状況 (南東から)
	L P-35 完掘状況 (北東から)	L P-101 完掘状況 (西から)
	L P-36 土層断面 (南東から)	図版46
	L P-37 完掘状況 (北東から)	L P-102 土層断面 (東から)
	L P-38 遺物出土状況 (東から)	L P-103 土層断面 (西から)
	L P-39 完掘状況 (西から)	L S P-2 土層断面 (南から)
	L P-40 遺物出土状況 (北東から)	L S-3 確認状況 (南から)
	L P-41 完掘状況 (南から)	L F C-3 確認状況 (西から)
	L P-42 土層断面 (南から)	s p-256 土層断面 (南から)
図版39	L P-43 完掘状況 (北西から)	s p-311 土層断面 (南から)
	L P-44 土器出土状況 (北から)	図版47
	L P-45 完掘状況・L F-126 (南東から)	平成19年度 住居跡確認状況 (南東から)
	L P-46(左)・L P-47(右)完掘状況(東から)	平成19年度 平成15年度調査区住居跡調査完了状況 (南から)
	L P-49 土層断面 (東から)	平成19年度 平成15・19年度調査区住居跡調査完了状況 (南東から)
	L P-50 土層断面 (北から)	平成19年度 平成15・19年度調査区住居跡調査完了状況 (南東から)
	L P-51 完掘状況 (北東から)	図版49
	L P-52 完掘状況 (南西から)	平成18年度 燵土列 (北から)
図版40	L P-53 遺物出土状況 (北から)	平成19年度 燵土列 (南東から)
		平成19年度 燵土列 (南から)
		図版50
		平成19年度 小柱穴列 (東から)
		平成21年度 小柱穴列 (南東から)
		図版51
		S B-1 遺物出土状況 (南西から)
		S B-1 遺物出土状況 (東から)



	S B-2	遺物出土状況 (南から)	図版79	遺構の土器等 (26)	
	平成19年度	S B-3	調査状況 (南東から)	図版80	遺構の土器等 (27)
	平成19年度	S B-3	V層・VI層の状況 (南東から)	図版81	遺構の土器等 (28)
	平成19年度	S B-3	V層の状況 (南東から)	図版82	遺構の土器等 (29)
図版52	平成21年度	S B-3	VI層の状況 (東から)	図版83	遺構の土器等 (1)
	平成21年度	S B-3	V層の状況 (東から)	図版84	遺構の土器等 (2)
	S B-1	彫器出土状況 (南から)	図版85	遺構の土器等 (3)	
	S B-2	細石刃核出土状況 1 (南から)	図版86	遺構の土器等 (4)	
	S B-2	細石刃核出土状況 2 (南から)	図版87	遺構の土器等 (5)	
図版53	S B-2	彫器出土状況 (南から)	図版88	遺構の土器等 (6)	
	S B-2	尖頭器出土状況 (東から)	図版89	遺構の土器等 (7)	
	S B-2	搔器出土状況 (南東から)	図版90	遺構の土器等 (8)	
	S B-2	石核出土状況 (北から)	図版91	遺構の土器等 (9)	
	S B-3	細石刃核出土状況 1 (西から)	図版92	包含層の土器等 (1)	
	S B-3	細石刃核出土状況 2 (北から)	図版93	包含層の土器等 (2)	
	S B-3	搔器出土状況 (南から)	図版94	包含層の土器等 (3)	
	S B-3	斧形石器出土状況 (西から)	図版95	包含層の土器等 (4)	
	S B-3	台石・フレイク出土状況 (南東から)	図版96	包含層の土器等 (5)	
図版54			図版97	包含層の土器等 (6)	
図版55			図版98	包含層の土器等 (7)	
図版56			図版99	包含層の土器等 (8)	
図版57			図版100	包含層の土器等 (9)	
図版58			図版101	包含層の土器等 (10)	
図版59			図版102	包含層の土器等 (11)	
図版60			図版103	包含層の土器等 (1)	
図版61			図版104	包含層の土器等 (2)	
図版62			図版105	包含層の土器等 (3)	
図版63			図版106	包含層の土器等 (4)	
図版64			図版107	S B-1 出土細石刃・削片	
図版65				S B-2 出土細石刃・削片	
図版66				S B-3 出土細石刃・削片	
図版67			図版108	S B-1 出土石器	
図版68			図版109	S B-2 出土石器 (1)	
図版69			図版110	S B-2 出土石器 (2)	
図版70			図版111	S B-2 出土石器 (3)	
図版71			図版112	S B-3 出土石器 (1)	
図版72			図版113	S B-3 出土石器 (2)	
図版73			図版114	S B-3 出土石器 (3)	
図版74				ブロック外出土石器	
図版75			図版115	旧石器接合資料 (1)	
図版76			図版116	旧石器接合資料 (2)	
図版77			図版117	旧石器接合資料 (3)	
図版78			図版118	旧石器接合資料 (4)	

# I 章 緒 言

## 1. 調査要項

事業名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成21年度まで）  
道央圏連絡道路新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成22年度整理作業）  
道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成23年度整理作業）  
道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成24年度整理作業）

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

遺跡名：キウス5遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-93）

### 平成15年度

所在地：千歳市中央1287-7, -12, -13, -14, 1286-6,

調査面積：5,000㎡（うち低位部 4,200㎡）

調査期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日（現地調査6月24日～10月30日）

### 平成16年度

所在地：千歳市中央1286, 1287, 1319

調査面積：1,056㎡

調査期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日（現地調査9月6日～10月30日）

### 平成18年度

所在地：千歳市中央1287-7

調査面積：3,200㎡（うち低位部 1,280㎡）

調査期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日（現地調査5月24日～10月18日）

### 平成19年度

所在地：千歳市中央1287-7ほか

調査面積：6,100㎡

調査期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日（現地調査5月7日～10月30日）

### 平成20年度

所在地：千歳市中央1319-8ほか

調査面積：721㎡

調査期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（現地調査9月1日～10月16日）

### 平成21年度

所在地：千歳市中央1319

調査面積：3,068㎡

調査期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日（現地調査5月7日～8月21日）

## 2. 調査体制

### 平成15年度

第1調査部長	畑 宏明	第2調査部長	西田 茂
第4調査課長	三浦 正人(発掘担当者)		
主 査	皆川 洋一	主 任	菊池 慈人
主 任	末光 正卓	主 任	広田 良成

### 平成16年度

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
第4調査課長	三浦 正人		
発掘担当者	主 査 皆川 洋一	主 任	菊池 慈人

### 平成18年度

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者	第3調査課長 三浦 正人		
同	主 査 菊池 慈人		
同	主 任 愛場 和人	主 任	袖岡 淳子
同	主 任 末光 正卓	主 任	広田 良成

### 平成19年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者	第3調査課長 三浦 正人		
同	主 任 愛場 和人	主 任	末光 正卓
同	主 任 広田 良成		
	主 査 鎌田 望		

### 平成20年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者	第2調査課長 三浦 正人		
同	主 任 愛場 和人		

### 平成21年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者	第2調査課長 三浦 正人		
同	主 査 越田 雅司		
同	主 任 愛場 和人	主 任	広田 良成

## 平成22年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
主 査	越田 雅司	主 任	末光 正卓
主 任	広田 良成		

## 平成23年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	三浦 正人
第1調査部第2調査課長	鈴木 信	主 査	末光 正卓

## 平成24年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	三浦 正人
第1調査部第2調査課長	鈴木 信	主 査	芝田 直人
主 査	末光 正卓	主 任	山中 文雄

## 3. 調査の経緯

## (1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事（図I-3-1）

この調査の原因である道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」事業の一環である。道央圏連絡道路は道央都市圏の新しい交通・物流を担う4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である（図I-3-1）。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・中樹林道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの7区間に分けられている。

昭和55（1980）年度に事業化された「当別バイパス」（当別町～小樽市）23.8kmが、平成15（2003）年度までに部分供用され、平成16（2004）年3月26日には石狩川を渡河する美原大橋を含む「美原バイパス」3.9kmが、平成23（2012）年3月5日には美原ランプ～蔵岱ランプ間5.7kmの「美原道路」が供用され、小樽市銭函～江別市江別太間42kmが繋がった。「新千歳空港関連」事業は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間で、平成元（1989）年度に事業化された。このうち新千歳空港から千歳市街地（寿ランプ）への2.5kmが平成15（2003）年度までに部分供用され、その後、平成22（2010）年12月18日中央ランプ～寿ランプ間6.7kmが供用され、新千歳空港IC～中央ランプ（横断自動車道千歳東IC）間9.2kmが開通した。

平成2（1990）年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を經由して北海道教育委員会（以下、道教委）あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた道教委は平成3（1991）年6月、路線内の遺跡所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓（のちのオルイカ1遺跡）・キウス5遺跡と未登載の仮称祝梅砂丘遺跡（柏台1遺跡）・仮称キウス7～10遺跡の12か所、対象面積299,000㎡、全計画路線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月道教委から札幌開発建設部へ回答された。

平成7（1995）年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から道教委に提



図 I - 3 - 1 道央圏連絡道路建設計画図

出された。ここで事業名が「一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事」となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8（1996）年4月1日から平成12（2000）年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護について現状保存は困難なため範囲確認調査（試掘）を希望する旨協議された。

平成19（2007）年11月をもって終結した当事業用地内における範囲確認調査（試掘）の結果、発掘調査が必要と判断された遺跡は、新千歳空港近くの柏台1遺跡、寿・祝梅地区の梅川4遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡・梅川2遺跡・祝梅川上田遺跡・アンカリトー9遺跡・アンカリトー7遺跡、中央地区のオルイカ1遺跡・オルイカ2遺跡・チブニー1遺跡・チブニー2遺跡・キウス9遺跡・キウス5遺跡の計14遺跡である。

発掘調査を終えたこの地区では、同年12月18日、キウス5遺跡が位置する「中央ランプ」と梅川4遺跡南側の「寿ランプ」間6.7kmが暫定二車線でも供用され、新千歳空港IC～中央ランプ（横断自動車道千歳東IC）間9.2kmが開通した。

## （2）遺跡範囲確認調査の実施

道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事用地内での最初の範囲確認調査は、平成7（1995）年11月と平成8（1996）年5月に、千歳市柏台地区の仮称祝梅砂丘遺跡とした包蔵地で道教委により実施された。その結果、地表下約4mにある恵庭a降下軽石層（En-a）直下の風成堆積物層から、旧石器時代の遺物である黒曜石製剥片石器類が確認された。柏台1遺跡として登録されたこの遺跡は、平成9（1997）・平成10（1998）年に釧路道埋蔵文化財センターが6,300㎡の発掘調査を実施、En-a直下に広がる疎林樹木痕とEn-a下位の火山灰質シルト層から約32,000点の旧石器時代遺物を検出した（北埋調報138）。その後、用地買収の遅延などにより、用地内の埋蔵文化財関係調査は途絶えていたが、平成12（2000）年から再び範囲確認調査が開始された。

以下、キウス5遺跡に関わるものを時系列に記す。

### ○平成13年（2001）9月

キウス川を挟んだ対岸のキウス9遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス10）の南半部について実施。

### ○平成14（2002）年7～8月・10月

キウス5遺跡で実施。旧河川部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲が確定したが、西側に試掘未了部分が残る。

### ○平成16（2004）年10月

キウス9遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス10）北半部（キウス川左岸部未了）について実施。縄文文化期の堅穴住居跡と思われるくぼみや縄文土器・縄文土器・石器を確認。16,500㎡について調査が必要と判断。800㎡は判断が保留される。

### ○平成17（2005）年5月

キウス9遺跡の北半部のうち未了であった7,700㎡実施。同上の結果を得、保留の800㎡も含め25,000㎡について発掘調査が必要と判断。

### ○平成19（2007）年10月

キウス5遺跡の西側部分、現国道337号に接続する試掘未了区約2,000㎡で実施。散漫な遺物包含層ではあるが、発掘調査が確定した区域からの連続性が考慮され、約1,200㎡が要発掘調査となった。14年度からの保留部分が解消され、これをもって、キウス5遺跡の範囲確認調査は完了した。

### (3) 平成13年度以降のキウス地区の発掘調査

以上の範囲確認調査の結果から、発掘調査が必要と判断された事業用地内は、平成13(2001)年度から(財)北海道埋蔵文化財センターが、札幌開発建設部札幌新道建設事務所(平成16(2004)年度から「千歳道路事務所」)の工事計画に則って発掘調査を実施した。キウス地区に関わる発掘調査は以下のとおりである。

#### ◇平成15(2003)年度

キウス5遺跡 5,000㎡(低地4,200㎡・台地800㎡)

発掘担当者:三浦正人

台地部:縄文時代中期後半の住居跡と遺物

低位部:キウス川の旧河道部から、縄文時代各期の遺物・同晩期の土坑、擦文文化期中期の遺構・遺物、近世の木製品。河川に近い低位段丘で同期の畑跡。

報告書:旧河道部と低位部:北埋調報251集

台地部第Ⅰ黒色土層:北埋調報284

台地部第Ⅱ黒色土層:当報告

調査年報16 参照

#### ◇平成16(2004)年度

キウス5遺跡 1,056㎡

発掘担当者:皆川洋一・菊池慈人

縄文時代中期の遺構、同早期・中期・晩期の遺物。

報告書:台地部第Ⅰ黒色土層:北埋調報284

台地部第Ⅱ黒色土層:当報告

調査年報17 参照

#### ◇平成17(2005)年度

キウス9遺跡 17,000㎡→17,044㎡に変更

発掘担当者:三浦正人・皆川洋一・菊池慈人・新家水奈・愛場和人・阿部明義・広田良成  
石刃鏃70点、縄文時代早期・前期・晩期の遺構・遺物、擦文文化期前期の堅穴住居跡と鍛冶遺構、  
アイヌ文化期の平地住居跡。

報告書:北埋調報252集

#### ◇平成18(2006)年度

キウス9遺跡 7,956㎡

発掘担当者:三浦正人・菊池慈人・愛場和人・袖岡淳子・末光正卓・広田良成  
石刃鏃21点、縄文時代晩期および擦文文化期前期の遺物

報告書:北埋調報252集

#### ◇同年度

キウス5遺跡 3,200㎡(低地1,280㎡・台地1,920㎡)

発掘担当者:三浦正人・菊池慈人・愛場和人・袖岡淳子・末光正卓・広田良成

台地部:旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列)や遺物・擦文文化期前期の住居跡。

低位部:キウス川旧河道部、旧河道部で擦文文化期～近世の木製品、内耳鉄鍋。

低位段丘部で近世の畑跡・建物跡。低位部の調査完了。

報告書：旧河道部・低位部：北埋調報251集  
 台地部第Ⅰ黒色土層：北埋調報284  
 台地部第Ⅱ黒色土層と旧石器：当報告  
 調査年報19 参照

◇平成19（2007）年度

キウス5遺跡 6,100㎡

発掘担当者：三浦正人・愛場和人・末光正卓・広田良成

旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構（住居跡・土坑・焼土列・杭穴）と遺物、同晩期の遺物、擦文文化期前期の堅穴住居跡。

報告書：第Ⅰ黒色土層：北埋調報284

第Ⅱ黒色土層と旧石器：当報告

調査年報20 参照

◇平成20（2008）年度

キウス5遺跡 721㎡

発掘担当者：三浦正人・愛場和人

擦文文化期前期の堅穴住居跡と遺物。

報告書：第Ⅰ黒色土層：北埋調報284

第Ⅱ黒色土層：当報告

調査年報21 参照

◇平成21（2009）年度

キウス5遺跡 3,068㎡

発掘担当者：三浦正人・越田雅司・愛場和人・広田良成

旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構（住居跡・土坑・焼土列・杭穴列）と遺物、同晩期の遺物、擦文文化期前期の堅穴住居跡。当事業区間の発掘調査完了。

報告書：第Ⅰ黒色土層：北埋調報284

第Ⅱ黒色土層と旧石器：当報告

調査年報22 参照

（4）キウス5遺跡の各年度調査の経緯

キウス5遺跡は千歳市中央地区の北部に位置し、馬追丘陵から西流する河川キウス川の右岸に広がる。当遺跡の考古学的調査の略歴は、以下のとおりである。

遺跡の所在は昭和40年代にはすでに確認されていたようで、千歳市教育委員会による踏査が幾度か行われていた。北海道横断自動車道建設計画により当遺跡周辺が路線計画用地内に取り込まれることとなり、道教委により昭和63（1998）年に所在確認調査が、平成5（1993）年には範囲確認調査が実施された。平成6（1994）年～10（1998）年の5ヵ年にわたり北海道横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査で、日本道路公団（当時）から委託を受けた当センターと千歳市教育委員会が、計55,885㎡を発掘調査し、東西1,000m以上に及ぶ広範囲の台地・斜面・低地から、旧石器時代・縄文時代早期～晩期の各期の住居跡や土坑墓、縄文時代後晩期の木製品、擦文文化期とアイヌ文化期の墓などを調査した。



当センター分の報告は平成7(1995)年～11(1999)年にかけて

『千歳市 キウス5遺跡・キウス7遺跡(2)・ケネフチ8遺跡』北埋調報92集

『千歳市 キウス5遺跡(2) B地区』北埋調報104集

『千歳市 キウス5遺跡(3)』北埋調報115集

『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116集

『千歳市 キウス5遺跡(5) A-2地区』北埋調報125集

『千歳市 キウス5遺跡(6) B地区・C地区』北埋調報126集

『千歳市 キウス5遺跡(7)・キウス7遺跡(6)』北埋調報136集

以上の7冊を刊行した。

千歳市教育委員会からは『キウス5遺跡における考古学的調査』(千歳市文化財調査報告XXV)として平成10(1998)年に刊行された。

本事業道路工事の計画では、キウス川橋脚工事や、現国道と道東自動車道(千歳東IC)に接続すべく“キウスランプ(中央ランプ)”の工事が順次行われるようになっていた。工事に伴う当遺跡の範囲確認調査は、前述したとおり道教委によって平成14(2002)年7～8月と10月に実施され、旧河道部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲がほぼ確定した。さらに現国道との接続部分に残っていた試掘未了部分約2,000㎡も、平成19年10月に確認調査が実施され、約1,200㎡が発掘調査が必要判断。平成14年度からの保留部分が解消され、当事業によるキウス5遺跡の発掘調査範囲が確定した。

平成15(2003)年度の計画として、札幌開発建設部は道教委に対し、平成16(2004)年度以降に予定しているキウス川右岸橋台工事と河川直線化および護岸工事のため、キウス5遺跡のキウス川寄り低位部約5,500㎡の調査を平成15年度内に終了させて欲しいとの要望を出した。道教委は低位部約5,500㎡を単年度で発掘するのは困難として、札幌開発建設部に再検討を打診。工事計画や予算規模を勘案し、札幌開発建設部と道教委は平成15(2003)年度分は低位部4,200㎡と台地部800㎡の計5,000㎡の調査で合意した。これを受けた当センターは、低位部調査の計画と準備に時間を要することから、平成15(2003)年度はオルイカ1遺跡1,600㎡とチブニー2遺跡2,000㎡を5月から先行して調査し、この期間中にキウス5遺跡低位部調査のための鋼矢板打設・ウェルポイント設置・高電圧工事・表土除去・ベルトコンベア設置などの準備工にあてた。

両遺跡の調査終了と同時に6月下旬から約4ヶ月の調査に着手し、当事業によるキウス5遺跡の発掘調査が始まった。低位部は、北東部が台地の裾が旧河道へと張り出し、東西中央軸から南部部分にはキウス川の旧河道、そこに洪水堆積層が広がる様相であった。洪水堆積層が形成する低位の台地もみられ、その南西側の平坦面では近世の畑跡を確認、旧河道とそれ以前の河川堆積層からは、縄文時代各期の遺物や縄文時代と近世の木製品が検出した。台地部では縄文時代中期後半の堅穴住居跡の存在を確認した。

平成16(2004)年度当初は、キウス5遺跡の調査は予定されていなかった。しかし、チブニー2遺跡の市道部分の調査1,300㎡が次年度に繰り延べになったため、この代替としてキウス5遺跡を相当分調査できないかとの打診が、札幌開発建設部および道教委からあった。検討の結果、キウス5遺跡の前年度調査区に接する南斜面部1,056㎡を調査することに決定し、9・10月に調査を実施、縄文時代中期の遺構・同早期・中期・晩期の遺物を調査した。

平成17(2005)年度、対岸でキウス9遺跡の調査を進めている間、平成15(2003)年度に調査を終えた低位部でキウス川右岸橋台工事が着工し11月にほぼ完成した。

平成18(2006)年度のキウス地区の計画として、札幌開発建設部は道教委に対し、キウス9遺跡の残り7,956㎡とキウス5遺跡の低位部の残り約1,300㎡(精査1,280㎡)、およびキウス5遺跡台地部の残りを可能な限り調査して欲しい旨の要望を出した。道教委は、低位部1,280㎡と台地部1,920㎡の計3,200㎡を年度内調査とするのが妥当として、札幌開発建設部に検討を打診、了承された。これを受けた当センターは、低位部調査の準備に時間を要することから、平成18(2006)年はキウス9遺跡を5月上旬から先行調査し、この期間を低位部の鋼矢板打設・ウェルポイント設置・高電圧工事・表土除去・ベルトコンベア設置などの準備工にあてた。低位部は平成15(2003)年度の調査結果からの想定と面積が小さいことから準備期間を短縮することができ、5月下旬から9月下旬の約4ヶ月の期間で発掘調査を終了できた。近世の畑跡の続きや、旧石器時代、縄文時代各期～縄文文化期の遺物や縄文時代と近世の木製品の検出があった。台地部は5月下旬から10月に、南西側の台地縁から平坦部にかけて調査し、縄文文化期前期の竪穴住居跡や縄文時代中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列)・遺物、旧石器時代の細石刃石器群のブロックなどを調査した。

中央～キウス地区の調査もオルイカ2遺跡とキウス5遺跡を残すのみとなった平成19(2007)年度は、オルイカ2遺跡4,200㎡と併行して、台地中央部6,100㎡を対象に5～10月に調査した。縄文文化期前期の竪穴住居跡や平成15(2003)年度から続く、縄文中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列・杭穴列)や遺物のほか、縄文時代晩期の遺物、旧石器ブロック2か所などを検出した。

平成20(2008)年度は、調査担当遺跡が祝梅地区の三遺跡、中央～キウス地区のオルイカ2遺跡とキウス5遺跡の二遺跡となり、工事工程や調査人員配置の観点、近くに営果するオオタカへの配慮から、キウス5遺跡調査は9月中旬～10月中旬の調査とした。現国道や千歳東ICと連結する台地西側の緩斜面部のうち、先行する工事用道路分にあたる721㎡、幅約5.5mの東西に細長い範囲を調査した。主に縄文文化期前期の竪穴住居跡や遺物、続縄文時代の遺物を検出した。

当該事業に伴う発掘調査もキウス5遺跡を残すのみとなった平成21(2009)年度は、前年度調査区に北接する東西に長い2,098㎡(A地区)と、台地北側の970㎡(B地区)が調査対象で、B地区は横断自動車道(道東道)建設に伴い平成8(1996)年度に調査した部分(『千歳市キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116集)と接し、平成15(2003)・19(2007)年度の調査区に北側に接する。道央圏連絡道路が横断自動車道の下をくぐる南側部分にあたり、東日本高速道路株式会社の道路敷地である。5～8月の調査期間は、オオタカの棲息に最も配慮が必要な期間ではあったが、工期が迫っていたこともあり、オオタカの状況をモニタリングしていた札幌開発建設部の指示に従い、慎重に発掘調査を行った。B地区は高速道路への人やシカなどの侵入防止柵の撤去と仮柵設置、表土除去などの準備工が必要であったため、調査着手は5月下旬となった。A地区では前年度に続く縄文文化期前期の竪穴住居跡と遺物、平成19(2007)年度に着手していた細石刃石器群のブロックも調査した。B地区では平成8(1996)・15(2003)・19(2007)年度から続く、縄文時代中期後半の竪穴住居跡・多数の土坑・数条の焼土列・弧状の小柱穴列と遺物を調査した。

当該事業におけるキウス5遺跡の調査面積合計は、19,145㎡。これをもって「道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事」に伴う用地内の埋蔵文化財発掘調査は完了した。

(三浦 正人)

表1-4-1 確認選機一覧

調査年度	調査区 立地	調査区 位置	駆穴 住居跡「H」	平地 住居跡 住居跡「H」	土坑 住居跡「P」	柱穴状 ピット「SP」	土器 集中 「F」	土器 集中 「PS」	土器 ・チャップ 集中 「PS」	フレイク 集中 「FG」	健康中 「S」	柱穴 「SP」	旧石器 ブロック 「SB」	炭化物 集中	骨片 集中	粘土 集中 「N」	盛土 ? 「M」	炊器	溝状 遺構	原形跡	小計	報告書
平成15 (2003) 年度	低地部	原層「U」		12	39				1		J			4	1			3	2	62	千歳市 報告書 北地調査201	
		V・VI層「L」																		2	0	千歳市 報告書 北地調査201
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査201
平成16 (2004) 年度	台地部	V・VI層「L」	12	2	1	11														26	本報告書 北地調査209	
		小計	12	0	14	40	11	0	1	1	0	0	0	0	4	1	0	0	3	2	2	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査209
平成18 (2006) 年度	低地部	V・VI層「L」	1	9	2	2														12	千歳市 報告書 北地調査209	
		小計	1	0	9	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査209
平成19 (2007) 年度	台地部	V・VI層「L」	5	1	3	1					J									7	千歳市 報告書 北地調査209	
		小計	5	1	3	1														3	千歳市 報告書 北地調査209	
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査209
平成20 (2008) 年度	台地部	V・VI層「L」	17	0	48	1	150	10	1	2	226	2	2	2	0	0	1	0	0	0	13	千歳市 報告書 北地調査209
		小計	17	0	48	1	150	10	1	2	226	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査209
平成21 (2009) 年度	台地部	V・VI層「L」	1	1	1	39														2	千歳市 報告書 北地調査209	
		小計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																			0	千歳市 報告書 北地調査209
低地部	上位層合計	V・VI層「L」	14	35	59				1	166										257	千歳市 報告書 北地調査209	
		小計	14	35	59				1	166										2	千歳市 報告書 北地調査209	
		その他																		0	千歳市 報告書 北地調査209	
台地部	下位層合計	V・VI層「L」	15	0	36	0	59	0	1	0	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		小計	15	0	36	0	59	0	1	0	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																				千歳市 報告書 北地調査209
台地部	上位層合計	V・VI層「L」	9	0	3	3	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		小計	9	0	3	3	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																				千歳市 報告書 北地調査209
台地部	下位層合計	V・VI層「L」	44	0	103	2	245	6	5	2	394	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		小計	44	0	103	2	245	6	5	2	394	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	千歳市 報告書 北地調査209
		その他																				千歳市 報告書 北地調査209
		合計	53	7	121	44	251	13	6	5	2	394	3	4	7	1	7	6	2	3	909	千歳市 報告書 北地調査209

\* 調査年度にわたり調査した年度は、調査に着手した年度に載せた。

\* 平成21(2009)年度には、連続自動車遺構区に伴う平成8(1996)年度調査のH-7・H-100の南側部分を調査したので、LHにこの2軒を載せた。

表 1-4-2 出土遺物一覽

調査年度	調査区 立地	運轉出土				否置出土				河川堆積層出土 (低台部)				雑草 合計				報告書				
		上位層 遺物「U」		下位層 遺物「L」		土器		V・VI層 出土		土器		土器		土器		土器						
		土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品	土器	石器等 鉄製品		土器	石器等 鉄製品		
平成15～18 (2003～2006)年度	低台部	459	2,369	116	80					8,982	4,096	5	1	304	6,545	5	1	304	千代田 キョウゴ5遺跡(8) 北壇原遺跡(5)			
小計		2,668		196	0					13,083		1	304	16,147		1	304					
平成15 (2003)年度	台地部			3,045	773			29	16					845	159			3,919	948	0	0	
小計		0		3,818	0			45	0					1,004	0			4,867				
平成16 (2004)年度	台地部			1,428	43			3,296	1,195					8,300	1,700			12,594	2,938	0	0	
小計		0		1,471	0			4,461	0					10,000	0			15,532				
平成18 (2006)年度	台地部	7,894	599			3,146	3,356	734		6,566	1,439			12,862	2,104	33		30,498	7,498	767	0	
小計		8,523		6,502		734		8,005	0	14,966	33							38,783				
平成19 (2007)年度	台地部	1,022	60	2	21,635	7,770	17,769	23,647	1,207	4	35,100	6,187	94					81,404	15,224	17,983	6	
小計		1,091		28,405		17,769		24,854	4	41,287	94							114,487				
平成20 (2008)年度	台地部	1,689	2					128	9		142	48						1,768	59	0	0	
小計		1,500		0	0			137	0	190	0							1,827				
平成21 (2009)年度	台地部	581	2	8,209	1,904	4,786	6,410	275	1	16,304	736	26						31,504	2,917	4,812	1	
小計		583		10,113		4,786		6,685	1	17,040	26							39,284				
合計		14,538		51,505		23,289		44,152		84,487	153							171,684	36,129	23,447	8	
																					304	231,572

単位：

千代田  
キョウゴ5遺跡(9)  
北壇原遺跡(8)

V～VI層：  
本報告書  
北壇原遺跡(9)

#### 4. 調査結果の概要 (表 I-4-1・2)

道央圏連絡道路(一般国道337号)千歳市新千歳空港関連工事に伴う本遺跡の調査は、平成15(2003)・16(2004)・18(2006)・19(2007)・20(2008)・21(2009)年度に実施した。

低部位の調査成果は『千歳市 キウス5遺跡(8)』(2008 北埋調報251)、台地部分の調査報告は、IV層(T a-c)より上位のⅢ層、擦文化期～縄文時代晩期後半(同じ土器型式で、V層出土のものも含む)は、平成23(2011)年度に『千歳市 キウス5遺跡(9)』(2011 北埋調報284)を刊行しているため、これらを参照されたい。

当報告書は、それより下位のV～Ⅶ層、主に縄文時代中期と旧石器時代についてである。

低部位を含むこれまでの調査で確認された遺構、出土遺物について表 I-4-1・2 にまとめた。本書報告する遺構の位置図を図 IV-1-1・2 に示す。遺構は調査区の北東側部分と中央付近に多く見られ、西側は少ない。ほとんどが縄文時代中期後半であるが、一部、同後期初頭もあり、縄文時代中期後半～同後期初頭まで集落が営まれたと考える。また、中期後半の住居跡や土坑は、土器型式から大きく三つに分けられる。

竪穴住居跡は41軒調査し、1軒は縄文時代後期初頭で、他はすべて縄文時代中期後半である。多くが調査区の北東側、台地の平坦部に集中し、切り合い・重複等がみられる。土坑103基・柱穴状ビット2基・小柱穴・焼土・遺物集中もすべて、縄文時代中期後半と考える。土坑のうち、規模が大きいものや炉跡が認められたものは小型の住居跡と考える。遺構が集中する区域(以下 遺構集中区域)にあるものは、切り合い・重複等がみられ、この区域外に単独で位置するものもある。柱穴状ビットは後述の小柱穴よりも規模が大きく2基確認した。小柱穴は、北東側部分の遺構集中区域を弧状に囲むように列状で認められた(小柱穴列)。焼土は列を構成するもの(焼土列)と単独のものに分けられる。焼土列は、遺構集中区域から二条一組で、周囲へと延びるようにみられる。これらは赤色～橙色の色相を呈し層も厚いが、他に薄層で茶褐色の色相、明度・彩度ともに低いものもあり、いわゆる「擬似焼土」(北埋調報 253・267)の可能性が有る。遺物集中は、土器集中 L P S-6 はⅢ群土坑 L P-60近くで確認した。他はすべてV群で報告済みである(北埋調報 284)。フレイク集中(L F C)は4か所確認した、1か所は低部位で報告済みである(北埋調報 251)。共通する特徴は小さめのフレイクが多いことである。礫集中 L S-3 は拳大程度の礫の破片が、L S-4 は長径30cm程度の礫がまとまって出土した。

旧石器時代の遺物は、ブロックを3か所確認し、また、包含層や縄文時代の遺構の覆土から単体で出土したものもある。表中の「盛土?」は、再検討の結果、風倒木痕であるとの結論に至った。

出土遺物は、土器・石器等・旧石器・鉄製品・木製品で総数は23万点を超える。本書で報告するV層～Ⅶ層の遺物は約15万9千点を数え、土器は約11万3千点、縄文時代早期後半・中期後半・後期初頭・後期後半のものがあり、中期後半のものが圧倒的に多い。石器等は約2万3千点で多くが縄文時代中期後半と考える。旧石器は約2万3千点出土し、忍路子型細石刃核を伴う石器群である。

(末光 正卓)

## II章 遺跡の位置と環境

### 1. 位置と立地 (図II-1-1・2)

遺跡は千歳市の市街地から北東約8km、中央地区に位置する。キウス遺跡群は、石狩低地帯東辺の馬追丘陵から西流するキウス川の兩岸の丘陵平坦部と下端部周辺に広がる東西約2km・南北約1.5kmにわたる、後期旧石器～アイヌ文化期の全時代を網羅する大遺跡群で、国指定史跡キウス周堤墓群も含んでいる。丘陵平坦部にある遺跡のうち、下端部近くの右岸に位置する遺跡をキウス5遺跡、対岸をキウス9遺跡と称している。この遺跡群は北海道横断自動車道建設などに伴い、すでに平成5(1993)～10(1998)年に当センターと千歳市教育委員会埋蔵文化財センターによって、キウス4・5・7遺跡の一部が計123,570㎡調査されている。

キウス5遺跡の立地する馬追丘陵は、北から栗山町・長沼町・由仁町・千歳市・安平町と、南北延長約30kmにおよんで隆起している標高150m前後の連なりで、273mの馬追山を最高地点とする。キウス遺跡群の東方は標高約100mのコムカラ峠で、峠の西北西下にキウス川の源流がある。キウス川～コムカラ峠のルートは、丘陵を横断して石狩低地帯と夕張方面や道東部を結ぶ道のひとつとして早くから開けていたようである。

一方、丘陵西側に広がる石狩低地帯は、支笏火山が形成した火砕岩台地によって千歳市南部を分水界とし、日本海側と太平洋側に分かたれている。このうち当遺跡が面する日本海側の南東部は、分水界近くまで低平で、遺跡付近から望める千歳市祝梅・根志越・中央・泉郷地区や恵庭市漁太地区、長沼町は、古くはトンメ沼・長都沼(ヲサツトウ)や馬追沼(マヲイトウ)・ボンユーバリ沼・菱沼(イコクシ沼)・チカップセトシ沼・鶴沼などの沼があり、周辺には低湿地が広がっていた。蛇行の著しい千歳川・祝梅川・剣淵川(ケヌフチ川)・漁川・夕張川やそれらの小支流と馬追丘陵からの小河川も流入し、多雨や融雪期には広範囲で冠水する湛水地帯であった。キウス川もこの低湿地帯の東縁を集水して沼に向かうオルイカ川に流れ込む一小流である。往時は遺跡やコムカラ峠から西を眺めれば、低地帯手前には水を湛えた沼が広がり、遠くに樽前山・恵庭岳・漁岳・空沼岳・札幌岳・無意根山・手稲山など標高1000～1500m級の山々が連なる眺めであった。

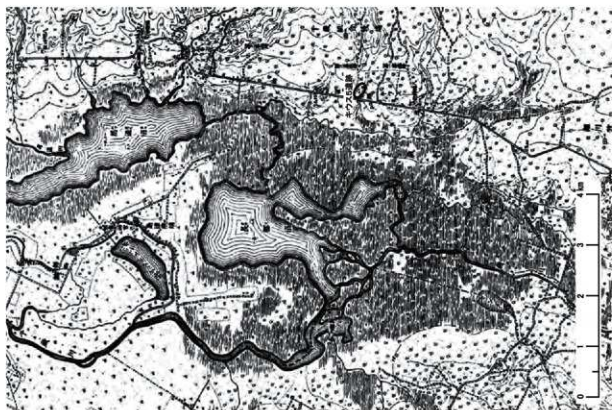
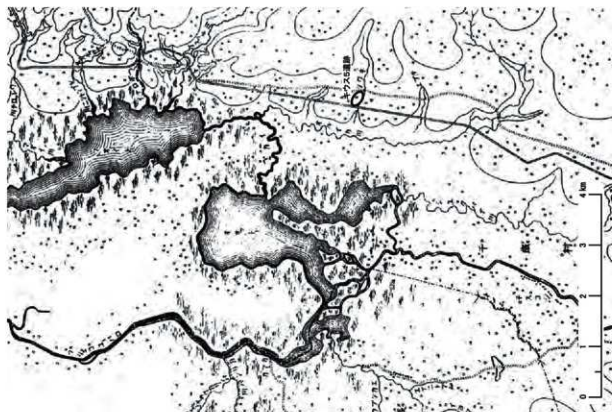
地名「キウス」の初出は、安政四(1857)年の調査記録である松浦武四郎『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』『第十六巻由宇発利日誌巻之二』にケ子ブチ(ケヌフチ)・ウリウカ(オルイカ)の次に「キユウシ 小川、巾三間計。過て谷地を五丁計行てまた木原少し過(後略)」とあり、『東西蝦夷山川地理取調 五』の中にも「キユウシ」と記されている。ただ、この報告の手控えの一部である『石狩・テシホ・クスリ外十二所川々取調帳』の図には同じ位置に「キニウシ」とある。判読本では「キユウシ」としているが、ニとユの誤読と思われる。武四郎が最初の聞き取りの時は、「キニウシ」と聞き書きしたものとみられる。そうすると後の『北海道蝦夷語地名解』(永田方正 1891)による「Kiusi・キウス=鬼茅大キ處・川ノ名」とあるものや、「ちとせ地名散歩」(長見義三 1976)の「ki-us-i カヤの群生する・所」の説明がわかりやすい。いくつかのアイヌ語辞典や地名研究・植物誌では、「ki」はカヤを表わしていることがわかる。また「キネ」は、本来は草のこととされているが、カヤ・アシ・ガマのようなゴザ編みや家を建てる時に使うような茎の長い植物のことを指しているとみることができる。「キウスーキウシ」はもともと「キネウシ」(「キニウシ」)と呼称されていたのであろう。湿原の中を流れゆく小河川のイメージと重なる地名と言えよう。地図にも明治29



国土院の縮尺50000(地形画像)『千歳』(平成11年発行)・『早来』(平成11年発行)・『直蔵』(平成13年発行)・『追分』(平成14年発行)を10万分の1に縮小して使用。一部加筆

1000 m 0 1000 2000 3000

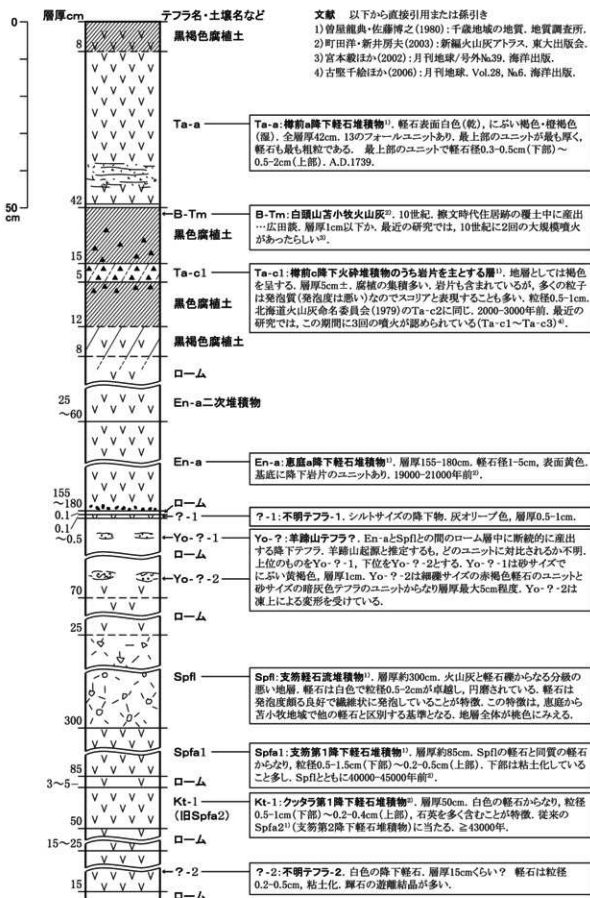
図Ⅱ-1-1 遺跡の位置(1)



この図は、〈上〉陸地測量部、明治29年製の假製五万分の一地形図、札幌第七號『長部（おさつ）』  
 〈下〉同、明治42年部分修正図、43年改版の假製五万分の一地形図、札幌第七号『池（いざり）』を  
 約75,000分の1に縮小複製して使用、一部加筆。

図II-1-2 遺跡の位置(2)





図Ⅱ-2-1 遺跡周辺の地質

(1896)年陸地測量部製版の「北海道假製五万分一図」『長都』では「キウシ」と川の名が、明治35年陸地測量部改版の『漁』では「キウス」と地区名として示されている。

## 2. 地質と地形 (図II-2-1~3)

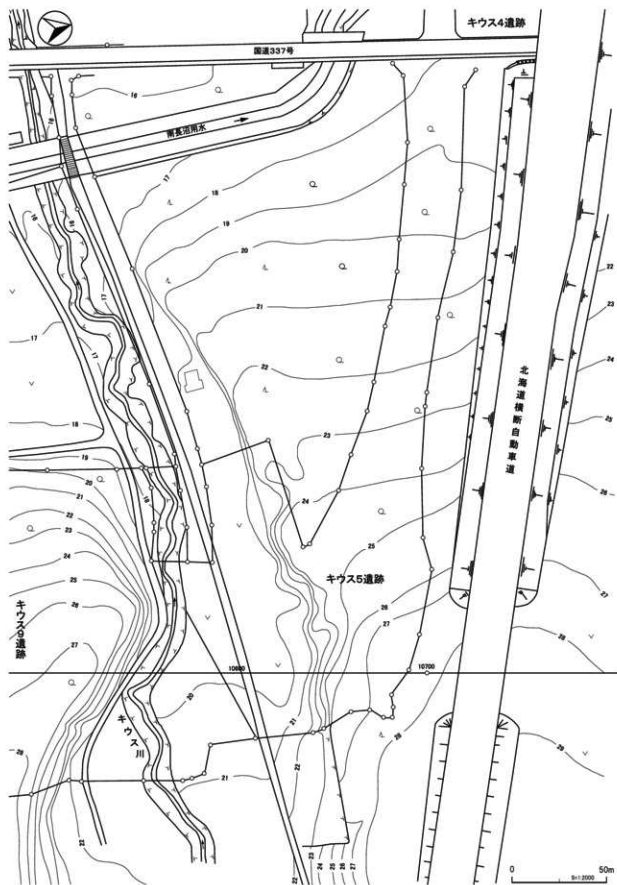
### (1) 地質

遺跡周辺では数層のテフラ(火山灰)が基盤の礫岩・砂岩・頁岩層を覆っている。まず起源不明の白色降下軽石が約15cmあり、20cmほどのロームを挟んでその上に約50cmの厚さで43,000年ほど前のクッタ第1降下軽石堆積物(Kt-1 従来の支笏第2降下軽石堆積物Spfa2にあたる)がある。薄いローム層を挟んで、その上に約40,000年前の支笏第1降下軽石堆積物Spfa1が1m弱堆積し、これらを火山灰と軽石礫からなる軽石流堆積物Spf1が約3m厚で覆っている。この上の1m厚のローム(Spf1の風成二次堆積物)の間ほどに、羊蹄山起源とみられる降下テフラが2枚点在する。このロームを起源不明のテフラとロームの薄層が覆い、さらに上を厚さ1.5~2mと厚く覆うのが約20,000年前の恵庭岳起源の降下軽石En-a(En-p)である。さらに直上にEn-aの二次堆積とこの風化ローム層であるEn-Lが20~50cm堆積している。この上は厚さ5~10cmの暗褐色粘質腐植土(漸移層)、5~15cmの黒色粘質腐植土(第II黒色土層)とあり、これをおよそ2,000~3,000年前の樽前山起源の降下火砕堆積物(岩片主体)Ta-c1が約10cm厚で覆っている。最近の研究(古堅千絵ほか 2006 樽前山における9000年間のマグマ系の変化)『月刊地球28-6』では、この期間に3回の噴火が認められるという(Ta-c1~Ta-c3)。この上に10~15cmの黒色粘質腐植土(第I黒色土層)が発達する。この腐植土層中には10世紀前葉の白頭山起源のB-Tmの薄層がくぼみなどに点在する。最近の研究(宮本毅ほか 2002 「白頭山10世紀噴火の噴火推移」『月刊地球号外No.39 活動的火山』)によれば、10世紀に2回の大規模噴火があったらしい。第I黒色土層を厚さ30~50cmで覆うのが1739年降下のTa-a(樽前a降下軽石堆積物)で13枚のフェールユニットで成っている。この上位は約10cmある現表土の黒褐色腐植土である。また、1667年降下のTa-b(樽前b降下軽石堆積物)はキウス地区では確認されていないが、これで区分される第0黒色土層(第I黒色土層の上部)に対応する層として低位部では第I黒色土層の上部が茶褐色気味になる部分もある。

なお、テフラ全般の文献は『千歳地域の地質』(曾屋龍典・佐藤博之 1980 地質調査所)と、『新編火山灰アトラス』(町田洋・新井房夫 2003 東大出版会)である。

### (2) 地形

地形学的に言えば、遺跡群周辺には丘陵・谷底平野・古砂丘・扇状地・沖積平野が発達している。丘陵地内には狭長な谷底平野があり、谷底部には段丘が発達しており、キウス5遺跡はこの谷底平野部と段丘面に位置する。この東西に長い段丘面は、支笏カルデラ起源の軽石流堆積物(Spf1)に覆われた丘陵地が、湧水・流水による浸食下刻作用により谷地形が広がるのと相対的に、ほぼ水平な台地状の広がりをもたらしたものである。標高は23~45mで、100mにつき2mほどの割合で低下する東高西低の緩斜面である。遺跡の低位部は現標高18~20mほどで、谷底平野を走るキウス川の旧河道とその蛇行浸食や洪水による河川堆積層として広がる。扇状地は馬追丘陵西端に小規模に認められ、眼前の石狩低地帯は沖積平野である。古砂丘はSpf1の風成二次堆積物から成り、遺跡群の南西方面に砂丘列として存在する。後期旧石器時代以降の遺跡が立地し、後期旧石器でも古いものは丸子山遺



図Ⅱ-2-2 遺跡周辺の地形

跡のように砂丘下でも確認される。

丘陵地には数本のリニアメント(地質構造を反映した線状地形)が認められる。泉郷から南南東に延び遺跡群付近を通るリニアメントが泉郷断層である。最近の研究では、馬追丘陵の隆起構造の形成は、東上がりの隠れた低角逆断層(ブラインドスラスト)群の活動が本質的な影響を与えているという。東から西へ伸し上がる作用が主要で、地表面に現れた既知の活断層群は付随的な状況と判断されている。道東自動車道建設工事のためのボーリング調査では、「馬追丘陵からその前面の低地では十萬年前ごろの地層の変位(たわみ上がり)が七十%にも達している」ことがわかり、「地震があると馬追丘陵が隆起するという現象は」「前面(西側)の低地を相対的に低下させることになる」という(岡孝雄「石狩低地東縁断層帯」『地震と津波』北海道新聞2006. 8. 8 図II-2-3)。馬追丘陵にみられる既知の活断層群は石狩低地東縁断層帯と呼ばれ、泉郷断層をはじめ岩見沢断層・栗沢断層・長沼傾動帯・馬追断層・検淵断層などで構成される延長60kmを超える活断層帯である。この断層帯は、地表面にずれが現れた西側上がりの逆断層で、道立地質研究所が1998~1999年に行ったボーリング調査によれば、最新活動期は約3,000年前、活動間隔は2,000~3,000年程度と推定されている(前掲)。

### 3. 近現代の環境変化

発掘調査前のキウス川縁地は、国道から1kmほど奥までは人家もあり開墾されて畑地として利用されていた部分もあったが、耕作放棄され荒地地となっている部分も多かった。長見義三によれば、昭和30年頃、キウス川の奥には開墾入植の痕があり、家や庭・沢縁のカタクリの群落や背後のクリ林がみられた。川の源流部の協和峠(コムカラ峠)の斜面にはスキー場があったという(長見義三 前掲書)。また川の岸辺や台地端には、調査でも発見された炭窯が作られていた。周囲の木を炭焼きし、川の流れを利用して運び出していたものと思われる。キウス川沿いの道路は、右岸(キウス5遺跡側)を上流・コムカラ峠まで向かう(途中から左岸側)道と、キウス5遺跡中央部でこの道と分かれ低地から台地に登る道とがある。

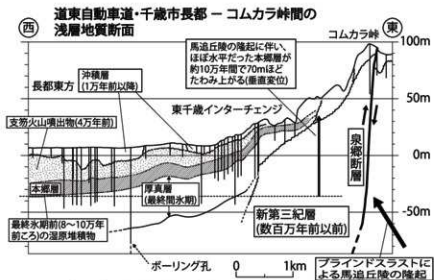
周辺の樹木は落葉広葉樹が主体で、未開墾部や川縁では林となっていた。コナラ・ヤチダモ・オニグルミ・クリ・ヤマグワ・コクワ・ホオノキ・タラノキ・ヤマブドウ・ヤナギなどがみられた。また千歳森林組合による植林で、マツやイチイ主体の人工林も広く分布する。

調査中、掘削排土には頻りにエゾシカやキタキツネの足痕がマークされ、糞も確認できた。表層のくぼみ等にはアオダイショウ・シマヘビが生息していることがあり、林辺ではエゾリスやノネズミも目視された。キウス川の支流でキウス7遺跡に分け入る沢はエゾサンショウウオの生息地であったという。上空には常にノスリカトビが飛翔回転していた。キウス川では現在魚影等は確認できないが、低地帯の長都沼には、ワカサギ・フナ・コイ・エビなどが生息していた。また水鳥も多く、キジ・ガン・カモ・ハクチョウ・ツルなどが飛来生息していた。長都沼と連結する千歳川水系はサケの上る川で、ウグイなどの魚も大量に生息している。

千歳市の「中央」という地名は、昭和初期にも使用されていたようであるが、市域の中央であるという意味の「中の里」という原案(1984 『千歳市農業協同組合史』)と、長都沼の東岸地帯の中央の意味(長見義三 前掲書)から、昭和26(1951)年に大字廃止字名改正で確定されたと考えられる。それ以前は、キウス・チブニー・オルイカという三字により中央地区が構成されていた。前掲書『農協史』や『千歳市史』(1969)によれば、中央地区の開拓は現在の国道337号線の前身である、明治22(1980)年着工、23年竣工の千歳由仁道路(由仁街道)の開削が始まるという。この道路は幅2間・



国土地理院の数値地図200000(地図画像)『札幌』(平成17年発行)を40万分の1に縮小し、【同学誌『石狩低地東縁断層帯』、『地震と津波』北海道新聞 2006.8.8】の断層帯等を追加



図Ⅱ-2-3 石狩低地東縁断層帯

延長5里33町16間におよび、岩見沢千歳間道路の一部として敷設された。当初の開墾は、明治26(1893)年に広島県からの移住者が、現在の北広島市の開拓を行った団体を頼り、キウスに入植した。同28年には稲作実験も成功し、戸数が増え始めたという(2009『新千歳市史 通史編上巻』)。当時のキウス・チブニー・オレイカの各河川流域は、熊笹と大木の密林であったといい、現在でも時を彷彿とさせる情景が中央八幡神社周辺に残っている。神社は明治30(1897)年に八幡宮守留伊賀神社として建立された。また、明治33年には現中央保育所(旧中央小中学校)の前身である私設木白簡易教育所が浄土真宗の説教所として設けられ、明治35(1902)年には公式に認められ、大正4(1915)年に木白尋常小学校となった。大正5(1916)年頃にはオレイカ川や長都沼周辺が開墾され、漁場が設けられたという。

昭和6(1931)年、コムカラ峠から追分道路沿いの緩斜面の民有地312町歩が開放され12戸が入植した。『郷土史ケヌフチ物語』(1992)によれば、中央地区を南北に縦貫する農業水利の南長沼用水は、明治45(1912)年に長沼村議会で建議書が議決され、大正11(1922)年南長沼土功組合が発足、同14年に着工し、千歳川蘭越頭首工からの幹線水路33,000mが竣工したのは昭和2(1927)年であった。また同書によると、由仁街道は昭和11(1936)年、石狩東部における北海道第七師団と東北第八師団の対抗大演習の際、砂利敷きの道路に改修されたという。

ちなみに現在の国指定史跡キウス周堤墓群は、明治期の由仁道路開墾時に周堤2基が南北に貫通掘削されている。大正10(1921)年度の河野常吉の調査(1924・1974復刻『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』)をもとに、集中した5基が昭和5年6月22日道庁告示第844号で、史蹟名勝天然記念物(大正8年法律第44号)「史蹟キウスのチャシ」となった。昭和25(1950)年には南長沼用水の改修工事の際、200mほど南に離れた1基から耕作中に石柱が見つかり墓坑が検出されたという。昭和39・40(1964・1965)年には千歳市教育委員会名で大場利夫(北海道大学)と石川徹(中央小中学校長)を中心に2基の部分調査が行われ、墓坑等が検出されている(1967『千歳遺跡』)。さらに昭和40(1965)年には由仁道路の拡幅による道路側溝で切断された墓坑が周堤から発見され、石川が調査を手がけている(1969『北海道考古学第5号』)。そして昭和43(1968)年には離れた2基を加えた7基が、北海道指定史跡「千歳キウス環状土籬群」に指定し直され、昭和54(1979)年10月23日をもって国指定史跡となった。

前述した遺跡眼前の低湿地帯は、現在は、治水と土地改良等を目的とした昭和26～44年(1951～1969)の国営灌漑排水事業やその後の圃場整備事業・土地改良事業によって、沼や低地の干拓・埋め立て、河川や水路の整備・直線化が行われ、地下および表層の水位が低下し、水田や畑地として利用されている。

昭和の末期、日本道路公団が北海道横断自動車道計画に着手。平成になるとこの周辺にも用地買収や森林伐採の手が入り、前述した発掘調査や建設工事が本格化し、平成11年(1999年)10月道東自動車道の一部として開通、千歳東インターチェンジやキウスパーキングエリアが設置された。さらに当事業の一連の調査と工事により、平成22(2010)年12月18日にはキウス5遺跡の位置の中央ランプと新千歳空港インターチェンジ間9.2kmが、道央圏連絡道路の一部として開通、供用され道東自動車道ともアクセスするようになった。

以上のように、近代に入ってから現在まで、遺跡とその周辺を取り巻く環境や実相は、開墾・耕作・工事などで常々変化を余儀なくされている。

(三浦)

#### 4. キウス5遺跡年度ごとの調査の概要(図Ⅱ-4-1 表Ⅱ-4-1)

本事業用地内や千歳市域の遺跡については、これまで当センターが刊行した発掘調査報告書『千歳市 キウス7遺跡(3)』(1996 北埋調報105)・『千歳市 キウス4遺跡(5)』(2000 北埋調報144)・『千歳市 キウス4遺跡(6)』(2000 北埋調報148)・『千歳市 オルイカ2遺跡』(2003 北埋調報189)・『千歳市 チブニー2遺跡(2)』(2004 北埋調報207)・『千歳市 アンカリト7遺跡・アンカリト9遺跡』(2010 北埋調報268)等に記載しており、また、中央地区の「キウス遺跡群」については『千歳市 キウス5遺跡(9)』(2011 北埋調報284)で述べた。

ここでは、キウス5遺跡の年度ごとの発掘調査について、刊行した報告書ごと時系列に述べる。

##### (1) 北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財調査

###### ・横断自動車道調査区の地区分け

：遺跡は東西方向1kmと長いため、四つに地区分けし(北埋調報116)、A地区は細分した(北埋調報125)。

A地区：道路中心杭STA.138+50付近より東側

B地区：道路中心杭STA.138+50付近～135+50付近の間

C地区：道路中心杭STA.135+50付近～131+50付近の間

D地区：道路中心杭STA.131+50付近より西側

###### ・地形：三つに分けられる。年度ごとに呼び名が異なる

###### 低位部

低湿地部・低位平坦部・谷底平野・低位の段丘・低湿地・低湿地部・旧河道部

：低位部は、キウス川とその支流の「旧河道」とこれの岸にあたる「低位の段丘」と「台地からの斜面の裾部分」に分けられる。

斜面部：台地部から低位部への斜面で、緩斜面と急斜面に分けられる。

###### 台地部

段丘上・台地・丘陵上・台地上

：標高20m程度以上の高い部分で、「平坦部(平坦面)」と斜面部へ続く「肩部」がある。

###### ・層位：

上位層：T a-cよりも上位のⅢ層

下位層：T a-cよりも下位のV・VI層

##### 『千歳市 キウス5遺跡 キウス7遺跡(2) ケネフチ8遺跡』(北埋調報92)

地 区：A地区(A-2地区 後に区分け)段丘上～斜面部～低湿地部(キウス川)

グリッド：上層部：D～X-265～281区(STA.140付近)

下層部：V-1層：C～G-270～281区、H・I-273～279区、

J～U-270～279区、Q～W-265～269区(北埋調報92 図I-3)

V-3層：C～Q-273～281区、Q～U-270～272区(北埋調報92 図I-4)

V-5層：C～Q-273～281区、Q～U-270～272区(北埋調報92 図I-5)

平成6(1994)年度調査 調査予定面積3,000(当初予定2,700、追加300)㎡のうち、調査が完了した1,270㎡についての報告で、残りの西側部分1,730㎡は上層(Ⅲ層)のみが調査完了で、この西側部

分の下位層は報告していない。

段丘上では、縄文時代早期・中期・後期・晩期の竪穴住居跡や土壌等を調査した。土器は半数以上が縄文時代晩期で、擦文文化期の須恵器もある。石器等は「いかり石」や玉類などが出土した。低湿地部では槌状木製品（「キウス型木槌」）、カゴ状繊維製品等の木製品が出土し、キウス川の旧河道の変遷（擦文文化期・縄文時代晩期（二つの時期）・同後期後半・同中期～早期の流路を確認）し、自然環境の変化について、土層断面、出土遺物とその状態（磨滅）、放射性炭素年代測定の結果、自然木のあり方等から考察した。

#### 『千歳市 キウス5遺跡（2）B地区』（北埋調報104）

地 区：B地区 斜面部～低位段丘面（キウス川）

グリッド：D～U-151～228区（STA. 136・137・138）

平成7（1995）年度の発掘調査は、A-1地区（A-2地区は行わず）4,100㎡、B地区14,370㎡の合計18,470㎡を調査した。面積の変更はキウス4遺跡を先に調査すること等、事業者の要請に応じたもので、この報告書はB地区14,370㎡についてである。

斜面部では縄文時代前期（網文式期）の竪穴住居跡（集落跡）、土坑、Tピットを調査し、調査区の西側部分では、キウス川（またはその支流）の旧河道部があり、そこから縄文時代前期の遺物が大量に出土した。

またA・B両地区の区分けの記述があり引用すると「遺跡の東端部にあたるA-1地区（略）、それよりやや南西のA-2地区（略）、及びその中央部から西方にかけてのB地区（略）」（北埋調報104）とあり、「A-1地区」・「A-2地区」・「B地区」に地区分けした。

「A地区」は遺跡の東側部分で、キウス川に東面し対岸はキウス7遺跡である。B地区の調査では遺構番号は、竪穴住居跡は「H-1」、焼土は上位層と下位層を区別し「UF」・「LF」とし、以後の調査では、A地区を除き遺構番号は同じ地区内では連番で付された。

#### 『千歳市 キウス5遺跡（3）』（北埋調報115）

地 区：A地区 台地～斜面～低位の段丘（沢地形）（キウス川）

グリッド：T0～G-273～311区（STA. 140付近～141+40付近）

平成7（1995）年度はA-1地区を4,100㎡、平成8（1996）年度はA-1地区300㎡、A-2地区9,200㎡を発掘調査した。この報告書は前二者、A-1地区4,400㎡についてである。

「記号等の説明」に記載はないが、平成7年度に調査した遺構の番号は「101」から付せられ、平成6年度からの継続調査のものは1からで、LH-1・2・6（表記シケタに変更：LH-001・002・006）の竪穴住居跡3軒を報告した。

調査区では南流しキウス川に注ぐ沢がみられ、「西の沢」（T0-287・288～D-278・279）・「東の沢」（W0-305～D-302）と呼称した。ともに遺物はほとんど出土しなかった。

上位層では縄文時代晩期の住居跡、同期～続縄文時代の土壌、覆土中に礫が多数みられる後北式期の土壌墓の可能性のあるもの（UP-106）、鉄製の鎌先を伴う擦文文化期と推測する土壌墓（UP-119）、刀が副葬されたアイヌ文化期の土壌墓（UP-138）等が、下位層では縄文時代後期・晩期の住居跡、同早期・後期・晩期の土壌、Tピットを調査した。



『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』(北埋調報116)

地 区: B地区 丘陵上～斜面部～低湿地(キウス川の支流?)

グリッド: A～G-160～227区(STA.135～138+20付近)

地 区: C地区 台地部

グリッド: T0～G-273～311区(STA.140付近～141+40付近)

平成7(1995)年度は、先に述べたA-1・A-2地区に加え、B地区・C地区も調査し報告した。地区分けについての記述は「この東西に長い区域は、出土遺物の時期的な特色と地形区分をもとにして、A・B・C・Dの4地区に分けている(図I-3)。A地区、B地区はキウス川によって形成された低地部分、C地区・D地区は台地上である。」(1頁)、「A地区、B地区はキウス川の流水、下刻作用によって形成された低地部分である。C地区、D地区は台地上である」(7頁)とある。工事予定図をもとにした地形図である図I-3(6頁)では、建設道路の中心杭(STA.)と地区名の表記があり、図II-3(13頁)では丸付きのA～Dの記号が二万五千分の一地形図(長都)上の道路予定地に示されている。

B地区は平成7(1995)年度調査区の北側部分2,700㎡で、縄文時代前期と同中期の竪穴住居跡、土塼、Tピットを調査した。遺構は前年度調査の連番を付している。

C地区は5,750㎡を調査し、上位層で僚文文化期の平地式住居跡1軒、下位層では縄文時代中期の竪穴住居跡、土塼、焼土(列)、櫛列を調査した。土塼のうちLP-15は規模・形状から貯蔵穴と考えられ、櫛列は縄文時代の「シカの追い込み櫛」と考えられた。出土した縄文時代中期の土器のうち、柏木川式と報告されている土器には、曲線的な器形・貼付帯とそこに施される縄線文を特徴とするものがあり、これらは道南地方の「ノダップⅡ式」に相当すると考えられ、道南地方の特色を示している。

また、この調査区の南側は、道央圏連絡道路事業の平成21(2009)年度調査区(B地区)と接し、竪穴住居跡や土塼等の遺構が集中する区域の北端部分にあたり、両調査区にまたがる遺構(H-7・H-10)があり、焼土列、杭列・(小柱穴(列)sp(本報告書IV章4節))は連続している。

『千歳市 キウス5遺跡(5) A-2地区』(北埋調報125)三分冊

地 区: A-2地区 台地上～斜面部～低湿地(キウス川)

グリッド: Y0～Y-232～273区(STA.139～139+98)

上記は平成8(1996)年度に調査した範囲である。A-2地区は平成7(1995)年度に調査が予定されていたが、キウス4遺跡の発掘調査を優先したい等の事業者の要請に応じ、翌8年度に発掘調査し、6・7・8年度調査分を平成9年度に整理作業し報告書を刊行した。

「例言」では「1.(略)平成6年度に報告できなかった1,730㎡の上層調査分を合わせて掲載」とある、平成6(1994)年度に調査しその年度の報告書(北埋調報92)に掲載できなかった1,730㎡の上層部分も掲載し、その下位層は平成8年度に発掘調査し報告している。また「1.(略)平成7年度調査区に一部が検出され平成8年度に調査を継続した遺構についても報告(略)」とあり、これは平成7(1995)年度調査したA-1地区(報告は平成8年度北埋調報115)との境界付近に位置する遺構番号100番代のものである。1章の本文中に「平成6年度調査区の北東に広がる、A-1地区と仮称(略)、西方に続く仮称A-2地区(北埋調報125 1頁)とあり、両地区の境界が図I-4(7頁)に記載されている。この図ではA地区(道路センター杭でSTA.139～140～141付近、調査グリッド南北数字ラインの231～312までの範囲)は、三つの地区「A-1地区」・「A-2地区」・「平成6年

度調査区で報告済みの区域」である。これをA-1地区、A-2地区のどちらに含めるのか、この報告まで定まっていなかったようである。

平成6年度に調査し当該年度に報告した範囲はA-1地区に含まれると判断され、A-2地区との東西の境界は、

- ・北側（Y0～Dラインの部分）は274ライン（STA140付近）
- ・中央付近（DまたはE～Qラインの部分）は273ライン
- ・南側（Qライン以南）は270ライン

以上のように解する（北埋調報92・115・125付図）。

「3.（略）遺構番号については年次別の混同を避けるため、平成6年度は1番から、平成7年度は101番から、平成8年度は301番から始まるように、（略）欠番となった遺構については、堅穴住居跡以外は補填せず、欠番のままとした」とあるが、「LH-5、7については、平成8年度調査で遺構の存在が確認できず欠番扱いとなった」（北埋調報125 11頁）とある。平成6年度に調査したLH-4はここで報告した。

調査した遺構は、台地上位層は縄文時代晩期や擦文文化期の土壌等があり、これらのうちUP-318はV群c類の大型の壺を伴う土壌墓があり、他にも墓の可能性のあるものもある。下位層では縄文時代早期前半（晩時期）と後半（東銅路式系土器）、中期の堅穴住居跡を確認し前二者が多い。土壌は同晩期のものが多く墓域である。

低湿部は、上位層で小ピット等を確認し、下位層のV層は平成6（1994）年度調査時の土層区分である「V-1層」（縄文時代晩期後葉）・「V-2層」（同後後半）・「V-3層」（泥炭層と川砂層の互層で縄文時代中期頃と推測）を踏襲して調査した。

これでキウス5遺跡A地区の調査報告は完了した。

#### 『千歳市 キウス5遺跡（6）B地区・C地区』（北埋調報126）

地 区：B地区 台地～斜面部～旧河道部（キウス川の支流）。

グリッド：R～W-164～183区（STA.135+60付近～136+20付近）

地 区：C地区 台地～斜面部（キウス川）。

グリッド：E～W-90～156区（STA.132+50付近～135+20付近）

この報告では「1」キウス5遺跡のこれまでの調査結果（2・3頁）、「3 キウス5遺跡内の各時期別住居跡の移動について」の記載があり（11～13頁）、これまでの調査成果がまとめられている。遺構番号は地区内で連番としている。

B地区は961㎡調査し、縄文時代前期の堅穴住居跡、土壌を確認した。遺物の多くは縄文時代前期にもので、石器等が多い。磨製石斧の破片を研磨し整形したと考えるもの（石斧再生楔形石製品と呼称）があった。

C地区の面積は9,326㎡で、上位層からは擦文文化期の焼土・集石を、下位層では縄文時代前期・中期の堅穴住居跡や土壌等を調査した。遺物は縄文時代中期の土器が最も多く、他にサツマアゲ状土製品や石製釣針等も出土した。

また、細石刃石器群も出土した。石核や細石刃はなく、搔器・削器・彫器等がある。層位は下の黒色土層のV層から黄褐色ローム層のVII層にかけてである。

これでキウス5遺跡B地区の調査報告は完了した。

『キウス5遺跡における考古学的調査』（千歳市文化財調査報告XXV）

地 区：D地区 台地～斜面部

グリッド：D～S-3～17区（STA.131付近） 5m区画

平成8年度に2,630㎡、平成9年度に1,900㎡調査した。遺構は縄文時代早期・晩期等の焼土・フレイク集中があり、遺物は縄文時代早期・中期・後期のものが確認されている。

D地区の発掘調査と報告書はこれのみで、完了となった。

『千歳市 キウス5遺跡（7） キウス7遺跡（6）』（北埋調報136）

地 区：C地区 斜面部

グリッド：J～S-70～89区（STA.131+80～132+50付近）

C地区の西側部分1,648㎡を調査した。遺構は確認されず、縄文時代中期と旧石器時代の遺物が出土した。

これでC地区の調査報告が完了し、キウス5遺跡の北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財調査も完了となった。

（2）道央圏連絡道路工事埋蔵文化財調査

（旧事業名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査）

本事業によるキウス5遺跡の発掘調査は、平成15（2003）年度に着手し、翌16（2004）年度、平成18（2006）～21（2009）年度に実施し、整理作業は調査開始年度から本年度まで、同事業の他の遺跡とともにいった。

低位部の報告書（北埋調報251）を平成19（2007）年度に、台地部の上位層（下位層の縄文時代晩期も含む）のもの（北埋調報284）を平成23（2011）年度に刊行した。

本報告書（北埋調報299）は台地部の下位層（縄文時代後期～旧石器時代）について、これをもって、本事業のキウス5遺跡の調査報告は完了となる。

なお、報告書は横断自動車道と連番とし、調査グリッドは別の基準で設定し、両者の基点の平面直角座標を計算し三角形（調査区接合のための三角形 北埋調報284 VI章5節 322～327頁）を作り、これを根拠とした（本報告書Ⅲ章1節・Ⅶ章4節）。

『千歳市 キウス5遺跡（8）』（北埋調報251）

地 区：低位部 平成15・18（2003・2006）年度調査

グリッド：5～20-45～83区

平成15年度に東側4,200㎡、平成18年度に西側1,280㎡を調査した。本遺跡低位部の調査で、初めて「ウエル・ポイント工法」を用いた。

低位部の地形は旧河道部と低位の段丘に分けられる。各時代の流路を推定し旧河道の変遷（古キウス川5期・後期旧石器時代～縄文時代早期・同早期・同前期～後期・同後期～擦文文化期・擦文文化期～アイヌ文化期 計11期）について記載した（北埋調報251 Ⅲ章4節 33～38頁）。低位の段丘では縄文時代早期の炭化物集中、同晩期の土坑、擦文文化期中期の溝状遺構、アイヌ文化期の建物跡、柱穴群を伴う畑跡を調査した。遺物は、旧石器は忍路子型細石刃核、縄文時代早期・後期・晩期の土器・石器があり、木製品は縄文時代晩期の槌（「キウス型」）、主にアイヌ文化期と考える鎌・杵・箕・曲物・自在鉤・各種加工材、内耳鉄鍋も出土した。

表II-4-1 キウス5遺跡 発掘調査の概要 (千歳市 A-03-093)

調査年度	調査種別	発掘調査の時期	調査面積	調査深度	調査範囲	調査内容	調査結果	調査報告書	調査写真
千歳市 キウス5遺跡(1) キウス5遺跡(2) キウス5遺跡(3)	発掘調査	平成17年 7月13日 (平成19年度)	約200㎡ 約200㎡ 約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(2)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(3)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(4) キウス5遺跡(5) キウス5遺跡(6)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡ 約200㎡ 約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(7) キウス5遺跡(8)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡ 約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(9)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査
千歳市 キウス5遺跡(10)	発掘調査	平成18年 7月13日 (平成20年度)	約200㎡	最大深さ 約1.5m	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査	遺構の調査 土壌調査

『千歳市 キウス5遺跡(9)』(北埋調報284)

地 区: 台地部 平成15・16・18~21 (2003・2004・2006~2009) 年度調査  
グリッド: 10~39-4~83区

平成15年度800㎡、平成16年度1,056㎡、平成18年度1,920㎡、平成19年度6,100㎡、平成20年度721㎡、平成21年度3,068 (A地区2,098㎡、B地区970㎡) で合計13,665㎡調査した。

上位層(下位層の縄文時代晩期を含む)の報告で、遺構は據文文化前期の堅穴住居跡(集落跡)、粘土集中、同文化期と縄文時代晩期の土器集中等で、遺物はこれらの時期の土器・石器や刀子が出土した。

『千歳市 キウス5遺跡(10)』(北埋調報299)

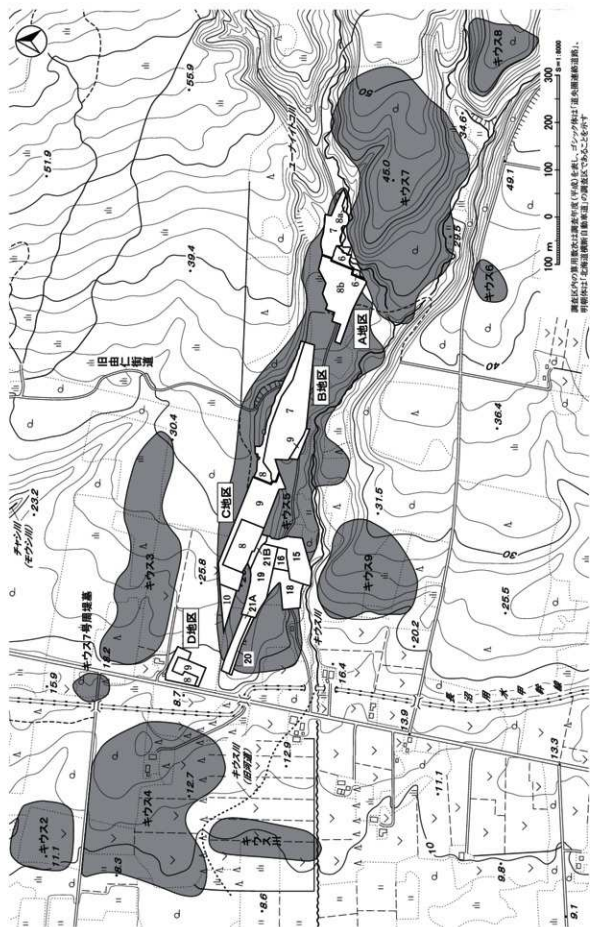
地 区: 台地部 平成15・16・18~21 (2003・2004・2006~2009) 年度調査  
グリッド: 10~39-4~83区

本報告書で、台地部13,665㎡の下位層(縄文時代後期~旧石器時代)の報告で、主たる内容は縄文時代中期後半の堅穴住居跡(集落跡)・焼土列・小柱穴列、旧石器時代の忍路子型細石刃核石器群の報告である。本報告をもってキウス5遺跡の道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査も完了となる。

(末光)

図Ⅱ-4-1 説明 キウス5遺跡年度別調査区

事業名	地区名	番号 ゴシック/明朝	地形	面積 ㎡	発掘調査 年度	報告書	報告書名等	
道央圏 連絡道路	—	15	台地 低位部	5,000	平成15 (2003)年度	北埋調報251 北埋調報284 北埋調報299	『千歳市 キウス5遺跡(8)』 北埋調報251 『千歳市 キウス5遺跡(9)』 北埋調報284 『千歳市 キウス5遺跡(10)』 北埋調報299 本報告書	
	—	16	台地部	1,056	平成16 (2004)年度	北埋調報284 北埋調報299		
	—	18	台地 低位部	3,200	平成18 (2006)年度	北埋調報251 北埋調報284 北埋調報299		
	—	19	台地部	6,100	平成19 (2007)年度	北埋調報284 北埋調報299		
	—	20	台地部	721	平成20 (2008)年度	北埋調報284 北埋調報299		
	A地区	21A	台地部	2,098	平成21 (2009)年度	北埋調報284 北埋調報299		
	B地区	21B	台地部	970	平成21 (2009)年度	北埋調報284 北埋調報299		
横断 自動車道	A地区	A-1 地区	6	段丘上 低湿地部	1,270	平成6 (1994)年度	北埋調報92 北埋調報115	『千歳市 キウス5遺跡 キウス7遺跡(2)』 ケネファシ遺跡 北埋調報92 『千歳市 キウス5遺跡(3)』 北埋調報115
			7	台地 低位の段丘	4,100	平成7 (1995)年度	北埋調報 115	
		8a	300		平成8 (1996)年度			
		A-2 地区	8b	台地上 低湿部	9,200	平成6・7・8 (1994・1995・1996) 年度	北埋調報 125	『千歳市 キウス5遺跡(5)』 A-2地区 北埋調報125
	B地区	7	斜面部 低位平坦面	14,370	平成7 (1995)年度	北埋調報 104	『千歳市 キウス5遺跡(2)』 B地区 北埋調報104 『千歳市 キウス5遺跡(4)』 B地区・C地区 北埋調報116	
				2,700	平成8 (1996)年度	北埋調報 116		
				961	平成9 (1997)年度	北埋調報 126		
		8	台地部	5,750	平成8 (1996)年度	北埋調報 116	『千歳市 キウス5遺跡(6)』 B地区 北埋調報126	
				9,326	平成9 (1997)年度	北埋調報 126		
	C地区	9	台地 斜面部	1,648	平成10 (1998)年度	北埋調報 136	『千歳市 キウス5遺跡(7)』 キウス7遺跡(5)』 北埋調報136	
				2,630	平成8 (1996)年度	千歳市 文化財調査報告書 X V		
	D地区	8	台地部 斜面部	1,900	平成9 (1997)年度		千歳市文化財調査報告書 X V	



図II-4-1 キウス5遺跡年度別調査区



## Ⅲ章 調査の概要

### 1. 発掘区の設定 (図Ⅲ-1-1 表Ⅲ-1-1)

#### (1) 調査グリッドの設定

グリッド設定は札幌開発建設部作成の「一般国道337号千歳市新千歳空港関連用地測量(中央区)用地平面図」(平成12年2月調査)を基本図とし、工事用地内の調査範囲を網羅し設定した。

はじめに、工事用地内のセンターラインを示す中心杭「10600」と「10700」を基点とし、前者から後者へと直線で結び「第1基軸線」(南北方向のライン)とした。次に「10600」で第1基軸線と直交する線を「第2基軸線」(東西方向のライン)とした。「10600」と「10700」を結び第1基軸線は、直線距離が100.0m、方向角 $11^{\circ} 19' 40''$ である。

南北方向の第1基軸線を「75ライン」とし、これと平行する線を4mごとに設定した。75ラインから西側へ降順、東側へ昇順とした(数字(B))。

これと直交する東西方向の第2基軸線を「10600」を「10ライン」とし、同様に4mごとに平行する線を設けた。これも算用数字(数字(A))で表記し、南側から北側へと値が大きくなる。

以上の手順で、調査区全体に4m四方のグリッドラインを割り付けた。ラインの交点は「数字(A)-数字(B)」で表し、グリッドの呼称はこれら交点のうち南西側の交点とした。

基点「10600」は平成15(2003)年度低位部調査区内の「10-75」、「10700」は平成21(2009)年度台地部調査区内「35-75」である。

なお、調査は複数年度にまたがり、年度ごとに基準点測量・水準測量を行った。その概略を表Ⅲ-1-1にまとめた。また、平成13(2001)年に測量法の改正に伴い準拠楕円体に変更され、緯度・経度や平面直角座標の値が変わった。調査着手時点は日本測地系に基づき実施し、最終成果は世界測地系の値で示した。

#### (2) 年度ごとの調査区

年度ごとの調査区は、次のとおりである。

平成15(2003)年度：低位部；南北60ライン付近より東側部分  
台地部；同75ラインより東側部分

平成16(2004)年度：東西16～24ラインと南北65～75ラインの範囲

平成18(2006)年度：低位部；南北60ライン付近より西側部分  
台地部；南北65ラインと東西24ラインの南西側部分

平成19(2007)年度：南北37～75ライン、東西24～36ラインの範囲

平成20(2008)年度：南北4～37ライン、東西28～35ラインの範囲、調査区西部の南側部分

平成21(2009)年度：A地区：南北4～37ライン、東西29～39ラインの範囲  
調査区西側の東側部分

B地区：南北61～81ライン、東西30～39ラインの範囲

調査区北西側、北海道横断自動車道と接する部分

なお、平成21年度の「A」・「B」の地区分けは、調査区が離れているため便宜的に呼称したものである。



道央圏連絡道路調査区

「15」平成15(2003)年度調査区

「16」平成16(2004)年度調査区

「18」平成18(2006)年度調査区

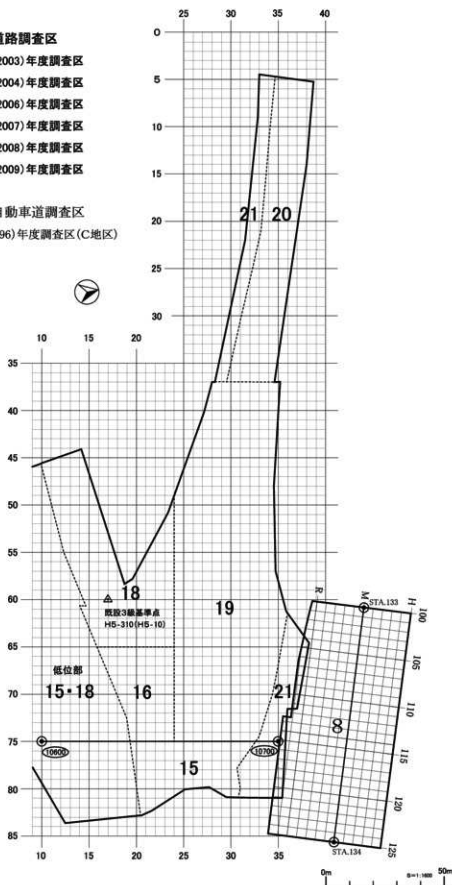
「19」平成19(2007)年度調査区

「20」平成20(2008)年度調査区

「21」平成21(2009)年度調査区

北海道横断自動車道調査区

「8」平成8(1996)年度調査区(C地区)



図Ⅲ-1-1 調査区設定図

表Ⅲ-1-1 測量基準点一覧表

専修年度/ 与点・基準点等	姓名等	種別等	世界測地系		標高 (m)	日本測地系		調査区 グリッド状	備考
			平均直内座標 (X Y座標高)	X (m)		Y (m)	平均直内座標 (X Y座標高)		
調査区 グリッド設定 の基準点	10600	建設道路 センターライン	—124,357.522 —43,463.382		17.810	—124,620.984 —43,156.723		10-75	2003年度低位部 調査区 グリッド状
			地理座標			地理座標			
	北緯 東経		北緯 東経			42°52' 45.608" 141°43' 04.664"		141°43' 18.204"	
	—124,359.472 —43,443.740		—124,521.932 —43,137.061			42°52' 39.894" 141°43' 18.862"		35-75	
	地理座標		地理座標			42°52' 48.787" 141°43' 05.502"			
グリッド設定基準 10600-10700 (世界測地系)			線長		100m	方向角		11°19'40"	
国土地理院 設置 与点	第4号 01504	2級基準点 (4)			17.810	—124,654.620 —43,433.300		17-60	(点の記) 千歳市中央 中央線より北方へ約100m
					地理座標		北緯 東経		
					25.158 (点の記)		—124,581.536 —43,210.273		千歳市中央1287-1 2006年度台地部 調査区 グリッド状
	H5-310 (H5-10)		—124,318.075 —43,516.932		25.156 決定標高		北緯 東経		
					42°52' 37.9543" 141°43' 15.6531"				
第7322号		一等水準点			16.677	16.677		1期和44年度平均成果 (計測値)	千歳市中央2406番地の2 光
			2000年度平均成果 →		16.4593				
平成15 (2003) 年度	* 日本測地系で実施 * 上記の与点に加え、開発局設置の仮B M (3級基準点305)も利用し、T S測量により下記の二つの3級基準点を新設。これら からグリッド状を打設 * 水準測線 (4級) は一等水準点第7322号の旧標高値を採用し、「H5-10」の決定標高はH=25.156 * 成果を世界測地系に変換								
	3級基準点 (1) H15-1	2003年度設置	—124,286.570	—43,425.760	27.055	—124,550.031	—43,119.101		2003年度調査区 29-80状付近
	3級基準点 (2) H15-2	2003年度設置	—124,355.257	—43,542.662	19.256	—124,618.719	—43,236.002		2006年度調査区 7-55状付近
平成16 (2004) 年度	* 日本測地系で実施 * 3級基準点「H15-10 (H5-310)」と前年度設置の「H15-2」を点検し、これらからグリッド状を打設 * 水準測線 (4級) は「H5-10 (H5-310)」(H=25.156) を与点とした。 * 成果を世界測地系に変換								新設基準点 無し
	3級基準点 H18-01	2006年度設置	—124,308.874	—43,530.322	24.968				クロス川畔野の クロス3道路も 同時に変換 「H18-03」・「H18-04」
	3級基準点 H18-02	2006年度設置	—124,336.064	—43,487.459	22.868				2007年度調査区 18-56状付近 2003年度調査区 14-68状付近
平成19 (2007) 年度	* 世界測地系で実施 * 既知の3級基準点「H15-1」・「H18-01」をG P S測量で点検し、北海道開発局設置の「H15-301」(H15年7月調査)の3 級基準点を加え、下記の二つの基準点を新設し、これらからグリッド状を打設 * 水準測線 (4級) は平成19年北海道開発局設置のB M「H19-1」(H=25.025) と「H18-1」(H=26.257 2006年度のBM3?) を与点とした								
	3級基準点 H18-01	平成19年度設置	—124,247.622	—43,497.387	24.968				2007年度調査区 34-61状付近
	3級基準点 H18-02	平成19年度設置	—124,336.064	—43,487.459	22.868				2009年度調査区 32-35状付近
平成20 (2008) 年度	* 世界測地系で実施 * G P S測量を行い、電子基準点「長沼」・「厚真」・「千歳」から下記の3級基準点を新設し、これらからグリッド状を打設 * 水準測線 (4級) は、一等水準点第7322号を与点とし、「H18-1」(H=25.257) を検出した結果、0.275cmの誤差が生じていた ためには2003年旧標高値を採用したため、発掘調査の継続性の観点から考え、旧標高値を採用 「H20-T2」の決定標高はH=19.816								
	3級基準点 H20-T1	2008年度設置	—124,298.516	—43,534.385	24.636				調査区外 南西方向
	3級基準点 H20-T2	2008年度設置	—124,205.151	—43,661.809	19.532				調査区外 北側 35-19Rより北へ約6m
	3級基準点 H20-T3	2008年度設置	—124,199.706	—43,742.372	18.531				調査区外 東側 4-55Rより東へ約200m
	第7322号	一等水準点	2000年度水準点平均成果→		16.4334				千歳市中央2406番地の2 光
平成21 (2009) 年度	* 世界測地系で実施 * G P S測量を行い、電子基準点「長沼」・「厚真」・「千歳」から下記の3級基準点を新設し、これらからグリッド状を打設 * 水準測線 (4級) は、既知の3つからためB M「H18-1」(H=25.257) を与点とし、既設3級基準点「H20-T2」(H=19.816) と併し、整合を確認した また、新設の3級基準点上に仮B Mを設けた								
	3級基準点 H21-T1	2009年度設置	—124,284.940	—43,420.697	26.828				B地区
	3級基準点 H21-T2	2009年度設置	—124,283.250	—43,514.028	25.627				B地区
	3級基準点 H21-T3	2009年度設置	—124,287.567	—43,594.562	21.227				A地区
	3級基準点 H21-T4	2009年度設置	—124,205.161	—43,661.808	19.539				A地区

### (3) 北海道横断自動車道調査区との接合

平成21(2009)年度に調査したB地区の北側の調査区境界は、平成8(1996)年度横断自動車道建設に伴い調査された(横断道「C地区」北埋調報116)と接する。これらのグリッドの設定は異なっているが、両地区を正確に接合するため、グリッド設定の基点とした道路中心杭、道央圏連絡道路の「10700」、横断自動車道の「STA.133」と「STA.134」の三点を結んだ「調査区接合のための三角形」を設定した。座標計算(日本測地系)で閉合差は「0」で計算上も幾何学的にも誤差はない(北埋調報284 VI章4節)。この三角形を根拠にCADソフトで調査区を図上で接合した。両地区の調査区境界には「直角気味になる部分」があるが、その形状は異なり図上の位置も合わない。この部分は現場でも確認した。

図上でこの部分を強制的に一致させると、両調査区の基線の「方向角」にずれが生じる。整合性を確保するためには、座標計算で誤差がないこの「三角形」を基本とする。また、両年度の調査区境界はそれぞれの調査時点では正しいものと解する。両調査区にまたがる遺構はH-7・H-10があり、それぞれ南側部分を道央圏連絡建設、北側は横断自動車道工事に伴い調査した。これらは、三角形を形成する基点を与点とし、遺構近くのグリッド杭の座標を計算し接合・図化した。(VII章4節)。

## 2. 基本層序(図Ⅲ-2-1 表Ⅲ-2-1・2・3)

基本層序はこれまでの横断自動車道建設工事での区分を従い、各層の観察は『土壌調査ハンドブック』(ペドロジスト懇談会1984)・『標準土色帖』(小山・竹原1967)を参考に必要な項目を設け行った。内容は基本層序柱状図(図Ⅲ-2-1)と表(表Ⅲ-2-1・2・3)にまとめた。

### (1) 基本層序

#### 「I層：現地表土」

耕作土や盛土、攪乱層で、Ta-a、Ta-c、En-a等の下位層の構成物を含む。76ラインより南西側、低位部に接する台地斜面部は、VII層上面まで耕作されI層が厚く堆積していた。

#### 「II層：樽前a降下軽石層(Ta-a)」

1739年に噴出した樽前山の火山噴出物層で、粒径や構成物の違いから、大きく三つのフォールユニットに分け(A～C群)、さらに十単位(U1～10)に細分した。上位部分は削平や耕作を受け、残存していない部分も多い。

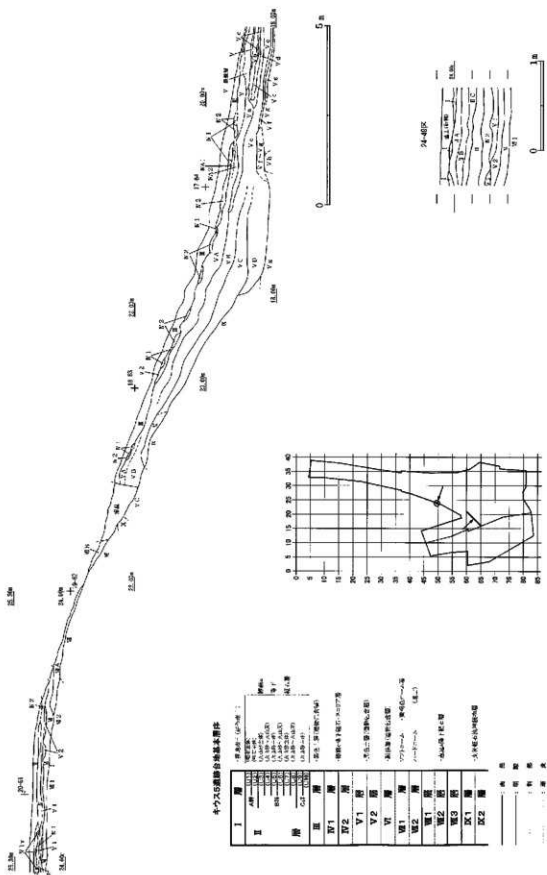
#### 「III層：第I黒色土層」

約2,000年前～西暦1739年に形成された黒色土層で、縄文時代晩期・統縄文時代・擦文文化期の遺物包含層である。一部、IV層Ta-c軽石を含有し、擦文文化期の竈穴住居跡の覆土中や風倒木痕内で「白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)」の薄層が認められた(北埋調報284)。

#### 「IV層：樽前c降下軽石層(Ta-c)」

約2,000年前(縄文時代晩期後半頃)に降下した樽前山の火山噴出物から構成される層である。上位のIV1層にはぶい黄褐色を呈し、下位のIV2層は黒褐色である。これは降下物に起因するものでなく、IV2層は降下軽石・スコリアが下位のV層と混じることで生じたと考えられる。

また、IV層は存在しない部分もあった。この場合、III層とV層を明確に分けられず、近くのIV層から判断した。なお、IV層と表記されているものはIV1層である。



図Ⅲ-2-1 土層断面図

表Ⅲ-1-2-1 1 台地部基本階序一覽

階名	階名	階高 (m)	階序	野外土質	色層 [ヤンキウ(大森系)]	地質性	階高度	階種	層 (高層2m以上)	備考
I階	階地階上等	平均: 34	階地	砂土	(0)YR2/1地	弱	軟	Ta-a礫石、Ea-a礫石等の階序内に属入	階地	[Ta-a] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	U1	平均: 8	階地	火山砂岩化 (火山礫石主体) 階地の火山砂岩 含む				(注)体 平均: 30 角~ 底内礫	未風化	
	A群	平均: 7	階地	火山砂岩主体				(注)体 平均: 10 角~ 底内礫	未風化	
	U3	平均: 4	階地	火山砂岩主体				階		
	U4	平均: 0.5	階地	火山砂岩主体	(E)の底 ~ 軽石片	なし	しゅう	階		
	U5	平均: 2.5	階地	火山砂岩主体	(E)の底 ~ 軽石片	なし	すこぶる しゅう	階		
	U6	平均: 1.5	階地	火山砂岩主体 火山灰 主体	(E)の底 ~ 軽石片 ~ 彩色成物	なし	しゅう	(砂) 層 最大: 10 角~ 底内礫	未風化	
U7	平均: 7	階地	階地の 軽石及び 火山砂岩 主体				階			
U8	平均: 9	階地	火山砂岩主体				階			
U9	平均: 9	階地	火山砂岩主体				階			
U10	平均: 17	明瞭	階上~ シルト質硬土				10%	最大: 2 底内礫	半風化	
II階	階地の階下 スロリア層	平均: 5	明瞭	シルト質硬土 砂土~砂硬土	(1)OYR4/2地 比より明瞭成色 明瞭成色	中	軟	Ta-c 礫石・スロリア?	半風化	[Ta-c] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	V1層	平均: 5	明瞭	硬土~砂硬土	(1)OYR5/2地	弱	軟~硬	最大: 80%以上 平均: 4 底内礫	半風化	
III階	V2層	平均: 15	階地	硬土~砂硬土 硬土	(1)OYR7/1地	弱~中	硬	Ta-c 礫石・スロリア?	半風化 ~ 風化	[Ta-c] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	V3層	平均: 10	階地	硬土~硬硬土	(1)OYR8/4地	弱~中	軟~硬	平均: 5 底内礫	風化	
IV階	階地の階下 ローム層	平均: 3	明瞭	硬土~硬硬土 硬土~硬硬土 硬土~硬硬土 硬土~硬硬土 硬土~硬硬土	(1)OYR6/6地 明瞭成色 明瞭成色 明瞭成色 明瞭成色 明瞭成色	中	硬	Ea-a礫石 5~20% 平均: 7 底内礫	風化	[Ea-a] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	W1層	平均: 130	明瞭	堆積した 彩色成物	(7)SYR7/8 ~ (E)底	なし	すこぶる しゅう	最大: 100 平均: 20 角~ 底内礫	風化	
V階	階地の階下 階地層	平均: 10	階地	堆積した 彩色成物 有・彩色成物	(E)底(Y/U/1) ~ (E)底(B)	なし	すこぶる しゅう	Ea-a礫石 90%以上 平均: 10 底内礫	風化	[Ea-a] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	W2層	平均: 100	階地	堆積した 彩色成物 有・彩色成物	(7)SYR6/6地	強	軟	最大: 18 底内礫 平均: 6 角~ 底内礫	半風化 ~ 風化	
VI階	階地の階下 階地層	平均: 5	階地	堆積した 彩色成物 有・彩色成物	(7)SYR5/6地	なし	すこぶる しゅう	Ea-a礫石 90%以上 平均: 10 底内礫	風化	[Ea-a] 明確な Facies-コンプレックス 認識できない
	W3層	平均: 100	階地	堆積した 彩色成物 有・彩色成物	(7)SYR5/6地	強	軟	最大: 18 底内礫 平均: 6 角~ 底内礫	半風化 ~ 風化	
VII階	階地の階下 階地層	300以上	—	シルト質硬土	たおい相色 (7)SYR7/4 ~ (E)底	中~強	軟~硬	最大: 100% 平均: 1.2 底内礫	半風化	[Spd] ?
	W4層	—	—	シルト質硬土		中~強	軟~硬	最大: 100% 平均: 1.2 底内礫	半風化	

表Ⅲ-1-2-2 斜面～低位部層序一覽

層名	名称	層厚 (m)	層序	野外土性	色調 (ゼンヤシム色色系)	粘着性	塑性度	種類	層 (長径20cm以上)		備考	
									透入割合 層別割合 (%)	形状		
VA層	VA上層	平均: 30	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	7～20%	平均: 10	円～卵形層	含有物: まばらな分佈で、粒径は中～粗粒 の角石、 中～粗な分佈で、含有物は: 粗な分佈で、粒径は粗粒～粗粒あり 粗粒部が認められるVC層
	VA中層	平均: 10	明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	10～20%	平均: 10	円～卵形層	
	VA下層	平均: 3	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	20～25%	平均: 10	円～卵形層	
VB層	VB上層	平均: 35	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	10～20%	平均: 10	円～卵形層	含有物: まばらな分佈で、粒径は粗粒～粗粒あり 粗粒部が認められるVC層
	VB下層	平均: 10	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	20～25%	平均: 10	円～卵形層	
VD層	VD上層	平均: 3	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	10～20%	平均: 10	円～卵形層	含有物: まばらな分佈で、粒径は粗粒～粗粒あり 粗粒部が認められるVC層
	VD下層	平均: 3	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	Em-a粘石	20～25%	平均: 10	円～卵形層	
層	粗粒部が 混合する層	平均: 2.1	粘質	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟	支別粘石	1%	平均: 10	円～卵形層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の含有の有無で分類

層名	名称	層厚 (m)	層序	野外土性	色調 (ゼンヤシム色色系)	粘着性	塑性度	種類	層 (長径20cm以上)		備考	
									透入割合 層別割合 (%)	形状		
VB層	VB上層	平均: 16	粘質	硬質土	黒色(OYR6L/1)	強	すこぶる堅	Em-a粘石	12%	平均: 10	円～卵形層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	VB下層	平均: 20	粘質	硬質土～砂硬土	黒色(OYR6L/1)	中～強	すこぶる堅	Em-a粘石	20%	平均: 8	円～卵形層	
VA層	VA上層	平均: 20	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	すこぶる堅	Em-a粘石	5%	平均: 10	円～卵形層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	VA下層	平均: 10	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	中～強	軟～堅	支別粘石	1%	平均: 10	円～卵形層	
VB層	VB上層	平均: 9	粘質	硬質土	黒色(OYR6L/1)	強	すこぶる堅	Em-a粘石	10%	平均: 2	円層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	VB下層	平均: 8	粘質	硬質土	黒色(OYR6L/1)	強	すこぶる堅	支別粘石	1%	平均: 2	円層	
VA層	VA上層	平均: 20	粘質	硬質土	黒色(OYR6L/1)	強	すこぶる堅	Em-a粘石	3%	平均: 10	円～卵形層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	VA下層	平均: 5	粘質-明砂	硬質土	黒色(OYR6L/1)	強	すこぶる堅	支別粘石	1%	平均: 2	円層	
VA層	VA上層	10以上	—	砂硬土	灰オリーブ色 (SYG/Z)	なし	すこぶる堅	Em-a粘石	1%	平均: 2	円層	含有物: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	VA下層	—	—	砂硬土	灰オリーブ色 (SYG/Z)	なし	すこぶる堅	支別粘石	1%	平均: 2	円層	

表Ⅲ-1-2-3 部分的に存在する層位

層名	名称	層厚 (m)	層序	野外土性	色調 (ゼンヤシム色色系)	粘着性	塑性度	種類	層 (長径20cm以上)		備考	
									透入割合 層別割合 (%)	形状		
白土山小峰山山尻	砂硬土	最大: 1.5 平均: 1	粘質-明砂	砂硬土～シルト質硬土	白～灰白 (OYR6G/0)	中	軟	Em-a粘石	20～30%	平均: 2.5	卵形層	層位: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	砂硬土	—	粘質	砂硬土	白～灰白 (OYR6G/0)	なし	しゅう	支別粘石	1%	平均: 2	卵形層	
文層	砂硬土	—	粘質-明砂	砂硬土	灰白～灰黄 (OYR6G/0)	なし	すこぶる堅	Em-a粘石	1%	平均: 2	卵形層	層位: 粗粒部が認められるVC層 T <sub>80</sub> -0の層入層で分類
	砂硬土	—	粘質	砂硬土	灰白～灰黄 (OYR6G/0)	なし	しゅう	支別粘石	1%	平均: 2	卵形層	

#### 「V層：第Ⅱ黒色土層」

縄文時代晩期以前の遺物包含層である。上位のT a - c 軽石が混入する部分がV 1層で、これらの混入がみられない下位部分はV 2層とした。V層と表記されているものはV 2層である。

また、平成16(2004)年度の調査では、V層を「V-1層」・「V-1b層」・「V-2層」・「V-3層」・「V-④層」と細分したが、これらは斜面堆積のV層にまとめた。

#### 「VI層：漸移層」

上位の黒色土と下位のVII層の間にあり、色調等の漸移的な変化がみられる。

#### 「VII層：黄褐色ローム層」

いわゆる「恵庭のローム層」である。堅密度と2mm以上の礫(恵庭a降下軽石 E n - a)の混入割合から二つに分けた。上位のVII 1層は堅密度が「堅」でE n - a 軽石が相対的に少なく、下位のVII 2層は堅密度が「すこぶる堅」でE n - a 軽石が多い。

#### 「VIII層：恵庭a降下軽石層(E n - a)」

恵庭岳が噴出した降下軽石層で、層厚3.5mを超える。明瞭なフォールユニットは認められないが、2mm以上の礫の粒径と混入割合(構成物の量)から、大まかに三つに分けた。VIII 1層・VIII 2層はほとんどが軽石で、他にこれから遊離した鉱物もみられ、長径2mm未満のものは粒度区分上の「砂」である。VIII 1層はVIII 2層に比べて粗粒で、VIII 3層は砂が多い。

#### 「IX層：支笏軽石流堆積物層(S p f l)」

いわゆる「支笏軽石の堆積物層」で層厚は4mを超える。色調等から二層に分けた。ともに支笏軽石を含有するが、上位のIX 1層にやや多く、この部分は明褐色を呈し、下位のIX 2層はにぶい橙色である。IX 1層中には、羊蹄山起源と推測される軽石やスコリアを含む薄層が部分的に認められる。

#### 「X層：破砕礫が集中する層」

IX 2層中の低位部近くで部分的に認められる層で、破砕した支笏軽石を主体とする。

### (2) 土層断面図

年度ごとに土層断面図を作成したが、平成18(2006)年度調査の台地平坦部と、斜面部から低位部へ連続する土層断面を掲載する。

#### (台地部)：24-49区調査区南側壁

II A層が削平されているが、これより下位は整然とした層序がみられる。

#### (台地部～斜面部の肩)：(21-61杭)～20-61杭～19-62杭付近までの範囲

III層～VII 1層がみられるが、斜面の肩にいくにつれ上位の層から順になくなり、地山のVII 2層・VIII層が露出する。また、VIII層を主体とする二次堆積層(VII A層)も認められる。

#### (斜面部)：19-62杭付近～17-64杭付近までの範囲

斜面上位から下位へ層が厚くなり、斜面部の肩の土層が下位へ堆積した斜面堆積である。断続的にみられるIV層より上位をIII層と判断し、IV層も斜面を移動していると考えられる。斜面部のV層は含有物が手がかりにVA層・VB層・VC層・VD層の四つに分層し、VA層は支笏軽石の含有量によりVA 1層とVA 2層に分けた。VB層は支笏軽石を全く含まず、VC層は支笏軽石を含む。これより下位、地下水の影響で生じた鉄盤層がみられる層をVD層とした。

#### (低地部)：17-64杭付近～(16-65)杭付近までの範囲

17-64杭付近から各層は水平に堆積する。III層はE n - a 軽石を含み、V層もT a - c ・E n - a ・

支笏軽石を含有するので二次堆積と判断した。下位部分には水成の砂礫層や粘土層がみられ、野外土性や色調、含有物のあり方等により、Va層～Vh層に分層した。このうちVe層は斜面から連続する黒色土層で、En-a軽石をわずかに含むので二次堆積層と考えるが、腐植生成作用によりその場で生じた可能性もある。これ以外は礫・砂・粘土の互層である。

### 3. 調査の方法

#### (1) 各年度の共通事項

各年度共通する基本的な方法は、はじめに建設機械によりI層～II層下位までを除去し(表土・火山灰除去)、次に人力で残りのII層を掘り、包含層が残存する部分と削平されている部分を確認した。下位の包含層(削平されていない部分はIII層 第I黒色土層)上面を精査し、必要に応じ地山(VII層)まで先行してトレンチ調査・25%調査等を行い、土量や遺構・遺物のあり方の情報を集約・検討し全体の調査計画をたてた。III層の遺構・包含層を調査し完了後、IV層を人力で掘り下げ、V層(第II黒色土層)上面を検出し、遺構調査・包含層調査を行ってVII層上面で調査を完了した。

遺構調査は、確認後、トレンチ・半截等で土層断面を観察し、壁・床面あるいは底面と土層断面を確認し、遺構であるかを判断した。次に土層断面を記録し全体を掘り上げ完掘した。住居跡等は付属遺構の調査を行なった。遺物は出土状況や出土位置を記録したが、多数出土した場合等は、土器の床面・床面直上出土のもので、残存状態が良い土器や石器は記録し、これら以外は層ごとにまとめて取り上げた。

包含層調査は、層ごとに掘り下げ、出土遺物はグリッド・層ごとに取り上げた。掘り下げた面では、土色や遺物の出土状況を確認し、遺構の可能性があるものは先行トレンチ調査等を行った。また、土器の大きな破片がまとまっている状況や破片が集中しているものは、出土状況を記録し、フレイクや石(礫)も配置・集中のあり方が人為的と判断したものは調査した。

旧石器ブロックは原則出土位置を記録したが、フレイク・チップ等の微細な遺物は小グリッドを設定して取り上げたものや、土壌水洗選別で検出したものもある。旧石器の中には、V層上位～VI層や遺構の覆土から出土したものもあり、これらは出土位置を記録し周囲をVII層(黄褐色ローム層)まで掘り下げて、遺構・遺物の有無を確認した。

地形測量図は調査の進行状況に合わせ、III層上面・V層上面・VII層上面(最終面)を作成した。

本遺跡台地部の主たる時期は、旧石器時代・縄文時代中期後半・同晩期後半・擦文文化期前期であり、他に縄文時代早期後半・同後期前半・続縄文時代後半の遺物もある。

#### (2) 年度ごとの概要

##### ・平成15(2003)年度

表土除去後、平坦部はIII・IV層までとVII層上面まで削平されていた部分があり、斜面部は中腹から下はすべてVII層上面まで削平されていた。土層が残存する部分は包含層調査を行い、削平部分は遺構確認調査を行った。V層上面でくぼみが数か所みられ、縄文時代中期の竪穴住居跡を調査した。削平部分でも遺構を確認し、これらは黒色土のまとまりとしてみられた。

##### ・平成16(2004)年度

表土除去後、斜面部のV層の堆積が厚いことが予想され、先行トレンチを設け調査した。台地の肩部はVII層上面まで削平されている部分があった。縄文時代中期の遺構を調査し、斜面での包含層調査



表Ⅲ-3-1 キウス5遺跡 住居跡・土坑 付属遺構の分類体系

遺構記号	区分		名称	内 容	
F	焼土	炉跡	平面は楕円形～円形 色調は赤色～褐色 壁密度は「堅」・「すこぶる堅」	地床炉	遺構の床面にみられるもの
			炭化物・炭化材 動植物遺存体含む場合がある	盛り込みのある炉	遺構の床面に土坑が構築され、その内部にみられるもの
				石組炉	炉跡の周りが壁で囲われたもの
	焼土	覆土中 焼土	が跡でないもの 覆土中に層作為にみられ、炭化材等を伴う		
P	土坑	軸上の土坑	先端部ピット	住居跡に想定する軸上で、壁際に位置するもの	
			軸上の土坑	住居跡に想定する軸上で、壁際以外に位置するもの	
			土坑	上記以外のもの	
	柱穴	底面の断面形態を 四つに区分した	底面へと 壁が収束する 細いもの	尖	先端部が明確に尖るもの
				丸	先端部がやや丸みを帯びるもの
			底面に対し 両壁が概ね直角で 太いもの	隅丸	立ち上がり部分が丸みを帯びるもの
				平	立ち上がり部分が丸みを帯びないもの
		柱穴	底面断面形態が 「尖」・「丸」	打ち込み杭	「尖」のうち、断面が鋭く尖る形状を呈するもの
				杭穴	一般的なもの 斜めのものもみられる 表記：杭穴（斜め）
				壁杭穴	住居跡の壁の立ち上がり付近に位置するもの
				段階の杭穴	住居跡の段の立ち上がり付近に位置するもの
				外部杭穴	住居跡の外部に位置し、住居跡に関連すると考えたもの
				柱穴	底面断面形態が 「丸」・「隅丸」・「平」
柱穴	一般的なもの 斜めのものもみられる 表記：柱穴（斜め）				
壁柱穴	住居跡の壁の立ち上がり付近に位置するもの				
段階の柱穴	住居跡の段の立ち上がり付近に位置するもの				
		外部柱穴	住居跡の外部に位置して、住居跡に関連すると考えたもの		
—	段			土坑より規模が大きく、明確な段差を有する落ち込み	
— (PS)	遺物集中	人工遺物	土器	土器がまとまって出土したもの	
— (FC)			フレイク・チップ	「器」の形状を保つもの・「器」の形状はみられず破片が集まっているもの に分けられ、また、「一器体」と「複数器体が置けるもの」がある	
—			磨製石斧	磨製石斧の破片（現存状態「片」）が集中するもの	
—	自然遺物の集中	炭化した自然物	炭化物集中	小さな炭化した自然物が集中するもの 木材の形状を留めるものは「炭化物」とした	
—		粘土	粘土集中	シルト質土のまとまりで、自然層位ではみらず、 人為的に持ち込まれた凝灰岩などの脆弱な堆積岩の固結がとけ、 粒子化したと推測するもの	

では土層の堆積に伴い遺物が二次的に移動しているものも認められた。

#### ・平成18(2006)年度

表土除去後、Ⅱ層T a-a 軽石が厚く堆積するくぼみが複数みられ、低位部へ接する南西側の調査区は削平されていた。また、砂利道として利用されていた部分(南北50～58ライン・東西方向12～14ラインの間付近)はⅧ～Ⅸ層まで削平されており、台地部の南端部は露頭で、Ⅷ層より下位の層位を観察した。また図Ⅲ-2-1(本章Ⅱ節)に示す台地部から低位部への層位を記録した。

Ⅱ層が堆積するくぼみは縄文文化期の竪穴住居跡で、周囲に掘り上げ土もみられた。Ⅲ層の調査完了後、Ⅴ層では竪穴住居跡や焼土列(縄文時代中期)を調査し、台地南端部の露頭近くで旧石器ブロックを確認、この崖下に堆積する崩落土からも旧石器が出土した。

#### ・平成19(2007)年度

表土除去後のⅢ層上面の状況は、西側でⅡ層が堆積する縄文文化期の住居跡のくぼみや同期の土器集中がみられ調査した。北東側の包含層では多数の縄文時代晩期の土器が出土し、ゆるやかにくぼみが数か所みられた。また、土層確認のための先行トレンチのうち、1か所(28-63区付近)から旧石器が多数出土した。Ⅲ層の遺構・包含層調査を完了後、Ⅳ層を除去しⅤ層上面を精査した。北東側部分では、くぼみは明瞭となり数も増え、その周囲に掘り上げ土も認めた。このくぼみはⅤ2層が落ち込み、そこにⅣ層とⅤ1層が堆積していた。調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡が密集・重複する状況であった。これらと土坑や焼土列、小柱穴列、旧石器ブロックを調査した。

#### ・平成20(2008)年度

表土除去後、Ⅱ層が堆積する縄文文化期の住居跡のくぼみを確認し調査した。Ⅲ層の遺構・包含層調査完了後、Ⅳ層を除去しⅤ層を調査したが遺構・遺物ともに少なかった。

#### ・平成21(2009)年度

調査区は前年度調査区の北西側のA地区と横断自動車道と接する北東側のB地区である。

表土除去後、A地区では縄文文化期の住居跡を調査した。B地区では、ゆるやかにくぼみがみられ、縄文時代晩期の土器が多く出土した。Ⅲ層を調査しⅣ層除去後、A地区では縄文時代の遺物は少なく、平成19(2007)年度の続きの旧石器ブロックを調査した。B地区では、Ⅴ層上面で縄文時代中期の住居跡の明瞭なくぼみが多数みられ、平成15(2003)・平成19(2007)年度の続きのもの、平成8(1996)年度横断自動車道に伴う調査(横断道C地区)から続くH-7・10(北埋調報116)もあり、これら住居跡、土坑、焼土列、小柱穴列を調査した。

なお、住居跡や土坑の付属遺構は、表Ⅲ-3-1に示す分類体系を設け整理した。

## 4. 整理の方法

### (1) 一次整理の方法

現場での遺物の取り上げは「遺跡名(略号:キ5)出土地点(遺構名・グリッド)出土層位 遺物種別(土器・剥片石器・礫石器・旧石器・その他に大別)取り上げ番号(出土位置記録のもの)取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に遺物を収納した。袋ごと「取り上げ台帳」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」・「乾燥」し、設定した基準(本章5節)に従い「分類」した。次に出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。

表Ⅲ-5-1 土器・土製品時期等分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名
土器	縄文時代	早期	Ⅰ群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群
				b類	東銅路式系土器群
		前期	Ⅱ群	a類	縄文尖底土器群
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群
		中期	Ⅲ群	a類	円筒土器上層式・サイベリ式 手掘り田式・萩ヶ岡1式・萩ヶ岡2式に相当する土器群
				b類	萩ヶ岡3(天神山式)・柏木川式・北筒式に相当する土器群 最花式(中期 大木式系土器群)
		後期	Ⅳ群	a類	余市式・タブコブ式・入江式に相当する土器群
				b類	ウサクマイC式・手堀式・ホッケマ式に相当する土器群
				c類	堂林式・三ツ谷式・御殿山式に相当する土器群
		晩期	Ⅴ群	a類	大洞B式・大洞B'式 それに伴う土器群
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群
			統縄文時代		Ⅵ群
	弥文文化期		Ⅶ群		弥文土器
	時期不明・ 判断不可能なもの		不明		剥離や磨耗、小破片が多い
土製品等	土製品	各時代・時期			既知の土製品 名称のあるもの 通称のもの 仮称のもの 訪録車 耳栓
	再生土製品	各時代・時期			土器破片が二次的に加工(打ち欠き・研磨等)されたと思われるもの *各属性で分類した後「備考」に追記
その他	その他	各時代・時期			土で製作されたもの 土から生じたもの等 その名称・通称

表Ⅲ-5-2 土器部位分類基準

部位・名称	内容
口縁部	・口唇部が残存するもの ・口唇部は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
底部	・底面が残存するもの ・底面は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
胴部	・口縁部・底部・不明・その他以外のもの
その他	・剥離した貼付部分等
不明	・部位を特定できないもので、小破片に多い
複数部位 (ままとり)	・複数の部位を有する破片 器の形状を留める個体土器等 例)：口縁～底部まで残存する破片・個体土器

表Ⅲ-5-3 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	・器の形状を留める個体土器 ・破片の裏表面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り、時期判断等に有効な情報が多い
剥離	・破片の裏表面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥離しているもの	・接合可能な破片 ・文様が残る場合、時期判断等に有効な情報を有する ・剥離面は粘土の観察に適する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
磨耗	・破片が磨耗しているもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考える上で有意な情報を有する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
小破片	・大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に過ぎず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表Ⅲ-5-4 石器等器種分類基準

石器	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器	石刃鏃		黒曜石 頁岩 等
	石鏃		
	石槍・ナイフ		
	石鏃		
	つまみ付きナイフ	「石匙」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	定型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U=utilized R=retouched	
	両面調整石器		
	石槌		
	フレイク・チップ		
	原石		
礫石器	磨製石斧		泥岩 片岩 等
	磨製石斧未製品		
	磨製石斧転用品		
	磨製石斧原石		安山岩 等
	たたき石		
	すり石	「扁平打製石器」を含む	
	北海道式石冠		
	石鏃		
	礫石		
	台石・石皿		
石製品	名称・通称	玉	蛇紋岩系
礫	加工・使用痕のある礫	人為的な使用痕・加工痕が認められる礫	各種
	自然礫	自然礫であるが、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	

表Ⅲ-5-5 石器等残存状態分類基準

石器	分類	内容
剥片石器・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50%程度のもの
	片	残存する部分が50%程度未満のもの
礫石器	完形	大きな割れ口が無いもの 割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のもの
	半形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が50%程度のもの
	片	割れ口があり、完形の状態を想定し難く、残存する部分が50%程度未満のもの
礫	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

表Ⅲ-5-6 岩石分類体系表

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 (多孔質)	浮岩 (軽石)	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)		—
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	黒曜岩 (石)	岩澤 (スコリア)		—
	斑状組織 微晶 石基	流紋岩	安山岩	玄武岩	—
半深成岩	斑状組織 細晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	—
深成岩	等粒状組織 完結晶	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	微輝岩 蛇紋岩
	二酸化ケイ素 (ケイ酸 SiO <sub>2</sub> )	66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
	有色造岩鉱物 (色指数)	10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
	主体的な有色造岩鉱物	黒雲母	角閃石	輝石	微輝石 蛇紋石
	主体的な無色造岩鉱物	石英 斜長石	斜長石	—	—

堆積岩	
火山砕屑岩	: 火山噴出物から構成される
火山角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む
凝灰角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む
火山礫凝灰岩	: 2~32mmの火山噴出物 (火山塊) から主体的に構成される
凝灰岩 (溶結凝灰岩)	: 2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される
砕屑岩	: 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され「層理」がみられる
礫岩	: 粒度区分上の礫を50%以上含む
角礫岩	: 含有する礫が角ばっている (歪角・角礫状) もの
砂岩	: 粒度区分上の砂を50%以上含む
	: 砂の粒度により「粗粒」・「細粒」に、硬さにより「硬質」・「軟質」等に分けられる
泥岩	: 粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される
	: 粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる
	頁岩 : 泥岩で固結が強く、貝殻状の割れ口を呈するもの
	珪質頁岩 : 頁岩で透明な石英質 (ケイ酸 SiO <sub>2</sub> ) 部分を含むもの
	粘板岩・千枚岩 : 堆積岩と変成岩の中間的なもの
有機岩	
チャート	: 潜晶質石英 (SiO <sub>2</sub> )
	・有機質 (生物遺体)
	・無機質
変成岩	: 変成鉱物から構成される 結晶質
接触 (熱) 変成岩	: 熱による変成作用を受けたもの
ホルンフェルス	: 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの
広域変成岩	: 熱・圧力による変成作用を受けたもの
片岩	: 再結晶化により「片理」がみられるもの
片麻岩	: 再結晶化が進行し、「斑状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの

石炭系・玉類の石材	
超塩基性岩	
蛇紋岩	: 蛇紋石・微輝石を主成分とするもの 微輝岩等が変成したもの
蛇紋岩からの変成岩	
ロジン岩	: 蛇紋岩化作用により、生じる変成岩
緑泥石岩 (緑泥片岩 緑色片岩)	: 輝石・角閃石・黒雲母等の二次変質により生じる鉱物 (緑泥石) を主成分とする岩石
タルク岩 (滑石片岩)	: 微輝岩・輝石・角閃石等の二次変質により生じる鉱物 (滑石) を主成分とする岩石
凝灰質珪化岩	: 火山灰から構成されケイ酸成分を多く含むもの

\*石英質 (ケイ酸 SiO<sub>2</sub>) の岩石・鉱物の便宜的な分類体系

堆積岩	
チャート	
フリント	: チャートのうち、明瞭な貝殻状断口を呈するもの 火打ち石
珪質頁岩	
珪藻岩	: 珪質の岩石が熱・圧力による変成作用を受け、微粒状の石英集合体となったもの
変成岩	
珪岩 (珪石)	: 珪藻類のケイ酸質遺骸が堆積し生じたもの
鉱物	
水晶	: 無色透明の石英 結晶質
碧玉	: 微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑~緑暗色
玉髓	: 微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐~灰色
めのう	: 微晶質 繊維状・結状 不透明 玉髓の一種

表Ⅲ-5-7 岩石(石材)の略号

大項目	小項目	岩石名	英語名	略号	
火成岩	火山噴出物	軽石(浮岩)	Pumice	Pum	
		岩滓(スコリア)	Scoria	Sco	
	火山岩	溶岩	Lava	Lav	
		黒曜石(黒曜岩)	流紋岩	Rhyolite	Rhy
			安山岩	Andesite	And
			玄武岩	Basalt	Bas
			花崗岩	Granite	Gra
			閃緑岩	Diorite	Dio
	斑岩	Gabbro	Gab		
	深成岩				
堆積岩	火山砕屑岩	火山融凝灰岩	Lapilli Tuff	Ltu	
		凝灰岩	Tuff	Tuf	
	砕屑岩	礫岩	Conglomerate	Con	
		砂岩	Sandstone	San	
		泥岩	Mudstone	Mud	
		(緑色泥岩)	(Green Mudstone)	(Gr. Mud)	
		頁岩	Shale	Sha	
		チャート	Chert	Che	
		粘板岩	Slate	Sla	
		片岩	Schist	Sch	
片麻岩	Gneiss	Gns			
ホルンフェルス	Hornfels	Hor			
変成岩					
超塩基性岩	蛇紋岩	Serpentine	Ser		
	橄欖岩	Peridotite	Per		

接合作業を行う土器や旧石器・礫石器・礫(片)は、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名(キ5) 出土地点 出土層位 遺物番号」で、土器の「小破片」等の小さいものは注記していない。

## (2) 二次整理の方法

### ・土器

土器の接合作業は、残存状態が「良好」・「剥離」のもの(表Ⅲ-5-3)を中心に行った。遺構出土土器の接合は遺構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。

接合した破片は復元可能なものを復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、複数の部位のもの、異なる遺構で接合したもの、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選り出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせ図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

### ・石器等

石器等は縄文時代のものとして旧石器に分けた。後者はⅥ章で詳述する。

礫石器・自然礫は接合を行い、磨製石斧等、接合したものもみられた。これらと残存状態が「完形」・「準完形」(表Ⅲ-5-5)のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮し、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

これらの作業と並行して遺物の集計作業も行い、その結果を出土点数表・出土分布図にまとめた。

## 5. 遺物の分類

土器は、表Ⅲ-5-1「土器・土製品時期等分類基準」・表Ⅲ-5-2「土器部位分類基準」・表Ⅲ-5-3「土器残存状態分類基準」に示す三つの基準、縄文時代の石器等は表Ⅲ-5-4「石器等器種分類基準」・表Ⅲ-5-5「石器等残存状態分類基準」・表Ⅲ-5-6「岩石分類体系表」に示す三つの基準で分類した。石材は一次整理では表Ⅲ-5-7「岩石（石材）の略号」に示す内容で表記したが、本報告書では岩石名で記述している。

（末光）

## IV章 遺構と出土遺物

### 1. 概要 (図IV-1-1・2 表IV-1-1~7)

台地のV・VI層で確認した遺構は、竪穴住居跡41軒(LH-1~39・H-7・10)・土坑103基(LP-1~103)・小土坑2か所(LSP-1・2)・小柱穴393か所(sp-1~393)・焼土245か所(LF-1~245)・土器集中1か所(LPS-6)・フレイク・チップ集中5か所(LFC-1~5)、礫集中2か所(LS-3・4)である。

台地の地形はキウス川右岸の河岸段丘上の平坦部からこれにかけての斜面部で、多くの遺構は平坦部に位置する。特に北東側部分に集中してみられ、ついで中央付近にあり西側は少ない。

遺構の時期は、竪穴住居跡はLH-25Aが縄文時代後期初頭(余市式)で、これ以外の住居跡、土坑、小柱穴、焼土、土器集中、フレイク・チップ集中、礫集中は縄文時代中期後半である。土器型式では萩ヶ岡式、ノダップⅡ式、柏木川式の時期に細分される。特に北東側の遺構が集中する区域は、遺構構築に伴う掘り上げ土が全体にみられ、遺構も近接、切り合いが著しく、さらに覆土も類似している等、土層の状況が複雑であり、遺構の層位的な関係をすべて正確にとらえることはできなかった。住居跡は楕円形で大型のもの、中程度規模のもの、直径3m程度の小型のものがある。土坑は規模や付属遺構から、小型の住居跡と考えるものもある。

小柱穴は平成8(1996)年度の横断自動車道の発掘調査でみつかった杭穴列(北埋埋報116)の南側部分の続きで、キウス川までの間のあり方が明らかとなった。これらは、集落跡の周囲に規則的に位置する。

焼土は、単体で確認した数か所を除いて、ほとんどが調査区中央付近と北東側部分の住居跡付近で列状にみられた。小柱穴(杭穴列)・焼土列は住居跡群、すなわち集落跡に関連するものとする。

土器集中1か所は土坑に関わるもの、フレイク・チップ集中は多くが黒曜石で、焼土列と切り合うもの(LFC-3)、密集する小柱穴・焼土列の間に重複しない位置にあるもの(LFC-4)があり、集落で石器製作の場が明確に認識されていることを示すと考える。また、調査区北東側隅、31・32-75~82区は、周囲を住居跡・土坑に囲まれ、かつこれらが存在しない空間がある。

以上、本遺跡の遺構は、縄文時代中期後半の集落の空間構造を考える上で良好な調査事例である。

なお、土層の観察記録は201~216頁、遺物出土位置図の内容は217~226頁にまとめて掲載した。

(末光)

### 2. 住居跡 (図IV-2-1~82 表IV-1-1・2 カラー図版1 図版2~33・47・48)

LH-1 (図1 図版2)

位置 28-78・79区

規模 2.84×2.50 / 2.72×2.45 / 0.32m 平面形態 円形

確認 I層除去後、VII層上面で黒色土の堆積がみられた。ベルトを設定しこれ沿いのトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 トレンチから全体を掘り、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。

覆土 覆土1・10・17層はVII層、12層はVI層、これら以外はV層主体で、覆土9層が主たる覆土である。



**床面・壁** 床面は概して平坦で北西側部分が若干低く、壁は直立気味に立ち上がる。

**付属遺構**

地床炉（HF-1）、柱穴・杭穴1カ所（HP-1）、粘土集中1カ所を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 （末光）

**LH-2**（図2～4 図版3・4）

**位置** 27・28-77・78区

**規模** 4.13×3.38 / 3.92×3.16 / 0.39m **平面形態** 楕円形

**確認** I層除去後、VII層上面で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

**調査** トレンチを掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。覆土中には焼土、炭化材が認められた。炭化材は形状を保つ大きなものを記録した（Ca1～21）。

**覆土** 主たる覆土は第2・4層で、第1層は中央の上位に堆積する。第5層は覆土最下層である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で西～北西側部分が若干低く、壁はやや大きく開くように立ち上がる。

**付属遺構**

地床炉（HF-1）、軸上の土坑（HP-1）、柱穴・杭穴8カ所（HP-2～9）を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。また、北東側部分の床面で土器集中を確認した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 （末光）

**LH-3**（図5 図版3）

**位置** 25-79、26-78・79区

**規模**（柱穴分布範囲）(3.87)×(3.24) m **平面形態** 不明

**確認** VII層上面の精査中、焼土（HF-1）がみられた。また、東側の調査区界の壁の断面で遺構の覆土を認め、さらに北側の一部分で壁の立ち上がりを確認した。

**調査** 炉跡を記録後、規模（半径4～6 m）を想定し、柱穴・杭穴の調査を行い、13カ所確認した（HP-1～13）。

**覆土** 上位は削平され、覆土最下層はVII層主体である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構**

地床炉（HF-1）、柱穴・杭穴13カ所（HP-1～13）を確認した。

**遺物出土状況** 削平されているため、本遺構の遺物として取り上げたものはない。

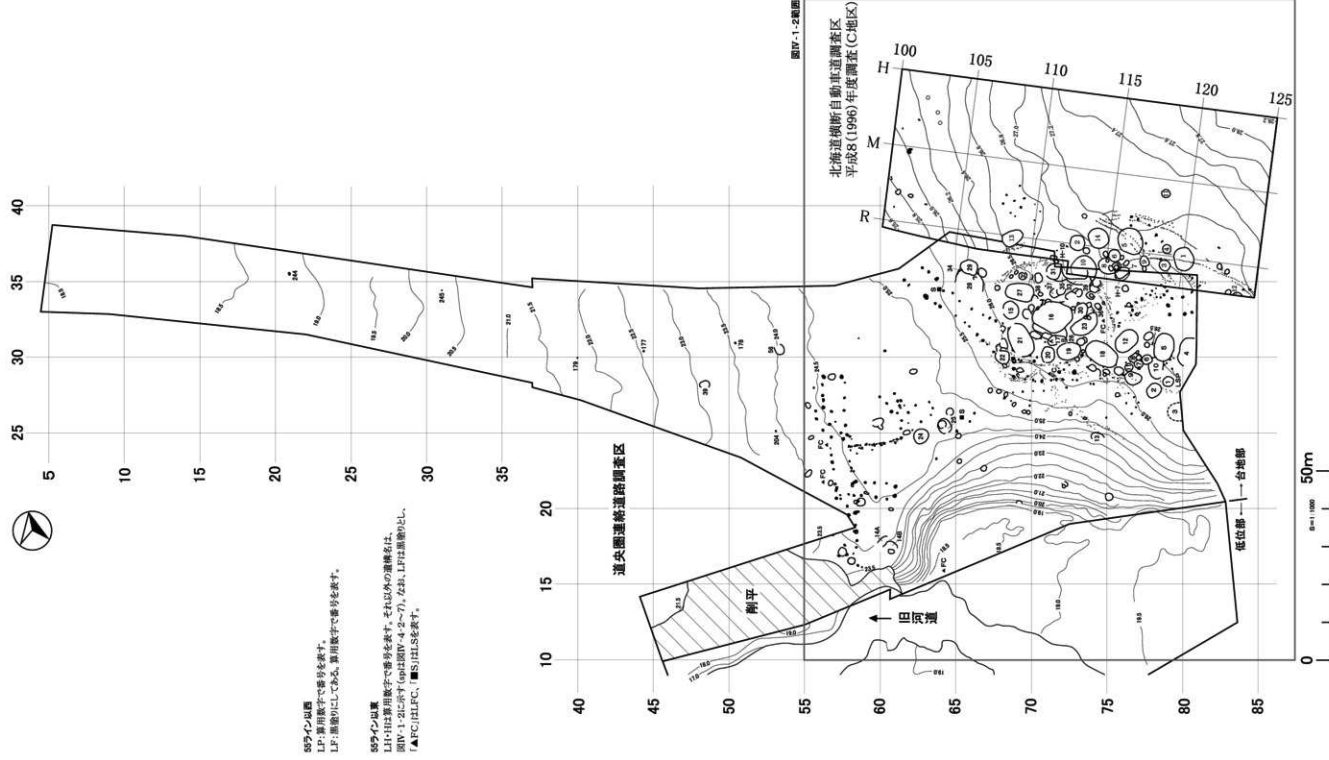
**時期** 包含層出土遺物からは、縄文時代中期後半と推測する。 （末光）

**LH-4**（図6～10 図版4・5）

**位置** 29・30-79、29～31-80区

**規模** (7.76)×(2.65) / (7.59)×(2.51) / 1.39m **平面形態** 楕円形

平成15（2003）年度に南西側部分を、平成21（2009）年度に北東側部分を調査した。

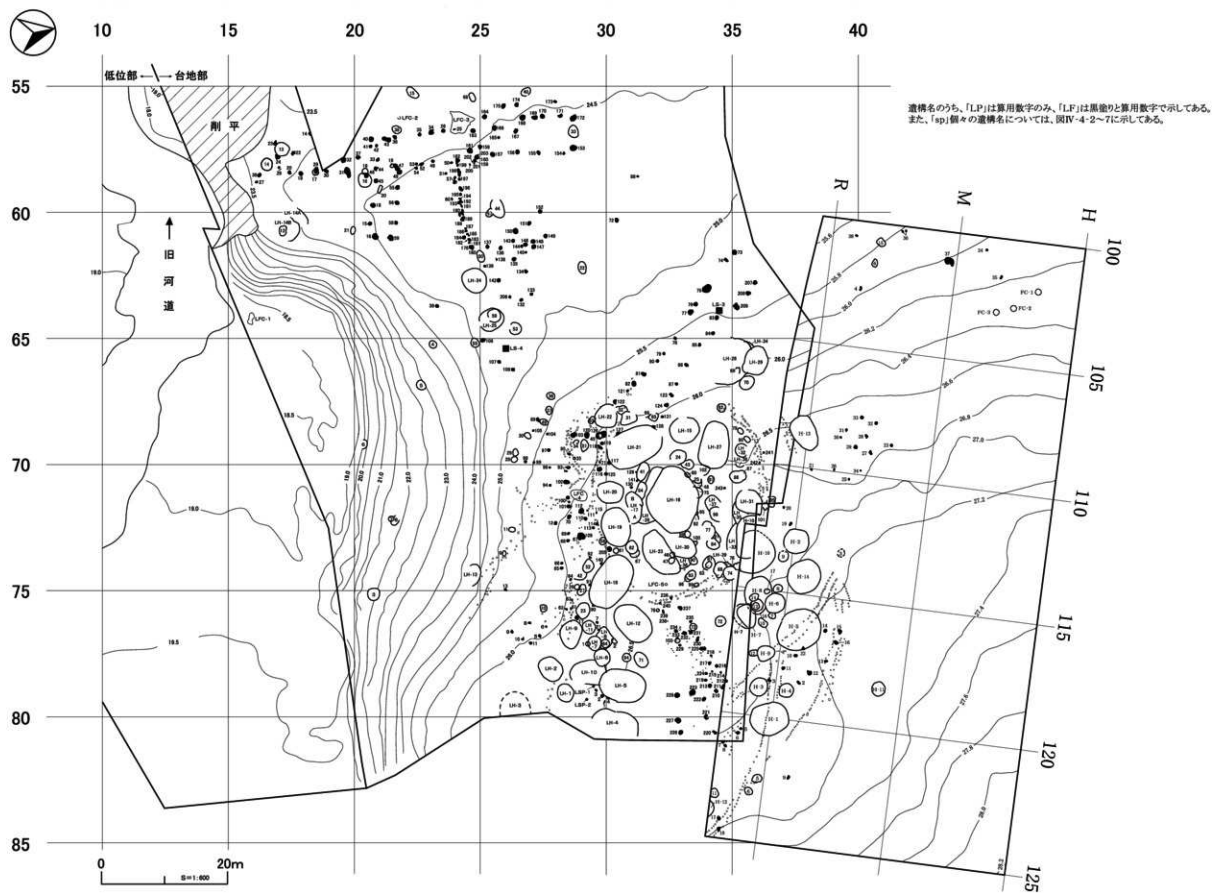


55ライン以西  
L1-L7は遺跡番号を示す。  
L1-L7は遺跡番号を示す。L1-L7は遺跡番号を示す。  
L1-L7は遺跡番号を示す。L1-L7は遺跡番号を示す。

55ライン以東  
L1-L7は遺跡番号を示す。それ以外の遺跡番号は、  
L1-L7は遺跡番号を示す。それ以外の遺跡番号は、  
L1-L7は遺跡番号を示す。それ以外の遺跡番号は、  
L1-L7は遺跡番号を示す。それ以外の遺跡番号は、

図IV-1-1 V層遺構位置図(1)



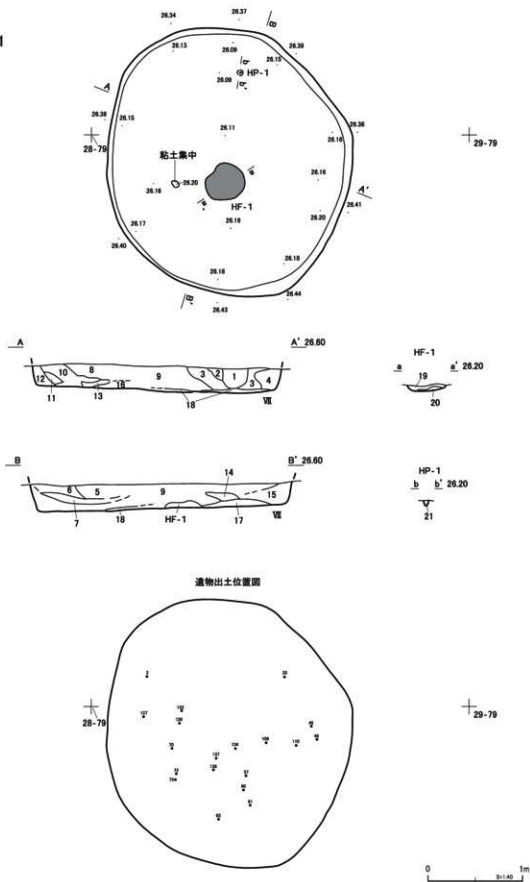


図IV-1-2 V層遺構位置図(2)





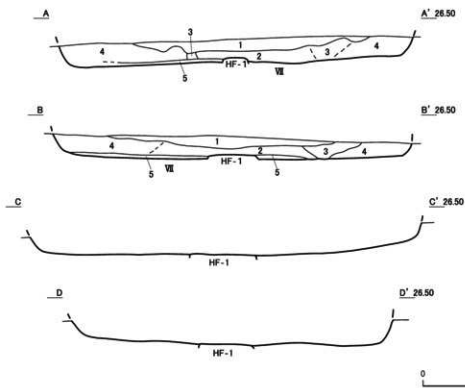
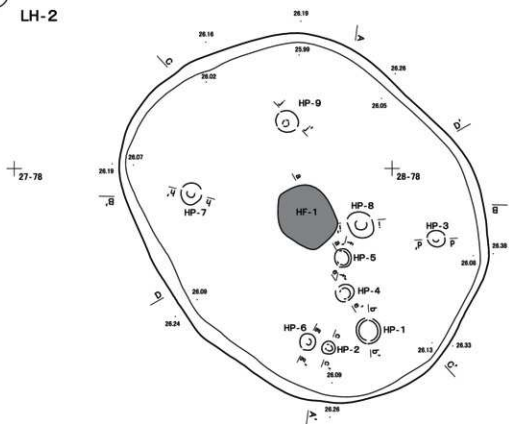
LH-1



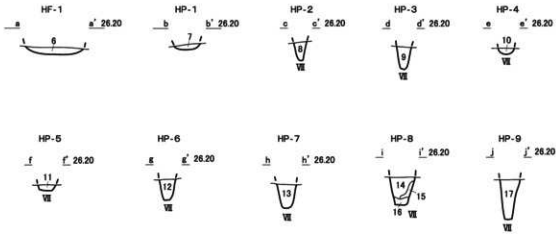
図IV-2-1 LH-1



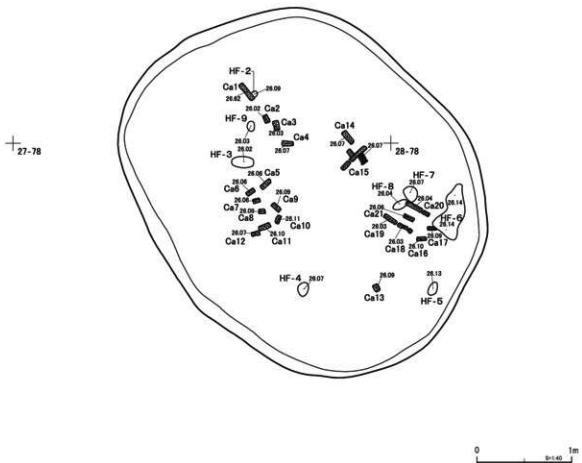
LH-2



图IV-2-2 LH-2 (1)



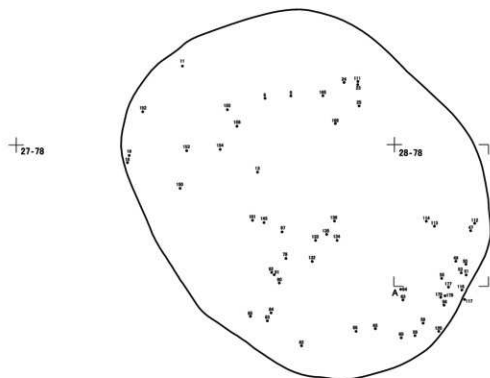
覆土中機土及び炭化材確認状況



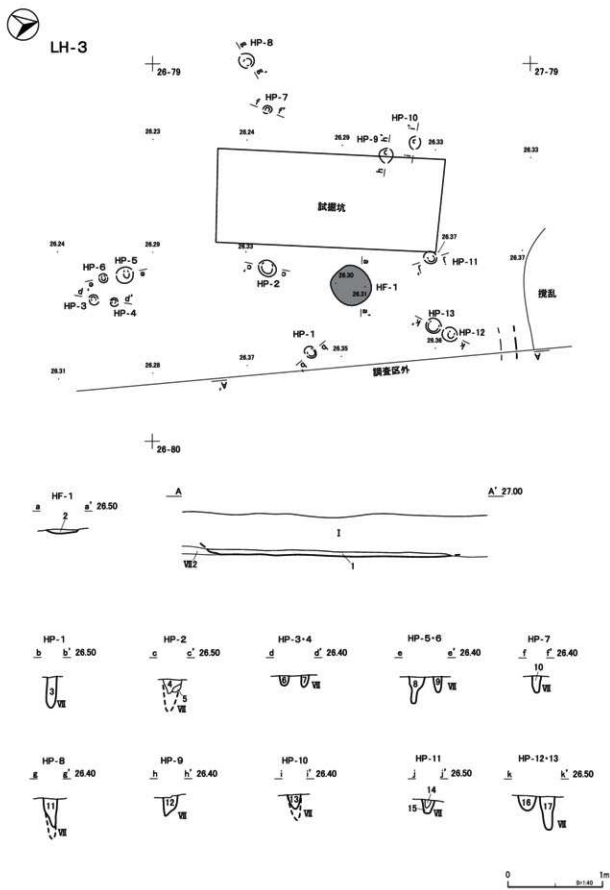
図IV-2-3 LH-2 (2)



遺物出土位置図



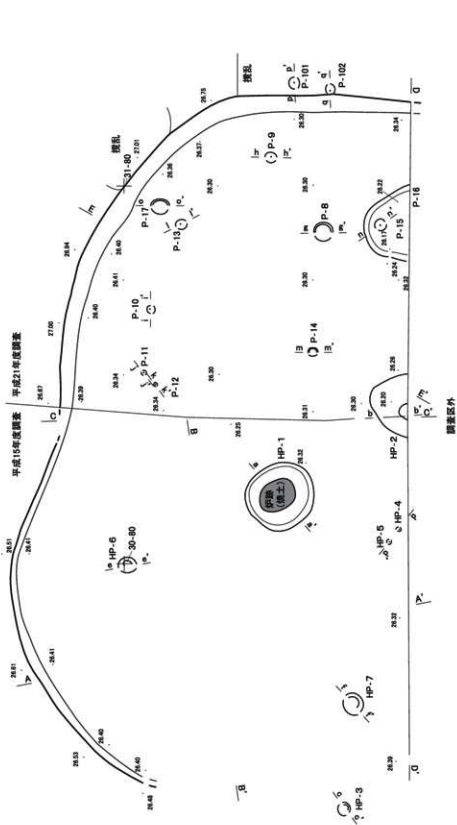
図IV-2-4 LH-2 (3)



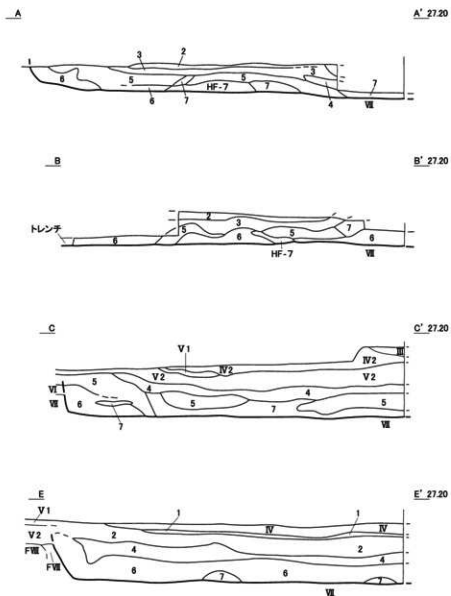
図IV-2-5 LH-3



LH-4

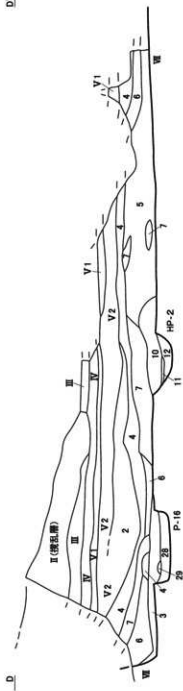


図W-2-6 LH-4 (1)

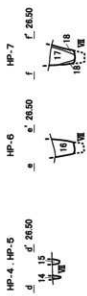
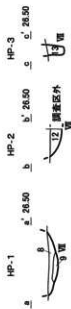


図IV-2-7 LH-4 (2)

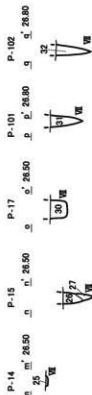
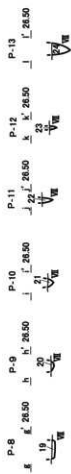
D\_27.80



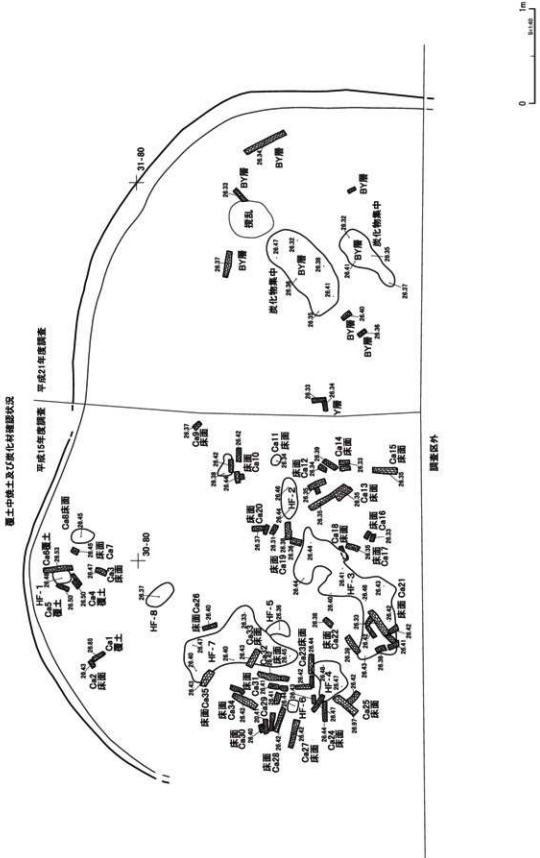
## 平成15年度調査



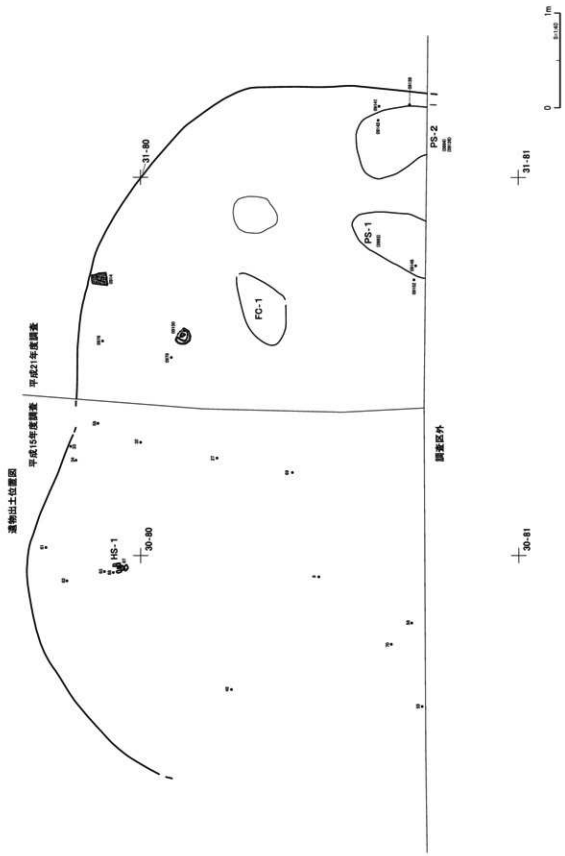
## 平成21年度調査



図IV-2-8 LH-4(3)



図IV-2-9 LH-4(4)



圖IV-2-10 LH-4 (5)

**確 認**

平成15年度は、包含層調査中にⅦ層上面で黒色土がみられた。地形のくぼみと考え、これを掘り下げたところ、遺構の覆土を認め、ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げ、床面と壁の立ち上がりを確認した。平成21年度は、Ⅴ層上面でゆるやかにくぼみがみられた。

**調 査** 両年度とも、先行トレンチを掘り広げ完掘した。覆土最下層から炭化材（Ca1～35）と焼土（HF-1～7）がみられた。南側部分は削平され、壁が残存していなかった。全体の約1/2を調査し東側の調査区外に続く。

**覆 土** 色調からB層、BY層、YB層、Y層に分層し、BY層及びYB層を細分した。上位部分はⅤ層とB層、BY層・YB層・Y層は中位～下位部分にみられる。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**付属遺構**

平成15年度の調査は、掘り込みを有する地床炉跡（HP-1）、軸上の土坑（HP-2 南西側1/4）、礫集中（HS-1）1か所、柱穴・杭穴5か所（HP-3～7）を確認し、平成21年度の調査では軸上の土坑2か所（HP-2の北東側1/4 P-16）、土器集中2か所（PS-1・2）、フレイク・チップ集中（FC-1）1か所、柱穴・杭穴9か所（HP-3～7・P-8～15・17）、外部柱穴・杭穴2か所（HP-101～102）を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土したが壁際に多い。床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。また、住居跡の中心やや西側部分の床面から倒立した状態で土器が出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 （末光）

**LH-5（図11～14 図版6）**

**位 置** 29～31-78・79区

**規 模** 7.44×5.25 / 6.90×4.70 / 0.60m **平面形態** 楕円形

平成15（2003）年度に南西側部分を、平成21（2009）年度に北東側部分を調査した。

**確 認** 平成15年度、Ⅴ層で黒色土がみられた。トレンチを設け掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認した。平成21年度はⅤ層上面でゆるやかにくぼみがみられた。

**調 査** 両年度とも、先行トレンチから掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。

**覆 土** 第1層は上位中央のⅤ層で、主たる覆土は2c層である。

**床 面** 床面はわずかに凹凸があり、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構**

平成15年度は北側調査区境界で炉跡（HF-1）と柱穴・杭穴は9か所（HP-1～9）、土器集中1か所を調査し、平成21年度は、HF-1が石組炉であることが判明、さらに掘り込みのある炉跡2か所（HF-2・3）を確認した。軸上の土坑HP-16・17と柱穴・杭穴12か所（HP-10～23）を調査した。

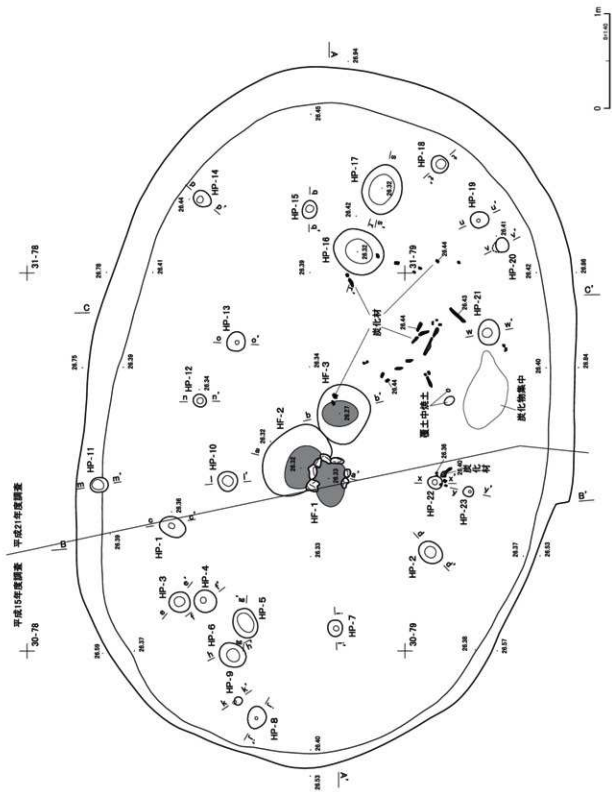
**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 （広田 良成）

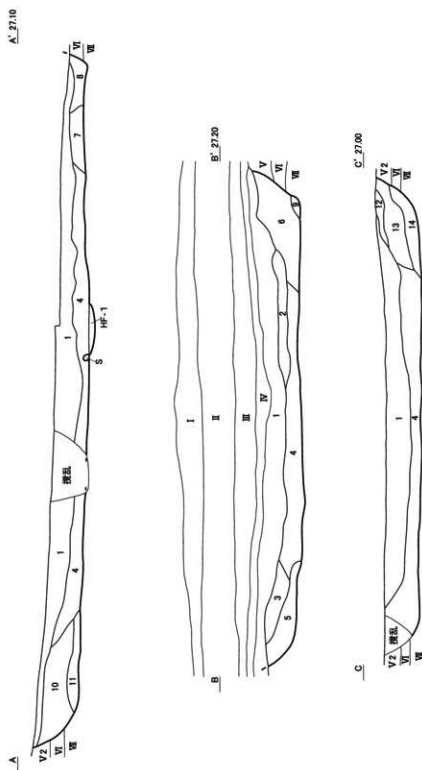




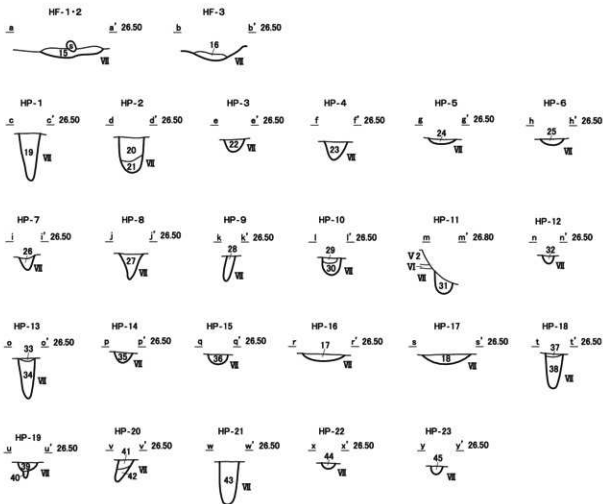
LH-5



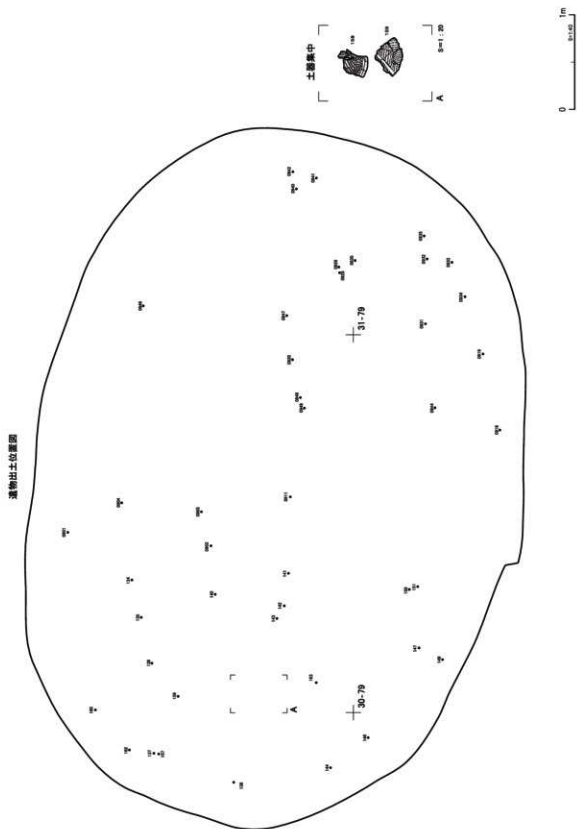
図IV-2-11 LH-5 (1)



圖IV-2-12 LH-5 (2)



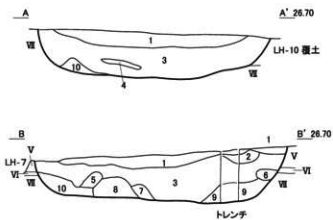
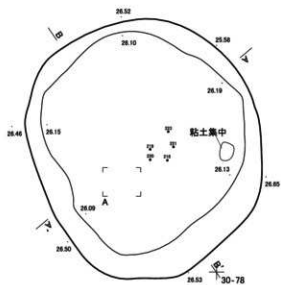
图IV-2-13 LH-5 (3)



圖IV-2-14 LH-5 (4)



LH-6



図IV-2-15 LH-6

## LH-6 (図15 図版7)

位置 29-77・78、30-77区

規模 2.76×2.45 / 2.34×2.16 / 0.60m 平面形態 円形

確認 包含層調査中、V層で黒色土がみられた。ベルトを残し掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

調査 土層断面を記録しベルトを掘り下げ完掘した。小型の住居跡である。

覆土 第1層は上位中央のV層で、主たる覆土は2b層である。

床面・壁 床面は南東側が高く北東側が低い。壁は曲線的に立ち上がる。

## 付属遺構

土器集中1か所、粘土集中1か所を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-7 (図16 図版7)

位置 29-76・77区

規模 2.34×2.10 / 2.07×1.96 / 0.55m 平面形態 円形

確認 包含層調査中、V層で黒色土がみられた。ベルトを残し周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

調査 土層断面を記録後、ベルトを掘り下げ完掘した。小型の住居跡である。

覆土 上位にV層主体の覆土第1層が厚く堆積し、覆土2d・2f層が主たる覆土である。

床面・壁 床面は焼土付近がやや低いが概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

## 付属遺構

地床炉(HF-1)1か所、軸上の土坑(HP-1)1か所を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-8 (図17 図版7)

位置 29・30-76・77区

規模 3.50×2.66 / 3.16×2.29 / 0.60m 平面形態 不整な楕円形

確認 LH-7の調査中、北西側の壁で別の遺構の覆土を確認した。

調査 LH-7で設けたベルトを延長し、この周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。LH-7に切られ、さらに床面でLP-64を確認した。小型の住居跡である。

覆土 覆土1層は上位のくぼみに堆積するV層で、VI層が混じる覆土2・3層が主たる覆土である。

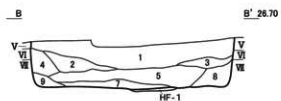
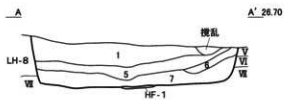
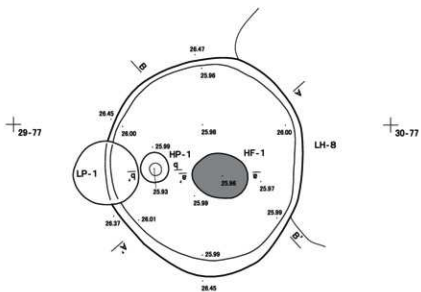
床面・壁 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

## 付属遺構

礎集中1か所を調査した。



LH-7

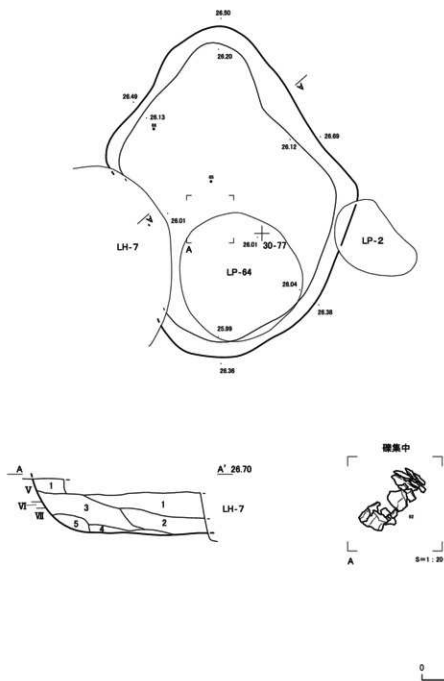


图IV-2-16 LH-7



LH-8

+ 30-76

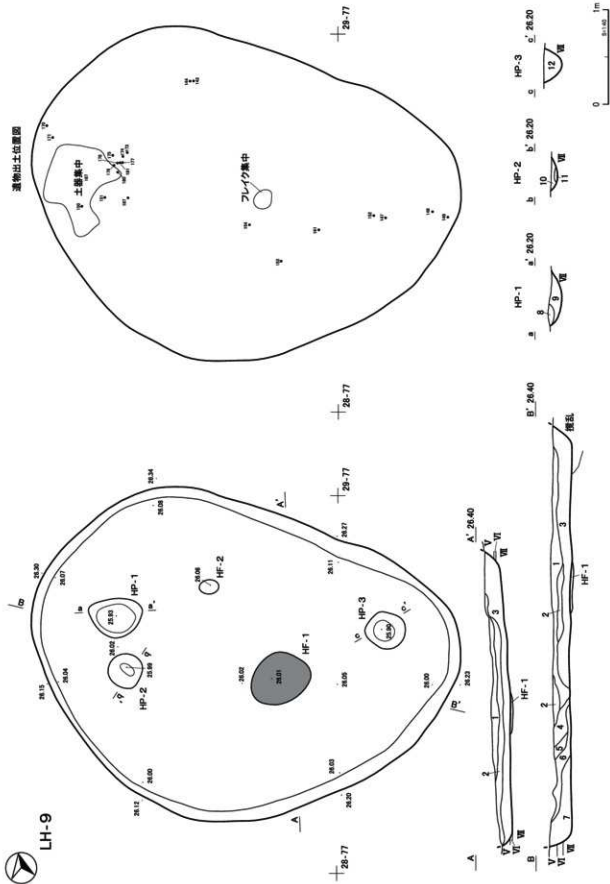


図IV-2-17 LH-8





LH-9



図IV-2-18 LH-9

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-9 (図18 図版8)

**位置** 28-76・77、29-76区

**規模** 4.57×3.49 / 4.35×3.26 / 0.29m **平面形態** 楕円形

**確認** 包含層調査中、V層で黒色土みられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

**調査** トレンチから全体を掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。

**覆土** 上位のくぼみにはV層主体の覆土1層が堆積し、遺構の主たる覆土は第6層である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は若干大きく開くように立ち上がる。

#### 付属遺構

地床炉(HF-1)1か所、焼土(HF-2)1か所、軸上の土坑3か所(HP-1~3)、土器集中1か所、フレイク・チップ集中1か所を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-10 (図19~21 図版8・9)

**位置** 28・29-77・78区

**規模** (5.78)×(4.01) / (5.67)×(3.76) / 0.24m **平面形態** 楕円形

**確認** 包含層調査中、V層~VII層上面で黒色土がみられた。ベルトを残しこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

**調査** トレンチを掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。覆土中で炭化材と焼土を確認した。

**覆土** 上部は削平され覆土最下層である第1・2層が残存していた。ともにV層にEn-a軽石が混じる。

**床面・壁** 床面は凹凸があり、壁は曲線的に立ち上がる。

#### 付属遺構

地床炉2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴10か所(HP-1~10)、土器集中1か所を調査した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-11 (図22 図版10)

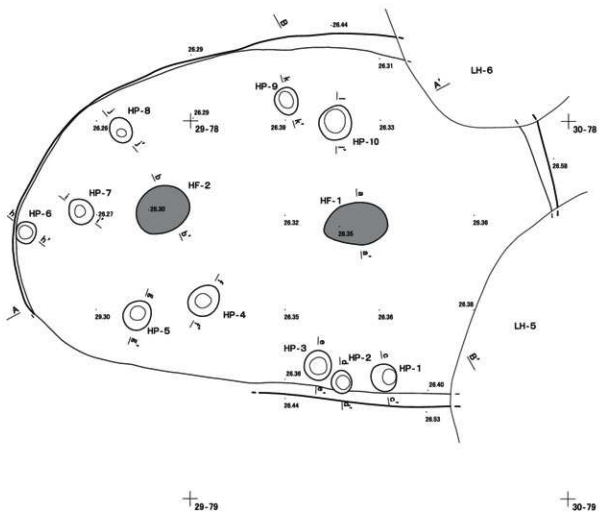
**位置** 29-76区

**規模** 2.13×2.02 / 1.87×1.75 / 0.55m **平面形態** 円形

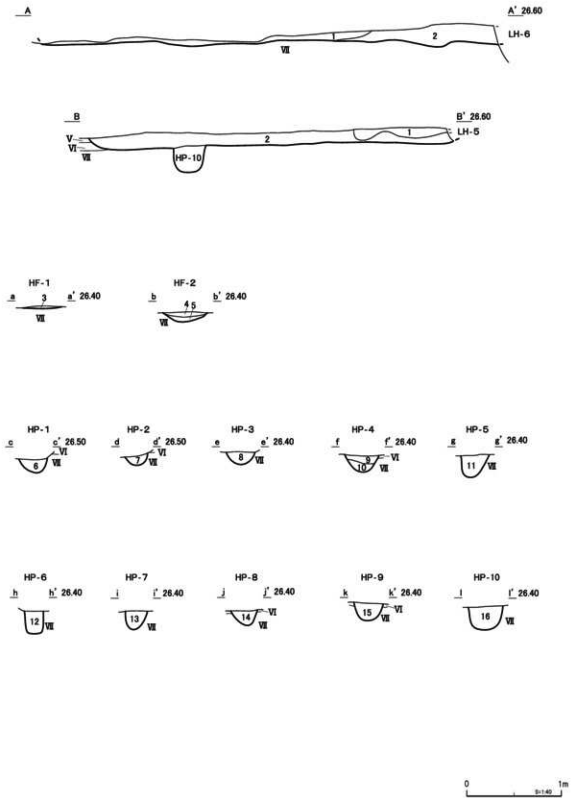
**確認** 包含層調査中、V層面で黒色土がみられた。ベルトを設け周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、小型の住居跡と判断した。



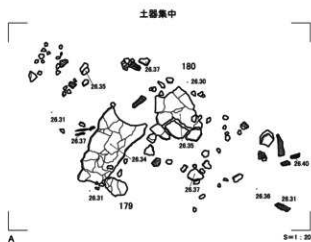
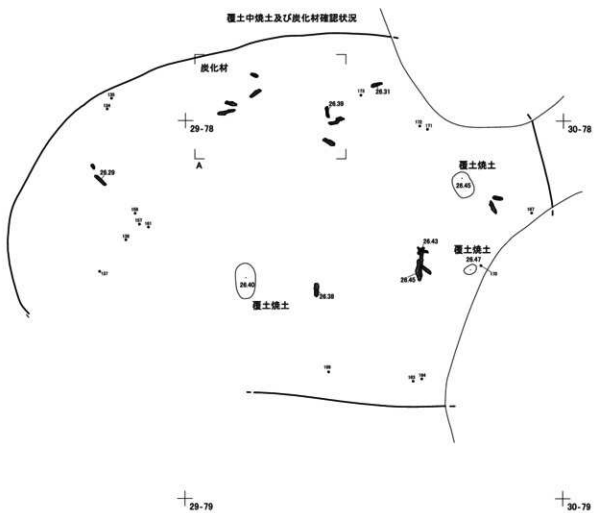
LH-10



图IV-2-19 LH-10 (1)



図IV-2-20 LH-10 (2)



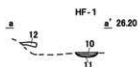
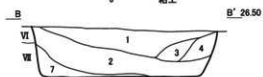
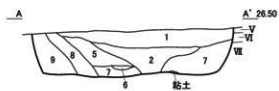
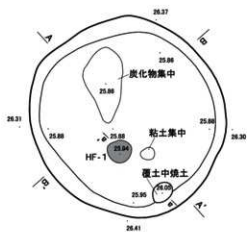
図IV-2-21 LH-10 (3)



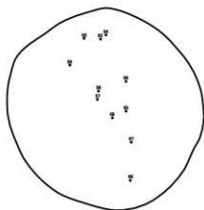
LH-11

29-76

30-76



遺物出土位置図

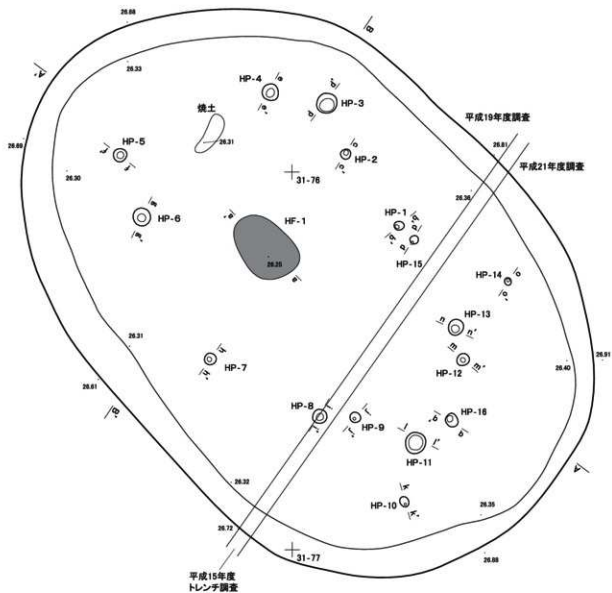


0 1m

図IV-2-22 LH-11



LH-12



図IV-2-23 LH-12 (1)

**調査** 土層断面と遺物の出土位置を記録し、ベルトを掘り下げ完掘した。覆土中には焼土や炭化物集中、粘土集中がみられた。

**覆土** 第1・4層はV層主体で覆土上位に堆積する。下位はVI層もしくはV・VI層を主とする黒褐色土である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は大きく開くように立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

#### LH-12 (図23～25 図版10・11)

**位置** 30・31-75～77区

**規模** 6.81×4.72 / 6.40×4.20 / 0.67m **平面形態** 楕円形

平成15(2003)年度にトレンチ調査、平成19(2007)年度南西側・平成21(2009)年度北東側を調査した。

**確認** 平成15年度のトレンチ調査により床面と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。平成19年度・21年度は、V層上面でゆるやかなくぼみを確認した。

**調査** 平成19年度・21年度ともベルトを設け、これに沿いにトレンチを先行させて周囲を掘り下げ、土層や遺物の出土位置を記録し完掘した。床面直上で焼土がみられた。

**覆土** 第1層はV層主体で上位に堆積する。第2c層はVII層主体の褐色土で主たる覆土である。第2d・2e層は最下層で暗褐色土層である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)、柱穴・杭穴16か所(HP-1～16)を調査した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。土器集中が2か所でみられた。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

#### LH-13 (図26 図版12)

**位置** 24-73・74区

**規模** (3.40)×(0.87) / (3.18)×(0.76) / 0.26m **平面形態** 楕円形

**確認** 包含層調査中、VI層面で黒褐色土がみられた。ベルトを設け周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

**調査** 土層断面と遺物の出土位置を記録し、ベルトを掘り下げ完掘した。住居南側部分は斜面のため、確認できなかった。

**覆土** 第1層はV層、第2層はVI層主体である。

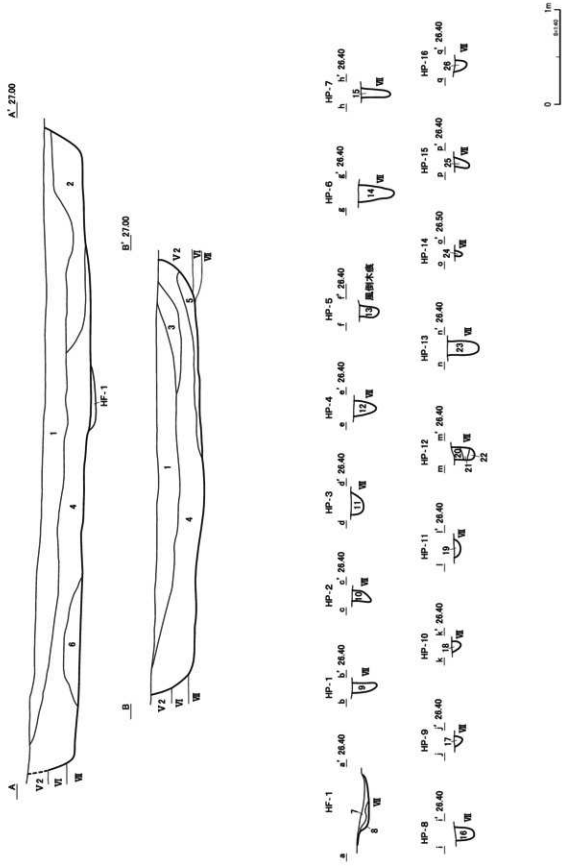
**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)を確認した。

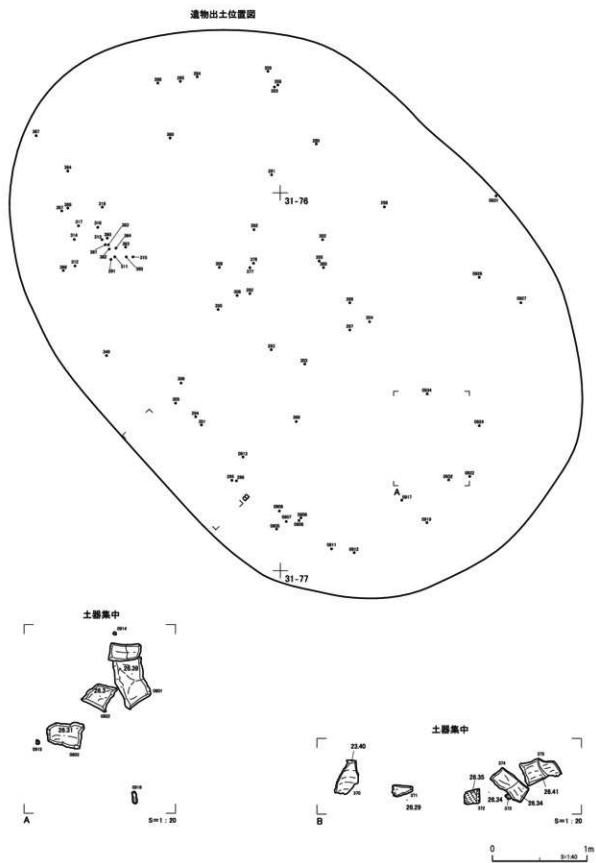
**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(菊池 慈人)





圖IV-2-24 L H-12 (2)



図IV-2-25 LH-12(3)



LH-13

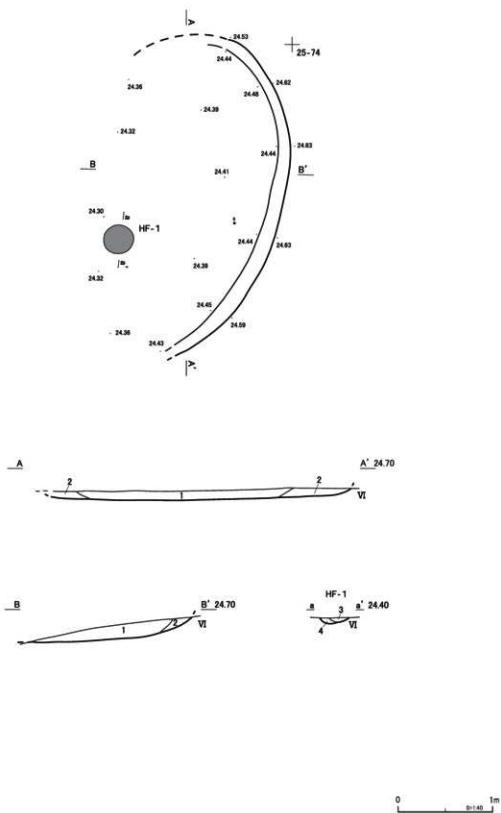


图 IV-2-26 LH-13

## LH-14 (図27~30 図版12・13)

位置 16-60、17-59~61、18-60区

規模 LH-14A (7.06)×(5.12) / (6.92)×(4.88) / 0.36m 平面形態 楕円形?  
LH-14B (5.78)×(3.64) / (5.72)×(3.42) / 0.64m 平面形態 楕円形?

確認 包含層調査中、V層上面でIV層の堆積がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 トレンチを掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。想定した住居内にはさらに別の壁の立ち上がりがあり、大型のものをA、小型のものをBとした。LH-14Aの北西側部分では焼土(HF-1)と炭化材がみられ、土坑LP-12がこれら住居跡を切っている。

覆土 色調からB層、BY層、Y層に分層し、B層、Y層を細分した。上位はV層とB層が堆積し、B層・BY層・Y層は中位~下位部分で遺構の主たる覆土である。

床面・壁 床面はともに凹凸があり、壁の立ち上がりは、LH-14Aは曲線的で、LH-14Bは直立気味である。

付属遺構 LH-14A・B 地床炉2か所(HF-2・3)、先端部ピット1か所(HP-1)、軸上の土坑1か所(HP-2)、柱穴・杭穴16か所(HP-3~18)を確認した。LH-14Bの北東壁際には段があり、HP-1と接する。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。住居南東壁際とHP-1上位で土器集中を確認した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(末光)

## LH-15 (図31・32 図版14)

位置 32・33-68・69区

規模 4.75×(4.04) / 4.18×(3.55) / 0.62m 平面形態 円形

確認 包含層調査中、V~VI層面で黒色土がみられた。ベルトを設け周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 土層断面と遺物の出土位置を記録し、ベルトを掘り下げ完掘した。北西側の壁の一部が攪乱されていた。

覆土 第1層はV層主体で、壁際の第2b・2c・2e層はVI・VII層主体である。

床面・壁 床面は西側がやや低く、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 地床炉1か所(HF-1)、軸上の土坑2か所(HP-1・5)、柱穴・杭穴3か所(HP-2~4)を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。

(愛場 和人)



LH-14-LP-12

84

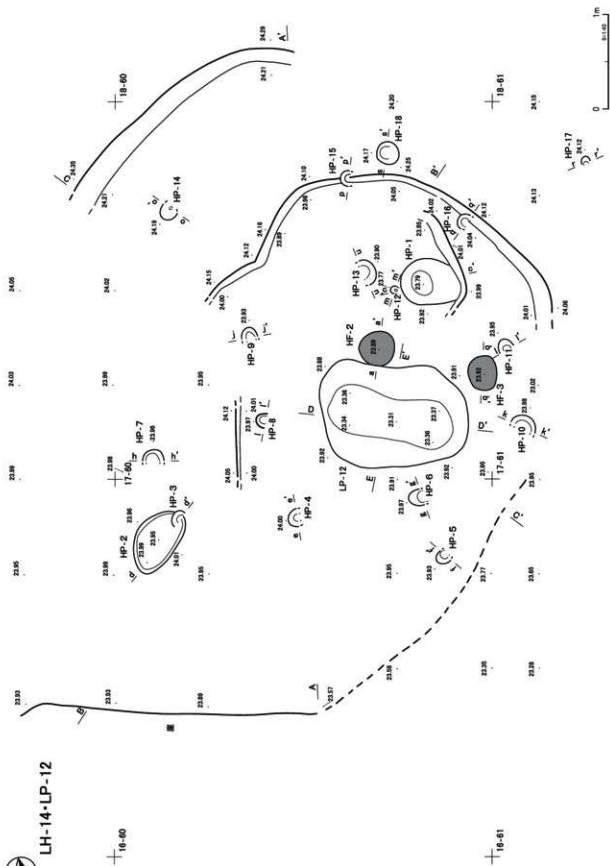
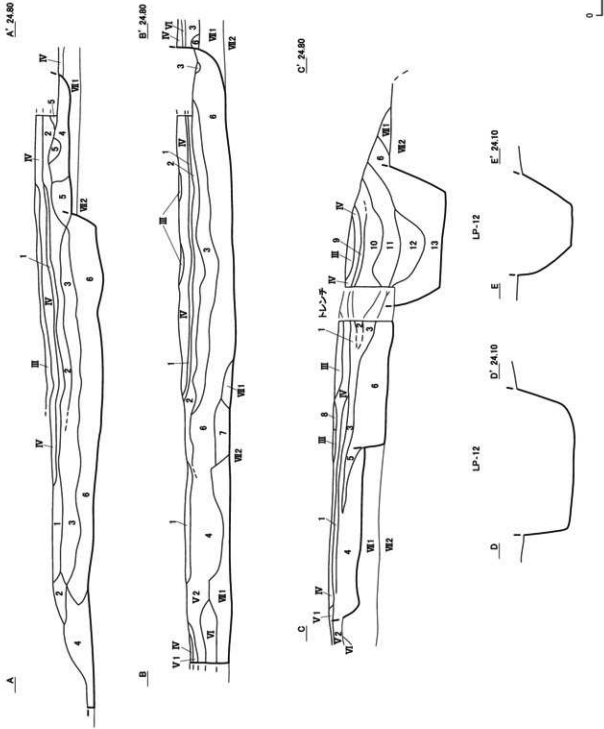
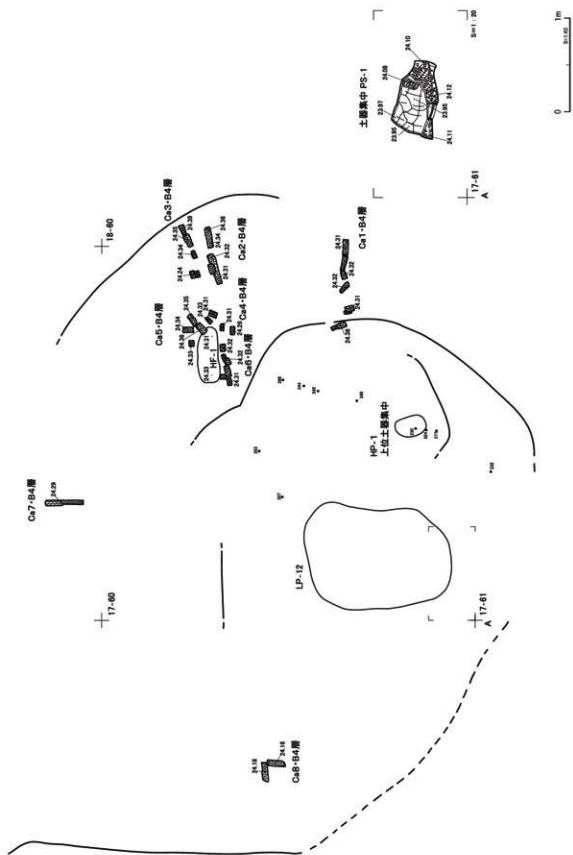


图 IV-2-27 LH-14-LP-12 (1)

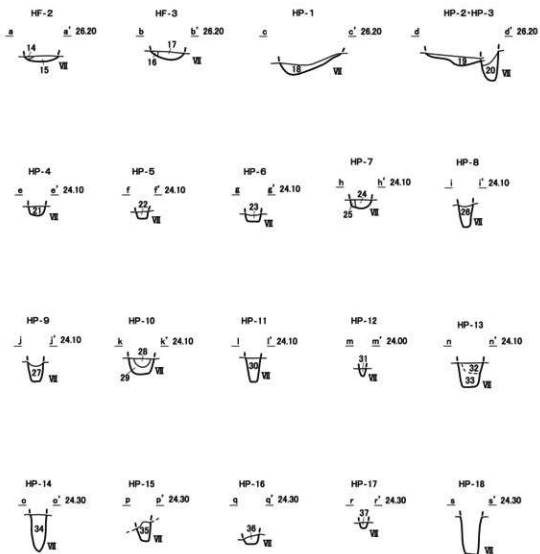


図IV-2-28 LH-14・LP-12 (2)

遺跡出土位置図・層中焼土及び灰化材埋藏状況



図IV-2-29 LH-14・LP-12(3)

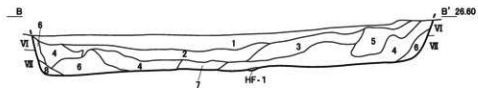
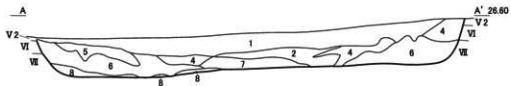
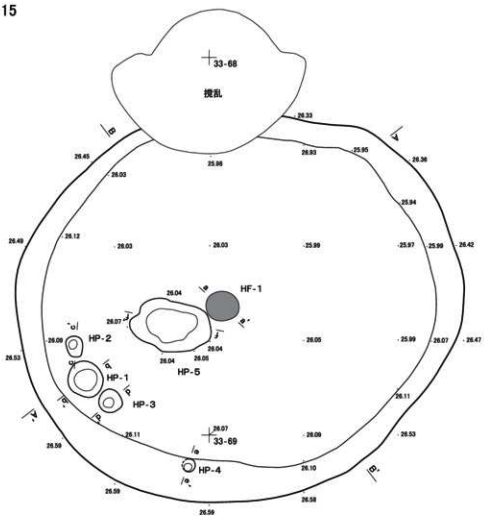


図IV-2-30 LH-14・LP-12(4)

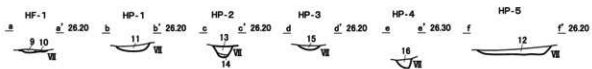




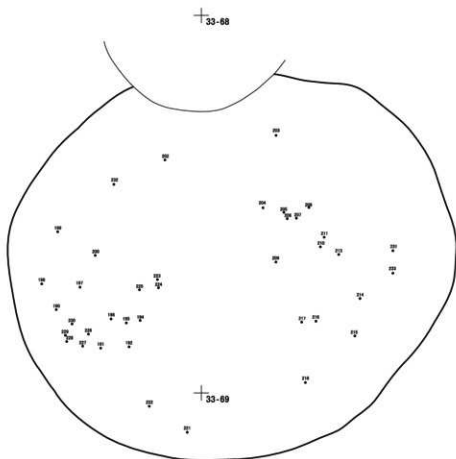
LH-15



图IV-2-31 LH-15 (1)



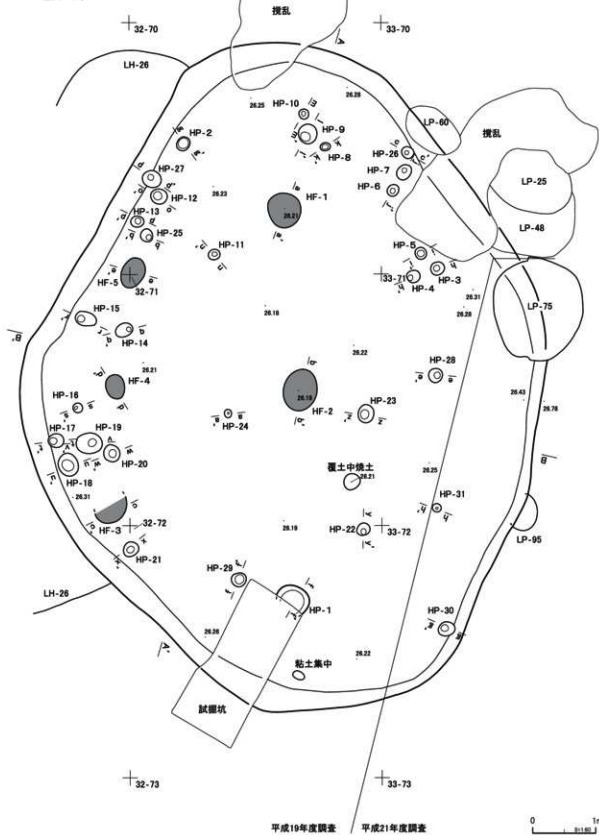
遺物出土位置図



図IV-2-32 LH-15(2)



LH-16



図IV-2-33 LH-16 (1)

## LH-16 (図33~35 図版15)

位置 31~33-70~72区

規模 (10.6)×9.98 / 8.34×7.81 / 0.63m 平面形態 楕円形

平成19(2007)年度に南側部分、平成21(2009)年度に北西壁際部分を調査した。

確認 平成19年度、包含層調査中、V層面で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。平成21年度は調査区境界で覆土がみられた。

調査 両年度とも土層断面と遺物の出土位置を記録し、全体を掘り下げ完掘した。LH-26を切り、遺跡で最大の住居跡である。

覆土 第1層はV層主体で上位に堆積し、下位はV層とVI・VII層が混じる層が主である。

床面・壁 床面は概して平坦で、壁は大きく開くように立ち上がる。

付属遺構 地床炉5か所(HF-1~5)、軸上の土坑1か所(HP-1)、柱穴・杭穴30か所(HP-2~31)を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-17 (図36 図版16)

位置 30・31-71・72区

規模 LH-17A (3.22)×(1.02) / (2.84)×(0.95) / 0.41m 平面形態 楕円形

LH-17B (2.71)×2.48 / (2.35)×2.31 / 0.39m 平面形態 楕円形

確認 包含層調査中、V層面で黒褐色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

調査 土層断面と遺物の出土位置を記録し、全体を掘り下げ完掘した。土層断面では壁の立ち上がりを2か所確認し、東側をA、西側をBとした。AがBを切ると判断した。

覆土 第1層は上位のV層で、第2a・2b・2c層が主たる覆土である。

床面・壁 LH-17A・Bともに、床面は概して平坦で、壁の立ち上がりは曲線的である。

付属遺構 先端部ピットか軸上の土坑を1か所(HP-1)を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-18 (図37~41 図版17)

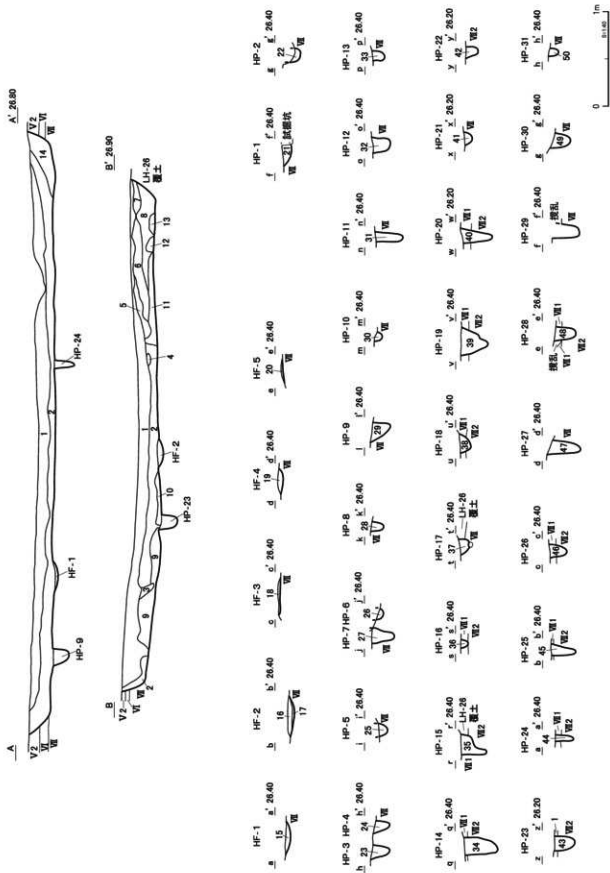
位置 29・30-73~75、31-74区

規模 9.50×5.67 / 8.73×5.18 / 0.62m 平面形態 楕円形

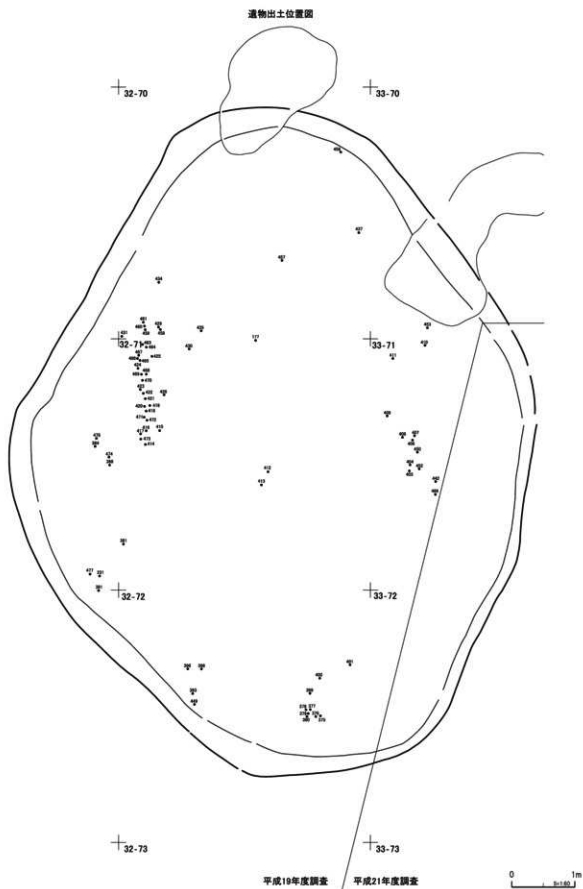
確認 包含層調査中、V層でくぼみがみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 土層断面と遺物の出土位置を記録し、全体を掘り下げ完掘した。覆土では焼土と炭化材・炭化物集中が住居跡全体に認められた。

覆土 第1層はV層主体で上位に堆積し、第2b・2d層が主たる覆土である。



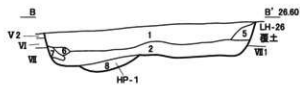
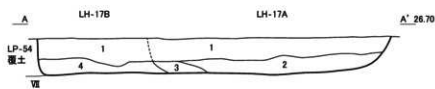
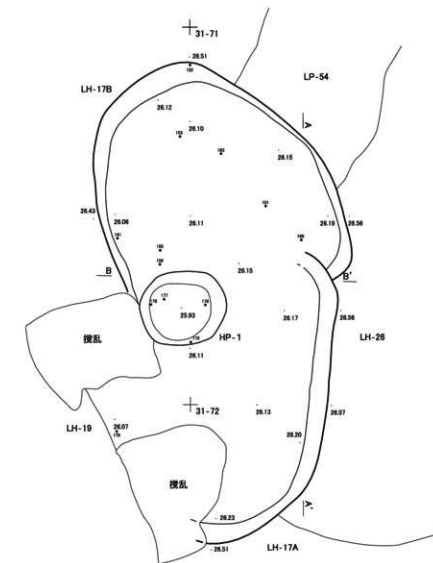
圖IV-2-34 LH-16 (2)



図IV-2-35 LH-16(3)



LH-17



图IV-2-36 LH-17



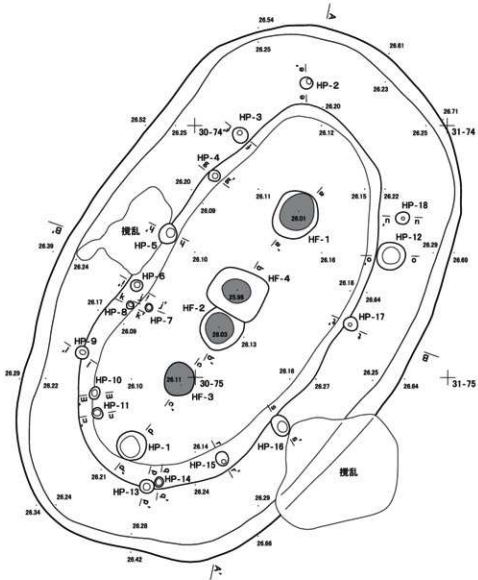
LH-18

+29-73

+30-74

+31-73

+29-74



+29-76

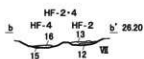
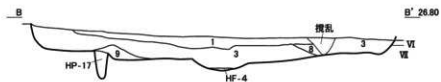
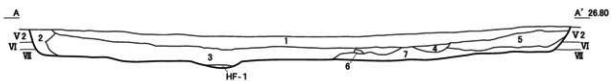
+30-76

+31-76

0 1m

図IV-2-37 LH-18 (1)





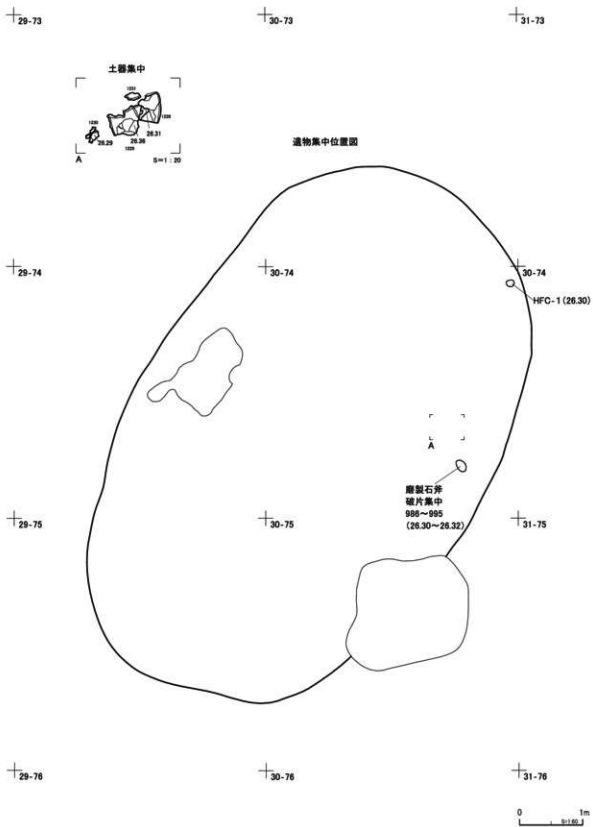
图IV-2-38 L H-18 (2)

覆土中焼土及び炭化材確認状況

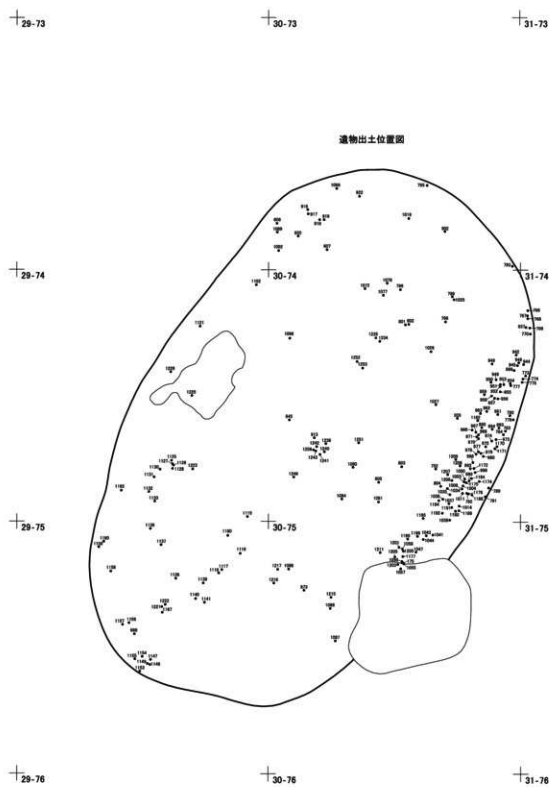


0 1m  
 0 100cm

図IV-2-39 LH-18(3)



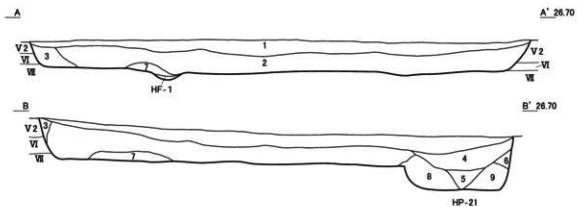
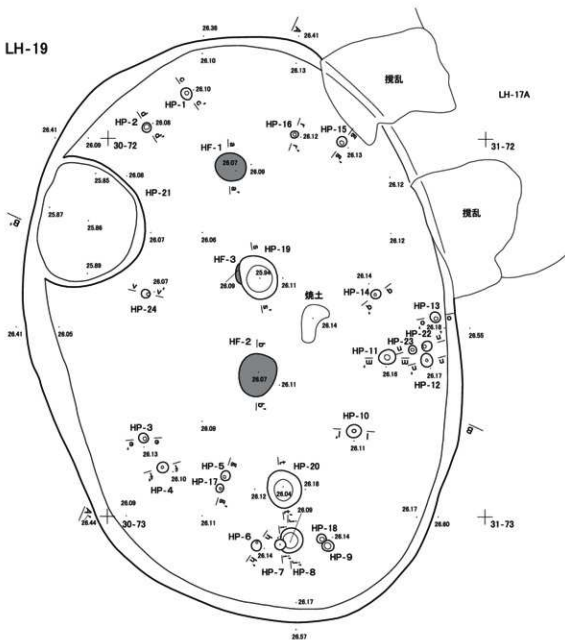
図IV-2-40 LH-18(4)



図IV-2-41 LH-18 (5)



LH-19



图IV-2-42 LH-19 (1)

**床面・壁** 床面は平坦で段があり、ベンチ構造と考える。壁は曲線的な立ち上がりである。

**付属遺構** 掘り込みを有する跡3か所（HF-1・2・4）、地床炉1か所（HF-3）、先端部ピットあるいは軸上の土坑1か所（HP-1）、土坑1か所（HP-12）、柱穴・杭穴16か所（HP-2～11・13～18）を調査した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土の遺物で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。住居北東壁際に土器集中と磨製石斧の破片集中が、北側壁際にはフレイク集中（HFC-1）がある。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-19 (図42～45 図版18)

**位 置** 29・30-71～73区

**規 模** 6.28×(4.53) / 6.06×4.15 / 0.51m **平面形態** 楕円形

**確 認** 包含層調査中、V層で黒色土のくぼみがみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

**調 査** 土層断面と遺物の出土位置を記録し、全体を掘り完掘した。壁際の覆土中では焼土と炭化材・炭化物集中がみられた。

**覆 土** 第1層はV層主体で上位に堆積し、第2 a層が主たる覆土である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉3か所（HF-1～3）、軸上の土坑3か所（HP-8・19・20）、土坑1か所（HP-21）、柱穴・杭穴20か所（HP-1～7・9～18・22～24）を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。西側にフレイク集中（HFC-1）がある。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-20 (図46・47 図版19)

**位 置** 29・30-70・71区

**規 模** 4.23×3.45 / 3.90×3.02 / 0.44m **平面形態** 楕円形

**確 認** 包含層調査中、V層で黒色土のくぼみを認めた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

**調 査** 土層断面と遺物の出土位置を記録し、全体を掘り下げ完掘した。中央付近の覆土では焼土と炭化材がみられた。

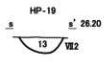
**覆 土** V層主体の第1層が上位にみられ、第2 a層が主たる覆土である。また、第2 c・2 d・2 e層は壁際に堆積する。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は直線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉1か所（HF-1）、軸上の土坑1か所（HP-3）、柱穴・杭穴2か所（HP-1・2）を確認した。

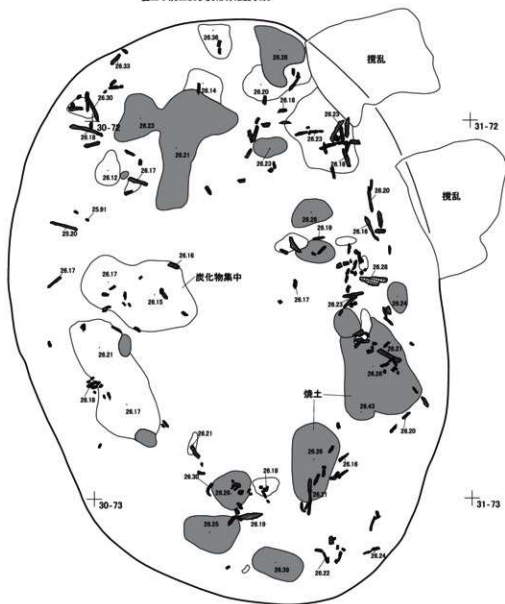
**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土の遺物で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)



圖IV-2-43 LH-19 (2)

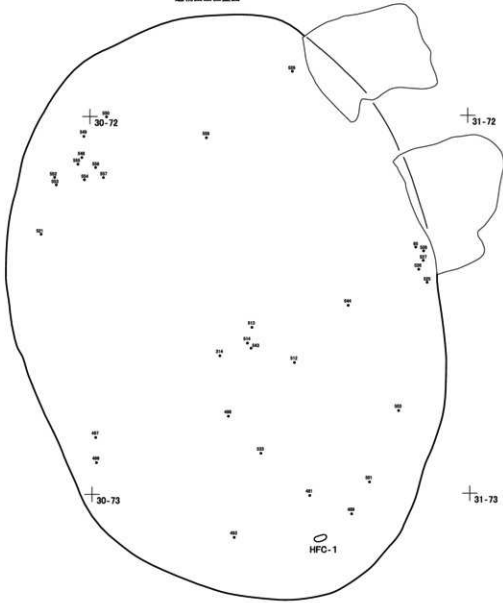
覆土中焼土及び炭化物確認状況



図IV-2-44 LH-19(3)



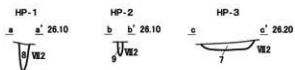
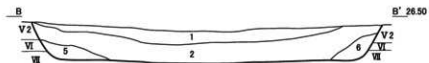
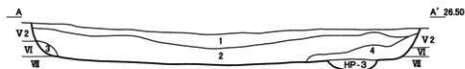
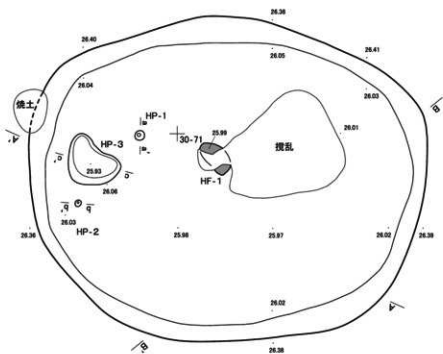
遺物出土位置図



図IV-2-45 L H-19 (4)

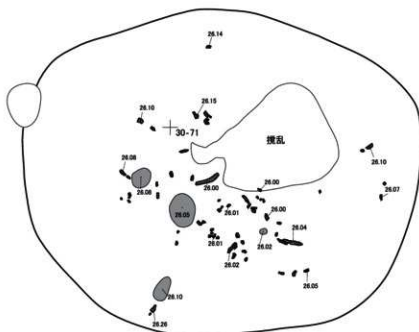


LH-20

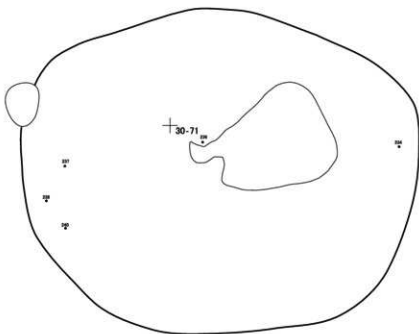


図IV-2-46 LH-20 (1)

圖土中燒土及び炭化材確認状況



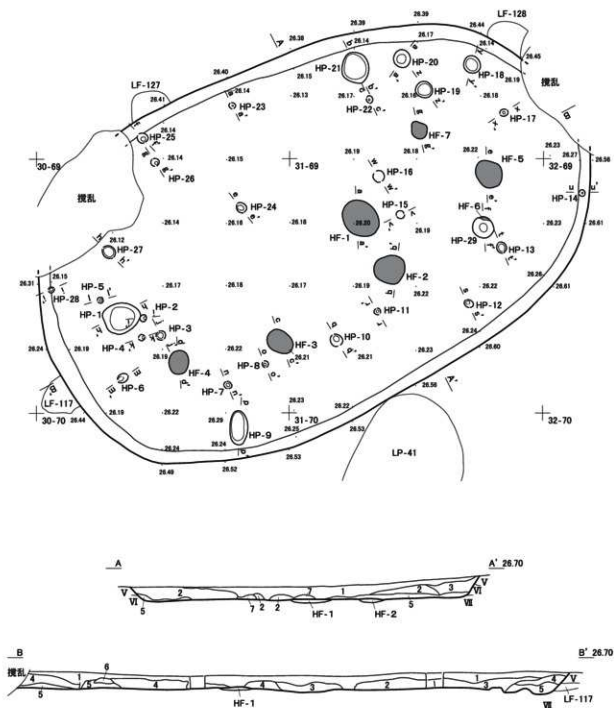
遺物出土位置図



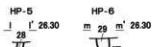
図IV-2-47 LH-20 (2)



LH-21



図IV-2-48 LH-21 (1)



图IV-2-49 LH-21 (2)

## LH-21 (図48～51 図版20)

位置 30・31-68～70、32-68・69区

規模 (9.14)×5.80 / (8.72)×5.44 / 0.39m 平面形態 楕円形

確認 IV層除去後、V層上面で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 トレンチから全体を掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。西側部分の覆土で炭化材と焼土がみられた。また、焼土LF-117・127・128を切る。

覆土 第1層はV層主体で、第2層が主たる覆土、第2d層は壁際にみられる。

床面・壁 床面は概して平坦で、壁は大きく開くように立ち上がる。

付属遺構 地床炉7か所(HF-1～7)、軸上の土坑1か所(HP-1)、土坑3か所(HP-9・21・29)、柱穴・杭穴25か所(HP-2～8・10～20・22～28)を確認した。HF-2～5は住居跡の長軸より東側で並んで認められた。HF-6はHP-29により切られる。

遺物出土状況 遺物は壁際付近から多く出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。また、土器集中を2か所調査した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(愛場)

## LH-22 (図52・53 図版21)

位置 29・30-67・68区

規模 3.88×3.58 / 3.59×3.09 / 0.51m 平面形態 円形

確認 IV層除去後、V層上面で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 トレンチから全体を掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。

覆土 第1層は上位のV層主体で、第2a・2b層はVI・VII層、第2c～2e層はV層主体である。

床面・壁 床面は南側が若干低く、壁の立ち上がりは曲線的である。

付属遺構 地床炉1か所(HF-1)、先端部ビット1か所(HP-1)、軸上の土坑1か所(HP-3)、柱穴・杭穴3か所(HP-2・4・5)を調査した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(愛場)

## LH-23 (図54～56 図版22)

位置 31・32-72～74区

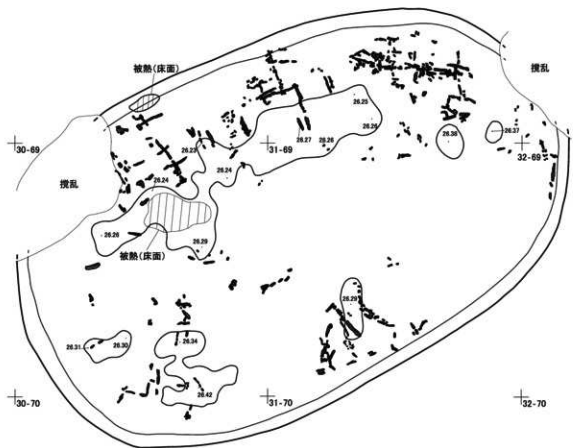
規模 7.89×(4.22) / 7.31×(3.71) / 0.52m 平面形態 楕円形

平成19(2007)年度に南西側部分を、平成21(2009)年度に北東側部分を調査した。

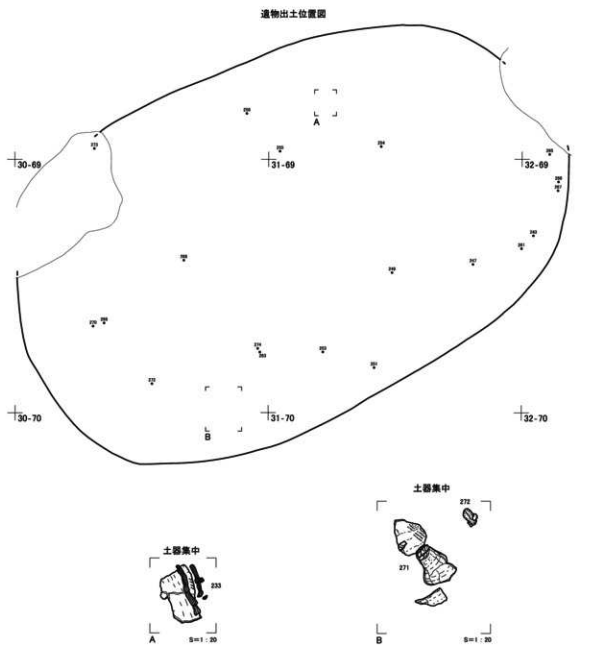
確認 平成19年度の包含層調査中、V層とVI層で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。平成21年度は調査区壁に覆土を確認した。

調査 平成19年度はトレンチを掘り広げて完掘し、平成21年度は北東側部分を調査し、平成19年度に設定したベルトを延長し調査した。

覆土中焼土及び炭化材確認状況



図IV-2-50 LH-21(3)

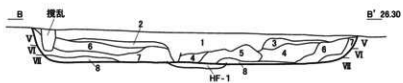
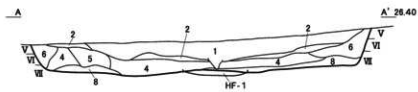
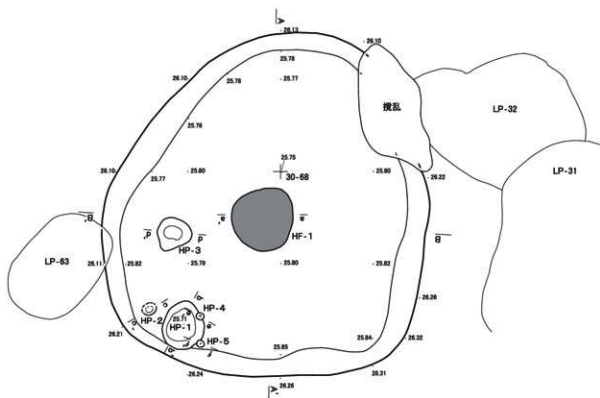


図IV-2-51 LH-21(4)

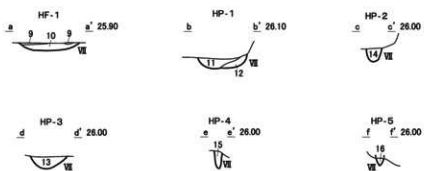




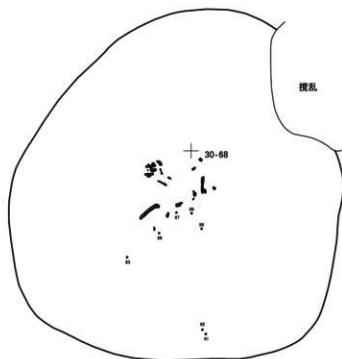
LH-22



图IV-2-52 LH-22 (1)



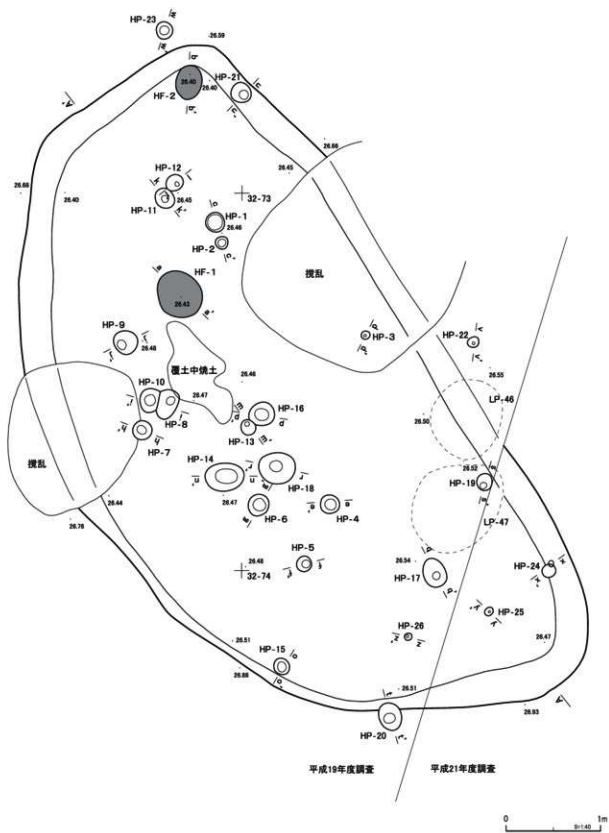
炭化材確認状況・遺物出土位置図



図IV-2-53 LH-22 (2)



LH-23



図IV-2-54 LH-23 (1)

**覆土** 第1層はV層主体、第2層はV・VI層主体である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉2か所（HF-1・2）、軸上の土坑と考えるもの2か所（HP-14・18）、柱穴・杭穴24か所（HP-1～13・15～17・19～26）を確認した。HP-8と10、HP-11と12、HP-13と16はそれぞれ接する。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

#### LH-24 (図57 図版23)

**位置** 24・25-62・63区

**規模** 4.13×3.70 / 3.68×3.29 / 0.46m **平面形態** 円形

**確認** 包含層調査中、V層でEn-a軽石が混じる黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

**調査** トレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。

**覆土** 第1層はV層主体で上位に厚く堆積し、第2層はVI・VII層主体である。

**床面・壁** 床面はやや東側が低く、壁は曲線的な立ち上がりである。

**付属遺構** 地床炉2か所（HF-1・2）、先端部ビット1か所（HP-7）、柱穴・杭穴6か所（HP-1～6）を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面の遺物で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (愛場)

#### LH-25A (図58 図版24)

**位置** 24-64、25-63・64区

**規模** (3.97)×3.33 / (3.70)×3.01 / 0.33m **平面形態** 楕円形

**確認** 包含層調査中、V層で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを先行して掘り下げながら周囲を掘り広げた。黒色土である覆土第1層中で土器2個体と炭化材、焼土認められたので、これの付近を床面と判断した。

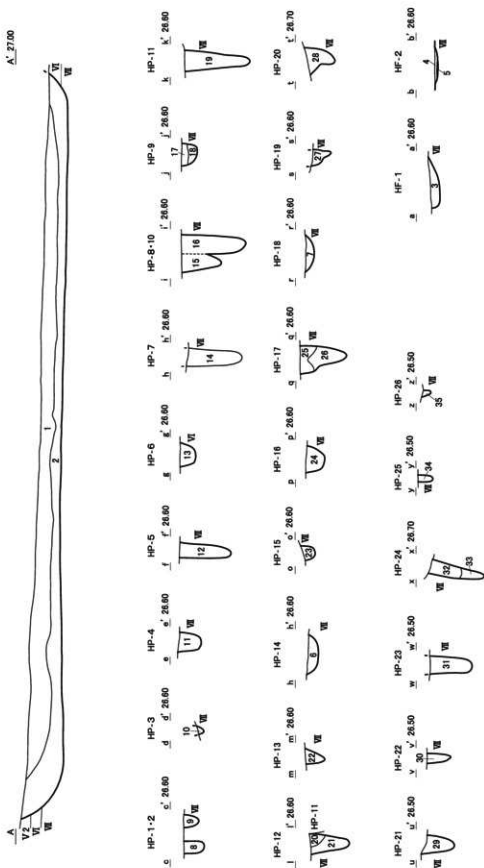
**調査** 土層断面や遺物の出土位置を記録し、床面まで掘り下げ完掘した。床面は黒色土層中であるので、さらにトレンチを掘り下げたところ、別の住居構造を確認しこれをLH-25Bとした。本住居跡はLH-25Bのくぼみに構築されたと判断する。

**覆土** 覆土はV層主体である。

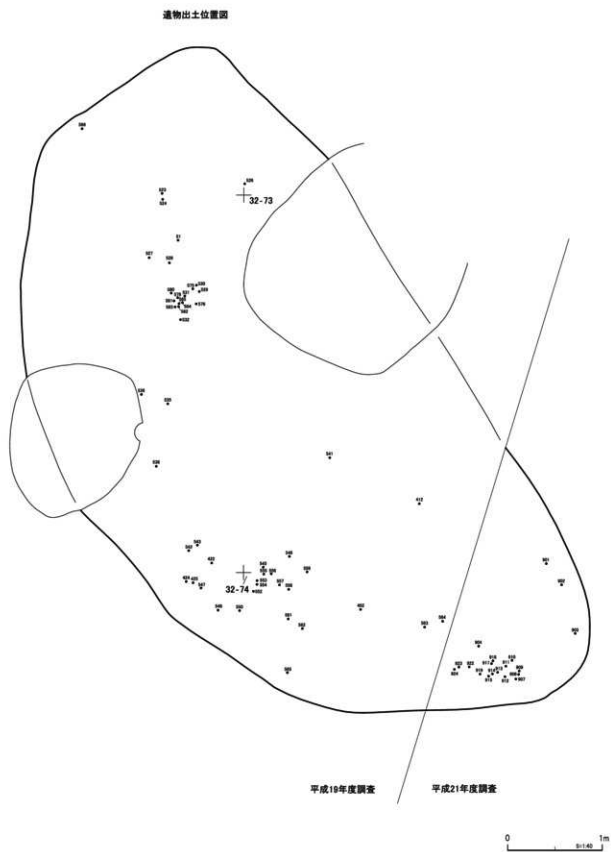
**床面・壁** 床面は中央がくぼみ、壁は曲線的に立ち上がる。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前半である。 (広田)



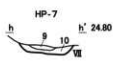
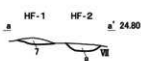
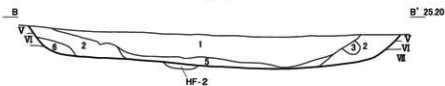
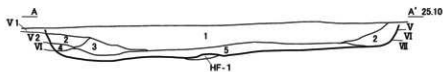
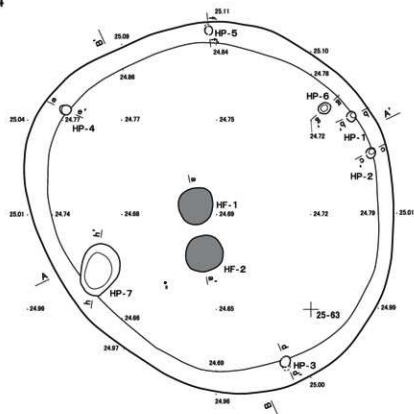
圖IV-2-55 L H-23 (2)



図IV-2-56 LH-23 (3)



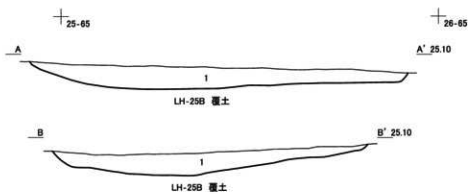
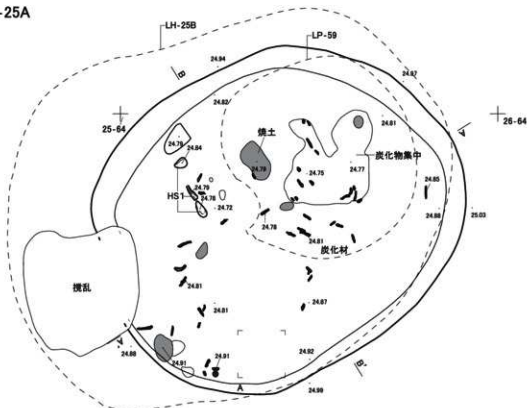
LH-24



图IV-2-57 LH-24



LH-25A

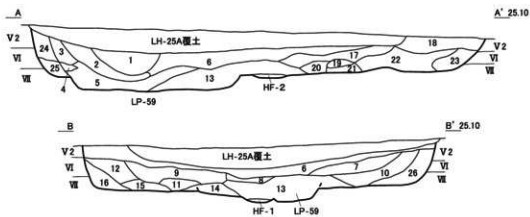
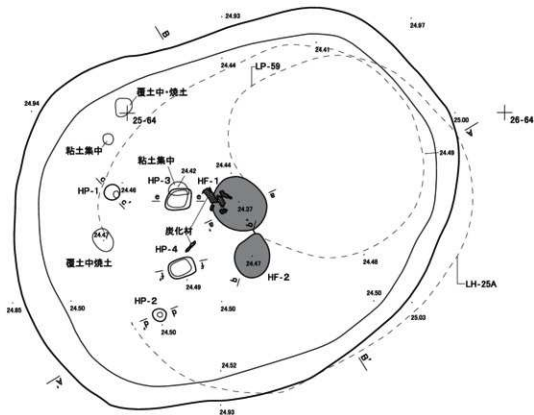


図IV-2-58 LH-25A





LH-25B



0 1m  
1:40

図IV-2-59 LH-25B (1)

## LH-25B (図59・60 図版25)

位置 24・25-63・64区

規模 4.93×3.91 / 4.33×3.35 / 0.55m 平面形態 楕円形

確認 LH-25Aの調査完了後、トレンチを掘り下げたところVII層で床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

調査 トレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。床面を検出したところ、床面で円形の黒色土があり、これをLP-59とし、同時に調査を行った。覆土が連続しており、段構造の可能性もある。

覆土 第1層はV層主体で上位はLH-25Aの床面と接する。

床面・壁 床面は凹凸があり、壁は直立気味に立ち上がる。

付属遺構 地床炉2か所(HF-1・2)、軸上の土坑と考えられるものを2か所(HP-3・4)、柱穴・杭穴2か所(HP-1・2)、粘土集中2か所を調査した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-26 (図61・62 図版26)

位置 31-70~72、32-70区

規模 9.40×(3.46) / 9.14×(3.11) / 0.26m 平面形態 楕円形?

確認 LH-16・17の調査時に、壁に別遺構と考えられた覆土を確認した。両住居跡の間にベルトを設けこれに沿ってトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認した。

調査 トレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。LH-16・17とLP-54に切られ、「く」の字の形状を確認した。

覆土 第1a・1b層はV・VI層主体、最下層の第1c層はV層主体である。

床面・壁 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構

柱穴・杭穴5か所(HP-1~5)を確認した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

## LH-27 (図63~65 図版26・27)

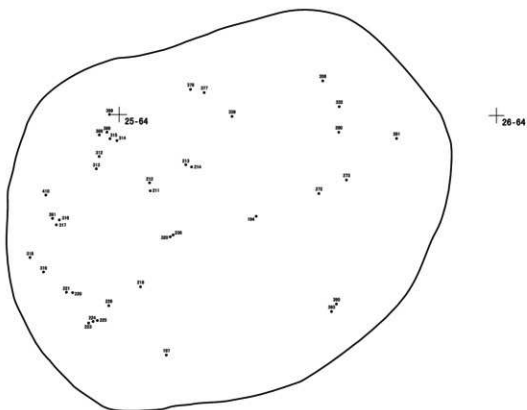
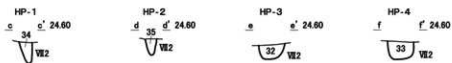
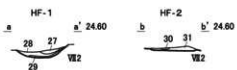
位置 33・34-68~70区

規模 7.54×4.75 / 7.08×4.37 / 0.66m 平面形態 楕円形

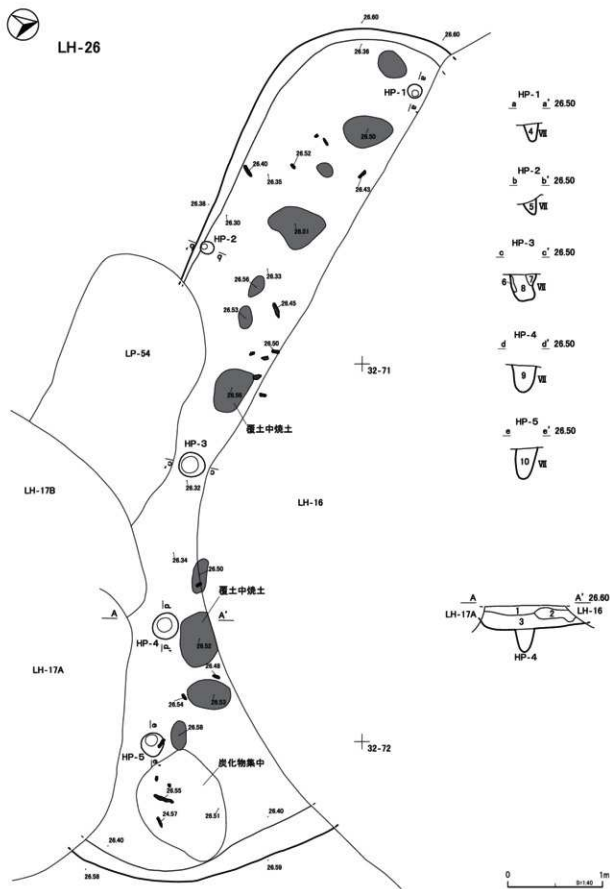
平成19(2007)年度に南壁部分を、平成21(2009)年度に北側主体部分を調査した。

確認 平成19年度包含層調査中、V層面で黒褐色土がみられた。トレンチを掘り下げたところ、壁の立ち上がりを確認した。住居跡の主体部分は北側にあると予想された。平成21年度はV層上面でくぼみがみられた。

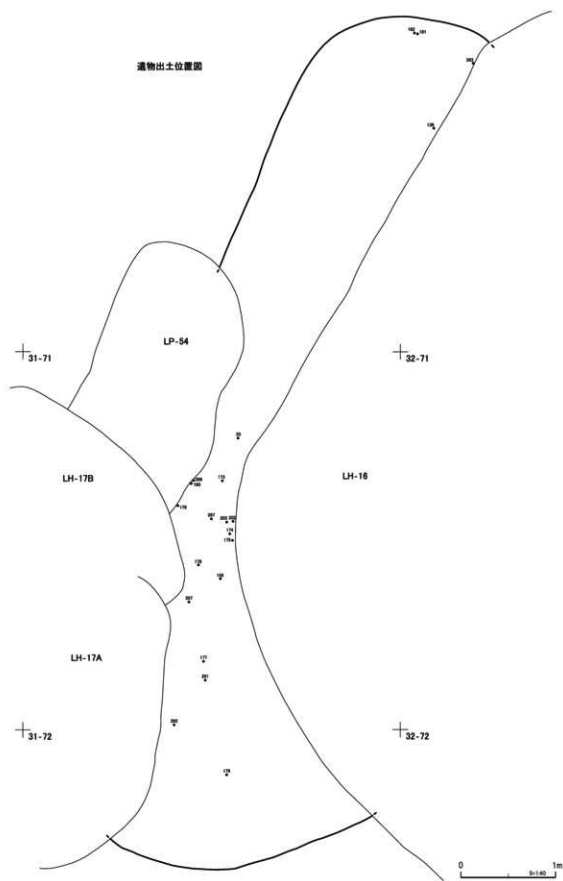
調査 両年度ともに先行トレンチを設け、これを掘り広げて、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。



图IV-2-60 LH-25B (2)



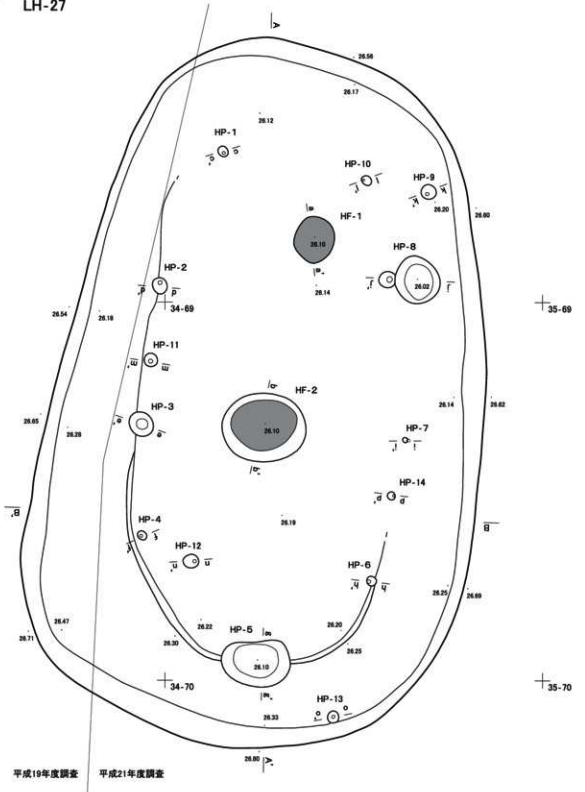
図IV-2-61 LH-26 (1)



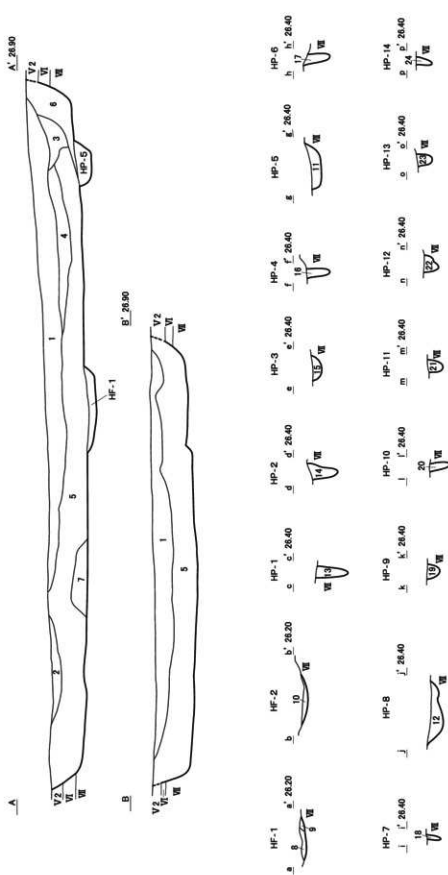
図IV-2-62 LH-26 (2)



LH-27



図IV-2-63 LH-27 (1)



圖IV-2-64 L H-27 (2)

**覆 土** 第1層は上位に堆積する黒色土層で、第2c層が主たる覆土である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、北東側～東側部分で段がみられ、南側へと段差がなくなる。壁は曲線的な立ち上りである。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)、掘り込みのある炉跡1か所(HF-2)、先端部ビット1か所(HP-5)、土坑(HP-8)、柱穴・杭穴12か所(HP-1～4・6・7・9～14)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。HP-5内では土器集中がみられた。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

#### LH-28 (図66・67 図版27)

**位 置** 34・35-65・66区

**規 模** 7.88×(4.96) / 7.36×(4.80) / 0.30m **平面形態** 不整な楕円形

**確 認** 平成19年度、包含層調査完了後、北側の調査区壁の断面に住居跡の覆土を確認した。この部分は住居跡を確認できなかった。平成21年度、V層上面でゆるやかなくぼみを確認した。トレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

**調 査** トレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。北東側はLH-29に切られ、LH-34を切る。

**覆 土** 第1層はV層主体の黒色土で上位にあり、これより下位はV層・VI層を主体とする覆土である。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は開くように立ち上がる。南東側部分で段差を確認した。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)、掘り込みを有する炉跡1か所(HF-2)、柱穴・杭穴10か所(HP-1～10)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(越田 雅司)

#### LH-29・34 (図68・69 図版28・31)

**位 置** LH-29 35・36-65・66区 LH-34 35-65区

**規 模** LH-29 4.70×3.70 / 4.32×3.40 / 0.24m **平面形態** 楕円形

LH-34 (2.88)×(1.56) / (1.24)×(0.56) / 0.13m **平面形態** 円形?

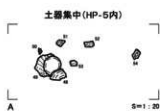
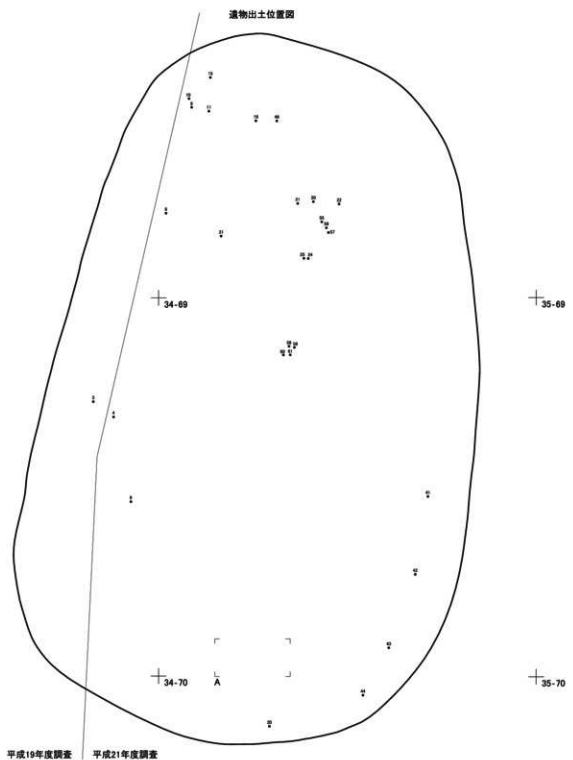
**確 認** LH-28調査中に北側と西側部分で別の遺構の覆土を認めた。ベルトを延長しトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。北側のものをLH-29とし、西側をLH-34とした。

**調 査** 両遺構ともトレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。LH-29はLH-28・34を切り、LH-34はLH-28・29に切られる。これらの住居跡の新旧関係は古い順からLH-34、LH-28、LH-29である。

**覆 土** LH-29は第1層がV層主体、下位は褐色土、黄褐色土層がみられる。LH-34は褐色土が主である。

**床面・壁** LH-29の床面は概して平坦、壁は大きく開くように立ち上がる。LH-34の床面は平坦で、壁の立ち上がりは曲線的である。

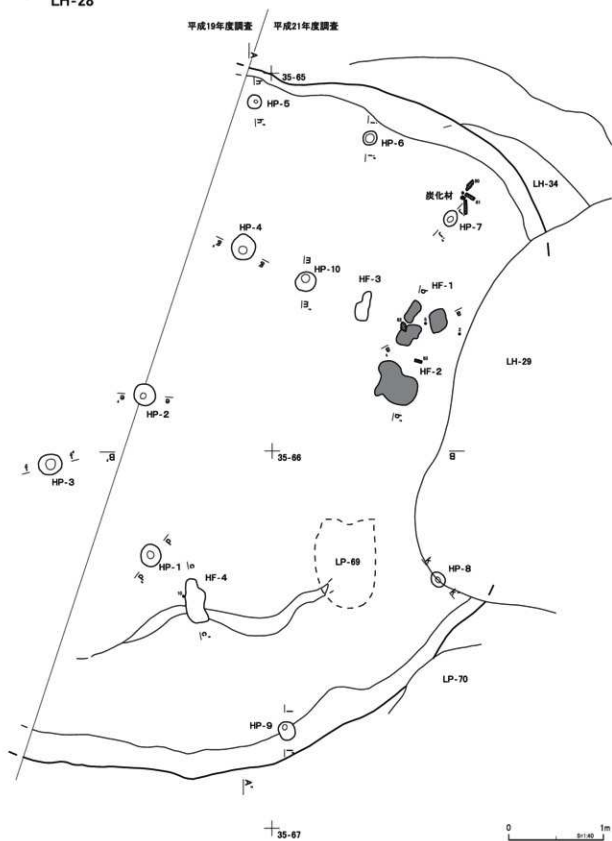




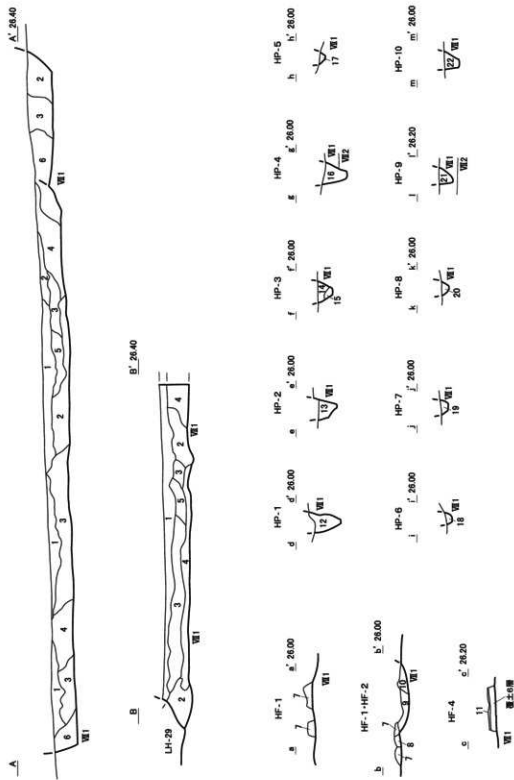
図IV-2-65 LH-27 (3)



LH-28



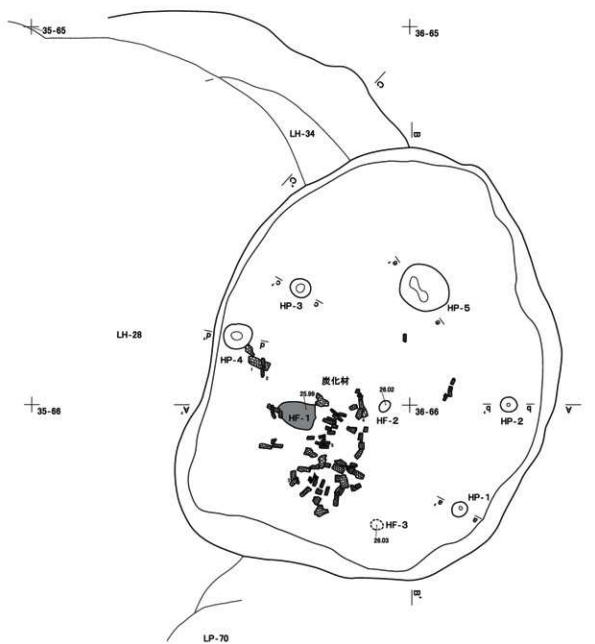
図IV-2-66 LH-28 (1)



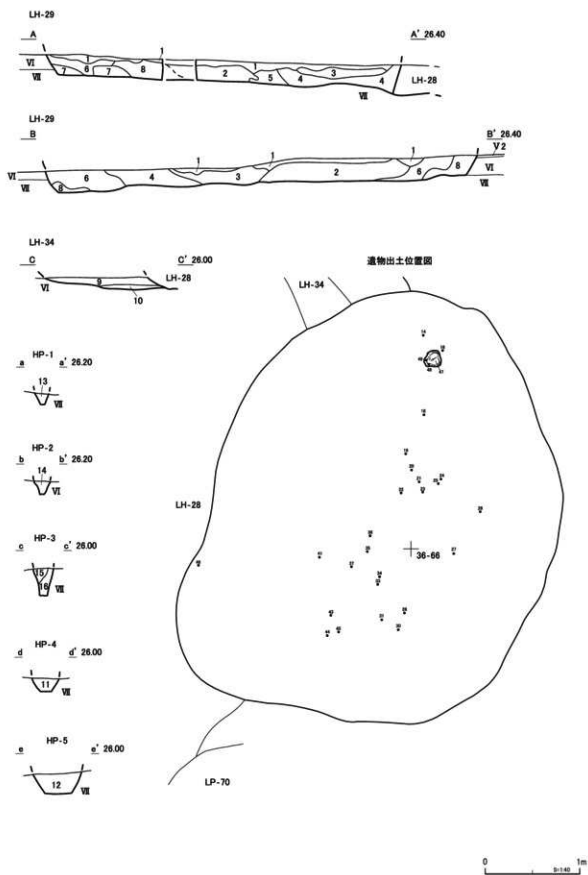
圖IV-2-67 L H-28 (2)



LH-29・34



図IV-2-68 LH-29・34 (1)



圖IV-2-69 LH-29·34(2)

## 付属遺構

LH-29では地床炉1か所(HF-1)、先端ピット1か所(HP-4)、土坑1か所(HP-5)、柱穴・杭穴3か所(HP-1~3)を確認した。LH-34ではみられなかった。

**遺物出土状況** LH-29では概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。LH-34の遺物は層ごとに取り上げた。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(越田)

LH-30 (図IV70・71 図版29)

**位置** 32・33-72・73区

**規模** (3.14)×(3.30) / (2.28)×(2.27) / 0.36m **平面形態** 楕円形

**確認** 平成21年度、包含層調査中、Ⅶ層上面で黒色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。

**調査** トレンチを掘り広げ、土層断面と遺物の出土位置を記録し完掘した。南側部分は平成19年度調査区で、その時点では遺構は確認できなかった。

**覆土** 第1層はⅤ層主体で上部あり、Ⅴ・Ⅵ層主体の第2層が下位に堆積する。

**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 地床炉1か所(HF-1)、軸上の土坑1か所(HP-9)、柱穴・杭穴8か所(HP-1~8)を調査した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

LH-31・35 (図72・73 図版30)

**位置** LH-31 35・36-71区 LH-35 35-71・72区

**規模** LH-31 4.34×3.70 / 3.76×3.28 / 0.28m **平面形態** 楕円形  
LH-35 (3.56)×(2.12) / (3.40)×(1.92) / 0.26m **平面形態** 円形?

**確認** 包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられた。ベルトを設定し周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した(LH-31)。LH-31東側壁で別の遺構の覆土がみられたので、トレンチを掘り下げ、床面と壁の立ち上がりを確認した(LH-35)。

**調査** 両住居跡の調査は同時に行い、土層断面と遺物の出土位置を記録し、ベルトを掘り下げ完掘した。LH-31がLH-35を切る。

**覆土** ともに上位にⅤ2層があり、覆土最下層は、LH-31は黄褐色土層、LH-35はⅥ層主体である。

**床面・壁** ともに床面は概して平坦で、壁は大きく開くように立ち上がる。

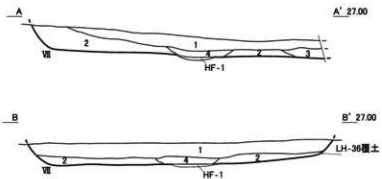
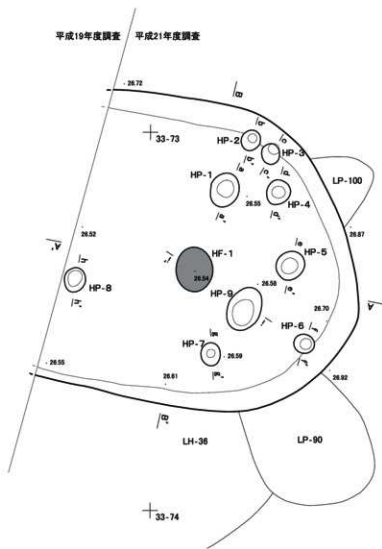
**付属遺構** LH-31は、掘り込みを有する地床炉跡2か所(HF-1・2)、重複する土坑と柱穴を1か所(HP-2)、柱穴・杭穴7か所(HP-1・3~8)を、LH-35は地床炉1か所(HF-1)、柱穴・杭穴2か所(HP-1・2)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土した。

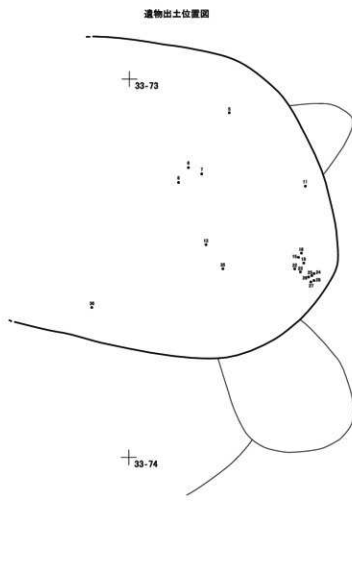
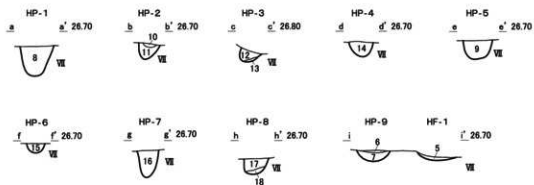
**時期** 出土遺物から縄文時代中期後半で、LH-31がLH-35よりも新しい。(越田)



LH-30



図IV-2-70 LH-30 (1)

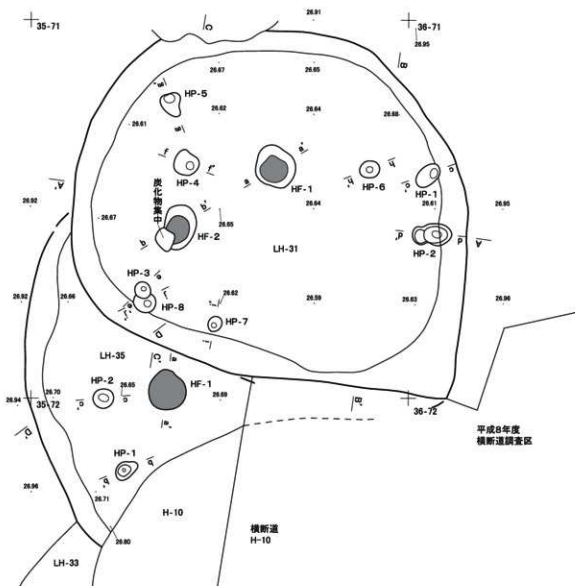


図IV-2-71 LH-30 (2)

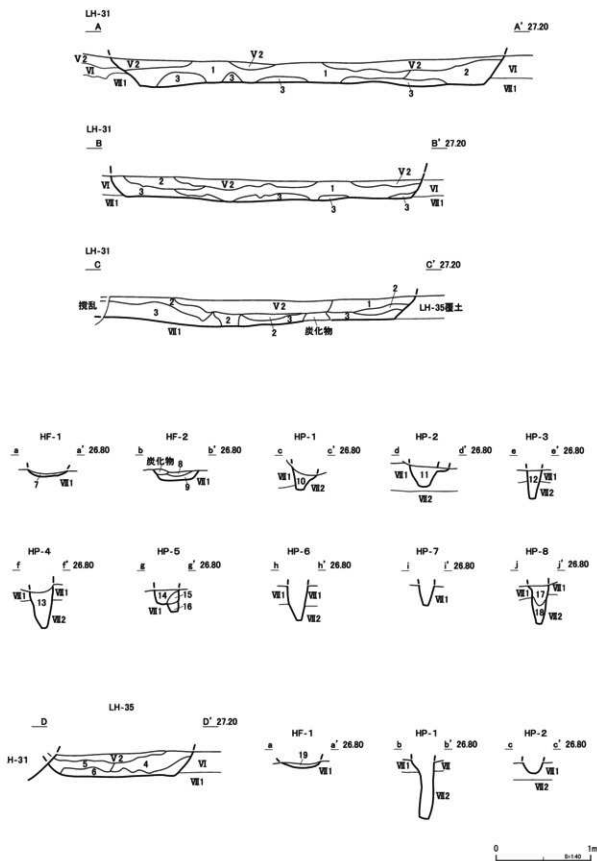




LH-31・35



図IV-2-72 LH-31・35 (1)



図IV-2-73 LH-31・35(2)

LH-32・38 (図74 図版31・33)

- 位置 LH-32 35-69区 LH-38 35-69・70区
- 規模 LH-32 2.22×(1.89) / (2.03)×(1.77) / 0.16m 平面形態 円形  
LH-38 (1.30)×(0.42) / (1.24)×(0.37) / 0.09m 平面形態 円形?
- 確認 LH-32は、包含層調査中に褐色土がみられ、ベルトを残し周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。LH-38は包含層調査完了後、Ⅶ層上面で焼土がみられたので、付近を精査したところ、覆土と壁の立ち上がりを確認した。
- 調査 ともにトレンチを広げ全体を掘り完掘した。LH-32の北側、LH-38の西側は確認できなかった。ともに小型の住居跡で隣接すると推測する。
- 覆土 LH-32・LH-38ともにⅤ層主体の暗褐色土層である。
- 床面・壁 ともに床面は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。
- 付属遺構 LH-32は、地床炉1か所(HF-1)、柱穴・杭穴2か所(HP-1・2)を、LH-38は地床炉1か所(HF-1)を確認した。
- 遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土した。
- 時期 出土遺物から縄文時代後期後半である。(広田)

LH-33 (図75 図版31)

- 位置 34・35-72・73区
- 規模 (5.37)×(1.88) / (5.32)×(1.72) / 0.38m 平面形態 楕円形?
- 確認 H-10の調査中、南側壁で覆土がみられた。トレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。
- 調査 トレンチを掘り広げて完掘した。調査時点では西側をLH-35に、北側をH-10に切られると判断したが、調査区を接合した結果、平成8(1996)年度、調査のH-10の南側部分と判断する(Ⅶ章4節)。
- 覆土 第1層はⅤ層主体、下位は第2層でいずれもEn-a軽石が混じる。
- 床面・壁 床面は中央が低いと推測され、壁は曲線的に立ち上がる。
- 付属遺構 土坑1か所(HP-5)、柱穴・杭穴4か所(HP-1~4)を確認した。
- 遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。
- 時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(広田)

LH-36 (図76 図版32)

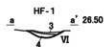
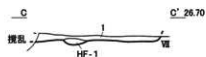
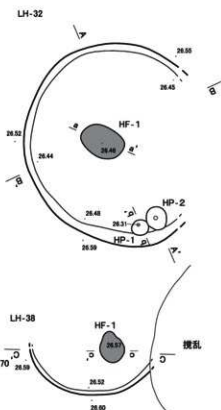
- 位置 32・33-73・74区
- 規模 (1.79)×(0.24) / (1.71)×(0.22) / 0.26m 平面形態 楕円形?
- 確認 LH-30調査中、東側の壁で別の遺構の覆土がみられた。東側方向のトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し住居跡と判断した。
- 調査 トレンチを掘り広げ完掘した。西側部分をLH-30に、南側をLH-23に切られる。
- 覆土 第1層は主たる覆土でⅤ層主体、第2層が壁際に三角堆積する。
- 床面・壁 床面は概して平坦で、壁の立ち上がりは曲線的である。
- 付属遺構 地床炉2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴3か所(HP-1~3)を確認した。



LH-32・38

+ 35-60

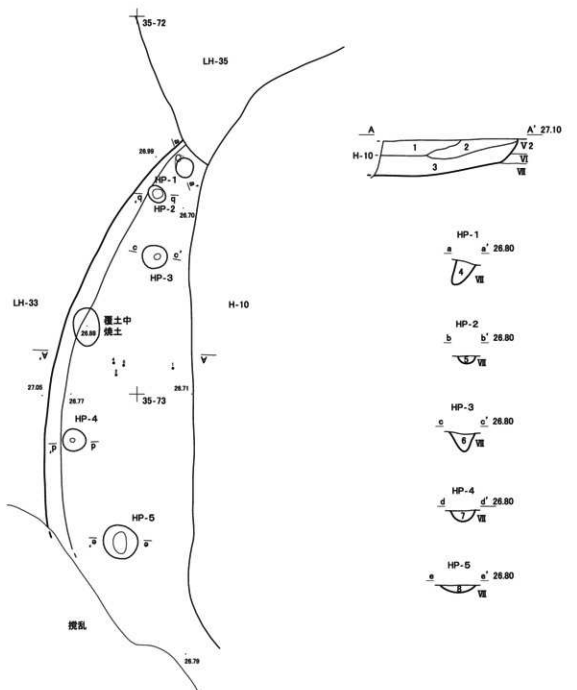
+ 38-60



図IV-2-74 LH-32・38



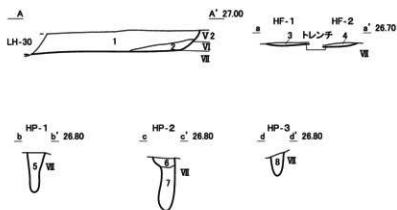
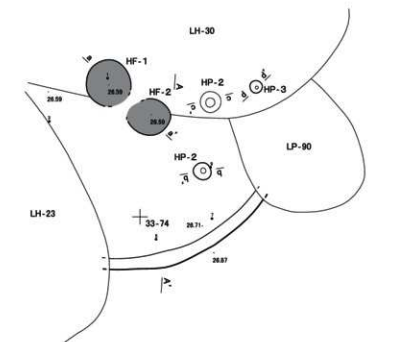
LH-33



图IV-2-75 LH-33



LH-36



図IV-2-76 LH-36

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

LH-37 (図77 図版32)

**位 置** 33・34-71区

**規 模** (1.90)×(2.32) / (1.74)×(2.02) / 0.50m **平面形態** 楕円形

**確 認** 包含層調査中、V層中で黒褐土がみられた。ベルトを設け周囲を掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。

**調 査** 土層断面と遺物の出土位置を記録し、ベルトを掘り下げ完掘した。東側をLP-98に切られる。

**覆 土** 上位にあるV層主体の第1層は薄く、主たる覆土は第2層である。

**床面・壁** 床面は凹凸があり、壁は曲線的に立ち上がる。

**付属遺構** 先端部ビット1か所(HP-1)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

LH-39 (図78 図版33)

**位 置** 34・35-73・74区

**規 模** - × - / (2.58)×(1.28) / 0.08m **平面形態** 楕円形?

**確 認** LH-33とLP-74・88調査完了後、周囲の包含層調査中に覆土がみられた。ベルトを残し周囲を掘り下げたところ、床面を確認し遺構と判断した。

**調 査** 土層と遺物の出土位置を記録し完掘した。周囲は遺構や攪乱で切られるが、平坦な面と柱穴・杭穴を確認したので、住居跡と判断した。

**覆 土** 上位は明瞭にくぼみ、Ⅲ層・Ⅳ層がみられ、覆土第1・2層はV層主体である。

**床面・壁** 床面はやや凹凸があり、壁の立ち上がりは残っていなかった。

**付属遺構** 柱穴・杭穴2か所(HP-1・2)を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (広田)

H-7 (図79 図版33)

**位 置** 35-74区

**規 模** (1.38)×(0.30) / (0.84)×(0.08) / 0.26m **平面形態** 扇形

**確認・調査** 平成8年度の北海道横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財調査(北理調報116)で、H-7が本関連工事用地内に続くことが明らかであった。北側の調査区壁沿いに先行トレンチを設け掘り進め、壁際部分で立ち上がりを確認し完掘した。(Ⅶ章4節参照)

**覆 土** V層主体の黒色土である。

**床面・壁** 床面は本調査区内に無く、壁は曲線的に立ち上がる。

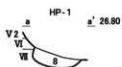
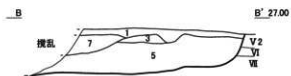
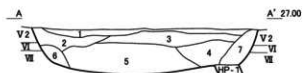
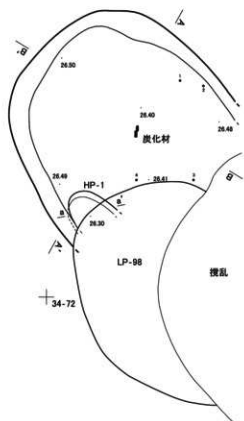
**遺物出土状況** Ⅲ群土器等が出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代中期後半である。 (愛場)



LH-37

+ 34-71

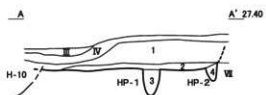
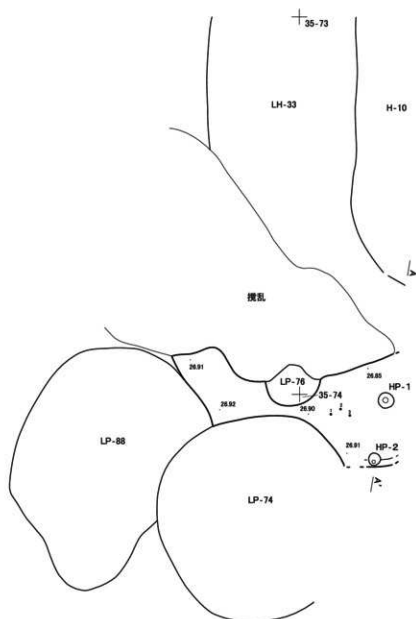


図IV-2-77 LH-37





LH-39

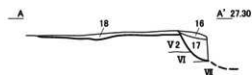
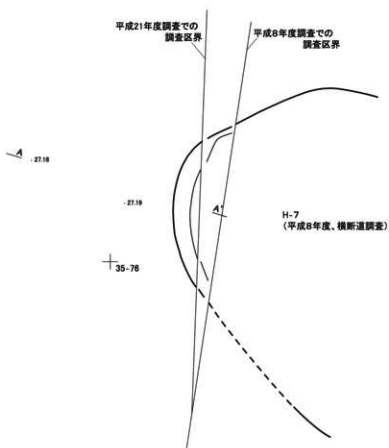


图IV-2-78 LH-39



H-7

+35.75

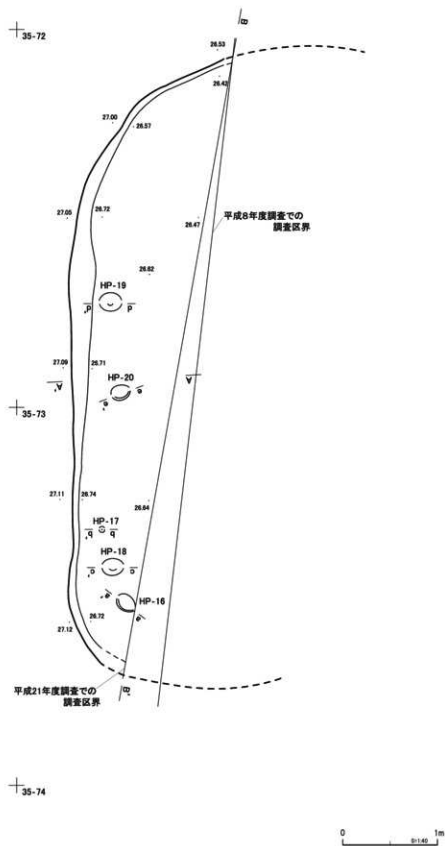


0 1m

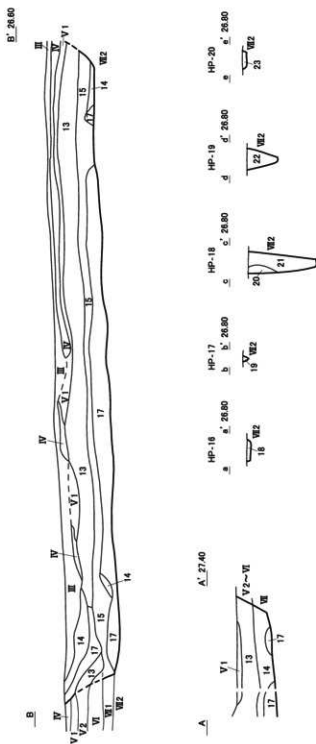
図IV-2-79 H-7



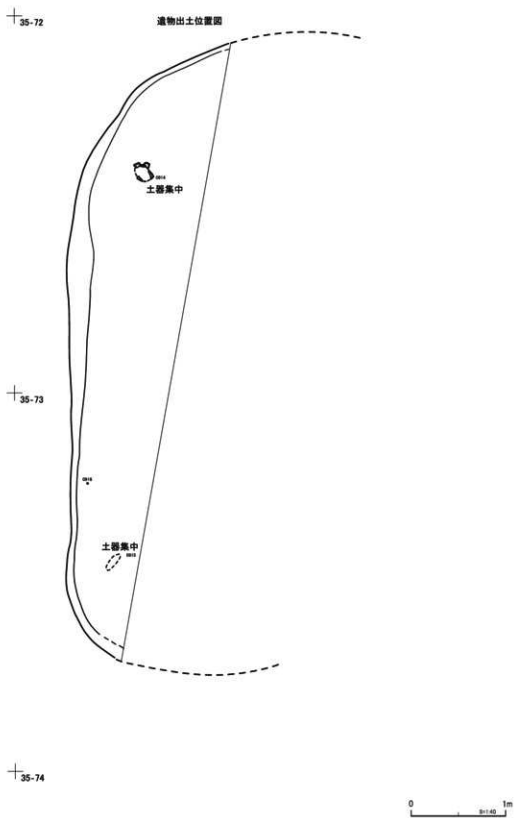
H-10



図IV-2-80 H-10 (1)



図IV-2-81 H-10 (2)



図IV-2-82 H-10 (3)

## H-10 (図80~82 図版33)

位置 35-72・73区

規模 (6.64)×(3.34) / (6.38)×(1.18) / 0.64m 平面形態 楕円形

確認・調査 平成8年度の北海道横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財調査(北埋調報116)で、H-10が本関連工事用地内に続くことが明らかであった。北側の調査区壁沿いに先行トレンチを設け掘り進めたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し完掘した。(Ⅶ章4節参照)

覆土 B層、BY層、YB層、Y層と色調により大別し、必要に応じ細分した。by層は先行トレンチの断面の東側部分で別の遺構の覆土と判断した層である。

床面・壁 床面は西側部分が若干低く、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、床面出土で残存状態が良好なものについて出土位置を図示した。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。

(末光)

## 3. 土坑・小土坑 (図IV-3-1~34 表IV-1-3・4 図版34~46)

土坑103基(LP-1~103)、小土坑2か所(LSP-1・2)を確認した。多くが縄文時代中期後半である。平坦部の北東側部分に集中し西側は少ない。

規模は、長径2mを超える大型、1~2m程度の中型、1m以下の小型に大別できる。平面は円形、楕円形が多く、底面は平坦なものが多い。また壁の立ち上がりは直線的なもの、曲線的なものがある。覆土は、V層主体でVI・VII層が混じる黒色~暗褐色土が多く、これにEn-a軽石が混じるものもある。

付属遺構は大型のものにあり、焼土、土坑、柱穴・杭穴、土器集中、フレイク・チップ集中、礫集中等がある。焼土は覆土中にあるものが14基(LP-13・16・30・33・38・51・56・58・59・64・65・74・88・89)、底面が被熱するものが8基(LP-13・16・23・38・39・44・55・74)あり、後者の多くは炉跡と考える。土坑や柱穴・杭穴を確認したものは8基(LP-3・16・23・32・39・50・74・88)ある。土器集中を確認したものは9基(LP-4・25・27・33・38・44・52・53・59)で、全てⅢ群土器で一個体のもの、複数の個体が出土したものがある。

遺物はⅢ群土器が多く、石器等は少ない。層位は覆土出土のものが多く、坑底から出土するものは少ない。遺物は出土位置を記録して取り上げ、坑底出土や残存状態が良い遺物を図示した。

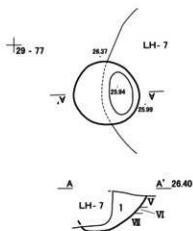
小土坑は、29-78・79区で2基確認した。長径約0.3mで平面形態は円形、覆土はV層主体の黒色土である。

大型の土坑は、炉跡である焼土や柱穴・杭穴等の付属遺構がみられるものは、小型の住居跡、土器集中等がまとまって出土するものは墓墳の可能性を考える。

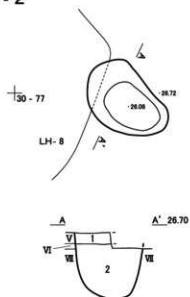
また、小型の土坑(LP-76・78)と小土坑(LSP-1・2)は小柱穴と考える。小柱穴は平成19(2007)年度の調査終盤で確認し、これらはそれ以前に単独の遺構との認識で調査したものである。(広田)



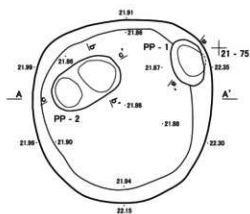
LP-1



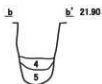
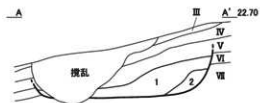
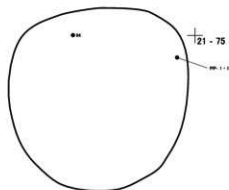
LP-2



LP-3



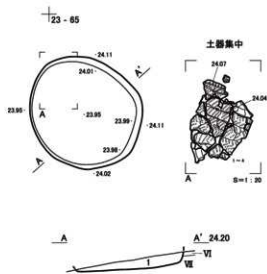
遺物出土位置圖



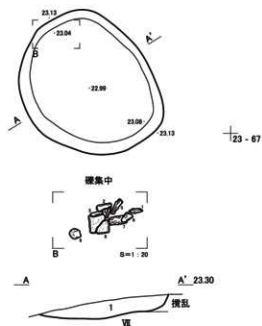
圖IV-3-1 LP-1~3



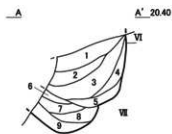
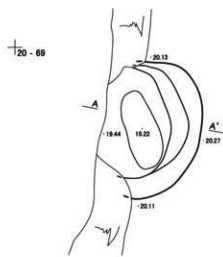
LP-4



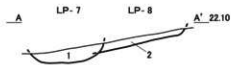
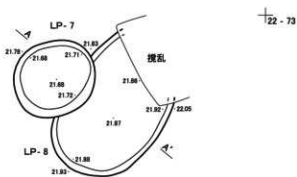
LP-5



LP-6



LP-7・8



0 1m  
1:40

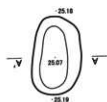
図IV-3-2 LP-4~8





LP-9

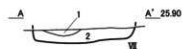
+26 - 73



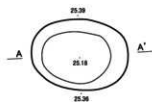
LP-10



+27 - 76



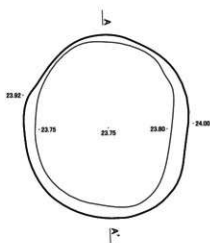
LP-11



+26 - 73

LP-14

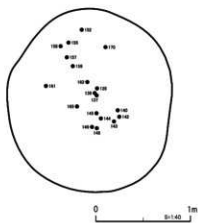
+16 - 58



+16 - 58



遺物出土位置圖

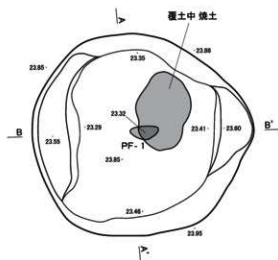


圖IV-3-3 LP-9~11·14



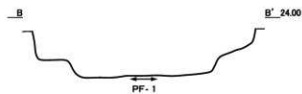
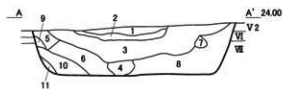
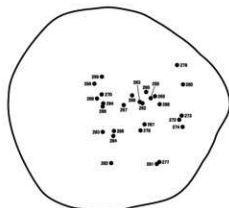
LP-13

+17-57



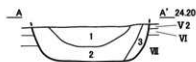
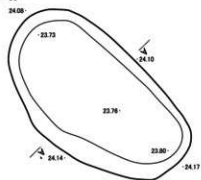
+17-57

遺物出土位置図



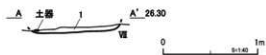
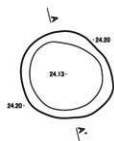
LP-15

+22-55



LP-17

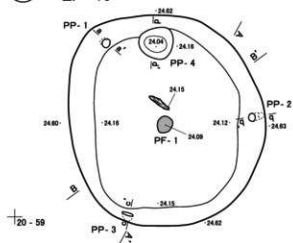
+18-58



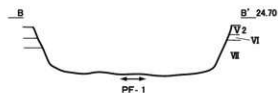
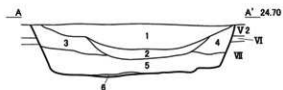
図IV-3-4 LP-13・15・17



LP-16

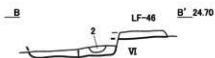
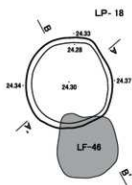


遺物出土位置圖



LP-18

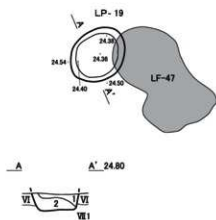
20-58



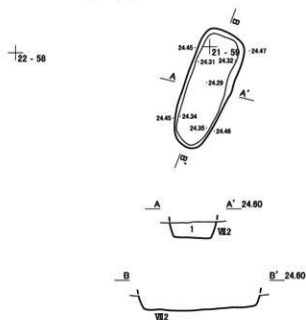
圖IV-3-5 LP-16·18



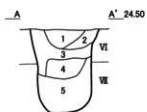
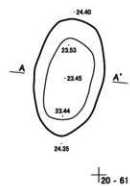
LP-19



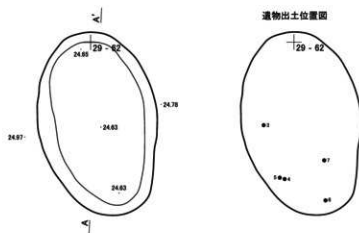
LP-20



LP-21



LP-22

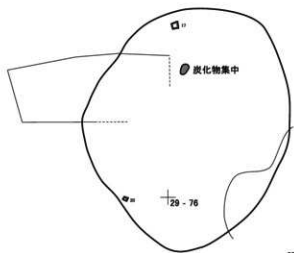
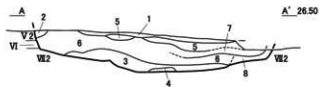
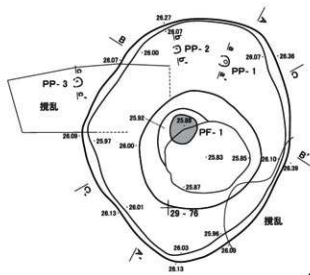


0 1m  
0:1=40

図IV-3-6 LP-19~22



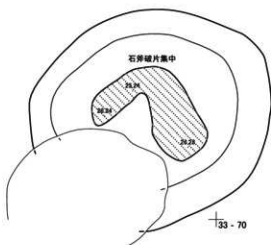
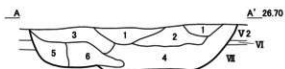
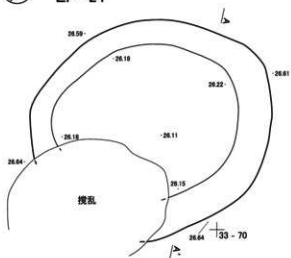
LP-23



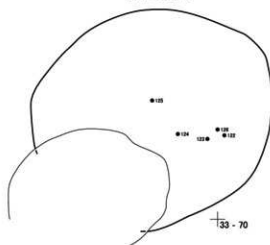
图IV-3-7 LP-23



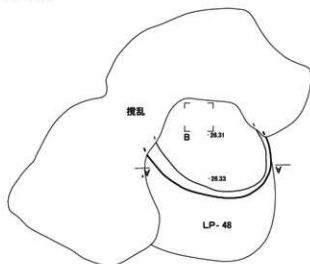
LP-24



遺物出土位置図



LP-25



土器集中 PPS-1



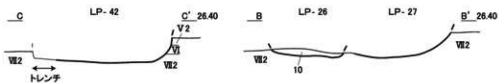
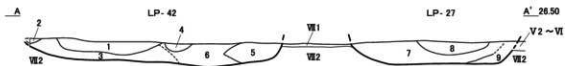
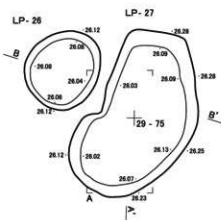
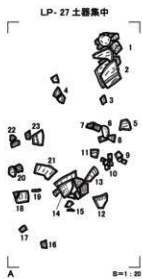
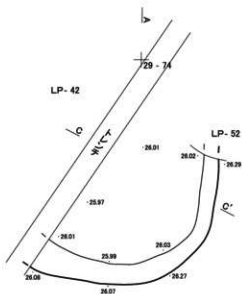
33-71

0 1m  
S=1:40

図IV-3-8 LP-24・25



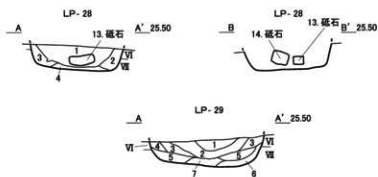
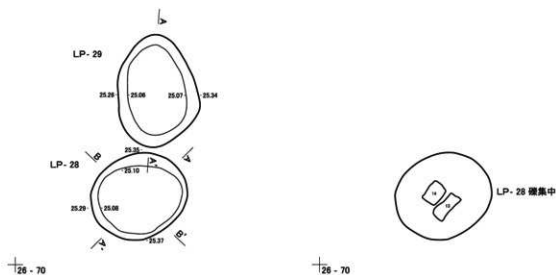
LP-26・27・42



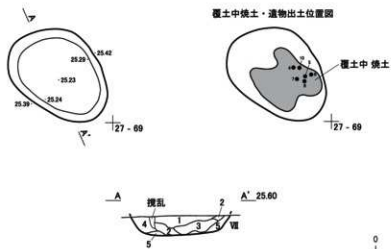
図IV-3-9 LP-26・27・42



LP-28・29



LP-30

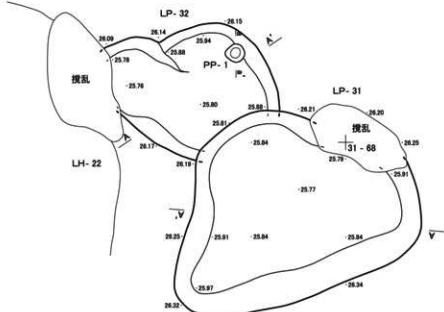


図IV-3-10 LP-28~30

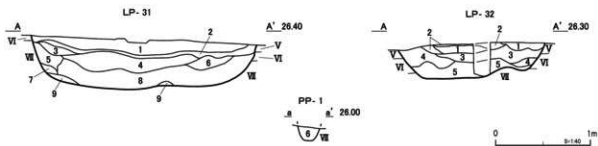
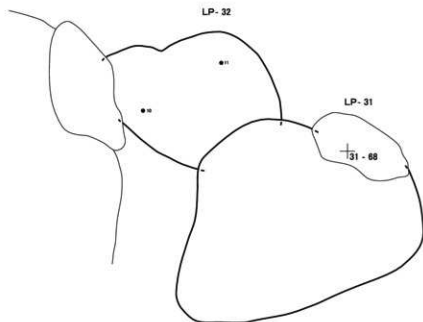




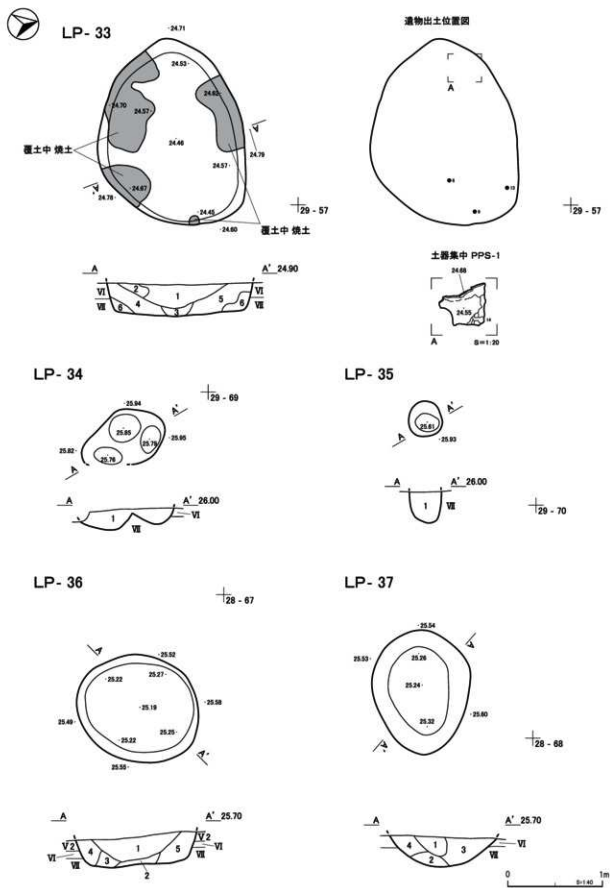
LP-31·32



遺物出土位置圖



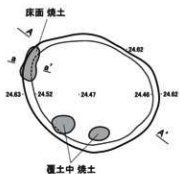
圖IV-3-11 LP-31·32



図IV-3-12 LP-33~37



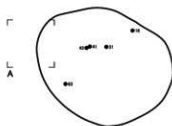
LP-38



±22-57



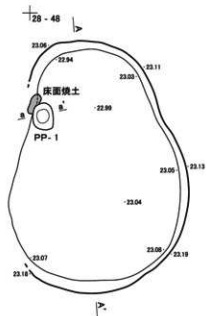
遺物出土位置圖



±22-57



LP-39



遺物出土位置圖

±28-48

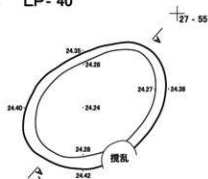


0 1m

圖IV-3-13 LP-38·39



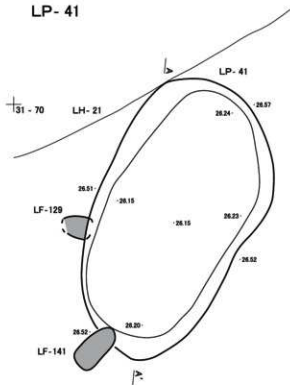
LP-40



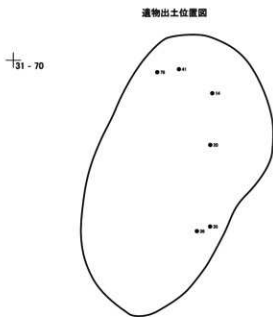
遺物出土位置図



LP-41



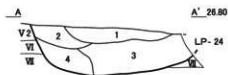
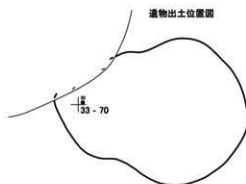
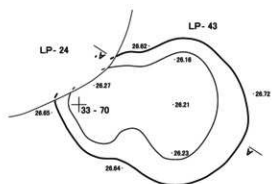
遺物出土位置図



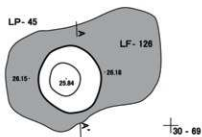
図IV-3-14 LP-40・41



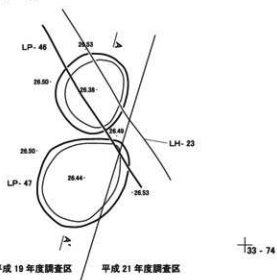
LP- 43



LP- 45



LP- 46・47



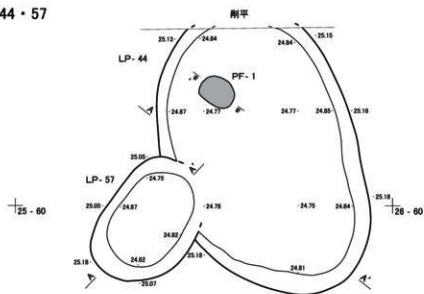
平成 19 年度調査区      平成 21 年度調査区



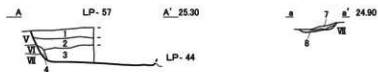
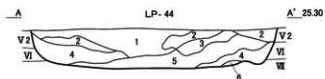
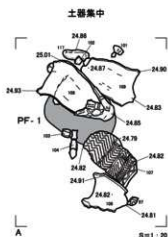
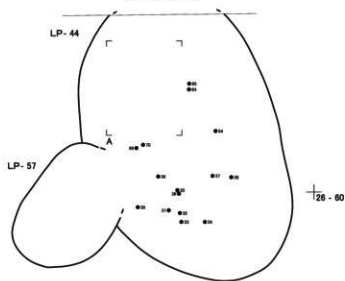
図IV-3-15 LP-43・45~47



LP-44・57



遺物出土位置図

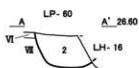
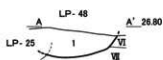
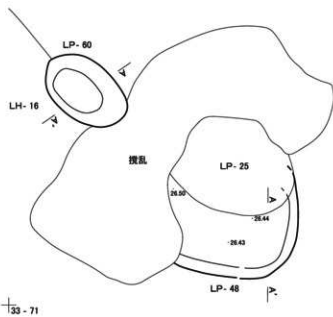


0 1m

図IV-3-16 LP-44・57

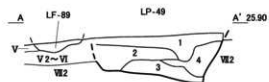
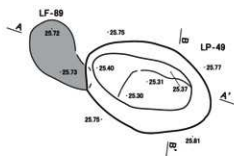


LP-48·60



LP-49

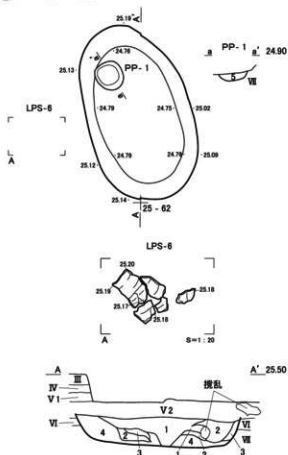
27-68



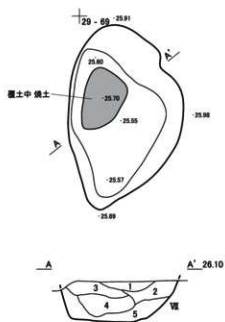
图IV-3-17 LP-48·49·60



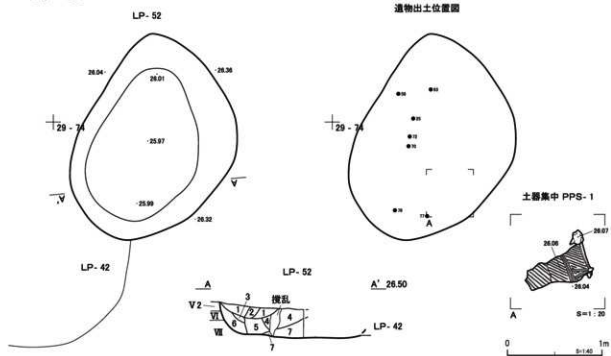
LP-50



LP-51



LP-52

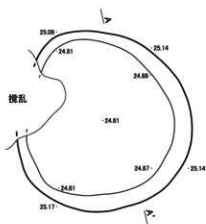


図IV-3-18 LP-50~52

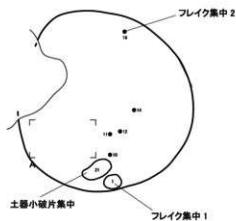




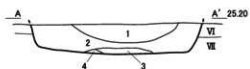
LP- 53



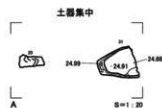
遺物出土位置図



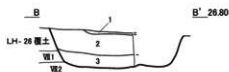
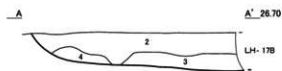
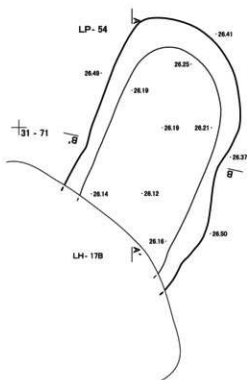
26 - 65



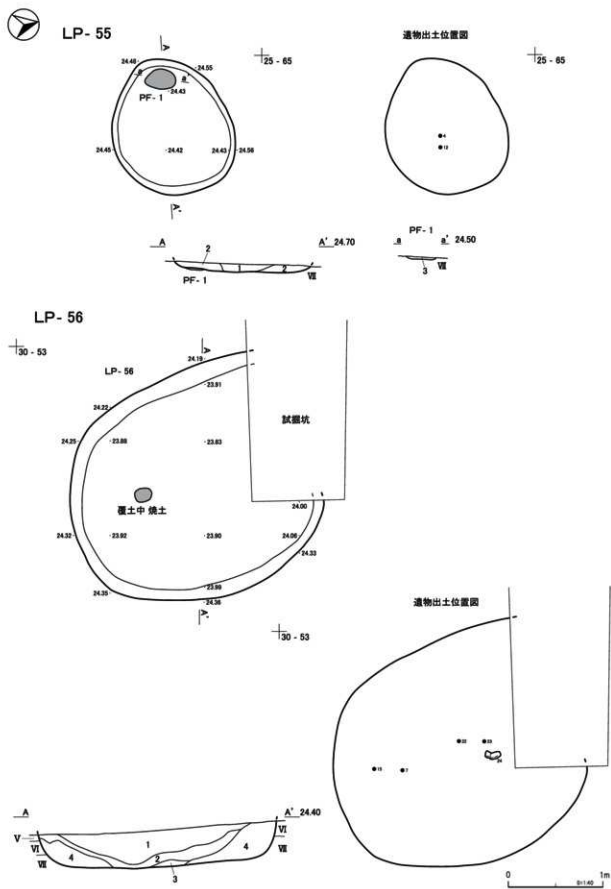
26 - 65



LP- 54



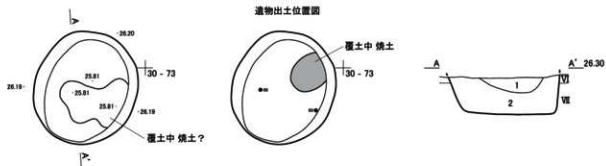
図IV-3-19 LP-53・54



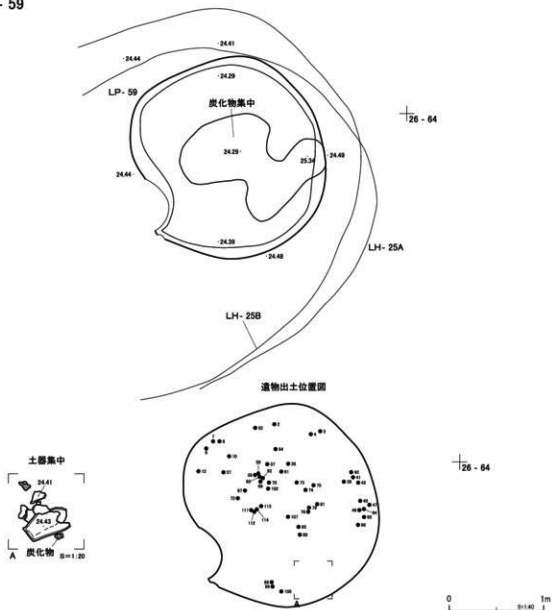
図IV-3-20 LP-55・56



LP-58



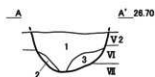
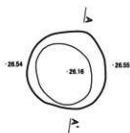
LP-59



圖IV-3-21 LP-58・59

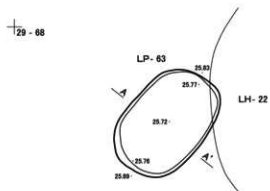


LP- 61

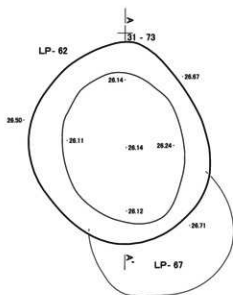


30 - 74

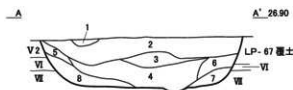
LP- 63



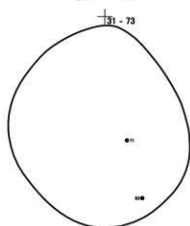
LP- 62



31 - 74



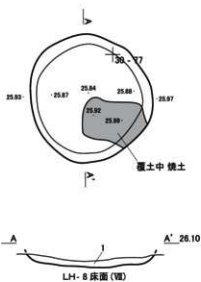
遺物出土位置図

0 1m  
1:100

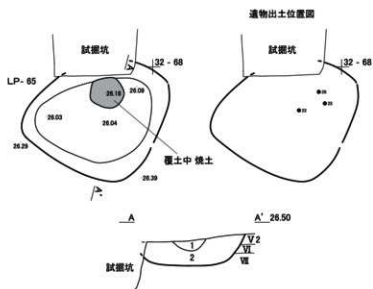
図IV-3-22 LP-61~63



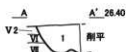
LP- 64



LP- 65



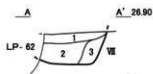
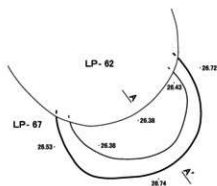
LP- 66



LP- 67

31 - 73

32 - 68



0 1:140 1m

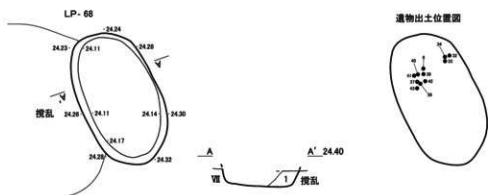
圖IV-3-23 LP-64~67



LP-68

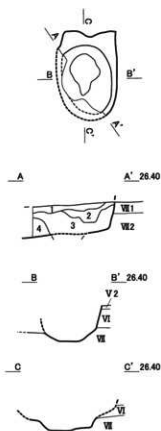
±25-55

±25-55

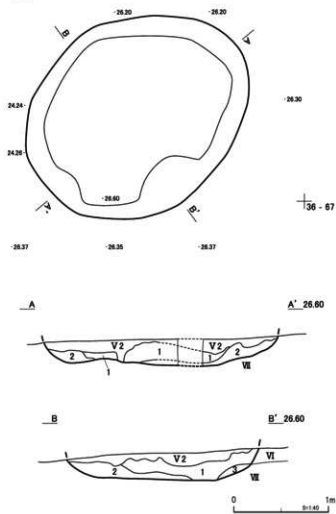


LP-69

±35-66



LP-70

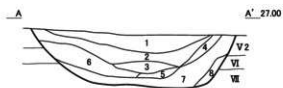
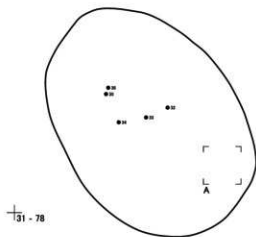
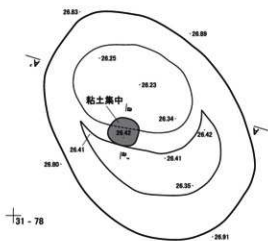


図IV-3-24 LP-68~70



LP-71

遺物出土位置圖

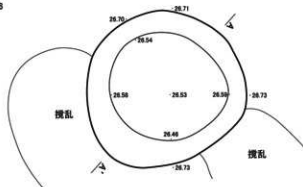


LP-72

34-78

LP-72

35-78



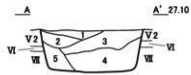
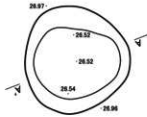
圖IV-3-25 LP-71·72



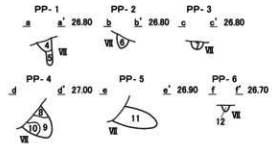
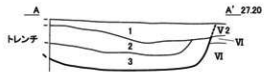
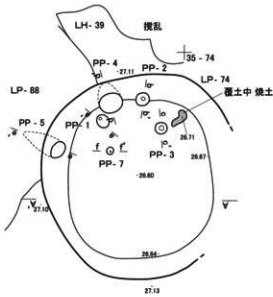
LP-73

33-78

34-78

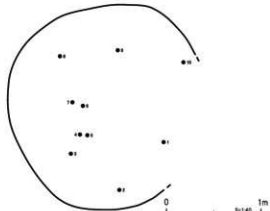
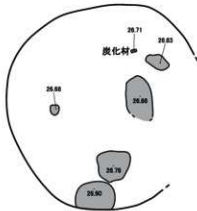


LP-74



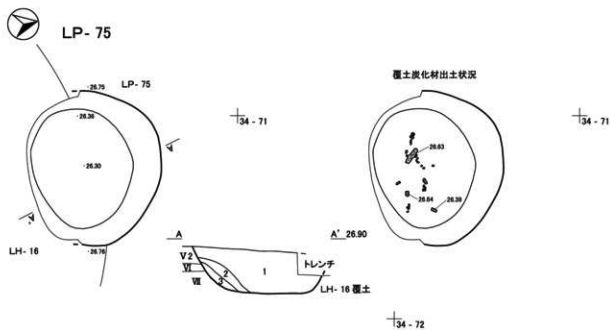
覆土中焼土 35-74

遺物出土位置図 35-74

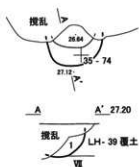


図IV-3-26 LP-73・74

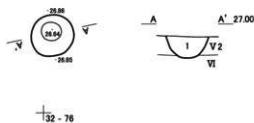




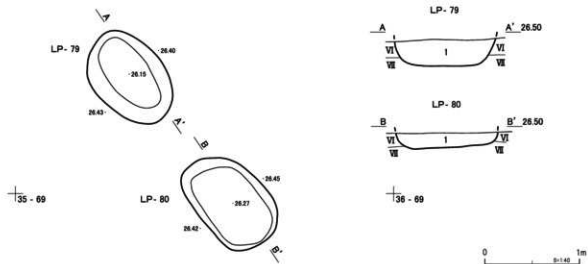
LP-76



LP-78



LP-79・80

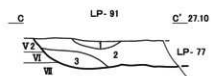
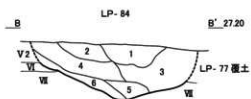
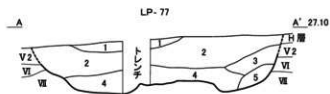
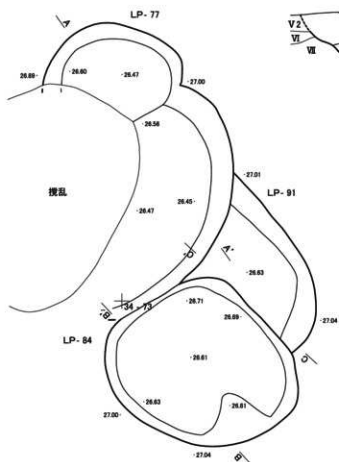


図IV-3-27 LP-75・76・78~80

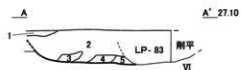
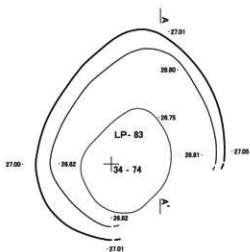


LP-77・84・91

34-72



LP-81

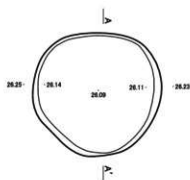


0 5+10 1m

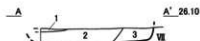
図IV-3-28 LP-77・81・84・91



LP- 82

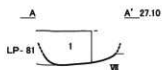
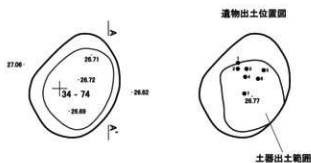


±34 - 68



±35 - 68

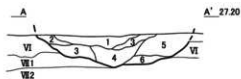
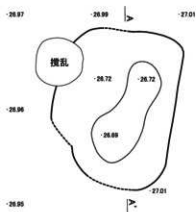
LP- 83



LP- 81

LP- 85

±36 - 71



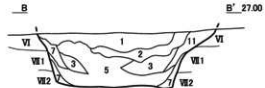
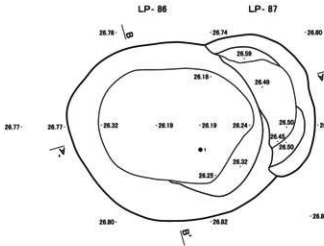
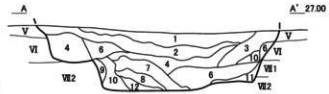
0 1m  
1:140

圖IV-3-29 LP-82·83·85

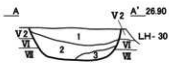
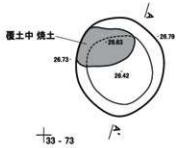


LP-86・87

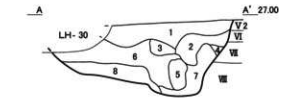
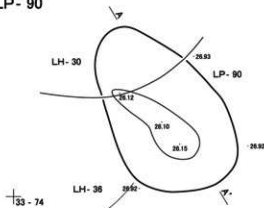
35-70



LP-89



LP-90

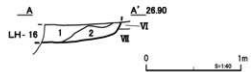


LP-92

33-72



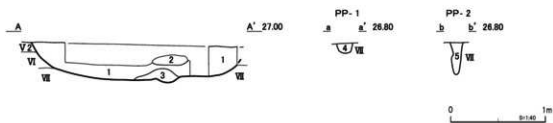
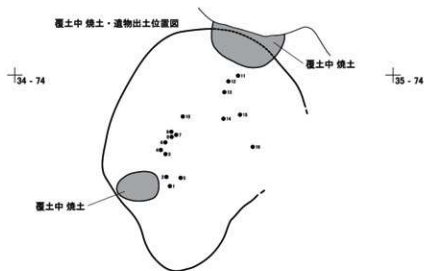
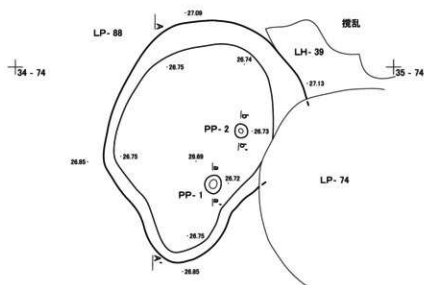
34-72



図IV-3-30 LP-86・87・89・90・92



LP-88

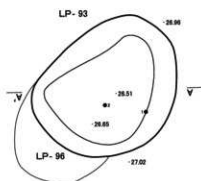


图IV-3-31 LP-88

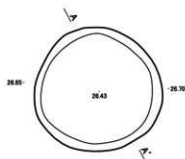


LP-93

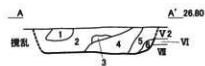
±33-74



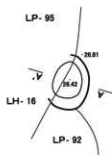
LP-94



±31-78



LP-95



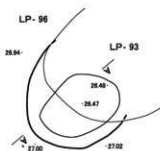
±34-72



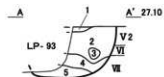
LP-96

±33-74

±33-74



遺物出土位置図

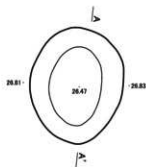


0 1m

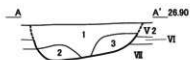
図IV-3-32 LP-93~96



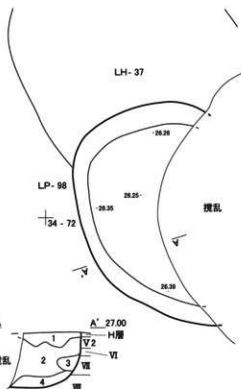
LP- 97



±34 - 71



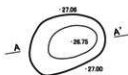
LP- 98



±34 - 72



LP- 99



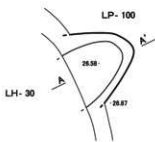
±33 - 75



±34 - 75

LP- 100

±33 - 73



±34 - 73



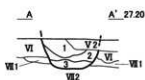
图IV-3-33 LP-97~100



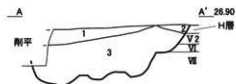
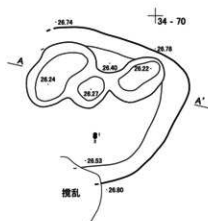
LP- 101



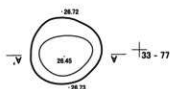
+ 36 - 72



LP- 102



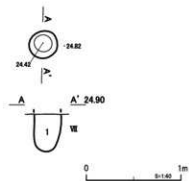
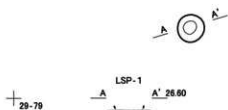
LP- 103



LSP-2

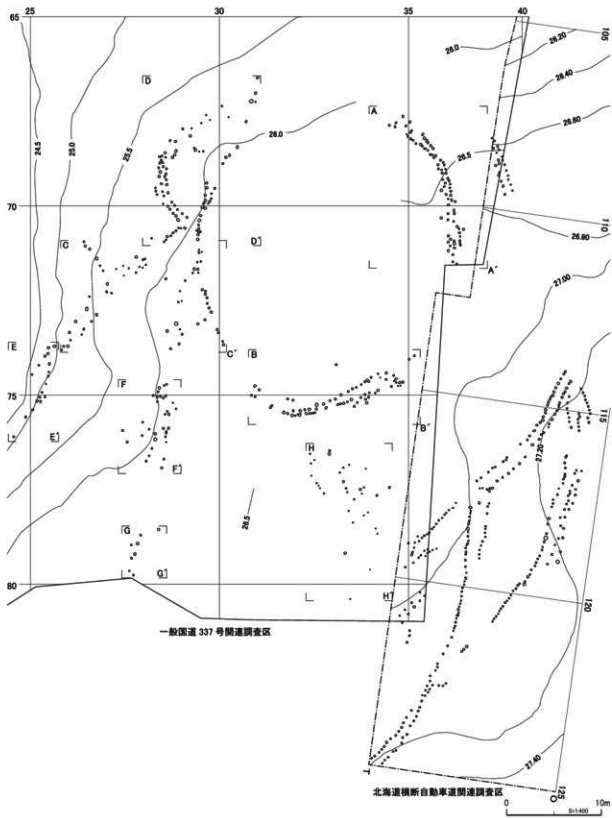
+ 29 - 79

LSP-1

0 1m  
1:100

図IV-3-34 LP-101~103・LSP-1・2





図IV-4-1 s p位置図

#### 4. 小柱穴 (図IV-4-1~8 表IV-1-5 カラー図版2 図版46・50)

小柱穴は平成19(2007)年度に226か所、平成21(2009)年度に167か所を調査した。

平成19年度 遺構調査・包含層調査とも完了後、Ⅶ層上面を精査していたところ、遺構が集中する区域の調査区北東側部分で、平均的な直径15~25cm程度の円形の黒色土が列状にみられるのを確認した。平成8(1996)年度の横断自動車道建設に伴う調査で確認された「杭穴列」(北埋調報116)と同じ遺構と考え調査した。確認したすべての黒色土を断ち割りし断面形態と土層、出土遺物等から遺構か否か個別に判断し、結果、s p-1~226までを調査した。平成16年度の調査区に位置するものも同時に調査した。

平成21年度 この遺構の存在を予想し、同様に遺構調査・包含層調査が完了したⅦ層上面で調査に着手し、同様な方法でs p-227~393を確認した。

整理作業で、遺構名を「小柱穴」、略号を「s p」(小文字アルファベット)とし再整理した。調査段階で、木の根と判断した「394」の欠番を解消し、最後の番号の「394」を「376」に変更、連番でs p-1~393までの393か所で、また、L P-76・78とL S P-1・2を合わせると397か所である。さらに、住居跡の付属遺構の柱穴・杭穴と判断したものもあり、厳密に区別できなかったが、その内容は把握できたと考える。

小柱穴の分布形態は、縄文時代中期後半の竪穴住居跡が集中する区域を囲む円形、これに平行する曲線、この円から延びる直線状のものに分けられる。この円の中心には最大規模の住居跡L H-16が位置する。柱穴列は位置から便宜的にA~Hの八つまとまりに分けた。

##### ・小柱穴A

位置 34・35-67・68区、35・36-69・70区、36-71区

L H-16の北西側に位置し曲線状を呈する。概ね二列である。

##### ・小柱穴B

位置 30・31-74・75区、31・32-75区、33-74・75区、34・35-74区、35-73区

L H-16の東側に位置し曲線状を呈する。概ね二列であるが、列間の幅は北側広く、南側が狭い。さらに柱穴が存在しない部分が二か所みられる。

##### ・小柱穴C

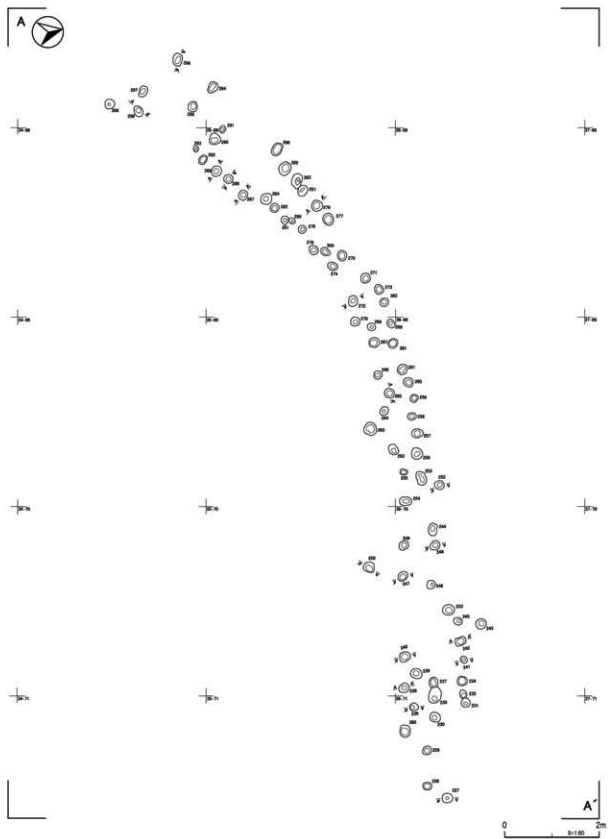
位置 26-70区、26-71~73区、27-71・72区、28・29-71~73区、30-73区

L H-16の南東側に位置、29ラインより北側は曲線的で、西側が二列で、東側はやや無作為である。27~29ラインの間は線状に位置せず、27ラインより南側は、西側へと延びる一列と東側方向の斜面向かう二列がある。

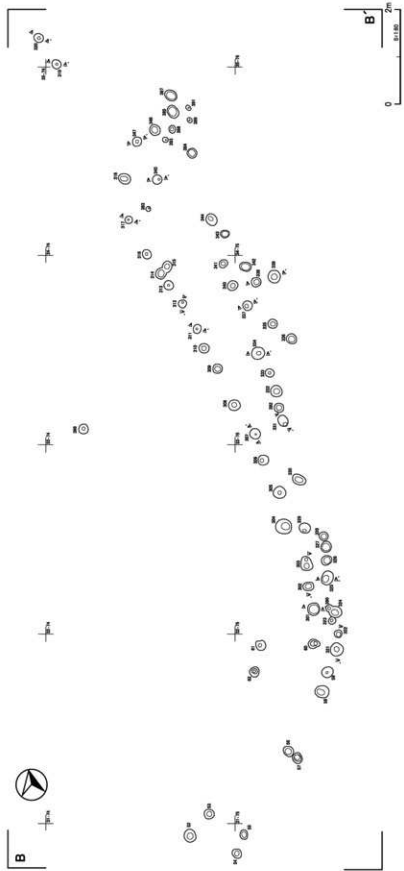
##### ・小柱穴D

位置 29・30-67区、28~30-68区、28・29-69・70区

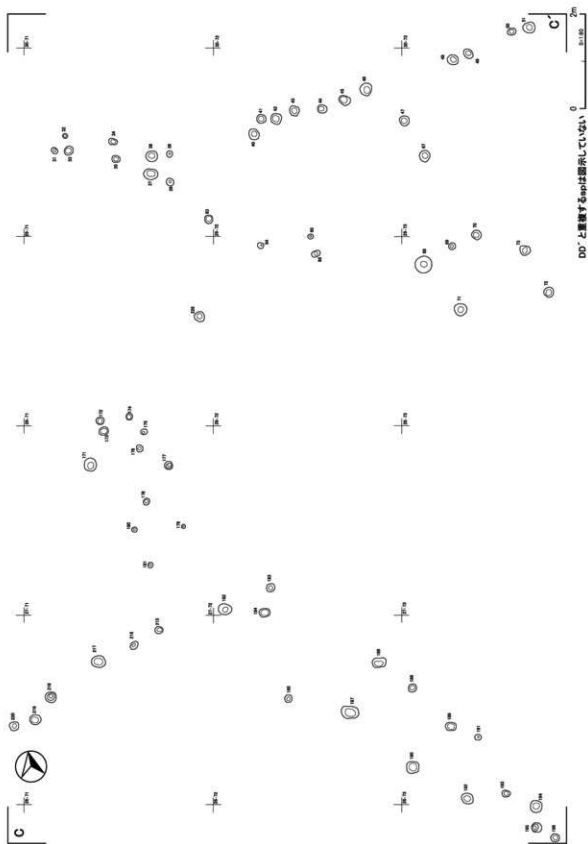
L H-16の南西側に位置、曲線的な形状で、L H-16に近い北側のものとこれの外側にあたる南側の二条に分けられる。両者ともに、東側は一列で、北側のものは同一曲線上、西側で二列となり、さらにその先は一列で間隔が広がる。南側のものは、東側では南東から北西側へ曲線的な形状で、これは小柱穴Cへと直線的に続く。西側部分は整然とした二列で、概ねL H-16を中心とした円状に位置し、その先では整然さがなくなり、一列で間隔が広がる。



图IV-4-2 sp (1)



図IV-4-3 sp (2)



図IV-4-4 s p (3)



図IV-4-5 sp(4)

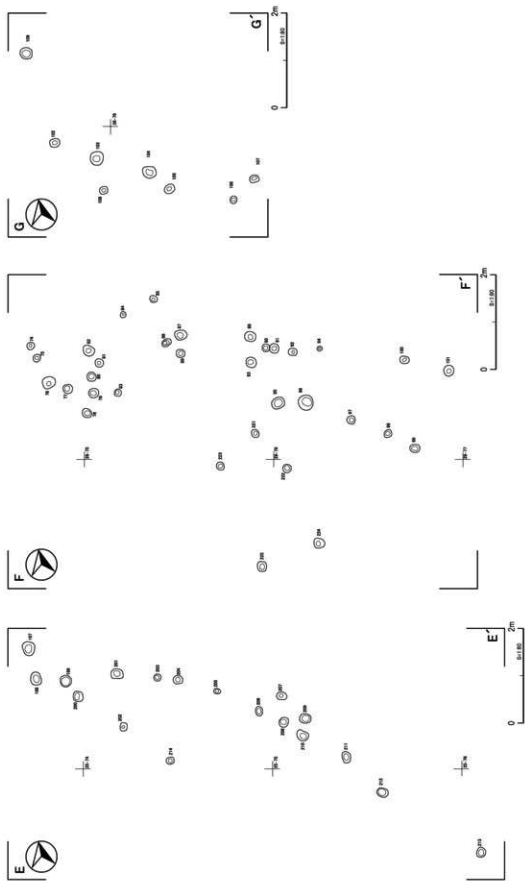
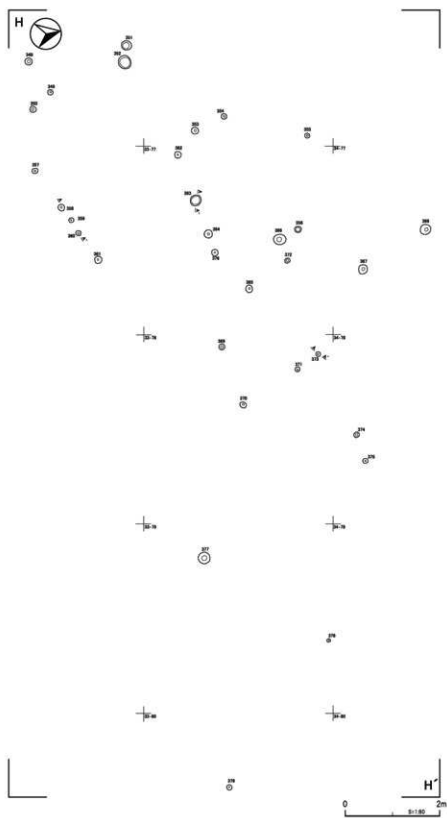


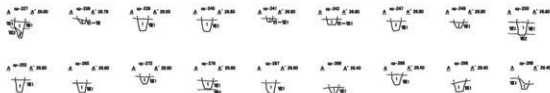
图 IV-4-6 sp (5)



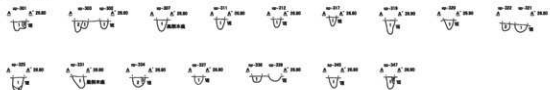
図IV-4-7 sp (6)



### 「AA'」



### 「BB'」



### 「HH'」



図IV-4-8 s p (7)

#### ・小柱穴E

位置 25-73~75区、24・25-75区、24-76区

西側の小柱穴Cから直線状につながり、斜面下へと幅広い二列となり、LH-13近く、等高線と平行する位置に延びる。

#### ・小柱穴F

位置 28-74区、27・28-75・76区

少し間隔があくが、小柱穴Cの北東側部分から続く列とみなせ、東側部分は無作為で、西側は二条に分かれ、さらに間隔をあけて東側の小柱穴Gへと続く二列と、斜面下の南方向、小柱穴Eに延びる二列がある。

#### ・小柱穴G

位置 27-78・79区、28-78区

間隔は広いが、西側の小柱穴Fから直線状に続く列とみなせ、概して一列で、さらに東側の調査区外へ続くと推測する。

#### ・小柱穴H

位置 32-76・77区、33~34-77区、33・34-78区、33-79・80区

少し間隔があくが、曲線的な小柱穴Bの最東端部から、幅が広い二列の直線で東方向へと延び、同方向へと少なくなる。東側の調査区外へは続かないと判断する。

### 土層断面・覆土

小柱穴Aの18か所、小柱穴Bの18か所、小柱穴Hから5か所土層断面を記録した。一般的な覆土は、黒褐色～暗褐色を呈し、V層黒色土を主とし、VII層のE n - a 軽石がわずかに混入する層で、堅密度は硬である。断面形態は尖・丸・隅丸・平と様々である。

### 遺物出土状況

遺物は32か所から出土した。最も多いのはⅢ群土器57点で、他にフレイク、加工痕のある礫が出土した。

### 時期

出土遺物や周辺の遺構との関連性から縄文時代中期後半と考える。

なお、Ⅶ章1節で平成8（1996）年度の調査成果も統合し、本遺構の性格について考察した。

（末光）

## 5. 焼土

（図IV-5-1・2 表IV-1-6 カラー図版1 図版49）

焼土は245か所調査した。多くが列状に位置し、調査区中央付近のものを「西側焼土列」、堅穴住居跡等の遺構が集中する区域にあるものを「東側焼土列」とした。さらに、これらの中間にあるもの、調査区中央から西側に位置する単独のものに分けた。焼土個別の属性は表IV-1-6にまとめ、焼土列の記述は隣り合う焼土を「⇔」でつないで記述した。

平面形態 円形・楕円形・長楕円形・不整形・隅丸方形がある。

被熱層 V層・V2層・VI層・VII層・F層 遺構の覆土、V1層はない。

色調 2.5YR～5YR～10YRで、明赤褐色・赤褐色・にぶい赤褐色・極暗赤褐色・橙色等がある。

遺物出土状況 土器はⅠ群・Ⅲ群・Ⅳ群・V群がありⅢ群が最も多い。石器等は石鏃、スクレイパー、Rフレイク・フレイク・磨製石斧・たたき石・加工痕のある礫・礫等がある。

時期 周囲の遺構や出土遺物から縄文時代中期後半と考える。

### （1）西側焼土列

位置 16～28-55～64区 範囲 51.0×31.8m

確認・調査 平成16・17（2006）年度、包含層調査中、V層・VI層でみられ、すべてトレンチで断面を確認した。列状で規則的な位置にある。

最も規模が大きいものは南北方向に細長い配列（西①と呼称 長さ：約51m 幅：約6m）で、南西の端から、LF-23⇔LF-172⇔LF-153⇔LF-27を結んだもので、これらに囲まれた範囲にLF-24・27・161・165・167がある。LF-14とLF-40の間に調査区外があり、焼土の位置間隔から2か所程度存在すると推測する。さらに、LF-25の上位にはフレイク・チップ集中LFC-3が重複する。また、この配列から東側方向に延びるものが認められる。一つは、西②とした南西の端のLF-45⇔LF-16⇔LF-59⇔LF-48で、東西方向の長さ：約11m、幅：約4mで、これに囲まれた範囲に焼土はない。もう一つは、西③でLF-50・162に付近から一列で延びるもの（長さ：約14m）で、LF-180から二列になり、LF-180⇔LF-137⇔LF-133⇔LF-132で、長さ：約11m、幅：約4mである。囲まれた空間にはLF-138がある。さらに、LF-136・135から北西方向に延びる二列（西④）があり、規模は長さ：約12m、幅：3.6～4.2mで、南西の端から、LF-

136⇔L F-152⇔L F-149⇔L F-135である。

以上、西側焼土列は、南北方向の「西①」を主とし東側方向に延びる副次的な列が認められ、西③を除き二列でその幅は概ね4mである。

## (2) 東側焼土列

大きく分けて南側に位置する曲線状で長いものと、調査区北東側端部で調査区外へ続くもの二つがある。

位置 25～35-60～77区 範囲 79.2×38.7m

確認・調査 平成15・17・21(2003・2007・2009)年度、包含層調査中、V層・VI層でみられ、すべて断面を確認した。列状で規則的な位置にある。南側の曲線状のものは、縄文時代中期の堅穴住居跡や遺構の集中区域に沿う周縁にあり、これら遺構との切り合いが認められ、調査区北東側端部のものは堅穴住居跡がみられない場所にあり対照的である。

南側の曲線状のものは、七条認められた。最も南側の東①は、L F-89⇔L F-94⇔L F-12⇔L F-65⇔L F-62⇔L F-6⇔L F-11を想定する。長さは約39mで一列である。

次の列は東②で、L F-73⇔L F-122⇔L F-103⇔L F-103⇔L F-102⇔L F-68⇔L F-64⇔L F-61⇔L F-17⇔L F-3である。長さは約81mである。北西側部分では約6m東側にL F-207⇔L F-124(東⑤)があり二列が平行するが、南東側へと幅が広がり、L F-122とL F-128の間は約7.5mである。東②；L F-73⇔L F-3の列のL F-103から北側方向にL F-120⇔L F-126⇔L F-127の並び(東④；長さ：約7m)が認められ、さらに東②のL F-120・L F-126付近から分かれる東方向への列、東③；L F-118⇔L F-116⇔L F-111⇔L F-109⇔L F-92⇔L F-91⇔L F-90⇔L F-21⇔L F-4(長さ：約43m)が想定できる。東②と東③は二列になると考えられ、さらにこの範囲内にL F-112・110があり、この西側にはフレイク・チップ集中L F C-4と小柱穴Dが三角形を呈する部分が認められる。また、両者は最東端部のL F-4⇔L F-3で収束すると思われる。

東④の最北端のL F-27から東方向に列、L F-27⇔L F-117⇔L F-115⇔L F-205⇔L F-240⇔L F-229⇔L F-224⇔L F-210(長さ：約49m)がある。途中、堅穴住居跡に切られるものや、間隔が開く部分も認められる。東⑥は、北西端部のL F-207⇔L F-123⇔L F-128⇔L F-129⇔L F-130⇔L F-238⇔L F-218⇔L F-212で、長さは約70mを測る。これら東④と東⑤は、L F-210⇔L F-211⇔L F-212で収束するようである。

東⑥は調査区の北東側の遺構が存在しない位置にある二列のもので、南西のL F-228とこれの3m北側にあるL F-223の両焼土から、それぞれL F-228⇔L F-226、L F-223⇔L F-220と、東方向調査区外へ続くもので、長さ約8mで、東方向へと幅が広がる。

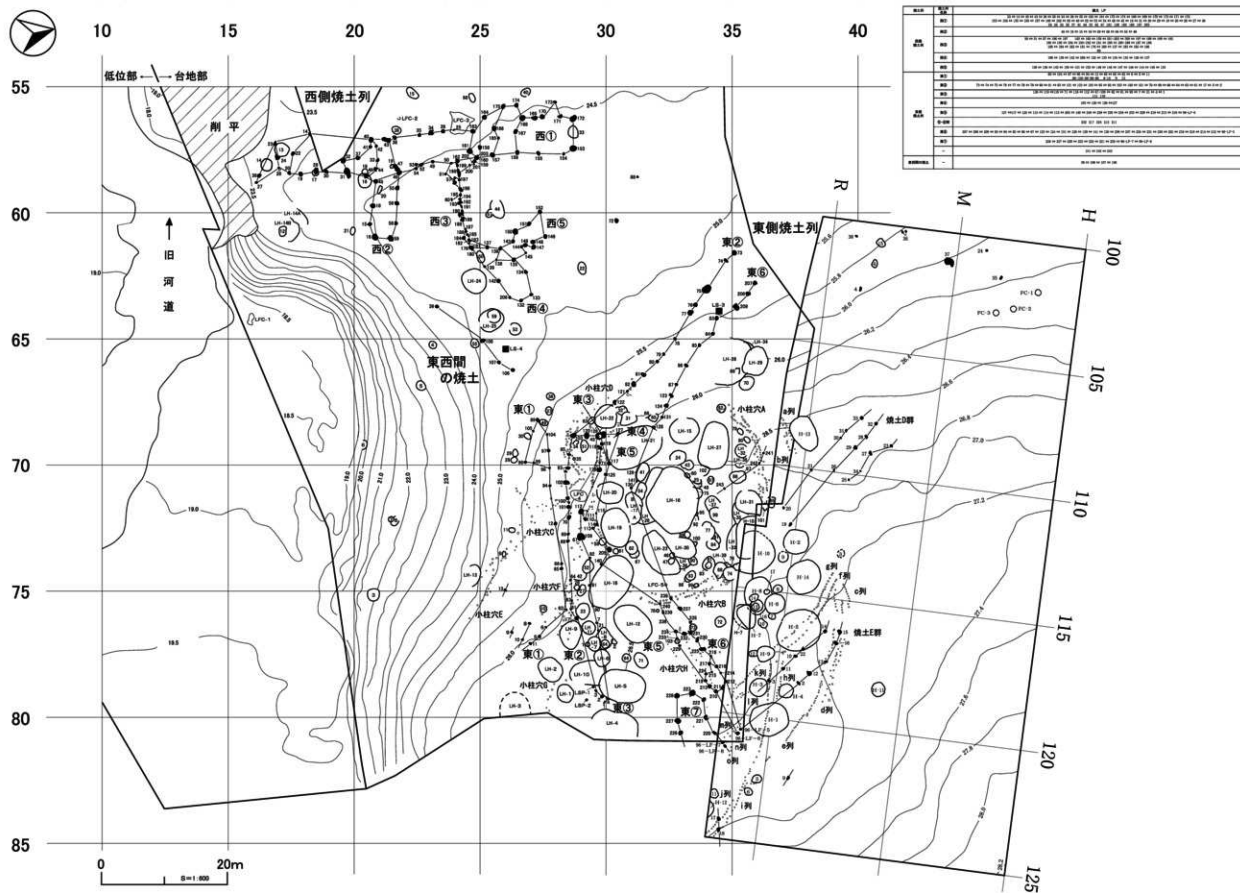
平面形態 円形・楕円形・長楕円形・不整形・隅丸方形を呈する。

被 熱 層 V層・V2層・VI層・VII層・F層があり、V1層はない。

色 調 2.5YR～5YR～10YRで、明赤褐色・赤褐色・にぶい赤褐色・暗赤褐色・橙色・褐色等がある。

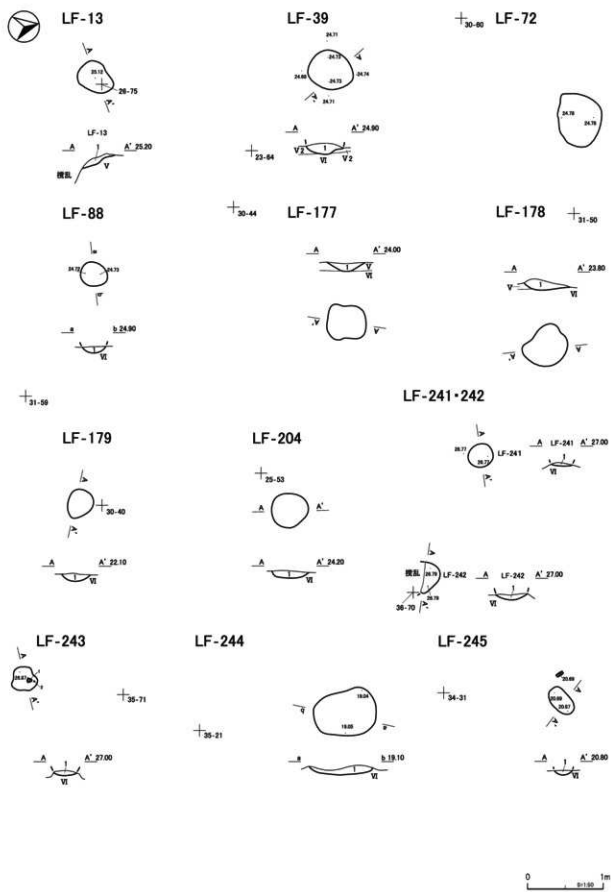
遺物出土状況 土器はI群・III群・IV群・V群があり、III群が最も多く、石器等はスクレイパー、Rフレイク・フレイク・たたき石・礫等がある。

時 期 周囲の遺構や出土遺物から、縄文時代中期後半と考える。



図IV-5-1 焼土列

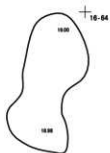




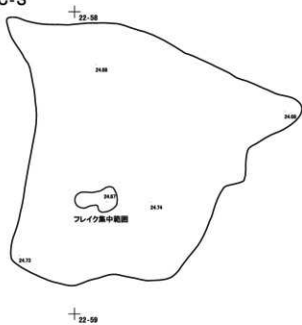
図IV-5-2 単独の焼土



LFC-1



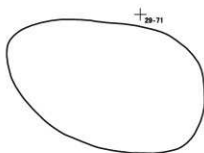
LFC-3



LFC-2



LFC-4



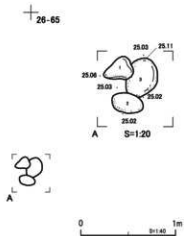
LFC-5



LS-3



LS-4



図IV-6-1 LFC-1~5、LS-3・4

焼土は、焼土列と単体のものがあり、南北方向数字ライン55ラインを境に、前者はすべて直線あるいは曲線状の列を構成し、平面位置から縄文時代中期後半の竪穴住居跡や同時期の遺構の集中する区域、小柱穴と関連すると考えた。後者は遺構・遺物とも少ない調査区西側に単独で位置し、VI層が被熱し遺跡の主たる時期である縄文時代中期の遺物も出土していないことから、これよりも古いと推測する。(末光)

## 6. 遺物集中 (図IV-6-1 表IV-1-7 図版39・46)

### (1) 土器集中

#### LPS-6

位置 24-61区 規模 0.44×0.29m

確認・調査 包含層調査中、V2層で大きな土器破片がまとめて出土した。近くにLP-50があり、これと関連すると判断した。

遺物出土状況 III群b類の萩ヶ岡式の口縁～胴部の破片が出土し復原した。

時期 出土土器から縄文時代後期後半である。

(愛場)

### (2) フレイク・チップ集中

#### LFC-1

位置 15-64区 規模 1.76×0.90m

#### LFC-2

位置 21-56区 規模 (0.46)×0.42m

#### LFC-3

位置 21・22-58区 規模 3.96×3.52m 集中部分; 0.56×0.34m

#### LFC-4

位置 28・29-71区 規模 2.68×1.68m

#### LFC-5

位置 32-74区 規模 0.38×0.36m

以上の5か所を確認した。LFC-1は斜面下のキウス川旧河道に面する低位段丘に位置し、周辺の遺構・遺物から、縄文時代晩期後半と推測する。LFC-2～5は台地上で縄文時代中期と判断する。LFC-2・3は調査区中央付近、LFC-4・5は北東側の遺構集中区域に位置する。LFC-2ではIII群土器が、LFC-3は広範囲で、集中する部分があり、石鏃・Rフレイクが出土した。LFC-4はLH-19・20の南側に位置し、近くの焼土列(LF-102⇔LF-100⇔LF-112)と小柱穴CはLFC-4の周縁に位置し、LFC-5はLH-12・15・23及び小柱穴Bに囲まれた遺構が存在しない場所に位置する、これらは他の遺構と重複しないことや、小柱穴のあり方から、同時に存在した可能性が高く、縄文時代中期後半の時期で、集落内の石器製作の場と推測する。

(広田)

### (3) 礫集中

#### LS-3

位置 34-63区 規模 1.98×1.16m



#### LS-4

位置 25・26-65区 規模 0.60×0.58m

以上の2か所を確認した。なお、LS-1・2は低位部の遺構で報告済みである（北埋調報251）。LS-3は割れた安山岩と堆積岩が、LS-4は台石と完形の鎌がまとまって出土し、周辺の遺構・遺物から縄文時代中期後半と考える。（愛場）











図IV-2 土層説明 (6)

地層 番号	層名 (地質調査報告書/地質図説)	土質	状態	種類	特殊土種	地盤工学(地質調査報告書)				地盤工学(地質図説)				その他の記号					
						色	比重	含水率	液性指数	塑性指数	貫入抵抗	圧縮率	圧縮係数	圧縮率	圧縮係数				
L14-15 砂質土層	13	H17-18	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	14	H17-19	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	5	H17-21	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
														26	*	*	*	—	—
	6	H17-21	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	7	H17-21	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	8	H17-21	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	9	H17-1	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/4	49	47.0	0.6	0.01	300	*	*	*	—	—	
	10	H17-2	粘土	V層	V層-硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	300	*	*	*	—	—	
	17	H17-3	粘土	V層	V層-硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	18	H17-4	粘土	V層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
	19	H17-5	粘土	V層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
	21	H17-6	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	22	H17-7	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	23	H17-9	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	L14-16 砂質土層	15	H17-10	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
		16	H17-11	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
		27	H17-11	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
		18	H17-12	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
		28	H17-12	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—
29		H17-14	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
31		H17-15	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
32		H17-16	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
20		H17-17	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
24		H17-18	粘土	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
L14-17 砂質土層	25	H17-22	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	26	H17-22	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	34	H17-23	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	35	H17-23	粘土	V層-V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	36	H17-24	粘土	V層	V層-硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	37	H17-24	粘土	V層	V層-硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
L14-18 砂質土層	1	L14-18	硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3.1	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	2		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	3		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	4		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	5		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
L14-19 砂質土層	1	L14-19	硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3.1	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	2		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	3		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	4		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	5		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
L14-20 砂質土層	6	L14-20	硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3.1	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	7		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	8		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	9		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	10		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	11		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	12		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	13		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	14		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	15		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	16		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	17		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	18		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	19		硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
	L14-21 砂質土層		20	L14-21	硬質土層	V層	硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—
21		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
22		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
23		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
24		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
25		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
26		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
27		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
28		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	
29		硬質土層	V層		硬質	硬質	褐色	49.92/3	49	47.0	0.6	0.01	26	*	*	*	—	—	







図IV-2 土層説明(9)

調査 番号	層位 番号	層位名称 (埋蔵遺物・層位名称)	土質	厚さ	埋蔵 物	埋土の土質(1) (埋蔵物埋 入時の土質)				埋土の土質(2)				土質の判定			
						色	硬さ	状態	備考	色	硬さ	状態	備考	判定 理由	判定 結果		
LH-21 埋蔵遺物	8	10P-1	埋土	V層	埋土	埋土	褐色	2.0(0.4)	中	埋土	灰白-褐色	2%	*	*	*	---	
	9		埋土	---	V層	埋土	赤褐色	0.0(0.0)	固	埋土	---	0%	*	*	*	---	
	10	10P-2	埋土	埋土	---	V層	埋土	赤褐色	0.0(0.0)	固	埋土	---	0%	*	*	*	---
	11	10P-3	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	高化土 黄壤	
	12	10P-4	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	---	
	13	10P-1	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	14	10P-2	埋土	V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	15	10P-3	埋土	V層+V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	16	10P-4	埋土	V層+V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	17	10P-6	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	高化土 黄壤	
	18	10P-7	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	19	10P-9	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	---	
	20	10P-10	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	---	
	21	10P-11	埋土	V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	22	10P-12	埋土	V層+V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	23	10P-13	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	24	10P-14	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	LH-23	1	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	---	---	---	---	---	---	
		2	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	0%	最大:10	*	*	*	
		3	埋土層	V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(少)	0%	*	*	*	
		4	埋土層	V層+V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.6)	*	灰-褐色	(少量)	最大:10	*	*	*	
		5	埋土層	---	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	---	---	---	---	---	---	
	LH-25 埋蔵遺物	1	10P-1	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*	
		2	10P-2	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*	
3		10P-3	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
4		10P-4	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
5		10P-5	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
6		10P-6	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
7		10P-7	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
8		10P-8	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
9		10P-9	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
10		10P-10	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
11		10P-11	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
LH-26	1	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	---	---	---	---	---	---		
	2	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	0%	10	*	*	*		
	3	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
	4	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
	5	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
LH-28	1	LH-11	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	0%	最大:10	*	*	*	
	2	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
	3	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
	4	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
	5	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	0%	0%	*	*		
LH-29 埋蔵遺物	11	10P-4	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
	12	10P-5	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
	13	10P-6	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
	14	10P-7	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
	15	10P-8	埋土	V層	V層	埋土	褐色	10.0(3.4)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
LH-30	1	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	埋蔵物	0%	0%	*	*	*		
	2	埋土層	V層+V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	灰-褐色	2%	0%	*	*	*		
	3	埋土層	V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	灰-褐色	2%	0%	*	*	*		
	4	埋土層	V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	灰-褐色	2%	0%	*	*	*		
	5	埋土層	V層	V層	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.2)	*	灰-褐色	2%	0%	*	*	*		
LH-32 埋蔵遺物	5	10P-1	埋土	埋土	---	V層	赤褐色	0.0(0.0)	固	埋土	---	0%	*	*	*	---	
	6	10P-2	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	2.0(0.3)	固	灰-褐色	7%	*	*	*	---	
	7	10P-3	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	8	10P-1	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	9	10P-5	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	10	10P-6	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	11	10P-2	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	12	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---		
	13	埋土	V層+V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.3)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---		
	14	10P-4	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
	15	10P-6	埋土	V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---	
16	10P-7	埋土	V層+V層	V層	埋土	埋土	褐色	10.0(3.3)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---		
17	10P-8	埋土	V層	V層+埋蔵物	埋土	埋土	褐色	10.0(3.2)	固	灰-褐色	2%	*	*	*	---		
18	埋土	V層+埋蔵物	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.4)	固	灰-褐色	20%	0%	---	---	---			
LH-31	1	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	2.0(0.2)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	最大:10	*	*	*		
	2	LH-11	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	2.0(0.2)	*	灰-褐色	(埋蔵物)	最大:10	*	*	*	
	3	埋土層	V層	---	埋蔵物	埋土	褐色	10.0(3.6)	*	灰-褐色	(少)	0%	*	*	*		

圖 IV-2 土層說明 (10)

樓層	編號	層別名稱 柱網編號 / 牆柱系統	主要材料	構造層	樓層	斷面名稱	樓上(下)層之樓板(梁)之材料				樓上(下)層之柱				樓上(下)層之梁			
							樓上(下)層之樓板(梁)		樓上(下)層之柱		樓上(下)層之梁		樓上(下)層之樓板(梁)		樓上(下)層之柱		樓上(下)層之梁	
							樓板(梁)材料	樓板(梁)厚度	柱材料	柱直徑	梁材料	梁斷面	樓板(梁)材料	樓板(梁)厚度	柱材料	柱直徑	梁材料	梁斷面
L4-15 住戶層	4	L4-15-1	樓上3層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	5	L4-15-2	樓上2層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	6	L4-15-3	樓上1層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	7	L4-15-4	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	8	L4-15-5	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	9	L4-15-6	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	10	L4-15-7	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	11	L4-15-8	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	12	L4-15-9	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	13	L4-15-10	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
L4-16 住戶層	14	L4-16-1	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	15	L4-16-2	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	16	L4-16-3	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	17	L4-16-4	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	18	L4-16-5	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	19	L4-16-6	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	20	L4-16-7	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	21	L4-16-8	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
L4-17 住戶層	22	L4-17-1	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	23	L4-17-2	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	24	L4-17-3	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	25	L4-17-4	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	26	L4-17-5	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
L4-18 住戶層	27	L4-18-1	樓上3層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	28	L4-18-2	樓上2層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	29	L4-18-3	樓上1層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	30	L4-18-4	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	31	L4-18-5	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	32	L4-18-6	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	33	L4-18-7	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	34	L4-18-8	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	35	L4-18-9	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	36	L4-18-10	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
L4-19 住戶層	37	L4-19-1	樓上3層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	38	L4-19-2	樓上2層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	39	L4-19-3	樓上1層	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	40	L4-19-4	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	41	L4-19-5	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	42	L4-19-6	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	43	L4-19-7	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	44	L4-19-8	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	45	L4-19-9	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※
	46	L4-19-10	樓上	V層	預鑄	※	預鑄	RC	200x200	※	※	RC	200x200	預-1號	※	※	※	※















図IV-4 土層説明

通層 番号	断面 図番 号	層名 名称	主体層	所在層	階層	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)		その他の		
						全体的な土質		粘着性	堅固度	種類	含量 割合 %	種類	含量	
						野外土性	マンセル 色名							マンセル 湿度
sp-227	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	暗褐色	7.5YR/6	*	*	En-a輝石	(含む)	*	*
	2	層土	V層	Ⅷ層	*	*	暗褐色	5YR/4	*	*	—	—	*	*
sp-236	1	層土	*	*	*	*	褐色	7.5YR/3	*	*	*	*	*	*
sp-238	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-240	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-241	1	層土	*	*	*	*	褐色	7.5YR/3	*	*	*	*	*	*
sp-242	1	層土	*	*	*	*	褐色	7.5YR/3	*	*	*	*	*	*
sp-247	1	層土	*	*	*	*	黒褐色	7.5YR/2	*	*	*	*	*	*
sp-248	1	層土	*	*	*	*	褐色	7.5YR/2	*	*	*	*	*	*
sp-250	1	層土	*	*	*	*	黒褐色	7.5YR/2	*	*	*	*	*	*
sp-252	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-265	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-272	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-279	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-287	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-288	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-289	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-296	1	層土	*	*	*	*	暗褐色	7.5YR/4	*	*	*	*	*	*
sp-298	1	層土	*	*	*	*	黒褐色	7.5YR/2	*	*	*	*	*	*
sp-301	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
	2	層土	V層-Ⅷ層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/4	*	*	En-a輝石	2%	—
sp-302	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
	2	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-303	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
	2	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-307	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	20%	—
sp-311	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/2	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-312	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-317	1	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-319	1	層土	V層-Ⅷ層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/4	*	*	En-a輝石	2%	—
sp-320	1	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-321	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-322	2	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-325	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
	2	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-331	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/2	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-334	1	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
	2	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/2	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-337	1	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-338	1	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	*	*	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-345	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-347	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
	2	層土	V層-Ⅷ層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/4	弱~中	堅	En-a輝石	2%	—
sp-358	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/2	弱~中	軟~剛	En-a輝石	2%	—
sp-359	2	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	1%	—
sp-360	3	層土	Ⅷ層	V層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/4	弱~中	堅	En-a輝石	1%	—
sp-363	1	層土	V-Ⅷ層	—	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	1%	炭化物 微量
sp-373	1	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	暗褐色	10YR/3	弱~中	堅	En-a輝石	1%	—
	2	層土	V層	Ⅷ層	*	*	塚土→ シルト質塚土	黒色	10YR/4	弱~中	堅	En-a輝石	1%	—











図IV-3 遺物説明(1)

遺構番号	遺物番号	土器 名称(備註)	時期 群	部位 所在	保存 状態	点数	層位	標高 (m)
LP-3	94	土器 田群(備註)	田群	口縁部	★	1	床	21.90
	1	土器 田群(備註)	田群	★	★	1	層上	★
LP-4	1	土器 田群(備註)	田群	★	★	216	層上1層	24.70 ~ 24.00
	2	土器 田群(備註)	田群	★	★	142	層上1層	
	3	土器 田群(備註)	田群	★	★	114	層上1層	?
	4	土器 田群(備註)	田群	★	★	16	層上1層	?
LP-5	1	磨製石斧	原始群	★	★	1	★	23.14
	2	磨製石斧	緑色泥岩	★	★	1	★	23.14
	3	磨製石斧	緑色泥岩	★	★	1	★	23.13
	4	磨製石斧	原始群	★	★	1	★	23.11
	5	磨製石斧	緑色泥岩	★	★	1	★	23.11
	6	磨製石斧	緑色泥岩	★	★	1	★	23.12
	7	磨製石斧	原始群	★	★	1	★	23.10
	8	砥石	砂岩	★	★	3	★	23.11
9	たがき石	緑色泥岩	★	★	1	★	23.11	
LP-13	259	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.42	
	262	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.42	
	263	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.41	
	265	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.40	
	266	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.39	
	267	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.38	
	268	土器 田群	田群	良好	2	横直上	23.39	
	269	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.38	
	270	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.37	
	272	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.44	
	273	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.44	
	274	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.47	
	277	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.43	
	278	土器 田群	田群	良好	1	横直上	23.41	
	279	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.44	
	280	土器 田群	成部	良好	1	横直上	23.41	
	281	土器 田群	成部	良好	1	坑底直上	23.44	
	282	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.60	
	283	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.37	
	284	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.37	
	286	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.38	
	287	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.38	
	288	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.40	
	290	土器 田群	成部	良好	2	坑底	23.38	
	292	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.38	
294	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.38		
296	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.38		
299	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.37		
LP-14	135	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.78	
	136	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.78	
	137	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	140	土器 田群	口縁部	良好	1	坑底	23.80	
	142	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.80	
	143	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	144	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	145	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	148	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.80	
	149	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	152	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.77	
	155	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.76	
	156	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.77	
	157	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.76	
	159	土器 田群	口縁部	良好	1	坑底	23.75	
	161	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.77	
	162	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.75	
	164	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.77	
	165	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.79	
	170	土器 田群	成部	良好	1	坑底	23.77	

遺構番号	遺物番号	土器 名称(備註)	時期 群	部位 所在	保存 状態	点数	層位	標高 (m)
LP-16	52	土器 田群	田群	良好	1	坑底	24.13	
	3	ブレイク	原産地	★	★	1	坑底	24.06
	4	土器 田群	成部	刺傷	1	坑底	24.09	
	5	土器 田群	成部	刺傷	1	坑底	24.70	
	6	土器 田群	成部	良好	1	坑底	24.68	
LP-22	7	石鏝	原産地	平削	★	★	坑底	24.64
	17	土器 田群	口縁部	良好	1	床	26.06	
	20	土器 田群	成部	良好	2	床	26.04	
	122	土器 田群	成部	刺傷	1	床面直上	26.17	
LP-23	123	磨製石斧	緑色泥岩	片	1	床面直上	26.14	
	124	土器 田群	成部	良好	1	床面直上	26.16	
	125	土器 田群	成部	刺傷	1	床面直上	26.12	
	126	土器 田群	成部	良好	1	床面直上	26.17	
LP-24	128	土器 田群	成部	刺傷	1	床面直上	26.12	
	129	土器 田群	成部	刺傷	1	床面直上	26.17	
LP-25	—	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.30	
	—	土器 田群	成部	良好	8	層上1層	26.30	
LP-27	1	土器 田群	成部	良好	5	層上1層	26.08 ~ 26.07	
	—	土器 田群	成部	良好	19	層上1層	26.08	
	—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.08	
	—	土器 田群	成部	刺傷	5	層上1層	26.08	
	—	土器 田群	成部	刺傷	27	層上1層	26.08	
	2	土器 田群	成部	良好	11	層上1層	26.07	
	—	土器 田群	成部	良好	9	層上1層	26.07	
	3	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.07	
	—	土器 田群	成部	良好	3	層上1層	26.08	
	—	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.08	
	4	土器 田群	成部	良好	3	層上1層	26.08	
	—	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.05	
	5	土器 田群	成部	良好	3	層上1層	26.05	
	—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.05	
	—	土器 田群	成部	刺傷	9	層上1層	26.05	
	6	砥石	閃緑岩	片	1	層上1層	26.05	
	7	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.03	
	—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.03	
	8	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.03	
	9	土器 田群	成部	良好	2	層上1層	26.03	
	10	土器 田群	成部	良好	4	層上1層	26.03	
	—	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.03	
	—	土器 田群	成部	刺傷	3	層上1層	26.03	
	11	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.05	
	12	土器 田群	成部	良好	4	層上1層	26.04	
13	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.04		
—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.04		
14	土器 田群	口縁部	良好	1	層上1層	26.07		
—	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.07		
—	土器 田群	成部	良好	2	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	9	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	8	層上1層	26.09		
14	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.09		
17	土器 田群	口縁部	良好	1	層上1層	26.06		
18	土器 田群	口縁部	良好	2	層上1層	26.11		
19	土器 田群	成部	良好	2	層上1層	26.05		
20	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	良好	1	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	4	層上1層	26.06		
—	土器 田群	成部	刺傷	6	層上1層	26.06		
21	土器 田群	成部	刺傷	1	層上1層	26.09		
—	土器 田群	成部	刺傷	2	層上1層	26.09		
23	土器 田群	成部	良好	3	層上1層	26.06		
LP-28	13	砥石	砂岩	完形	1	層上1層	24.15 ~ 24.19	
	14	砥石	砂岩	完形	1	層上1層	24.16	



図IV-3 遺物説明(2)

遺物番号	遺物番号	土器 石器(備註)	時期	部位 所在	保存 状態	点数	層位	標高 (m)
LP-30	4	土器	未分類	胴部	良好	1	底土	25.38
	5	磨製石斧	片岩	完整	1	底土	25.39	
	7	土器	甕群	口縁部	良好	1	底土	25.36
	8	土器	甕群	口縁部	良好	3	底土	25.38
	9	土器	甕群	胴部	良好	1	底土	25.41
LP-32	10	土器	甕群	口縁部	良好	1	底土	25.36
	11	土器	甕群	胴部	良好	1	床面直上	25.79
LP-33	6	土器	甕群	胴部	割壊	1	坑底直上	24.86
	9	土器	甕群	胴部	良好	6	坑底直上	24.65
	13	土器	甕群	胴部	良好	3	坑底	24.53
LP-34	14	土器	甕群	口縁部 ~胴部	良好	1	坑底	
				胴部	割壊	1		
				小破片	1			
LP-38	16	土器	甕群	胴部	良好	2	床面	24.52
	31	土器	甕群	胴部	良好	1	床面	24.50
	41	土器	甕群	胴部	割壊	1	床面	24.50
	43	土器	甕群	口縁部	良好	1	床面直上	24.51
	63	土器	甕群	胴部	良好	3	床面	24.51
LP-39	75	土器	甕群	口縁部	良好	2	覆土層	24.69
	20	土器	甕群	胴部	割壊	2	床面直上	23.08
LP-40	17	土器	甕群	胴部	割壊	1	床面直上	23.13
	14	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.34
LP-41	20	土器	甕群	胴部	良好	1	覆土層	26.41
	30	土器	甕群	口縁部	良好	1	坑底	26.20
	36	土器	甕群	口縁部	良好	2	坑底直上	26.25
	40	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	26.21
	41	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	26.30
LP-43	78	土器	甕群	胴部	良好	1	底面	26.26
	30	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	26.47
	31	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	24.73
	32	土器	甕群	胴部	良好	2	坑底直上	24.77
	33	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	24.77
	34	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.76
	35	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.76
	36	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.76
	37	土器	甕群	胴部	良好	2	坑底	24.75
	38	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.74
	39	土器	甕群	胴部	良好	2	坑底直上	24.77
	54	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.75
	LP-44	64	土器	甕群	口縁部	良好	1	坑底直上
65		土器	甕群	胴部	割壊	1	坑底直上	24.77
69		土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.79
70		土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.76
87		土器	甕群	胴部	良好	1	覆土層	24.82
101		土器	甕群	胴部	良好	2	覆土層	24.86
102		土器	甕群	口縁部	良好	1	覆土層	24.83
103		土器	甕群	口縁部	良好	1	覆土層	24.81
104		土器	甕群	胴部	良好	3	覆土層	24.81
106		土器	甕群	口縁部 ~胴部	良好	7	覆土層	24.82 ~ 24.91
				胴部	良好	3		
				小破片	6			

遺物番号	遺物番号	土器 石器(備註)	時期	部位 所在	保存 状態	点数	層位	標高 (m)
LP-44	107	土器	甕群	口縁部	良好	3	覆土層	24.82
				胴部	良好	14		
				小破片	12			
	108	土器	甕群	胴部 ~底面	良好	4	覆土層	24.85 ~ 25.01
				口縁部	良好	1		
				底面	割壊	9		
				胴部	良好	50		
				小破片	71			
	109	土器	甕群	口縁部 ~胴部	良好	6	覆土層	24.83 ~ 24.90
				口縁部	良好	1		
			胴部	良好	6			
			割壊	2				
			小破片	26				
LP-6	117	土器	甕群	底面	割壊	1	覆土層	24.86
	—	—	—	口縁部	良好	3	V2層	25.17 ~ 25.20
	—	—	—	胴部	良好	12	V2層	
	—	—	—	割壊	6	V2層		
LP-52	25	土器	甕群	胴部	割壊	1	底面	25.99
	58	土器	甕群	胴部	良好	1	底面直上	26.01
	83	土器	甕群	口縁部	良好	4	底面直上	26.01
	70	土器	甕群	胴部	割壊	1	底面直上	26.00
	72	土器	甕群	胴部	良好	1	底面直上	25.98
	78	土器	甕群	口縁部	良好	1	底面直上	25.94
	77	土器	甕群	胴部	割壊	1	底面直上	25.65
	PPS-1 番号1	土器	甕群	口縁部	良好	2	底面直上	26.05
				胴部	良好	31		26.10
				小破片	77			
PPS-1 番号2	土器	甕群	底面	良好	1	底面直上	26.07	
—	土器	甕群	胴部	割壊	6	底面直上	—	
LP-53	1	土器	フレイク	黒曜石	—	2,156		
				完形	12			
				準完形	4		覆土層	24.91
				半形	5			
				片	2			
LP-55	10	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	24.86
	11	土器	甕群	胴部	割壊	1	坑底直上	24.84
	12	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	24.82
	14	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.81
	19	土器	フレイク	黒曜石	—	2		
				黒曜石	—	2,037		
				完形	11		覆土層	24.93
				準完形	4			
	20	土器	甕群	胴部	良好	2	覆土層	24.98
				小破片	1			
LP-56	21	土器	甕群	底面	割壊	7		
				小破片	2			
				良好	31		覆土層	24.94
LP-59	31	土器	甕群	胴部	良好	5	覆土層	24.88 ~ 24.99
				割壊	3			
				割壊	1			
				割壊	1			
LP-59	4	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	24.45
	12	土器	甕群	底面	良好	3	坑底	24.46
LP-59	7	土器	甕群	胴部	良好	2	覆土層	24.18
	15	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底直上	23.95
	22	土器	甕群	胴部	割壊	1	坑底	23.86
	23	土器	甕群	胴部	良好	1	坑底	23.87
	24	砥石	砂岩	片	4	坑底	23.87	

図IV-3 遺物説明(3)

遺構番号	遺物番号	土器 石器(備註)	時期	部位 所在	保存 状態	点数	層位	標高 (m)
LP-58	68	土器	群	竪穴	方	1	坑底	25.81
	69	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	25.85
	2	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.32
	3	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.35
	4	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.34
	6	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.28
	7	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.41
	9	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.40
	10	土器	群	竪穴	良好	2	坑底直上	24.36
	12	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.41
	36	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.30
	37	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29
	38	土器	群	竪穴	良好	2	坑底	24.29
	39	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.34
40	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.34	
41	土器	群	竪穴	良好	3	坑底直上	24.34	
42	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.34	
45	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.34	
				小破片	2			
46	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.33	
47	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.38	
52	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.33	
54	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
57	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.33	
59	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
60	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
61	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.27	
62	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
66	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
67	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
70	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
72	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.33	
73	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.29	
74	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.30	
75	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.30	
78	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
79	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.30	
81	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
85	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
89	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
94	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.36	
95	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.36	
96	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.35	
98	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.40	
99	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.41	
100	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.40	
102	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.43	
107	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.11	
111	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
112	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.32	
113	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.32	
114	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.31	
				良好	5			
				小破片	1		24.41	
				小破片	6		24.43	
				小破片	6			
LP-61	71	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.34
LP-62	83	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	26.30
LP-65	22	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	26.10
	25	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	26.25
	26	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	26.13
LP-68	6	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.13
LP-69	32	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.15
	33	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.13
	34	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.13
	37	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.11
	38	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.15
	39	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.10
	40	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.11
	41	土器	群	竪穴	良好	2	坑底直上	24.10
	42	土器	群	竪穴	良好	1	坑底直上	24.10
	43	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	24.09
	12	石礫	黒曜石	変形	1	層土層	26.57	
	29	礫石	砂岩	変形	1	床面直上	26.55	
	30	礫石	砂岩	変形	1	層土層	26.55	
	31	礫石	砂岩	変形	1	層土層	26.54	
32	ヤウ石	砂岩	片	1	坑底直上	26.32		
33	礫石	砂岩	片	1	坑底直上	26.34		
34	礫石	砂岩	変形	1	粘土	26.34		
35	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.28	
38	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.29	
1	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.71	
2	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.72	
3	土器	群	竪穴	良好	1	床面	26.64	
4	土器	群	竪穴	良好	2	床面直上	26.63	
5	土器	群	竪穴	良好	2	床面直上	26.62	
6	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.61	
7	ヌケイガイ	黒曜石	変形	1	床面直上	26.60		
8	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.68	
9	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.61	
10	土器	群	竪穴	良好	1	床面直上	26.77	
1	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.70	
2	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.71	
3	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.71	
4	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.73	
5	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.77	
6	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.74	
7	土器	群	竪穴	良好	1	坑底	26.72	
LP-68	1	土器	群	竪穴	良好	1	床面	26.24
	1	フレイク	黒曜石	変形	1	底面	26.29	
	2	フレイク	黒曜石	変形	1	底面	26.62	
	3	フレイク	黒曜石	変形	1	底面	26.68	
	4	フレイク	黒曜石	変形	1	底面	26.69	
	5	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.92
	6	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.71
	7	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.71
	8	土器	群	竪穴	良好	2	底面直上	26.69
	9	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.71
	10	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.69
	11	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.74
	12	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.72
	13	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.71
	14	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.71
	15	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.73
	16	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.72
LP-93	1	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.61
	2	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.51
	1	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.53
	2	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.54
	3	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.52
	4	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.49
	5	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.47
	6	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.50
	7	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.48
	8	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.51
	9	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.53
	10	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.48
LP-102	1	土器	群	竪穴	良好	1	底面直上	26.51
	2	土器	群	竪穴	良好	1	底面	26.41

図IV-6 遺物説明

遺物 番号	遺物 番号	土器 名物(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	備考	
LFC-1	—	フレイク		黒曜石	—	169	V層	18.98		
						15	V層	19.60		
LFC-2	—	土器	Ⅰ Ⅲ群	胴部	小破片	1	V1層	24.41		
		—	フレイク		黒曜石	—	45			V1層
LFC-3	—	土器	Ⅰ 未分類	胴部	小破片	4	V2層	24.68		
		—	石鏝		黒曜石	—	1			V2層
		—	Rフレイク		黒曜石	—	1			V2層
		—	フレイク		黒曜石	—	2216	V2層		24.74
		380					V2層			
		6					V2層			
		3					V2層			
—	—	—	—	25	V2層					
LFC-4	—	MB		黒曜石	準壳形	4	V2層	*		
		—	石鏝		黒曜石	半形	1		V2層	
		—	石核		黒曜石	—	1		V2層	
		—	U-Rフレイク		黒曜石	—	4		V2層	
		—	フレイク		黒曜石	—	144		V2層	
—	チャート	—					1	V2層		
LFC-5	—	スクレイパー		黒曜石	準壳形	1	V2層	26.88		
		—	フレイク		黒曜石	—	161		V2層	
LS-3	1	礫		砂岩	片	1	V2層	25.76	被熱	
	2	礫		砂岩+ 石英岩脈	片	3	V2層	25.74	接合 被熱	
	3	礫		泥岩	片	1	V2層	*		
	4	礫		泥岩	片	1	V2層	25.74	被熱	
	5	礫		泥岩	片	1	V2層	25.76	被熱	
	6	礫		泥岩	片	1	V2層	25.75	被熱	
	7	礫		泥岩	片	1	V2層	25.72	被熱	
	8	礫		泥岩	片	1	V2層	25.73	被熱	
	9	礫		泥岩	片	2	V2層	25.73	被熱	
	10	礫		砂岩	片	1	V2層	25.72	被熱	
	11	礫		砂岩	片	1	V2層	25.72	被熱	
	12	礫		片岩	片	1	V2層	25.74	被熱	
	13	礫		不明+ 石英岩脈	片	2	V2層	25.76	被熱	
	14	礫		安山岩	片	1	V2層	25.73		
	15	礫		片岩	片	1	V2層	25.72		
	16	礫		砂岩	片	2	V2層	25.73	被熱	
	17	礫		安山岩	片	2	V2層	25.73	接合 被熱	
	18	礫		泥岩	片	1	V2層	25.72		
	19	礫		砂岩	片	1	V2層	25.73	被熱	
	20	礫		砂岩+ 石英岩脈	片	2	V2層	25.73	接合 被熱	
	21	礫		砂岩	片	1	V2層	25.73	被熱?	
	22	礫		泥岩	壳形	1	V2層	25.72		
	23	礫		砂岩	片	1	V2層	*	被熱	
	24	礫		泥岩	片	1	V2層		被熱?	
	25	礫		泥岩	片	1	V2層	25.71	被熱	
	26	礫		泥岩	片	2	V2層	25.72	接合	
	27	礫		安山岩	片	1	V2層	25.76	接合	
	28	礫		泥岩	片	1	V2層	25.70	被熱	
	29	礫		砂岩	片	1	V2層	25.68		
	30	礫		凝灰岩?	片	1	V2層	25.69	接合 被熱	
	31	礫		安山岩	片	1	V2層	25.70	被熱	
	32	礫		砂岩	片	1	V2層	25.70	被熱	
	33	礫		砂岩	片	4	V2層	25.70	接合 被熱	
	34	礫		砂岩	片	1	V2層	25.68	被熱	
	35	礫		安山岩	片	2	V2層	25.69	接合 被熱	
	36	礫		砂岩	片	1	V2層	25.63	被熱	
	37	礫		砂岩	片	1	V2層	25.68	被熱	
	38	礫		安山岩	片	1	V2層	25.63	被熱	
LS-4	1	礫		砂岩	壳形	1	V1層	25.08		
	2	礫		閃緑岩	壳形	1	V1層	25.15		
	3	右石		安山岩	片	1	V1層	25.08		





表IV-1-2 住居跡付属遺構一覧(2)

遺構名	住居跡付属	遺物	部	部	部	部	部		部	部	部	部													
							部	部																	
LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12	LH-12													
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13	LH-13
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14	LH-14													
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15	LH-15
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16	LH-16													
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17	LH-17
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18	LH-18													
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													部	部											
													LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19	LH-19
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								
部	部																								

表IV-1-2 住居跡付属遺構一覧(3)

遺構名	住居跡付属	遺構	目録	名称・遺構番号	特 徴	敷 地 (㎡)		最大径	主な出土遺物	備 考																																												
						敷地面積	埋没面積				最大径																																											
LH-18	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-10	中物庫	...	4.32	4.32	...	...																																												
					...	...	...	...	...	...																																												
					LH-19	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-11	...	...	...	...	...																																								
										...	...	...	...	...																																								
										LH-20	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-12	...	...	...	...	...																																			
															...	...	...	...	...																																			
															LH-21	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-13	...	...	...	...	...																														
																				...	...	...	...	...																														
																				LH-22	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-14	...	...	...	...	...																									
																									...	...	...	...	...																									
																									LH-23	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-15	...	...	...	...	...																				
																														...	...	...	...	...																				
																														LH-24	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-16	...	...	...	...	...															
																																			...	...	...	...	...															
																																			LH-25A	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-17	...	...	...	...	...										
																																								...	...	...	...	...										
																																								LH-25B	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-18	...	...	...	...	...					
																																													...	...	...	...	...					
																																													LH-26	住居跡付属	住居跡付属	第-2	第-2-19	...	...	...	...	...
																																																		...	...	...	...	...





表Ⅳ-1-1-3 土坑・小土坑一覧(1)

路線名	区	路線	グランド	工事種別	掘削深 (m)				付属設備	主な出土物	他の遺構との位置関係			備考			
					埋設		最大				掘削深	掘削深	掘削深				
					最高	最低	最高	最低							掘削深		
LP-1	区-3-1	34	29-77区	内掘	0.73	0.00	0.00	0.03	0.03	---	埋設土層 フライド 敷	LH-7	---	---	---		
LP-2	区-3-1	34	30-16-73区	内掘	0.00	0.00	0.02	0.00	0.70	---	埋設土層 埋設物等 敷	LH-8	---	---	---		
LP-3	区-3-1	34	74-73区	内掘	2.04	2.02	0.00	1.71	0.52	---	埋設土層 埋設物等 敷	---	---	---	小規模土坑の中 埋設物(埋込)との関係		
LP-4	区-3-2	34	29-22-46区	内掘	1.08	1.14	1.19	0.00	0.00	---	1層:埋設土層 2層:埋設土層	---	---	---	---		
LP-5	区-3-2	34	22-66-47区	内掘	1.03	1.06	1.41	1.14	0.26	埋設中	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---		
LP-6	区-3-2	34	30-49区	内掘	1.08	1.13	0.02	0.48	1.02	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	注記	下記	---	埋設物(埋込)の中 埋設物(埋込)との関係		
LP-7	区-3-2	34	31-72区	内掘	0.51	0.02	0.78	0.60	0.20	---	埋設土層 埋設物等	LH-8	---	---	---		
LP-8	区-3-2	34	31-72区	内掘	0.47	1.00	1.10	0.00	0.27	---	埋設土層 埋設物等	---	LP-7	---	---	埋設部分 埋込	
LP-9	区-3-2	34	35-72区	内掘	0.61	0.02	0.60	0.20	0.15	---	埋設土層	---	---	---	小規模土坑		
LP-10	区-3-2	36	27-73区	内掘	1.17	1.09	0.97	0.07	0.18	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等	---	---	---	小規模土坑		
LP-11	区-3-2	36	26-72区	内掘	1.04	0.78	0.72	0.24	0.27	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等	---	---	---	小規模土坑		
LP-12	区-3-2	36	17-43区	内掘	1.09	1.13	1.02	0.60	0.41	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等	LH-11 埋設物等	---	---	---		
LP-13	区-3-4	36	30-27-65区	内掘	1.20	1.14	1.02	1.01	0.58	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	LP-13-10	小規模土坑の中	
LP-14	区-3-4	36	34-87-66区	内掘	1.03	1.75	1.72	1.00	0.27	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---		
LP-15	区-3-4	36	22-102区	内掘	2.21	2.21	1.99	0.07	0.40	---	埋設土層	---	---	---	---		
LP-16	区-3-5	36	20-56-50区	内掘	2.32	2.09	1.90	1.55	0.56	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	上記(LP-16)の 埋設物等	---	LP-16	---	小規模土坑の中 埋込土層	
LP-17	区-3-6	36	18-30区	内掘	1.00	0.02	0.02	0.72	0.10	---	埋設土層	上記(LP-17)の 埋設物等	---	---	---	---	
LP-18	区-3-6	36	30-30区	内掘	0.98	0.91	0.87	0.00	0.12	---	埋設土層	---	---	---	LP-18	---	
LP-19	区-3-6	36	21-30区	内掘	0.61	0.34	0.49	0.02	0.19	---	埋設土層	上記(LP-17)の 埋設物等	---	---	---	---	
LP-20	区-3-6	36	20-21-33区	内掘	1.20	0.90	1.20	0.00	0.17	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-21	区-3-6	36	20-22-33区	内掘	1.21	0.73	0.60	0.00	0.90	---	埋設土層	---	---	---	---	埋込土層	
LP-22	区-3-6	36	20-24-44-55区	内掘	1.97	1.29	1.24	0.00	0.40	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-23	区-3-7	36	20-29-75-76区	内掘	2.57	2.00	2.00	1.00	0.45	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	LH-9-10-11 LP-23-1 埋込土層	小規模土坑の中	
LP-24	区-3-8	36	22-40-25-31-60区	内掘	2.61	2.38	1.98	1.60	0.50	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-25	区-3-8	36	32-70区	内掘	0.80	1.00	1.10	0.00	0.40	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	LP-31	---	---	---	埋込土層の中 埋込土層	
LP-26	区-3-9	37	20-71区	内掘	0.68	0.79	0.70	0.02	0.60	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-27	区-3-9	37	20-70-71-72区	本掘立 内掘	1.08	1.50	1.12	0.51	0.25	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-28	区-3-10	37	20-49区	内掘	1.04	0.90	0.80	0.73	0.28	埋込中	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-29	区-3-10	37	20-49区	内掘	1.10	0.80	0.60	0.64	0.34	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-30	区-3-10	37	20-49区	内掘	1.17	0.80	0.94	0.20	0.21	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-31	区-3-11	37	20-21-42-43区	埋込土層 内掘	0.27	0.20	0.33	1.00	0.55	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等	LP-32	---	---	---	LH-10-10	埋込土層 埋込土層
LP-32	区-3-11	37	20-42-43区	本掘立 内掘	0.90	1.30	1.70	1.21	0.38	埋込土層 (4柱立D-SP)	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-33	区-3-12	37	21-62-53区	内掘	2.00	1.02	1.01	1.02	0.34	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-34	区-3-12	37	20-49区	内掘	0.94	0.60	0.54	0.20	0.21	埋込土層	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-35	区-3-12	37	20-49区	内掘	0.30	0.36	0.20	0.20	0.34	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-36	区-3-12	37	27-47区	内掘	1.12	1.10	0.94	0.38	---	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-37	区-3-12	36	21-72区	内掘	1.53	1.06	0.94	0.63	0.40	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-38	区-3-13	38	21-30区	内掘	1.09	1.13	1.23	1.06	0.18	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	LP-38	
LP-39	区-3-13	38	21-30区	内掘	1.08	0.90	0.81	1.00	0.24	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-40	区-3-14	38	26-53区	内掘	1.61	1.36	1.02	0.60	0.11	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-41	区-3-14	38	27-53区	内掘	1.03	1.00	0.73	1.02	0.43	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	LP-109	上記(LP-111)	LH-31	---	---	小規模土坑の中
LP-42	区-3-15	38	20-22-33区	内掘	0.80	0.00	1.00	0.80	0.27	---	1層:埋設土層 2層:埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-43	区-3-15	38	20-21-33区	内掘	0.60	1.00	1.07	1.14	0.51	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-44	区-3-16	38	20-22-33区	内掘	0.10	0.00	0.20	0.00	0.27	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-45	区-3-16	38	20-21-33区	内掘	0.72	0.60	0.36	0.34	0.36	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	LP-105	---	---	---	小規模土坑	
LP-46	区-3-16	38	20-72区	内掘	0.61	0.77	0.71	0.62	0.10	---	埋設土層	LH-33	---	---	---	---	
LP-47	区-3-16	38	32-72区	内掘	1.06	0.80	0.95	0.73	0.12	---	埋設土層	LH-34	---	---	---	---	
LP-48	区-3-17	38	31-70区	内掘	0.37	0.60	0.40	1.20	0.32	---	埋設土層	---	---	---	---	---	
LP-49	区-3-17	38	27-49区	内掘	1.41	1.09	0.94	0.52	0.02	---	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-50	区-3-18	38	27-49区	内掘	1.34	1.10	0.80	0.38	---	埋込土層 (埋込)	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-51	区-3-18	38	20-22-33区	本掘立 内掘	1.01	1.21	1.30	1.01	0.42	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-52	区-3-18	38	20-71-72区	内掘	2.12	1.30	1.00	1.12	0.38	埋込中	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	---	
LP-53	区-3-18	40	20-44区	内掘	1.08	1.00	1.70	1.27	0.33	埋込土層	埋設土層 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等 埋設物等	---	---	---	---	埋込土層 埋込土層	

表Ⅳ-1-3 土坑・小土坑一覧(2)

遺構名	期	距離	グランド	平準時	深さ (m)				付属 遺構	主な出土遺物	物の埋蔵との位置関係			備 考				
					最高	最低	幅	長さ			掘削 深さ	掘削 深さ	掘削 深さ					
LP-54	Ⅱ-3-18	46	31-71-112	掘削	0.60	0.38	0.30	1.11	0.12	—	—	LH-26	LH-17	LH-18-19 LP-45	—			
LP-55	Ⅱ-3-20	40	31-60E	掘削	1.09	0.27	1.32	1.18	0.13	—	—	—	—	—	LP-108	小形の土器類?		
LP-56	Ⅱ-3-20	40	30-130E	掘削	0.40	0.12	0.13	0.12	0.11	—	—	—	—	—	—	片断的な土器類の存在が認められる		
LP-57	Ⅱ-3-18	40	31-71-112	掘削	0.38	0.09	1.11	0.72	0.12	—	—	—	LP-41	—	—	—		
LP-58	Ⅱ-3-21	42	30-71-10E	西側	1.25	1.06	1.11	0.85	0.15	—	—	—	—	—	LH-19 4枚片C	—		
LP-59	Ⅱ-3-21	40	31-71	西側	2.10	0.03	1.86	11.00	0.16	—	—	—	—	LH-19A-D	—	—		
LP-60	Ⅱ-3-17	40	31-70E	掘削	0.98	0.41	0.54	0.25	0.38	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-61	Ⅱ-3-22	41	30-73E	西側	0.84	0.83	0.61	0.62	0.12	—	—	—	—	—	LH-19 LP-65 LP-205 4枚片C	—		
LP-62	Ⅱ-3-22	41	30-71-10E	掘削	3.14	1.92	1.81	1.38	0.19	—	—	—	—	—	LH-19-19-17	—	—	
LP-63	Ⅱ-3-22	41	31-60E	掘削	1.26	0.85	1.13	0.79	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-64	Ⅱ-3-22	41	31-70	西側	1.51	1.38	1.11	1.11	0.11	—	—	—	—	—	LH-19	—	—	
LP-65	Ⅱ-3-23	41	31-67-4E, 31-60E	掘削	1.02	0.20	1.38	0.86	0.33	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-66	Ⅱ-3-23	47	31-60E	掘削	0.47	0.36	0.62	0.22	0.31	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-67	Ⅱ-3-22	41	30-71-10E	西側	1.81	0.02	1.33	0.73	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-68	Ⅱ-3-24	41	31-10E	掘削	1.47	0.61	1.31	0.73	0.28	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-69	Ⅱ-3-24	42	31-60E	掘削	0.89	0.27	0.51	0.22	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-70	Ⅱ-3-24	42	30-71-10E	掘削	2.49	2.01	2.68	1.68	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-71	Ⅱ-3-25	42	31-71-70E	掘削	1.65	1.09	1.19	1.11	0.41	—	—	—	—	—	—	—	—	—
LP-72	Ⅱ-3-25	42	31-70E	西側	1.26	1.05	1.13	1.18	0.28	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-73	Ⅱ-3-26	42	31-70E	西側	1.15	1.13	0.93	0.78	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-74	Ⅱ-3-26	42	31-67-10E	西側	2.27	0.80	1.76	1.68	0.51	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-75	Ⅱ-3-27	42	31-70-10E	掘削	1.47	1.02	1.49	1.07	0.51	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-76	Ⅱ-3-27	42	31-71-10E	掘削	0.50	0.25	0.45	0.10	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-77	Ⅱ-3-28	43	31-71-10E	掘削	0.48	0.39	0.40	0.16	0.43	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-78	Ⅱ-3-27	43	31-70	西側	0.47	0.45	0.32	0.21	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-79	Ⅱ-3-27	43	31-60E	掘削	1.10	0.77	0.86	0.55	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-80	Ⅱ-3-27	43	30-69-60E	掘削	1.12	0.02	0.98	0.68	0.17	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-81	Ⅱ-3-28	43	31-71-10E	掘削	2.28	0.90	1.90	11.71	0.27	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-82	Ⅱ-3-29	43	31-67E	西側	1.29	1.20	1.28	1.25	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-83	Ⅱ-3-29	43	31-71-10E	掘削	1.13	0.91	0.80	0.69	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-84	Ⅱ-3-29	43	31-71-10E	掘削	1.87	1.75	1.61	1.61	0.62	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-85	Ⅱ-3-29	44	30-71E	掘削	1.68	1.12	1.12	0.64	0.31	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-86	Ⅱ-3-29	44	31-70E	掘削	0.26	0.06	1.61	1.01	0.61	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-87	Ⅱ-3-29	44	31-70E	掘削	0.84	0.68	0.70	1.16	0.38	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-88	Ⅱ-3-31	44	31-71-10E	掘削	3.65	0.85	2.28	11.60	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-89	Ⅱ-3-30	44	31-70E	西側	1.65	0.86	0.73	0.79	0.15	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-90	Ⅱ-3-30	44	31-70E	掘削	1.87	1.16	1.68	0.42	0.49	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-91	Ⅱ-3-28	44	71-110E	掘削	0.80	0.30	0.42	0.42	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-92	Ⅱ-3-30	44	71-110E	掘削	0.80	0.40	0.80	0.13	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-93	Ⅱ-3-30	44	31-10E	掘削	1.61	1.38	1.11	0.91	0.17	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-94	Ⅱ-3-30	45	30-72E	西側	1.22	1.23	1.16	1.28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-95	Ⅱ-3-30	45	31-11-10E	掘削	0.50	0.30	0.38	0.37	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-96	Ⅱ-3-30	45	31-10E	掘削	0.12	0.07	0.62	0.61	0.51	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-97	Ⅱ-3-30	45	31-70E	掘削	1.21	1.01	0.92	0.57	0.16	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-98	Ⅱ-3-30	45	31-71-10E	掘削	0.48	0.40	0.90	11.47	0.19	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-99	Ⅱ-3-30	45	31-70E	掘削	0.83	0.39	0.51	0.33	0.23	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-100	Ⅱ-3-30	45	31-70E	掘削	0.83	0.10	0.60	0.60	0.31	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-101	Ⅱ-3-34	45	30-71E	西側	0.63	0.50	0.38	0.30	0.32	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-102	Ⅱ-3-34	45	31-71E	掘削	0.73	0.10	0.38	11.10	0.61	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-103	Ⅱ-3-34	45	31-71E	掘削	0.77	0.71	0.50	0.42	0.38	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-104	Ⅱ-3-34	45	31-70E	掘削	0.33	0.28	0.13	0.13	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—	
LP-105	Ⅱ-3-31	46-3	31-70E	西側	0.50	0.28	0.20	0.18	0.37	—	—	—	—	—	—	—	—	

表IV-1-4 土坑付属遺構一覽

遺構名	付属遺構名	種類	部	形跡・遺物番号	特徴	幅・深 (cm)					土坑付属遺物	備 考
						幅		深		最大深		
						最大	平均	最大	平均			
LP-3	PPF-1	土坑	部 3-1-1	溝跡跡	先堀跡(小)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.17	---	---
				溝跡跡	板瓦	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	土	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
LP-4	*	土盛集中	部 3-1-2	遺物番号:1-4	一箇様 白磁・黒磁土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
				遺物番号:1-9	溝土器の 土	0.21	0.14	---	---	---	---	
LP-12	PPF-1	土盛	部 3-1-4	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.14	*	---	---	---	
				溝跡跡	溝土盛上	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-16	PPF-1	土盛	部 3-1-5	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	*	---	---	付いた土器材	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-23	PPF-1	土盛	部 3-1-7	溝跡跡	先堀跡(小)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.12	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	0.09	---	
				溝跡跡	字瓦部(附著 跡)跡	1.20	1.20	0.20	0.20	0.14	---	
				溝跡跡	土	0.12	---	---	---	---	---	
				溝跡跡	打込小瓦	0.07	---	---	---	---	---	
				溝跡跡	土	0.09	---	---	---	---	---	
LP-24	---	土盛集中	部 3-1-8	溝跡跡	溝土盛 土	0.22	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-25	PPF-1	土盛集中	部 3-1-8	溝跡跡	溝跡跡	0.21	0.20	---	---	---		
LP-27	---	土盛集中	部 3-1-9	遺物番号:1-23	板瓦	0.20	0.20	---	---	---		
LP-28	---	土盛集中	部 3-1-9	遺物番号:13-14	溝土器	0.20	0.20	---	---	---		
LP-30	---	土盛	部 3-1-10	溝跡跡	溝土盛 土	0.20	0.20	---	---	---		
LP-32	PPF-1	板瓦	部 3-1-11	溝跡跡	溝跡跡 小瓦部(附 着)跡	0.20	0.11	0.16	---	---		
LP-33	---	土盛	部 3-1-13	溝跡跡	溝土盛 土	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-34	PPF-1	土盛集中	部 3-1-13	遺物番号:14	一箇様 白磁・黒磁土器	0.20	0.20	---	---	---		
LP-34	---	溝土盛	部 3-1-13	溝跡跡	先堀跡(小)	0.20	0.20	0.11	---	---	---	
				溝跡跡	先堀跡(小)	0.20	0.20	0.11	---	---	---	
				溝跡跡	先堀跡(小)	0.20	0.20	0.11	---	---	---	
LP-36	---	土盛	部 3-1-14	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.06	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-38	---	土盛集中	部 3-1-15	遺物番号:15	一箇様 白磁・黒磁土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-39	PPF-1	土盛	部 3-1-15	溝跡跡	溝跡跡	0.22	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.14	0.06	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.03	---	---	---	
LP-41	---	土盛集中	部 3-1-16	遺物番号:16	板瓦	0.20	0.20	---	---	---		
				遺物番号:17	板瓦	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-50	PPF-1	土盛	部 3-1-18	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.07	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-51	---	土盛	部 3-1-18	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-52	PPF-1	土盛集中	部 3-1-18	遺物番号:18	一箇様 白磁・黒磁土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
				遺物番号:19-21	一箇様 白磁・黒磁土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-53	---	土盛	部 3-1-18	遺物番号:22	溝土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
				遺物番号:23	溝土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
				遺物番号:24	溝土器	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-56	PPF-1	土盛	部 3-1-19	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.08	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-58	---	土盛	部 3-1-21	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-64	---	土盛	部 3-1-23	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-65	---	土盛	部 3-1-23	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-67	---	土盛集中	部 3-1-25	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.10	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-74	PPF-1	土盛	部 3-1-26	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.11	0.16	---	---	---	
LP-81	PPF-1	土盛	部 3-1-31	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-82	---	土盛	部 3-1-31	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	---	---	---	---	
LP-102	---	土盛集中	部 3-1-34	溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	
				溝跡跡	溝跡跡	0.20	0.20	0.20	0.20	---	---	

表IV-1-5 小柱穴一覧(1)

遺構名	柱穴列	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 形状	形態 断面	規模 (m) 径・高さ	出土遺物	備考
sp-1	小柱穴D	IV-4-5	*	30-31	66区	埴輪	円形	丸 0.25 0.10	—	—
sp-2	小柱穴D	IV-4-5	*	30-66	67区	埴輪	楕円形	丸 0.28 0.12	—	—
sp-3	小柱穴D	IV-4-5	*	30-67	67区	埴輪	円形	丸 0.13 0.11	—	—
sp-4	小柱穴D	IV-4-5	*	30-67	67区	埴輪	円形	丸 0.39 0.14	—	—
sp-5	小柱穴D	IV-4-5	*	30-67	67区	埴輪	楕円形	楕丸 0.27 0.12	—	—
sp-6	小柱穴D	IV-4-5	*	30-68	68区	埴輪	楕円形	平 0.32 0.15	—	—
sp-7	小柱穴D	IV-4-5	*	30-68	68区	埴輪	楕円形	丸 0.25 0.10	—	—
sp-8	小柱穴D	IV-4-5	*	30-68	68区	埴輪	楕円形	楕丸 0.28 0.09	—	—
sp-9	小柱穴D	IV-4-5	*	30-68	68区	埴輪	楕円形	楕丸 0.22 0.06	—	—
sp-10	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	平 0.23 0.10	—	—
sp-11	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	丸 0.25 0.20	—	—
sp-12	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	楕円形	丸 0.25 0.12	—	—
sp-13	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	丸 0.18 0.11	—	—
sp-14	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	楕円形	丸 0.23 0.11	—	—
sp-15	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	平 0.17 0.10	—	土群土器
sp-16	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	丸 0.26 0.17	—	—
sp-17	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	実 0.13 0.10	—	—
sp-18	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	円形	丸 0.25 0.21	—	—
sp-19	小柱穴D	IV-4-5	*	29-69	69区	埴輪	楕円形	丸 0.22 0.22	—	土群土器
sp-20	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	楕円形	楕丸 0.29 0.20	—	—
sp-21	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	楕円形	丸 0.32 0.21	—	—
sp-22	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	楕円形	丸 0.25 0.16	—	—
sp-23	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	平 0.34 0.22	—	—
sp-24	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	楕丸 0.20 0.23	—	—
sp-25	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	楕丸 0.23 0.11	—	—
sp-26	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	楕丸 0.17 0.12	—	—
sp-27	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	平 0.28 0.22	—	—
sp-28	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	楕円形	楕丸 0.15 0.21	—	—
sp-29	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	楕円形	平 0.29 0.15	—	—
sp-30	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70	70区	埴輪	円形	平 0.27 0.14	—	—
sp-31	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	実 0.14 0.24	—	—
sp-32	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	丸 0.11 0.15	—	—
sp-33	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	楕丸 0.20 0.09	—	—
sp-34	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	丸 0.18 0.24	—	ES
sp-35	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	丸 0.17 0.11	—	—
sp-36	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	楕円形	楕丸 0.25 0.13	—	—
sp-37	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	楕円形	楕丸 0.30 0.12	—	—
sp-38	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	実 0.13 0.18	—	—
sp-39	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	実 0.17 0.16	—	—
sp-40	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	楕丸 0.24 0.13	—	—
sp-41	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	楕丸 0.19 0.18	—	—
sp-42	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	丸 0.24 0.16	—	—
sp-43	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	楕丸 0.22 0.19	—	—
sp-44	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	楕丸 0.19 0.15	—	—
sp-45	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	円形	楕丸 0.25 0.12	—	—
sp-46	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72	72区	埴輪	楕円形	平 0.27 0.22	—	—
sp-47	小柱穴C	IV-4-4	*	29-72-73	73区	埴輪	円形	楕丸 0.21 0.12	—	—
sp-48	小柱穴C	IV-4-4	*	29-73	73区	埴輪	円形	楕丸 0.24 0.20	—	—
sp-49	小柱穴C	IV-4-4	*	29-73	73区	埴輪	円形	丸 0.23 0.22	—	—
sp-50	小柱穴C	IV-4-4	*	30-73	73区	埴輪	円形	楕丸 0.19 0.10	—	—
sp-51	小柱穴C	IV-4-4	*	30-73	73区	埴輪	円形	丸 0.27 0.18	—	—
sp-52	小柱穴B	IV-4-3	*	30-74	74区	埴輪	円形	楕丸 0.27 0.14	—	土群土器
sp-53	小柱穴B	IV-4-3	*	31-74	74区	埴輪	円形	丸 0.21 0.08	—	—
sp-54	小柱穴B	IV-4-3	*	30-75	75区	埴輪	楕円形	楕丸 0.21 0.15	—	—
sp-55	小柱穴B	IV-4-3	*	30-75	75区	埴輪	楕円形	平 0.19 0.15	—	—
sp-56	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	楕丸 0.24 0.22	—	土群土器
sp-57	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	楕丸 0.24 0.13	—	—
sp-58	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	楕円形	楕丸 0.29 0.20	—	—
sp-59	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	実 0.25 0.28	—	—
sp-60	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	平 0.24 0.17	—	—
sp-61	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	丸 0.23 0.12	—	—
sp-62	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75	75区	埴輪	円形	実 0.22 0.30	—	—
sp-63	小柱穴C	IV-4-4	*	29-71	71区	埴輪	円形	平 0.18 0.09	—	—
sp-64	小柱穴C	IV-4-4	*	28-72	72区	埴輪	円形	実 0.13 0.43	—	—
sp-65	小柱穴C	IV-4-4	*	28-29-72	72区	埴輪	円形	実 0.13 0.30	—	—
sp-66	小柱穴C	IV-4-4	*	28-72	72区	埴輪	楕円形	丸 0.19 0.10	—	—
sp-67	小柱穴C	IV-4-4	*	29-73	73区	埴輪	円形	平 0.24 0.16	—	—
sp-68	小柱穴C	IV-4-4	*	28-73	73区	埴輪	円形	楕丸 0.36 0.20	—	—
sp-69	小柱穴C	IV-4-4	*	28-73	73区	埴輪	円形	楕丸 0.15 0.10	—	—
sp-70	小柱穴C	IV-4-4	*	28-29-73	73区	埴輪	円形	丸 0.21 0.16	—	—
sp-71	小柱穴C	IV-4-4	*	28-73	73区	埴輪	円形	平 0.27 0.13	—	—
sp-72	小柱穴C	IV-4-4	*	28-73	73区	埴輪	楕円形	平 0.22 0.13	—	—

表IV-1-5 小柱穴一覧(2)

遺構名	柱穴列	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 形状	形態 断面	規模 (m) 径	出土遺物	備考
sp-73	小柱穴 C	IV-4-4	*	28-73区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.22、0.15	—	—
sp-74	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-74区	Ⅴ層	溝内形	尖	0.17、0.17	—	—
sp-75	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-74区	Ⅴ層	溝内形	平	0.17、0.12	—	—
sp-76	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-74区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.29、0.14	—	—
sp-77	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-74区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.20、0.14	—	—
sp-78	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.20、0.08	—	—
sp-79	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.21、0.07	—	—
sp-80	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19、0.12	—	—
sp-81	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.19、0.29	—	—
sp-82	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.25、0.29	—	—
sp-83	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.16、0.10	—	—
sp-84	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	溝内形	尖	0.12、0.22	—	—
sp-85	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.16、0.09	—	—
sp-86	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.21、0.16	—	—
sp-87	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.26、0.17	—	—
sp-88	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19、0.10	—	—
sp-89	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.25、0.16	—	—
sp-90	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.16、0.19	—	—
sp-91	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	円形	尖	0.21、0.21	—	—
sp-92	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	円形	尖	0.17、0.18	—	—
sp-93	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.23、0.10	—	—
sp-94	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	円形	平	0.12、0.21	—	—
sp-95	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.28、0.10	—	—
sp-96	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.33、0.12	—	—
sp-97	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	円形	丸	0.19、0.11	—	—
sp-98	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.19、0.09	—	—
sp-99	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.20、0.17	—	—
sp-100	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	溝内形	平	0.20、0.09	—	—
sp-101	小柱穴 F	IV-4-6	*	28-76区	Ⅴ層	円形	丸	0.22、0.16	—	—
sp-102	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-78区	Ⅴ層	溝内形	尖	0.21、0.09	—	—
sp-103	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-78区	Ⅴ層	円形	丸	0.30、0.16	—	—
sp-104	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-79区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.28、0.19	—	—
sp-105	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-79区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.23、0.11	—	—
sp-106	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-79区	Ⅴ層	円形	丸	0.16、0.10	—	—
sp-107	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-79区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.20、0.14	—	—
sp-108	小柱穴 G	IV-4-6	*	27-78区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.18、0.14	—	—
sp-109	小柱穴 G	IV-4-6	*	28-78区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.25、0.16	—	—
sp-110	小柱穴 D	IV-4-5	*	30-67区	Ⅴ層	溝内形	平	0.19、0.14	—	—
sp-111	小柱穴 D	IV-4-5	*	30-67区	Ⅴ層	円形	平	0.12、0.11	—	—
sp-112	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-67区	Ⅴ層	円形	丸	0.10、0.04	—	—
sp-113	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-67区	Ⅴ層	円形	丸	0.15、0.17	—	—
sp-114	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-67区	Ⅴ層	円形	尖	0.12、0.22	—	—
sp-115	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-67区	Ⅴ層	円形	丸	0.15、0.20	—	—
sp-116	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-67区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.23、0.18	—	—
sp-117	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.27、0.23	フレイク	—
sp-118	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	円形	平	0.17、0.11	—	—
sp-119	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.29、0.11	—	—
sp-120	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.13、0.15	—	—
sp-121	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.18、0.10	—	—
sp-122	小柱穴 D	IV-4-5	*	29-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.19、0.13	—	—
sp-123	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.24、0.15	—	—
sp-124	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.30、0.23	—	—
sp-125	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.26、0.12	—	—
sp-126	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	溝内形	平	0.27、0.29	—	—
sp-127	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	溝内形	丸	0.24、0.27	—	—
sp-128	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	平	0.20、0.13	—	—
sp-129	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.17、0.13	—	—
sp-130	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.23、0.17	—	—
sp-131	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	平	0.20、0.12	—	—
sp-132	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	平	0.20、0.11	—	—
sp-133	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.23、0.22	—	—
sp-134	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.23、0.23	—	—
sp-135	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.20、0.21	—	—
sp-136	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-68-69区	Ⅴ層	溝内形	平	0.23、0.13	—	—
sp-137	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	溝内形	平	0.29、0.17	—	—
sp-138	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	溝内形	平	0.22、0.15	—	—
sp-139	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	溝内形	平	0.22、0.28	—	—
sp-140	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.25、0.19	—	—
sp-141	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.20、0.27	—	—
sp-142	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	溝内形	平	0.28、0.24	—	—
sp-143	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	溝内形	隅丸	0.24、0.10	—	—
sp-144	小柱穴 D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.25、0.24	—	—

表IV-1-5 小柱穴一覧(3)

遺構名	柱穴列	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 平面	形態 断面	規模 (m) 径×高さ	出土遺物	備考
sp-145	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	橢円形	平	0.17, 0.10	—	—
sp-146	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.17, 0.10	—	—
sp-147	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	尖	0.19, 0.16	—	—
sp-148	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.18, 0.17	—	—
sp-149	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.18, 0.11	—	—
sp-150	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	尖	0.18, 0.20	—	—
sp-151	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69・70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20, 0.09	—	—
sp-152	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19, 0.22	—	—
sp-153	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.23, 0.12	—	—
sp-154	小柱穴D	IV-4-5	*	28-69・70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19, 0.21	—	—
sp-155	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.22, 0.11	—	—
sp-156	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.19, 0.17	—	—
sp-157	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	平	0.27, 0.19	—	—
sp-158	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.20, 0.20	—	—
sp-159	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.35, 0.08	—	—
sp-160	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.21, 0.10	—	—
sp-161	小柱穴D	IV-4-5	*	29-70区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.27, 0.22	—	—
sp-162	小柱穴D	IV-4-5	*	28・29-70区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.18, 0.19	—	—
sp-163	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.13, 0.12	—	—
sp-164	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.20, 0.15	—	—
sp-165	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.22, 0.15	—	—
sp-166	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.18, 0.17	—	—
sp-167	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	平	0.26, 0.14	—	—
sp-168	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	円形	平	0.18, 0.14	—	—
sp-169	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.17, 0.17	—	—
sp-170	小柱穴D	IV-4-5	*	28-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.17, 0.14	—	—
sp-171	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	平	0.28, 0.14	—	—
sp-172	小柱穴C	IV-4-4	*	28-71区	Ⅴ層	円形	平	0.17, 0.09	—	—
sp-173	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	橢円形	平	0.19, 0.10	—	—
sp-174	小柱穴C	IV-4-4	*	28-71区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.14, 0.13	—	—
sp-175	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	丸	0.13, 0.09	—	—
sp-176	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.15, 0.12	—	—
sp-177	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.18, 0.15	—	—
sp-178	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.14, 0.10	—	—
sp-179	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	平	0.10, 0.08	—	—
sp-180	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	丸	0.12, 0.13	—	—
sp-181	小柱穴C	IV-4-4	*	27-71区	Ⅴ層	円形	丸	0.12, 0.09	—	—
sp-182	小柱穴C	IV-4-4	*	27-72区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.28, 0.09	—	—
sp-183	小柱穴C	IV-4-4	*	27-72区	Ⅴ層	円形	平	0.18, 0.12	—	—
sp-184	小柱穴C	IV-4-4	*	26・27-72区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.21, 0.11	—	—
sp-185	小柱穴C	IV-4-4	*	26-72区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.16, 0.12	—	—
sp-186	小柱穴C	IV-4-4	*	26-72区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.30, 0.14	—	—
sp-187	小柱穴C	IV-4-4	*	26-72区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.37, 0.14	—	—
sp-188	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.18, 0.08	—	—
sp-189	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.22, 0.08	—	—
sp-190	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	円形	平	0.27, 0.13	—	—
sp-191	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	円形	尖	0.14, 0.14	—	—
sp-192	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.27, 0.18	—	—
sp-193	小柱穴C	IV-4-4	*	26-73区	Ⅴ層	円形	丸	0.17, 0.09	—	—
sp-194	小柱穴C	IV-4-4	*	25-73区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.26, 0.09	—	—
sp-195	小柱穴C	IV-4-4	*	25-73区	Ⅴ層	円形	丸	0.21, 0.20	—	—
sp-196	小柱穴C	IV-4-4	*	25-73区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.18, 0.15	—	—
sp-197	小柱穴E	IV-4-6	*	25-73区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.28, 0.14	—	—
sp-198	小柱穴E	IV-4-6	*	25-73区	Ⅴ層	橢円形	平	0.27, 0.17	—	—
sp-199	小柱穴E	IV-4-6	*	25-73区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.25, 0.07	—	—
sp-200	小柱穴E	IV-4-6	*	25-73・74区	Ⅴ層	橢円形	平	0.23, 0.14	—	—
sp-201	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.26, 0.11	—	—
sp-202	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	円形	丸	0.18, 0.08	—	—
sp-203	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	円形	丸	0.15, 0.13	—	—
sp-204	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19, 0.22	—	—
sp-205	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	円形	平	0.13, 0.10	—	—
sp-206	小柱穴E	IV-4-6	*	25-74区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20, 0.13	—	—
sp-207	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	円形	平	0.22, 0.22	—	—
sp-208	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20, 0.24	—	—
sp-209	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	橢円形	平	0.24, 0.14	—	—
sp-210	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.25, 0.21	—	—
sp-211	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.24, 0.08	—	—
sp-212	小柱穴E	IV-4-6	*	25-75区	Ⅴ層	橢円形	平	0.23, 0.10	—	—
sp-213	小柱穴E	IV-4-6	*	24-75区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20, 0.19	—	—
sp-214	小柱穴E	IV-4-6	*	24-76区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.18, 0.11	—	—
sp-215	小柱穴C	IV-4-4	*	26-71区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.17, 0.13	—	—
sp-216	小柱穴C	IV-4-4	*	26-71区	Ⅴ層	橢円形	平	0.19, 0.17	—	—

表Ⅳ-1-5 小柱穴一覧(4)

遺構名	柱穴列	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 形状	形態 断面	規模 (m) 径	出土遺物	備考
sp-217	小柱穴 C	Ⅳ-4-4	*	26-71区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.30 0.18	—	—
sp-218	小柱穴 C	Ⅳ-4-4	*	26-71区	Ⅴ層	円形	尖	0.24 0.26	—	—
sp-219	小柱穴 C	Ⅳ-4-4	*	26-71区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.22 0.09	—	—
sp-220	小柱穴 C	Ⅳ-4-4	*	26-70区	Ⅴ層	円形	平	0.20 0.09	—	—
sp-221	小柱穴 F	Ⅳ-4-6	*	28-75区	Ⅴ層	円形	丸	0.17 0.15	—	—
sp-222	小柱穴 F	Ⅳ-4-6	*	27-76区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.18 0.15	—	—
sp-223	小柱穴 F	Ⅳ-4-6	*	27-75区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.17 0.16	—	—
sp-224	小柱穴 F	Ⅳ-4-6	*	27-76区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.22 0.11	—	—
sp-225	小柱穴 F	Ⅳ-4-6	*	27-75区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.23 0.15	—	—
sp-226	小柱穴 C	Ⅳ-4-4	*	28-71区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.22 0.16	—	—
sp-227	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	円形	丸	0.20 0.34	—	土層断面図
sp-228	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.17 0.09	—	—
sp-229	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	円形	丸	0.21 0.15	—	—
sp-230	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	円形	平	0.19 0.18	—	—
sp-231	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	橢円形	平	0.10 0.09	—	—
sp-232	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70-71区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.16 0.12	—	—
sp-233	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	平	0.24 0.08	—	—
sp-234	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	平	0.22 0.10	—	—
sp-235	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70-71区	Ⅴ層	円形	平	0.20 0.22	—	—
sp-236	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅴ層	橢円形	平	0.17 0.14	—	土層断面図
sp-237	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20 0.14	—	—
sp-238	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.21 0.25	—	—
sp-239	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.24 0.13	—	—
sp-240	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.24 0.23	—	土層断面図
sp-241	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	丸	0.17 0.12	—	土層断面図
sp-242	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.22 0.90	—	土層断面図
sp-243	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	平	0.21 0.17	—	—
sp-244	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.18 0.20	—	—
sp-245	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	平	0.20 0.19	—	—
sp-246	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	平	0.20 0.20	—	—
sp-247	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.20 0.21	—	土層断面図
sp-248	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.20 0.12	—	土層断面図
sp-249	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-70区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.25 0.20	—	—
sp-250	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-70区	Ⅴ層	橢円形	平	0.24 0.31	—	土層断面図
sp-251	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	尖	0.20 0.18	—	—
sp-252	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.32 0.26	—	土層断面図
sp-253	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	双円形	平	0.21 0.13	—	—
sp-254	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	橢円形	平	0.24 0.17	—	—
sp-255	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	橢円形	平	0.16 0.15	—	—
sp-256	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	46	36-69区	Ⅴ層	橢円形	平	0.24 0.21	—	—
sp-257	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	円形	平	0.19 0.17	—	—
sp-258	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.16 0.11	—	—
sp-259	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	円形	平	0.16 0.11	—	—
sp-260	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	橢円形	平	18.00 0.14	—	—
sp-261	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-69区	Ⅴ層	双円形	丸	0.20 0.13	—	土層断面図
sp-262	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-36-69区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.23 0.17	—	—
sp-263	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.23 0.15	—	—
sp-264	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.25 0.15	—	—
sp-265	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	丸	0.20 0.23	—	土層断面図
sp-266	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.18 0.17	—	—
sp-267	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.23 0.15	—	—
sp-268	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.15 0.11	—	—
sp-269	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.19 0.12	—	—
sp-270	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-69区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.20 0.13	—	—
sp-271	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.19 0.14	—	—
sp-272	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	平	0.17 0.12	—	土層断面図
sp-273	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	平	0.19 0.17	—	—
sp-274	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	平	0.15 0.18	—	—
sp-275	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.21 0.09	—	—
sp-276	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	隅丸	0.16 0.11	—	土層断面図
sp-277	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.21 0.14	—	—
sp-278	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.18 0.13	—	—
sp-279	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	隅丸	0.21 0.15	—	土層断面図
sp-280	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.12 0.14	—	—
sp-281	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.16 0.17	—	—
sp-282	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.20 0.20	—	—
sp-283	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	平	0.28 0.22	—	—
sp-284	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.22? 0.18	—	—
sp-285	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	丸	0.25 0.14	—	—
sp-286	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	橢円形	平	0.17 0.07	—	土層断面図
sp-287	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	尖	0.20 0.20	—	土層断面図
sp-288	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅴ層	円形	丸	0.25 0.18	—	土層断面図

表IV-1-5 小柱穴一覧(5)

遺構名	柱穴列	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 形状	形態 断面	規模 (m) 径	出土遺物	備考
sp-289	小柱穴A	IV-4-2	*	35-68区	Ⅱ	円形	尖	0.25	0.21	—
sp-290	小柱穴A	IV-4-2	*	35-68区	Ⅱ	楕円形	丸	0.21	0.16	—
sp-291	小柱穴A	IV-4-2	*	35-67・68区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.17	0.09	—
sp-292	小柱穴A	IV-4-2	*	34・35-68区	Ⅱ	楕円形	丸	0.20	0.20	—
sp-293	小柱穴A	IV-4-2	*	34-68区	Ⅱ	円形	丸 <sup>ウ</sup>	0.15	0.17	—
sp-294	小柱穴A	IV-4-2	*	35-67区	Ⅱ	楕円形	平	0.23	0.09	—
sp-295	小柱穴A	IV-4-2	*	34-67区	Ⅱ	楕円形	平	0.18	0.11	—
sp-296	小柱穴A	IV-4-2	*	34-67区	Ⅱ	楕円形	尖	0.29	0.18	—
sp-297	小柱穴A	IV-4-2	*	34-67区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.16	0.07	—
sp-298	小柱穴A	IV-4-2	*	34-67区	Ⅱ	円形	丸	16.00	17.00	—
sp-299	小柱穴A	IV-4-2	*	34-67区	Ⅱ	円形	尖	0.18	0.03	—
sp-300	小柱穴A	IV-4-2	*	35-68区	Ⅱ	楕円形	平	0.16	0.14	—
sp-301	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.30	0.18	—
sp-302	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.18	0.19	—
sp-303	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸/尖	0.21	0.17	遺群土器
sp-304	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	丸	0.32	0.23	—
sp-305	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	隅丸	0.23	0.28	—
sp-306	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.21	0.25	遺群土器
sp-307	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	尖	0.24	0.27	—
sp-308	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74・75区	Ⅱ	円形	丸	0.21	0.25	—
sp-309	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	楕円形	丸	0.21	0.20	—
sp-310	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	円形	丸	0.20	0.12	—
sp-311	小柱穴B	IV-4-3	46	33-74区	Ⅱ	円形	丸	0.19	0.23	—
sp-312	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	円形	隅丸	0.17	0.21	—
sp-313	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	円形	尖	0.22	0.21	—
sp-314	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.22	0.12	—
sp-315	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	円形	隅丸	0.16	0.13	—
sp-316	小柱穴B	IV-4-3	*	33・34-74区	Ⅱ	円形	丸	0.17	0.02	遺群土器
sp-317	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	円形	尖	0.16	0.20	—
sp-318	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	楕円形	丸	0.26	0.12	—
sp-319	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	円形	尖	0.22	0.32	—
sp-320	小柱穴B	IV-4-3	*	35-73区	Ⅱ	円形	丸	0.18	0.24	—
sp-321	小柱穴B	IV-4-3	*	31-75区	Ⅱ	円形	丸	0.29	0.19	—
sp-322	小柱穴B	IV-4-3	*	31・32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.16	0.18	遺群土器
sp-323	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.13	0.17	遺群土器
sp-324	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	丸	0.27	0.28	遺群土器
sp-325	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.28	0.30	遺群土器
sp-326	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	隅丸	0.20	0.24	遺群土器
sp-327	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.21	0.25	遺群土器
sp-328	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	円形	丸	0.19	0.22	—
sp-329	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.22	0.08	—
sp-330	小柱穴B	IV-4-3	*	32-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.29	0.19	—
sp-331	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	尖	0.17	0.30	—
sp-332	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	楕円形	丸	0.24	0.23	—
sp-333	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	丸	0.18	0.16	—
sp-334	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	楕円形	丸	0.26	0.23	遺群土器
sp-335	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.19	0.13	—
sp-336	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	隅丸	0.21	0.08	—
sp-337	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	丸	0.30	0.18	—
sp-338	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	隅丸	0.20	0.10	—
sp-339	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	円形	隅丸	0.27	0.09	—
sp-340	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74・75区	Ⅱ	円形	丸	0.19	0.16	遺群土器
sp-341	小柱穴B	IV-4-3	*	33-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.14	0.15	—
sp-342	小柱穴B	IV-4-3	*	33-75区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.19	0.10	—
sp-343	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.17	0.07	—
sp-344	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.23	0.12	遺群土器
sp-345	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.14	0.23	遺群土器
sp-346	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	楕円形	隅丸	0.16	0.09	—
sp-347	小柱穴B	IV-4-3	*	34-74区	Ⅱ	円形	平	0.21	0.26	—
sp-348	小柱穴H	IV-4-7	*	32-76区	Ⅱ	円形	丸	0.13	0.18	—
sp-349	小柱穴H	IV-4-7	*	32-76区	Ⅱ	円形	尖	0.09	0.18	—
sp-350	小柱穴H	IV-4-7	*	32-76区	Ⅱ	円形	隅丸	0.13	0.18	—
sp-351	小柱穴H	IV-4-7	*	32-76区	Ⅱ	円形	隅丸	0.19	0.19	遺群土器
sp-352	小柱穴H	IV-4-7	*	32-76区	Ⅱ	楕円形	丸	0.26	0.46	土器 加工痕のある塊
sp-353	小柱穴H	IV-4-7	*	33-76区	Ⅱ	楕円形	尖	0.12	0.30	—
sp-354	小柱穴H	IV-4-7	*	33-76区	Ⅱ	楕円形	丸	0.12	0.38	—
sp-355	小柱穴H	IV-4-7	*	33-76区	Ⅱ	円形	丸	0.07	0.10	—
sp-356	小柱穴H	IV-4-7	*	33-77区	Ⅱ	円形	丸	0.12	0.26	—
sp-357	小柱穴H	IV-4-7	*	32-77区	Ⅱ	円形	丸	0.09	0.13	—
sp-358	小柱穴H	IV-4-7	*	32-77区	Ⅱ	円形	尖	0.10	0.27	—
sp-359	小柱穴H	IV-4-7	*	32-77区	Ⅱ	円形	尖	0.10	0.22	—



表Ⅳ-1-5 小柱穴一覧(6)

遺構名	柱穴別	図	図版	グリッド	確認 層位	坑底面 形状	形態	規模 (m) 径	出土遺物	備考
sp-360	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	32-77区	Ⅳ層	円形	尖	0.11・0.22	—	—
sp-361	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	32-77区	Ⅳ層	円形	尖	0.14・0.36	—	土層断面図
sp-362	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-73区	Ⅳ層	円形	尖	0.11・0.15	—	—
sp-363	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	楕円形	隅丸	0.24・0.35	—	土層断面図
sp-364	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	円形	丸	0.16・0.22	—	—
sp-365	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	円形	尖	0.13・0.20	—	—
sp-366	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	円形	丸	0.17・0.20	—	—
sp-367	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	34-77区	Ⅳ層	円形	丸	0.19・0.19	—	—
sp-368	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	34-77区	Ⅳ層	円形	丸	0.20・0.27	—	—
sp-369	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-78区	Ⅳ層	円形	尖	0.11・0.26	—	—
sp-370	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-78区	Ⅳ層	楕円形	尖	0.11・0.24	—	—
sp-371	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-78区	Ⅳ層	円形	丸	0.10・0.14	—	—
sp-372	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	円形	丸	0.09・0.12	—	—
sp-373	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-78区	Ⅳ層	円形	尖	0.14・0.40	—	土層断面図
sp-374	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	34-68区	Ⅳ層	円形	尖	0.09・0.14	—	—
sp-375	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	34-78区	Ⅳ層	円形	尖	0.10・0.21	—	—
sp-376	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-77区	Ⅳ層	円形	尖	0.07	*	調査時番号:394
sp-377	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-79区	Ⅳ層	楕円形	丸	0.23・0.13	—	—
sp-378	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-79区	Ⅳ層	円形	尖	0.08・0.24	—	遺跡土層
sp-379	小柱穴 H	Ⅳ-4-7	*	33-80区	Ⅳ層	円形	丸	0.11・0.34	—	—
sp-380	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	36-71区	Ⅳ層	楕円形	隅丸	0.20・0.25	—	—
sp-381	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-36-69区	Ⅳ層	円形	丸	0.18・0.20	—	—
sp-382	小柱穴 A	Ⅳ-4-2	*	35-68区	Ⅳ層	円形	尖	0.15・0.17	—	—
sp-383	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	円形	尖	0.10・0.27	—	—
sp-384	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	楕円形	丸	0.18・0.14	—	—
sp-385	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	楕円形	丸	0.24・0.13	—	—
sp-386	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	33-74区	Ⅳ層	円形	丸	0.19・0.34	—	遺跡土層
sp-387	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	楕円形	丸	0.18・0.11	—	—
sp-388	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	円形	平	0.15・0.17	—	—
sp-389	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	円形	尖	0.09・0.20	—	—
sp-390	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	32-75区	Ⅳ層	円形	丸	0.20・0.25	—	—
sp-391	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	34-74区	Ⅳ層	円形	尖	0.11・0.14	—	—
sp-392	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	33-75区	Ⅳ層	円形	丸	0.19・0.15	—	—
sp-393	小柱穴 B	Ⅳ-4-3	*	33-74区	Ⅳ層	円形	丸	0.08・0.27	—	—
柱穴別		範囲内及び近辺に位置する遺構								
小柱穴 A (A-A)		住居跡							LH-27・32・31・35・38 H-10	
		土坑							LP-70・80・82・83・86・87・101	
		礎土							LF-241・242	
弧状 (B-B)		遺物集中							—	
		住居跡							LH-12・18・23・30・33・36・39 H-10	
		土坑							LP-46・47・67・74・76・81・83・88・90・93・96・99	
小柱穴 C (C-C)		礎土							LF-238・240	
		遺物集中							LFC-5	
		住居跡							LH-18・19・20	
北側:弧状 南側:列状		土坑							LP-9・11・42・32・58・61	
		礎土							LF-12・66・70・92・94・106・101・109・115・140・205	
		遺物集中							LFC-4	
小柱穴 D (D-D)		住居跡							LH-20・21・22	
		土坑							LP-31・32・34・35・45・51・63	
		礎土							LF-71・81・82・93・95・102・103・116~122・125~127	
弧状		遺物集中							LFC-4	
		住居跡							LH-13	
		土坑							LP-9	
小柱穴 E (E-E)		礎土							LF-13	
		遺物集中							—	
		住居跡							LH-7・8・9・11・18	
小柱穴 F (F-F)		土坑							LP-1・10・23・26・27・42	
		礎土							LF-5・6・7・8・17・21・61・62・63・64・65・90・91	
		遺物集中							—	
小柱穴 G (G-G)		住居跡							LH-1・2・3・4・10	
		土坑							LSP-1・2	
		礎土							LF-1・2・3・4	
列状		遺物集中							—	
		住居跡							LH-5・12 H-7	
		土坑							LP-71・72・73・78・103	
小柱穴 H (H-H)		礎土							LF-210~236	
		遺物集中							—	
		列状・無作為							—	





表Ⅳ-1-6 焼土一覽(3)

遺構名	焼土種別	層	グランド	焼成方法 (焼成温度)	主要産物	成分			重量(%)	主な出土遺物	付随の焼土	付随の遺構	備考	
						SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>						
LP-122	焼土	第1-6	22-45G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.48	0.42	75-77	LP-101 LP-126	—
LP-124	焼土	第1-6	22-45G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.61	0.24	—	LP-120 LP-121	—
LP-125	焼土	第1-6	20-70F	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.32	0.48	0.22	焼土層	LP-107 LP-123	—
LP-126	焼土	第1-6	10-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.48	0.22	焼土層	LP-109 LP-127	—
LP-127	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.48	0.40	0.19	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-128	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.44	0.40	0.13	—	LP-129 LP-131	焼土層付属
LP-129	焼土	第1-6	21-70G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.28	0.25	0.40	—	LP-129 LP-131	—
LP-130	焼土	第1-6	20-70F	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.36	0.47	焼土層	—	LP-129 LP-131
LP-131	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.48	0.37	0.11	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-132	焼土	第1-6	24-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.38	0.40	0.40	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-133	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.33	0.43	0.47	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-134	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.31	0.24	—	LP-129 LP-131	—
LP-135	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.28	0.40	0.11	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-136	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.43	0.34	0.40	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-137	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.43	0.33	0.40	焼土層	LP-124 LP-128	LP-30
LP-138	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.20	0.19	—	LP-129 LP-131	焼土層付属
LP-139	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.33	0.47	—	LP-124 LP-128	—
LP-140	焼土	第1-6	20-70G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.47	0.46	—	—	LP-12
LP-141	焼土	第1-6	21-70G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.31	0.29	0.40	—	LP-129 LP-128	LP-12
LP-142	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.36	0.41	—	LP-104 LP-133	LP-30
LP-143	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.39	0.33	0.46	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-144	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.39	0.47	—	LP-104 LP-133	—
LP-145	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.24	0.32	0.45	—	LP-124 LP-128	—
LP-146	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.47	0.38	0.41	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-147	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.26	0.44	0.23	—	LP-104 LP-133	—
LP-148	焼土	第1-6	20-70F	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.25	0.40	0.27	1層焼土層	LP-107 LP-123	—
LP-149	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.44	0.43	0.13	—	LP-129 LP-131	—
LP-150	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.40	0.39	焼土層	LP-107 LP-123	—
LP-151	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.29	0.32	0.40	—	LP-129 LP-131	LP-40-07
LP-152	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.41	0.39	0.13	焼土層	LP-104 LP-133	LP-40-07
LP-153	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.40	0.41	—	LP-104 LP-133	LP-30
LP-154	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.38	0.46	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-155	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.28	0.38	0.15	—	LP-124 LP-128	—
LP-156	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.23	0.48	0.18	—	LP-107 LP-123	—
LP-157	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.28	0.40	0.18	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-158	焼土	第1-6	20-70F	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.41	0.43	0.12	—	LP-104 LP-133	—
LP-159	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.40	0.22	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-160	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.42	0.17	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-161	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.30	0.44	0.15	—	LP-104 LP-133	—
LP-162	焼土	第1-6	20-70F	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.46	0.15	焼土層	LP-107 LP-123	—
LP-163	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.26	0.45	0.20	焼土層	LP-107 LP-123	LP-30
LP-164	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.29	0.13	—	LP-107 LP-123	LEC-3
LP-165	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.26	0.20	—	LP-107 LP-123	LEC-3
LP-166	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.40	0.22	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-167	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.37	0.40	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-168	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.47	0.23	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-169	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.36	0.43	0.13	75-77	LP-104 LP-133	—
LP-170	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.25	0.21	0.14	—	LP-104 LP-133	—
LP-171	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.24	0.40	0.40	—	LP-129 LP-131	—
LP-172	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.29	0.40	0.15	焼土層	LP-124 LP-128	LP-30
LP-173	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.37	0.40	0.46	—	LP-129 LP-131	—
LP-174	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.42	0.46	—	LP-124 LP-128	LP-30
LP-175	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.42	0.47	—	LP-104 LP-133	—
LP-176	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.40	0.37	0.22	焼土層	LP-124 LP-128	—
LP-177	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.32	0.47	0.18	—	*	—
LP-178	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.38	0.48	0.23	—	*	—
LP-179	焼土	第1-6	20-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.26	0.33	0.11	—	*	—
LP-180	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.29	0.40	0.40	焼土層	LP-124 LP-128	LP-30
LP-181	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.35	0.45	0.40	—	LP-104 LP-133	—
LP-182	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.24	0.15	0.41	—	LP-124 LP-128	—
LP-183	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.41	0.44	0.41	—	LP-104 LP-133	—
LP-184	焼土	第1-6	22-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.46	0.46	0.21	—	LP-104 LP-133	—
LP-185	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.32	0.37	0.40	焼土層	LP-104 LP-133	—
LP-186	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.42	0.31	0.46	—	LP-124 LP-128	—
LP-187	焼土	第1-6	21-40G	V	焼成	1000℃以上	中	焼	0.22	0.28	0.46	焼土層	LP-104 LP-133	—



表IV-1-7 遺物集中 他 一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)		主な出土遺物	他の遺構との位置関係	備 考
					長径	短径			
LPS-6	IV-3-1B	3B	24-61E	V2層	0.44	0.29	黒群土器	LP-50近く	
LFC-1	IV-6-1	*	15-64E	V層	1.76	0.90	フレイク	—	
LFC-2	IV-6-1	*	21-56E	V1層	(0.46)	0.42	黒群土器 フレイク	LP-38近く	トレンチにより南西側部分破壊
LFC-3	IV-6-1	46	21-22 -58E	V2層	出土範囲		未分類 土器 石鏃 Rフレイク フレイク	下位にLF-25 平面重複	
					3.96	1.52			
					象中部分				
					0.56	0.34			
LFC-4	IV-6-1	*	28-29 -71E	V2層	2.68	1.68	MB 石鏃 石鏃 U・Rフレイク フレイク	LF-100・101・112 小柱穴列 近く	
LFC-5	IV-6-1	*	32-74E	V2層	0.38	0.36	スクレイパー フレイク	LH-18・23 小柱穴列 近く	
LS-3	IV-6-1	46	34-63E	V2層	1.98	1.16	礫	LF-83近く	安山岩 火山礫凝灰岩 石英岩 珪石を含む砂岩 砂岩 泥岩 片岩
LS-4	IV-6-1		25-26 -65E	V1層	0.60	0.58	礫	—	安山岩 閃緑岩 砂岩
LM-1	—	—	23-49E	Ⅲ～V2層	(2.10)	(0.47)	—	—	層厚0.52 礫土の可能性を考えた記録したが、 黒曜木炭と判断し、掲載しない。

表IV-2-1 LH・H出土土器点数表(1)

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)		主な出土遺物	他の遺構との位置関係	備 考
					長径	短径			
LPS-6	IV-3-1B	3B	24-61E	V2層	0.44	0.29	黒群土器	LP-50近く	
					0.44	0.29	黒群土器	LP-50近く	
					0.44	0.29	黒群土器	LP-50近く	
					0.44	0.29	黒群土器	LP-50近く	
LFC-1	IV-6-1	*	15-64E	V層	1.76	0.90	フレイク	—	
					1.76	0.90	フレイク	—	
					1.76	0.90	フレイク	—	
					1.76	0.90	フレイク	—	
LFC-2	IV-6-1	*	21-56E	V1層	(0.46)	0.42	黒群土器 フレイク	LP-38近く	トレンチにより南西側部分破壊
					(0.46)	0.42	黒群土器 フレイク	LP-38近く	トレンチにより南西側部分破壊
					(0.46)	0.42	黒群土器 フレイク	LP-38近く	トレンチにより南西側部分破壊
					(0.46)	0.42	黒群土器 フレイク	LP-38近く	トレンチにより南西側部分破壊
LFC-3	IV-6-1	46	21-22 -58E	V2層	出土範囲		未分類 土器 石鏃 Rフレイク フレイク	下位にLF-25 平面重複	
					3.96	1.52			
					象中部分				
					0.56	0.34			
					0.56	0.34			
LFC-4	IV-6-1	*	28-29 -71E	V2層	2.68	1.68	MB 石鏃 石鏃 U・Rフレイク フレイク	LF-100・101・112 小柱穴列 近く	
					2.68	1.68	MB 石鏃 石鏃 U・Rフレイク フレイク	LF-100・101・112 小柱穴列 近く	
					2.68	1.68	MB 石鏃 石鏃 U・Rフレイク フレイク	LF-100・101・112 小柱穴列 近く	
					2.68	1.68	MB 石鏃 石鏃 U・Rフレイク フレイク	LF-100・101・112 小柱穴列 近く	
LFC-5	IV-6-1	*	32-74E	V2層	0.38	0.36	スクレイパー フレイク	LH-18・23 小柱穴列 近く	
					0.38	0.36	スクレイパー フレイク	LH-18・23 小柱穴列 近く	
					0.38	0.36	スクレイパー フレイク	LH-18・23 小柱穴列 近く	
					0.38	0.36	スクレイパー フレイク	LH-18・23 小柱穴列 近く	
LS-3	IV-6-1	46	34-63E	V2層	1.98	1.16	礫	LF-83近く	安山岩 火山礫凝灰岩 石英岩 珪石を含む砂岩 砂岩 泥岩 片岩
					1.98	1.16	礫	LF-83近く	安山岩 火山礫凝灰岩 石英岩 珪石を含む砂岩 砂岩 泥岩 片岩
					1.98	1.16	礫	LF-83近く	安山岩 火山礫凝灰岩 石英岩 珪石を含む砂岩 砂岩 泥岩 片岩
					1.98	1.16	礫	LF-83近く	安山岩 火山礫凝灰岩 石英岩 珪石を含む砂岩 砂岩 泥岩 片岩
LS-4	IV-6-1		25-26 -65E	V1層	0.60	0.58	礫	—	安山岩 閃緑岩 砂岩
					0.60	0.58	礫	—	安山岩 閃緑岩 砂岩
					0.60	0.58	礫	—	安山岩 閃緑岩 砂岩
					0.60	0.58	礫	—	安山岩 閃緑岩 砂岩
LM-1	—	—	23-49E	Ⅲ～V2層	(2.10)	(0.47)	—	—	層厚0.52 礫土の可能性を考えた記録したが、 黒曜木炭と判断し、掲載しない。
					(2.10)	(0.47)	—	—	層厚0.52 礫土の可能性を考えた記録したが、 黒曜木炭と判断し、掲載しない。
					(2.10)	(0.47)	—	—	層厚0.52 礫土の可能性を考えた記録したが、 黒曜木炭と判断し、掲載しない。
					(2.10)	(0.47)	—	—	層厚0.52 礫土の可能性を考えた記録したが、 黒曜木炭と判断し、掲載しない。

表IV-2-1 LH·H出土土器点数表(2)

区	段	层	LH										H										合	总																																									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																											
I	1	0.00	1																			1																					2																						
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
II	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
III	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
IV	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
V	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
VI	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															
VII	1	0.00	1																		1																					2																							
		0.10																																																															
		0.20																																																															
		0.30																																																															

表IV-2-1 LH・H出土土器点数表(3)

調査区画	調査点	LH								H								合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	1001																	0
	1002																	0
	1003																	0
	1004																	0
	1005																	0
2	2001																	0
	2002																	0
	2003																	0
	2004																	0
	2005																	0
3	3001																	0
	3002																	0
	3003																	0
	3004																	0
	3005																	0
4	4001																	0
	4002																	0
	4003																	0
	4004																	0
	4005																	0
5	5001																	0
	5002																	0
	5003																	0
	5004																	0
	5005																	0
6	6001																	0
	6002																	0
	6003																	0
	6004																	0
	6005																	0
7	7001																	0
	7002																	0
	7003																	0
	7004																	0
	7005																	0
8	8001																	0
	8002																	0
	8003																	0
	8004																	0
	8005																	0
9	9001																	0
	9002																	0
	9003																	0
	9004																	0
	9005																	0



表IV-2-1 L·H·H出土土器点数表(4)

器名	L										H										H	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1001																						
1002																						
1003																						
1004																						
1005																						
1006																						
1007																						
1008																						
1009																						
1010																						
1011																						
1012																						
1013																						
1014																						
1015																						
1016																						
1017																						
1018																						
1019																						
1020																						
1021																						
1022																						
1023																						
1024																						
1025																						
1026																						
1027																						
1028																						
1029																						
1030																						
1031																						
1032																						
1033																						
1034																						
1035																						
1036																						
1037																						
1038																						
1039																						
1040																						
1041																						
1042																						
1043																						
1044																						
1045																						
1046																						
1047																						
1048																						
1049																						
1050																						
1051																						
1052																						
1053																						
1054																						
1055																						
1056																						
1057																						
1058																						
1059																						
1060																						
1061																						
1062																						
1063																						
1064																						
1065																						
1066																						
1067																						
1068																						
1069																						
1070																						
1071																						
1072																						
1073																						
1074																						
1075																						
1076																						
1077																						
1078																						
1079																						
1080																						
1081																						
1082																						
1083																						
1084																						
1085																						
1086																						
1087																						
1088																						
1089																						
1090																						
1091																						
1092																						
1093																						
1094																						
1095																						
1096																						
1097																						
1098																						
1099																						
1100																						

表IV-2-1 LH・H出土土器点数表(5)

発掘区画	層	LH				H				LH・H				合計	
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		
1	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
2	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
3	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
4	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
5	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
6	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
7	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
8	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
9	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
10	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
11	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
12	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
13	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
14	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
15	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
16	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
17	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
18	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
19	001														
	002														
	003														
	004														
	005														
20	001														
	002														
	003														
	004														
	005														







表IV-3-1 LP・LSP出土土器点数表(1)

調査区画	土器の種類	数量	LP-1				LP-2				LP-3				LP-4				計		
			中野	豊田	東	西	中野	豊田	東	西	中野	豊田	東	西	中野	豊田	東	西			
I 区	土器	5																			5
	土器	5																			5
	土器	5																			5
	土器	5																			5
	土器	5																			5
II 区	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1
III 区	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
IV 区	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
V 区	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
	土器	6																			6
VI 区	土器	7																			7
	土器	7																			7
	土器	7																			7
	土器	7																			7
	土器	7																			7
VII 区	土器	8																			8
	土器	8																			8
	土器	8																			8
	土器	8																			8
	土器	8																			8
VIII 区	土器	10																			10
	土器	10																			10
	土器	10																			10
	土器	10																			10
	土器	10																			10
IX 区	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1
	土器	1																			1

表IV-3-1 LP·LSP出土土器点数表(2)

地区	土器名	LP				LSP				LP				LSP				合計
		数	種	数	種	数	種	数	種	数	種	数	種	数	種			
I 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
II 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
III 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
IV 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
V 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VI 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VII 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VIII 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
IX 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
X 区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	

表IV-3-1 LP・LSP出土土器点数表(3)

遺構	土器	LP-1				LP-2				LP-3				LP-4				小計
		数	種	数	種	数	種	数	種	数	種	数	種	数	種			
I 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
II 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
III 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
IV 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
V 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
計																		
I 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
II 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
III 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
IV 溝	白磁器																	
	灰青磁器																	
	赤磁器																	
	黒磁器																	
	土器																	
計																		
計																		



表IV-3-1 LP·LSP出土土器点数表(4)

区画	土器種別	L1				L2				L3				L4				合計
		数	種	出	中	数	種	出	中	数	種	出	中	数	種	出	中	
I区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
II区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
III区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
IV区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
V区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VI区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VII区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
VIII区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
IX区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
X区	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	
	土器																	

表IV-3-1 LP・LSP出土土器点数表(5)

調査区画	土器種別	LP-1		LP-2		LP-3		LP-4		LP-5		LP-6		LP-7		LP-8		小計
		数	点	数	点	数	点	数	点	数	点	数	点	数	点	数	点	
I区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
II区	白磁器	1	1															1
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器	70	70	113	113	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
小計		71	71	113	113	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	101
III区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
IV区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
V区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
VI区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
VII区	白磁器																	0
	灰青磁器																	0
	黒磁器																	0
	赤黒磁器																	0
	土器																	0
小計																		0
小計		71	71	113	113	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	101
小計		71	71	113	113	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	101

表IV-3-1 LP·LSP出土土器点数表(6)

区画	土器名	V-11		V-12		V-13		V-14		V-15		V-16		V-17		中野
		数	中	数	中	数	中	数	中	数	中	数	中	数	中	
I 区	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
計		16		20		8		20		8		20		20		20
II 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		42
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	11		15		10		12		10		11		11		104
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
計		24		30		16		27		16		26		26		166
III 区	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
計		16		20		8		20		8		20		20		20
IV 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		1
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	4		5		2		5		2		5		5		5
計		16		20		8		20		8		20		20		20
計		64		80		32		80		32		80		80		400
I 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
計		5		20		10		20		10		20		20		20
II 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		41
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		10
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		10
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		10
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		10
計		5		20		10		20		10		20		20		81
計		10		40		20		40		20		40		40		161
III 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
計		5		20		10		20		10		20		20		20
IV 区	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
	弥生 土器	1		5		2		5		2		5		5		5
計		5		20		10		20		10		20		20		20
計		20		80		40		80		40		80		80		400

表IV-3-1 LP・LSP出土土器点数表(7)

調査区	遺物種別 / 形状	LP-21		LP-22		LP-23		LP-24		LP-25		LP-26		LP-27		合計	
		小計	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大			
I期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
II期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

表IV-3-2 LP出土石器点数表(1)

层位	土质	2005-05		2005-06		2005-07		2005-08		2005-09		2005-10		2005-11		2005-12		小计
		数量	种类	数量	种类	数量	种类	数量	种类	数量	种类	数量	种类	数量	种类	数量	种类	
M15 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土	1	1															1
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计	1	1																1
M14 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M13 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M12 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M11 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M10 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M9 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M8 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M7 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		
M6 2005-05 2005-06 2005-07 2005-08 2005-09 2005-10 2005-11 2005-12	灰土																	
	黄土																	
	红土																	
	黄褐土																	
	黑土																	
	灰黄土																	
	灰黄壤																	
	灰壤																	
	灰黑土																	
	灰黑壤																	
合计																		

表IV-3-2 LP出土石器点数表(2)

遺構	LP-10				LP-11				LP-12				LP-13				LP-14				計	
	数	種	種	種	数	種	種	種	数	種	種	種	数	種	種	種	数	種	種	種		
遺構名																						
LP-10																						
LP-11																						
LP-12																						
LP-13																						
LP-14																						
計																						
LP-10																						
LP-11																						
LP-12																						
LP-13																						
LP-14																						
計																						
LP-10																						
LP-11																						
LP-12																						
LP-13																						
LP-14																						
計																						
LP-10																						
LP-11																						
LP-12																						
LP-13																						
LP-14																						
計																						
LP-10																						
LP-11																						
LP-12																						
LP-13																						
LP-14																						
計																						

表IV-4-1 sp出土土器点数表

遺物種別 / 層位		sp-23	sp-29	sp-32	sp-36	sp-100	sp-127	sp-128	sp-246	sp-230	sp-261	小計			
種別	層位	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	小計	
土器	口縁部	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	口縁部	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	10	
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計		3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	14	
三原高															
遺物種別 / 層位		sp-176	sp-179	sp-180	sp-203	sp-208	sp-118	sp-122	sp-123	sp-124	sp-125	小計			
種別	層位	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	小計	
土器	口縁部	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	口縁部	1	3	3	1	2	2	2	3	4	1	1	4	25	
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計		1	3	3	1	2	2	2	3	4	1	1	25	
三原高															
遺物種別 / 層位		sp-116	sp-127	sp-128	sp-129	sp-132	sp-133	sp-134	sp-135	sp-136	sp-138	小計		合計	
種別	層位	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	壺土	小計	合計
土器	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口縁部	1	1	3	1	2	2	1	1	1	1	1	3	3	24
	肩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計		1	1	3	1	2	2	1	1	1	1	3	3	32
三原高															
合計		1	2	1	2	4	1	1	1	1	2	17	0	57	

表IV-4-2 sp・LFC・LS出土石器点数表

遺物種別 / 層位		sp-34	sp-117	sp-302	LFC-1	LFC-2	LFC-3	LFC-4	LFC-5	LS-3	LS-4	合計		
種別	層位	壺土	壺土	壺土	V層	V1層	V2層	V2層	V2層	V2層	V2層	V2層	合計	
剥片石器	石錐	1	1	0	0	0	0	0	11	11	177	177	0	189
	石鏃	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
	石鏃・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	つまみだすナイフ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
	両面磨製石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	スクレイパー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	U形フレイク	0	0	0	0	0	0	1	1	4	4	0	0	
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
	フレイク・チップ	0	1	1	0	184	184	55	55	2,639	2,639	210	176	3,258
	磨石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
磨石	耐火磨石	0	0	0	184	45	2,841	210	177	0	0	0	3,258	
	子リ石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	水磨漢石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	磨石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	磨石・石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
磨石	耐火磨石合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	耐火磨石のある層	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
	自然層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	56	2	
層合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	56	2	59		
合計	1	1	1	184	45	2,841	227	354	36	3	3,611			





表IV-5-1 L F出土土器点数表(2)

层位	土器名称	数量																						合计
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
10	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
9	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
8	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
7	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
6	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
5	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
4	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
3	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
2	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0
1	陶器	1																						1
	石器																							0
	骨器																							0
	其他																							0

表IV-5-1 L F出土土器点数表(3)

調査区画	調査内容	調査時期	調査者	土器種別																				計
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
1F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
2F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
3F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
4F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
5F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
6F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
7F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
8F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
9F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
10F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
11F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
12F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
13F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
14F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
15F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
16F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
17F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
18F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
19F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							
20F	調査区画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計		
	調査内容																							
	調査時期																							
	調査者																							



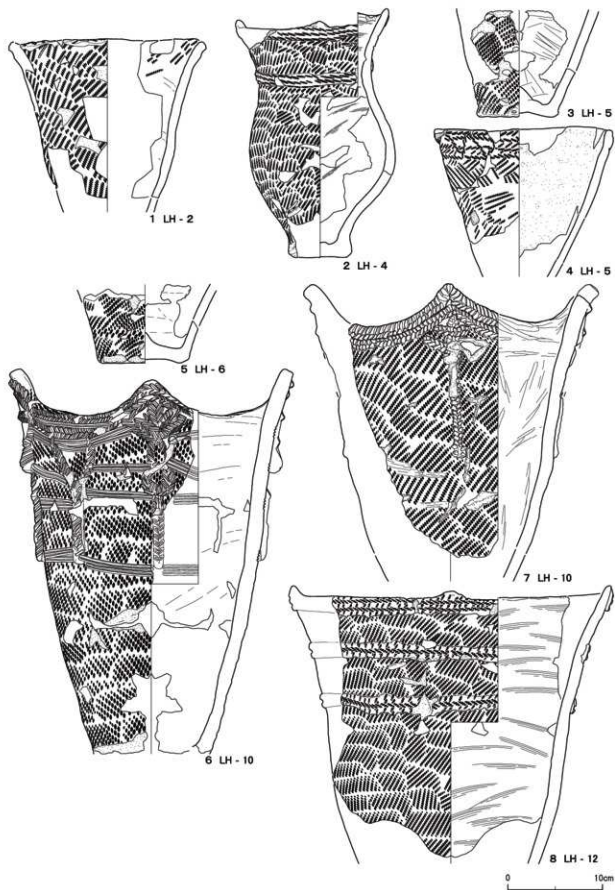
表IV-5-1 L F出土土器点数表(5)

遺構名	層位	遺物種別	LPS-6		LFC-2		LFC-3		合計
			V2	小計	V1	小計	V2	小計	
1F	1F	口縁部	良好	3	0	0	0	0	3
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	12	1	0	0	0	13
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
2F	2F	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	0	0	0	0	0	0
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
3F	3F	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	0	0	0	0	0	0
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
4F	4F	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	0	0	0	0	0	0
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
合計		87	1	0	0	0	88		

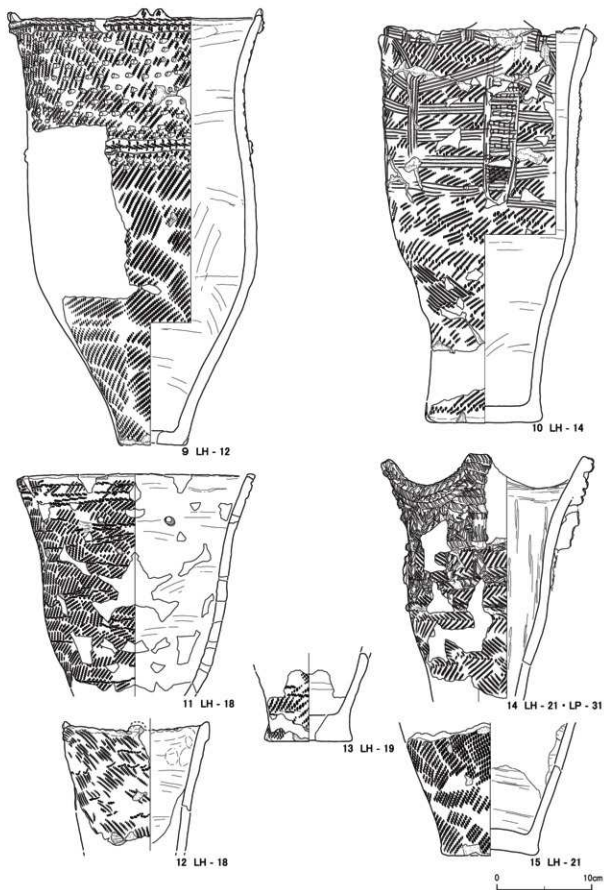
表IV-6-1 LPS・LFC出土土器点数表

遺構名	層位	遺物種別	LPS-6		LFC-2		LFC-3		合計
			V2	小計	V1	小計	V2	小計	
原野	原野	口縁部	良好	3	0	0	0	0	3
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	12	1	0	0	0	13
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
未分類不明	未分類不明	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0
		口縁部	割壊	0	0	0	0	0	0
		口縁部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		口縁部	小破片	0	0	0	0	0	0
		底部	良好	0	0	0	0	0	0
		底部	割壊	0	0	0	0	0	0
		底部	腐乱	0	0	0	0	0	0
		底部	小破片	0	0	0	0	0	0
		胴部	良好	0	0	4	4	0	4
		胴部	割壊	0	0	0	0	0	0
合計		87	1	0	0	0	88		

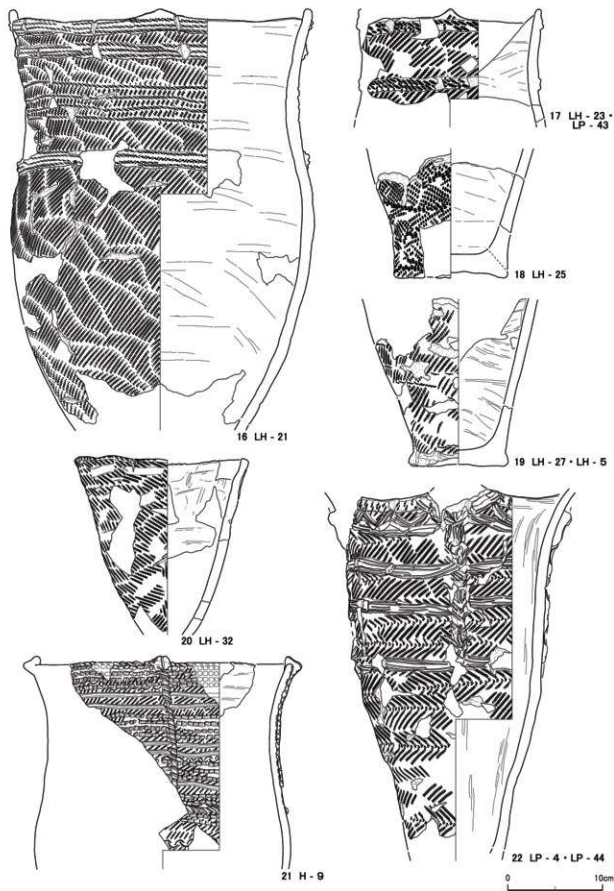




図IV-7-1 遺構出土復原土器(1)

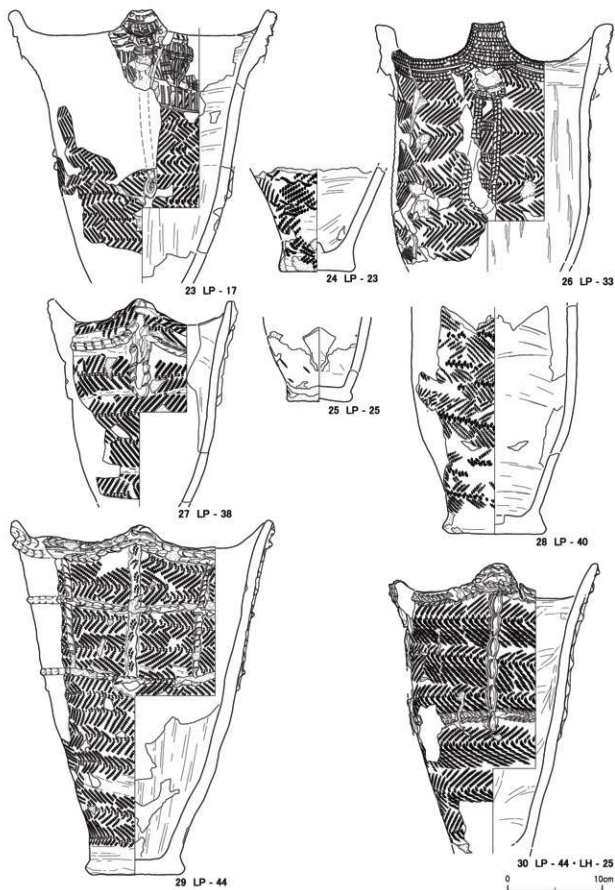


圖IV-7-2 遺構出土復原土器 (2)

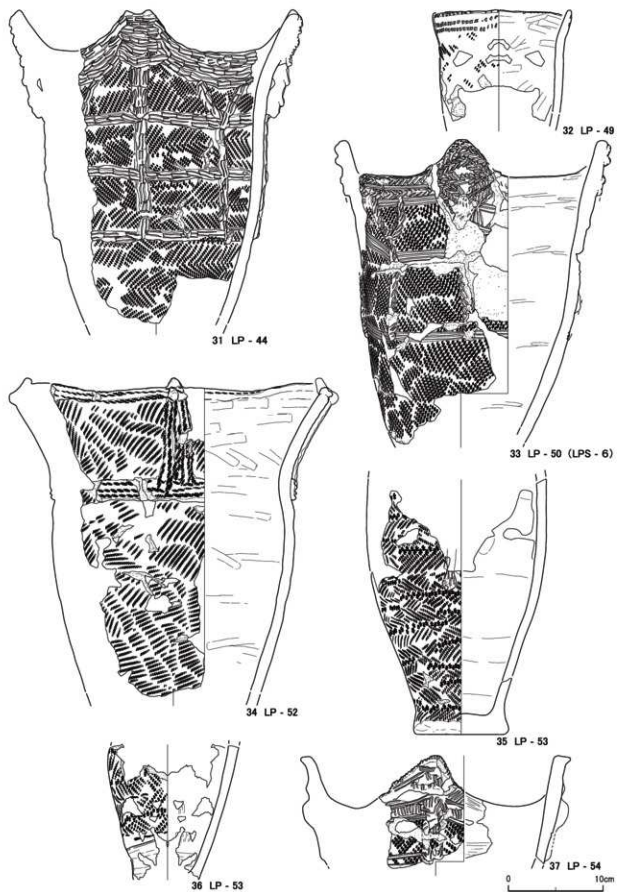


図IV-7-3 遺構出土復原土器 (3)





圖IV-7-4 遺構出土復原土器(4)



図IV-7-5 遺構出土復原土器(5)

## 7. 遺構出土の遺物

(1) 復原土器 (図IV-7-1~5 表IV-7-1~44 図版54~63)

遺構出土の土器は44個体復原した。

### Ⅲ群b類土器

#### LH-2

1は口縁部がゆるやかに外反し、胴部下位へとすぼまる器形で、LR原体により口唇部に縄線文、外面に縄文が施される。柏木川式と考える。

#### LH-4

2は外反する口縁部から頸部ですぼまり、そこから胴部中位へと最大幅に膨らみ底部へとすぼまる曲線的な器形で、口唇部には小突起4か所がある。地文施文後、口唇部直下の器面と頸部に貼付帯が施され、その上はLR縄線文が施される。外面はLR縄文が縦走る。曲線的な器形から中期大木式の影響が強いノダップⅡ式と考える。

#### LH-5

3は胴部から直線的に底部へすぼまる器形で、底部は上げ底で内面の中央に粘土塊が貼り付けられ、外面にLR縄文が施される。Ⅲ群b類の萩ケ岡式と考える。4は口縁部から胴部へ直線的にすぼまる器形で、内面は剥離した後、摩耗する。口縁部は無文地に然りの異なる別原体による縄線文が施され、その下位は羽状縄文がみられる。柏木川式に相当する。

#### LH-6

5の底部は上げ底で、内面に粘土塊の貼り付けがあり、結束第1種斜行縄文が施される。萩ケ岡式である。

#### LH-10

6は外反する口縁部から直線的に胴部下位へすぼまる器形で、口縁部は四つの突起部を有し、粘土が貼り付けられ、その上は半載竹管状工具による施文である。器面は複節のRLR斜行縄文で、口縁部~胴部上位は同工具による平行沈線文がみられる。7は口縁部から直線的に胴部下位にすぼまる器形で、口唇部直下の器面と4か所の突起下に粘土が貼り付けられ、半載竹管状工具の二又の反対側部分を用いて、幅広い刻みが施される。地文はLR斜行縄文である。6・7は萩ケ岡式土器である。

#### LH-12

8は大型で、外反する口縁部からゆるやかにすぼまり、胴部中位が若干曲線的に膨らむ器形で、口唇部には小突起を有し、口縁部直下、頸部、胴部上に三条の貼付帯がある。その上は縦位の撚紐刻みとこれに重ねて縄線文が横位に施され、地文の原体もLRである。Ⅲ群b類のノダップⅡ式と考える。9は平縁で、二個一組の小突起を有し、口縁部から頸部へ曲線的にすぼまり、胴部上位でゆるやかに膨らみ、底部へは直線的にすぼまる器形を呈する。外面はLR縄文で、口唇部直下と胴部上位に貼付帯が施されその上は縦位の撚紐刻みと縄線文がみられる。口縁部から胴部上位には刺突文が列状に施される。柏木川式に相当する。

#### LH-14

10は突起部が残存せず、口縁部はわずかに開き、胴部は垂直、下位ですぼまりそこから筒状で底部へ至る器形である。地文は結束第1種LR斜行縄文で、半載竹管状工具による沈線文、刺突文が施される。これらは粘土紐の貼付が剥落した器面にもみられる。萩ケ岡式に相当する。

## LH-18

11はゆるやかに開口する口縁部からゆるやかにすぼまり、胴部中位がわずかに膨らむ器形で、器面にはLR原体による縄文、縄線文、綾絡文が施される。12は口縁部から直線的にすぼまる器形で、口唇部には小突起を有する。地文はLRで浅く施文され、みられない部分も多い。また、綾絡文もみられる。11・12は柏木川式に相当する。

## LH-19

13は底部で外面が張り出し、LR縄文と綾絡文が施される。萩ケ岡式に相当する。

## LH-20・LP-31

14はLH-14とLP-31覆土出土の破片が接合した。外反する口縁部からゆるやかな曲線で胴部下位へ至る器形である。突起部を有しこれと口唇部直下の器面には粘土が貼付けられ、橋状把手もみられる。その上は半截竹管状工具による施文で、地文は結束第1種羽状縄文である。萩ケ岡式に相当する。

## LH-21

15は胴部中位から底部で、LR縄文が施され上げ底である。Ⅲ群b類萩ケ岡式に相当する。16は大型で、直立気味の口縁部から頸部で曲線的にすぼまり、そこから胴部中位で膨らむ器形を呈する。口唇部はゆるやかな山形の小突起がみられる。地文はLRで、口唇部直下、口縁部、胴部上位に貼付帯があり、LR縄線文が施される。ノダップⅡ式と考える。

## LH-23・LP-43

17はLH-23床面出土の破片とLP-43覆土出土が接合したもので、山形の小突起を有する口縁部から頸部へとすぼまり、そこから膨らむと器形と推測する。地文はLR斜行縄文で、貼付帯上はRLで、柏木川式に相当する。

## LH-25

18は胴部下位から底部で、外面に結束第1種羽状縄文が施される。底部はわずかに上げ底で、萩ケ岡式である。

## LH-27・LH-5

19はLH-27の土器集中とLH-5覆土出土の破片が接合したもので、胴部上位から直線的にすぼまり、底部外面が張り出す器形である。外面はLR縄文と綾絡文が施される。萩ケ岡式と考える。

## LH-32

20は大きく開口する口縁部から底部へとすぼまる器形で、外面はRL縄文である。柏木川式に相当する。

## H-9

21は、本事業の発掘調査の包含層から出土した破片に、横断自動車道の調査区に位置するH-9出土の土器（北埋調報116 206頁 図Ⅶ-23 1・2の破片土器）が接合し復原できた個体である。ゆるやかに外反する口縁部から頸部へとすぼまり、胴部上位でふくらむ器形で、口唇部には粘土の貼付による小突起がみられ、この部分の外面は縦位の粘土紐が貼り付けられる。貼付上は棒状工具による刻みで、器面はLR縄文、綾絡文、沈線文、刺突文列が施される。柏木川式と判断する。

## LP-4・LP-44

22はLP-4とLP-44の土器集中出土のものが接合した個体である。強く外反する口縁部から曲線的に胴部へ至る器形で、突起部は残存しない。口唇部直下の器面には横位、突起部下は垂下する粘土の貼付がみられ、これらの上は半截竹管状工具による施文、地文は結束第1種羽状縄文で、同工具

による平行沈線文が施される。萩ケ罎式に相当する。

#### LP-17

23は外反する口縁部から曲線的に胴部へすぼまる器形で、突起部と口唇部直下の器面に粘土の貼付があり、半截竹管状工具による施文がみられる。地文は結束第1種羽状縄文で、同工具による平行沈線文が施される。萩ケ罎式に相当する。

#### LP-23

24は胴部下位から底部で、外面にLR縄文と綾絡文がみられる。萩ケ罎式に相当する。

#### LP-25

25は底部外面が張り出し、無文地に不整な条が観察される。萩ケ罎式と推測する。

#### LP-33

26は直立気味の口縁部からわずかに膨らむ胴部へ至る曲線的な器形で、突起部と口縁部の貼付部分には、半截竹管状工具による整然とした押引文が施される。地文は結束第1種羽状縄文で、萩ケ罎式である。

#### LP-38

27は開口する口縁部から直線的にすぼまる器形で、口縁部の粘土の貼付上は、爪による施文がみられる。地文は結束第1種の羽状・LR縄文で、萩ケ罎式と考える。

#### LP-40

28は胴部上位から底部で、胴部下位から急激にすぼまり底部の外面が明瞭に張り出す器形で、結束第1種原体による地文が施される。萩ケ罎式と推測する。

#### LP-44

29は大きく開口する口縁部から直線的に底部へつながる器形で、地文は結束第1種羽状縄文で、突起部・口縁部から胴部中位まで粘土紐の貼付があり、この部分は爪による施文で、萩ケ罎式である。

#### LP-44・LH-25

30はLP-44の土器集中とLH-25覆土出土の破片が接合した。ゆるやかに開口する口縁部から曲線的に胴部へと至る器形で、貼付は突起部、これから垂下するもの、胴部下位で横環するものがみられ、爪による施文である。地文は結束第1種LRとLL(燃り戻し)である。萩ケ罎式に相当する。

#### LP-44

31は広く外反気味の口縁部から曲線的にすぼまる器形で、突起部・口縁部から胴部中位まで粘土紐の貼付がみられ、この部分は半截竹管状工具による施文である。地文は結束第1種羽状縄文で、萩ケ罎式と考える。

#### LP-49

32はわずかに開口する口縁部から直線的に胴部へ至る器形で、地文はRL縄文、口唇部と口縁部に刺突文列が施される。柏木川式と推測する。

#### LP-50 (LPS-6)

33はLP-50の外部に位置する、土器集中LPS-6出土で、直立気味の口縁部から曲線的に胴部下位へとすぼまる器形で、突起部や口縁部の貼付部分は半截竹管状工具による施文がみられる。地文は複節のRLR斜行縄文で、平行沈線文もみられ、萩ケ罎式である。

#### LP-52

34は強く外反する口縁部から頸部ですぼまり、さらに胴部上位がふくらむ曲線的な器形で、口唇部は粘土塊が貼り付けられ内傾する小突起があり、口縁部と頸部に横環する貼付帯があり、さらにこれ

らを逆「V」字の貼付がつかなく。貼付上はL R縄線文が施され、地文はL R縄文で胴部下半は横走気味であり、柏木川式に相当する。

#### LP-53

35は胴部上位から底部へと曲線的に至る器形で、底部外面は張り出す。外面は結束第1種羽状縄文で、一部貼付が残存する。36は胴部上位から下位へと直線的にすばまる器形で、結束第1種羽状縄文が施される。35・36は萩ケ岡式に相当する。

#### LP-54

37は突起部と口縁部でゆるやかに開口する。貼付部分は半截竹管状工具による施文、器面はR L R縄文と平行沈線文がみられ、萩ケ岡式と考える。

#### LP-59

38は胴部上位から曲線的に底部へとすばまる器形、外面は結束第1種羽状縄文で、萩ケ岡式である。

#### LP-68

39はゆるやかに開口する口縁部から直線的に胴部下位へとすばまる器形で、突起部を有しこの部分の器面に粘土の貼付がみられ、他は結束第1種羽状縄文である。柏木川式に相当する。

#### LP-86・LH-37・LP-74

40はLP-86・LH-37・LP-74の覆土の土器が接合したもので、ゆるやかに開口する口縁部で、口唇部には粘土の貼付による小突起と刺突文が、器面はL R縄文地に刺突文列、沈線文が施される。柏木川式に相当する。

#### LF-163

41は赤色の強い土器で摩耗が著しい。大きく開口する口縁部からゆるやかな曲線で胴部へと至る器形を呈する。地文はR L Rで、平行沈線文、貼付部分上は半截竹管状工具による施文で、萩ケ岡式である。

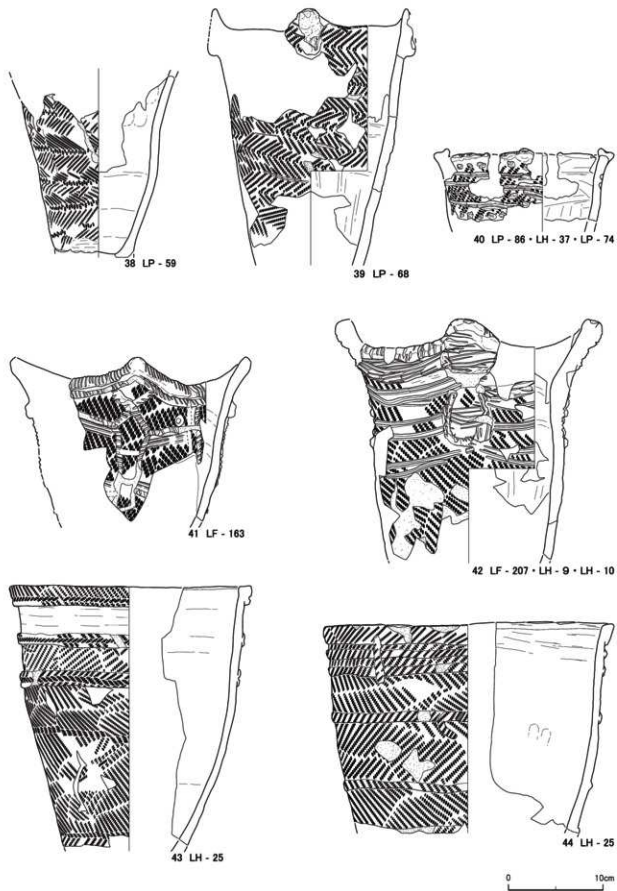
#### LF-207・LH-9・LH-10

42はLH-10床面出土、LH-9覆土、LF-207出土の破片が接合したもので、強く外反する口縁部から胴部上位に器形の変化点があり、そこから胴部下位へと曲線的につながる器形で、R L斜行縄文と平行沈線文、粘土貼付部分は半截竹管状工具による施文である。萩ケ岡式と考える。

### IV群 a 類土器

#### LH-25A

43は直立気味の口縁部から曲線的に胴部下位へとすばまる器形で、口唇部直下と口縁部、胴部上位に貼付帯が横環する。貼付帯上と器面部分は、撚りの異なる原体による羽状縄文・縄線文、無文帯がある。44は直立気味の口縁部で胴部中位からすばまる器形で、口縁部、胴部には貼付帯が複数みられる。貼付帯上と器面部分はL R・R L原体による縄文が施され斜行、羽状を呈する。また、部分的に縦位の貼付もみられる。43・44は余市式に相当する。(末光)



圖IV-7-6 遺構出土復原土器 (6)

## (2) 破片土器・土製品 (図Ⅳ-7-7~51 表Ⅳ-7-45~50 図版64~82)

LH・H出土の土器のみ記述する、詳細は観察表を参照されたい。

## LH-1 (1~7)

1は半截竹管状工具による施文である。2~4はLR縄文がみられる。5は複節の斜行縄文が施される。6は薄手で半截竹管状工具による刺突文がある。7は貼付帯とLR縄線文がみられる。

1~5は萩ケ岡式、6は柏木川式、7はノダップⅡ式である。

## LH-2 (8~17)

8・9は半截竹管状工具による施文である。10の貼付部分は棒状工具による刻みである。11はLR縄線文が施される。12・13は貼付帯とLR縄線文がみられる。14は刺突文がある貼付とLR縄文が観察される。15はLR縄文地に綾絡文、貼付、刺突文列がある。16はLR縄文と綾絡文がある。17は結束第1種羽状縄文がみられる。

8・9・16・17は萩ケ岡式、11~13はノダップⅡ式、14・15は柏木川式である。

## LH-4 (18~32)

18~21は貼付帯とLR縄線文が施される。22は地文、綾絡文、刺突文列がみられる。23はLR原体による縄文、縄線文、刺突文がある。24は内面にも縄文、綾絡文が観察される。25は二又状工具による平行沈線文がみられる。26は突起部で条が縦走する。27の外側は無文である。28はLR縄文と内面に粘土塊の貼付がある。29は五角形で割れ口が平滑で、再生土製品の可能性がある。30は器面に沈線文、綾絡文があり、貼付部分は矢羽根状の刻みがみられる。31は貼付、LRによる刻みと縄線文が施される。32は地文に綾絡文と刺突文がある。

28は萩ケ岡式、18~21・31はノダップⅡ式、22~25・30・32・33は柏木川式である。

## LH-5 (33~48)

33は器面に押引文、沈線文がみられる。34はLR縄文と矢羽根状の刻みが施された貼付がある。35は縦走気味の縄文と縄線文があり、原体はLRである。36~38はLR縄文と縄線文がある。39は口唇部直下の貼付帯が剥落する。40は口唇部に刺突文、外面はLR縄文地に爪形文、円形刺突文が施される。41はLR縄文と綾絡文があり、貼付部分は撻紐による刺突文と解される。42は外面に沈線文と刺突文列があり、内面は縦位回転施文による縄文がある。43はLR縄文地に刺突文が施される。44は粘土の貼付により突起部が厚みを有する。45は外面に地文、沈線文、刺突文列がみられる。46はLR縄文で貼付帯と器面は明瞭な段差を有する。47は外反の強い器形で、貼付部分は棒状工具による刻みである。48はLR縄文と綾絡文がみられる。

35~39はノダップⅡ式、33・34・42~45・47・48は柏木川式、40は北筒式、46は余市式である。

## LH-6 (49~58)

49・50は半截竹管状工具による施文である。51は貼付帯上にLR撻紐刻みと縄線文が施される。52はLR縄文と半截竹管状工具による施文がみられる。53は外面に沈線文、刺突文列があり、内面の文様は縦位に施文される。54・55の地文は複節である。56の貼付部分は半截竹管状工具による施文である。57は貼付帯とLR縄線文がみられる。58はLR縄文、沈線文、刺突文列が観察される。

49・50・54~56は萩ケ岡式、51・57はノダップⅡ式、53・58は柏木川式である。

## LH-7 (59~66)

59は突起の口唇部に指頭による施文がある。60は貼付帯上にLR撻紐刻みと縄線文が施される。61の口唇部は刺突文、貼付部分は爪形文である。62の地文は羽状縄文で、貼付上は半截竹管状工具による刺突文である。63はLR縄文、平行沈線文、刻み、貼付がみられる。64の地文は複節である。65は



結束第1種羽状縄文と平行沈線文がある。66は器面と貼付部分に平行沈線文が施される。

59・62・63～66は萩ケ罎式、60はノダップⅡ式である。

#### LH-8 (67～72)

67・68は半截竹管状工具による施文がみられる。69はLR縄文と沈線文が観察される。70は外面が広く剥離する。71はLR縄文が施され、72は曲線的な器形で、LR・RL縄文がみられる。

67・68は萩ケ罎式、71・72はノダップⅡ式である。

#### LH-9 (73～83)

73は爪による施文である。74は地文が縦走し、胎土に海綿骨針と推測するものを含む。75は器面と貼付部分に刺突文列がみられる。76は口縁部直下の器面に粘土のつなぎ目がみられ、条は横走する。77・78はLR縄文で、口唇部はミガキである。79は底部で、LR縄文がみられる。80は半截竹管状工具による施文である。81は結束第1種羽状縄文、平行沈線文、貼付がみられる。82は地文が横走し、貼付帯とLR縄文がみられる。83は横走するLR縄文で、内面はミガキである。

73・80・81は萩ケ罎式、74・82はノダップⅡ式である。

#### LH-10 (84～92)

84は地文が複節で、口唇部と貼付部分は半截竹管状工具による施文である。85は突起部で、刻みは幅広く半截竹管状工具の二又の反対側を用いていると推測する。86は小突起と貼付帯があり、LR刻みと縄線文が施される。87は外面に刺突文列が施される。88は底部でLR縄文とナデがみられる。89は地文が複節で、貼付部分は半截竹管状工具による施文である。90の貼付部分は半截竹管状工具による刺突文である。91はLR縄線文が施された貼付帯がある。92は外面に、綾絡文、平行沈線文、刺突文列がみられ、内面の縄文は縦位に施される。

84・85・89・90は萩ケ罎式、86・91はノダップⅡ式、87は柏木川式である。

#### LH-11 (93～101)

93は口唇部が肥厚し、半截竹管状工具による刻みがある。94は口唇部、貼付部分、器面に縄文が施される。95の地文は結束第1種羽状縄文で、貼付部分はLRによる圧痕施文がみられる。96は口唇部と外面に刺突文が施される。97は口唇部が肥厚し、矢羽根状の刻みがみられる。98は貼付部分に整然とした押し文がみられる。99は貼付部分に矢羽根状の文様がある。100はLR縄文、綾絡文がみられ、貼付部分は刻みである。101は貼付帯と器面の一部に同時にLR縄文が施される。

93・94・98は萩ケ罎式、95はノダップⅡ式、96・97・99・100は柏木川式で、101は煉瓦台式と考える。

#### LH-12 (102～115)

102の貼付部分の施文は棒状工具による。103はRL縄文と貼付があり、貼付上はLR撚紐刻みである。104は口唇部から内面にかけてRL撚紐刻みがある。105の貼付帯上はLRによる刻みと縄線文である。106の口唇部は爪形文、外面は円形の刺突文がある。107は口唇部に縄線文、外面はLR縄文地に沈線文がある。108は口唇部近くの内外面にRL撚紐刻みが施される。109の貼付上は刺突文が施される。110は底部で、結束第1種羽状縄文とヨコナデがみられる。111は縦方向の貼付があり、その上は指頭による施文である。112の貼付部分は爪による施文である。113は器面がRL縄文で、貼付上はLRによる施文である。114の地文はLRとRR（撚り戻し）の結束第1種羽状縄文である。115は形状と割れ口の状態から再生土製品と判断する。

102・111・112・114は萩ケ罎式、104・105はノダップⅡ式、103・109・109・113は柏木川式であり、107は大木式の影響を受けたと推測する。

## LH-13 (116・117)

116は沈線文が施され、再生土製品の可能性がある。117は縄文と沈線文が施され、萩ケ岡式土器と考える。

## LH-14 (118~128)

118はL R縄文と半截竹管状工具による平行沈線文がある。119は口唇部直下の器面に、沈線文が施される。120は口唇部の貼付帯にR L撻紐刻みが施される。121の貼付部分は爪による施文である。122は地文が羽状縄文で補修孔がみられる。123は爪による施文がみられる。124は形状と割れ口の状態から再生土製品と考える。125は地文が整然と施される。126の地文は結束の羽状縄文で、貼付部分は爪による施文である。127はL R縄文地に三本一組の平行沈線文がみられる。128の地文は結束第1種の羽状とL R縄文である。

118・119・121・123~128は萩ケ岡式、120はノダップⅡ式である。

## LH-15 (129~143)

129はL R縄文地に貼付がみられ、貼付上はL R撻紐刻みである。130~133は貼付帯とL R縄線文が施される。134はL R縄文と刺突文が施された貼付がある。135の口唇部は円形の刺突文、外面はL R縄文地に刺突文列がみられる。136は口唇部にL R縄線文があり、外面は縄文地に円形の刺突文がある。137はL R縄文地に細い貼付がみられ、半截竹管状工具により施文される。138の地文はL Rで、口唇部には刺突文が施される。139は底部で再生土製品であろう。140はL Rと縄線文が施された貼付帯がある。141は幅広の貼付があり、その部分は刺突文が施される。142は刺突文と沈線文が観察される。143は刺突文が施された貼付がみられる。

137・139は萩ケ岡式、130~133・140はノダップⅡ式、129・134~136・141~143は柏木川式である。

## LH-16 (144~156)

144は結束第1種L R縄文と縦横位の貼付がみられ、貼付上と口唇部はL R縄線文が施される。145はL R縄線文が施された貼付帯があり、口唇部は沈線文状の調整痕がみられる。146は器面と貼付部分にL R縄線文がみられる。147はL R縄文、貼付帯、縄線文がみられる。148の貼付部分はL Rの撻紐刻みと縄線文がある。149は口唇部と外面に刺突文がある。150は突起部直下に曲線的な粘土の貼付がみられ、L R縄線文がみられる。151は貼付帯上が半截竹管状工具により施文される。152は口唇部と外面に刺突文がみられる。153は底外面に綾格文が観察される。154は結束第1種L R縄文がみられる。155はL R縄文地にL R縄線文が施される。156は器面にL R縄文と短刻線文、貼付があり、貼付部分は棒状工具による刻みである。

153は萩ケ岡式、144~150・154・155はノダップⅡ式、151・152・156は柏木川式である。

## LH-17 (157~169)

157の貼付部分は棒状工具と爪による施文である。158・160・161の貼付部分は半截竹管状工具による施文である。159は半截竹管状工具による平行沈線文が観察される。162の地文はR LとL R Lで、沈線文、刺突文もみられる。163はL R縄文地にL R縄線文が施された貼付帯がある。164の口唇部は棒状工具による刻みである。165の貼付帯はL R刻みと縄線文が施される。166の外面は無節の条と刺突文で、内面はL R横走縄文が観察される。167は底部でL R縄文が施される。168は段差が明瞭な貼付があり、その上と器面に刺突文がみられる。169は結束第1種羽状縄文がある。

157~161・169は萩ケ岡式、163・165・166はノダップⅡ式、162・164・167・168は柏木川式である。

## LH-18 (170~189)

170は貼付部分の刻みが矢羽根状を呈する。171は結束第1種羽状縄文で、貼付と平行沈線文がみら

れる。172は口唇部が貼付で肥厚し、刻みが施される。173はL R縄文地と貼付部分にL R縄線文がみられる。174の貼付帯上はL R縄線文、器面は沈線文と刺突文がある。175は貼付部分にL R原体による刻みと縄線文がみられる。176は内外面にL R縄文が施され、口唇部には縄線文がある貼付がみられる。177はL R縄文地に横位に貼付があり、その部分はL R刻みと縄線文がある。178の器面はL R縄文と沈線文で、貼付部分は指頭による施文である。179は器面と段差がある貼付がみられる。180の口唇部は刺突文、外面はL R縄文地に沈線文がある。181はL R縄文地に沈線文、刺突文列があり、口唇部は刻みである。182は口縁部から胴部下位まで接合し、曲線的で口縁部の外反が強い器形で、外面にL R縄文、綾格文、刺突文列があり、口唇部には粘土の貼付で厚みのある小突起がある。183はL R縄文地と貼付部分に半截竹管状工具による刺突文がある。184は結束第1種羽状縄文と貼付がみられる。185の地文は結束第1種L R縄文と観察される。186は底外面にも縄文が施される。187は上げ底でL R縄文とナデがみられる。188の地文はR Lの縦位回転施文で、貼付部分は撚紐刻みがある。189は外面にL R縄文と綾格文がみられる。

170・171・178・185・187は萩ケ岡式、173・175・177はノダップⅡ式、172・174・176・179～184・188・189は柏木川式である。

#### L H-19 (190～206)

190～193の貼付部分は半截竹管状工具による施文で、190は地文が複節である。194はL R縄文地と貼付帯にL R縄線文が施される。195は口唇部にL R縄線文がある。196は貼付帯に縄線文がみられる。197は口唇部と外面に縄線文がある。198は曲線的な形状の突起で、L R縄文と沈線文がみられる。199の口唇部は刺突文、外面はL R縄文地に沈線文がある。200は結束の羽状縄文と平行沈線文が施された貼付がある。201の外面はL R縄文と綾格文、口唇部は同原体の縄線文である。202は口唇部に刻みがある。203は外面にL Rと無節の条が観察される。204はL R縄文が施される。205は底外面に複節の縄文がみられ、形状から再生土製品の可能性がある。206はL R縄文地に縄線文と貼付がある。

190～193・200・205は萩ケ岡式、194～196・206はノダップⅡ式、197～199・201～203は柏木川式である。

#### L H-20 (207～219)

207は半截竹管状工具による刻みと平行沈線文がみられる。208・210はL R縄文と縄線文が施される。209は口唇部の貼付部分にL R撚紐刻みがある。211の口唇部は貼付で肥厚し、L R刻み、縄線文がみられる。212は外面に横走る条と縄線文がある。213は外面にL R縄文地に縄線文、綾格文がある。214は口唇部と外面に刺突文がみられる。215の外面は縄文で、内面は沈線文状の調整痕が観察される。216は口唇部が刺突文、外面はL R縄文である。217は曲線的な器形で、貼付とL R縄線文がみられる。218の縄文は無節と観察される。219は外面にL R縄文と綾格文がみられる。

207・218は萩ケ岡式、208～210はノダップⅡ式、212～217・219は柏木川式である。

#### L H-21 (220～230)

220・221は半截竹管状工具による平行沈線文が施される。222はL R縄文と貼付帯があり、L R刻みと縄線文が施される。223は貼付帯上にL R縄線文がある。224はL R縄文地に同原体の縄線文が施される。225は縦位の貼付があり、その部分は刺突文がみられる。226は粘土の貼付により小突起が作られる。227は外面と口唇部に刺突文がある。228は内外面にL R縄文があり、口唇部は刺突文である。229はL R縄文が貼付帯と器面にL R縄文が同時に施文される。230は複節の縄文である。

220・221・230は萩ケ岡式、222～224はノダップⅡ式、225～228は柏木川式で、229は煉瓦台式の要素がみられる。

## LH-22 (231~236)

231は口唇部に縄線文があり、外面はLR縄文、綾絡文が施される。232は突起部に貼付が剥落する。233はLR縄文と棒状工具による刻みがある。234は外面に粘土塊が貼り付けられ、条か沈線文らしき文様が観察される。235の地文はLL(撚り戻し)である。236はLR縄文と綾絡文がみられる。

235・236は萩ケ岡式、231~234は柏木川式である。

## LH-23 (237~248)

237は半截竹管状工具による矢羽根状の文様がみられる。238はLR縄文と、LR刻みと縄線文が施された貼付帯がある。239はLR縄線文が口唇部と貼付帯にみられる。240は貼付帯上にLR撚紐刻みと縄線文がある。241は口唇部に粘土が貼り付けられ、そこにLR縄線文が施される。242はLR縄文地に突起部から垂下する貼付がみられ、刺突文と沈線文が施される。243はLR縄文地に貼付帯があり、LR刻みがみられる。244の外面は縦走する縄文で、口唇部は撚紐刻みである。245は口唇部とその直下の外面にLR縄線文がある。246は貼付部分に絡条体疋痕文が観察される。247はLR縄文地に貼付帯があり、そこにLR縄線文が施される。248の貼付帯は幅広で、刺突文とLR縄線文がみられる。

246はⅢ群a類の手稲前田式で、237・249は萩ケ岡式、238~241・247はノダップⅡ式、242~244・248は柏木川式である。

## LH-24 (249・250)

249は口唇部が撚紐刻みで、外面は不整な条が観察される。萩ケ岡式である。250は外面にLR縄文が施され、ノダップⅡ式である。

## LH-25 (251~263)

すべてLH-25B出土である。251は貼付部分に幅広の沈線文がみられる。252・253は結束第1種羽状縄文と、半截竹管状工具による施文がある貼付がみられる。254の貼付部分は爪による施文である。255~258の貼付部分の施文は半截竹管状工具である。259は棒状工具による沈線文、押し文がみられる。260は口縁部に貼付帯があり、LR縄文が器面と同時に施される。261は突起部下に貼付がみられ、地文はLR縄文である。262の地文は結束第1種羽状縄文である。263は内外面に結束第1種羽状縄文が施される。

251~259・262・263は萩ケ岡式である。

## LH-26 (264~276)

264~265はLR縄文と縄線文がみられる。267は外面にLR縄文と刺突文がある。268は外面がLR縄文で、口唇部は撚紐刻みである。269は外面がLR縄文で、口唇部は刺突文である。270は底外面に縄文が施され、形状等から再生土製品の可能性がある。271はLR縄文と刺突文が施される。272の外面はLR縄文で、内面に指頭疋痕がある。273は貼付帯にLR原体による刻みと縄線文がある。274の貼付部分は刺突文と沈線文が施される。275は器面の条が縦走気味で、貼付帯はLR原体による施文である。276は外面にLR縄文と刺突文がある。

270は萩ケ岡式、264~266・273・275はノダップⅡ式、267・269・271・274・276は柏木川式である。

## LH-27 (277~288)

277の貼付部分は半截竹管状工具による刺突文である。278の貼付部分の施文は撚紐刻みと解される。279は口縁部に貼付があり、LR刻みがみられる。280・281は貼付帯にLR縄線文が施される。282・283はLR縄文地に刺突文がみられる。284は貼付部分に沈線文と刺突文が観察される。285の地文はL撚糸文と推測する。286は外面にLR縄文と綾絡文がみられる。287は結束第1種羽状縄文が施され

る。288は節が大きく、L R縄線文がある貼付帯がみられる。

277・287は萩ケ罎式、280・281ノダップⅡ式、278・279・282～285・288は柏木川式である。

#### L H-28 (289～294)

289の外側は平行沈線文、内側は縄文がある。290の貼付部分は半截竹管状工具による施文である。291は外側に平行沈線文がみられる。292は外面が一部剥落する。293はL R縄文とヨコナデがみられる。294の貼付部分は半截竹管状工具による押し文である。

289～294は萩ケ罎式である。

#### L H-29 (295～299)

295～299の貼付部分は半截竹管状工具による施文で、すべて萩ケ罎式である。地文は、297がL R、298がR Lであり、299は羽状縄文で、粘土塊の貼付がある。

#### L H-30 (300～307)

300の貼付部分は半截竹管状工具による施文である。301はL R刻みと縄線文がみられる。302は口唇部と外面に縄線文が施される。303はL R縄文が縦走する。304・305は同一個体で、外面が縄文で、口唇部は刺突文である。306はL R縄文と縄線文がみられる。307は貼付帯とL R縄線文が施される。

300は萩ケ罎式、301・302・306・307はノダップⅡ式である。

#### L H-31 (308～312)

308の貼付部分は棒状工具による施文である。309は上げ底である。310の地文は羽状縄文で、貼付部分の施文は棒状工具である。311はL R縄文で、貼付部分に撚紐刻みがある。312はL R縄文と縄線文がある。

308・310は萩ケ罎式、312はノダップⅡ式、311は柏木川式である。

#### L H-32 (313～316)

313・314はL R縄文が施される。315はL R縄線文が縦位にみられ、316は刺突文がある。315・316は柏木川式である。

#### L H-33 (317～322)

317は突起で、貼付部分は爪による施文である。318は内外面に縄文があり、口唇部は刺突文がみられる。319はL R縄文地に同原体による縄線文が施される。320の地文は結束第1種羽状縄文で、平行沈線文が施される。321はL R縄文と平行沈線文がみられる。322はL R縄文地に刺突文がある。

317・320・321は萩ケ罎式で、318・322は柏木川式である。

#### L H-34 (323～325)

323・324・325は半截竹管状工具による施文で、萩ケ罎式である。

#### L H-35 (326～329)

326の外側は縄文で、口唇部は刺突文である。327はR L縄文と刺突文がみられる。328はL R縄文が施される。329は縄文と綾絡文が観察される。

326・327・329は柏木川式である。

#### L H-36 (330～336)

330は無文地に刺突文がみられる。331は内外面と口唇部に刺突文がある。332・333は貼付帯があり、L R縄線文が施される。334はL R縄文と縦位の縄線文がみられる。335は沈線文と円形の刺突文が施される。336はL R縄文地に綾絡文と刺突文が施される。

332・333はノダップⅡ式、330・331・334～336は柏木川式である。

## LH-37 (337~343)

337の地文は結束第1種羽状縄文で、貼付部分は半截竹管状工具による施文である。338は縦走するLR縄文地に貼付帯とLR縄線文がみられる。339・340の外面は刺突文、口唇部は刻みである。341は貼付により突起部が肥厚する。342は無節縄文と綾絡文が観察される。343はLR縄文と縄線文がみられる。

337は萩ケ岡式、338・343はノダップⅡ式、339~341は柏木川式である。

## LH-38 (344)

344はLR縄文と縄線文がみられ、柏木川式と考える。

## LH-39 (345~349)

345はLR縄文と同原体による縄線文が施される。346は別原体による羽状縄文と、刻みが施された貼付がみられる。347はRL縄文と爪により施文された貼付がある。348の貼付部分は、LR撚紐瓦痕文である。349はLR縄文が施される。

347は萩ケ岡式、345・348・349はノダップⅡ式、346は柏木川式である。

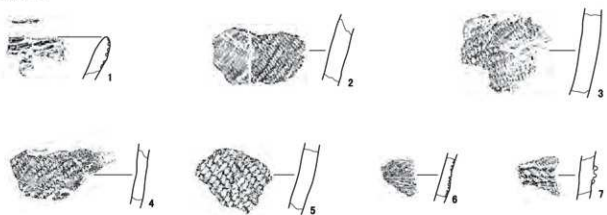
## H-7 (350)

350はLR縄文が施され、萩ケ岡式である。

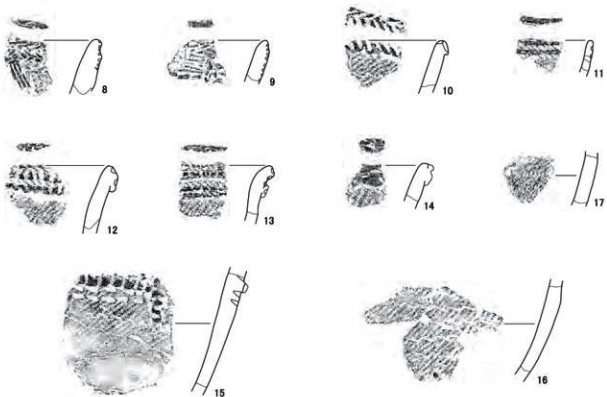
## H-10 (351・352)

351の外面はLR縄文地に、沈線文、刺突文列、貼付がみられ、貼付部分は棒状工具による刻みである。352はLR縄文地に沈線文が複数みられる。351・352は柏木川式に相当する。(末光)

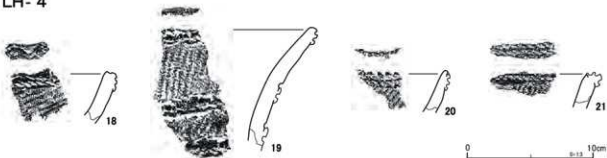
LH- 1



LH- 2

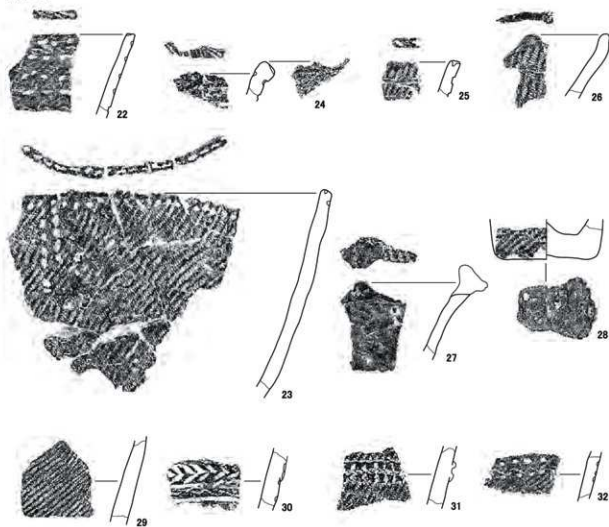


LH- 4

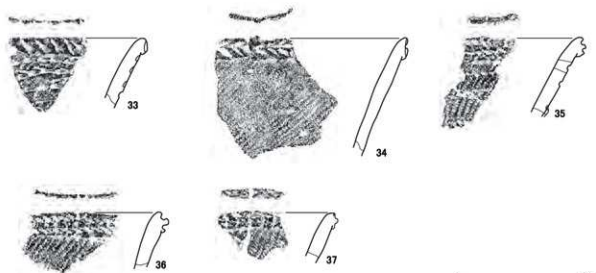


圖IV-7-7 遺構出土破片土器 (1)

## LH-4



## LH-5

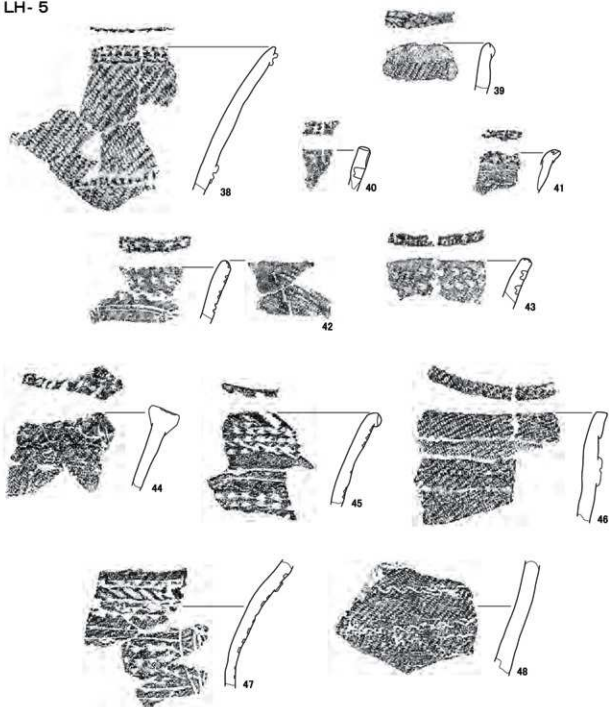


0 10cm

図IV-7-8 遺構出土破片土器(2)



LH- 5

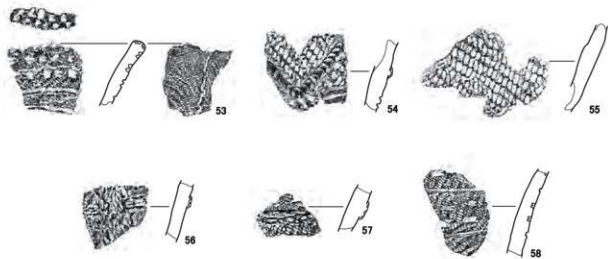


LH- 6

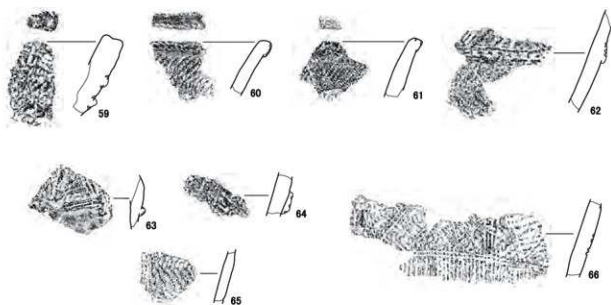


圖IV-7-9 遺構出土破片土器 (3)

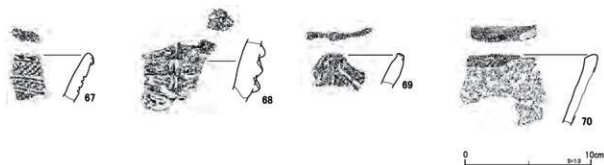
## LH- 6



## LH- 7



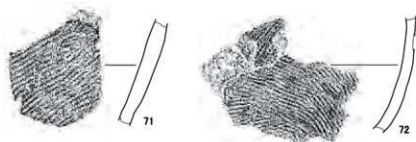
## LH- 8



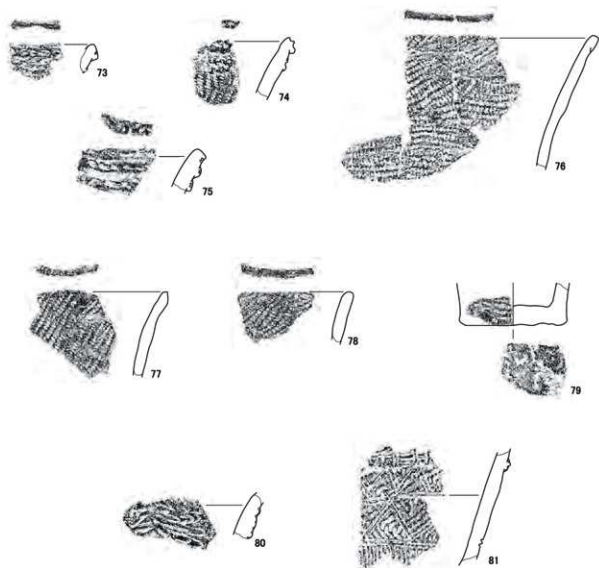
0 10cm

図IV-7-10 遺構出土破片土器 (4)

LH-8



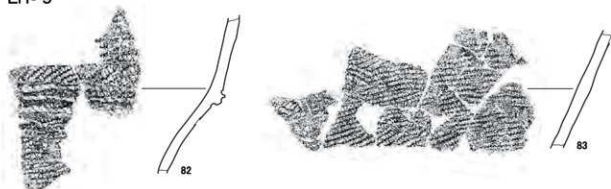
LH-9



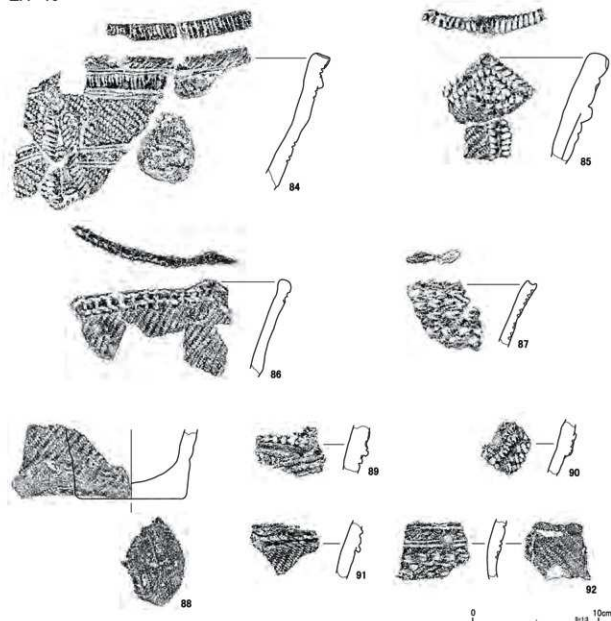
0 10cm  
1:1.5

圖IV-7-11 遺構出土破片土器 (5)

LH-9

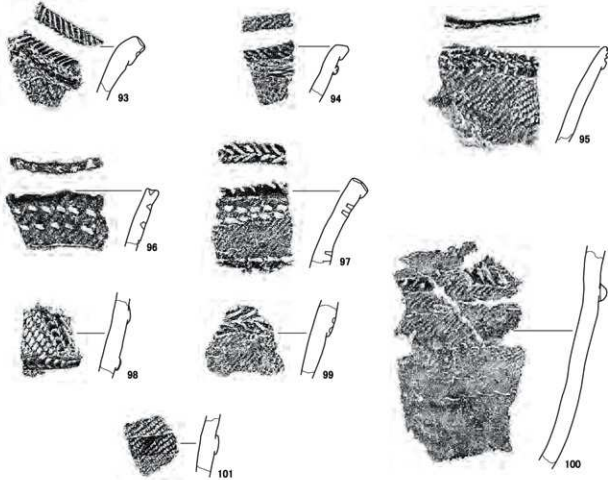


LH-10

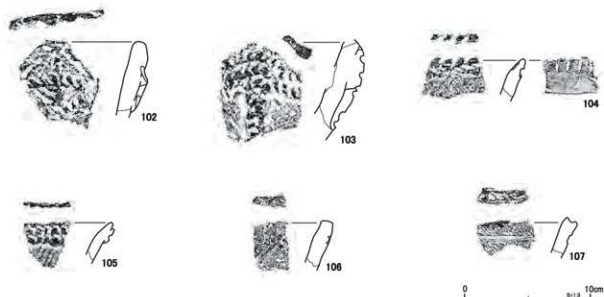


図IV-7-12 遺構出土破片土器(6)

LH- 11

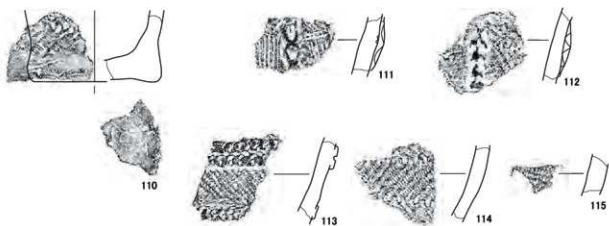
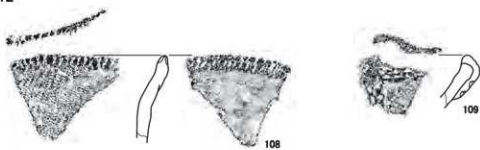


LH- 12



圖IV-7-13 遺構出土破片土器 (7)

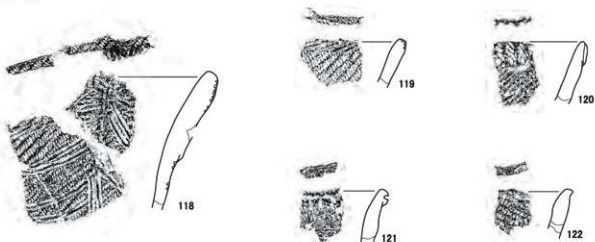
LH- 12



LH- 13



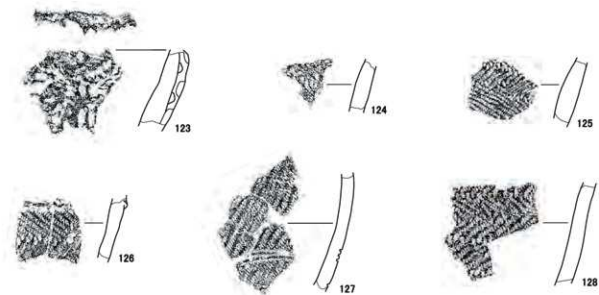
LH- 14



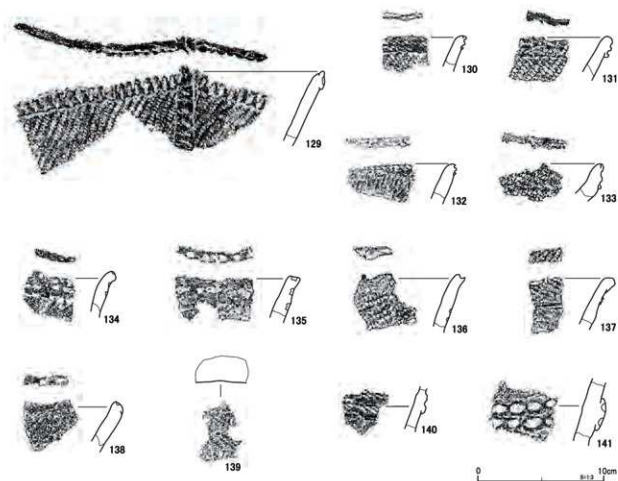
0 10cm

図IV-7-14 遺構出土破片土器(8)

LH- 14



LH- 15

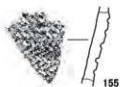
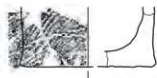
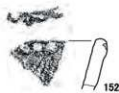
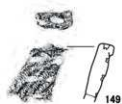
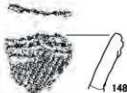
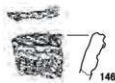
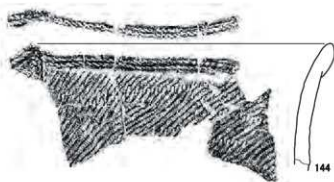


圖IV-7-15 遺構出土破片土器 (9)

LH- 15



LH- 16

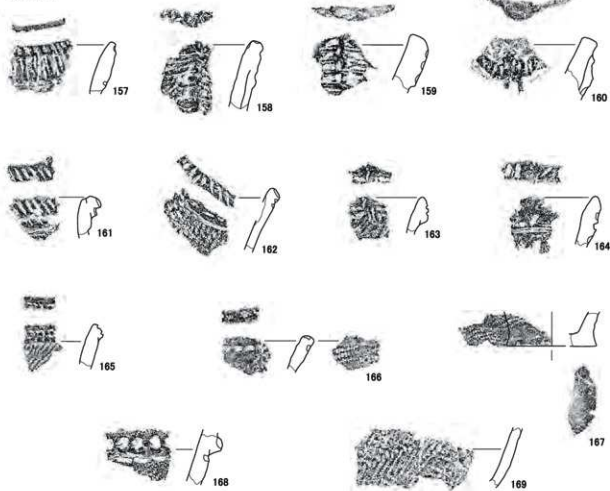


0 10cm

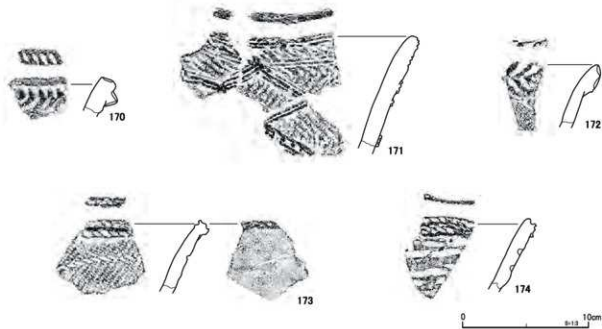
図IV-7-16 遺構出土破片土器 (10)



LH- 17

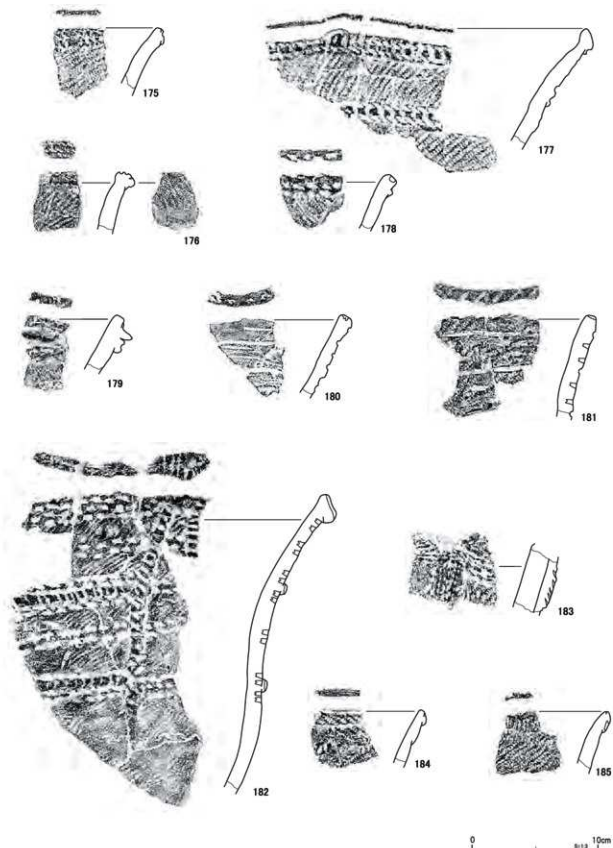


LH- 18



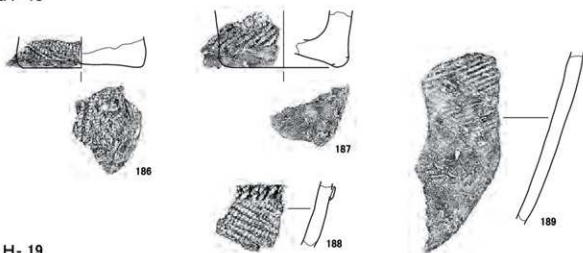
圖IV-7-17 遺構出土破片土器 (11)

LH- 18

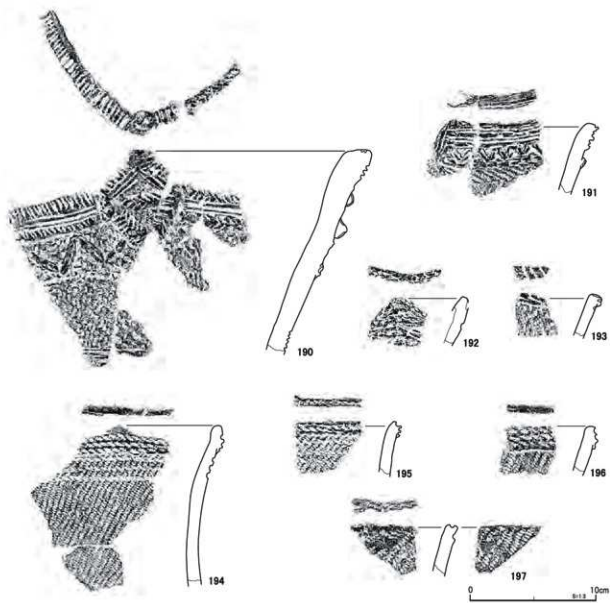


図IV-7-18 遺構出土破片土器 (12)

LH- 18

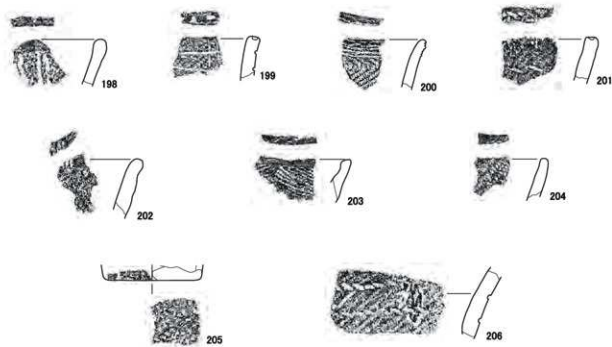


LH- 19

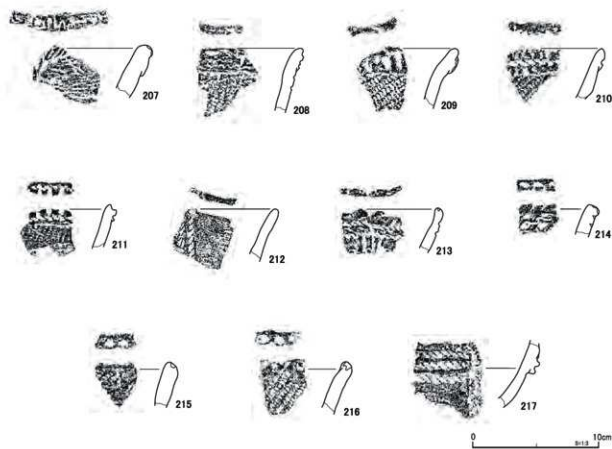


圖IV-7-19 遺構出土破片土器 (13)

## LH- 19

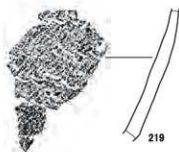
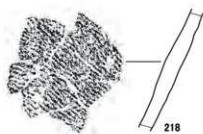


## LH- 20

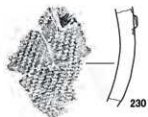
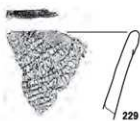
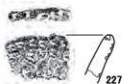
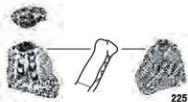
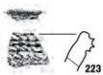


図IV-7-20 遺構出土破片土器 (14)

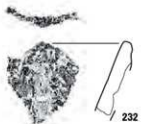
LH- 20



LH- 21



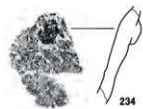
LH- 22



0 10cm

圖IV-7-21 遺構出土破片土器 (15)

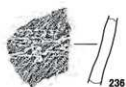
## LH- 22



234



235

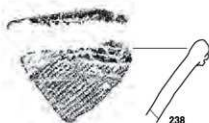


236

## LH- 23



237



238



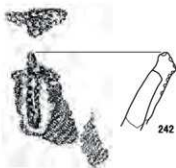
239



240



241



242



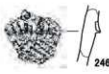
243



244



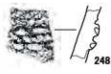
245



246



247

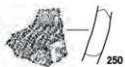


248

## LH- 24



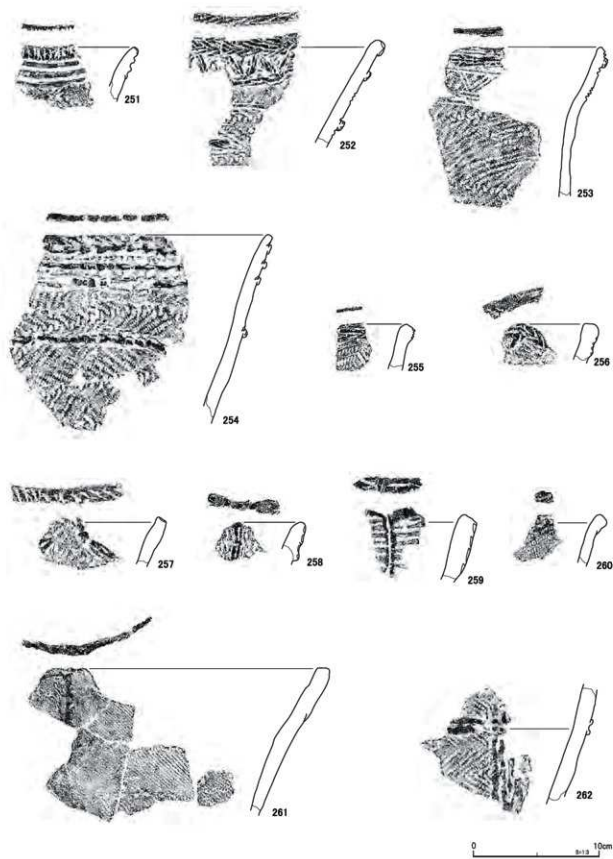
249



250

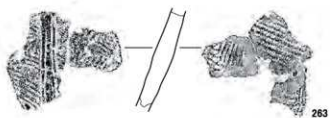


図IV-7-22 遺構出土破片土器 (16)

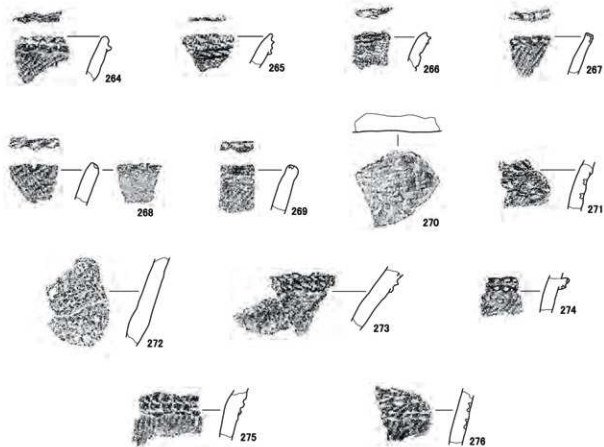


图IV-7-23 遺構出土破片土器 (17)

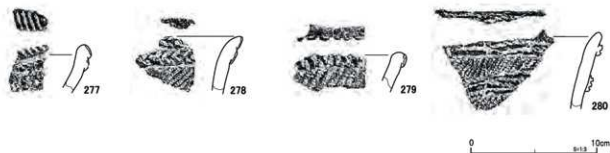
LH- 25



LH- 26



LH- 27

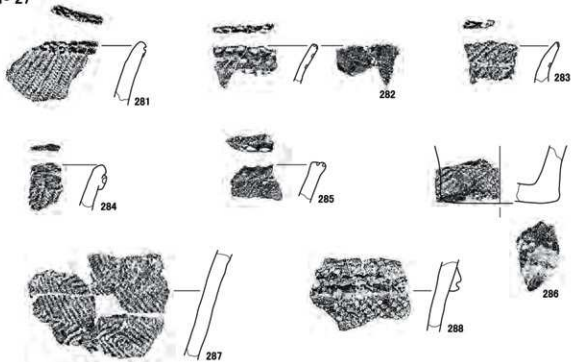


0 10cm

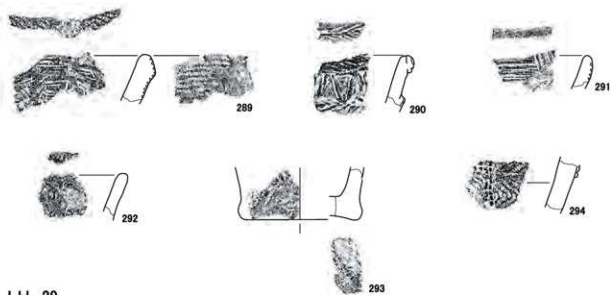
図IV-7-24 遺構出土破片土器 (18)



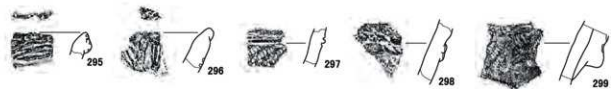
LH- 27



LH- 28



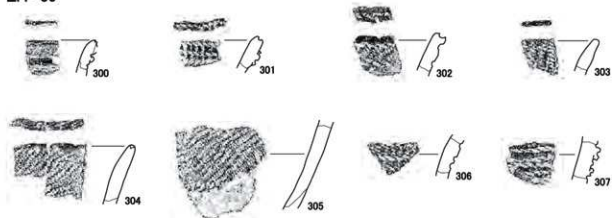
LH- 29



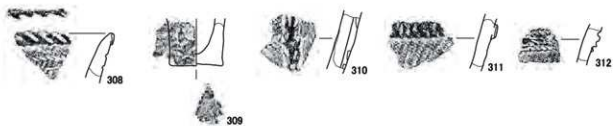
0 10cm

圖IV-7-25 遺構出土破片土器 (19)

## LH- 30



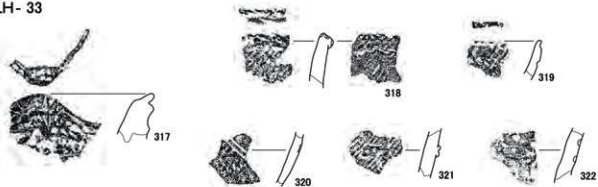
## LH- 31



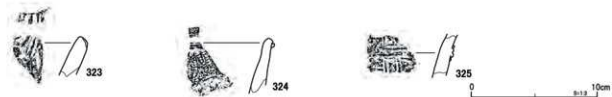
## LH- 32



## LH- 33



## LH- 34



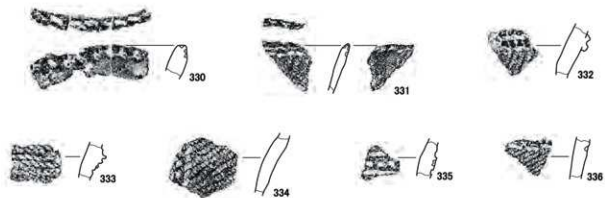
0 10cm

図IV-7-26 遺構出土破片土器 (20)

LH- 35



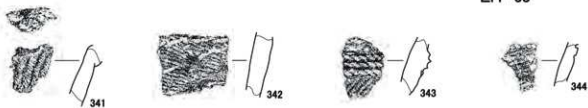
LH- 36



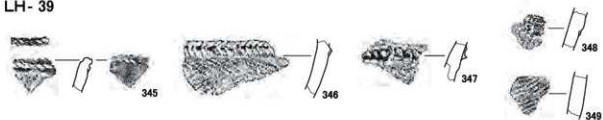
LH- 37



LH- 38



LH- 39



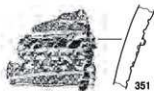
0 10cm

圖IV-7-27 遺構出土破片土器 (21)

H-7



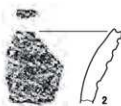
H-10



LP-1



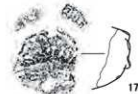
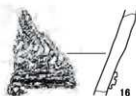
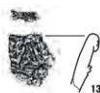
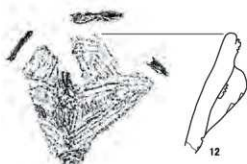
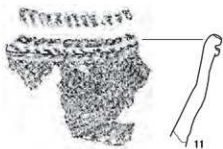
LP-2



LP-3



LP-4



0 10cm

図IV-7-28 遺構出土破片土器 (22)

LP- 5



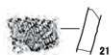
LP- 6



LP- 7



LP- 8



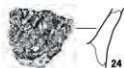
LP- 9



LP- 10



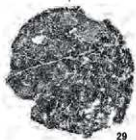
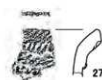
LP- 11



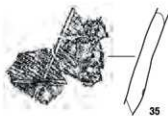
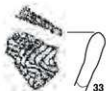
LP- 12



LP- 13



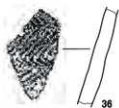
LP- 14



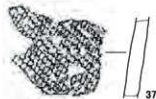
0 10cm

圖IV-7-29 遺構出土破片土器 (23)

LP- 15



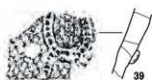
LP- 16



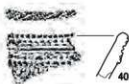
LP- 17



LP- 18



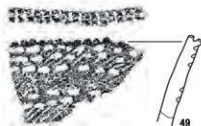
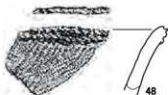
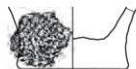
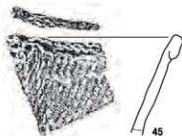
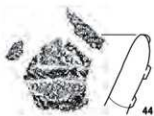
LP- 19



LP- 22

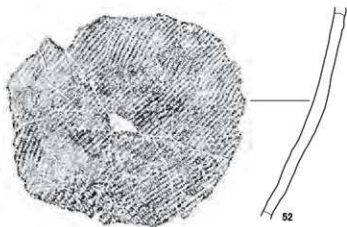
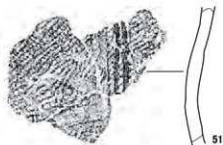


LP- 23

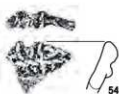
0 10cm  
8:12

図IV-7-30 遺構出土破片土器 (24)

LP- 23



LP- 24



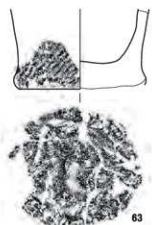
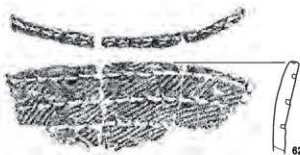
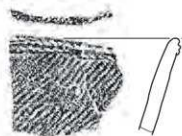
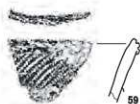
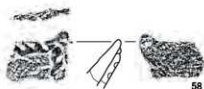
LP- 25



LP- 26



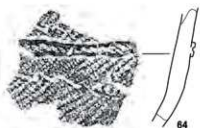
LP- 27



0 10cm

圖IV-7-31 遺構出土破片土器 (25)

LP- 27



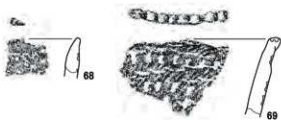
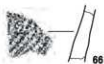
LP- 30



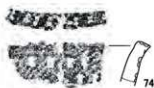
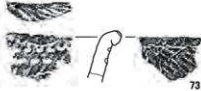
LP- 28



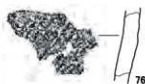
LP- 29



LP- 31



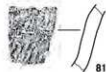
LP- 32



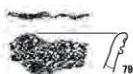
LP- 33



LP- 35



LP- 34

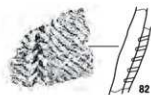


0 10cm

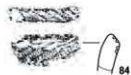
図IV-7-32 遺構出土破片土器 (26)



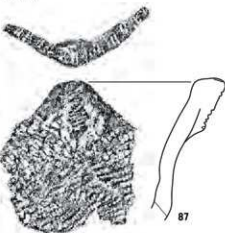
LP- 37



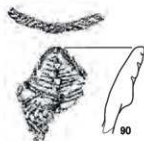
LP- 38



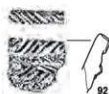
LP- 39



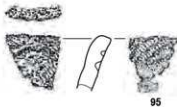
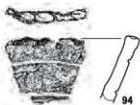
LP- 40



LP- 41



LP- 42

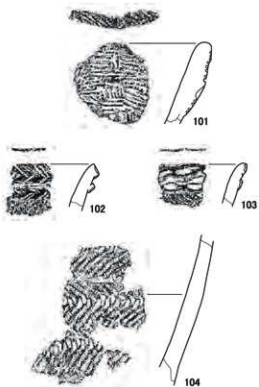
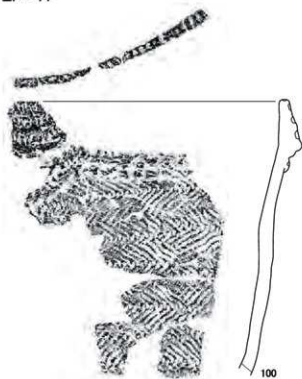


LP- 43



圖IV-7-33 遺構出土破片土器 (27)

LP- 44



LP- 45



LP- 46



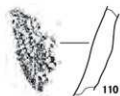
LP- 47



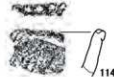
LP- 49



LP- 50



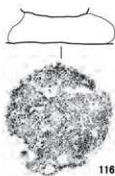
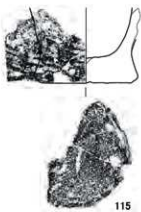
LP- 52



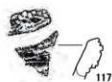
0 10cm

図IV-7-34 遺構出土破片土器 (28)

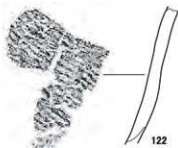
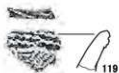
LP- 52



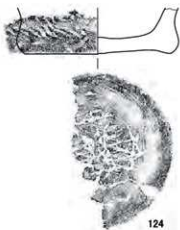
LP- 53



LP- 54



LP- 55



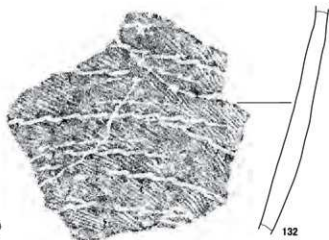
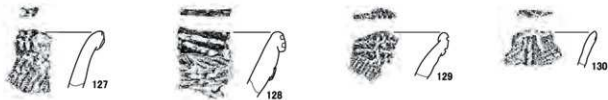
LP- 56



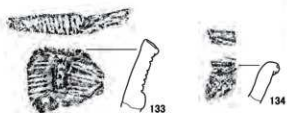
0 10cm  
1:1.5

圖IV-7-35 遺構出土破片土器 (29)

LP- 58



LP- 59



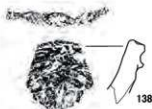
LP- 60



LP- 61



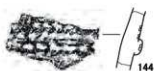
LP- 62



LP- 63



LP- 65



LP- 67



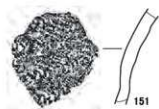
0 10cm

図IV-7-36 遺構出土破片土器 (30)

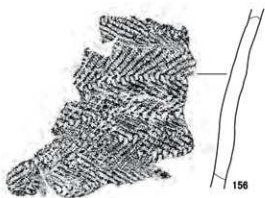
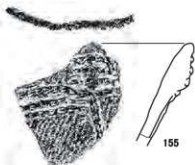
LP- 68



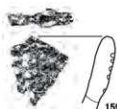
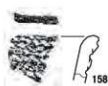
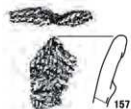
LP- 69



LP- 70



LP- 71



0 10cm

圖IV-7-37 遺構出土破片土器 (31)

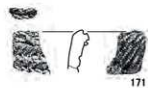
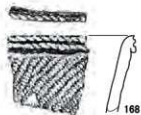
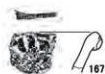
LP- 72



LP- 73



LP- 74



LP- 75



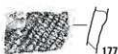
LP- 77



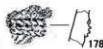
LP- 78



LP- 79



LP- 81



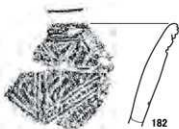
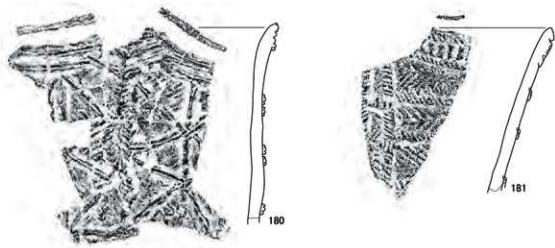
LP- 82



0 10cm

図IV-7-38 遺構出土破片土器 (32)

LP- 83



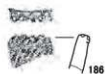
LP- 84



LP- 85



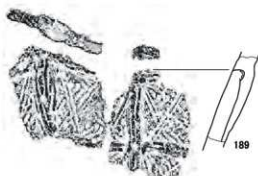
LP- 86



LP- 87

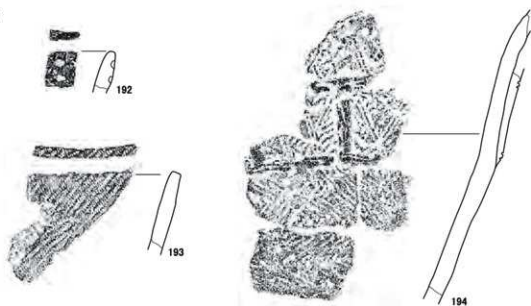


LP- 88



圖IV-7-39 遺構出土破片土器 (33)

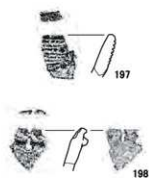
LP- 88



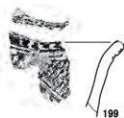
LP- 89



LP- 90



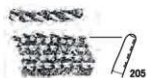
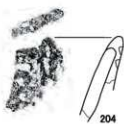
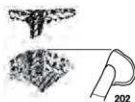
LP- 91



LP- 92



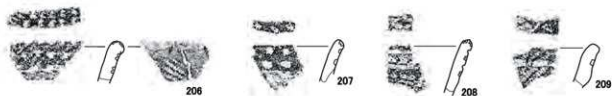
LP- 93



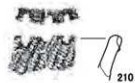
図IV-7-40 遺構出土破片土器 (34)



LP- 93



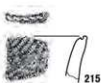
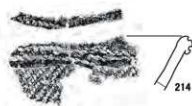
LP- 94



LP- 95



LP- 96



LP- 97



LP- 98



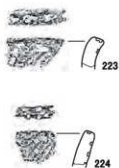
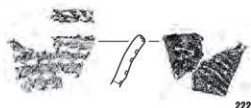
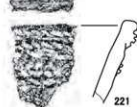
LP- 99



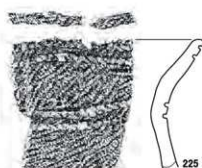
LP- 100



LP- 102

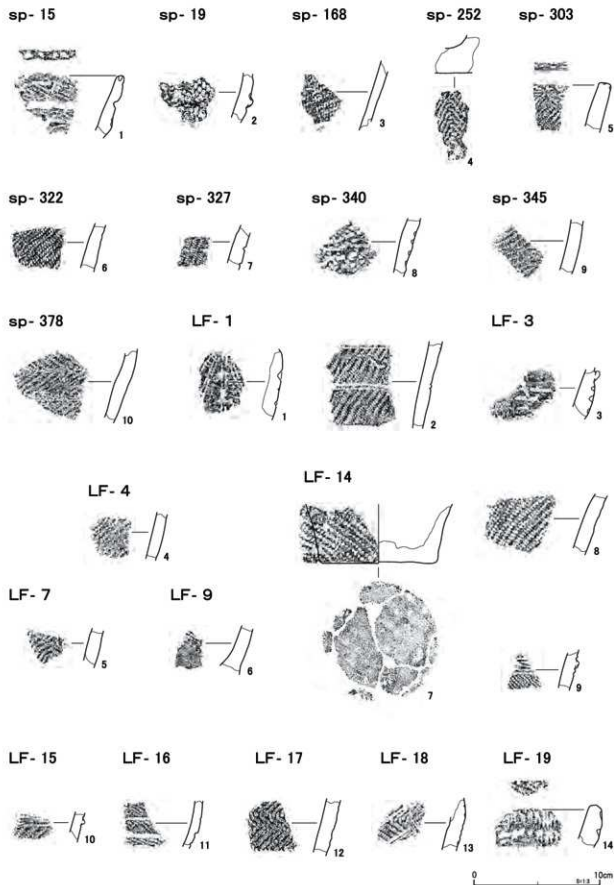


LSP- 1

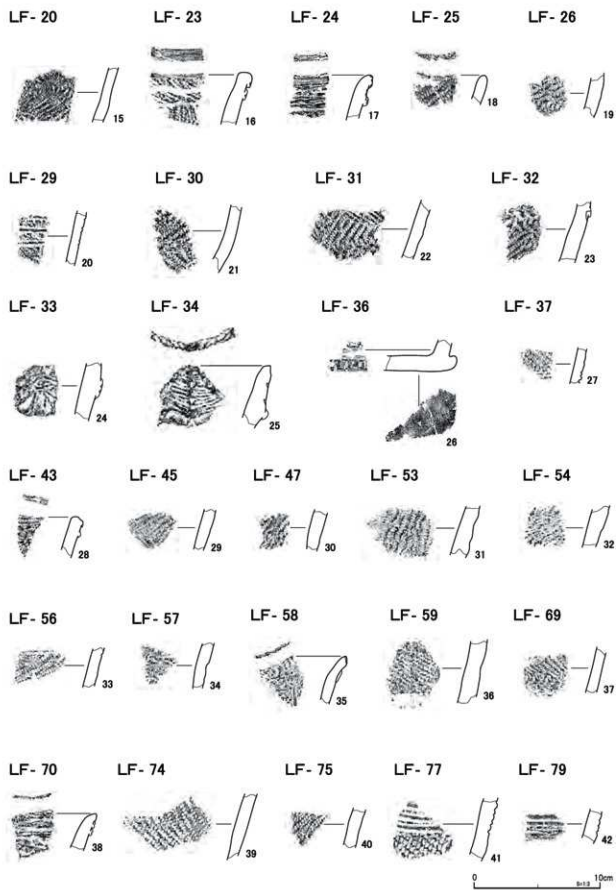


0 10cm

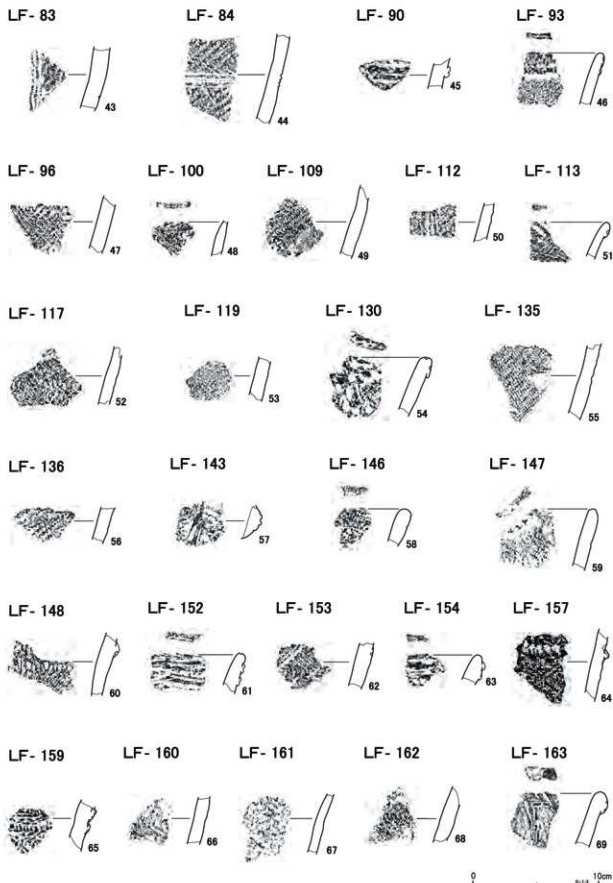
圖IV-7-41 遺構出土破片土器 (35)



図IV-7-42 遺構出土破片土器 (36)



圖IV-7-43 遺構出土破片土器 (37)



図IV-7-44 遺構出土破片土器 (38)

LF- 164



LF- 180



LF- 187



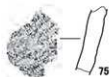
LF- 189



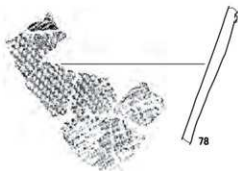
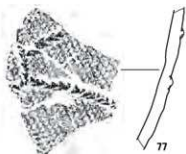
LF- 190



LF- 205



LF- 209



LF- 207



LF- 217



LF- 220



LF- 223



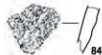
LF- 224



LF- 225



LF- 228



LF- 231

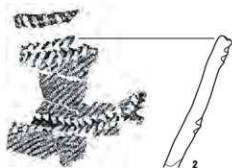


圖IV-7-45 遺構出土破片土器 (39)

LH- 25・LP- 59



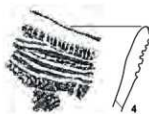
LH- 9・LH- 10



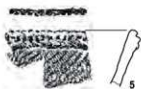
LH- 25・LP- 59



LP- 74・LP- 88



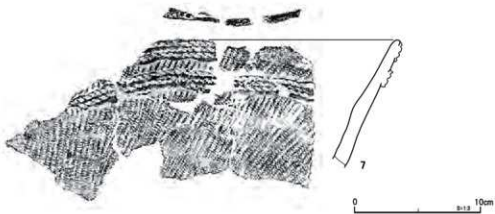
H- 10・LH- 25



LH- 16・LH- 23



LH- 16・LH- 23・LH- 26

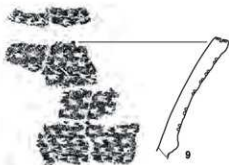


図IV-7-46 遺構出土破片土器 (40)

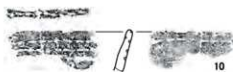
LP-23・LP-27



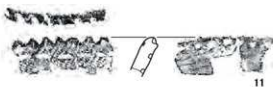
LH-5・LH-10



LH-8・LP-71



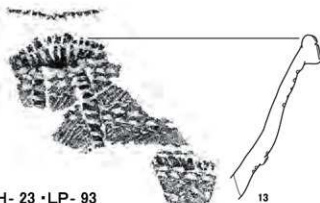
LH-16・LH-23



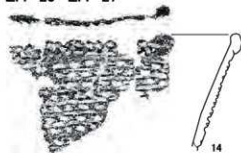
LH-16・LH-23



LH-18・LP-23



LH-23・LH-27



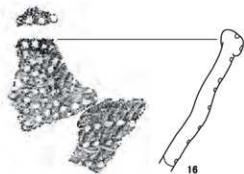
LH-23・LP-93



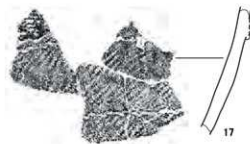
0 10cm

圖IV-7-47 遺構出土破片土器 (41)

LH- 27・LF- 243



LH- 5・LH- 10



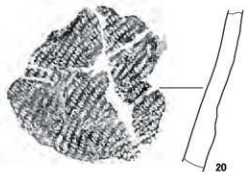
LH- 5・LH- 25・LP- 59



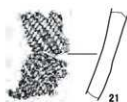
LH- 5・LP- 71



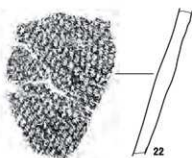
LH- 6・LH- 8・LH- 10



LH- 7・LH- 10



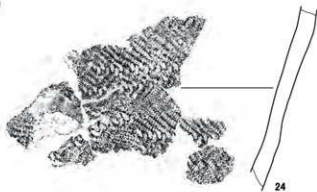
LH- 7・LH- 11



LH- 10・LH- 35



LH- 10・LH- 12・LP- 74



0 10cm

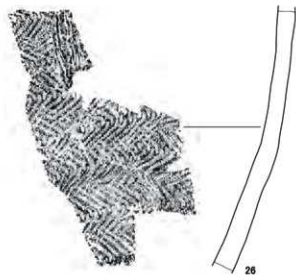
図IV-7-48 遺構出土破片土器 (42)



LH- 16 · LH- 23



LH- 22 · LF- 89



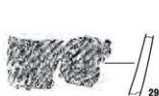
LH- 27 · LH- 36



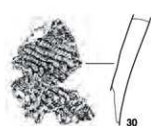
LH- 28 · LP- 69



LH- 33 · LP- 91



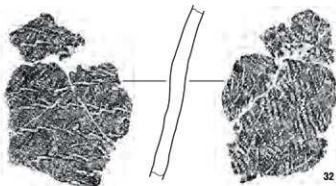
LH- 39 · LP- 74



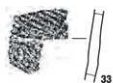
LP- 22 · LP- 38



LP- 23 · LP- 27



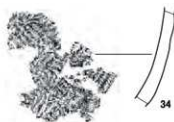
LP- 84 · LP- 91



0 10cm  
1:1.5

圖IV-7-49 遺構出土破片土器 (43)

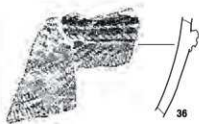
LH-25・LP-53



LH-2・LH-9・LH-11・LP-23



LH-9・LH-22



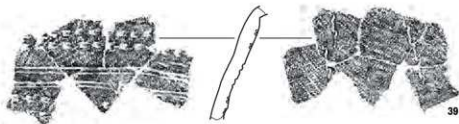
LH-9・LH-22



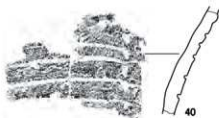
LP-25・LP-43



LH-5・LH-10

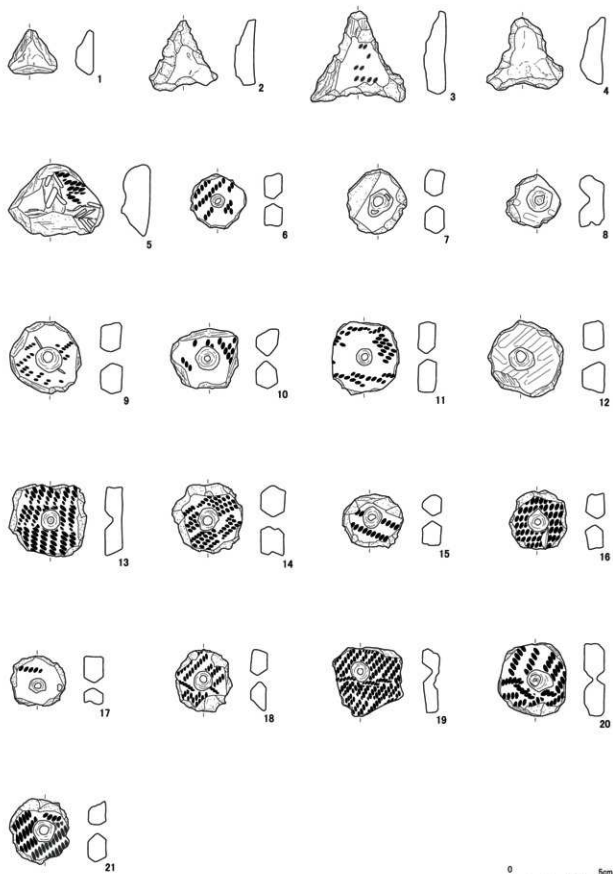


LH-27・LP-77



0 10cm

図IV-7-50 遺構出土破片土器 (44)



图IV-7-51 遗構出土土製品 (45)

## (3) 石器等 (図IV-7-52~72 表IV-7-51・52 図版83~91)

## 「剥片石器」(1~88)

## LH-1

1は有茎の石鏃で背腹両面に剥離面がみられる。

## LH-2

2は両側縁が曲線的で、茎部が破損し、3は石核で複数の剥離面がある。

## LH-4

4は幅広で有茎の石鏃で、5は腹面右側縁部に櫛状の剥離が複数みられる。6の腹面は周縁に調整が施され、石錐のつまみ部分と推測する。7は下端部に原礫面を残し、腹面両側縁に微細な剥離痕がある。

## LH-5

8・9・10は有茎石鏃で、8は両側縁が曲線的、9は周縁に二次調整が施され、背腹両面に剥離面を残し、10は左右非対称である。11~14はスクレイパーで、11は背腹両面の側縁に刃部を有し、12は背面に原礫面を広く残し、周縁に二次加工が施される。13は縦長の素材で、腹面右側縁部に刃部は曲線的である。14は三角形を呈し厚く、背面に調整が施される。

## LH-6

15~17は有茎石鏃で、15・16は左右非対称で、17は茎部が平坦である。18は横長を素材とし、腹面両側縁中央付近に、調整が施される。19は石核で複数の剥離面が認められる。20は湾曲する剥片で、背面右側縁部に剥離痕がみられる。

## LH-7

21・22は石鏃で、21は腹面に剥離面がみられ、22は背腹両面に二次調整が施される。

## LH-8

24は有茎石鏃で、両側縁は基部側で曲線的に広がる形態である。25はスクレイパーで、背面には先行剥離面がある。26は背面の両側縁に微細な剥離痕が多数みられる。

## LH-9

28は石鏃に分類したが、形態からスクレイパーの可能性がある。29は横長剥片で背面の周縁に二次調整が施される。30は石核で、複数の方向から剥片剥離が行われた。31は背面右側縁に微細な剥離痕が複数認められる。

## LH-10

27は横長剥片の背面右側縁部上端側に微細な剥離痕がある。

## LH-11

28は二等辺三角形の石鏃である。

## LH-12

33は背腹両面ともに調整は周縁のみである。34は長身で左右非対称である。35は有茎石鏃で背腹両面全体に調整が施される。36は大型の石鏃あるいは石槍・ナイフで、有茎で曲線的な両側縁は先端部で収束する。

## LH-14

37・38は小型の石鏃で、37は先端部、38は先端部と基部を破損する。39は長身の石鏃で両側縁は直線的である。40は両面調整石器で、背面右側縁の一部に原礫面を残す。

#### LH-15

41は直方体を呈する石核で、複数の剥離面がみられる。

#### LH-16

42は横長剥片で、背面には広く原礫面を残し同面両側縁に調整が施される。43は素材の形状のまま隅丸正方形を呈し、腹面に二次加工がみられる。

#### LH-17

44は有茎石鐵で、最大幅部分から基部への側縁は曲線的である。

#### LH-18

45～48は石鐵で、45は小型で薄く先端部を破損し、46～48は有茎で先端部側の両側縁が直線的である。49は石錐のつまみ部分で、腹面全体と背面の機能部の付け根付近に二次調整が施される。50～54はスクレイパーで、50はバルブの高まりを残す剥片を素材とし、51は上部部に原礫面、下部部に刃部がみられる。52が細長い形態で、背面の下部部に剥離痕が多い。53は背面に広く原礫面を残し、周縁に二次調整が施され、54は背腹両面に剥離痕がみられるが、腹面は広めのものが目立つ。55～57は石核で、55・56は剥離面が複数みられ、57は背面に原礫面を残し、上下両端部に微細な剥離痕が複数観察される。

#### LH-19

58～64は石鐵である。58・59は背腹両面ともに周縁に二次調整がみられ、60は細長く湾曲する剥片を素材とする。61は菱形を呈し、62の側縁は、先端部側が直線的で基部側は曲線的である。63は木の葉形を呈し、64は腹面に剥離面を広く残す。65は石錐と推測するもので、緑色泥岩製で実用品でないと考えられる。66・67はつまみ付きナイフで、66は下部側が折れ、そこに調整を加え再生されたと推測する。67はつまみ部分が残存する大型のもので、背面右側縁に加工が顕著である。68・69はスクレイパーで、68は背面左側縁に刃部がみられ、同面右側は折れ面の可能性がある。69は腹面上端部よりの両側縁に剥離痕が観察される。70は石核で複数の剥離面がみられる。

#### LH-20

71は石鐵で、素材は厚みがあり背面に原礫面を広く残す。72は腹面右側縁に剥離痕がみられ、石錐と推測する。

#### LH-21

73～75は石鐵で、73は若干厚みのある剥片を素材とし、背腹両面に剥離面を残す。74は五角形で先端部を破損し、75は有茎で両側縁が直線的である。76は石槍・ナイフの基部で、背腹両面に広い剥離痕が観察される。77は石核で、大きな剥離面と打面調整のための小さめの剥離痕がみられる。

#### LH-22

78は背腹両面に広く剥離面を残し、79は薄手の有茎石鐵である。

#### LH-23

81は背腹両面に剥離面があり、二次調整は周縁に限られる。82は有茎石鐵で、素材剥片は中央付近が厚い。

#### LH-24

80は有茎石鐵で左右非対称である。

#### LH-25

83は有茎石鐵で、茎部を破損する。84は左右非対称の石槍・ナイフで、背腹両面ともに広めの剥離痕が目立つ。85・86はスクレイパーで、前者は横長剥片、後者は縦長剥片を素材とする。

## LH-27

87は石錐に分類したが、石材は緑色泥岩で石製品と判断する。

## LH-28

88は石核で無作為な剥離面が多数みられる。

## LH-29

89は背面右側縁下端よりに大きな剥離痕があり、破損した石鎌の可能性もある。

「礫石器 磨製石斧」(1~40)

## LH-2

1は未製品で、表裏両側縁から打ち欠き成形されるが、厚みが残る。表面下端には研磨痕がある。

## LH-5

2は表面右側縁と裏面の刃部に剥離痕がみられ、3は大型で、刃部を破損する。

## LH-6

4は擦り切り手法によるもので、両側縁が直線的である。

## LH-9

5は刃部にたたき痕がみられる。

## LH-10

6は基部側を破損し、断面は湾曲する形態である。

## LH-11

7は刃部のみが残存する。

## LH-12

8は小型で扁平、9は刃部にたたき痕が観察される。10は破片で、表裏両面の全周縁に剥離痕がみられる。11は打ち欠き成形のみの未製品の可能性がある。

## LH-14

12は基部が欠損する。13は素材を薄く割り、周縁に調整した痕跡がある。14は厚く、刃部を破損する。

## LH-16

15は基部で、薄く加工される。16は両側縁を調整後、刃部を中心に研磨が施される。

## LH-17

17・18は使用により剥離した破片と推測する。18は側面や裏面に原礫面があり、刃部は厚みを残す。

## LH-18

19~21はほぼ全面研磨され刃部が幅広い形態である。21は刃部が破損し、22は両側縁部剥離痕がみられる。23は表面にたたき痕、裏面は研磨痕がみられる。24は刃部を欠損し、たたき痕がみられ、転用品と推測する。25は破片である。

## LH-19

26は刃部側を破損する。

## LH-20

27は基部側を破損する。

## LH-21

28は接合資料で、基部側を破損する。29・32は刃部側を破損する。30はやや不整形で、31は全面研磨され、刃部は部分的に破損する。33・34は剥離痕やたたき痕がみられ、研磨痕がみられない。

LH-24

35は小型で薄く、36は全体に研磨痕がみられる。37は全体に剥離痕が多数ある。

LH-25

38は両側縁及下端部からの剥離痕が観察される。

LH-28

39は大型で厚みがあり、剥離痕と側面にたたき痕がある。

LH-37

40は刃部が残存し、表裏と側面に研磨痕がある。

「礫石器」(1~56)

LH-1

1は断面が三角形を呈するたたき石である。

LH-2

2はたたき石で、厚みのある円礫を素材とする。3は砥石で、表面には溝状のすり痕が観察される。4は台石でたたき痕が集中する部分が明瞭にくぼむ。

LH-5

5・6は砥石である。5は角柱状の礫を素材とする。6は表裏面に平坦なすり面がある。7は台石でくぼみがみられる。

LH-6

8は砥石で断面ですべての面がくぼむ。

LH-8

9は砥石で、平坦なすり痕と敲打痕がみられる。

LH-9

10はたたき石で、下端部には多数のたたき痕がみられる。

LH-10

11は板状で、表裏面に砥面がある。12は扁平な礫の平坦面と側面に深くくぼむたたき痕がある。13は台石で散発的なたたき痕がある。

LH-11

14は砥石で砥面は明瞭にくぼむ。

LH-12

15は磨製石斧を転用したと推測するたたき石で、刃部にたたき痕がみられる。16・17は砥石で多数の使用面が観察される。18・19・20は板状の砥石で、18・19は破片が接合したもので、20の砥面は平坦である。22・23は溝状のすり痕が複数みられ、有溝砥石である。24・25はチャートの原石である。

LH-13

26の砥面は明瞭なくぼみがみられる。

LH-15

27はたたき石で、平坦面にたたき痕が部分的にみられる。28~30は砥石で、28は破片、29は角柱状で四面に使用痕がある。30は扁平な礫を割り素材とし、溝状の砥面がみられる。

LH-16

31~33はたたき石である。31は球体の形状で、部分的にたたき痕がみられ、32・33は棒状の礫の平坦面や側面にたたき痕がある。34はすり石で断面が三角形で、これらに使用痕がある。35~39は砥石

で、35は表裏面が明瞭にくぼみ、36は全体に使用痕が観察される。37は表面と側面に溝状の使用痕が観察される。38は表面のみに砥面がみられ、39の断面では平坦な使用面が複数観察される。

## LH-18

40は板状で表面にくぼみがみられ、41には溝状のすり痕がある。42は台石の破片で平坦なすり面がみられる。43は緑色泥岩の礫で、磨製石斧の原石と判断する。

## LH-20

44はたたき石で、棒状の礫の下端部に多数の使用痕がある。

## LH-21

45は周縁に多数のたたき痕が観察される。

## LH-22

46は北海道式石冠で、敲打による持ち手部分の作出と、下端面にすり痕がみられる。

## LH-23

47は石錘と推測され、挟り部分が3か所認められる。

## LH-24

48はたたき石で、表裏面は平坦で原礫面を残し、周縁に使用痕が観察される。

## LH-25

49は板状の砥石で、すり面は明瞭にくぼむ。50は硬質な泥岩を用いた、たたき痕と推測され、剥離痕状の使用痕がみられる。

## LH-26

51は角柱状の礫を用いた砥石で、すり面が複数みられる。

## LH-27

52は複数の使用痕がある。

## LH-28

53は台石で、表面は明瞭にくぼむ。

## LH-29

54は台石で表裏面に平坦な使用面がみられる。

## H-7

55は棒状の礫を用いたたたき石である。

## LH-21

56は台石で、接合資料である。

## 「石製品」(1~15)

## LH-1

1は全面に研磨が施される。

## LH-4

2は小型で刻み様の加工が施される。3は厚く、周縁に剥離痕があることから、未製品と推測する。

## LH-11

4はいわゆる管玉の形状を呈する。

## LH-12

5は角が丸い五角形で薄く加工される。6の側縁には研磨痕が部分的にみられ、表面には穿孔しようとしたと推測する痕跡がある。



LH-16

7は下側部分に抉りが作出され、刻み様の加工がみられる。

LH-18

8・9は平面形が半円形様で、薄く加工される。

LH-19

10は研磨された面が観察され、剥離した破片と推測する。

LH-21

11は薄く、楕円形を呈する。

LH-22

12・13は軽石を用い、12は表裏面、13は周縁に加工がみられる。

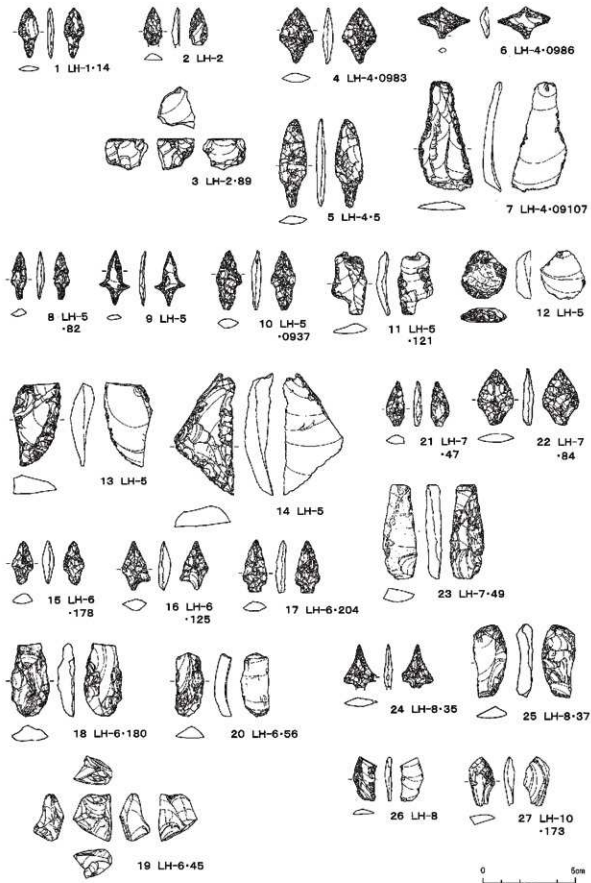
LH-23

14は穿孔部から上部が破損し、平面は三角形と推測する。15は黒曜石の棒状原石である。

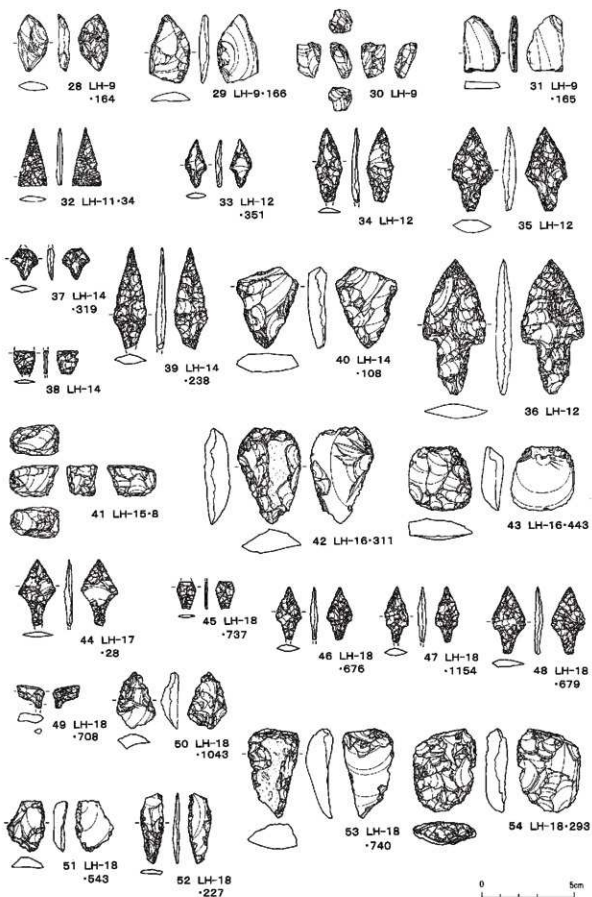
LH-36

16は表面上部左側を破損する。

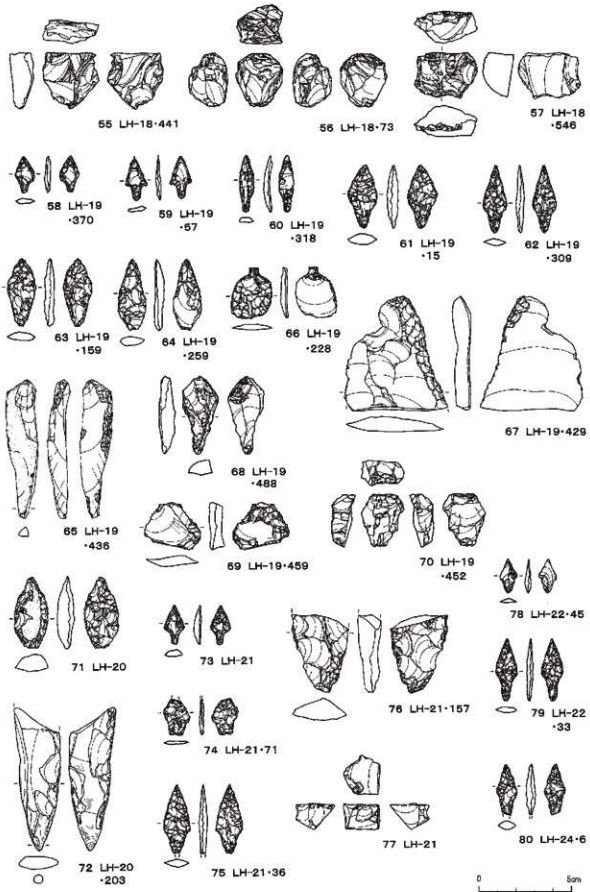
なお、L・P・LFC出土の石器（図IV-7-65～72）は紙面の都合で割愛するので、観察表等を参照されたい。（末光）



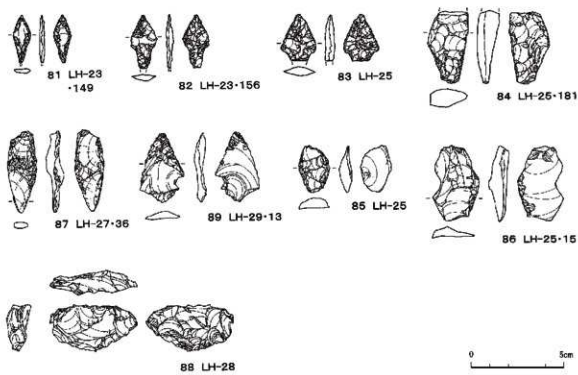
図IV-7-52 遺構出土の石器(1)



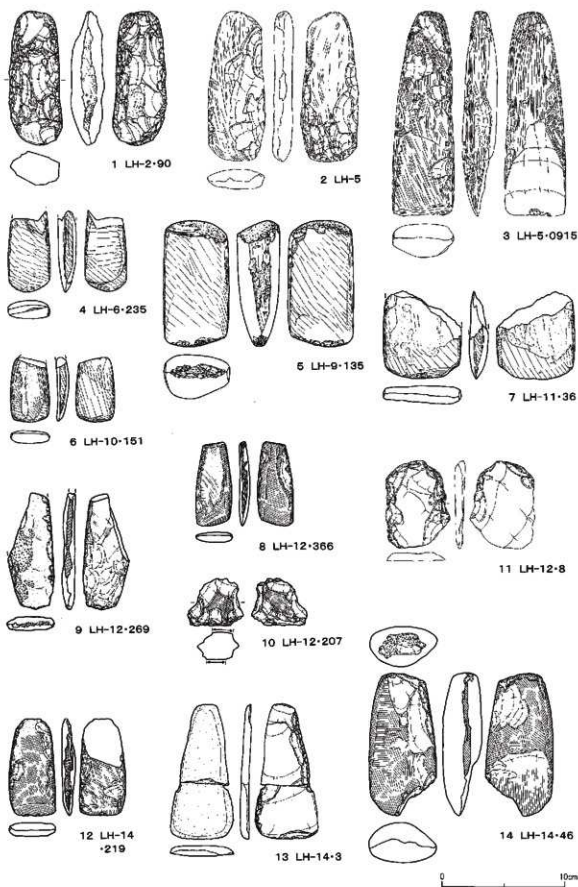
図IV-7-53 遺構出土の石器(2)



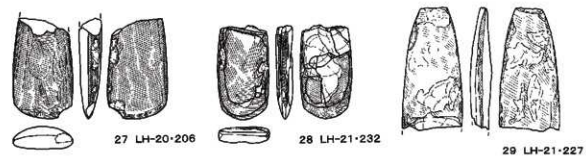
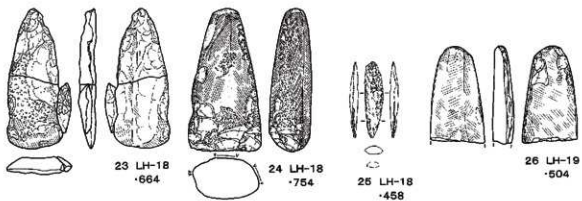
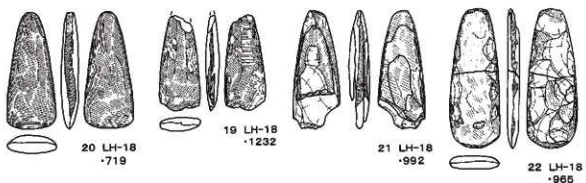
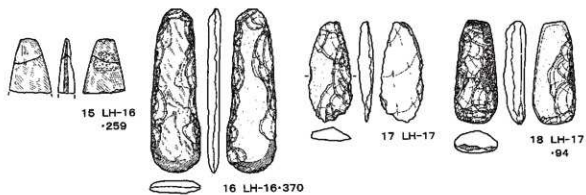
図IV-7-54 遺構出土の石器(3)



図IV-7-55 遺構出土の石器(4)

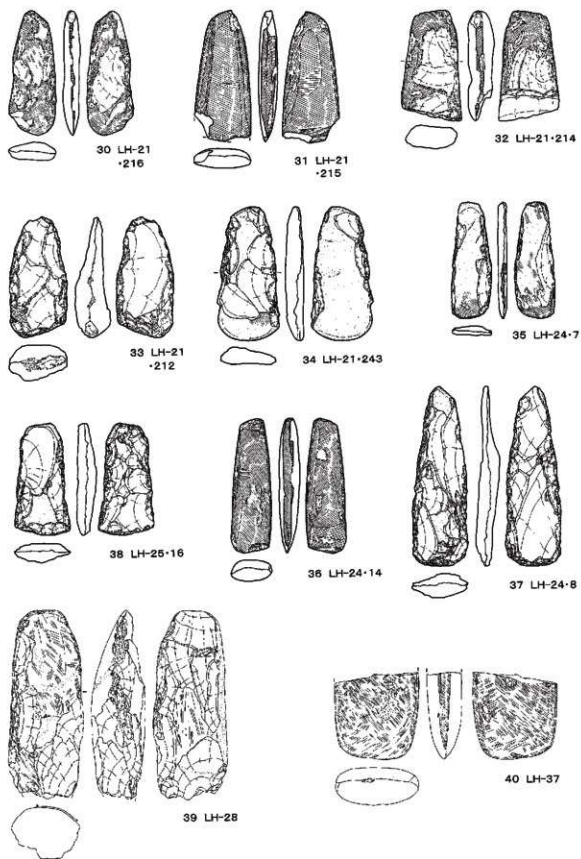


図IV-7-56 遺構出土の石器(5)



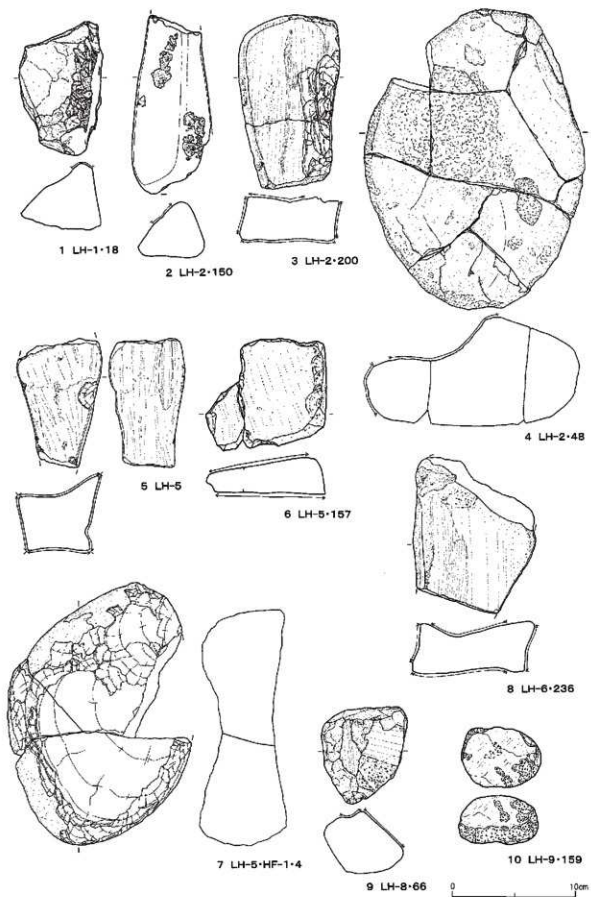
0 10cm

図IV-7-57 遺構出土の石器(6)

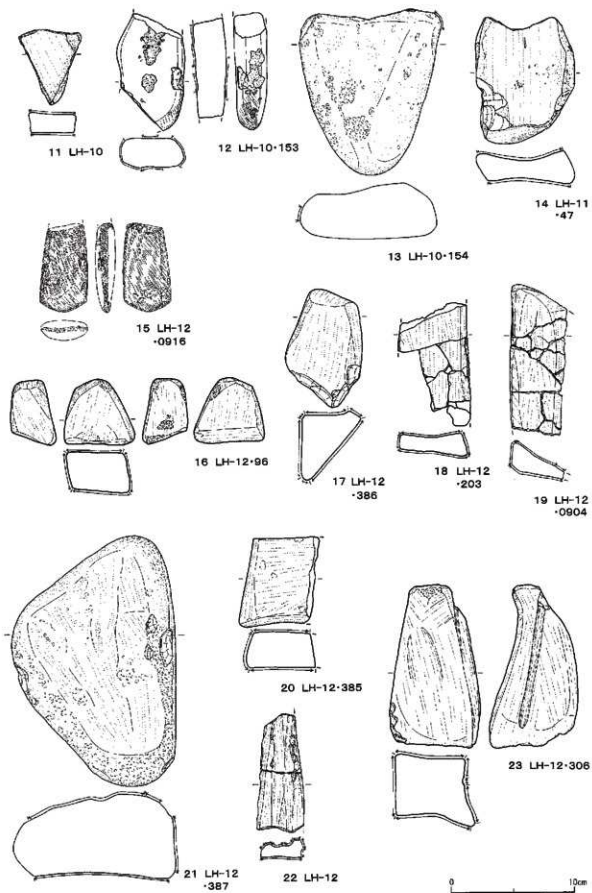


図IV-7-58 遺構出土の石器(7)

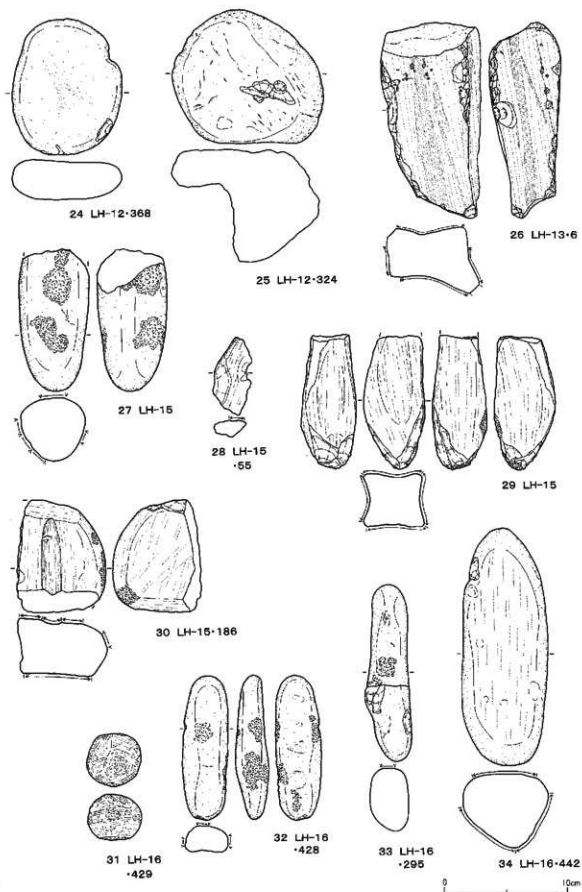




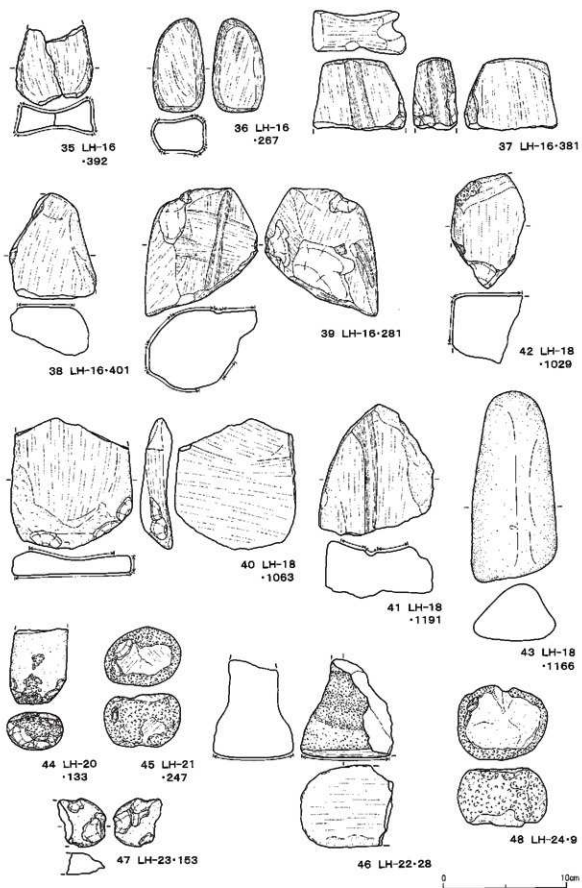
図IV-7-59 遺構出土の石器(8)



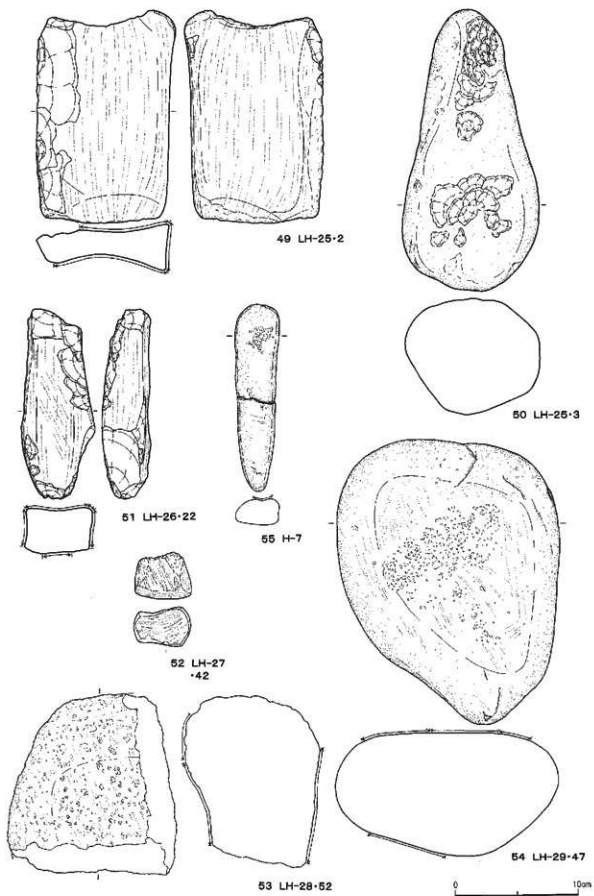
図IV-7-60 遺構出土の石器(9)



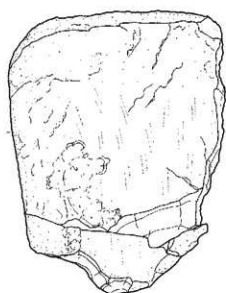
図IV-7-61 遺構出土の石器 (10)



図IV-7-62 遺構出土の石器 (11)



図IV-7-63 遺構出土の石器 (12)

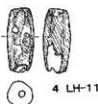


56 LH-21-272

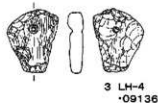
0 10cm



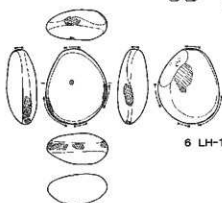
1 LH-1-1

2 LH-4  
-09115

4 LH-11

3 LH-4  
-09136

5 LH-12



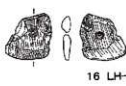
6 LH-12

7 LH-16  
-2318 LH-18  
-5499 LH-18  
-805

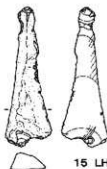
10 LH-19



14 LH-23

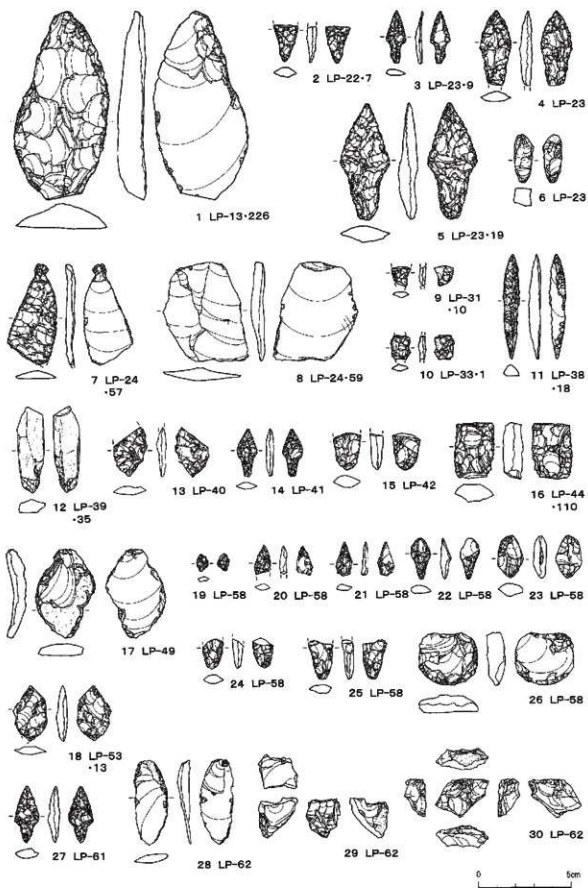
11 LH-21  
-23112 LH-22  
-9213 LH-22  
-87

16 LH-36

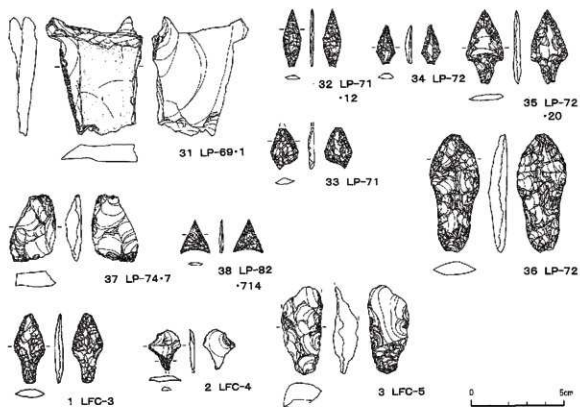
15 LH-23  
-357

0 5cm

図IV-7-64 遺構出土の石器 (13)

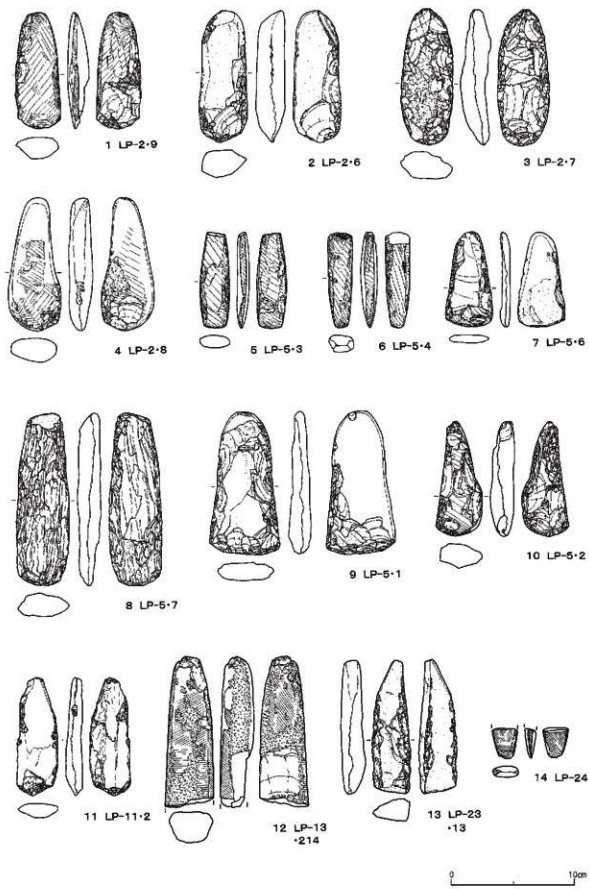


図IV-7-65 遺構出土の石器 (14)

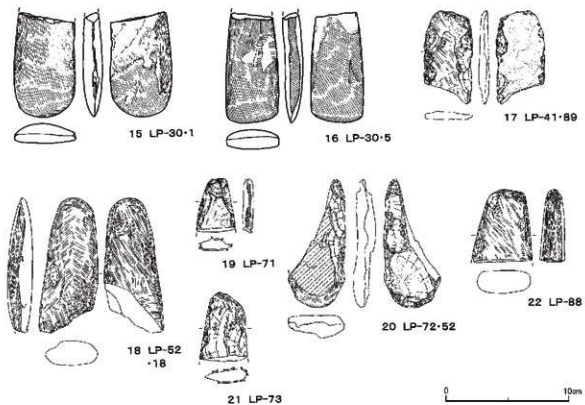


図IV-7-66 遺構出土の石器 (15)

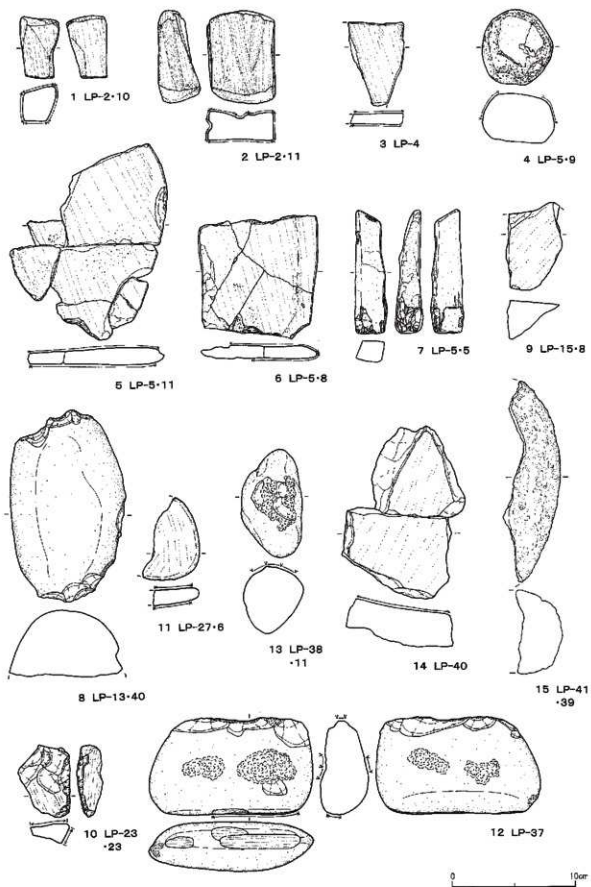




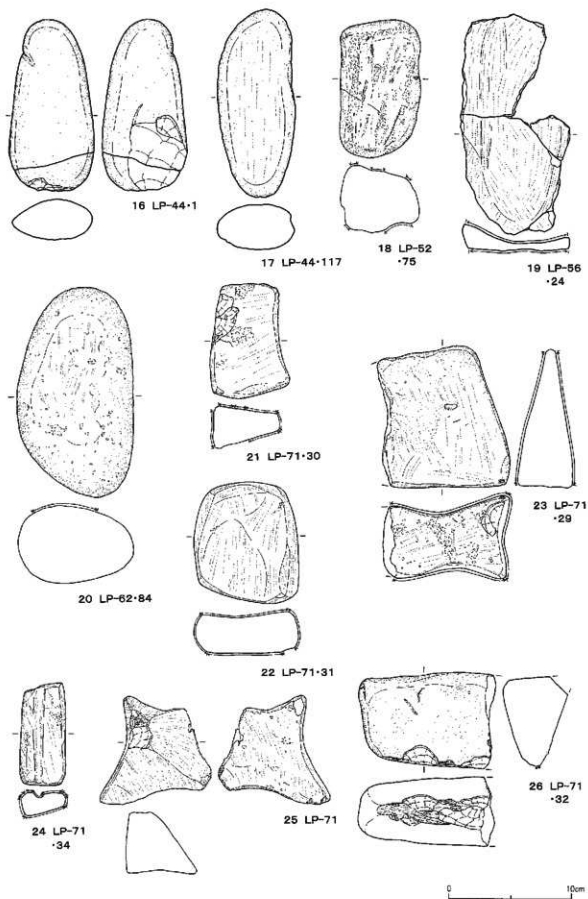
図IV-7-67 遺構出土の石器 (16)



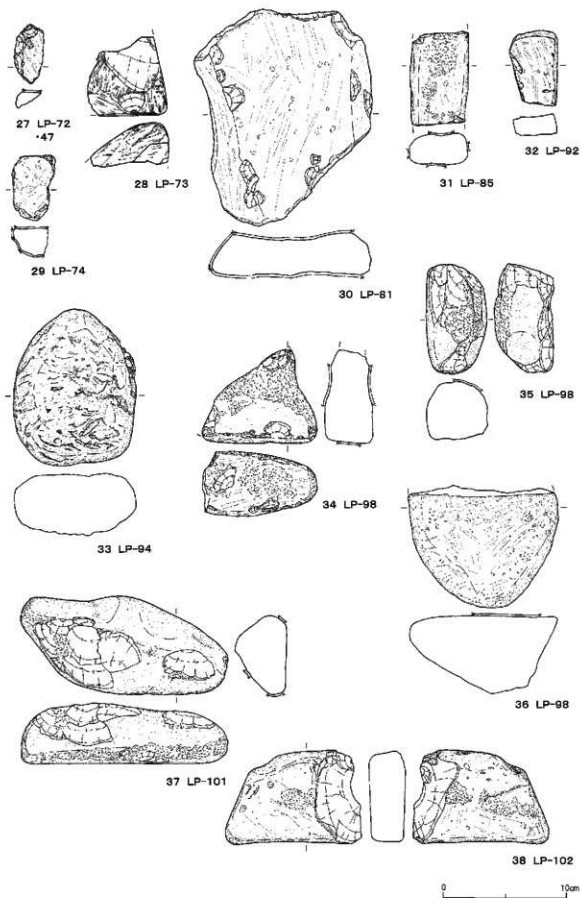
図IV-7-68 遺構出土の石器 (17)



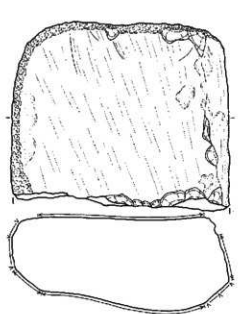
図IV-7-69 遺構出土の石器 (18)



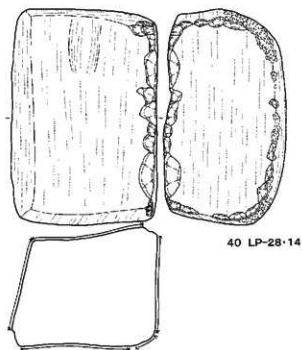
図IV-7-70 遺構出土の石器 (19)



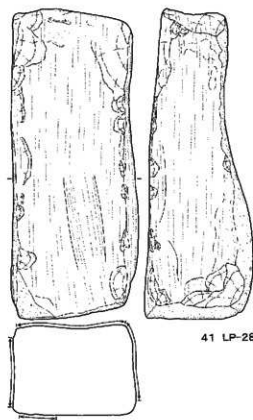
図IV-7-71 遺構出土の石器 (20)



39 LP-23-5



40 LP-28-14



41 LP-28-13



1 LP-23-1



2 LP-23-2



3 LP-52-11



4 LP-72-48



図IV-7-72 遺構出土の石器 (21)



































表IV-7-45 住居跡出土破片土器観察表 (15)

住居跡	層位	調査方法	土器種別	形状	破片位置	破片形状	破片サイズ	破片重量	破片色	破片状態	破片用途
住居跡1	1F	1.1.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	2F	1.2.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	3F	1.3.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	4F	1.4.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	5F	1.5.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	6F	1.6.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	7F	1.7.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	8F	1.8.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	9F	1.9.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	10F	1.10.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	11F	1.11.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	12F	1.12.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	13F	1.13.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片

表IV-7-45 住居跡出土破片土器観察表 (16)

住居跡	層位	調査方法	土器種別	形状	破片位置	破片形状	破片サイズ	破片重量	破片色	破片状態	破片用途
住居跡2	1F	2.1.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	2F	2.2.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	3F	2.3.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	4F	2.4.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	5F	2.5.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	6F	2.6.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	7F	2.7.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	8F	2.8.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	9F	2.9.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	10F	2.10.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	11F	2.11.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	12F	2.12.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	13F	2.13.1	土器	土器片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片

表IV-7-45 住居跡出土破片土器観察表 (17)

住居跡	層	土器種別	形状	土質	色	大きさ	観察者	備考	写真	図	断面	用途	年代	出土層	出土位置
住居跡1	1	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	2	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	3	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	4	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	5	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	6	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	7	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	8	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	9	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	10	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		

表IV-7-45 住居跡出土破片土器観察表 (18)

住居跡	層	土器種別	形状	土質	色	大きさ	観察者	備考	写真	図	断面	用途	年代	出土層	出土位置
住居跡2	1	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	2	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	3	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	4	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	5	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢					丸底鉢			
	6	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	7	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	8	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	9	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		
	10	土器	丸底鉢	丸底	黄褐色	径10.5cm 高さ4.5cm	丸底鉢						丸底鉢		











表IV-4-46 土坑・小土坑出土破片土器観察表(10)

土器	器種	形状	口径	底径	高さ	重量	出土地	観察者	備考	写真	図	断面	形状	重量	出土地	観察者	備考	
2	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-1	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-2	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-3	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-4	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-5	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-6	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-7	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-8	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-9	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-10	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-11	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-12	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-13	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-14	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-15	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-16	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-17	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-18	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-19	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-20	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-21	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-22	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-23	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-24	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-25	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-26	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-27	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-28	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-29	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-30	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表IV-4-46 土坑・小土坑出土破片土器観察表(9)

土器	器種	形状	口径	底径	高さ	重量	出土地	観察者	備考	写真	図	断面	形状	重量	出土地	観察者	備考
2	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-1	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-2	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-3	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-4	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-5	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-6	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-7	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-8	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-9	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-10	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-11	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-12	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-13	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-14	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-15	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-16	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-17	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-18	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-19	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-20	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-21	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-22	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-23	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-24	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-25	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-26	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-27	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-28	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-29	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2-30	片	破片	1.3	0.8	0.3	0.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

















## V章 包含層出土の遺物 (V層)

### 1. 概要

平成15 (2003)・平成16 (2004) 年度と平成18 (2006)～平成21 (2009) 年度に調査した、本事業のキウス5遺跡から出土した遺物点数は20万点を数える (表1-4-2)。このうちⅢ層出土のⅦ群とⅢ層・Ⅴ層出土のⅤ群土器は報告済みである (北埋調報284)。

本書では、Ⅴ層出土のⅠ群・Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器と石器等を報告する。包含層の遺物について出土のあり方を示すため、一次整理の情報 (遺物登録台帳) から出土点数表・出土分布図を作成した。

#### 出土点数表

##### \*土器 (表V-1-1)

時期の内訳は、Ⅲ群が75,203点で圧倒的に多く、ついでⅣ群が1,003点、Ⅰ群が950点、Ⅱ群が4点である。なお、Ⅲ層からの出土も認められるが、これらはⅣ層が残存しない場所でⅢ層とⅤ層が明確に区別できなかったためである。

- ・Ⅰ群土器 出土層位は、Ⅴ2層から約700点、Ⅵ層から約120点で、これらで本群総点数の約88%を占める。部位や残存状態は胴部・良好が最も多い。すべてⅠ群b類の東銘路式土器である。
- ・Ⅱ群土器 4点出土した。すべて網文式で掲載したものはない。
- ・Ⅲ群土器 出土層位はⅤ層が約58,000点とおよそ77%で、特に下位のⅤ2層出土が過半数を占める。ついで、住居跡の掘り上げ土 (H層) からの出土が約8,700点である。部位や残存状態は、胴部の良好が約27,000点、同小破片が約20,000点と多い。土器型式はa類の手稲前田式と萩ヶ岡1・2式があり、前者は10数点程度の出土である。最も多いのはb類萩ヶ岡3式・柏木川式・ノダツブⅡ式である。
- ・Ⅳ群土器 出土層位はⅤ2層出土が約390点、Ⅴ1層が約290点で、本群の総点数の過半数を占める。部位・残存状態は胴部・良好が多い。土器型式はa類の余市式、b類のホッケマ式、c類の堂林式がある。

##### \*石器等 (表V-1-2)

縄文時代の石器等の総出土点数は約12,000点で、剥片石器約9,200点 (約78%)、礫石器1,100点 (約10%)、加工・使用痕のある礫・自然礫が約1,400点 (約12%)、石製品20点 (約0.1%) である。多いものは、剥片石器は石鎌が約300点、スクレイパー約140点、礫石器は磨製石斧が約790点、ついで砥石140点である。これらの多くは縄文時代中期と考える。

#### 出土分布図 (図V-1-1～49)

##### \*土器 (図V-1～25)

「土器総点数」(図V-1-1) では、概ね調査区全体にみられる。調査区の中央付近から東側は1,000点を越えるグリッドも多くみられ、調査区の南東側の斜面部分はⅦ層上面まで削平されていたため、点数が少ない。東西方向の30ラインより北側、南北方向の65ラインより東側は、縄文時代中期の堅穴住居跡が密集する場所で、点数が少ないグリッドもあるが、これは遺構が多く包含層が残り少ないためである。また、西側部分へと土器は少なくなるが、集中するグリッドもみられる。

「Ⅰ～Ⅳ群土器総点数」(図V-1-2)は概ね「土器総点数」と同様なあり方である。「Ⅰ群土器総点数」(図V-1-3)は、調査区中央付近から東側、南北方向74ラインまでの間に、集中するグリッドが複数みられる。「Ⅱ群土器総点数」(図V-1-4)は調査区の中央付近に二か所のグリッドからである。「Ⅲ群土器総点数」(図V-1-5)は調査区の中央付近と東側から多く、概ね「土器総点数」と同様なあり方である。多数出土する場所は縄文時代中期の遺構が位置する場所と一致するが、例外として28・29-47区に出土が多い。「Ⅳ群土器総点数」(図V-1-6)は、南北方向48ラインから東側部分、同方向76ラインまでの部分で、集中するグリッドが散在的にみられる。「土製品総点数」(図V-1-7)は33-41区のみ認められる。

「V1層」(図V-1-20)は概して調査区の中央付近から東側に多い、「V層」(図V-1-21)は斜面部に多いが、斜面部は土層が移動しV1層とV2層を明確に分層できず、V層として取り上げたためである。「V2層」(図V-1-22)は調査区中央付近から東側部分にみられ、調査区の西側部分と南東側斜面部ではみられない。「VI層」(図V-1-23)は概して点数が少なく、調査区全体に散在的である。「H層(掘り上げ土)」(図V-1-24)は、分布する区域が大きく三つ認められる、西側部分と中央付近は縄文文化期の住居跡構築によるもので、北東側部分は縄文時代中期の遺構構築に関連するものである。「I層(攪乱層)・その他(IV層)・F層・FⅢ・FV・FVI層(風倒木痕)」出土は、まとめた(図V-1-25)。

#### \*石器等(図V-1-26~49)

「Ⅲ層 石器総点数」(図V-1-26)は、下位層との比較のため再掲載した。調査区の中央付近より東側に多く比して西側は少ない。「V～VII層・H層 石器総点数」(図V-1-27)は調査区全体にみられ、西側は散在的、点数が100点を超えるグリッドは、南北方向56～72ラインの間である。

「石刃鎌」(図V-1-28)は15-57区の1点の出土である。

定型的な石器はいずれも散在的なあり方で、調査区全体にみられるのは「石鎌」(図V-1-29)・「つまみ付きナイフ」(図V-1-32)・「スクレイパー」(図V-1-33)・「U・Rフレイク」(図V-1-34)で、「石槍・ナイフ」(図V-1-30)・「石錐」(図V-1-31)・「両面調整石器」(図V-1-35)・「石核」(図V-1-36)は、調査区中央付近から東側で、西側からは出土していない。「フレイク」(図V-1-37)は調査区全体にみられ、100点以上出土しているグリッドは中央付近から東側部分である。「原石」(図V-1-38)は五か所のグリッドからの出土である。

「磨製石斧」(図V-1-39)は調査区全体から出土し、20点以上みられるのは29-63・71区、32-69区、33-79区の間である。「磨製石斧転用品」(図V-1-40)・「磨製石斧原石」(図V-1-41)は散在的で調査区東側にみられる。「たたき石」(図V-1-42)・「すり石」(図V-1-43)・「台石・石皿」(図V-1-46)は調査区中央付近から東側に多く、西側のグリッドは少量である。「石錘」(図V-1-44)は24-57・62区のみである。「砥石」(図V-1-45)は中央から東側部分と西端側の二か所の分布域がみられる。「台石」(図V-1-46)は調査区中央付近と東側に散在的である。

「石製品」(図V-1-47)は調査区中央付近に散在的で、東側部分に若干多い。

「使用・加工痕のある礫」(図V-1-48)は調査区全体に散在的で、「礫」(図V-1-49)は調査区全体にみられ、特に中央付近に多い。(末光)





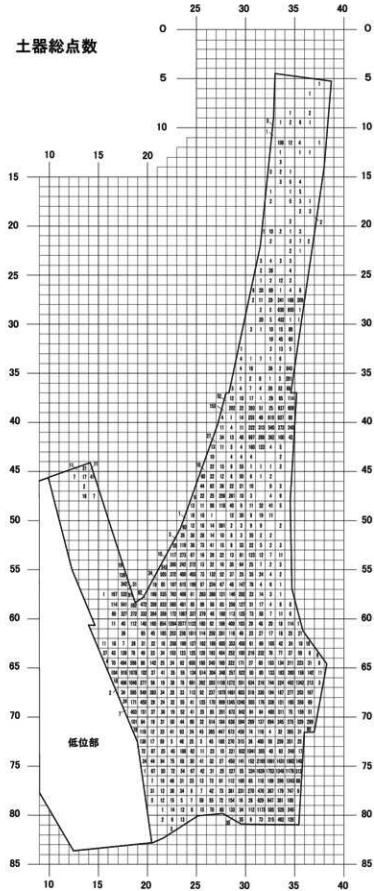


図 V-1-1 土器総点数出土分布図



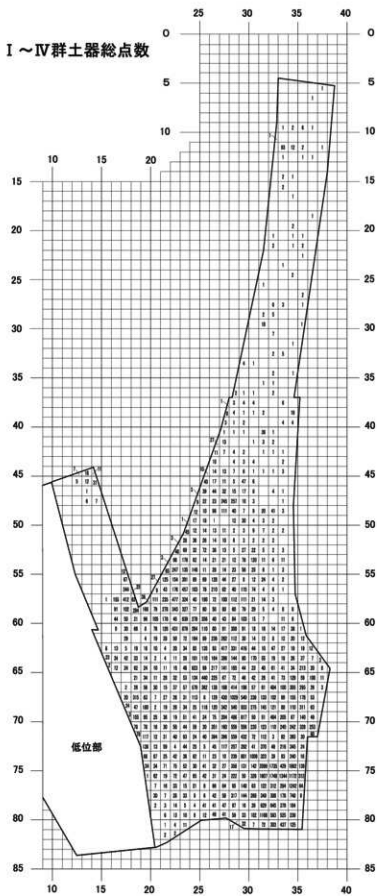
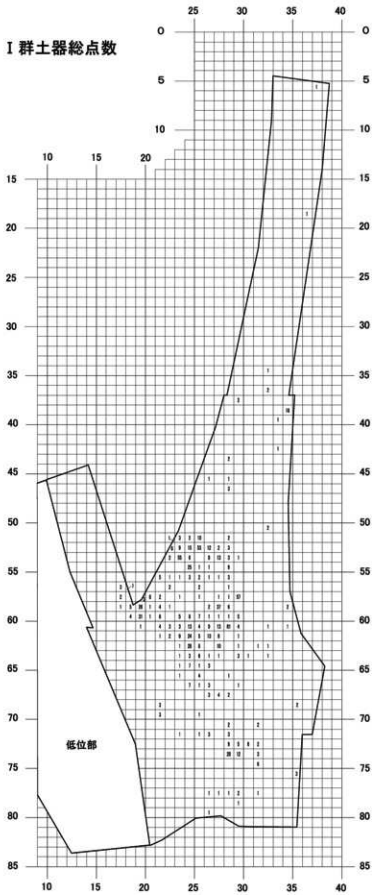


図 V-1-2 I ~ IV群土器総点数出土分布図



図V-1-3 I 群土器総点数出土分布図

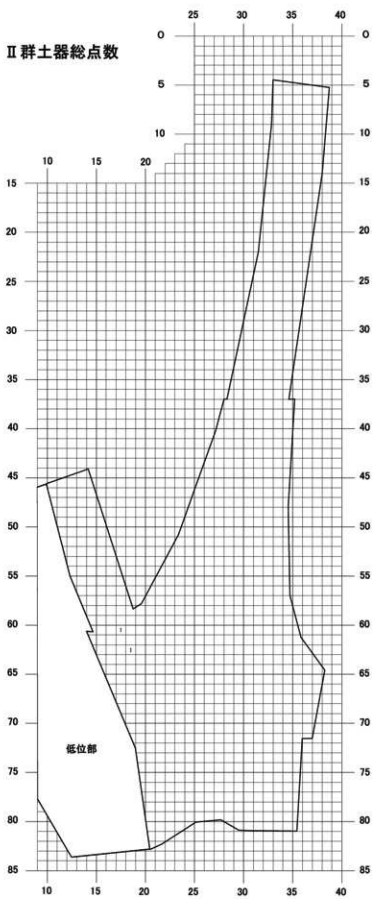
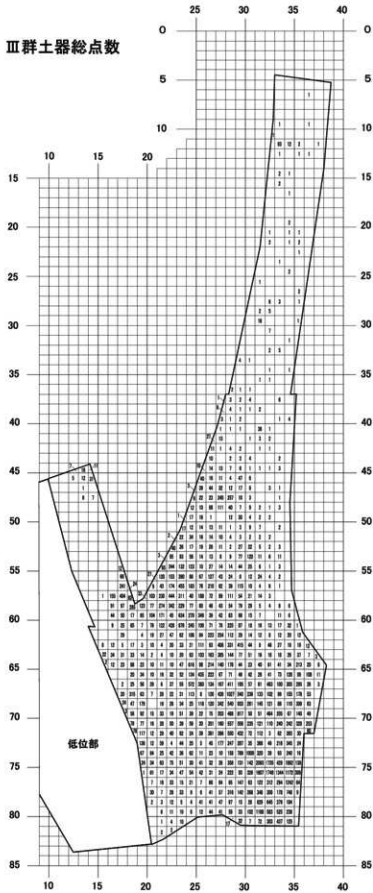
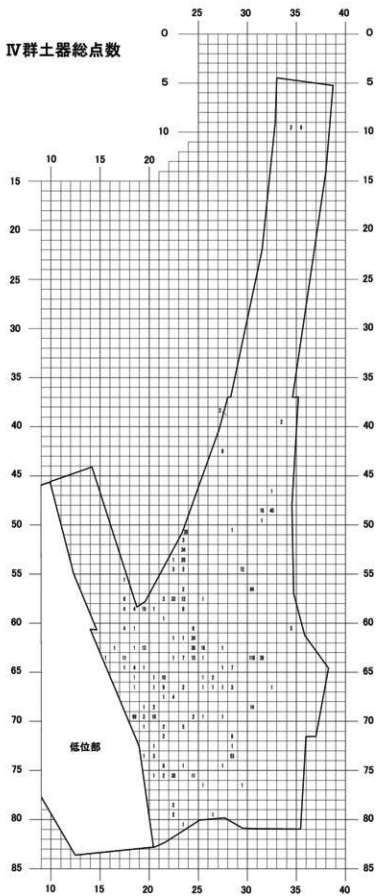


图 V-1-4 II 群土器総点数出土分布图



図V-1-5 Ⅲ群土器総点数出土分布図



図V-1-6 IV群土器総点数出土分布図

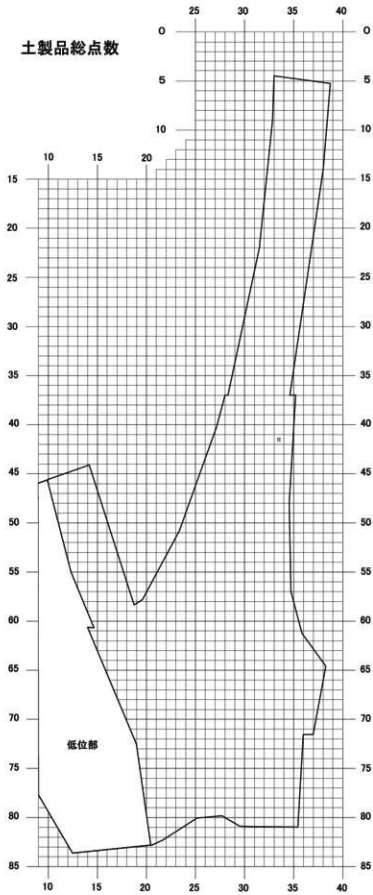


図 V-1-7 土製品総点数出土分布図

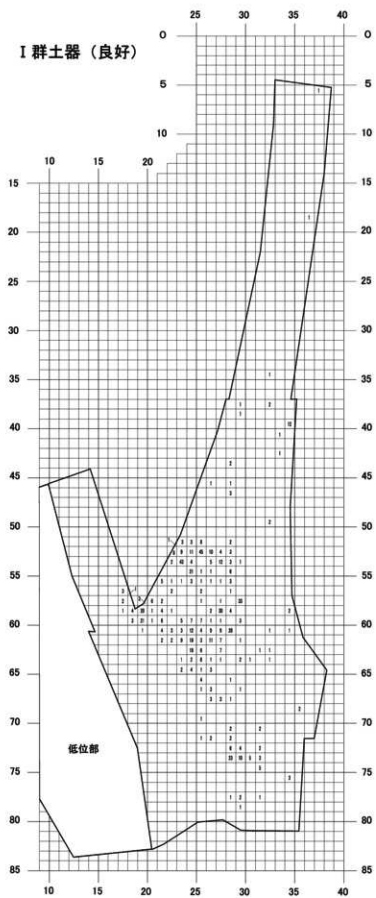


图 V-1-8 I 群土器 (良好) 出土分布图

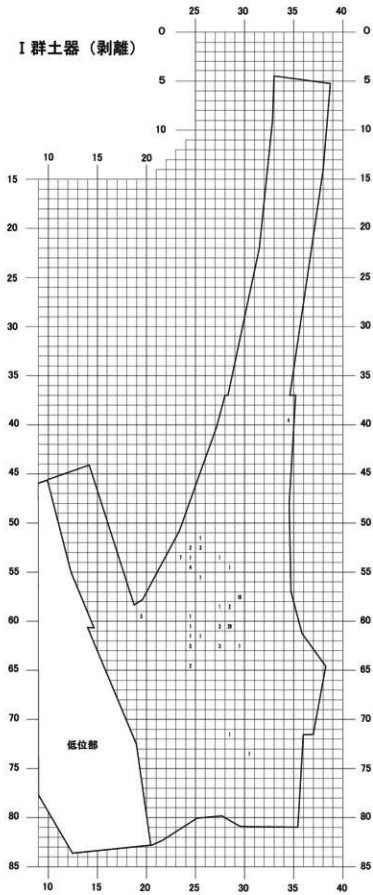


図 V-1-9 I 群土器（剥離）出土分布図



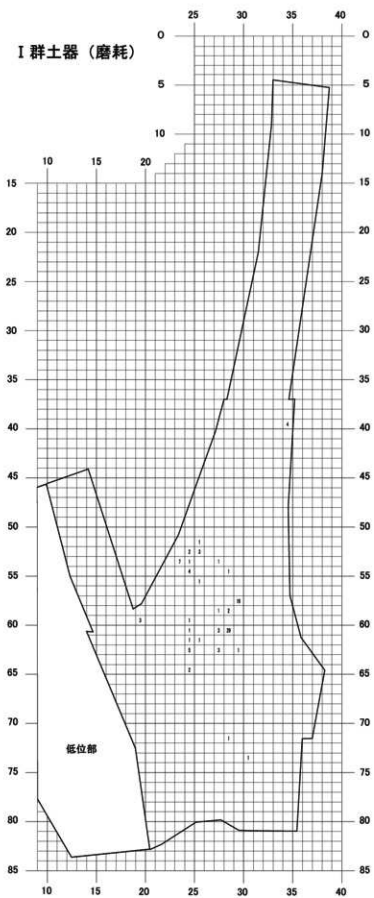
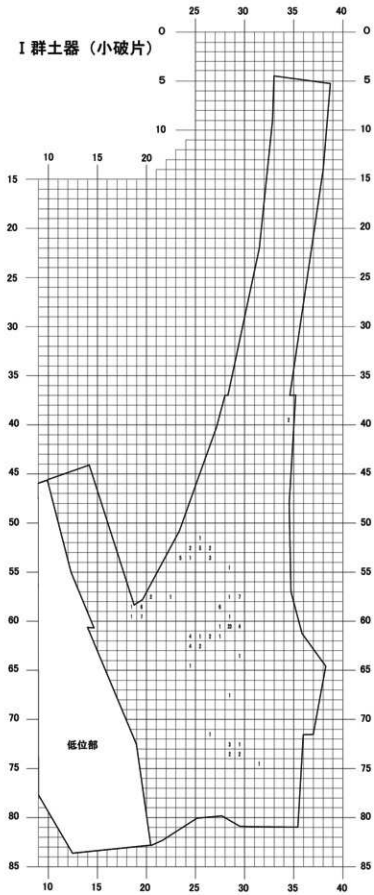


图 V-1-10 I 群土器 (磨耗) 出土分布图



図V-1-11 I群土器（小破片）出土分布図

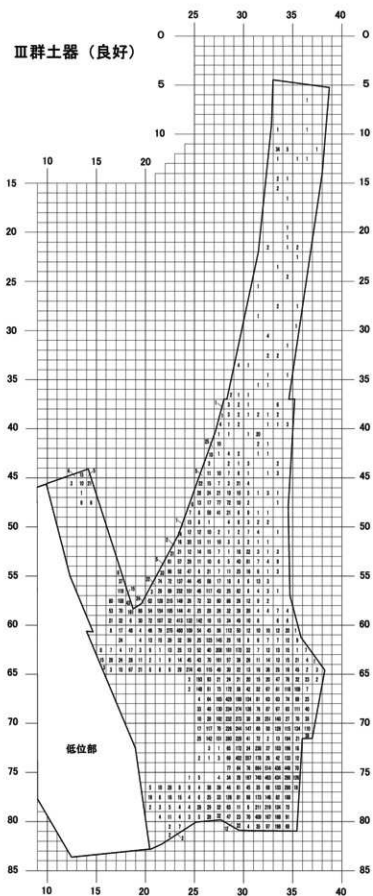


图 V-1-12 Ⅲ群土器 (良好) 出土分布图

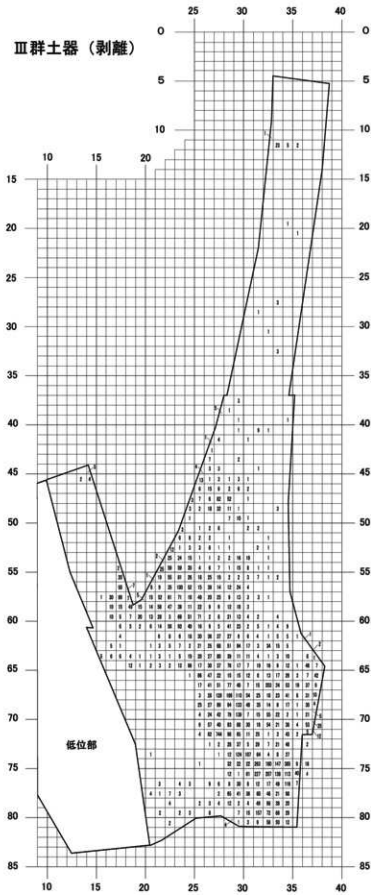


図 V-1-13 Ⅲ群土器 (剥離) 出土分布図

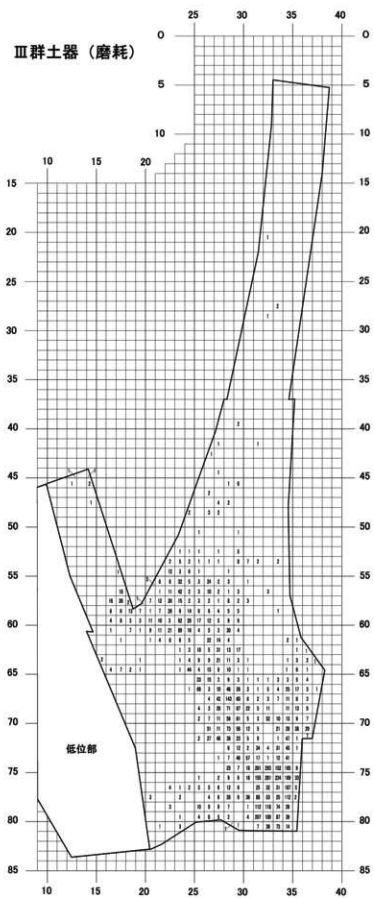
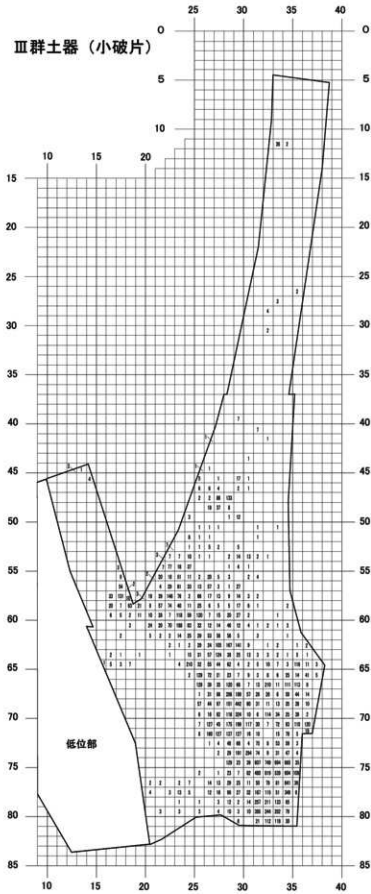


图 V-1-14 Ⅲ群土器（磨耗）出土分布图



図V-1-15 Ⅲ群土器 (小破片) 出土分布図

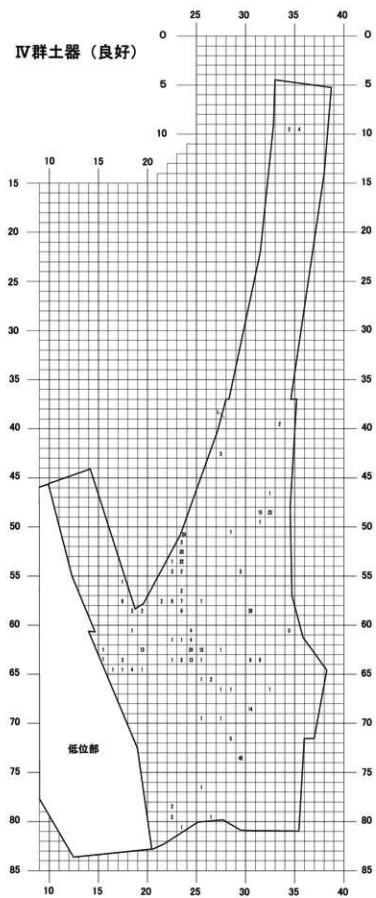


图 V-1-16 IV群土器 (良好) 出土分布图

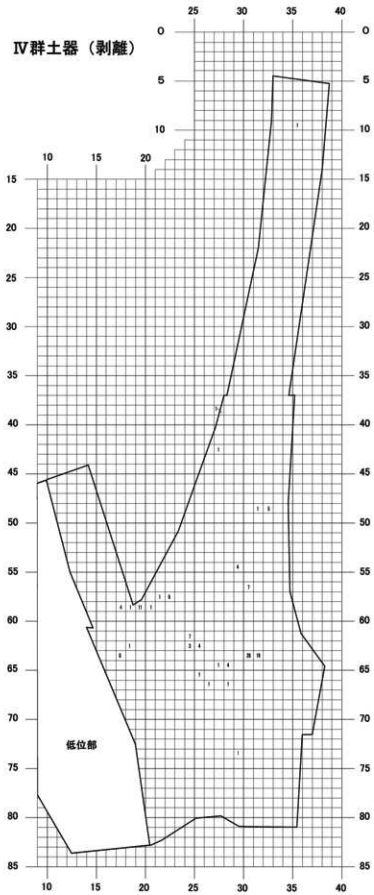


図 V - 1 - 17 IV群土器（剥離）出土分布図



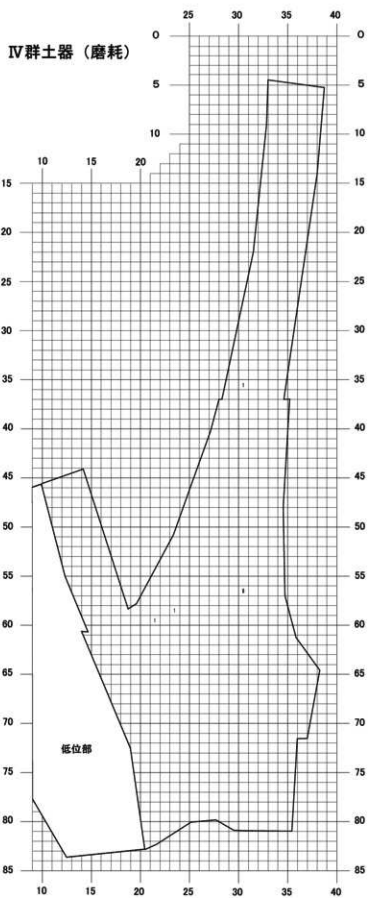


图 V-1-18 IV群土器 (磨耗) 出土分布图

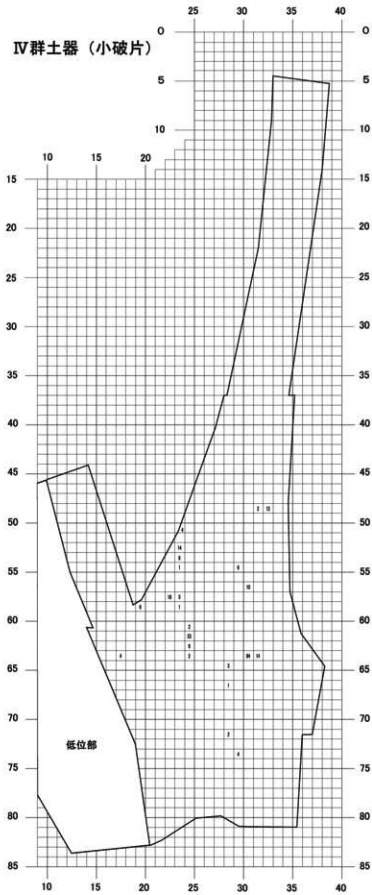


図 V-1-19 IV群土器 (小破片) 出土分布図

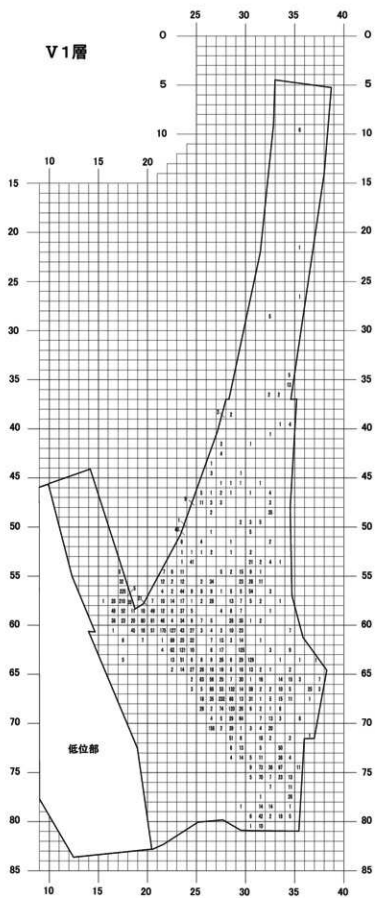
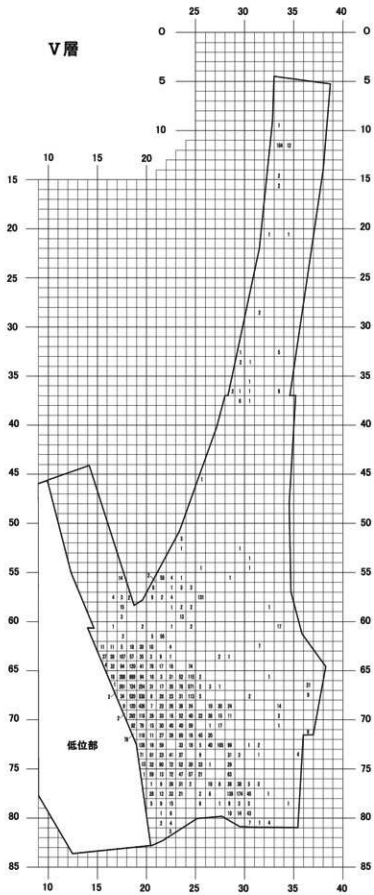


図 V-1-20 V1層土器出土分布図



図V-1-21 V層土器出土分布図

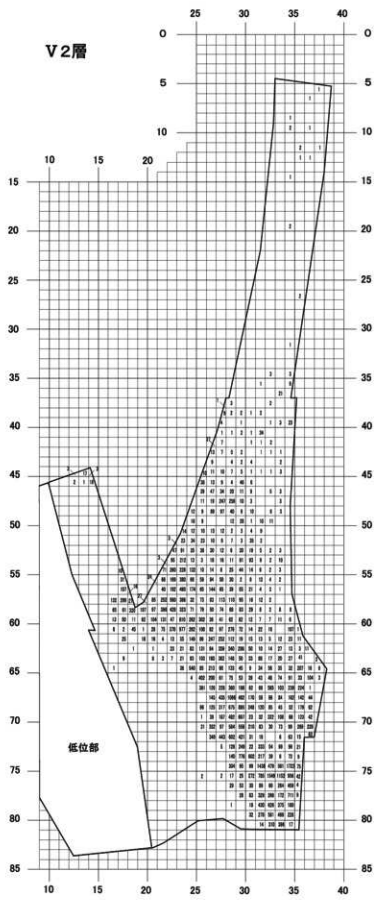


図 V-1-22 V2層土器出土分布図

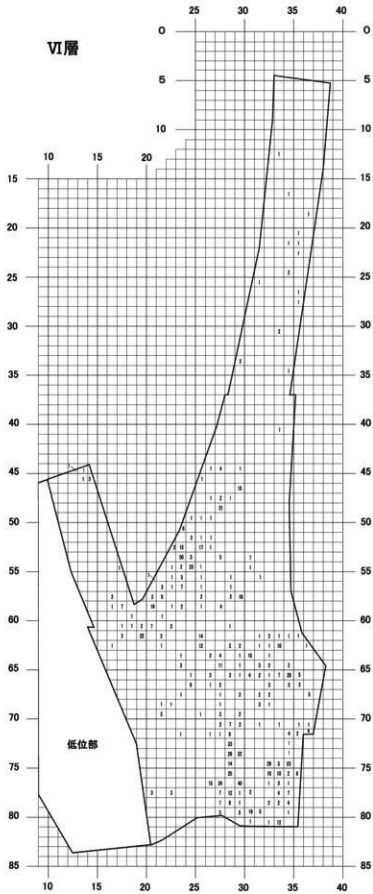
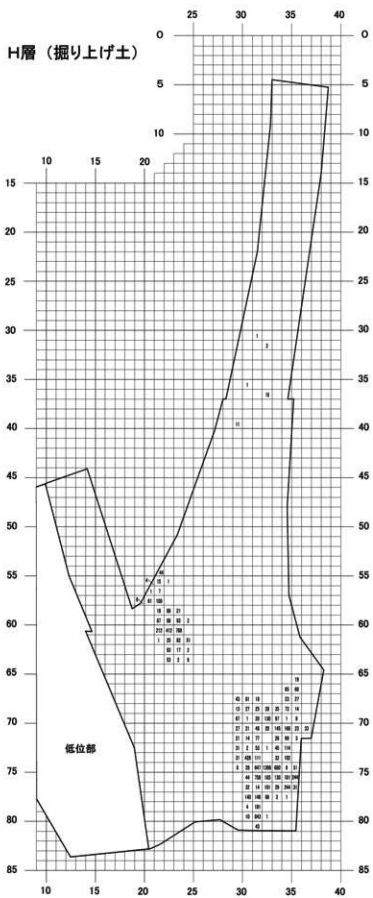
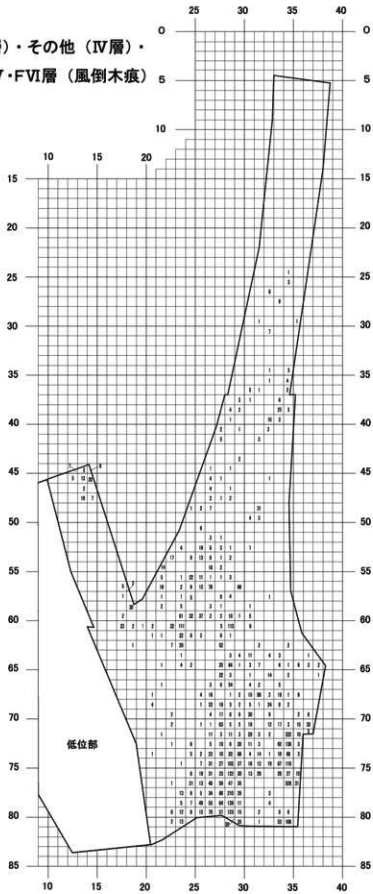


図 V-1-23 VI層土器出土分布図



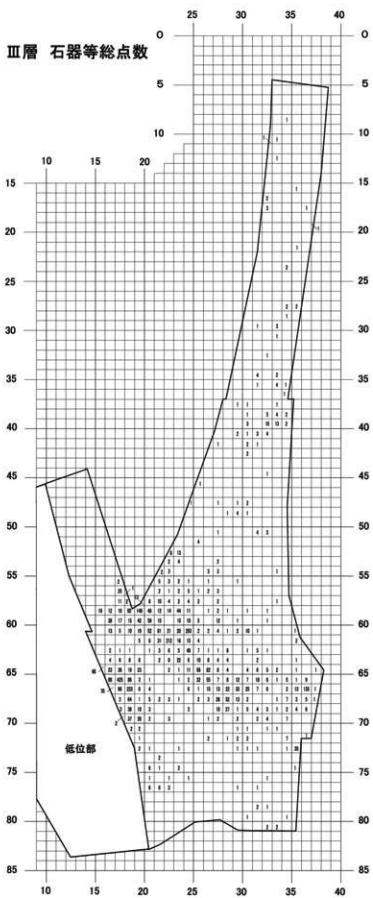
図V-1-24 H層（掘り上げ土）土器出土分布図

I層 (攪乱層)・その他 (IV層)・  
F層・FⅢ・FⅤ・FⅥ層 (風倒木痕)

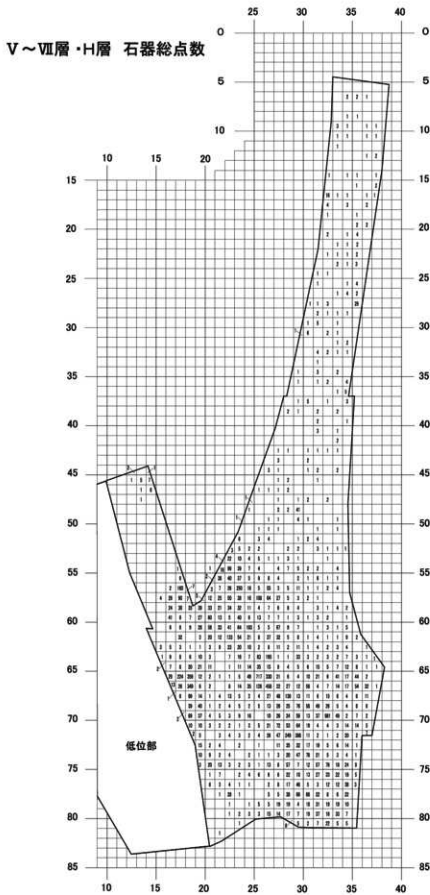


図V-1-25 I層 (攪乱層)・その他 (IV層)・風倒木痕 土器出土分布図





図V-1-26 III層 石器等総点数出土分布図



図V-1-27 V～VII層・H層 石器総点数出土分布図

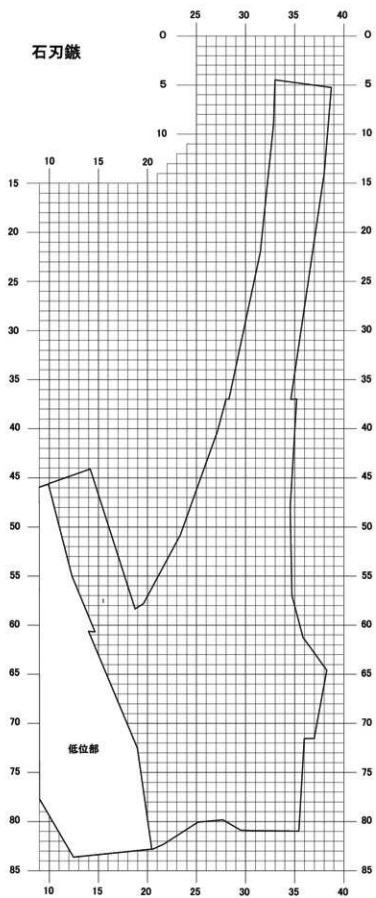
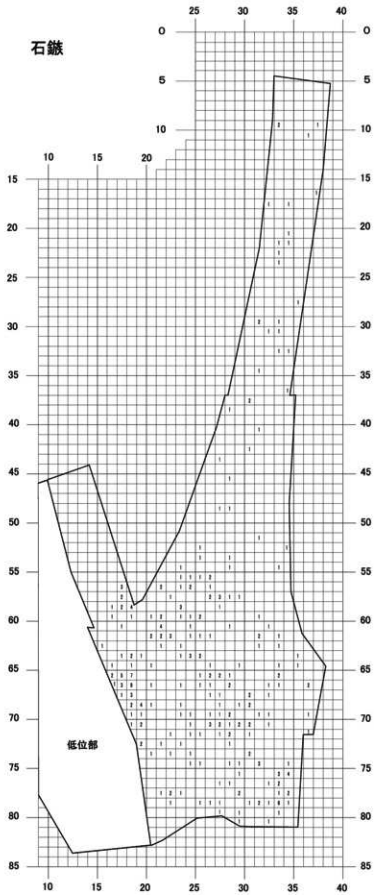
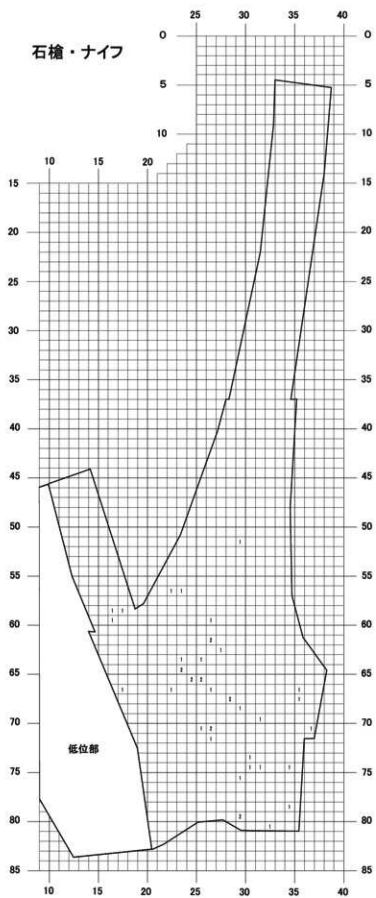


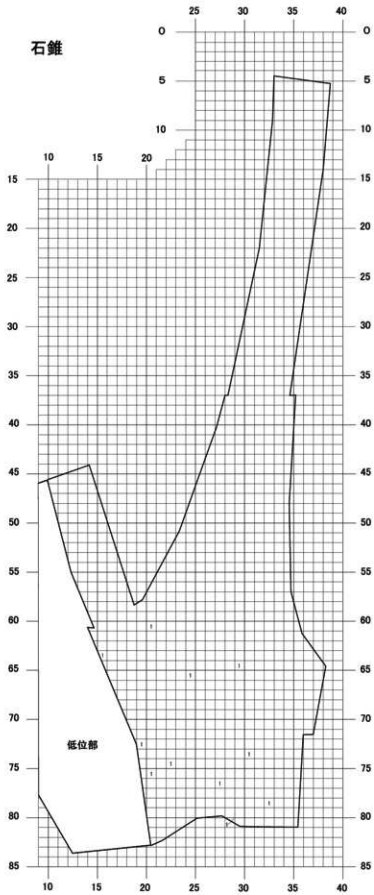
图 V-1-28 石刃鐵出土分布图



図V-1-29 石鏃出土分布図



図V-1-30 石槍・ナイフ出土分布図



図V-1-31 石錐出土分布図

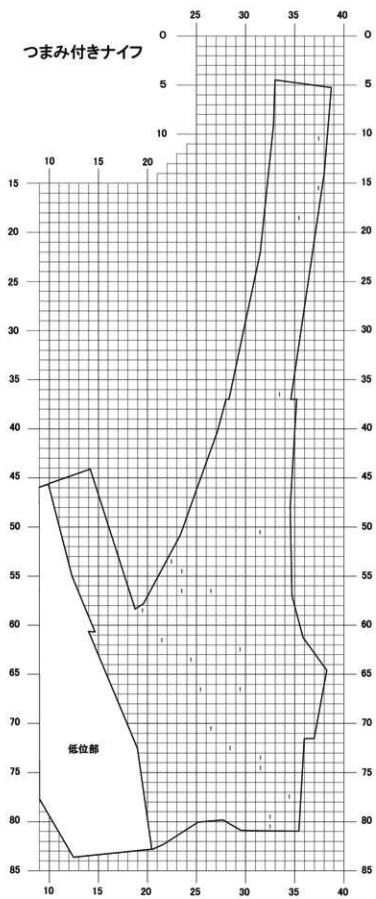
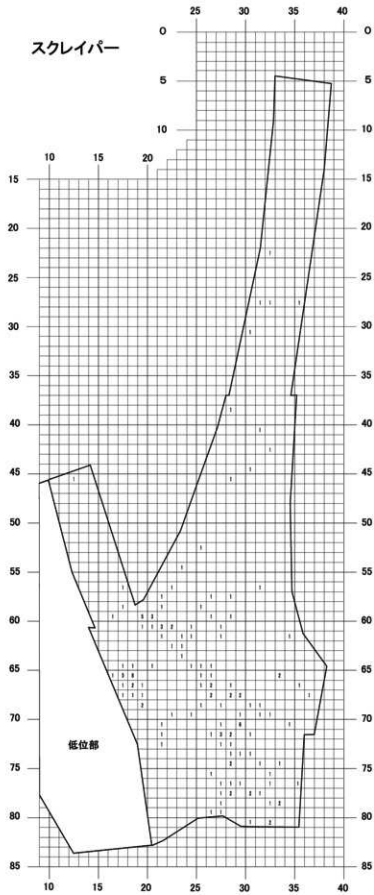
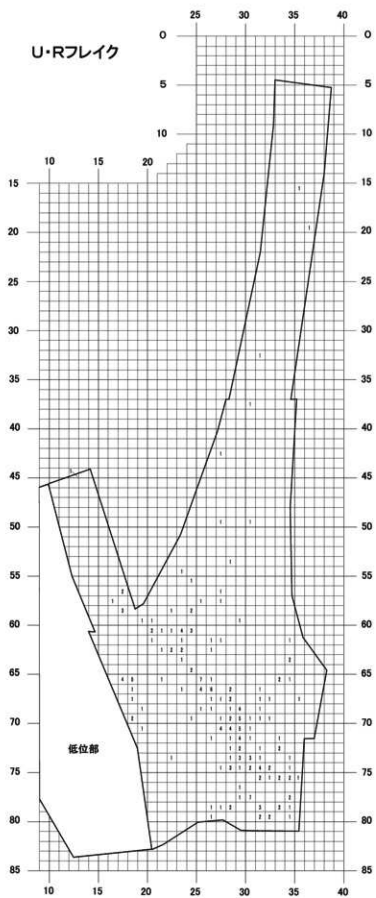


図 V-1-32 つまみ付きナイフ出土分布図



図V-1-33 スクレイパー出土分布図





図V-1-34 U・Rフレイク出土分布図

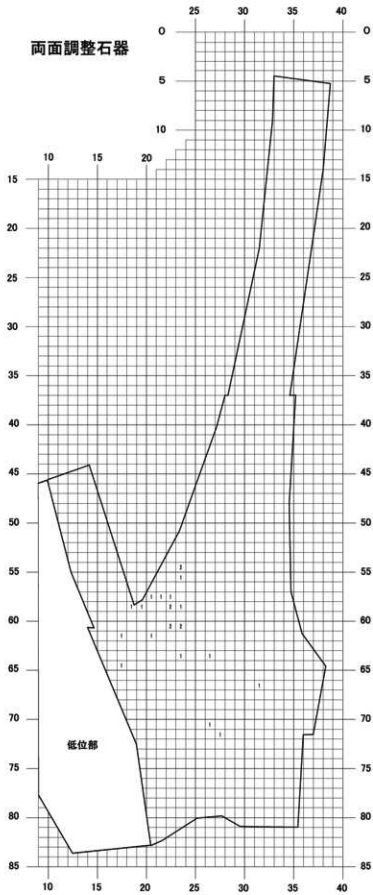


図 V-1-35 両面調整石器出土分布図

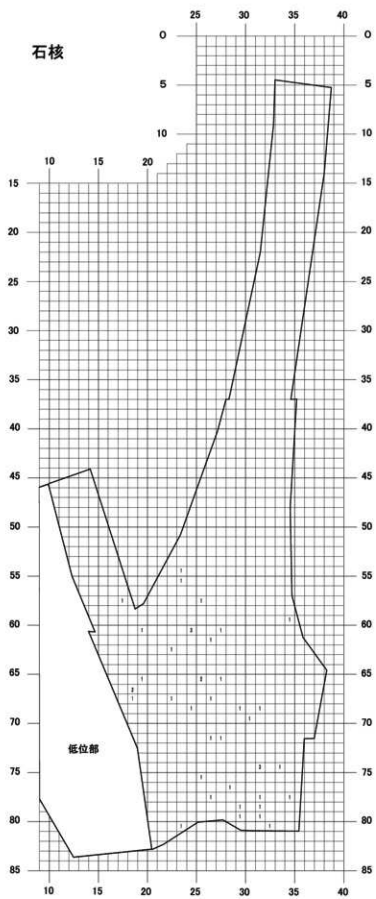
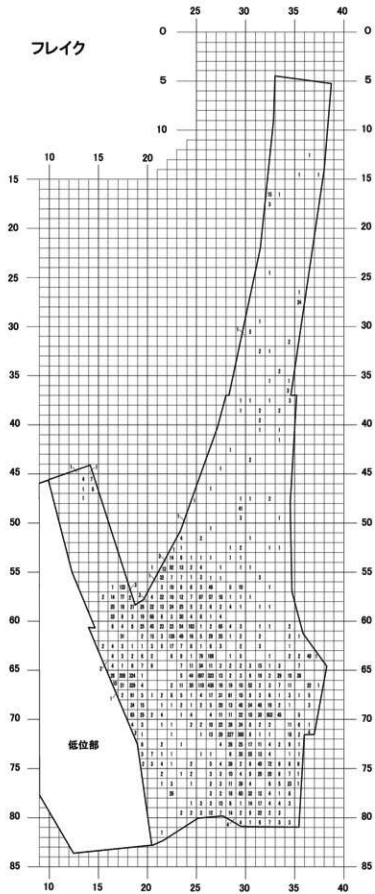


图 V-1-36 石核出土分布图



図V-1-37 フレイク出土分布図

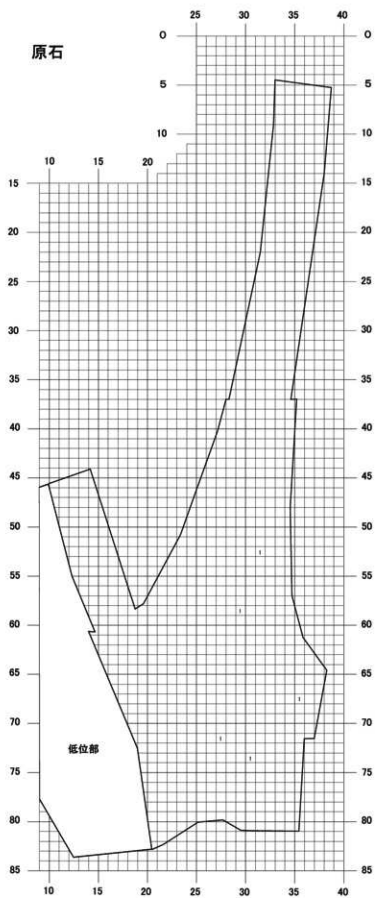
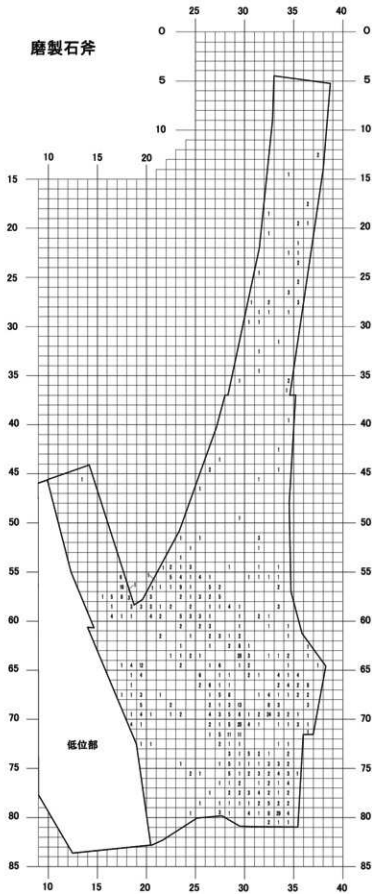


图 V-1-38 原石出土分布图



図V-1-39 磨製石斧出土分布図

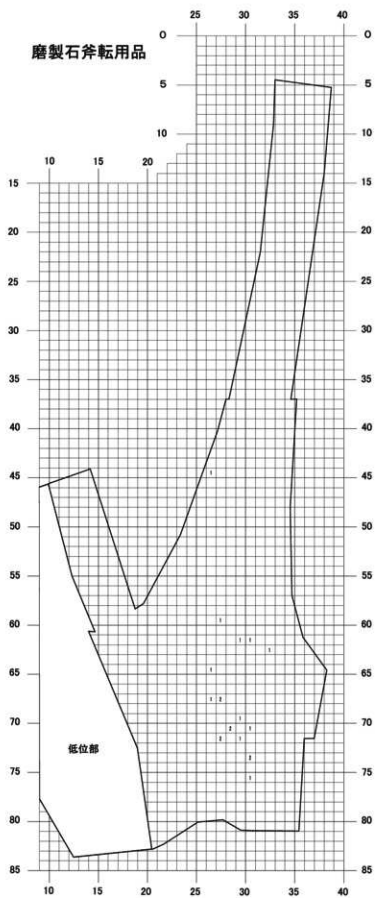
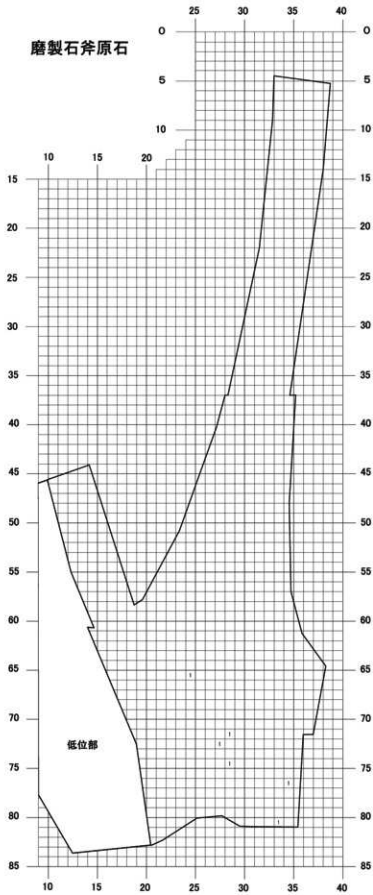
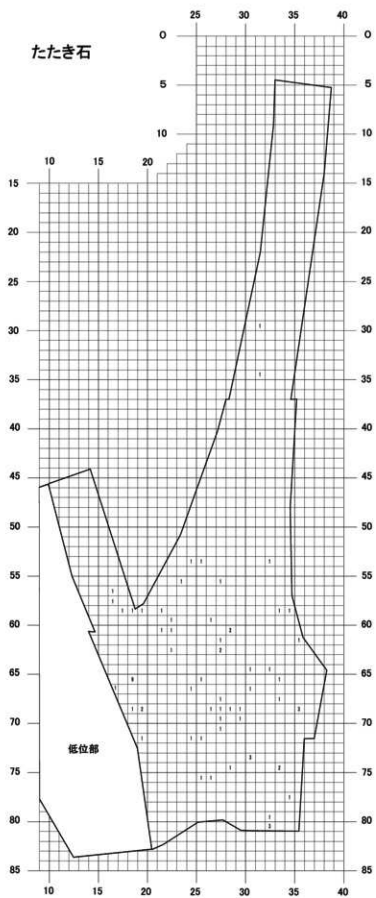


图 V - 1 - 40 磨製石斧転用品出土分布图

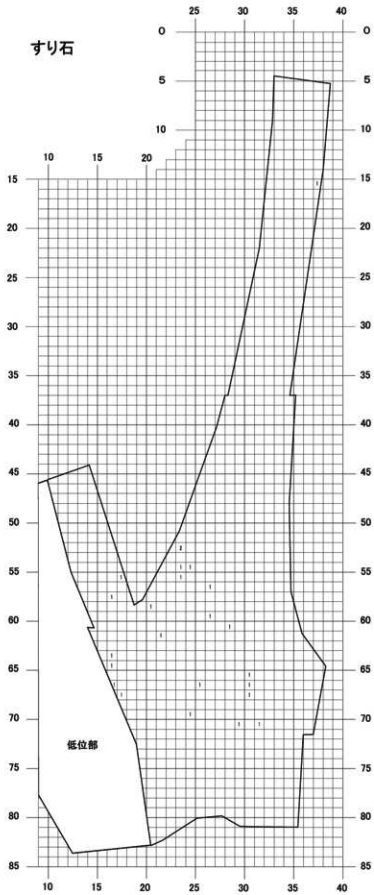


図V-1-41 磨製石斧原石出土分布図





図V-1-42 たたき石出土分布図



図V-1-43 すり石出土分布図

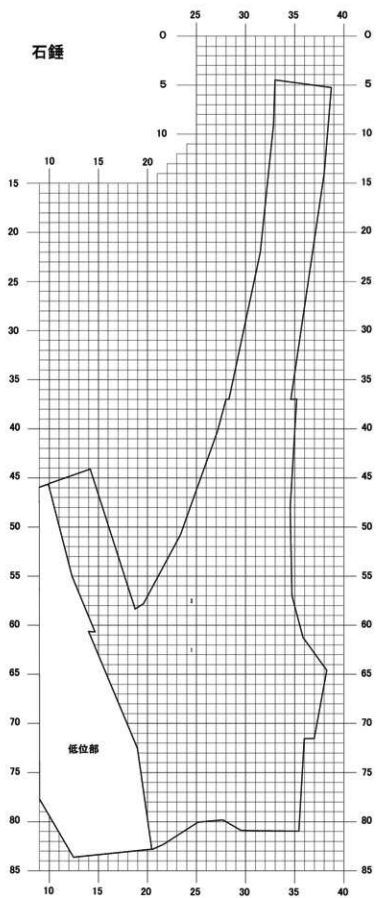


图 V-1-44 石鍾出土分布图

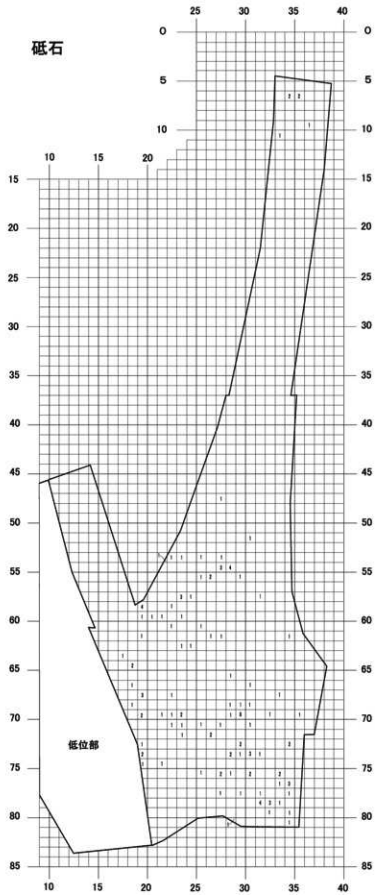


図 V - 1 - 45 砥石出土分布図

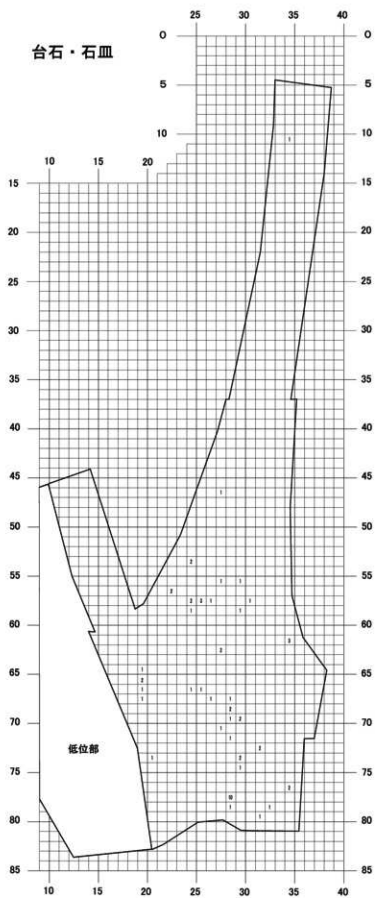


图 V-1-46 台石・石皿出土分布图

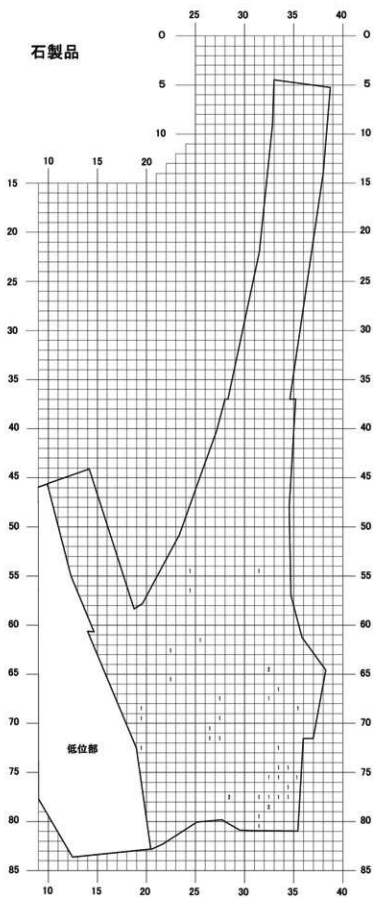


図 V-1-47 石製品出土分布図

使用・加工痕のある礫

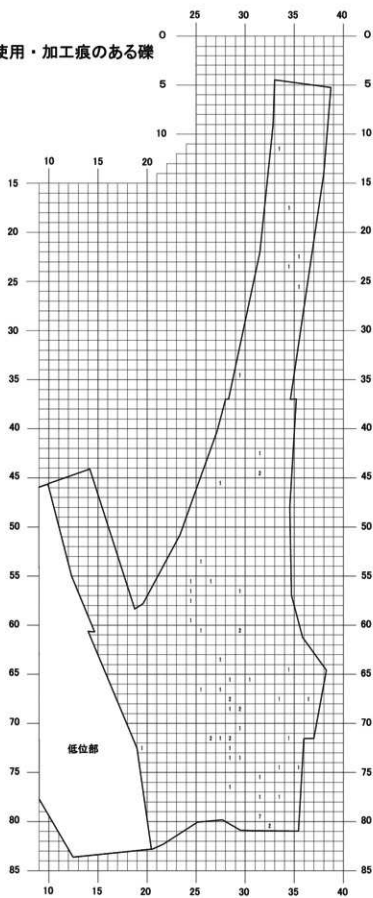


図 V-1-48 使用・加工痕のある礫出土分布図

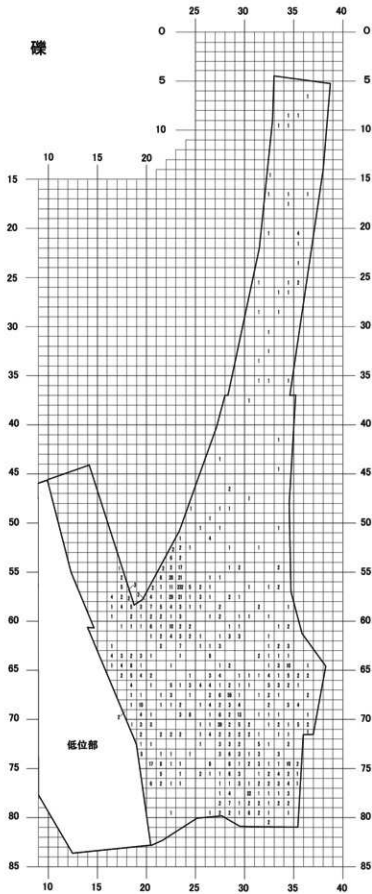
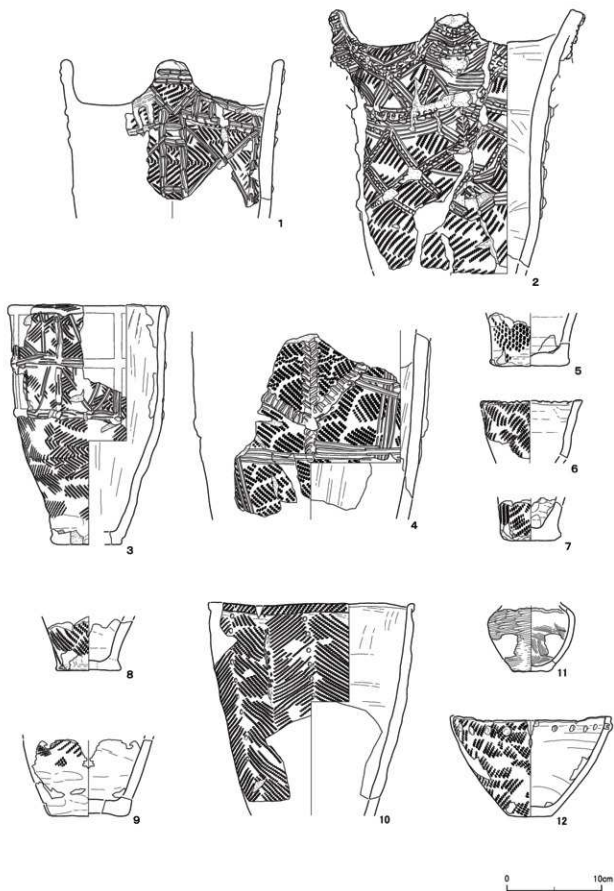


図 V - 1 - 49 碟出土分布図





图V-2-1 包含层复原土器

## 2. 土器・土製品

### (1) 復原土器 (図V-2-1 表V-2-1~12 図版92・93)

包含層出土の土器は、Ⅲ群b類9個体、Ⅳ群a類1個体、Ⅳ群c類2個体を復原した。

#### Ⅲ群b類

1は直立気味の口縁部から胴部へいたる器形、2は外反する口縁部から曲線的に胴部へすぼまる器形、3は口縁部から胴部中位まで直立気味で、同下位から底部へと直線的にすぼまる器形、4は胴部中位付近で、すべて、器面に地文、粘土紐の貼付、平行沈線文が施され、貼付上は半截竹管状工具による施文で、5は底部で胴部へは曲線的につながる器形で、複節RLR縄文が施される。8・9は底部で、8の外側は明瞭な張り出しがあり、RL縄文がみられ、9は上げ底でLR縄文が施される。1~5・8・9は萩ヶ岡式と考える。

6は小型で、外反する口縁部から直線的にすぼまる器形で、口唇部に刺突文、外面はRL縄文がみられる。7は小型の底部で、外面はRLで一部縦走る。これらは柏木川式と推測する。

#### Ⅳ群a類

10は直立気味の口縁部から直線的にすぼまる器形で、折り返し口縁と判断する。燃りの異なる原体を縦位回転し羽状縄文を施し、また、円形の縄端圧痕文と考える文様もみられる。余市式に相当しよう。

#### Ⅳ群c類

11は小型の壺で、外面はミガキ、内面はナデ調整である。12は鉢形で、LR縄文と突瘤文が施され、堂林式と判断する。

### (2) 破片土器・土製品 (図V-2-2~20 表V-2-13~18 図版94~102)

#### 「Ⅲ群口縁部破片」

##### Ⅲ群a類 (1~5)

1~5は口縁部に縦位の絡条体圧痕文が施された貼付があり、手稲前田式と考える。

##### Ⅲ群b類 (6~169)

6は貼付上が爪による施文で、7は爪による施文と沈線文が施される。8は爪と棒状工具による刺突文が施される。9の地文は結束第1種で、10は爪による施文である。11の器面には整然とした縄文がみられる。12はLRとLLの羽状縄文である。13は爪による施文が観察される。14は器面にRL縄文と沈線文がある。15は爪による施文と半截竹管状工具による施文がみられる。16は突起部から胴部中位までが接合し、貼付上は爪と棒状工具による施文である。17は突起部下の粘土塊が剥落する。18は突起部がなく、再生土製品の可能性がある。19の貼付上は棒状工具による刺突文である。20は口唇部に複節の縄文が施される。21の地文は結束第1種羽状縄文である。22は半截竹管状工具の二又の反対側を用いた施文と推測する。23は再生土製品の可能性がある。24は内面の調整がミガキで、沈線文状の調整痕が観察される。25は突起部で破片の中央に刺突文が縦位にみられる。26は内面に結束第1種羽状縄文が縦位回転で施される。27は貼付上に半截竹管状工具による平行沈線文がある。28は口唇部がRLで、地文は結束第1種羽状縄文である。29の内面は結束第1種縄文が施される。30は口唇部、貼付上の施文は半截竹管状工具によるものである。31は接合資料で、器面に地文、平行沈線文、貼付が観察される。32は突起部の口唇部にくぼみがみられる。33は器面に結束第1種縄文、貼付上が半截竹管状工具による施文である。34は突起部の形状が長い楕円形を呈する。35は貼付上に半截竹管状工

具による刻みが整然と施される。36は突起部から垂下する貼付がみられ、地文は複節の可能性ある。37は突起部に縦位、横位に粘土が貼り付けられ、半截竹管状工具による施文がみられる。38の粘土の貼付は円形とその内部に楕円形である。39は胎土に岩石、鉱物の両方が観察される。40は貼付上に幅広い沈線文が施される。41は貼付により肥厚した口唇部に刻みが施される。42の地文は複節で、貼付上は半截竹管状工具による施文である。43は貼付により口唇部が肥厚し、垂下するものもみられる。44の地文は複節で平行沈線文、貼付がある。45は半截竹管状工具による平行沈線文、刻みが施される。46は半截竹管状工具による刺突文がある。47は口縁～胴部中位まで接合したものである。48は「X」字状に貼付が施される。49の内面には沈線文状の調整痕が観察される。50は突起の形状が曲線的で、胎土に赤色化した岩片を含む。51は形状、割れ口の状態から再生土製品の可能性がある。52は貼付上に押引文、刺突文がある。53の地文はRLである。54は口唇部と内面がミガキ調整である。55は突起の形状が台形で、半截竹管状工具による施文がみられる。56は成形され再生土製品の可能性がある。57は薄手で貼付も器面と明瞭な段差を有しない。58は内面にも縄文が施される。59は三本一組の平行沈線文がみられ、これは半截竹管状工具で二度描いて施したと観察する。60は口唇部が肥厚し刺突文が施される。61は器面に垂下する沈線文がある。62は小型と考えるものである。63は口唇部がやや厚く、平行沈線文が重複してみられる。64の地文はRRの撚り戻しである。65は器面にLR縄文と綾絡文が施される。66の口唇部は沈線文と観察され、椀林式の影響を考える。67は胎土にチャートを含む。68は突起の形状が曲線的で、貼付がみられる。69・70は同一個体で、半截竹管状工具による整然とした押引文が施される。

#### 6～70は椀ケ罎式に相当する。

71は突起部で、貼付と縦走縄文がみられる。72は貼付上の施文は半截竹管状工具と推測する。73は横位に沈線文が複数観察される。74はやや摩耗し、LR縄文と刺突文がみられる。75は肥厚する突起部で棒状工具による沈線文がある。76は口縁部が内面に屈曲する器形である。77は粘土の貼付による小突起が内面に突き出ている。78の胎土は石英を多く含む。79は逆「U」字状の貼付がみられる。80は貼付上に刺突文列と間に沈線文が施される。81は器面に綾絡文がある。82は貼付部分に刺突文列がみられる。83は口唇部が厚く、横「M」字状の刺突文が施される。84は胎土に白色の岩片を含む。85は器面にLR縄文、沈線文、刺突文がみられる。86は器面に結束第1種羽状縄文が重複してみられる。87は貼付上にLR撚紐刻みがある。88は無文地の外面と口唇部に円形の刺突文が施され、半截竹管状工具を回転させて施したと推測する。89は器面にRL縄文と刺突文、口唇部は円形の刺突文がある。90は地文が浅く、横位に刺突文、押引文が施される。91はLR縄文地に先端部が二又の工具による刺突文がみられ、これは口唇部と内面にもみられる。92～95はLR縄文と刺突文列が観察される。96は口唇部に刺突文が施される。97の口唇部には刻みがみられる。98は器面に綾絡文がある。99は外面と口唇部に刺突文が施される。100は外面に地文、刺突文列、綾絡文が観察される。101の口唇部直下の器面には、棒状工具による深い刺突文が施される。102は口唇部と外面に円形の刺突文がみられる。103は結束第1種羽状縄文と刺突文が施される。104は二又状工具による刺突文がみられ、地文は浅い。105は外面に曲線的な条とやや横長の刺突文がみられる。106は内面にLR縄文と綾絡文らしきものが観察される。107の内面には沈線文状の調整痕がある。108は外面に撚紐と二又状工具による刺突文がある。109はLR縄文地に刺突文列と沈線文がみられる。110は口唇部が厚く、沈線文と刺突文が観察される。111は薄い貼付で、刺突文、沈線文が施される。

#### 71～111は柏木川式で、貼付、刺突文等の特徴とする。

112はLR縄線文がみられる。113はLR原体により、口唇部は撚紐刻み、器面は縄線文が施される。

114は縦横位に縄線文が観察される。115は内面にもL R縄文がみられる。116は外面にL R縄文、L R縄線文、円形の刺突文がある。117は口唇部とこの直下の外面にL R縄線文がみられる。118の縄線文は太い原体が用いられている。119は小突起から垂下する沈線文があり、内面にも縄文がみられる。120の外面は幅広い沈線文が複数観察される。121はL R縄文地に沈線文が複数施される。122の口唇部は貼付と沈線文、器面は羽状縄文である。

112～122は柏木川式に相当し、縄線文、沈線文を特徴とする。

123は突起部が三角形で、L R縄文地に貼付と縄線文が施される。124は小突起を有し、貼付と器面に縄線文が複数観察される。125は口唇部にも縄線文が施される。126の貼付上は、縦位の撻紐刻みの後に横位の縄線文が施される。127の突起部は無文である。128は器面に刺突文、貼付帯上に縄線文が施される。129は形状と割れ口が平滑なことから、再生土製品と考える。130は口唇部が粘土の貼付により肥厚し、縄線文が施される。131は縄線文が施された貼付が縦横位にある。132は貼付帯上に縄線文とこれに切られる縦位の撻紐刻みが観察される。133は地文が縦走気味である。134は口唇部断面が貼付により円形で、複数の縄線文がみられる。135は口唇部が貼付により厚みを有し、縄線文が施される。136・137は貼付部分以外の器面にも縄線文がみられる。138はL R縄文地に同原体による縄線文がみられる。

123～138は、道南地方のノダツPⅡ式で、曲線的な器形、文様は貼付帯とL R縄線文を特徴とする。在地の柏木川式と平行する。

139は内外面に縄文が施され、短刻線文がみられ、煉瓦台式と推測する。

140はL R縄文がみられる。141は外面に粘土のつなぎ目がみられ、結束第1種羽状縄文が施される。142はL R縄文と突起部の外面に縄線文がある。143は口唇部が肥厚し、L R撻紐刻み、縄線文、縄文が観察される。144はL R縄文と半截竹管状工具による施文が観察される。145はL R縄文と貼付が施される。146は貼付部分の器面が剥離する。147・148は同一個体で口唇部が肥厚し、結束第1種L R縄文が整然と施される。149は結束第1種の回転痕が複数観察され、貼付帯と器面は同時に施文される。150の器面は結束第1種の縄文で、貼付部分と口唇部は無文である。151は筋が大きな縄文で縦走気味である。152は薄手で口唇部と外面にL R縄文が施される。153の口唇部は縄線文、外面は縄文である。154は細い条が観察される。155の口唇部は刺突文、外面はL Rである。156の口唇部は撻紐圧痕文、外面は縄文である。157は外面が結束第1種羽状縄文で、口唇部は絡条体圧痕文と推測する。158の口唇部は刺突文、外面はL R縄文と円形の刺突文が施される。159の口唇部は棒状工具による刻み、外面は縄文である。160は口唇部と内外面に縄文が観察される。161・162は、口唇部は円形の刺突文で、外面は縄文である。163の外面はR L縄文、口唇部はL R撻紐刻みである。164・165は、口唇部が無文で、器面は縦走気味の縄文である。166の口唇部はR L、外面は結束第1種羽状縄文である。167は再生土製品で、内面から3か所、外面から1か所の穿孔がみられる。168は外面がL R縄文、内面はミガキである。

140～168は外面が縄文のもので、型式の特定ができなかったものである。

169の外面は結束第1種羽状縄文で、口唇部は沈線文が横環し、大木式土器の影響を受けたと推測する。

### 「Ⅲ群底部破片」

#### Ⅲ群b類

170は外面にL R縄文とナデがみられる。171の地文はL L (撻り戻し) である。172はL R縄文とナデ調整が施される。173の縄文は縦走する。174は結束第1種L R縄文と部分的にR L縄文がある。

175・176は底外面にL Rの条が観察される。177の外面はL Rのみでナデ調整はみられない。178～181は形状や割れ口の状態から、底面を利用した再生土製品と考える。182の底外面は半截竹管状工具による施文と推測する。183・184は外面と底外面にR L R縄文が施される。185の外面と底外面はR L縄文である。186は外面がL R、底外面がR L縄文と解される。187は内面に粘土塊が貼り付けられる。188は小型で底部の外面が明瞭に張り出す。

### 「Ⅲ群胴部破片」

#### Ⅲ群 a 類

189・190は、貼付部分に絡条体疋痕文があり、手稲前田式に相当する。

#### Ⅲ群 b 類

191は胴部下位で、L R縄文と綾絡文が施される。192はL R縄文、綾絡文が施され、貼付上は刻みである。193は結束第1種羽状縄文で、貼付上は爪による施文である。194は結束第1種羽状縄文と沈線文、垂下する貼付が施され、貼付上は棒状工具による刺突文である。195は胴部上位から下位まで接合し、貼付上の施文は半截竹管状工具による。196は器面にL R縄文と綾絡文があり、貼付上は刺突文がみられる。197はL RとR R（撚り戻し）の羽状縄文である。198の貼付上の施文は半截竹管状工具による平行沈線文である。199の貼付部分は半截竹管状工具による刻みである。200の地文はR L R縄文で直前段多条である。201は半截竹管状工具による押引文が整然みられる。202は細い粘土紐の貼付である。203は地文が直前段多条のR L Rで、貼付部分は半截竹管状工具による施文である。204はR L R縄文地に、三本一組の平行沈線文が施される。205の地文は無節である。206～209はL R縄文と綾絡文がみられる。210は胴部下位付近で、結束第1種羽状縄文がみられる。211の地文は複節である。212の胎土はチャート等の堆積岩が主体である。213は条が縦走する。214は形状と割れ口の状態から、再生土製品と判断する。215はR R（撚り戻し）の条が横走する。216の地文は無節の結束第1種羽状縄文である。217はL R縄文地に同原体による縄線文が施される。218の貼付帯上は、L R原体による撚紐刻みと縄線文がみられる。219はL R縄文地に刺突文と貼付が施され、貼付部分は刻みが施される。

#### 大木式土器（最花式 大木9式）

220は薄手で曲線的な器形で、破片の上部の無文部分はミガキ調整され、二条の沈線文に区画された下位には、縦走するR L縄文地に楕円形あるいはハート形の沈線文と円形の刺突文が施される。内面は丹念なミガキ調整で、東北地方の最花式（大木9式）である。破片は楕円形で再生土製品と推測する。

### 「Ⅳ群口縁部破片」

#### Ⅳ群 a 類

1は器面がL R縄文、貼付帯上はL R・R L縄文が施される。2は器面と明瞭な段差を有し、いずれもR L縄文が施される。3は口唇部に粘土のつなぎ目がみられ、器面はR L、貼付部分はL Rである。4は貼付部分に撚りの異なる原体による施文とL R縄線文がみられる。5は口唇部断面が角張る形態で、平行沈線文が施される。

#### Ⅳ群 b 類

6は無文の口縁部で、ナデ、ミガキ調整が施され、手稲式と判断する。7は波状口縁で、曲線的な沈線文により縄文地と無文部分が区画され、また、沈線文の間に刻みが施され、ホッケマ式と判断する。

## IV群c類

8はL R縄文地に突瘤文と爪形文が施され、口唇部は刻みにより小波状を呈する。9はR L縄文地に沈線文と突瘤文が観察される。10はL R縄文地に突瘤文があり、口唇部は角張っている。11はゆるやかな波状口縁で、直線と曲線の沈線文が描かれ、撚りの異なる原体で充填縄文が施される。12は地文と突瘤文がみられ、口唇部はやや厚みがある。8～12は堂林式に相当すると考える。

13は当初IV群と考えたが、口縁部が無文で、縄文地に平行する沈線文が施され、大洞A・A'並行のV群c類と判断する。

## 「IV群底部・胴部」

14は小さな底部から大きく胴部へと開く器形を呈し、IV群b類と判断する。15～16は器面と貼付帯に段差を有し、撚りの異なる原体を用いて羽状縄文が施され、余市式である。

## 「I群口縁部破片」

1は短縄文、縄線文、絡条体圧痕文、撚りの異なる原体による羽状縄文が施される。2は口唇部断面が丸形で、L R縄線文がある。3は短縄文、縄線文、撚糸文が観察される。4は微隆起線文と短縄文がみられる。5はR L原体による短縄文と縄線文が施される。6は口縁部に縄線文、胴部は羽状の撚糸文である。7は接合した大きい破片で、縄線文と羽状の撚糸文がみられる。8は口縁部に横位に絡条体圧痕文、胴部に撚糸文がある。9はLを用いた巻方向が異なる二つの原体による施文である。10の原体はL左巻き、R右巻きの絡条体である。

1～3・5は東銅路Ⅲ式、4は中茶路式、6～10は東銅路Ⅳ式と考える。

## 「I群底部破片」

11は底面から胴部へと開口する器形で、R L縄文とヘラ状工具による刻みが施される。東銅路Ⅲ式と判断する。

## 「I群胴部破片」

12は断面の形状から、尖底の底部近くと推測する。13はR L短縄文と組紐圧痕文が施される。14はL R原体による短縄文、斜行縄文がみられる。15は短縄文、縄線文、縄文があり、原体はすべてL Rである。16の原体は矢羽根状の絡条体か、工具による押引文と推測する。17はL R絡条体圧痕文と羽状の撚糸文が施される。

13～15は東銅路Ⅲ式、12・17は東銅路Ⅳ式と考える。

## 「土製品等」

1～4は、Ⅲ群b類萩ヶ岡式土器に貼り付けられる橋状把手が剥落したもので、棒状工具により、1は沈線文、2は刺突文、3・4は半截竹管状工具による施文である。また、4は土器との接合部分にL R縄文が観察され、地文を施した後に、これらを貼り付けたと判断する。

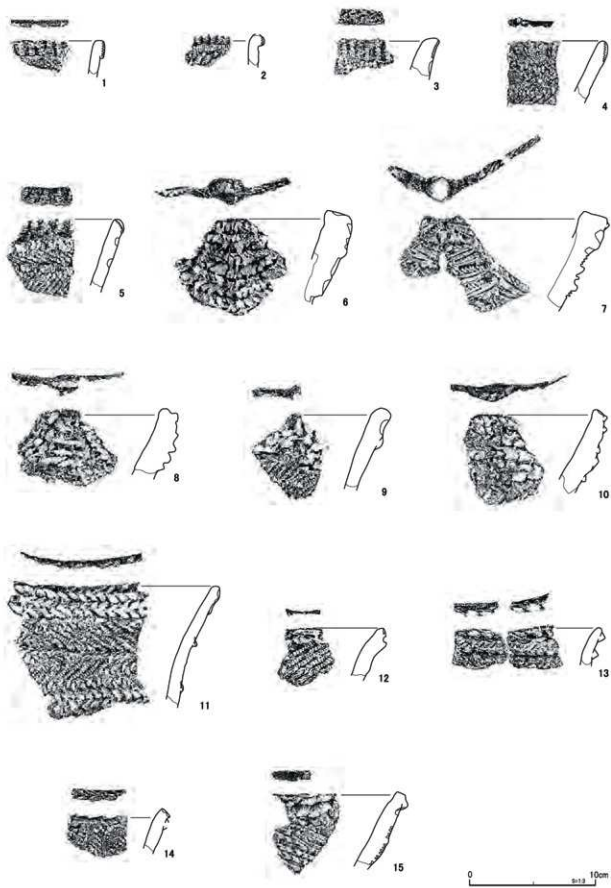
5～15は三角形に加工されたものである。5・6は丹念な研磨が施される。7は打ち欠き加工による。8は研磨が丹念で、辺が曲線的である。9・10は周縁が打ち欠かれている。11・12は打ち欠かれて土器の表面が残存しない。13は左右両側縁に挟りがみられる。14は左右両側縁に面が形成される。15は打ち欠きが粗い。16は正方形で、割れ口の断面が研磨される。

17～19はⅢ群b類萩ヶ岡式土器の突起部を利用したものである。17は打ち欠きと研磨加工による。18は外面も研磨され器面が残存しない。19は厚みを残す。

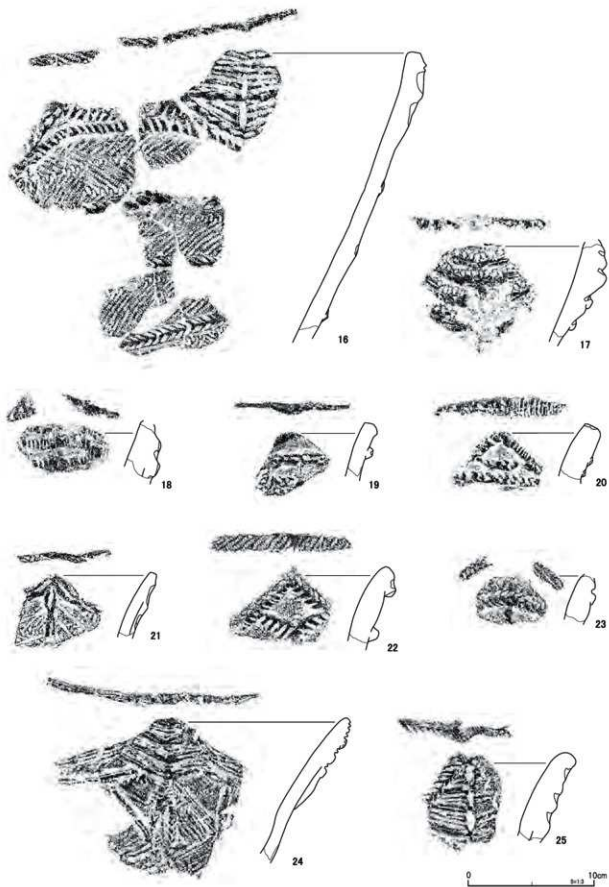
20～27は穿孔されるものである。

20は方形、21・22は楕円形である。23～25は穿孔が途中のもので、裏面の穿孔部分の器面は剥離が施される。26・27は整った円形で、穿孔がみられる。

(末光)

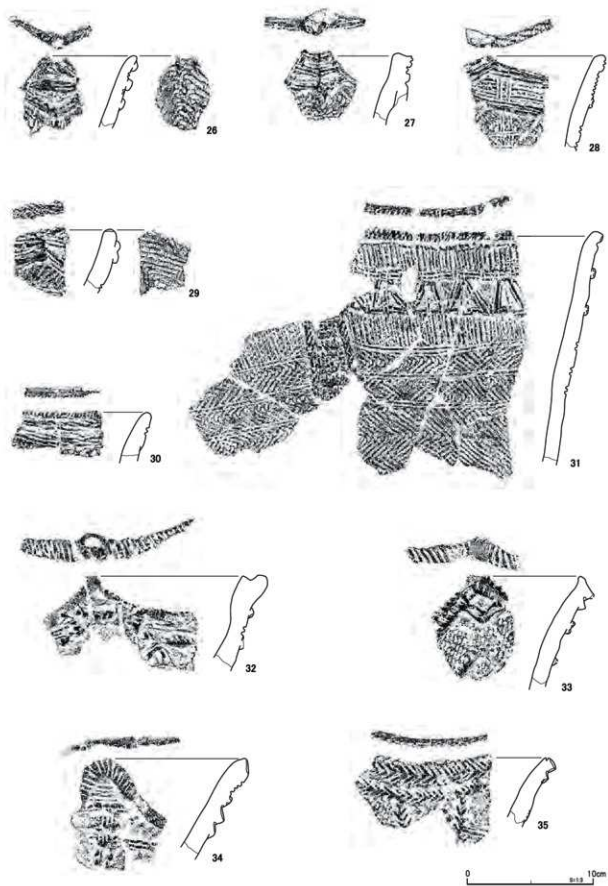


图V-2-2 包含层Ⅲ群破片土器(1)

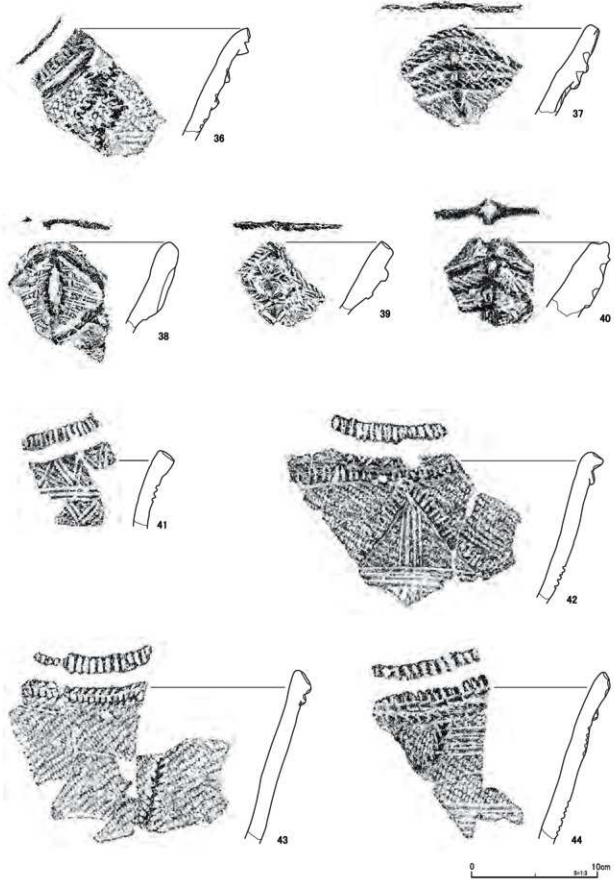


図V-2-3 包含層Ⅲ群破片土器(2)

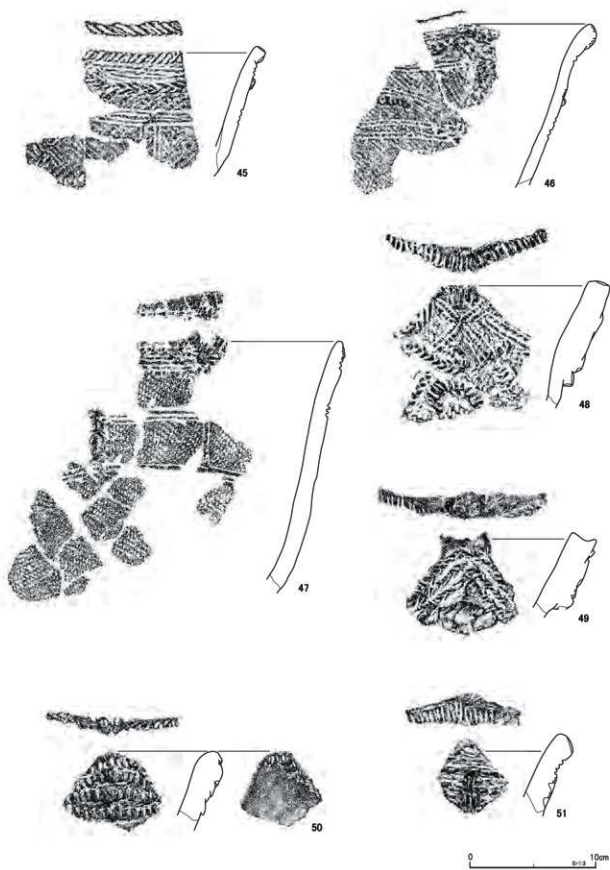




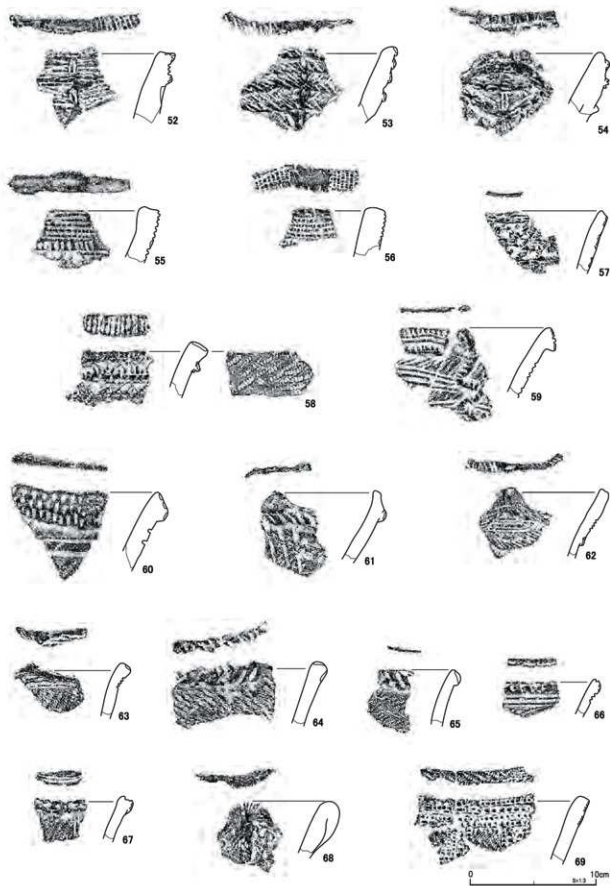
图V-2-4 包含层Ⅲ群破片土器(3)



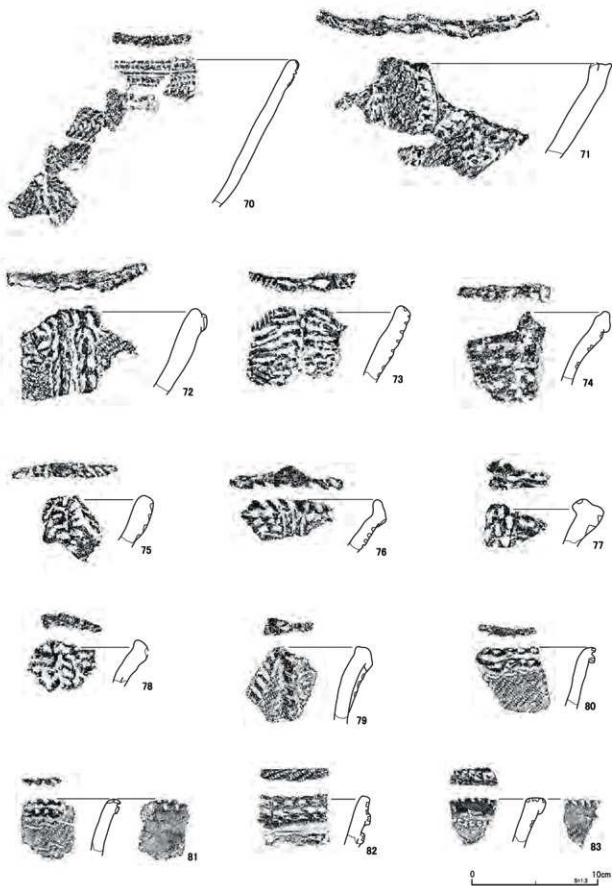
図V-2-5 包含層Ⅲ群破片土器 (4)



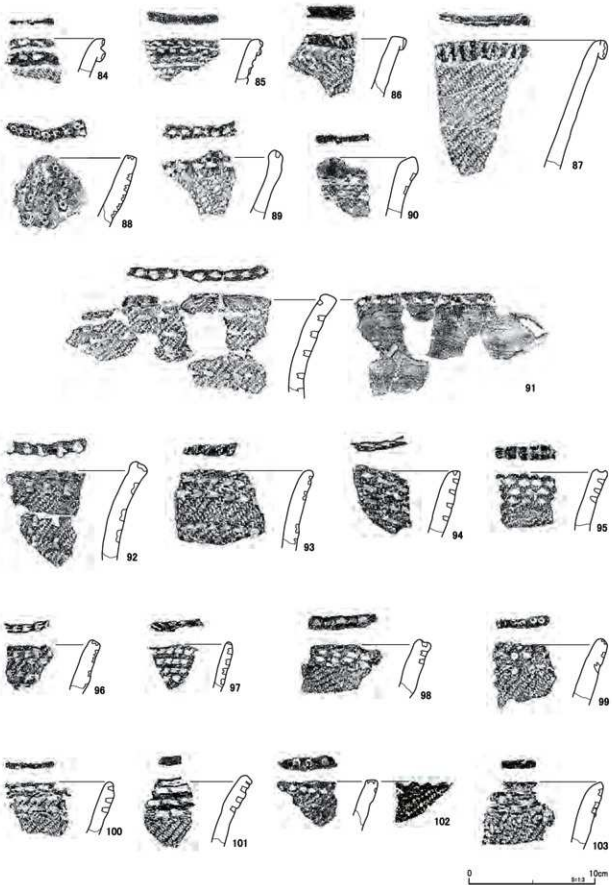
图V-2-6 包含层Ⅲ群破片土器(5)



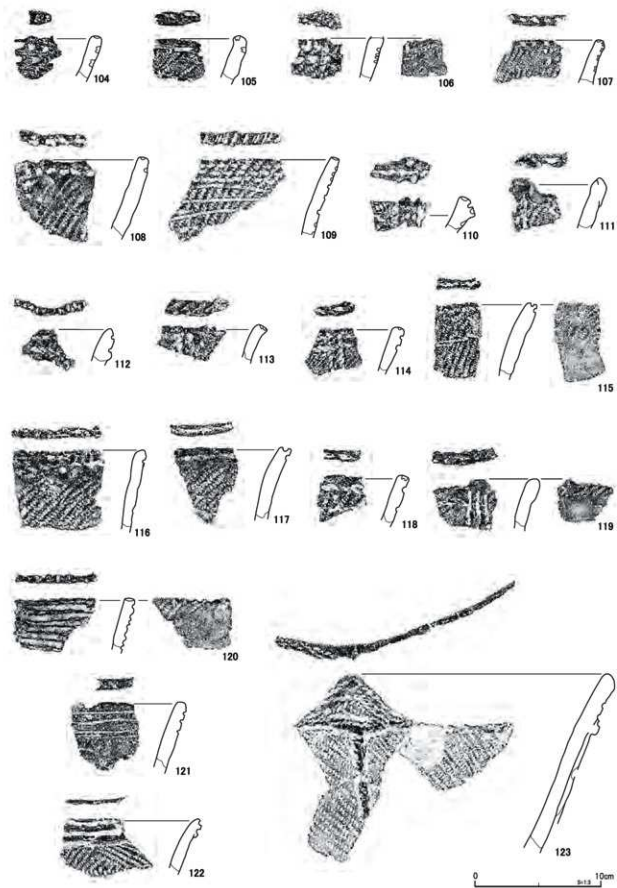
図V-2-7 包含層Ⅲ群破片土器 (6)



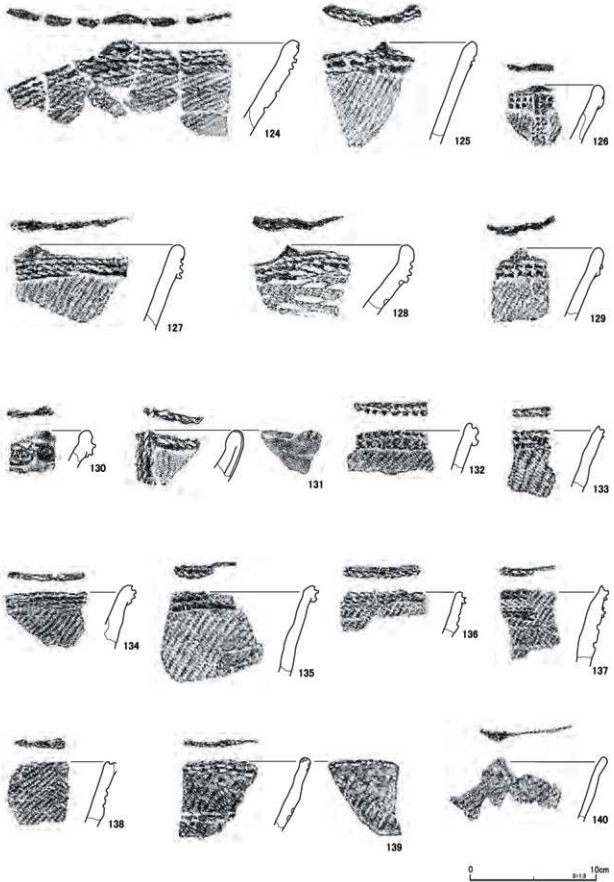
图V-2-8 包含层Ⅲ群破片土器(7)



図V-2-9 包含層Ⅲ群破片土器(8)

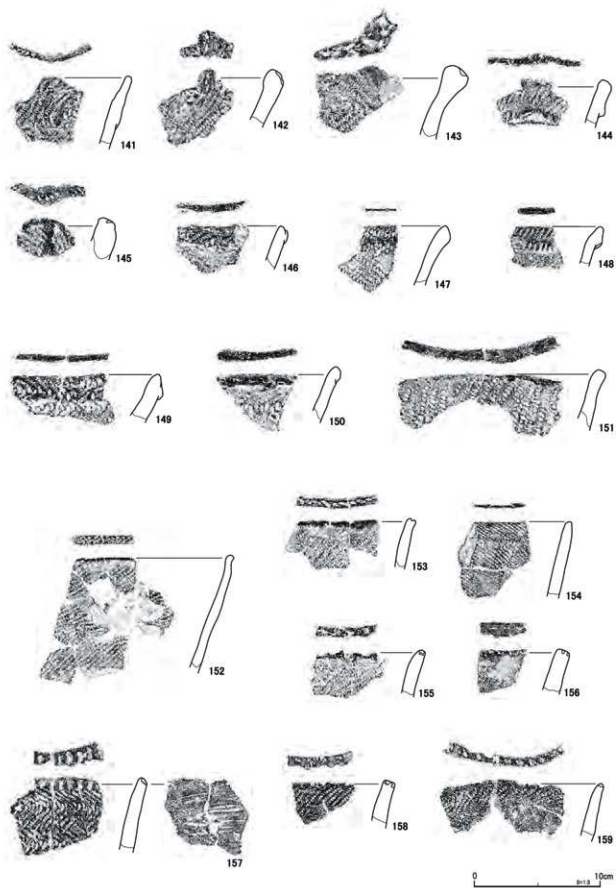


图V-2-10 包含层Ⅲ群破片土器(9)

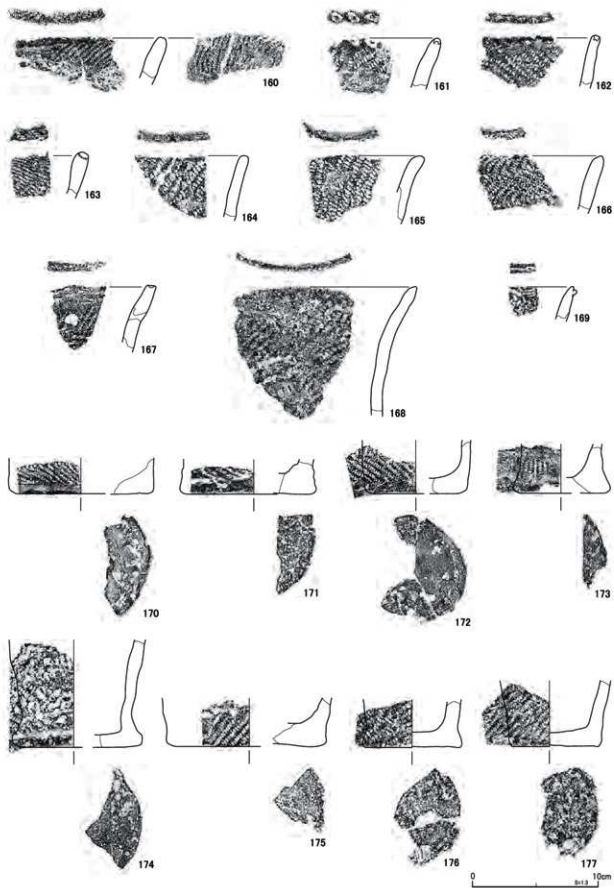


図V-2-11 包含層Ⅲ群破片土器 (10)





图V-2-12 包含层瓦群破片土器 (11)



図V-2-13 包含層Ⅲ群破片土器 (12)

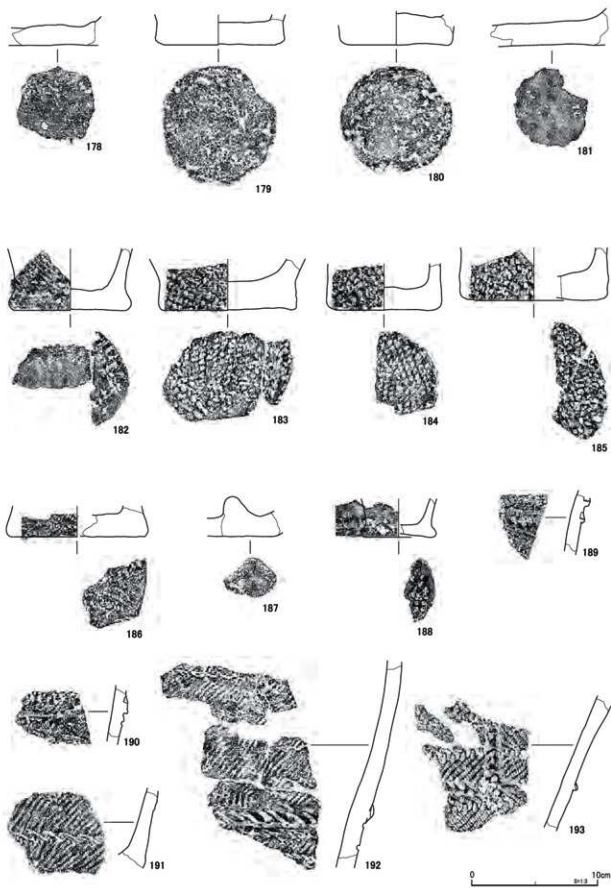
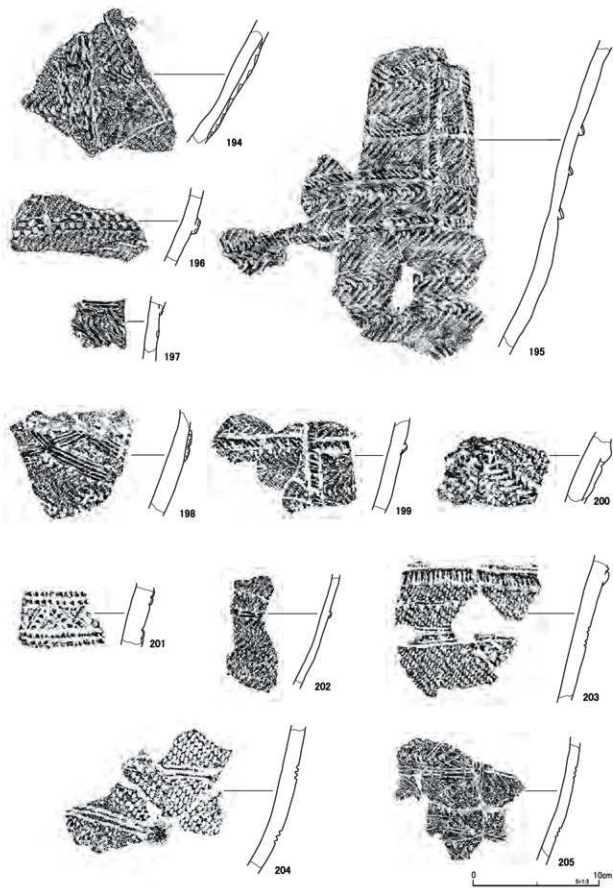


图 V-2-14 包含层Ⅲ群破片土器 (13)



図V-2-15 包含層Ⅲ群破片土器 (14)

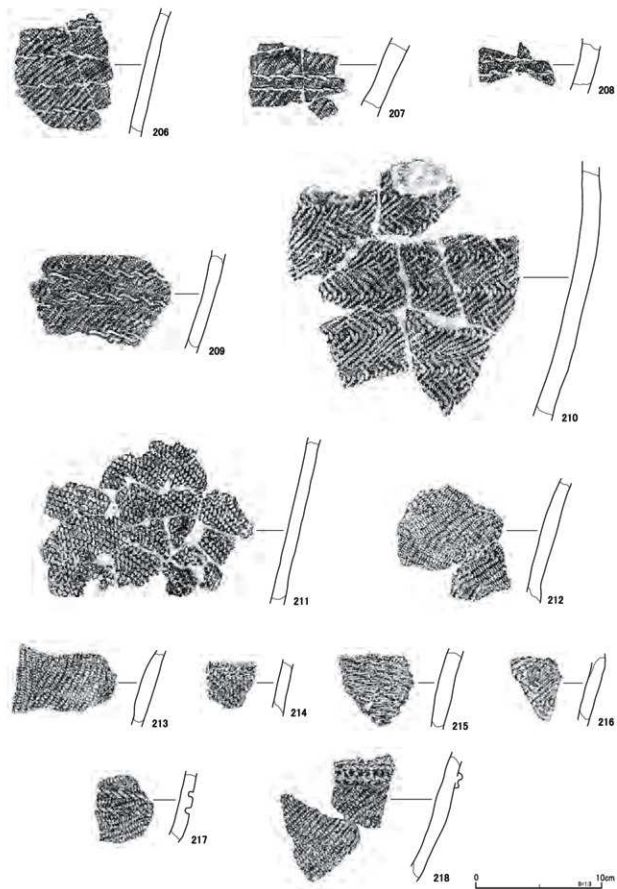
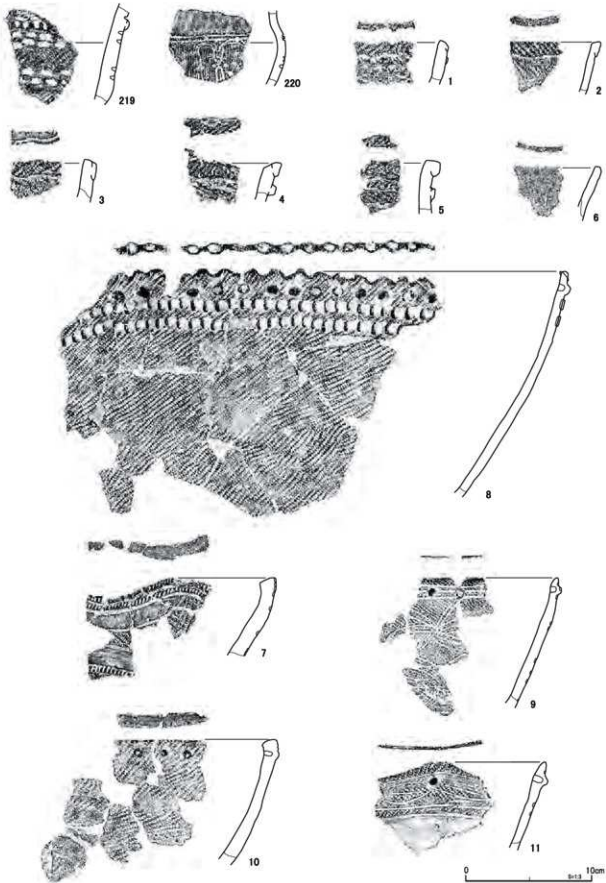
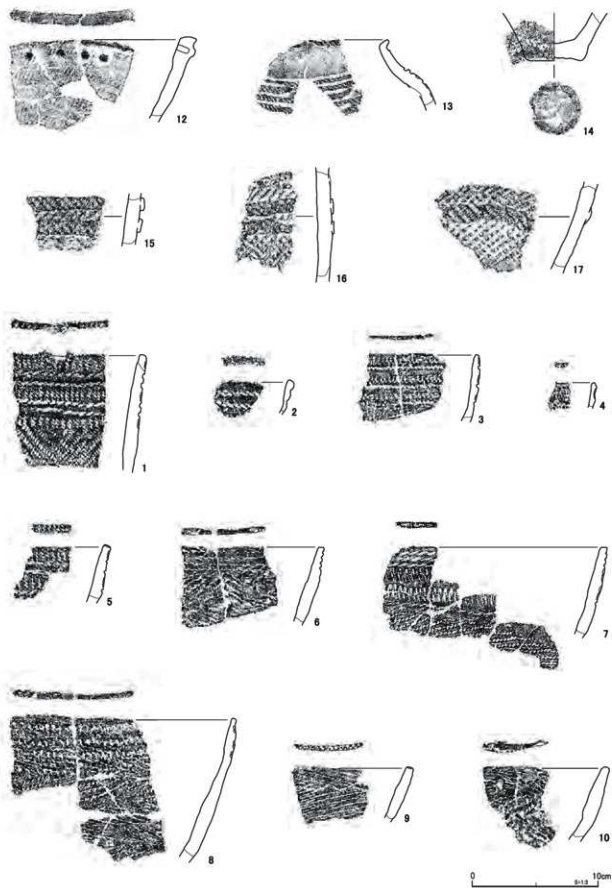


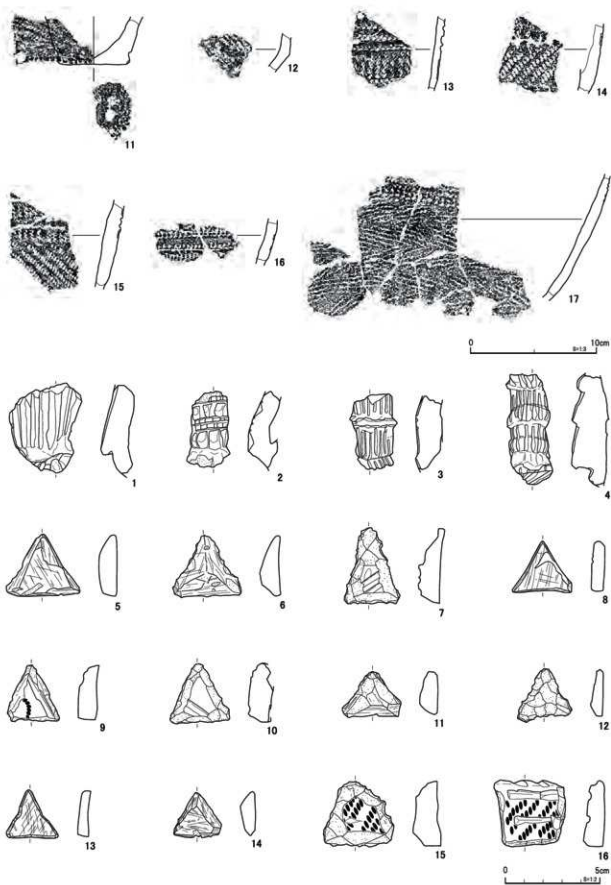
圖 V-2-16 包含層Ⅲ群破片土器 (15)



図V-2-17 包含層Ⅲ群破片土器 (16)・包含層Ⅳ群破片土器 (1)



图V-2-18 包含层IV群破片土器(2)·包含层I群破片土器(1)



図V-2-19 包含層I群破片土器(2)・包含層土製品(1)



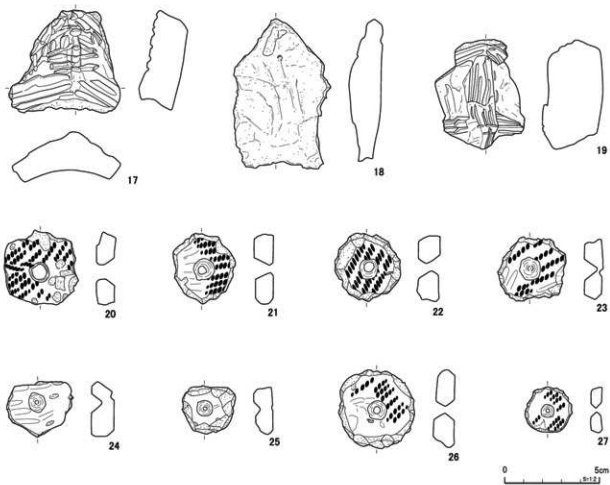


圖 V-2-20 包含層土製品 (2)

### 3. 石器等

(1) 剥片石器 (図V-3-1~4 表V-3-1 図版103・104)

#### 石刃鏃 (1)

1は石刃鏃で、腹面の側縁と基部の背腹両面に加工が施される。

#### 石鏃 (2~30)

2は腹面に剥離面を残す。3・4・5は基部が曲線的に内湾し、3・5は三角形、4は五角形である。6は平基で、腹面基部近くに焼けはじけの痕跡がある。7は木の葉形で先端部・基部ともに丸みを帯びた形態である。8は細長で長身、9は背面に原礫面、腹面に剥離面がみられる。10は有茎で小型、11は平基で菱形である。12の側縁は先端部側が直線的で、基部側は曲線的である。13は有茎で正三角形を呈し、14は茎部を破損する。15は菱形で背面に先行剥離面を残す。16は厚みがあり、17は腹面先端部側に櫛状剥離がみられる。18は有茎で厚みがあり、19・20は左右非対称である。21は最大幅部分の側縁が曲線的で、22は基部を破損した後、調整が施されたと推測する。23は腹面の中央に剥離面を残し、24は細身である。25の側縁は先端部が曲線的、茎部は直線的である。26は薄く茎部を破損し、27は背面右側縁の形状が左に比べ不規則である。28の側縁部は曲線的かつ鋭利に先端部で尖り、29は長身で明瞭な茎部が作出されないもの、30は背面に原礫面を残し、先端部は広い剥離面、茎部は比して細かい調整が施される。

石材は6が頁岩で、それ以外はすべて黒曜石である。

#### 石槍・ナイフ (31~43)

31は幅が広く、背腹両面の中央右側部分に大きな剥離面がある。32は左右対称で、背面に一部原礫面を残す。33は厚みがあり、基部は不規則な形態を呈する。34は接合した大型のもので、おおよそ四等分で人為的に分割されたと考える。35・36は機能部と茎部が明瞭に区別できる形態である。37はやや厚みがあり、38は基部を破損する。39は左右対称で、基部は若干丸い。40は基部が三角形で、茎部が幅広い。41は形態から、両面調整石器あるいはスクレイパーの可能性がある。42は左右非対称で、機能部が破損したと推測する。43も左右非対称で、腹面は比較的大きな剥離が多い。

石材は33がチャート、34・41が頁岩で、これら以外はすべて黒曜石である。

#### 石錐 (44)

44は黒曜石製で、機能部の先端が尖り、持ち手部分には剥離面と原礫面を残す。

#### 両面調整石器 (45)

45は頁岩製、背腹両面に大きな剥離があり、腹面左側縁は微細な剥離痕が多い。

#### つまみ付きナイフ (46~52)

46は横長剥片を素材とし、二次調整は背面周縁にみられる。47は小さめのつまみ部で、長さから下端部の破損面が調整され再生されたと推測する。48は背面の形態が左に曲がる。49はつまみ部上端部に原礫面を残し、機能部が幅広い。50は機能部が破損する。51・52は両側縁が平行で、52は腹面全体にも調整が施される。

石材は47がチャート、52が黒曜石で、これら以外は頁岩である。

#### スクレイパー (53~69)

53は厚みがあり、54は石筥と呼称されるものである。55は原礫面を広く残す剥片を素材とする。56は横長剥片を素材とし、背面に原礫面がみられる。57の背面は右側部分が原礫面、左側は先行剥離面に調整が施される。58は背面の左側縁から下端部に調整が施される。59は厚みがあり、背腹両面に

原礫面がみられる。60は背面に先行剥離面が複数みられ、下端部に刃部が作出される。61は背面左側縁が折れ面、右側縁に二次加工が施される。62は背面左側縁が曲線的で、この部分と腹面左側縁の下端部に二次調整が施される。63は背面両側縁と下端部に二次調整が施され、上部には両側縁に挟りがみられ、つまみ付きナイフの可能性ある。64・65は背面の両側縁に刃部を有し、腹面の打面近くはバルブの高まりをとるためと推測する調整がみられる。66は方形で、背面上部以外に二次加工が施される。67は下端部に突出し尖る部分がみられ、この部分は両面に調整が施され、石錐の可能性ある。68は背面に複数の先行剥離面がみられ、両側縁と下端部に丹念な調整がみられる。69は湾曲する縦長剥片を素材とし、背面の中央から下端部の両側縁に二次調整が施される。

石材は62がチャート、63・65・67・69が頁岩で、これら以外は黒曜石である。

#### 石核 (70~73)

70・71は黒曜石製で、表裏両面に複数の剥離面がみられる。ともに上部部は平坦で打面調整のためと推測する微細な剥離痕が多くみられる。72はチャート製の残核で、円化したすべての面に原礫面と剥離面が観察される。73はめのう製で、不規則な剥離面が多数と原礫面がみられる。円礫状の形態を留めていることは、剥片剥離を試みたが意図した剥片剥離が行えなかったからと推測する。

#### (2) 礫石器 (図V-3-5~9 表V-3-1 図版104・105)

##### 磨製石斧・磨製石斧転用品・磨製石斧未製品・磨製石斧原石・研磨石材 (1~17)

1は小型で薄く、石のみと呼称されるものである。2は擦り切り痕を両側縁に残し直線的である。3は表面右側縁に剥離痕が複数みられる。4・5は擦り切り手法によるものである。6の側縁は面がなく稜線がみられる。7・8は素材の形状を留める。9は上部にも刃部が作出された可能性ある。10は研磨痕と剥離痕がみられ、素材は厚みがある。11は研磨痕が、裏面は全面、表面は刃部周辺のみである。12は縦横位の断面が不整形で未製品と推測する。13は短冊状の形態で厚い。14は裏面に素材を打ち欠いた時のリングがみられ、部分的に研磨痕がみられる。15は右側面に敲打痕がみられる。磨製石斧原石または未製品と推測する。石材は3・5・9が片岩で、これら以外は緑色泥岩である。16・17は研磨石材に分類したもので、表裏面に剥離痕と研磨痕が観察される。磨製石斧や玉の原石を粗く加工した段階と推測する。

##### 北海道式石冠 (18・19)

18・19は北海道式石冠で、18は扁平な礫を素材とし、持ち手部分を作成する加工がみられ、19はやや厚みがあり、持ち手部分は敲打によりくぼむ。

##### 扁平打製石器 (20)

20は上部部にすり痕があり、持ち手部分は敲打痕がみられる。

##### すり石 (23・24)

23は上部部側を破損し、下部面にすり痕があり、扁平打製石器の可能性を考える。24は扁平な円礫の一部に使用痕があり、その部分は直線化する。

##### 石錘 (21・32・33)

21は表面左右に挟りが作出される。32は表面左側縁に挟りと剥離痕が複数みられる。33は挟りが浅いことや素材の形状等から、扁平打製石器の未製品の可能性がある。

##### たたき石 (22・25~27)

22は砂岩製で、平坦面と側縁にたたき痕がみられる。25・27は表裏両面が平坦で、その周縁にたたき痕がめぐる。26は棒状の礫の平坦面にたたき痕がある。

## 砥石 (28~31)

28はゆるやかにくぼむすり面があり、29は平坦な使用面が複数みられ、一部くぼみもみられる。30の断面は溝状のすり痕が複数みられる。31は板状で、表裏両面に平坦な使用痕が観察される。

## 台石・石皿 (34)

34は使用面がゆるやかにくぼむ。

## (3) 石製品 (図V-3-8・9 表V-3-1 図版106)

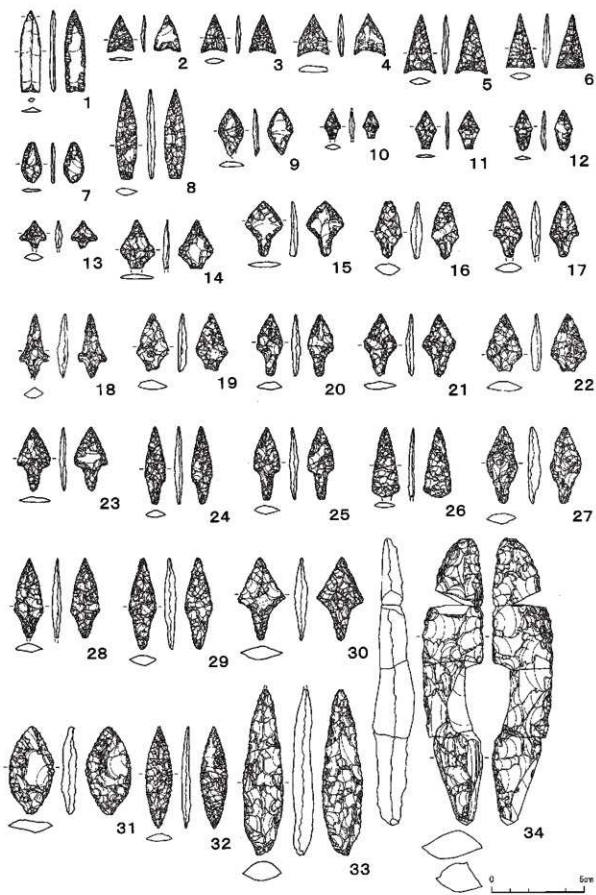
## 玉 (1~19)

1・2は剥離した破片と推測する。3・4は円形に成形される。5・6は楕円形で薄い。7は穿孔部分から破損する。8は表面にくぼみがあり、孔が貫通しないものと解される。9は側縁に「V」字状の刻みが施される。10は孔が2か所あり、研磨痕はみられない。11は楕円形で表面に刻み様の痕跡が観察される。12は厚く全面に剥離痕があり、製作途中と推測する。13は研磨痕が複数の単位でみられ面を成す。14は側面に縦方向に溝状、横方向に刻み様の加工が施され、刻みは表裏平坦面に続いている。15・16は下端部へと両側縁が収束する形態で、全体に丹念な研磨がみられる。17は大型で大珠と判断する。両側面に敲打痕と剥離痕がみられる。18・19は直方体で、18は上端面に2か所、19は上下両面に1か所、穿孔があり上端面からの穿孔は表裏面を貫通する孔につながる。

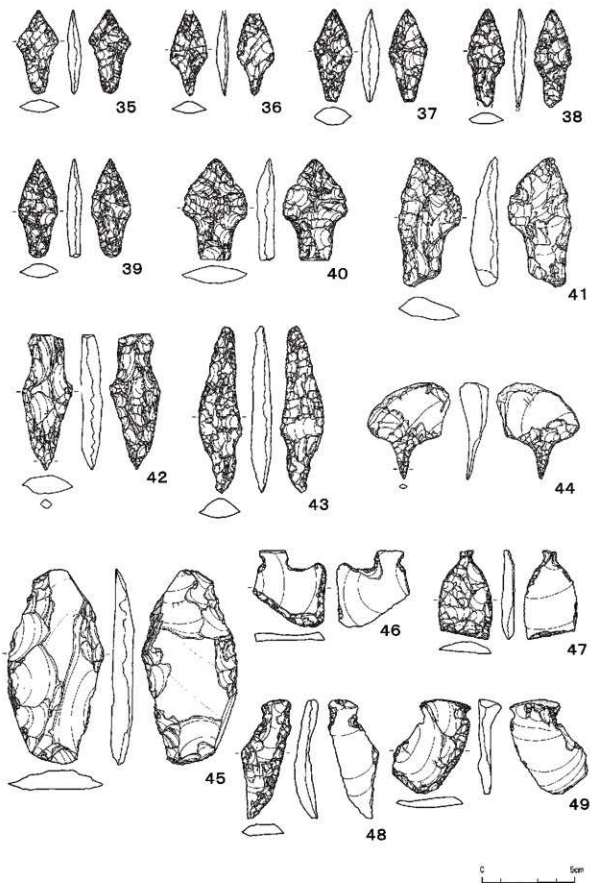
## 石製品 (20~28)

20は黒曜石製で、背腹両面に二次調整がなされ、短軸両端に抉りがある。21は縦長の素材の周縁を、上側部は直線的、下側は曲線的に加工される。22は軟質な凝灰岩製で、五角形に成形される。23は曲線的な「く」の字の形態を呈し、加工痕がみられない。24~26は表裏両面に研磨が施され、製作途中のものとする。24は厚みのある鎌の形状を残し、25は半円状、26は長方形に成形される。

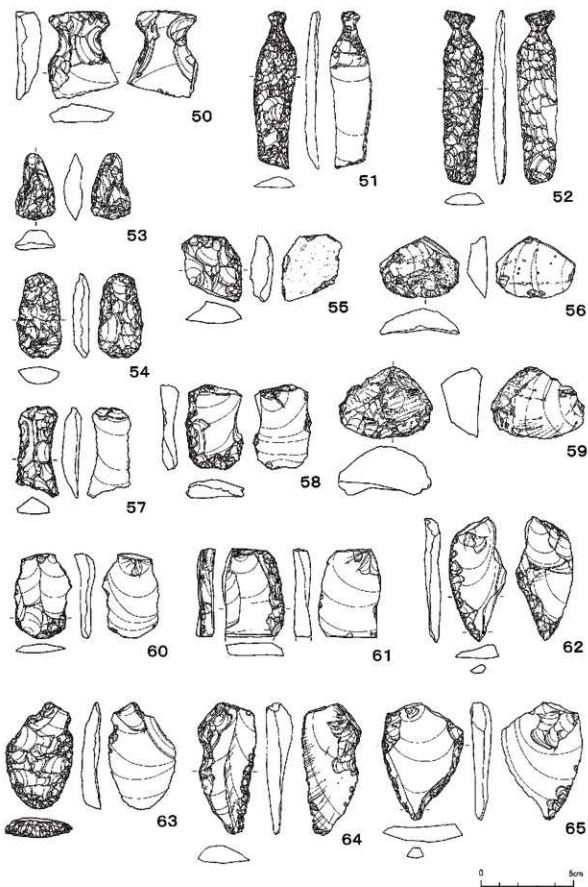
27・28はいかり石で。上端面中央と両側縁の上部に、敲打による抉りが作出される。 (愛場)



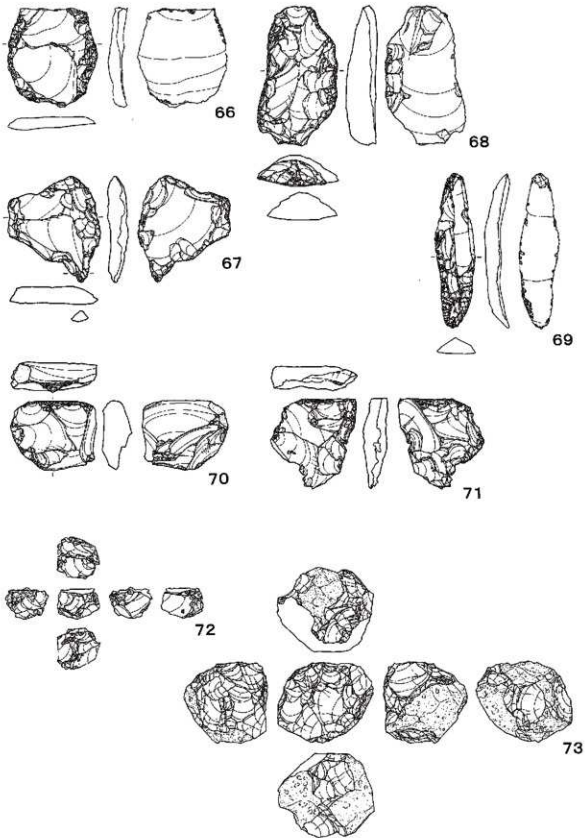
図V-3-1 包含層出土の石器 (1)



図V-3-2 包含層出土の石器 (2)

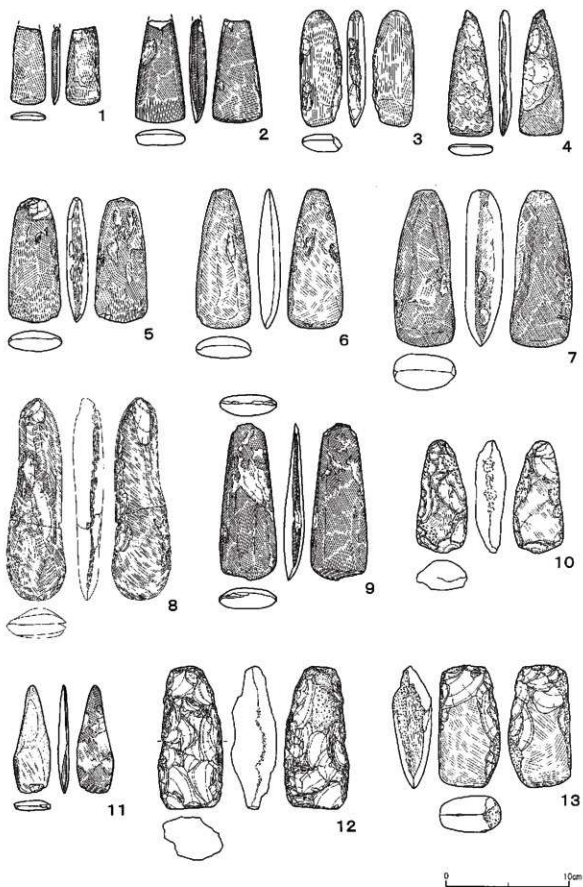


図V-3-3 包含層出土の石器(3)

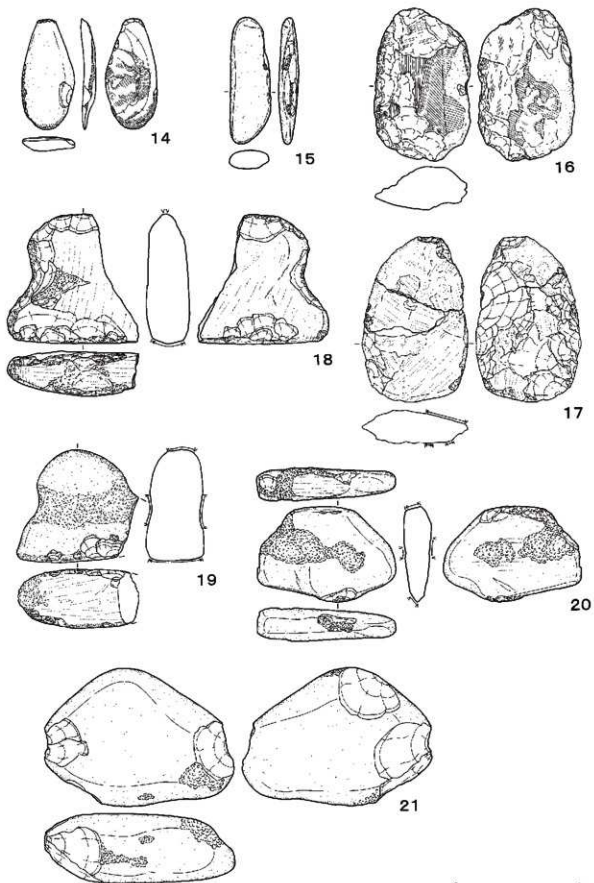


図V-3-4 包含層出土の石器 (4)

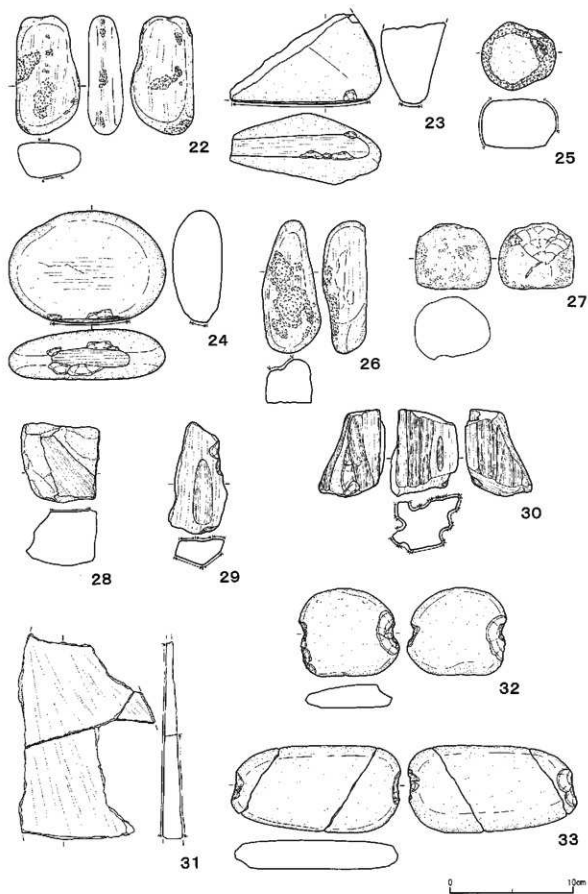




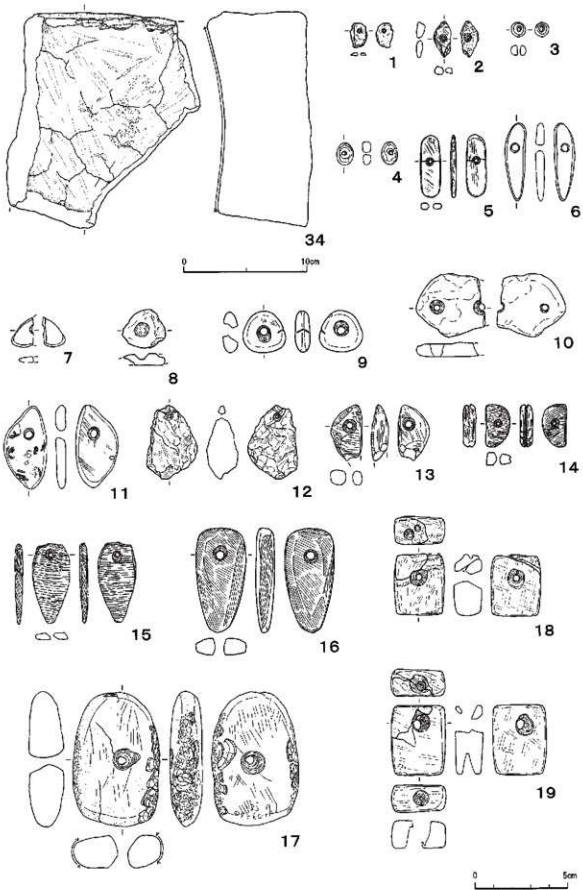
図V-3-5 包含層出土の石器 (5)



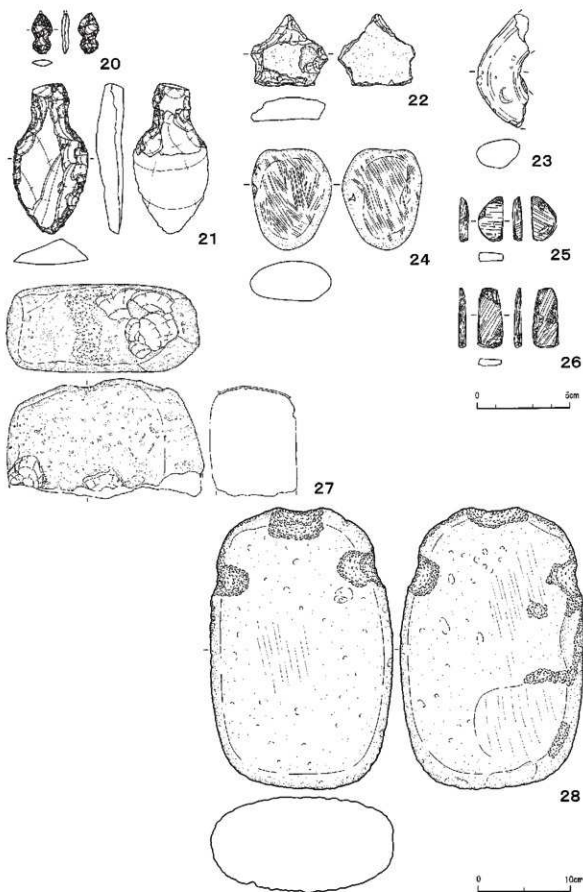
図V-3-6 包含層出土の石器 (6)



図V-3-7 包含層出土の石器(7)



図V-3-8 包含層出土の石器 (8)



図V-3-9 包含層出土の石器(9)



表 V-2-6 29-69 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 29	29-69	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 69	29-69	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-7 31-68 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 31	31-68	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 68	31-68	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-8 28-68 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 28	28-68	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 68	28-68	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-9 22-75 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 22	22-75	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 75	22-75	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-10 17-57 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 17	17-57	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 57	17-57	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-11 19-82 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 19	19-82	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 82	19-82	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 V-2-12 24-82 区出土復原土器觀察表

調査年度	調査区	調査地	調査層	調査土器																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
昭和 24	24-82	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和 82	24-82	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表V-2-13 包含層出土皿群口縁部破片土器観察表 (1)

品名	形状	土質	色	厚さ	口径	口縁	底径	高さ	重量	備考
1	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
2	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
3	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
4	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
5	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
6	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
7	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
8	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
9	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
10	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
11	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
12	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
13	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
14	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
15	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
16	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
17	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
18	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片

表V-2-13 包含層出土皿群口縁部破片土器観察表 (2)

品名	形状	土質	色	厚さ	口径	口縁	底径	高さ	重量	備考
19	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
20	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
21	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
22	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
23	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
24	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
25	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
26	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
27	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
28	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
29	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
30	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
31	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
32	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
33	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
34	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
35	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
36	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
37	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
38	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
39	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片
40	皿	黄褐色	黄褐色	0.5	10.5	口縁部破片	7.5	4.5	0.1	口縁部破片







表V-2-13 包含席出土皿群口緣部破片土器觀察表(7)

品名	群	層	出	土	口	緣	部	破	片	土	器	類	形	質	色	寸	法	備	考
100	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
101	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
102	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
103	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
104	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
105	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
106	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
107	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
108	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
109	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
110	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
111	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
112	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
113	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
114	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
115	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
116	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
117	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
118	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
119	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
120	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

表V-2-13 包含席出土皿群口緣部破片土器觀察表(8)

品名	群	層	出	土	口	緣	部	破	片	土	器	類	形	質	色	寸	法	備	考
121	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
122	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
123	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
124	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
125	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
126	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
127	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
128	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
129	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
130	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
131	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
132	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
133	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
134	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
135	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
136	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
137	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
138	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
139	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
140	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10



表V-2-14 包含層出土群底部部破片土器觀察表

群	層	土器名	出土位置	土器種別	土器形状	土器大小	土器重量	土器材質	土器用途	土器保存状態
V-1-1	10	10-1	10-1	10-1	10-1	10-1	10-1	10-1	10-1	10-1
		10-2	10-2	10-2	10-2	10-2	10-2	10-2	10-2	10-2
		10-3	10-3	10-3	10-3	10-3	10-3	10-3	10-3	10-3
		10-4	10-4	10-4	10-4	10-4	10-4	10-4	10-4	10-4
		10-5	10-5	10-5	10-5	10-5	10-5	10-5	10-5	10-5
		10-6	10-6	10-6	10-6	10-6	10-6	10-6	10-6	10-6
		10-7	10-7	10-7	10-7	10-7	10-7	10-7	10-7	10-7
		10-8	10-8	10-8	10-8	10-8	10-8	10-8	10-8	10-8
		10-9	10-9	10-9	10-9	10-9	10-9	10-9	10-9	10-9
		10-10	10-10	10-10	10-10	10-10	10-10	10-10	10-10	10-10
		10-11	10-11	10-11	10-11	10-11	10-11	10-11	10-11	10-11
		10-12	10-12	10-12	10-12	10-12	10-12	10-12	10-12	10-12
		10-13	10-13	10-13	10-13	10-13	10-13	10-13	10-13	10-13
		10-14	10-14	10-14	10-14	10-14	10-14	10-14	10-14	10-14

表V-2-15 包含層出土群上部部破片土器觀察表 (1)

群	層	土器名	出土位置	土器種別	土器形状	土器大小	土器重量	土器材質	土器用途	土器保存状態
V-1-1	10	10-15	10-15	10-15	10-15	10-15	10-15	10-15	10-15	10-15
		10-16	10-16	10-16	10-16	10-16	10-16	10-16	10-16	10-16
		10-17	10-17	10-17	10-17	10-17	10-17	10-17	10-17	10-17
		10-18	10-18	10-18	10-18	10-18	10-18	10-18	10-18	10-18
		10-19	10-19	10-19	10-19	10-19	10-19	10-19	10-19	10-19
		10-20	10-20	10-20	10-20	10-20	10-20	10-20	10-20	10-20
		10-21	10-21	10-21	10-21	10-21	10-21	10-21	10-21	10-21
		10-22	10-22	10-22	10-22	10-22	10-22	10-22	10-22	10-22
		10-23	10-23	10-23	10-23	10-23	10-23	10-23	10-23	10-23
		10-24	10-24	10-24	10-24	10-24	10-24	10-24	10-24	10-24
		10-25	10-25	10-25	10-25	10-25	10-25	10-25	10-25	10-25
		10-26	10-26	10-26	10-26	10-26	10-26	10-26	10-26	10-26
		10-27	10-27	10-27	10-27	10-27	10-27	10-27	10-27	10-27
		10-28	10-28	10-28	10-28	10-28	10-28	10-28	10-28	10-28











## VI章 旧石器時代の遺物 (V~VII層)

### 1. 概要 (図VI-1-1~4 表VI-1-1~3)

#### (1) 調査の経緯と方法

##### ・調査の経緯

平成18(2006)・平成19(2007)・平成21(2009)年度の本事業によるキウス5遺跡の調査時に、平成18(2006)年度には台地部と低位部、平成19(2007)・平成21(2009)年度には台地部から旧石器時代の遺物が出土したため、調査を行った。本章では、台地部出土の旧石器について報告を行う。なお、低位部出土の旧石器については『千歳市 キウス5遺跡(8)』(2008 北理調報251)を参照されたい。

台地部で旧石器の存在を確認した契機は、平成18(2006)年度の調査時に、VII層中まで削平されていた16・17-55区付近で、17-54区から崩落したV層土中から旧石器時代の細石刃核などを検出したことにある。旧石器の広がりを確認するため、17-54区付近のV~VII層の調査を行ったところ、旧石器が多数出土し、台地上に旧石器時代の石器集中(以下「石器ブロック(SB)」)があることが判明した。そのため、縄文時代以降の遺構・遺物の調査と平行して旧石器時代の調査を行なった。

##### ・調査の方法

現場調査では、遺物包含層調査時に、旧石器が出土した調査区は遺物を残して掘り下げ、遺物の分布の把握に努めた。遺物が集中して出土した場合は隣接する調査区も同様に調査を行い、分布範囲を確認した。その後、石器ブロックと判断したものは、遺物を取り上げながら掘り下げを行った。出土点数が少ない場合は、遺物を残してVII1層上位まで掘り下げ、周辺の遺物の分布を確認した後、出土位置を記録し取り上げその調査区の調査を終了した。旧石器の主な出土層位は恵庭a軽石層の上位のV1層上面からVII2層上位にかけてであり、石器ブロックではこれらの層位から連続的に出土した。旧石器の本来的な包含層はVII層と考えられるが、縄文時代早期から晩期の遺物包含層であるV1~VI層からも相当数出土している。これは、土壌の凍上現象等の自然の営力による移動と推測される。このため、旧石器が縄文時代の遺構や包含層の土器・石器等と混在する出土状況がみられたが、石器の石材・形態的特長や石器表面の風化の度合いなどから、縄文時代の石器と区別した。

遺物の取り上げ方法は、出土位置を記録したもの(以下「点取り遺物」)、調査区単位ほかで一括して取り上げたもの(以下「一括遺物」、土壌水洗により回収したもの(以下「水洗選別遺物」)がある。V~VII層出土の遺物は原則的に出土位置を記録して取り上げた。点取り遺物の中には小規模な風倒木痕出土のものも含まれる。また、土壌水洗は石器ブロック内の遺物集中範囲の一部を対象とし、1.5mmのメッシュを使用し微細遺物を回収した。

一次整理の方法はIII章4節に記載しているので、参照されたい。二次整理は主に接合・実測作業を行った。接合作業は、定型的な石器類については、まず折れ面接合を試み、次に同じ石質と考えられる石器類や剥片等を採すようにした。剥片等は石質ごとに集めて接合作業を行った。接合作業の実際は、折れ面接合の場合は瞬間接着剤を使用し、剥離面接合の場合は両面テープで仮止めしながら作業を進め、必要に応じて瞬間接着剤を使用した。ただし、最終的な収納段階では瞬間接着剤を使用している。ある程度接合作業が進行した段階で、剥離過程を記録した接合カードを作成し、接合番号をつ

けた。接合番号は剥離面接合が「1」から、折れ面接合は「1001」からとした。そのため、剥離面接合資料に折れ面接合資料が含まれている場合は、1個体の接合資料に複数の接合番号をもつことがある。さらにこれらの作業で得られた接合資料やその他の石器の内、特徴的で同一石質と認識できるものを石質別資料として抽出した。今回の調査で出土した石器類の主要な石材である黒曜石の石質は類似するものが多いため、母岩別の分類は行わず、石質別分類にとどめた。また、実測・接合作業と平行して、点取り遺物等の分布図作成を行った。実測図に関しては、定型的な石器類は、全形のわかるものを中心に実測・掲載するように努めた。接合資料に関しては良好に復元されたものや特徴的なものを中心に実測した。接合資料模式図内の矢印は打点の方向、数字は各石器等の実測図掲載番号を示す。また、石器等の実測図の縮尺は原則的に1/2としたが、細石刃は2/3で掲載している。また、石器等の写真の縮尺は細石刃、削片についてはほぼ原寸で、それ以外は約1/2で掲載した。

#### ・遺物の分類

今回の調査で出土した石器等には以下のものがある（括弧内は略号）。

細石刃（MB）、細石刃核（MC）、削片（SP）、彫器（BU）、尖頭器（PT）、両面調整石器（BF）、搔器（ES）、削器（SS）、錐形石器（DR）、二次加工ある剥片（RF）、石刃（BL）、縦長剥片（LF）、石核（CO）、剥片（FK）、細片（CP）、斧形石器（AX）、たたき石（HS）、砥石（WS）、石皿・台石（AS）、礫（PB）、顔料関連遺物

#### （2）調査の概要

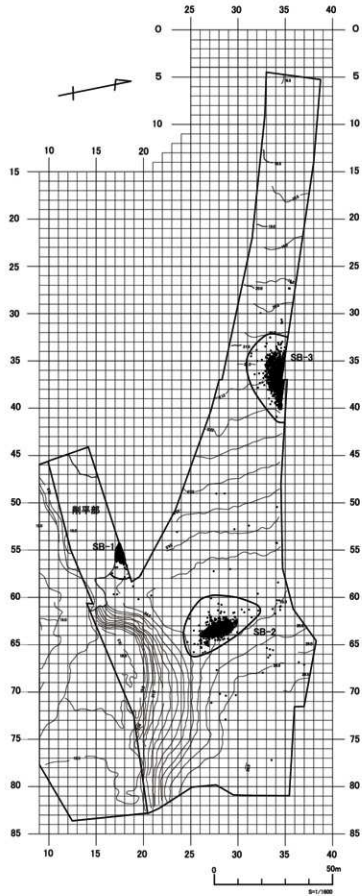
旧石器時代の調査の結果、恵庭a降下軽石層（Ⅷ層）より上位の土層から、後期旧石器時代の遺物が27,106点出土した。遺物は全て石器等で、石器集中を3か所（SB-1～3）検出した。構構は、相伴関係は不明であるがSB-2範囲内から炭化物集中を1か所検出した。今回の調査で出土した石器等の総点数は27,106点、総重量は19053.12gである。取り上げ方法別の内訳は、点取り遺物11,418点（17638.41g）、一括遺物12,073点（1195.22g）、水洗選別遺物3,615点（219.49g）である。器種別の内訳は細石刃195点、細石刃核21点、削片354点、彫器62点、尖頭器9点、両面調整石器21点、搔器379点、削器87点、錐形石器11点、二次加工ある剥片376点、石刃315点、縦長剥片250点、石核37点、剥片4,061点、細片20,854点、斧形石器8点、たたき石3点、砥石1点、台石・石皿1点、礫22点、顔料関連遺物39点である。石器等の石材は黒曜石、頁岩、珪岩、泥岩、砂岩、凝灰岩、安山岩、玄武岩、褐鉄鉱がある。

出土した石器等の平面分布、接合関係及び石器類の特徴などから、石器集中を3か所（SB-1～3）設定した。SB-1～3は調査区中央付近に広がり、標高21～25mの台地上に位置する。SB-1・3は調査区外にも分布が広がるため、全体を調査できたのはSB-2のみである。ブロック外の遺物は主にブロック周辺に薄く分布する。石器等の接合は各石器ブロック内で多く認められるが、ブロック間での接合もみられる。

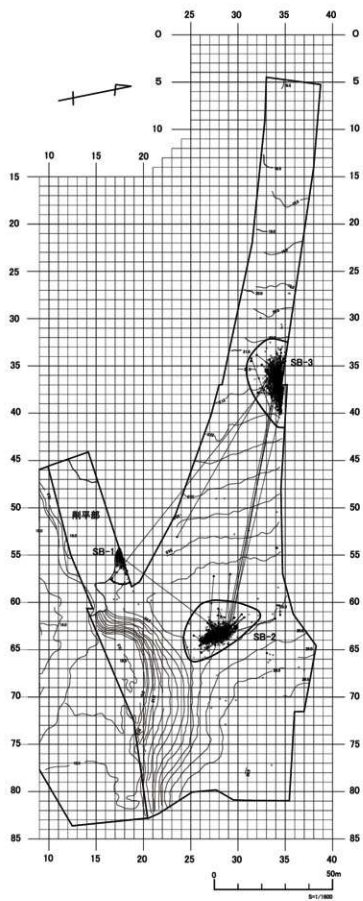
出土した石器類は、全て後期旧石器時代の細石刃石器群である。全ての石器ブロックから小型で細長い両面調整体を素材とする忍路子型細石刃核が出土しているため、これらは「忍路子型細石刃核を伴う石器群」（以下「忍路子型細石刃核石器群」）と判断される。また、各石器ブロック間で接合関係がみられることから一括性が高い資料といえる。ブロック外の石器の多くも、その特徴から忍路子型細石刃石器群と判断される。また石器ブロックの石器組成の特徴として搔器が非常に多い点が挙げられ、忍路子型細石刃核石器群の組成の特徴と一致する。



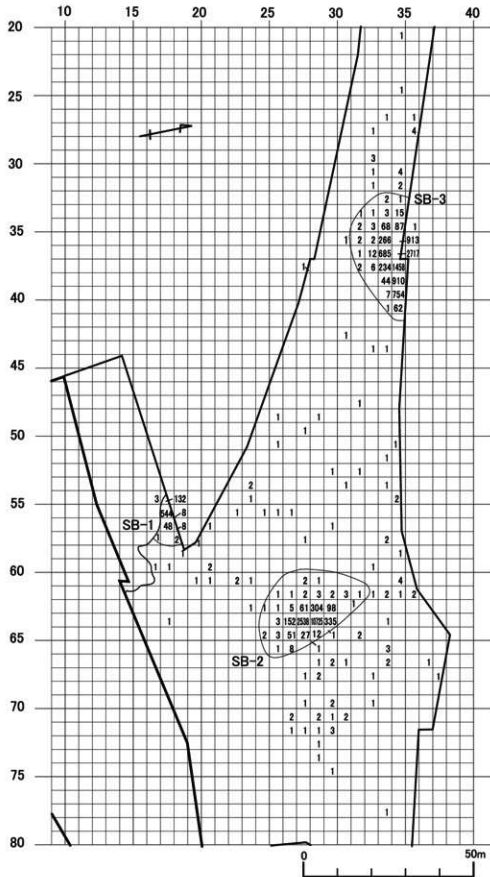




図VI-1-1 ブロック設定図

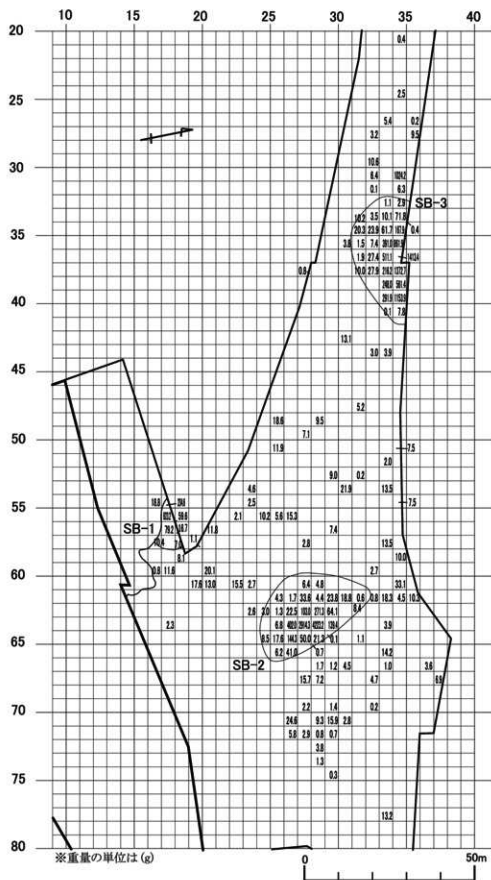


图VI-1-2 全接合分布图



図VI-1-3 旧石器点数分布図





図VI-1-4 旧石器重量分布図

なお、平成8年度に北海道横断自動車道建設に伴い調査されたキウス5遺跡C地区でも旧石器が出土し、石器集中(以下「FC-1」)を1か所確認している(横断道「C地区」北埋調報116)。FC-1から細石刃核は出土していないが、石器組成や石材などの特徴が今回の調査結果と類似するため、同じ忍路子型細石刃核石器群と推定される。

### (3) 石器ブロックの設定 (図VI-1-1~4)

台地の地形はキウス川右岸の河岸段丘上の平坦部とキウス川にかけての斜面部からなり、VII1層上面の標高は約18.5~26.5mである。調査区内の地形を細かく見ると、北東側が最も高く西側にかけて緩やかに低くなり、南側には比高差約6m以上の急斜面が広がる。台地の旧石器時代の遺物は全て平坦部から出土しており、石器ブロックは遺物の平面分布密度などから現地調査段階で3か所設定した。ブロック間の距離はSB-1・2間で約30m、SB-1・3間とSB-2・3間は約80mを測る。石器ブロック別の出土点数は、SB-2が16,762点と最も多く、次いでSB-3が8,268点、最も少ないのがSB-1で1,942点である。また、ブロック外からは134点出土した。接合関係は同じ石器ブロック内でのものが多いが、ブロック間でも剥離面接合、折れ面接合が数例みられ、石器ブロック3か所の一括性は高いといえる。水洗選別遺物を除いた調査区ごとの遺物点数分布は、SB-2の集中域の分布密度が最も高く、その中でも28-63区が10,725点と最も多く、水洗選別遺物を除いた遺物総点数の約46%が出土している。

## 2. 石器ブロック (図VI-2-1~62 表VI-2-1・2 図版51~53、107~114)

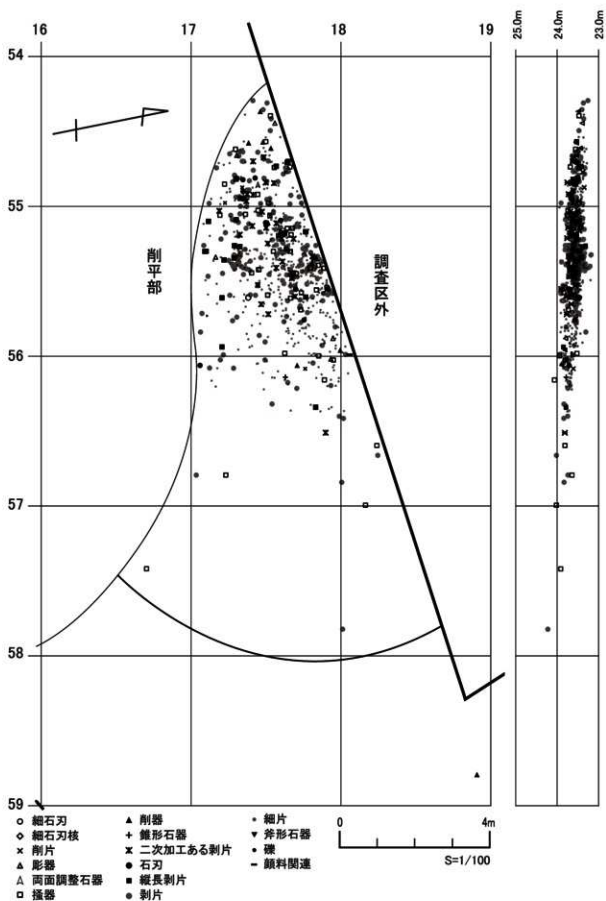
SB-1 (図VI-2-1~12 図版51・52・107・108)

位置 16-57、17-54~57、18-55~57区

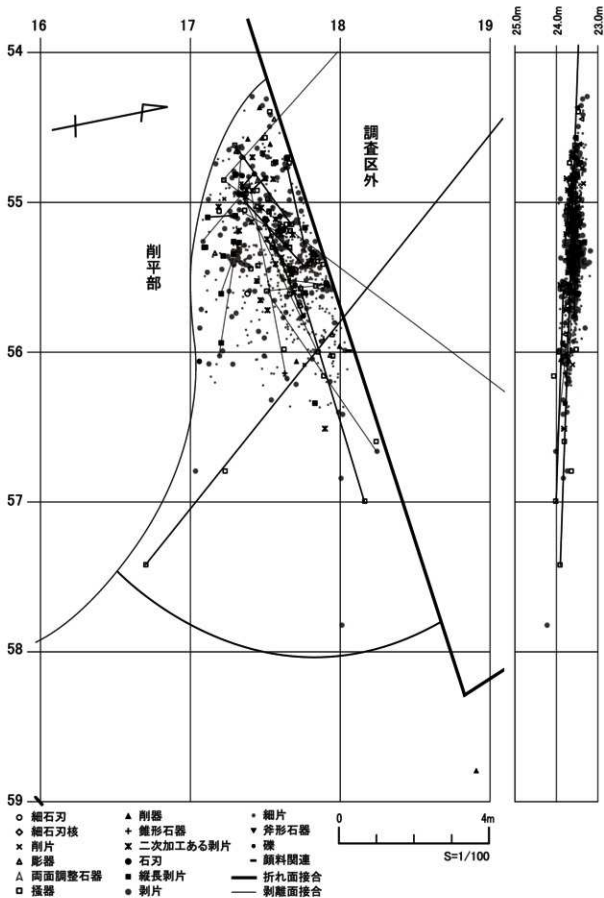
地形 急斜面に続く平坦部際に位置する。標高は約23.2~24.2mである。

調査 IX層まで削平されていた16・17-55区付近の清掃を行っていたところ、隣接する17-54区から崩落したV層土から忍路子型細石刃核等を検出した。旧石器の有無を確認する目的で、17-54区付近のV~VI層の調査を行ったところ、旧石器がまとめて出土したため、旧石器時代の石器ブロックと認定し、調査を行った。SB-1は南西側が削平され、北側が調査区外のため部分的な調査にとどまる。遺物はV1層上面からVII2層上位にかけて連続的に出土し、平面分布及び層位を確認しながら面的に掘り下げた。遺物の取上げ方法は点取りを原則とし、さらに細石刃等の微細遺物の回収を目的として遺物の集中する17-54~56区のVI・VII層に関しては土壌の水洗選別を行った。最終的に石器はVII2層上位まで出土し、石器が出土しなくなった面から10cm程度掘り下げて石器が出土しないことを確認して調査を終了した。石器ブロック範囲内のVII層から出土した炭化物1点について、放射性炭素年代測定を行ったところ、4580±40yrBPという結果が出た(北埋調報284 付篇2)。

分布 調査範囲内の遺物平面分布範囲は、東西約15m、南北約8mを測る。平面分布の密度は17-54・55区と17-56区西側が高く、遺物はこの範囲に最も集中する。グリッド別の出土点数は、17-55区が1,495点(内水洗選別遺物951点)、17-54区が306点(内水洗選別遺物174点)、17-56区が119点(内水洗選別遺物71点)で他のグリッドは10点以下となる。また、16-54区出土の石器類は17-54区から崩落したV層中から出土したものである。器種ごとの分布には大きな違いはなく、剥片・細片を除いたほとんどが17-54~56区の集中範囲から出土している。垂直分布は地形に沿って、東側が高く西側が緩やかに低くなる傾向がみられる。点取り遺物742点の層位別出土点数はIII層4点(1%)、V層233

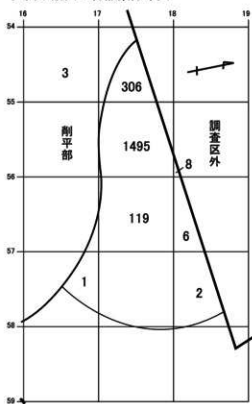


図VI-2-1 SB-1遺物分布図

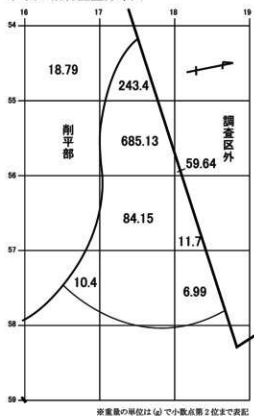


図VI-2-2 SB-1遺物接合状況図

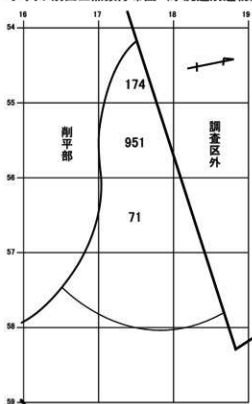
グリッド別出土総点数分布図



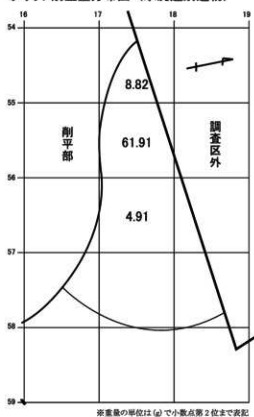
グリッド別総重量分布図



グリッド別出土点数分布図(水洗選別遺物)



グリッド別重量分布図(水洗選別遺物)



図VI-2-3 SB-1遺物点数・重量分布図

点(31%)、VI層166点(22%)、VII層339点(46%)となり、VII層が最も多く、次いでV層となる。器種別では定型的な石器類はV・VI層出土が多く、VII層出土は少ない傾向がみられる。

**石器・石材組成** 総点数1,942点、総重量1120.28gの石器類が出土した。取上げ方法別の内訳は点取り742点(1025.83g)、調査区一括3点(18.79g)、水洗選別1,197点(75.66g)である。器種別の内訳は、細石刃19点、細石刃核1点、削片20点、彫器6点、両面調整石器3点、搔器39点、削器10点、錐形石器1点、二次加工ある剥片31点、石刃14点、縦長剥片25点、剥片233点、細片1,532点、斧形石器1点、礫2点、顔料関連遺物5点である。

石材別の内訳は、黒曜石1,884点、頁岩46点、凝灰岩5点、泥岩1点、砂岩1点、褐鉄鉱5点である。凝灰岩製の石器には、斧形石器の破片が1点含まれる(未掲載)。分布は石材ごとの違いはあまりなく、石器の多くが17-54~56区にかけての集中範囲から出土している。

**接合状況** 剥離面接合資料は13例、折れ面接合資料16例が得られた。剥離面及び折れ面接合の接合点数は2~4点と少量である。剥離面接合資料は剥片のみで構成されるものが多いが、彫器と削片、搔器と石刃の接合例もみられる。接合範囲はSB-1の集中範囲内で接合するものが多い。ブロック間接合としてSB-1出土の削片がSB-2出土の彫器と接合した例(頁岩・接合114)とSB-1・2出土の彫器が折れ面接合し、さらにSB-3出土の搔器と剥離面接合した例(黒曜石3・接合61)がある。

#### 出土石器(図VI-2-4~6 表VI-2-1 図版107・108)

##### 細石刃(図VI-2-4-1~4 図版107)

19点出土し、その内4点図示している。小形で長さ1.1~1.4cm、幅0.3~0.4cm、厚さ0.1~0.2cmを測る。背面の稜は側縁に平行し、側面観は腹面側にゆるく湾曲する。1~4は全て黒曜石製である。1は末端部側を折損する。2~4は背面に細石刃核右側面を取り込むものである。

##### 細石刃核(図VI-2-4-5 図版108)

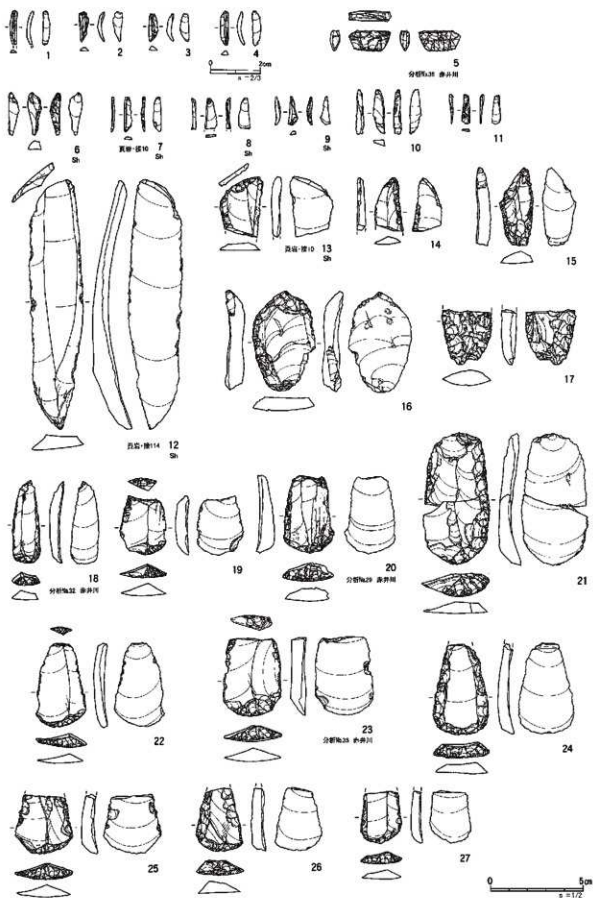
1点出土し、図示している。16-54区でV層崩落土中から出土した。小型で細い両面調整を細石刃核母型とし、縁辺に沿った削片剥離により打面を作出し、削片剥離の打面側を作業面として細石刃が剥離される。削片剥離は最低4回行われる。作業面の長さは約1.1cm、幅は0.5cmを測る。石材は黒曜石で、原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。

##### 削片(図VI-2-4-6~11 図版107)

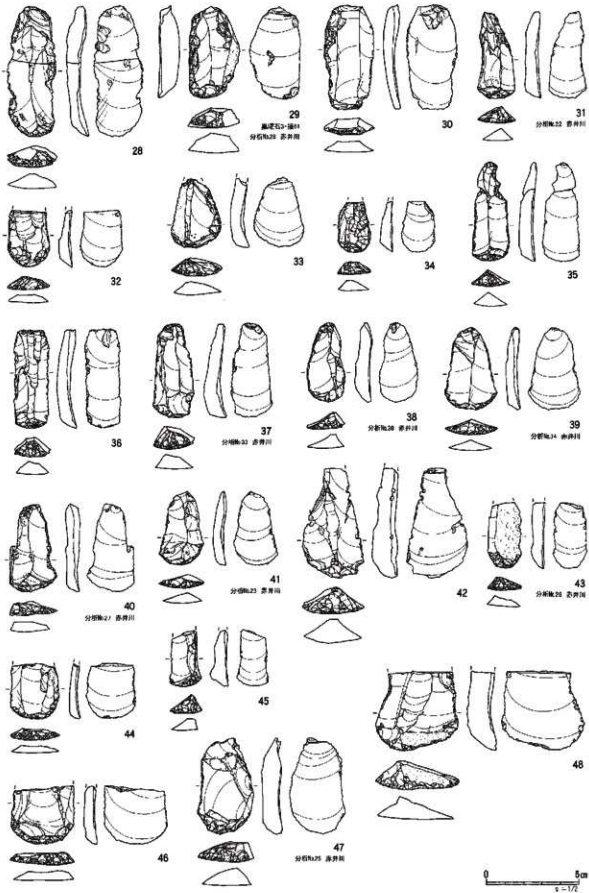
20点(20個体)出土し、その内6点(6個体)図示している。6~10は全て彫器の二次削片である。石材は6~9は頁岩、10・11は黒曜石である。6~10は素材の左側縁で剥離された削片で、削片剥離は腹面側に傾く。6~8は先行する削片剥離後、削片剥離面から背面側に細かい加工が施される。7は13の彫器に剥離面接合する。8は末端部側を折損する。10は右側面、11は背面(彫刀面)に細かい調整が施されるものである。

##### 彫器(図VI-2-4-12~16 図版52・108)

6点(6個体)出土し、その内5点(5個体)図示している。12~16は左斜刃型の彫器である。石材は12・13が頁岩、14~16が黒曜石である。12~15は石刃もしくは縦長剥片を素材とするものである。12・13・15は彫刀面を素材の打点側に、14は末端側に作出する。12~14は彫刀面が腹面側に傾くものである。12は大型の石刃を素材とし、長さ13.3cm、幅2.9cmを測る。彫刀面打面には細かい調整が施され、背面及び腹面の両側縁に剥離痕が点在する。この彫器はSB-2出土の削片(SB-2・37)とブロック間で接合する(頁岩・接合114)。13は背面左側縁には細かい加工が施され、右側縁には微



図VI-2-4 SB-1の石器(1)



図VI-2-5 SB-1の石器(2)



細な剥離痕がわずかにみられる。削片剥離後には彫刀面側から背面側に細かい加工が施される。14・15は彫刀面と器体長軸のなす角度が比較的鋭角となるもので、削片剥離後に彫刀面側から背面に細かい加工が施される。また、背面右側縁と腹面左側縁下部には細かい加工が施される。15は彫刀面が背面側に傾くもので、背面両側縁には急角度の二次加工が施される。16は厚みのある削片を素材とするもので、左側縁上部と右側縁下部に彫刀面が作出される。左側縁には急角度の二次加工が連続的に施される。また、左側縁上部の彫刀面打面はノッチ状に加工される。

#### 両面調整石器 (図VI-2-4-17 図版108)

3点(3個体)出土し、その内1点(1個体)図示した。3点全て折損している。17は上部を折損する。周縁部から細かい調整が施され、断面形はやや厚い凸レンズ状を呈する。石材は黒曜石である。

#### 搔器 (図VI-2-4-5-18~48 図版108)

39点(37個体)出土し、その内33点(31個体)図示した。石刃を素材とするものが多い。平面形は基部の幅がやや細く、刃部にかけて幅が広がるものが主体である。刃部は全て素材の末端部側に作出され、刃部角は急角度のものが多い。刃部形状は弧状が多く左肩下がりになるものもみられる。石材は全て黒曜石で、その内12点(18・20・23・29・31・37~41・43・47)について黒曜石原産地推定を行った結果、全て赤井川産と判定されている。18~20・22・23は基部に二次加工が施されるものである。18は小型で、基部は二次加工により実る形状となる。両側縁には微細な剥離痕がみられる。19・20・23は基部が二次加工により緩く内湾する。19は折れ面に細かい加工が施され、左側縁にはやや平坦な剥離が施される。20は背面に原礫面を残し、左下部には複数のパンチ痕が認められる。22は基部が平坦に加工されるもので、刃部は左肩下がりになる。両側縁には不連続な微細な剥離痕がみられる。23は折れ面に細かい加工が施される。刃部は左肩下がりで、両側縁には不規則な形状の剥離が施される。

21・24~34は側縁に二次加工が施されるもので、21・24~28は両側縁に二次加工が施される。21は2点がブロック間で折れ面接合したもので、刃部側がSB-1出土、基部側はSB-3出土である。やや刃部が張り出す幅広の搔器で、二次加工は左側縁の上部と右側縁に施される。24~27は基部を折損するものである。24は刃部がごく緩い弧状となる。両側縁にはやや大きな剥離が連続的に施される。25は刃部左側がやや張り出す形状である。両側縁には不規則な形状の剥離が連続的に施される。26は削片素材で刃部は右肩下がりととなる。右側縁上部と左側縁にやや大きな剥離が連続的に施される。27は刃部が左肩下がりで中央付近がやや張り出す形状である。両側縁には細かい調整が施される。28は刃部が右肩下がりで、左側縁上部と右側縁中央付近に二次加工が施される。

29~35は一側縁に二次加工が施されるものである。29は刃部が厚く、やや左肩下がりととなる。背面に原礫面を残し、左側縁は連続する二次加工により直線的になる。30は両設打面の石刃核から剥離された石刃を素材とし、刃部は薄く平面形状は直線的である。左側縁に二次加工が施され、右側縁下半部には連続する微細な剥離痕がみられる。31は石刃核側面を取り込むもので、背面左側に横位の剥離痕がみられる。右側縁上部に二次加工が施され、背面刃部際にパンチ痕がみられる。32~34は基部側を折損する。32は刃部がやや張り出し、両側縁には連続する微細な剥離痕がみられる。左側縁上部には二次加工が施される。33は背面に原礫面を残し、刃部際に複数のパンチ痕がみられる。刃部は左肩下がりで、右側縁には連続的な二次加工が施される。34は小型で厚い刃部をもつもので、右側縁に連続的な二次加工が施される。35は刃部がやや左肩下がりで、右側縁上部は二次加工によりノッチ状になる。

36~41は側縁に二次加工が施されないものである。微細な剥離痕がみられるものが多い。36は刃部

が厚く、両側縁はほぼ平行する。37は背面の一部に原礫面を残し、刃部はやや右肩下がりになる。背面刃部付近の稜はやや潰れ、右側縁下部には大きな剥離が施される。38は刃部がやや張り出す。39は薄身の石刃を素材とする。40・41は刃部が左肩下がりになるものである。40は左側面に原礫面を残し、刃部は緩い弧状を呈する。41は石刃核側面を取り込むもので、背面右側に横位の剥離痕がみられる。

42~46は基部側を折損するものである。42は背面に一部原礫面を残す。背面刃部付近の稜は潰れ、刃部は右肩下がりになる。刃部際にはパンチ痕がみられる。43は背面右側に大きく原礫面を残し、刃部は張り出す形状である。44・46・48は刃部が薄く、平面形状は緩い弧状を呈する。48の刃部は左肩下がりで、刃部付近には原礫面がみられる。45は幅が狭く厚みのある石刃を素材とし、刃部は左肩下がりになる。47は剥片素材で、基部側の折れ面と右側縁中央付近に細かい二次加工が施される。

#### 削器 (図VI-2-6-49~53 図版108)

10点(10個体)出土し、5点(5個体)図示した。石材は全て黒曜石で、折損するものが多い。49は大型で上下を折損し、両側縁の細かい二次加工により直線的な刃部が作出される。50は両側縁に二次加工が施され、右側縁は急角度、左側縁は緩い角度の刃部が作出される。51・52は角礫素材の石核から剥離された剥片を素材とする。51は縦長剥片を素材とし、左側縁に二次加工が施され刃部が作出される。52は上部を折損し、両側縁上部側に直線的な刃部が作出される。53は石刃素材と推定され、下部を折損する。左側縁に刃部が作出されるが、右側縁にも二次加工が部分的に施される。

#### 錐形石器 (図VI-2-6-54 図版108)

1点出土し、図示した。54は両側縁から背面全体に二次加工が施され、尖頭部が作出される。上部を折損し全体の形状が不明なため、削器等の石器の可能性もある。石材は黒曜石で、黒曜石原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。

#### 二次加工ある剥片 (図VI-2-6-55~57 図版108)

31点(26個体)出土し、3点(3個体)図示した。石材は全て黒曜石で、55については黒曜石原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。55は背面左側に原礫面を残す。厚みのある剥片を素材とし、上下部及び一側縁に二次加工が施される。56は下部を折損する。石刃を素材とし、腹面にも二次加工が施される。57は幅の広い石刃もしくは縦長剥片の両側縁に部分的な二次加工が施される。上下部を折損するため、全体の形状は不明で削器の可能性もある。

#### 石刃 (図VI-2-6-58~61 図版108)

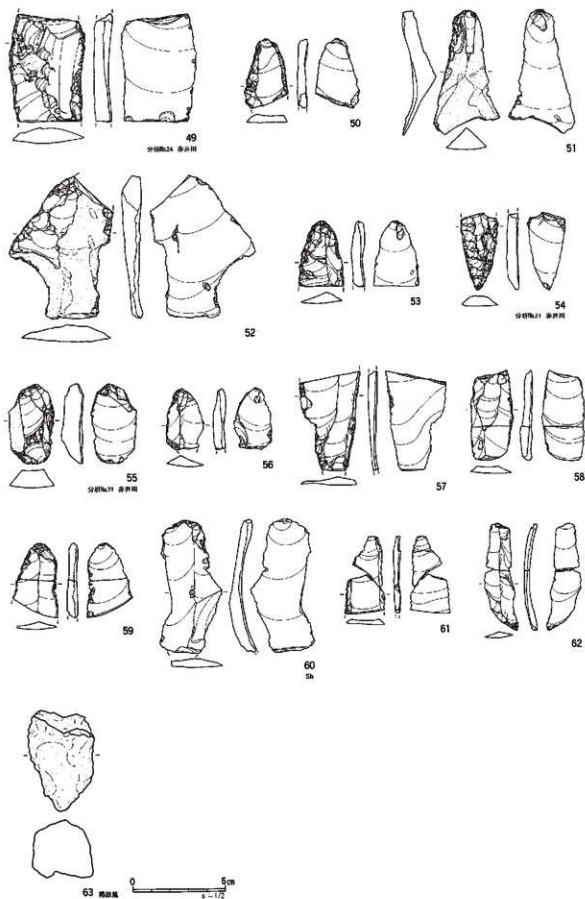
14点(12個体)出土し、6点(4個体)図示した。図示していないものも含め小型のものが多く、全て折損している。石材は58・59・61が黒曜石で、60は頁岩である。58は打点側を折損し、末端部がややヒンジフラクチャーとなる。59は末端側を折損し、両側縁には微細な剥離痕がみられる。60は頁岩製で、側面観は腹面側にやや湾曲する。61は薄身のもので、上下部を折損する。

#### 縦長剥片 (図VI-2-6-62 図版108)

25点(21個体)出土し、1点図示した。小型のものが多く、ほとんどが折損しているため、石刃が含まれる可能性もある。62は黒曜石製で、末端部に原礫面をわずかに残す。

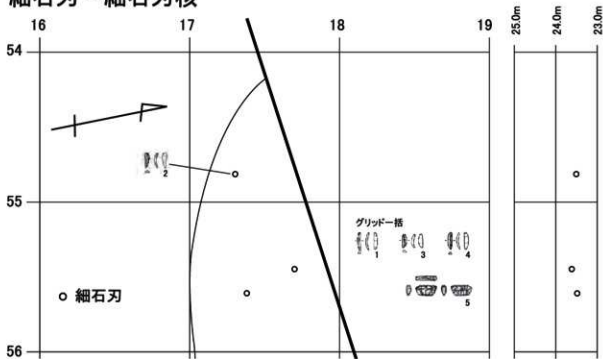
#### 顔料関連遺物 (図VI-2-6-63 図版108)

5点(1個体)出土し、図示した。63は暗赤褐色の顔料原石で、擦り痕は認められない。石材は褐鉄鉱で磁性はない。表面は細かい凹凸があり、一部孔状のくぼみもみられる。

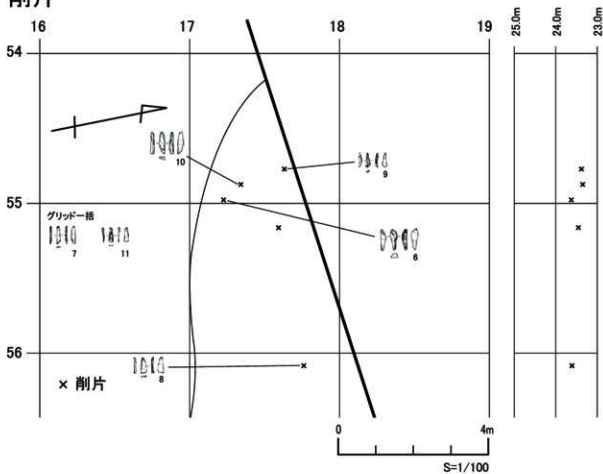


図VI-2-6 SB-1の石器(3)

細石刃・細石刃核

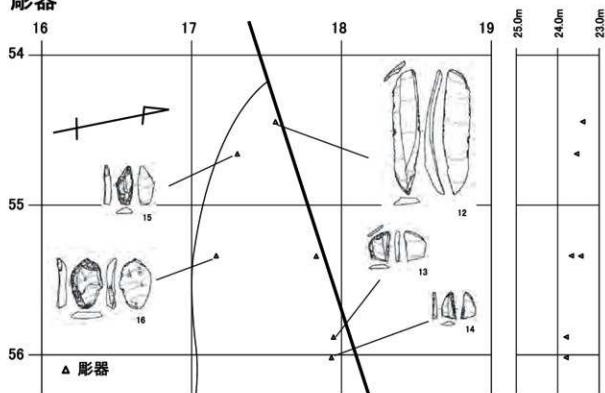


削片

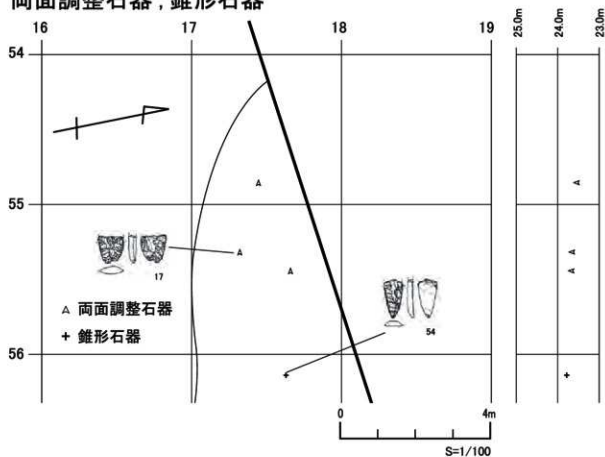


図VI-2-7 SB-1器種別分布図(1)

# 彫器

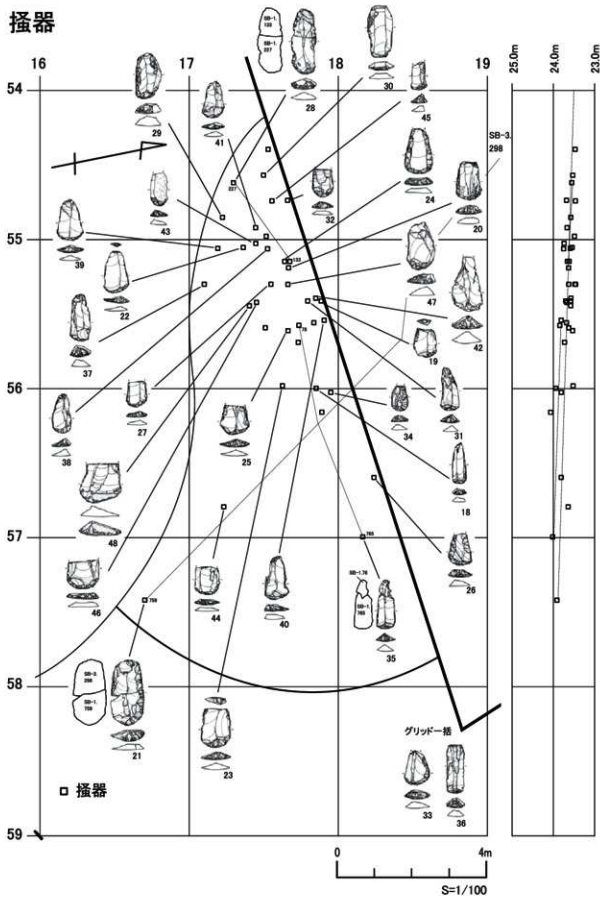


# 兩面調整石器，錐形石器



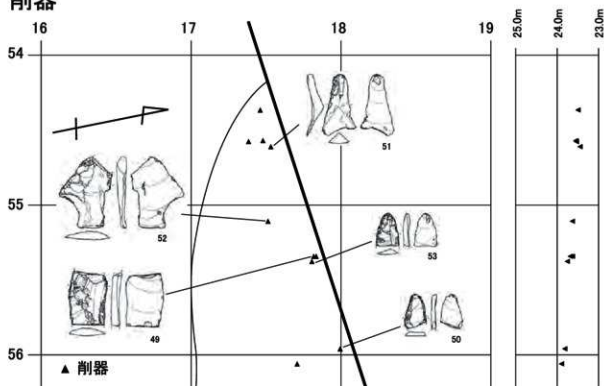
圖VI-2-8 SB-1器種別分布圖(2)

搔器

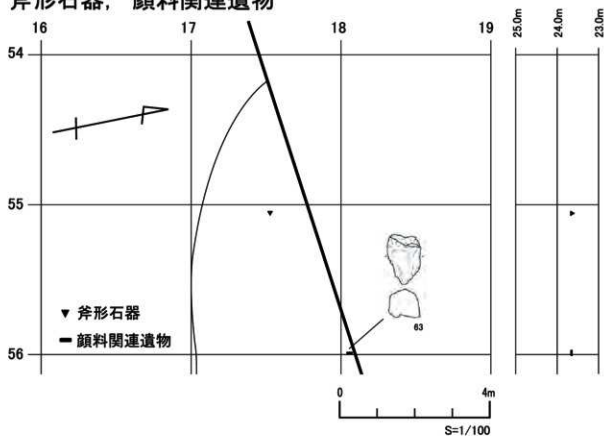


図VI-2-9 SB-1器種別分布図(3)

# 削器

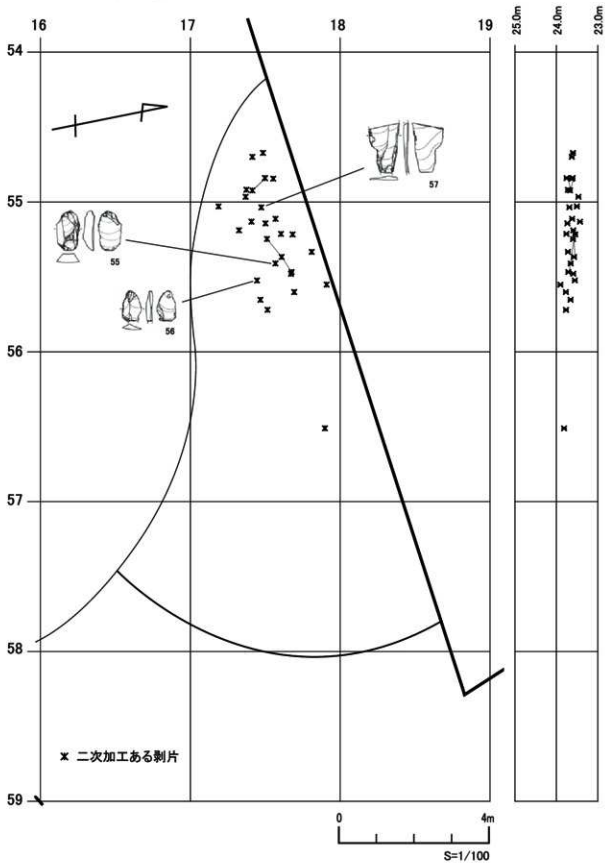


# 斧形石器, 顔料関連遺物



図VI-2-10 SB-1器種別分布図(4)

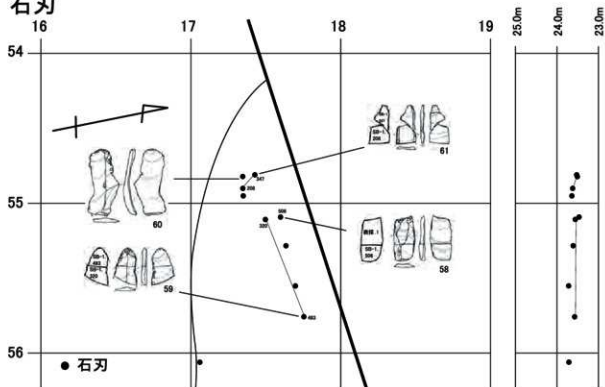
二次加工ある剥片



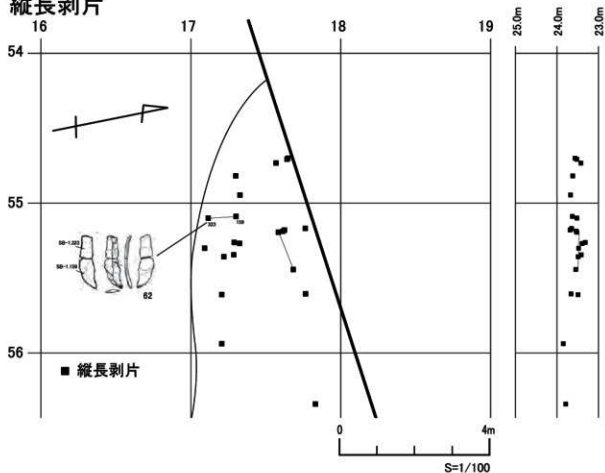
図VI-2-11 SB-1器種別分布図(5)



# 石刃



# 縦長剥片



図VI-2-12 SB-1器種別分布図(6)

## SB-2 (図VI-2-13~38 表VI-2-1・2 図版51~53・107・109~111)

位置 24-61~66、25-60~66、27-59~65、28-59~65、29-59~64、30-60~63、31-60~62、32-60・61区

地形 急斜面に近い平坦部に位置する。標高は約24.5~25.4mである。

調査 地形確認のため29-59~65区にかけて1m幅のトレンチを設定し、調査を行ったところ、V~VII層中にかけて旧石器がまとまって出土したため、旧石器時代の石器ブロックと認定し、調査を行った。遺物はV1層上面からVII2層上位にかけて連続的に出土し、平面分布及び層位を確認しながら面的に掘り下げを行った。遺物の取上げ方法は点取りを原則としたが、VII層に関しては調査期間等の都合から27・28-63、29-62・63区については1調査区を4分割した小グリッドを設定し、1cm以下の遺物は小グリッド一括で取上げた。また、遺物の集中する26~28-63区のVI層とVII層上位に関しては土壌の水洗選別を行った。また、28-63・64区のVI~VII層にかけて、非常に細かい炭化物の集中範囲を検出した。規模は長軸約2.2m、短軸約1.2mで、周辺から焼土は検出されていない。石器の集中範囲とほぼ重なるが、被熱石器の分布範囲とはややずれるため、SB-2との共伴関係は不明である。範囲内の炭化物を採取し放射性炭素年代測定を3点について行ったところ、18,570±80yrBP、18,500±70yrBP、18,350±70yrBPという結果が出た(北埋調報284 付篇2)。最終的に石器はVII2層上位まで出土し、石器が出土しなくなった面から10cm程度掘り下げて石器が出土しないことを確認して調査を終了した。

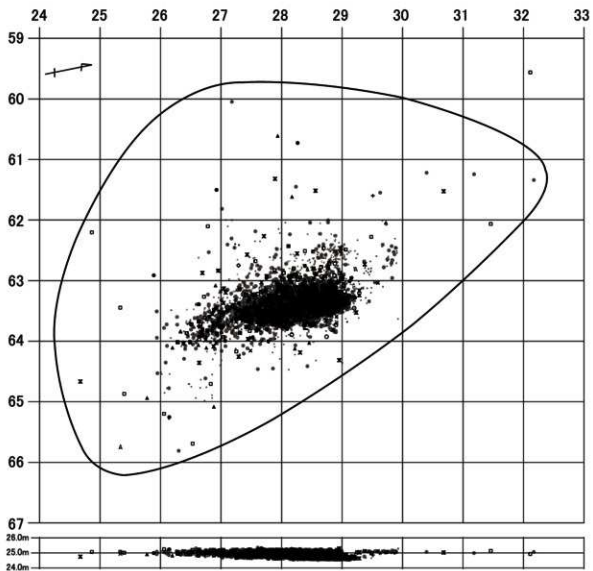
分布 遺物の平面分布範囲は南北方向約35m、東西方向約8mを測る。平面分布の密度は27・28-63区と26-63区北東側が非常に高く、これらの南北約12m、東西3mの範囲から集中して出土している。グリッド別の出土点数は28-63区が12,378点(内水洗選別1,653点)、27-63区が3,291点(内水洗選別753点)で、この2つの発掘区からSB-2出土遺物の90%以上が出土している。器種ごとの分布には大きな違いはなく、主に27~29-63区付近の集中範囲から出土している。垂直分布は平坦に近いが、南側がやや高く、北側にかけて緩やかに低くなる。水洗選別遺物を除いた遺物点数14,344点の層位別出土点数は、III層2点、V層932点(6%)、VI層3,437点(24%)、VII層9,973点(70%)で、VII層が最も多く、VI層が次ぐ量である。器種別でみると出土点数に比例して全体的にVII層出土が多いが、搔器、削器などVI層出土が最も多いものもある。

石器・石材組成 総点数16,762点、総重量8686.57gの石器類が出土した。取上げ方法別の内訳は点取り7,173点(8160.72g)、グリッド一括7,171点(382.02g)、水洗選別2,418点(143.83g)である。

器種別の内訳は、細石刃104点、細石刃核2点、削片203点、彫器30点、尖頭器3点、両面調整石器2点、搔器176点、削器36点、錐形石器4点、二次加工ある剥片217点、石刃179点、縦長剥片138点、石核32点、剥片1,997点、細片13,587点、斧形石器1点、たたき石2点、砥石1点、礫18点、顔料関連遺物30点である。

石材別の点数は、黒曜石16,020点、頁岩629点、珪岩13点、泥岩46点、砂岩15点、安山岩8点、玄武岩1点、褐鉄鉱30点である。分布は石材ごとの違いはあまりなく、多くが27・28-63区の集中範囲から出土している。器種別の石材傾向をみると、定型的な石器は全体的に黒曜石製が多いが、削片、彫器、尖頭器は頁岩製が最も多い。また、礫石器類は全て砂岩製である。

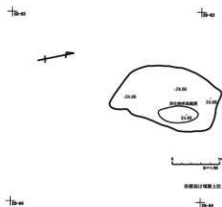
接合状況 剥離面接合資料は63例、折れ面接合資料146例が得られた。剥離面接合資料の1個体あたりの接合点数は2~95点で、その内10点未満のものが80%以上を占める。折れ面接合資料の接合点数は2~10点で、その中では2~5点のものが多く。剥離面接合資料は剥片のみで構成されるものが30例と最も多い。定型的な石器を含むものとして搔器を含むものが9例、削器を含むものが4例、他に



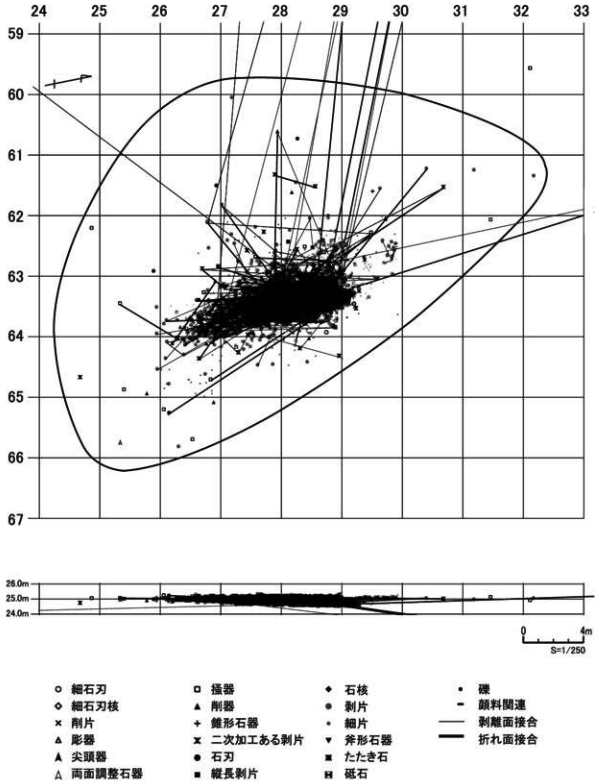
- |            |        |
|------------|--------|
| ○ 細石刃      | ◆ 石核   |
| ◇ 細石刃核     | ● 剥片   |
| × 削片       | • 細片   |
| △ 彫器       | ▽ 斧形石器 |
| ▲ 尖頭器      | ■ たたき石 |
| △ 両面調整石器   | ■ 砥石   |
| □ 搔器       | • 礫    |
| ▲ 削器       | - 顔料関連 |
| + 錐形石器     |        |
| × 二次加工ある剥片 |        |
| ● 石刃       |        |
| ■ 縦長剥片     |        |

0 4m  
S=1/250

炭化物集中範囲図

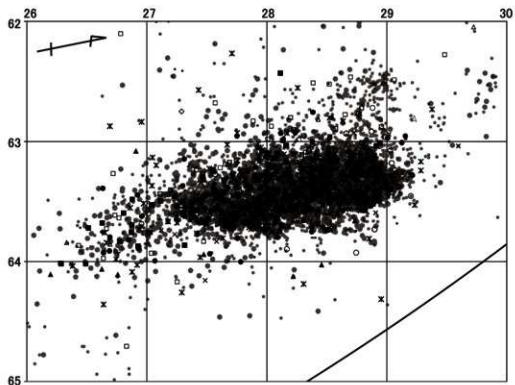


図VI-2-13 SB-2遺物分布図・炭化物集中範囲図

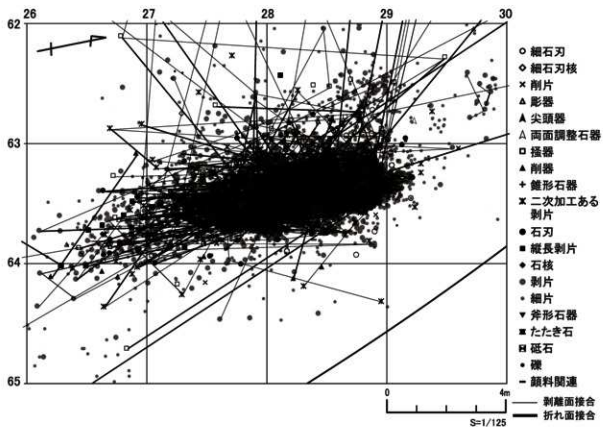


図VI-2-14 SB-2遺物接合状況図

SB-2遺物分布図（集中範囲）

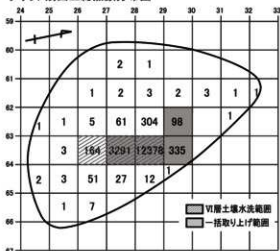


SB-2接合状況図（集中範囲）



図VI-2-15 SB-2遺物分布図・遺物接合状況図（集中範囲）

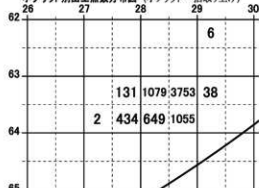
グリッド別出土総点数分布図



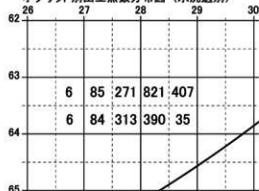
小グリッド別出土総点数分布図 (小グリッド不明遺物は除く)



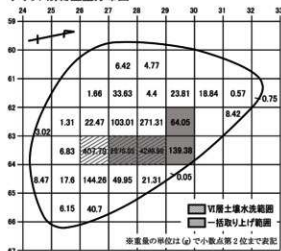
小グリッド別出土総点数分布図 (小グリッド一括取り上げ)



小グリッド別出土総点数分布図 (水洗選別)



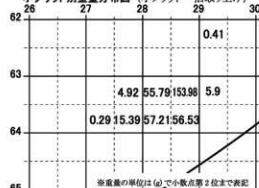
グリッド別総重量分布図



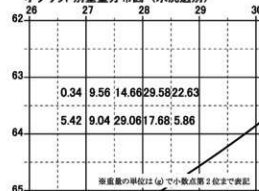
小グリッド別総重量分布図 (小グリッド不明遺物は除く)



小グリッド別重量分布図 (小グリッド一括取り上げ)



小グリッド別重量分布図 (水洗選別)



図VI-2-16 SB-2遺物点数・重量分布図

彫器と削片、削片同士の接合、石刃と石核、剥片と石核の接合例などが少量ある。接合範囲はSB-2の集中範囲内で接合するものが多いが、ブロック間接合として、剥離面接合ではSB-1やSB-3との接合例があり、折れ面接合ではSB-3出土の石刃と接合する例がある。また、SB-1・2出土の彫器が折れ面接合し、さらにSB-3出土の掘器と剥離面接合した例（黒曜石3・接合61）もある。

**出土石器**（図VI-2-17~25 表VI-2-1・2 図版52・53・107・109~111）

**細石刃**（図VI-2-17-1~22 図版107）

104点（104個体）出土し、その内22点（22個体）図示している。小形で長さ1.1~1.9cm、幅0.2~0.5cm、厚さ0.1~0.3cmを測る。背面の稜は側縁に平行し、平面形は、頭部と末端部が比較的狭く、中間部がやや膨らむ形状のものが多い。側面形は腹面側に緩く湾曲するものが多い。石材は全て黒曜石である。1~3は完形のものである。1は比較的大型で長さは1.9cmである。側面はやや大きく湾曲する。2・3は小形のもので長さは共に1.1cmを測る。側面の湾曲は緩やかである。4~11は末端部側を折損するものである。12~21は背面に細石刃核の右側面を取り込むもので、12~15は完形で、16~21は末端部側を折損する。22は背面に細石刃核の左側面を取り込むもので、末端部を折損する。**細石刃核**（図VI-2-17-23・24 図版52・109）

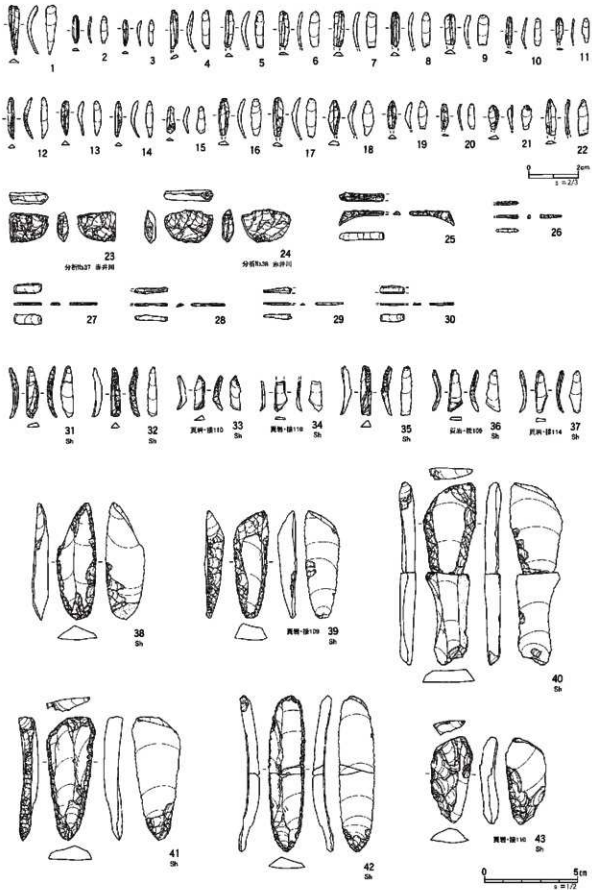
2点（2個体）出土し、2点共に図示している。小型で細長い両面調整体を細石刃核母型とし、縁辺に沿った削片剥離により打面を作出し、削片剥離の打面側を作業面として細石刃が剥離される。素材は共に不明だが、24は作業面逆側の端部に原礫面を残す。石材は2点共に黒曜石で、原産地推定を行った結果どちらも赤井川産と判定されている。23は作業面の逆側を折損する。細かい平坦剥離により丁寧に仕上げられた両面調整体を細石刃核母型とし、削片剥離は最低1回行われる。作業面は幅0.5cm、長さ1.2cmを測る。最も新しい細石刃剥離時にヒンジフラクチャーとなり、最終的に遺棄している。24は幅約1.7cmの両面調整体を母型とするもので、左側面下縁はやや粗い加工が施され、上下縁はやや潰れ気味である。削片剥離は最低4回行われ、2回目の削片剥離時に末端部がヒンジフラクチャーとなり、その後の削片剥離でも修正できずに最終的に遺棄されたと考えられる。

**削片**（図VI-2-17-25~37 図版107）

203点（201個体）出土し、その内15点（13個体）図示している。25~30は細石刃核削片で、石材は全て黒曜石である。26は断面三角形の一次削片で、末端部側を折損する。25・27~30は二次削片で、背面と腹面の打点方向は一致する。断面形状は下辺の長い台形状である。25は打点側を折損する。末端側はウートラバッセ気味になり、背面末端部には原礫面をわずかに残す。先行する削片剥離は最低4回行われる。27は打面が細石刃剥離作業面であり、細石刃剥離に伴う打面調整によるものである。28は末端部側を折損し、先行する削片剥離は最低3回行われる。29は打点側を折損し、先行する削片剥離は最低2回行われる。30は打点側と末端部側を折損し、先行する削片剥離は最低2回行われる。31~37は彫器削片で、先行する削片剥離面から素材背面に細かい加工が施される。全て素材の左側縁で剥離された二次削片で、削片剥離は腹面側に傾くものが多い。石材は全て頁岩である。

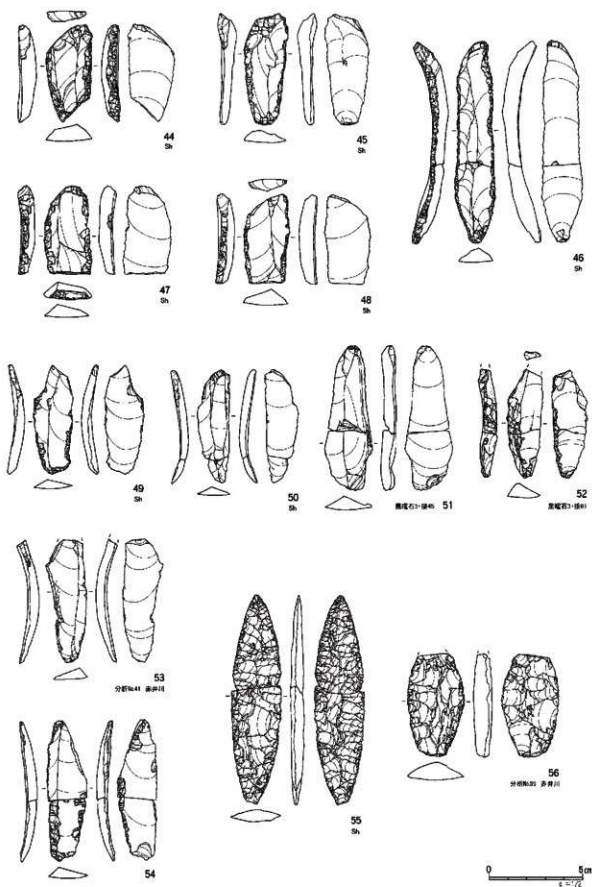
**彫器**（図VI-2-17-18-38~54 図版52・109）

30点（22個体）出土し、その内23点（17個体）図示している。左斜刃型で彫刀面が腹面側に傾くものが多い。素材は石刃もしくは縦長剥片である。彫刀面の部位は素材の打点側にあるもの（38・43・47~51・53・54）と末端部側にあるもの（39~42・44~46・52）に分かれる。38~50は石材が頁岩のもので、全て左斜刃型である。49以外は彫刀面から素材背面に細かい調整が施される。38~49は背面



図VI-2-17 SB-2の石器(1)





図VI-2-18 SB-2の石器(2)

周縁部に加工が施されるもので、彫刀面はいずれも腹面側に傾く。38～40は左側縁、41・42は基部、43は側縁から基部にかけて腹面にも二次加工が施される。彫刀面と石器長軸の角度は、38は比較的鋭角で、39～43は鈍角で横刃型に近い。40は石刃を折った後、末端部側を彫器の素材としている。44～49は背面周縁部に連続的に調整が施されるもので、彫刀面は腹面側に傾くものが多い。44～48は彫刀面の角度が横刃型に近いものである。44は素材背面の両側縁及び末端部に急角度の二次加工が施され、基部が尖る形状である。45・46は背面の両側縁に腹面側からの連続的な二次加工が施される。47・48は基部側が折れ面で、折れ面にも一部調整が加えられる。48・49は彫刀面と腹面のなす角度が直角に近い。50は周縁部に微細な剥離痕がみられる。51～54は石材が黒曜石のもので、53について原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。51・54が右斜刃型、52・53は左斜刃型の彫器で、51・52は彫刀面が腹面側に傾き、背面には原礫面を残す。52は2点が折れ面接合したもので、彫刀面側がS B - 3出土、基部側がS B - 2出土である。背腹両面の左側縁に細かい調整が施される。53は彫刀面が背面側に傾くもので上部を折損する。54は中央付近で折れた後、末端部側の両側縁に細かい調整が施される。

#### 尖頭器 (図VI-2-18-55 図版53・109)

3点(1個体)出土し、図示した。頁岩製で、長さ11.2cm、幅2.7cm、厚さ0.7cmを測る。両面に丁寧な平坦剥離が施され、薄身の柳葉形に仕上げられている。中央付近で折れた後、上部に再加工が施される。

#### 両面調整石器 (図VI-2-18-56 図版109)

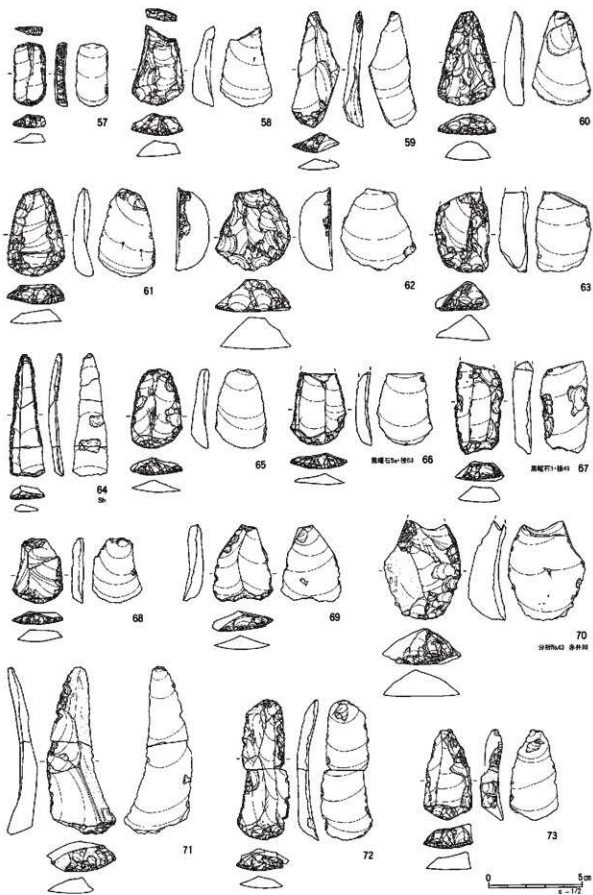
2点(2個体)出土し、その内1点(1個体)図示した。56は上部を折損し、断面形は表面がやや張り出し裏面はほぼ平坦な形状である。尖頭器もしくは細石刃核母型の可能性がある。石材は黒曜石で、黒曜石原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。

#### 掻器 (図VI-2-19-22-57～122 図版53・109・110)

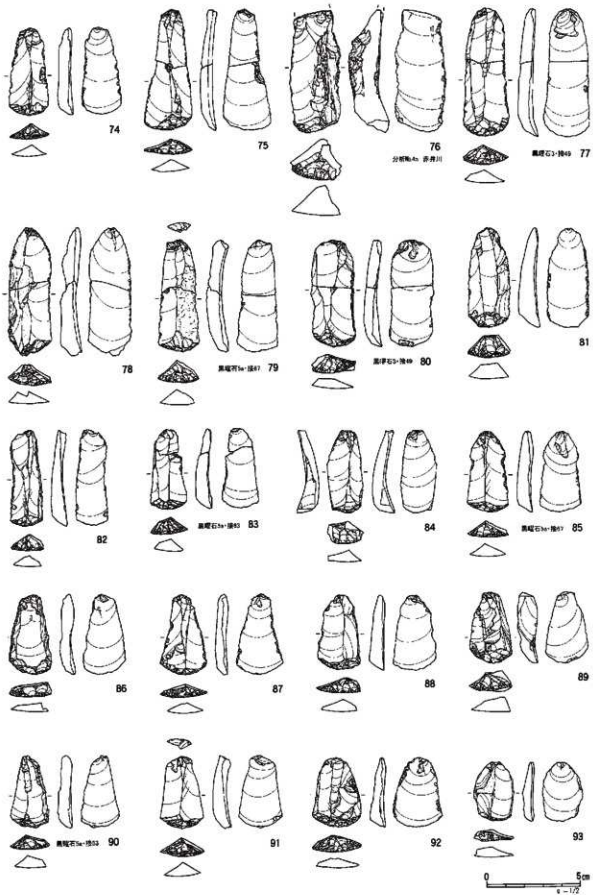
176点(137個体)出土し、その内87点(66個体)図示した。素材はほとんどのものが石刃である。平面形状は基部の幅がやや狭く、刃部にかけて幅が広がるものが多い。刃部は57・120を除き素材の末端部側に作出される。刃部形状は弧状が多く、左肩下がりになるものもみられる。刃部角は全体的に急角度である。また、パンチ痕が認められるもの(62・67・70・72・75・110)が少数ある。石材は64・112・113が頁岩で、他は全て黒曜石である。黒曜石製5点(70・76・101・108・114)について黒曜石原産地推定を行った結果、全て赤井川産と判定されている。

57は素材の両端に刃部が作出されるものである。刃部角は直角に近い。また、右側縁には急角度の二次加工が施される。58・59は基部が尖るもので、58は刃部がやや左肩下がりになる。60～76は側縁に二次加工が施されるもので、60～67は両側縁に二次加工が施される。60・61・65・66は刃部が左肩下がりになる。63・66・67は基部側を折損する。60は剥片素材で、両側縁に急角度の二次加工が施される。62は厚みのある剥片を素材とし、背面刃部際にパンチ痕が認められる。63は刃部が右肩下がりになる。64は頁岩製で被熱による焼けはじけが部分的にみられる。薄身で刃部形状は直線的である。65・66は両側縁に軽微な二次加工が施されるものである。67は刃部がやや抉れる形状で、背面の折れ面付近にパンチ痕が認められる。

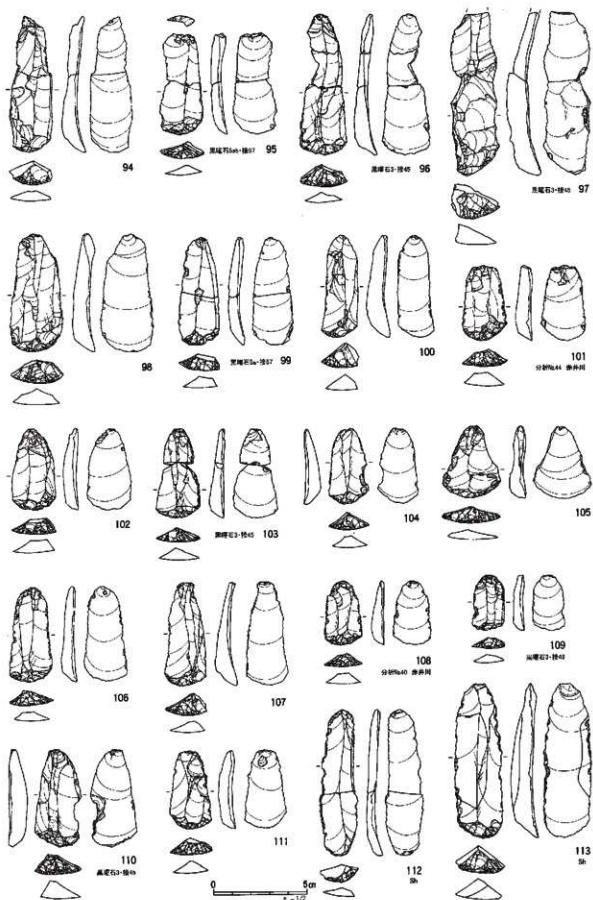
68～76は一側縁に二次加工が施されるものである。二次加工は部分的に施されるものが多い。70～72・76は背面または側面に原礫面がみられる。68・69は小型で刃部が薄いものである。68は右側縁下部に二次加工が施される。69は刃部がやや抉れる形状で、左側縁に散点的な二次加工が施される。70は厚みのある剥片を素材とし、分厚い刃部が作出される。腹面下部にはパンチ痕が認められる。71は



図VI-2-19 SB-2の石器(3)



図VI-2-20 SB-2の石器(4)



図VI-2-21 SB-2の石器(5)

刃部がやや右肩下がりになり、粗い二次加工により刃部が作出される。72は中央付近で折損するが、その後基部側、刃部側共に部分的な再加工が行われる。73は刃部中央付近がやや突出する。74は両側縁に微細な剥離痕がみられる。75・76は刃部が左肩下がりになるものである。75は背面刃部際にバンチ痕が認められる。また、中央付近で折損した後、末端部側の腹面に部分的な二次加工が施される。

77~122は側縁などに二次加工がほとんど認められないものである。側縁に微細な剥離痕がみられるものが多い。78・79・84・90・93・114は背面や側面に原礫面を残す。78は刃部再生時の剥離がヒンジフラクチャーとなり、刃部左側がやや突き出る形状になる。80は刃部がやや右肩下がりになる。81は刃部が厚く、右側面に石核の調整痕を残す石刃を素材とする。82~84は刃部の幅が比較的狭いものである。85~93は小型の搔器である。刃部の厚さはやや薄く、幅は比較的広いものが多い。85は両側縁上部に対向する剥離が施される。86は刃部がやや右肩下がりになる。87は幅の広い石刃を素材とする。88は背面に石核調整痕を残す石刃を素材とする。91は刃部作出時の二次加工が部分的にヒンジフラクチャーとなる。94~109は刃部が左肩下がりになるものである。94は基部がやや尖る。97・100~102は背面に石核調整痕を残す。98・99・104・106・108は稜線の整った石刃を素材とする。103は中央付近で折損した後、末端部側の再加工が行われる。104は右側縁下部が二次加工により抉れる形状となる。105は幅の広い剥片を素材とする。107は背面刃部際にやや潰れる。109はやや粗い加工により刃部が作出される。110~113は刃部形状が右肩下がりのものである。110は左側面に石核調整痕を残す石刃を素材とし、背面刃部際に多数のバンチ痕が認められる。112・113は頁岩製の搔器である。112は急角度の細かい二次加工により薄い刃部が作出される。113は被熱により割れているものである。114~122は基部側を折損するものである。115は刃部がやや突き出て角張る形状になる。116は薄い刃部が作出される。117~121は刃部が左肩下がりになるものである。117・121は石刃素材で左側面に石核調整痕を残す。119~121は刃部形状がごく緩い弧状になる。120は素材の打点側に刃部が作出される。122は石刃剥離初期段階の石刃を素材とする。刃部形状は直線に近く、幅は約1cmと狭い。

#### 削器 (図VI-2-22-123~132 図版110)

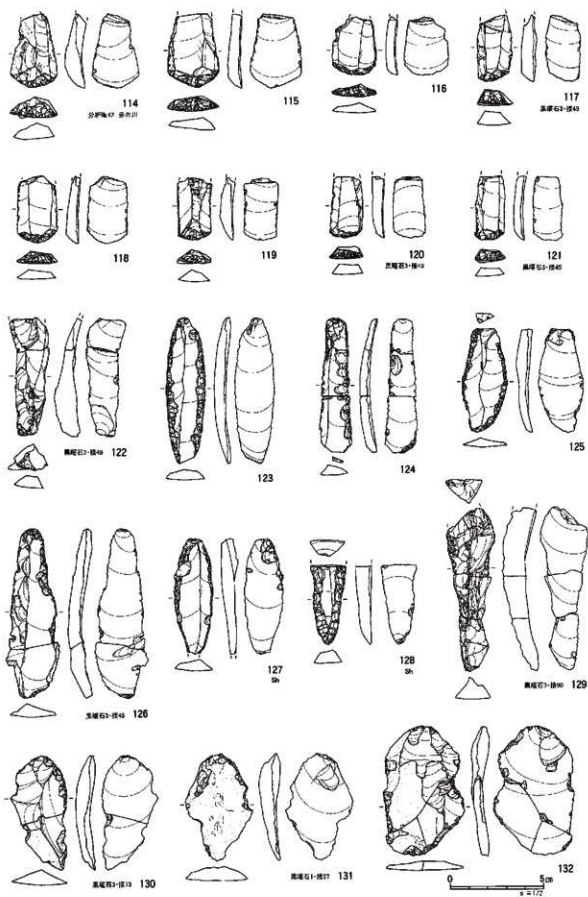
36点 (28個体) 出土し、15点 (10個体) 図示した。石材は123~126・129~132が黒曜石、127・128が頁岩である。123~129は石刃を素材とするものである。123~125・127~129は両側縁に刃部が作出される。123は刃部がやや外湾する。124は直線的な刃部形状で、左側縁は不規則な剥離が施される。また、裏面の左側縁にも部分的な剥離がみられる。125は右側縁から末端部にかけて外湾する刃部が作出される。127は裏面の右側縁上部にも部分的な二次加工が施される。128は上部を折損し、両側縁から末端部にかけて連続的な二次加工が施される。129は稜付石刃を素材とするもので、折れた後打点側の両側縁に刃部が作出される。126は刃部が右側縁に作出され、背面には石核調整痕を残す。130~132は剥片を素材とし、いずれも背面に原礫面を残す。130・131は一側縁に刃部が作出される。132は末端部にも二次加工が施される。

#### 錐形石器 (図VI-2-23-133~135 図版111)

4点 (4個体) 出土し、3点 (3個体) 図示した。石材は133・134が頁岩、135が黒曜石である。いずれも素材の末端部に軽微な加工が施され、尖頭部が作出される。133は石刃素材で両側縁にも上部を中心に二次加工が施される。134・135は幅のある剥片を素材とする。

#### 二次加工ある剥片 (図VI-2-23-136~139 図版111)

217点 (182個体) 出土し、5点 (4個体) 図示した。素材は全て石刃で、石材は136・139が黒曜石、137・138が頁岩である。136・138は左側縁に不連続な二次加工が施される。137は末端部の折れ面の一部に二次加工が施されておらず、搔器の未成品の可能性がある。139は両側縁に部分的な二次加工が施される。



図VI-2-22 SB-2の石器(6)

**石刃**（図VI-2-23・24-140～156 図版111）

179点（151個体）出土し、26点（17個体）図示した。比較的小型のものが多く、幅は1.4～3.6cm、厚さは0.5～1.6cmを測る。ほとんどのものが単設打面の石刃核から剥離されており、剥離に伴い打面調整、頭部調整が施されている。140～152は石材が黒曜石で、140～144はほぼ方形のものである。140は末端部付近の幅が広がるもので、背面に原礫面を残す。141・142は側面に石核調整痕がみられる。142～144は長さ比べ幅が狭い細長い形状のものである。145～151は末端部側を折損するものである。148・151は側面に石核調整痕がみられる。152は打点部側を折損する。153～155は頁岩製のものである。153は背面に原礫面を残す。154は両設打面の石刃核から剥離されたものである。156は珪岩製で側面観がやや捻れる。

**縦長剥片**（図VI-2-24-157～160 図版111）

138点（126個体）出土し、5点（4個体）図示した。157～159は黒曜石製のものである。157はほぼ方形で、158・159は末端部側を折損する。160は頁岩製のものである。

**石核**（図VI-2-24・25-161～166 図版53・111）

32点（16個体）出土し、7点（6個体）図示した。石材は全て黒曜石である。161は石刃核と考えられるもので、作業面の一部と打面を被熱による割れで欠失する。角礫を素材とし、背面に原礫面を残す。単設打面の可能性が高く、作業面には2本の石刃剥離痕を残す。162はほぼ固定された作業面から連続的に剥片が剥離される。原礫面を打面とするが、一部打面調整も行われている。裏面には石核調整痕と考えられる大きな剥離がみられる。剥片剥離時に割れたため、最終的に遺棄されている。163は石刃剥離後の残核を使って剥片剥離を行うものである（黒曜石3・接合45）。角礫素材で、裏面に原礫面を残す。単設打面で、主な作業面を正面及び左側面に設定する。剥片剥離は打面調整を伴って行われるが、最終的に遺棄される。164は正面と裏面を作業面として、求心状に剥片剥離が行われる。角礫素材で、左側面に原礫面を残す。165・166は同一母岩のものである（黒曜石1・接合57）。165は打面と作業面を入れ替えながら、比較的平坦な剥離により礫面が除去される。166は打面と作業面を転移しながら、小型の剥片剥離が行われる。

**顔料関連遺物**（図VI-2-25-167・168 図版111）

30点出土し、5点（2個体）図示した。167・168は黒褐色～暗赤褐色の顔料原石で、擦り痕は認められない。石材は褐鉄鉱で磁性はない。表面には細かい凹凸がみられる。

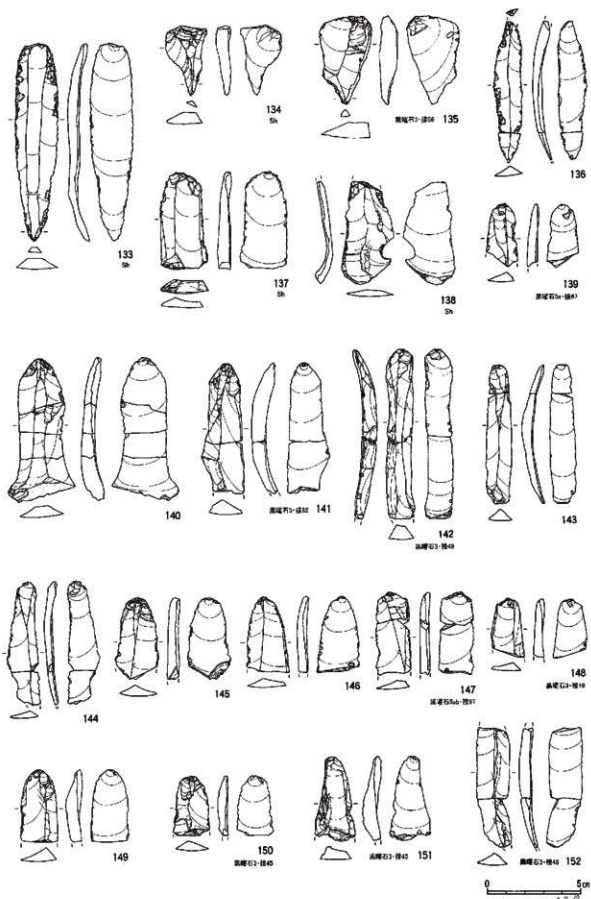
**SB-3**（図VI-2-39～60 表VI-2-2 カラー図版2 図版51～53・107・112～114）

**位置** 31-33～36、32-33～37、33-32～39、34-32～40、34-32～40区

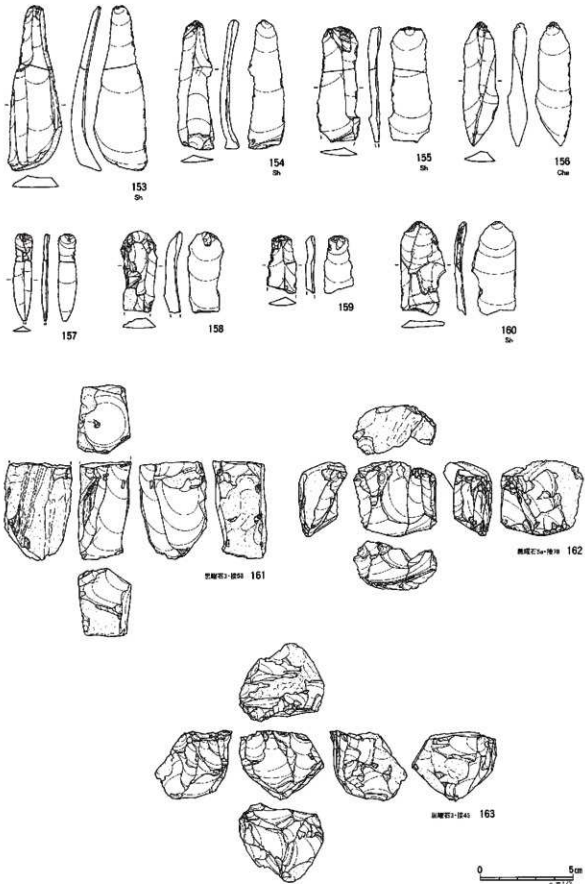
**地形** 急斜面に近い平坦部に位置する。標高は約20.7～22.1mである。

**調査** 33・34-37区のV層を調査中に、旧石器と考えられる石器がまとまって出土した。さらに掘り下げたところVI～VII層中にかけて石器が連続的に出土したため、旧石器時代の石器ブロックと認定し、調査を行った。遺物はV1層上面からVII2層上位にかけて連続的に出土し、石器の平面分布及び層位を確認しながら面的に掘り下げを行った。焼土、炭化物集中などの構構は検出されていない。遺物の取上げ方法は点取りを原則としたが、おおむね1cm以下の遺物は調査区を16分割した小グリッドを設定し、小グリッド一括で取上げた。また、SB-3は調査期間の都合等により土壌の水洗選別を行っていない。石器はVII2層上位まで出土し、石器が出土しなくなった面から10cm程度掘り下げて石器が出土しないことを確認して調査を終了した。

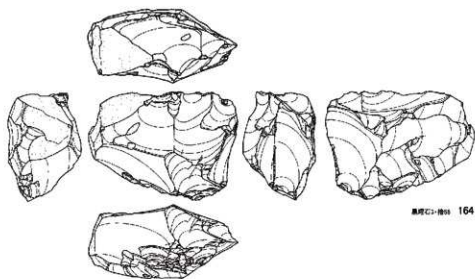




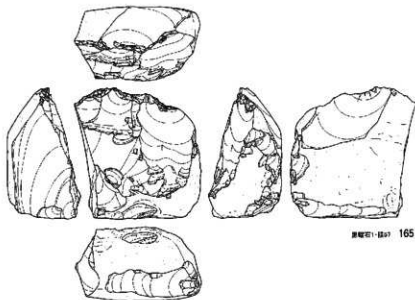
図VI-2-23 SB-2の石器(7)



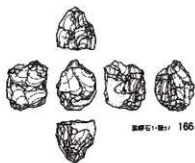
図VI-2-24 SB-2の石器(8)



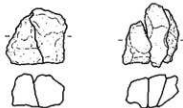
黒塚古石 164



黒塚古石 165



黒塚古石 166



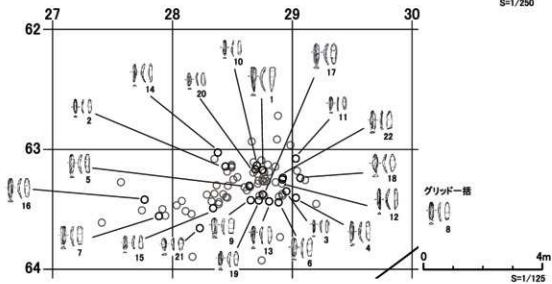
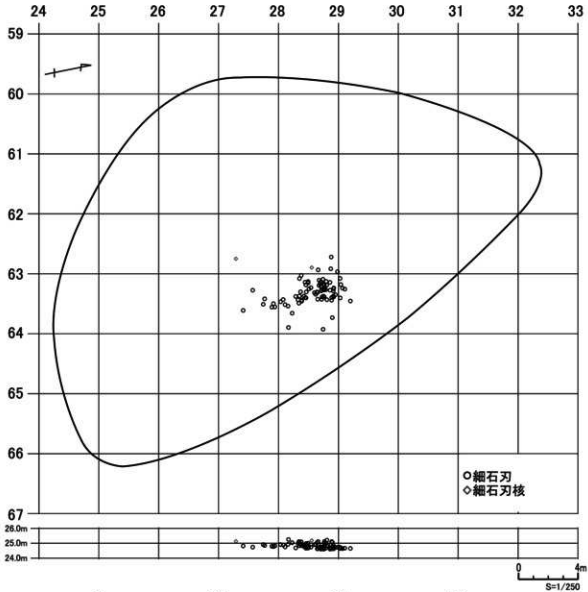
167  
黒塚古石

168  
黒塚古石



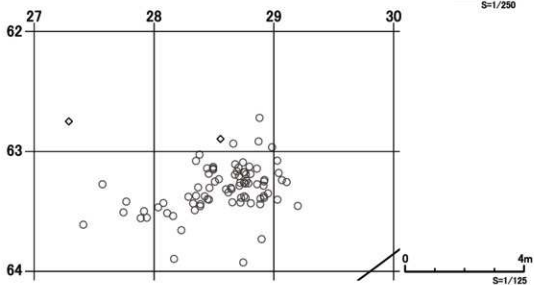
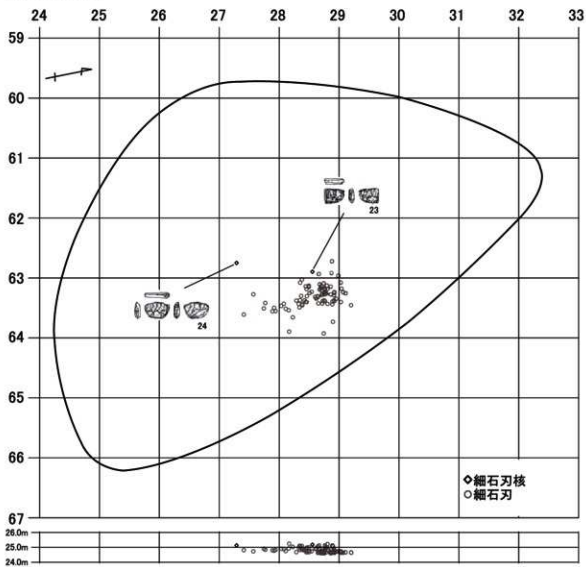
図VI-2-25 SB-2の石器(9)

## 細石刃



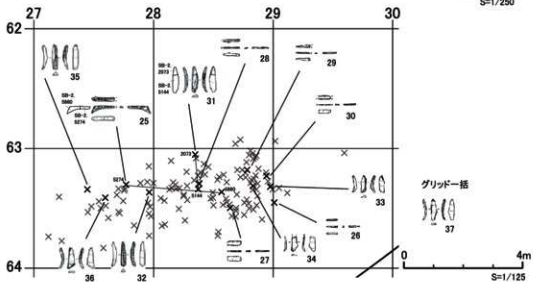
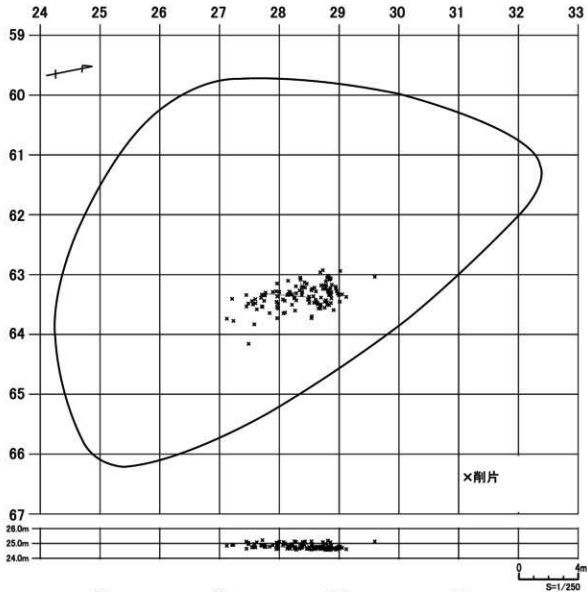
図VI-2-26 SB-2器種別分布図(1)

# 細石刃核



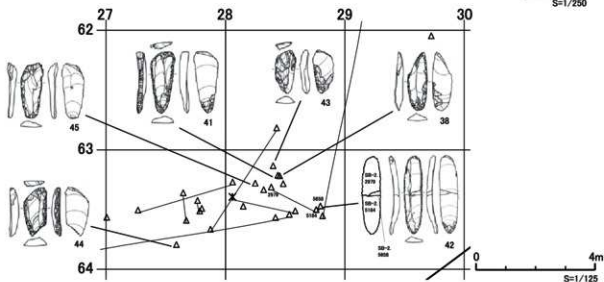
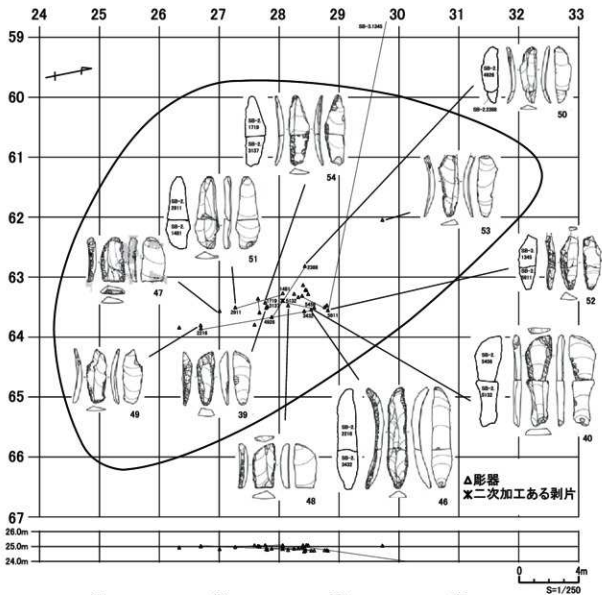
図VI-2-27 SB-2器種別分布図(2)

## 削片



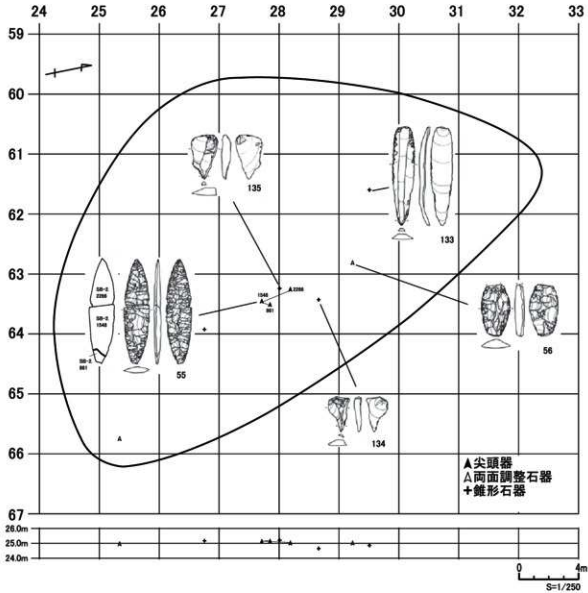
図VI-2-28 SB-2器種別分布図(3)

# 彫器



図VI-2-29 SB-2器種別分布図(4)

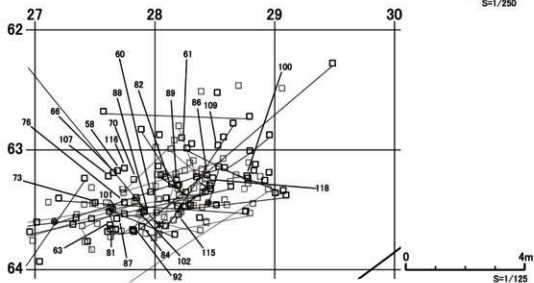
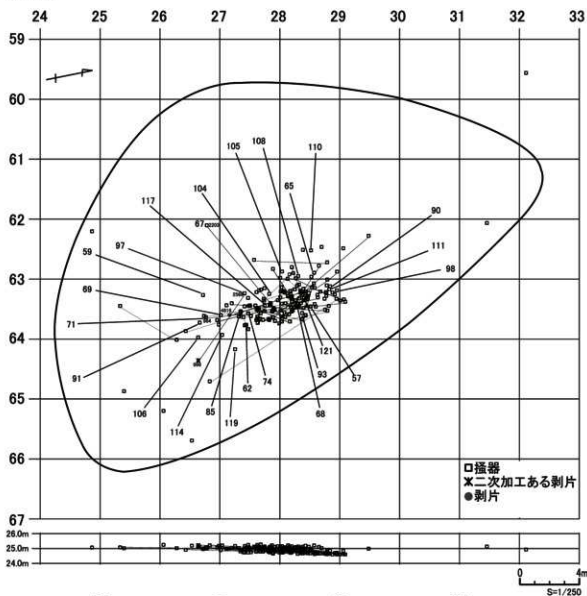
尖頭器, 両面調整石器, 錐形石器



図VI-2-30 SB-2器種別分布図(5)

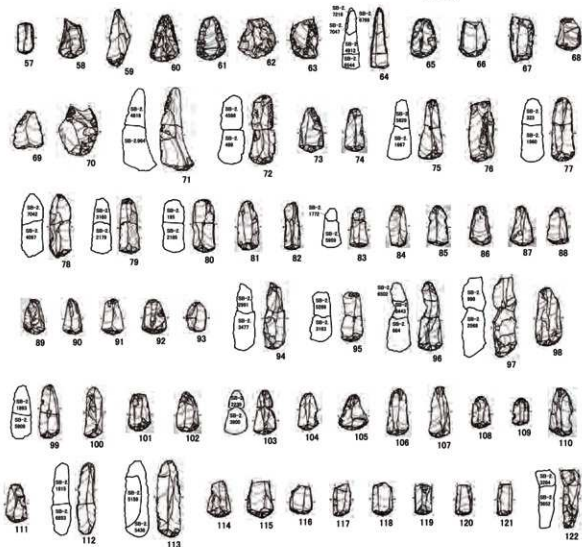
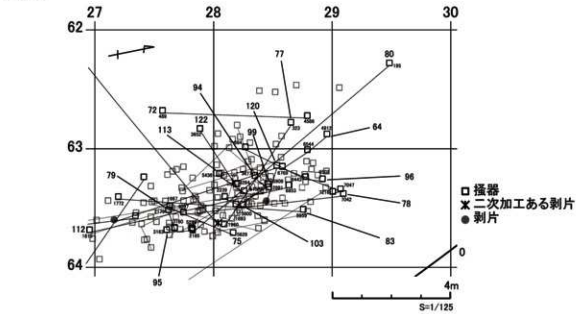


# 搔器



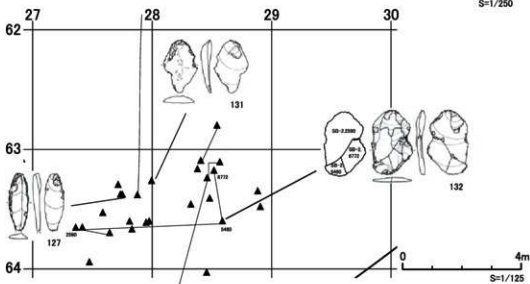
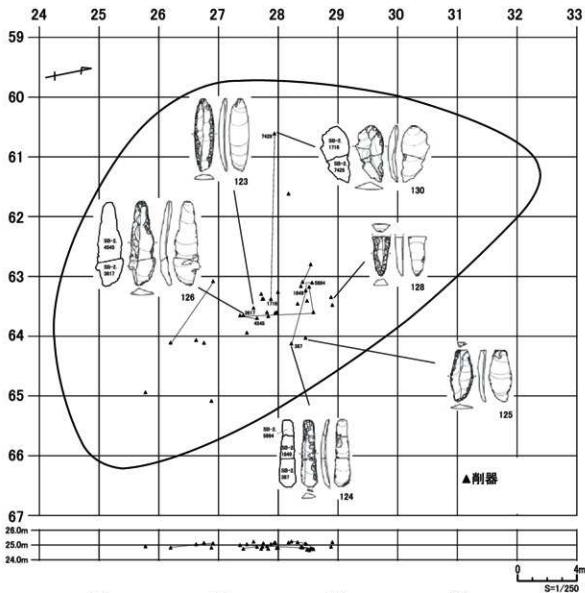
図VI-2-31 SB-2器種別分布図(6)

## 搔器



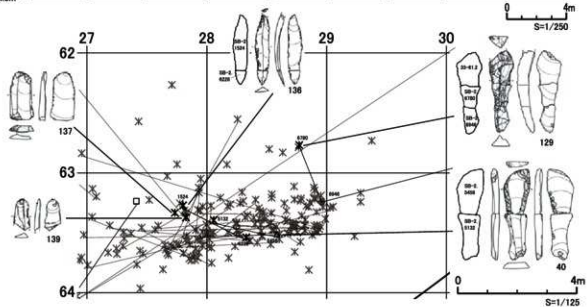
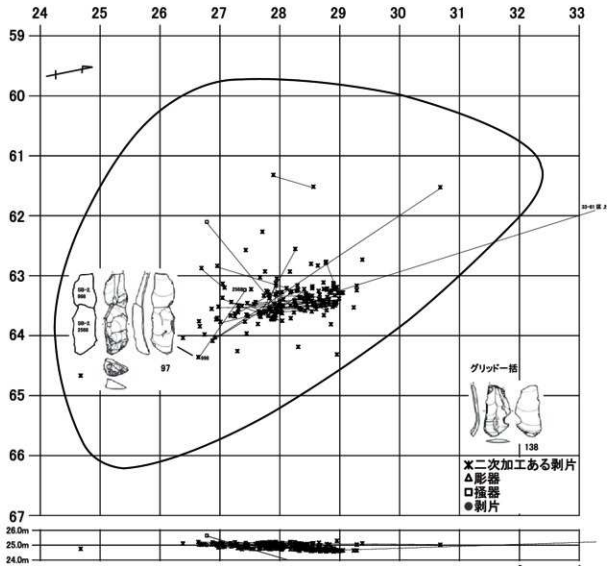
図VI-2-32 SB-2器種別分布図(7)

# 削器



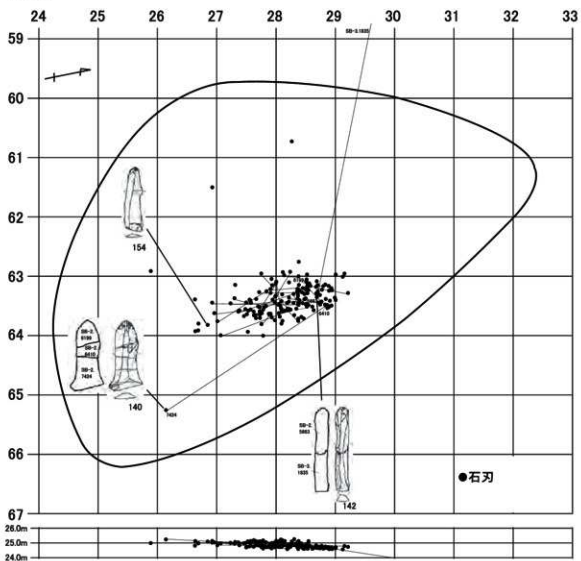
図VI-2-33 SB-2器種別分布図(B)

## 二次加工ある剥片

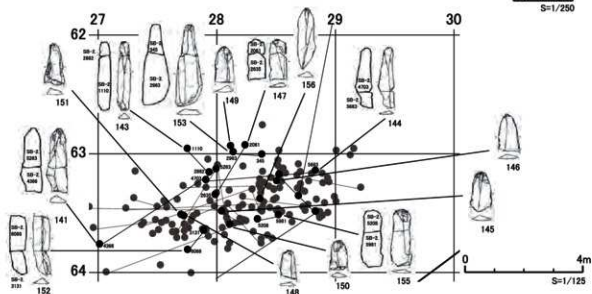


図VI-2-34 SB-2器種別分布図(9)

# 石刃



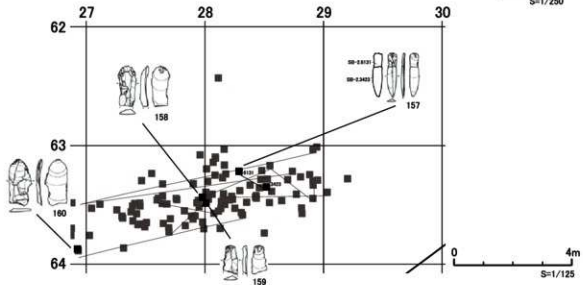
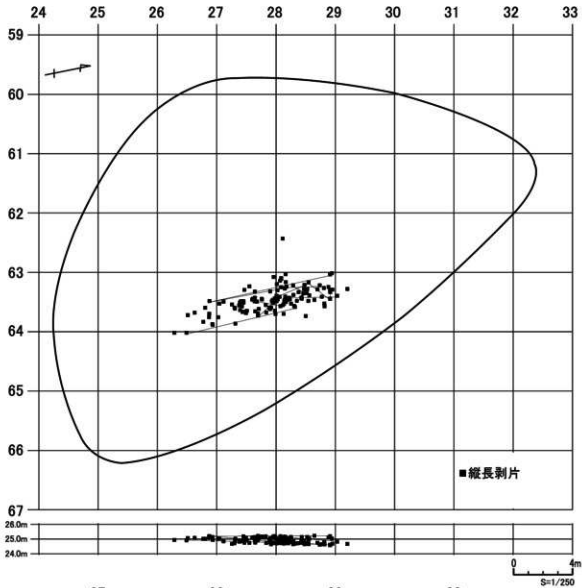
0 4m  
S=1/250



0 4m  
S=1/125

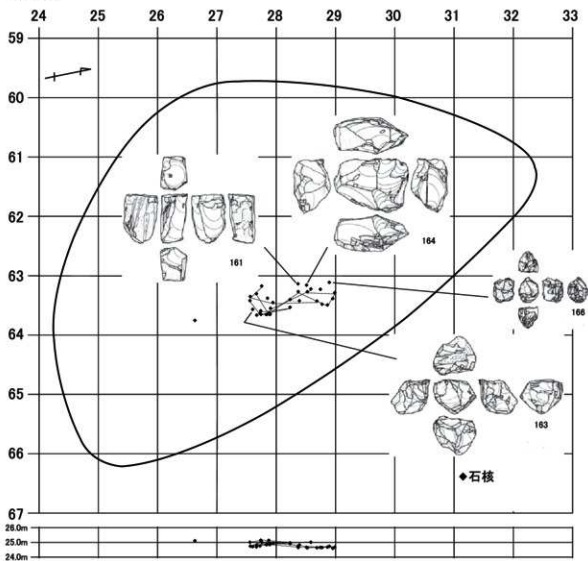
图VI-2-35 SB-2器種別分布图 (10)

## 縦長剥片

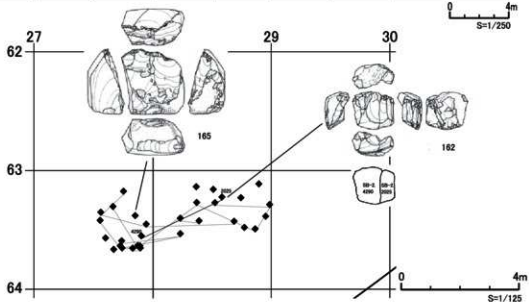


図VI-2-36 SB-2器種別分布図 (11)

# 石核

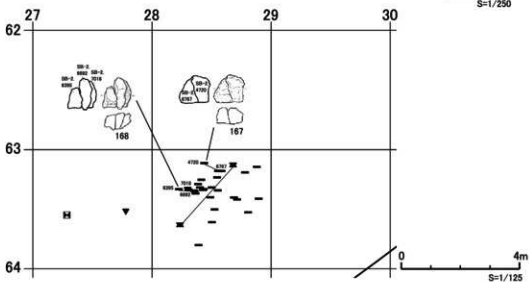
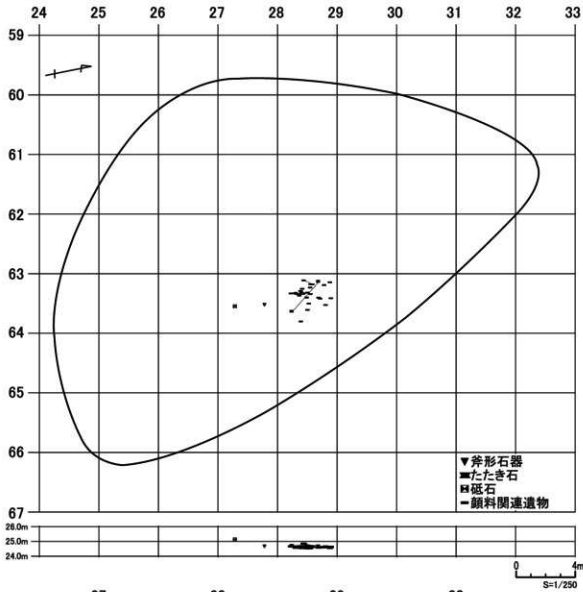


0 4m  
S=1/250



图VI-2-37 SB-2器種別分布图(12)

礫石器, 顔料関連遺物



図VI-2-38 SB-2器種別分布図 (13)



**分布** 遺物の平面分布範囲は南北方向約38m、東西方向は調査区外に広がるため不明だが、調査範囲内では約8mを測る。平面分布の密度は33・34-35・36区が高いが、周辺も遺物が比較的多く分布する。調査区別の出土点数は34-36区が2,717点、34-37区が1,458点で、この2つの発掘区からSB-3出土遺物の約50%が出土している。垂直分布は東側が高く、西側にかけて緩やかに低くなる。遺物総点数8,268点の層位別出土点数はI層1点、III層1点、V層1,402点(17%)、VI層2,630点(32%)、VII層4,234点(51%)で下位の層になるにつれて増えている。器種別でみると層位別の出土点数に比例するものと、搔器、削器などの様に層位別の点数があまり変わらないものに分かれる。

**石器・石材組成** 総点数8,268点、総重量7499.96gの石器類が出土した。取上げ方法別の内訳は点取り3,453点(7143.65g)、調査区一括4,815点(356.31g)である。

器種別の内訳は、細石刃71点、細石刃核18点、削片127点、彫器23点、両面調整石器14点、搔器152点、削器32点、錐形石器6点、二次加工ある剥片116点、石刃102点、縦長剥片84点、石核5点、剥片1,774点、細片5,731点、斧形石器5点、たつき石1点、台石・石皿1点、礫2点、顔料関連遺物4点である。石材別の点数は、黒曜石7,918点、頁岩233点、珪岩4点、泥岩102点、砂岩4点、凝灰岩1点、安山岩2点、褐鉄鉱4点である。分布は石材ごとの違いはあまりなく、33・34-34-37区にかけての集中範囲から出土するものが多いが、砂岩や安山岩などの礫石器に使用される石材や、顔料関連遺物の石材である褐鉄鉱は石器の集中範囲からややずれる33・34-36-39区から出土する傾向がみられる。器種別の石材傾向をみると、定型的な石器は黒曜石製が多いが、削片、彫器などは頁岩製が比較的多くみられる。また、礫石器類は砂岩、泥岩、安山岩などが用いられる。

**接合状況** 剥離面接合資料は55例、折れ面接合資料74例が得られた。剥離面接合資料の1個体あたりの接合点数は2~18点で、5点以下のものが90%以上を占める。折れ面接合資料の接合点数は2~5点である。剥離面接合資料の器種構成は剥片のみのものが23例、搔器を含むものが13例、細石刃核と調整剥片の接合が1例、斧形石器と調整剥片の接合が2例ある。他に彫器と石刃、両面調整石器と調整剥片の接合例などが少量ある。接合範囲はSB-3範囲内で接合するものが多いが、ブロック間接合として、剥離面接合ではSB-1やSB-2との接合例があり、折れ面接合では石刃がSB-3とSB-2で接合するものがある。また、SB-3出土の搔器がSB-1、SB-2で折れ面接合した彫器と剥離面接合した例(黒曜石3・接合61)もある。

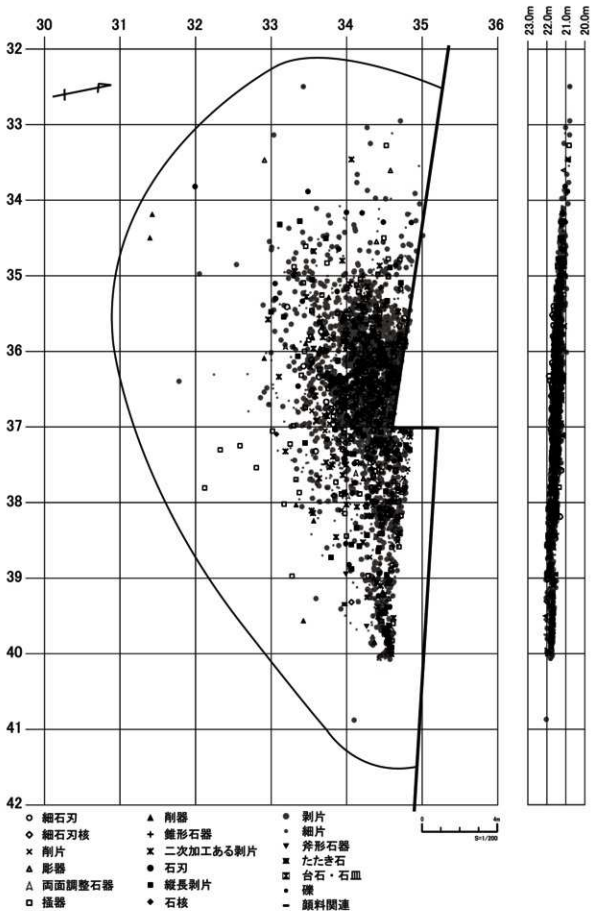
## 出土石器(図VI-2-42~49 表VI-2-2 図版53・107・112~114)

### 細石刃(図VI-2-42-1~20 図版107)

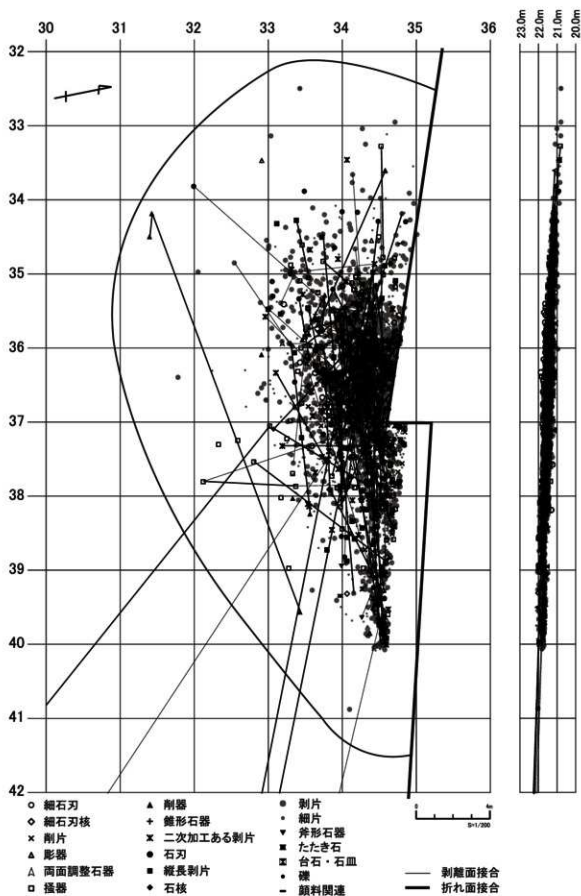
71点(71個体)出土し、その内20点(20個体)図示している。小型で長さ1.2~1.7cm、幅0.3~0.5cm、厚さ0.1~0.3cmを測る。平面形は、頭部と末端部が比較的狭く、中間部がやや膨らむ形状で、背面の稜はほぼ側縁に平行する。側面観は腹面側に緩く湾曲するものが多い。1~20は全て黒曜石製で、球果をあまり含まず、透明度が高いものが多い。1~3は完形のものである。1は側面が直線状になる。2は末端部がやや左寄りになる。3は長さに比べて幅が広いものである。4~6は末端部側を折損するものである。7~15は背面に細石刃核の右側面を、16~20は左側面を取り込むものである。20は幅が広く、背面に細石刃核作業面を大きく取り込んでいる。

### 細石刃核(図VI-2-42-21~33 図版53・112)

18点(13個体)出土し、全点図示している。26を除き、上下からの平行剥離による調整が施された小型の両面調整体を細石刃核母型とする。縁辺に沿った削片剥離によって打面を作出し、削片剥離の打面側を作業面として細石刃が剥離される。26は打面に原礫面を残すもので削片剥離が行われず打

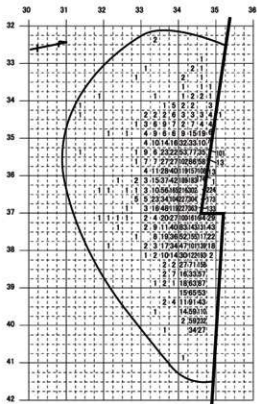


図VI-2-39 SB-3遺物分布図

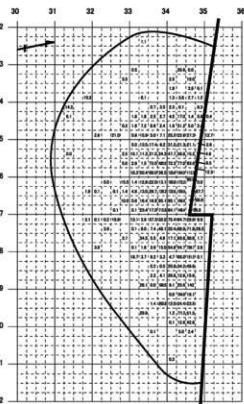


図VI-2-40 SB-3遺物接合状況図

小グリッド別出土総点数分布図

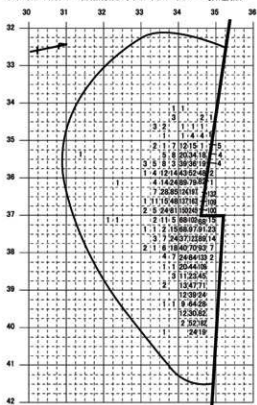


小グリッド別総重量分布図

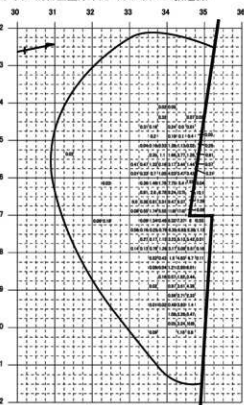


※重量の単位は(g)で小数点第1位まで表記

小グリッド別出土総点数分布図 (小グリッド一括遺物)



小グリッド別総重量分布図 (小グリッド一括遺物)



※重量の単位は(g)で小数点第2位まで表記

図VI-2-41 SB-3遺物点数・重量分布図

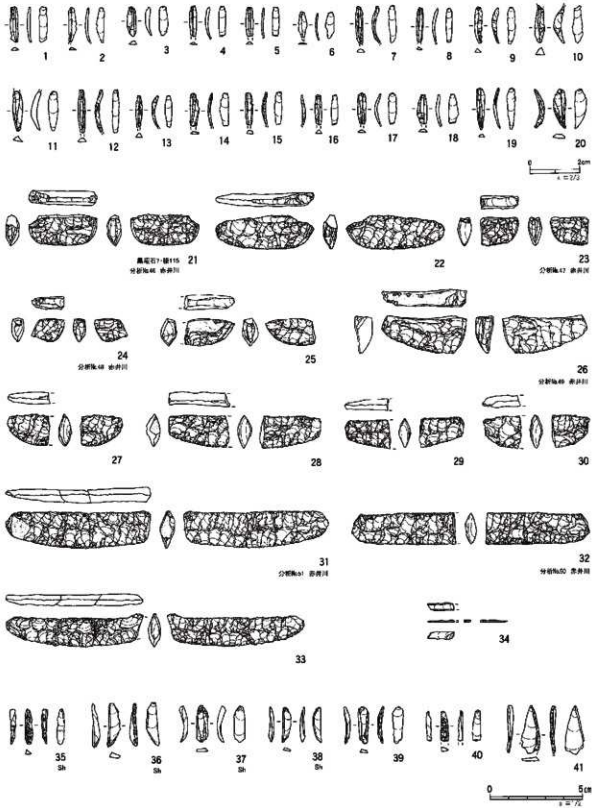
面調整のみ施される。作業面の長さは1.3~2.0cm、幅は0.6~1.0cmを測る。素材は不明なものが多いが、原礫面を残すもの(25・26・28・31)がある。石材は全て黒曜石で、6点(21・23・24・26・31・32)について原産地推定を行った結果、全て赤井川産と判定されている。21~26は細石刃剥離作業面がみられるものである。21は両端に作業面が設定され、削片剥離は両端から行われる。22は初期の削片剥離が左側面に傾き、続く削片剥離がヒンジフラクチャーとなる。そのため、細石刃を剥離し尽くした後、再度削片剥離は行わず遺棄される。23~25は作業面の逆側を折損する。24は削片剥離が最低3回行われる。25は両側面に原礫面が残っており、板状の角礫を素材とする可能性が高い。26は打面と作業面側の逆端部に原礫面を残すもので、角礫素材と考えられる。打面には作業面側からの細かい剥離が施される。両側面は下縁からのみ調整が行われ、右側面はほぼ平坦、左側面はややふくらむ形状となる。27~30は作業面側を折損するものである。側面形状は上縁が直線的で下縁がややふくらむ。27・28は上縁に削片剥離痕がみられる。29・30は細石刃核母型の可能性もある。31~33は細石刃核母型である。31は長さ7.8cmを測る。正面及び左側面に原礫面を残すため、角礫素材と考えられる。32・33は一部を折損する。32の側面形状は上縁、下縁共に直線的である。

#### 削片(図VI-2-42-34~41 図版107)

127点(127個体)出土し、その内8点(8個体)図示している。34は細石刃核削片で、打点側を折損する。石材は黒曜石である。二次削片で、背面と腹面の打点方向は一致する。両側面は細石刃核削片を取り込んでいる。35~41は彫器削片である。石材は35~38が頁岩で、39~41は黒曜石である。40は一次削片で、それ以外は二次削片である。全て素材の左側縁で剥離され、削片剥離は素材の腹面側に傾くもの(35~39)と背面側に傾くもの(40・41)がある。36・41は先行する削片剥離面から素材背面に細かい加工が施される。

#### 彫器(図VI-2-43-42~58 図版112)

23点(19個体)出土し、22点(18個体)図示している。SB-2出土と折れ面接合するもの(SB-2・52)がある。左斜刃型で彫刀面が腹面側に傾くものが多いが、背面側に傾くものもある。また、右斜刃型、交差刃型も少量ある。素材は石刃が多く、素材と彫刀面の部位の関係は、素材の打点側に作出するもの(42・46・48・51~53・55)と素材の末端部側に作出するもの(43~45・47・49・50・54・56~58)に分かれる。石材は42~46・48・51・52・58が頁岩で、47が珪岩、49・50・53~57が黒曜石である。42~55は左斜刃型のものである。42~50は彫刀面が腹面側に傾くもので、彫刀面から背面側に細かい調整が施される。42は腹面基部側に平坦剥離が施され、基部はやや内湾する。43~47は背面両側縁に連続的な二次加工が施されるものである。43~45は腹面との角度が直角に近いもので、43・45はノッチ状の調整面を打面とする。46は彫刀面が器体の長軸に対しやや鈍角で、横刃型に近い。48は背面の両側縁に微細な剥離痕が認められ、基部には細かい二次加工が施される。49は基部と、彫刀面がある素材末端部に細かい調整が施される。50は右側縁でも細い削片剥離が行われており、交差刃型の可能性もある。51~55は彫刀面が背面側に傾くものである。腹面側に傾くものに比べ彫刀面と器体長軸がなす角度が鋭角になる。51・52・54・55は背面両側縁に連続的な二次加工が施される。51は背面両側縁と腹面側の基部に細かい二次加工が施される。53は背面左側縁に二次加工が施され、右側縁には連続的な微細な剥離痕がみられる。55はノッチ状の調整面を打面とする。56は右斜刃型で彫刀面は腹面側に傾く。57は細かい調整面を打面とし、器体長軸と彫刀面が平行に近いものである。彫刀面は腹面に対しほぼ直角となる。58は交差刃型である。末端部が厚みのある石刃を素材とし、彫刀面の幅は広い。



図VI-2-42 SB-3の石器(1)

#### 両面調整石器 (図VI-2-44-59~62 図版112)

8点(4個体)出土し、全点図示した。全て折損するため、尖頭器が含まれる可能性もある。石材は59~61が黒曜石、62は貞岩である。59は上半を折損するもので、両面には比較的粗い調整が施され、下端はやや丸みをおびる。全体に球果が筋状に並ぶ粗悪な黒曜石を石材とする。60は上下を欠失する。左右がやや非対称な形状で、両面には比較的粗い調整が施される。61は両面に細かい平坦剥離が施されるもので、上半を折損する。62は幅に比べ厚みがあるもので、上下を折損する。両側縁からほぼ平行する細かい平坦剥離が施される。

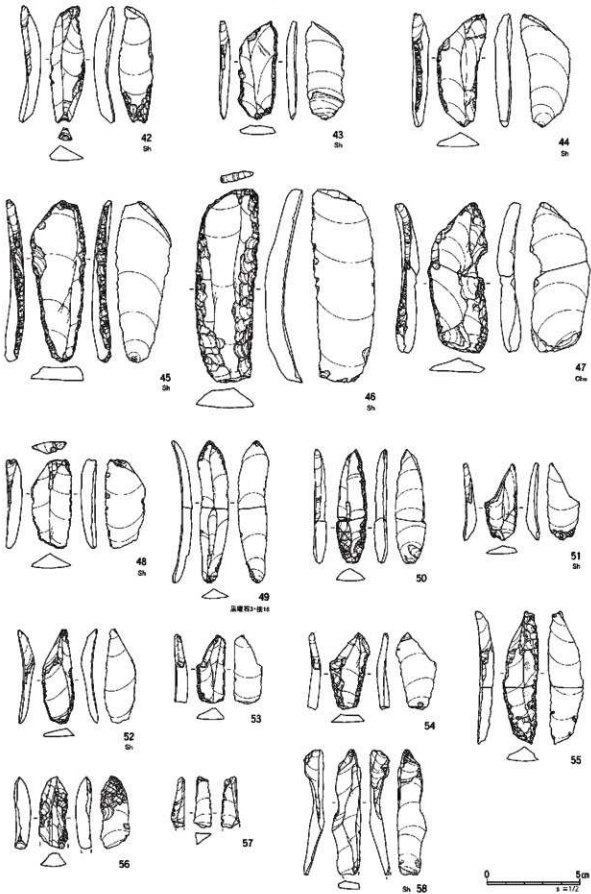
#### 搔器 (図VI-2-44-46-63~103 図版53・112・113)

152点(129個体)出土し、その内50点(42個体)図示した。素材は石刃が多い。平面形は基部の幅がやや狭く、刃部にかけて幅が広がるものが多い。刃部は一部を除き素材の末端部側に作出される。刃部形状は弧状ではほぼ左右対称のもの、左肩下がりのもの、右肩下がりになるものに分かれる。刃部角は全体的に急角度である。また、パンチ痕が認められるもの(64・65・72・75・77・82)がある。石材は未掲載のものも含めて全て黒曜石である。8点(64・73・77・82・93・94・95・101)について黒曜石原産地推定を行った結果、全て赤井川産と判定されている。

63~65は素材の両端に刃部が作出されるものである。63は打点側の刃部の幅が狭い。64は厚みのある石刃を素材とし、両端の背面刃部際にはパンチ痕が多く認められる。背面左側縁には連続的な加工が施される。65は打点側の刃部がやや張り出し刃部際にはパンチ痕が認められる。

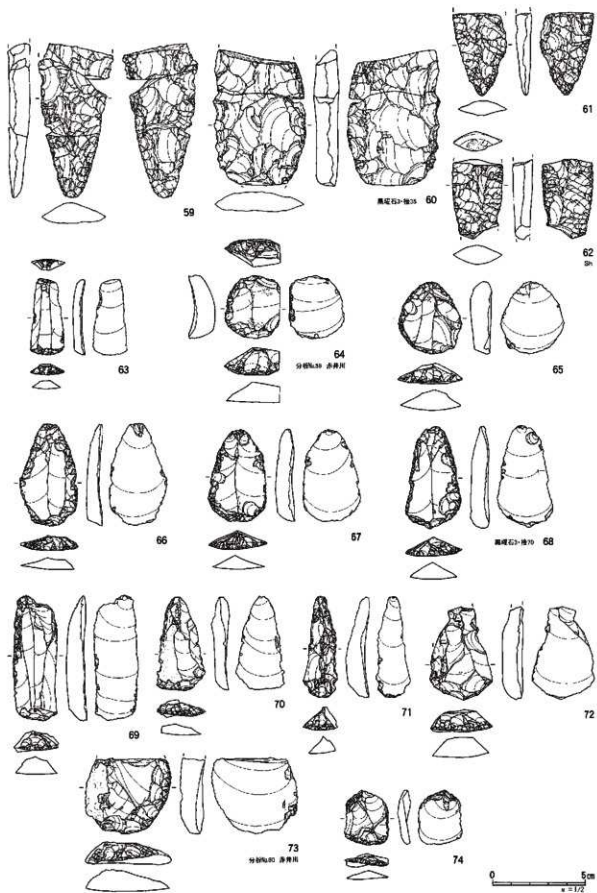
66~74は側縁等に二次加工が施されるものである。66~68は両側縁に二次加工が施される。66は刃部形状が直線に近い。67は左側縁と右側縁の一部に二次加工が施される。68は右側縁にやや大きな平坦な剥離が施され、刃部は左下がりになる。69~73は側縁に二次加工が施される。69は両側縁がほぼ平行するもので、左側縁に二次加工が施される。70は背面に原礫面を残し、刃部は左肩下がりになる。71は幅の狭い稜付石刃を素材とし、厚みのある刃部が作出される。72・73は基部側を折損するものである。72は被熱によるひびがみられるもので、左側縁に二次加工が施される。73は剥片素材で背面に原礫面を残す。刃部の幅は広い。74は薄刃のもので、基部側に細かい調整が施される。

75~103は側縁に二次加工が施されないもので、側縁に微細な剥離痕がみられるものが多い。75~82は刃部形状が左右対称に近いものである。76・77・79・82は背面に原礫面を残す。75は背面に石核の調整痕を残すもので、背面刃部際にパンチ痕が認められる。76は折損後、刃部の再加工が行われる。77は背面刃部際にパンチ痕が認められる。78は上部をわずかに折損する。79は背面刃部際の稜線がややつぶれる。80は整った石刃を素材とし、刃部は比較的薄い。81は刃部中央付近がやや突出する形状である。82は小型の搔器である。83~95は刃部が左肩下がりになるものである。83・86・88・89・92・93は背面に原礫面を残す。83~86は中央付近で折れるものである。83・84は長さに比べ幅が狭い。86は厚みのある石刃を素材とし、素材の形状を生かして左肩下がりの刃部を作出する。87~95は小型のものである。88は被熱により表面に細かいひびがみられる。91は素材の剥離に先行して右側面に細かい二次加工が施される。92は刃部がやや張り出す形状である。93・94は薄い刃部が作出される。95は基部の折れ面に部分的に二次加工が施される。96は刃部が右肩下がりになるもので、比較的大きな剥離で厚みのある刃部が作出される。97は稜付石刃の末端部にごく幅のせまい刃部が作出される。98~103は基部側を折損するものである。98は直角に近い角度の刃部が作出される。100は左側縁に連続する微細な剥離痕がみられる。101は厚みのある石刃を素材とし、左側面に原礫面がみられる。102は刃部が左肩下がりに、103は右肩下がりになる。

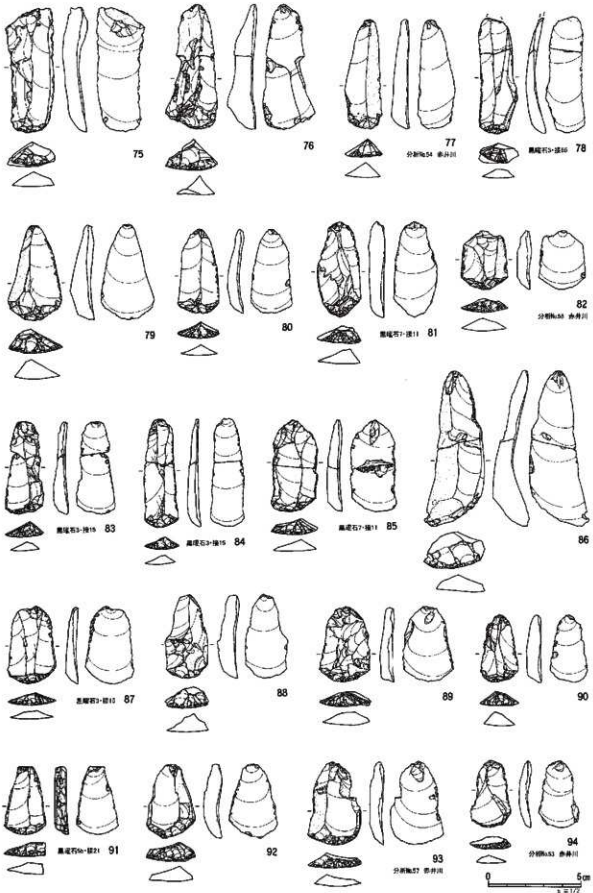


図VI-2-43 SB-3の石器(2)





図VI-2-44 SB-3の石器(3)



図VI-2-45 SB-3の石器(4)

#### 削器 (図VI-2-46-104~113 図版113)

32点(22個体)出土し、その内14点(10個体)図示した。折損するものが多く、石材は104が頁岩、他は全て黒曜石である。104~106・108・112は石刃を素材とする。104~106・109・110・113は二側縁に、107・108・111・112は一側縁に刃部が作出される。104は下部が尖る形状で、上半を折損する。105は急角度の剥離により刃部が作出される。106は大型の石刃を素材とするもので、長さ16.1cm、幅4.2cm、厚さ1.0cmを測る。背面両側縁と腹面右側縁に二次加工が施され、直線的な刃部が作出される。背面右側縁は平坦な剥離が施される。107は刃部がやや外湾する。108は大型の石刃を素材とし、左側縁に刃部が作出される。109は打点付近から背面右側縁にかけて連続的に二次加工が施され、大きく外湾する刃部が作出される。110は右側縁から末端部にかけて急角度の剥離が施される。111は背面に原礫面を大きく残し、左側縁に直線的な刃部が作出される。112は右側面に石核調整痕を残し、左側縁に直線的な刃部が作出される。113はやや粗い二次加工により両側縁に刃部が作出される。

#### 錐形石器 (図VI-2-47-114~117 図版113)

6点(6個体)出土し、その内4点(4個体)図示した。石材は114・115・117が黒曜石、116が頁岩である。114について黒曜石原産地推定を行った結果、赤井川産と判定されている。素材は114~116が石刃、117が剥片である。114・116は素材の打点側、115・117は素材の末端部側に尖頭部が作出される。114は両側縁から末端部にかけて二次加工が施される。115は末端部の二次加工によりやや幅のある尖頭部が作出される。116は急角度の剥離によりやや細長い尖頭部が作出される。117は末端部と左側縁の2か所に尖頭部が作出される。

#### 二次加工ある剥片 (図VI-2-47-118~121 図版113)

116点(110個体)出土し、その内7点(4個体)図示した。石材は119が頁岩で、他は黒曜石である。118は石刃素材で両側縁に不連続な二次加工が散点的に施される。119は打点側を折損し、両側縁から末端部に細かい二次加工が施される。120は打点側から背面左側縁上部にかけて二次加工が施される。121は穂付石刃を素材とし、腹面打点側に二次加工がわずかに施される。

#### 石刃 (図VI-2-47-122~131 図版113)

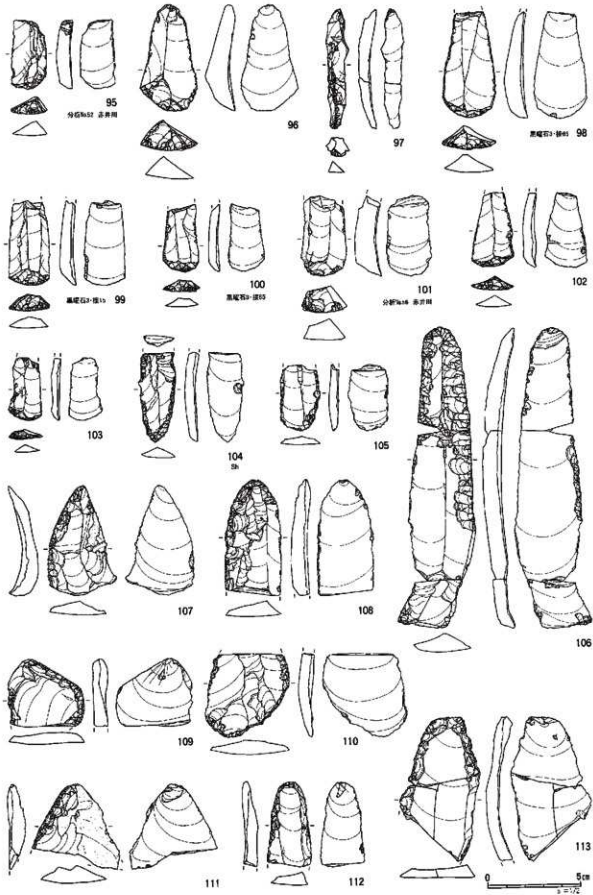
102点(92個体)出土し、15点(10個体)図示した。比較的小型で折損するものが多い。長さは完形のもので4.5~7.1cm、幅は1.0~2.5cm、厚さは0.2~0.9cmを測る。全て単設打面の石刃核から剥離されたもので、剥離に伴い打面調整、頭部調整が施されている。側縁には微細な剥離痕が認められるものが多い。石材は122~130が黒曜石で、131は頁岩である。122~127は末端部側を折損するものである。122は背面に原礫面を残す。124は打点側をわずかに欠失する。125は右側面に石刃剥離に先行する調整がみられる。128は細長い形状で、打点側と末端部側を折損する。129~132は打点側を折損するものである。129・130は打点側の幅が広く、末端部が狭くなる形状である。131は右側面と末端部に石核調整痕がみられる。

#### 縦長剥片 (図VI-2-47-132・133 図版113)

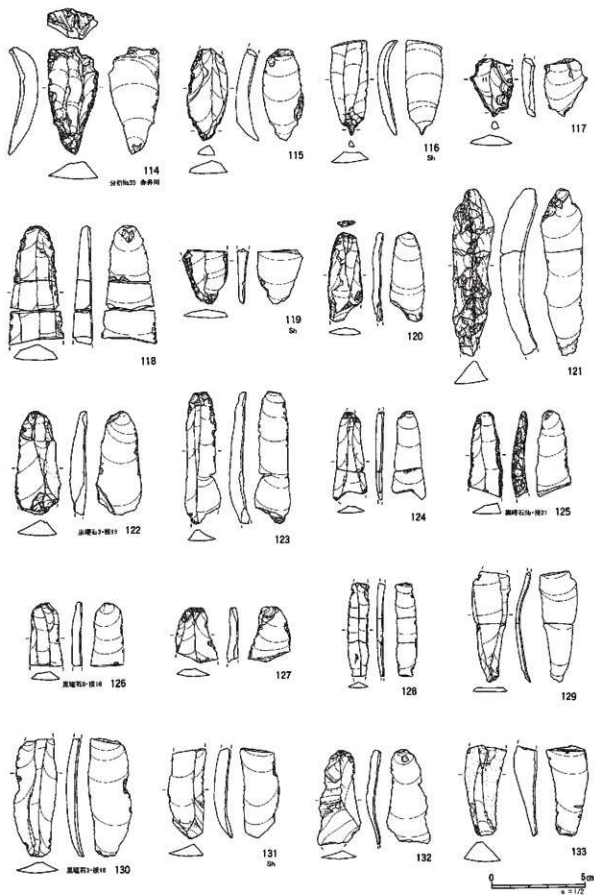
84点(83個体)出土し、2点(2個体)図示した。石材はどちらも黒曜石である。132は末端部をわずかに折損する。133は打点側を折損し、背面に原礫面を残す。

#### 斧形石器 (図VI-2-48-134~137 図版53・114)

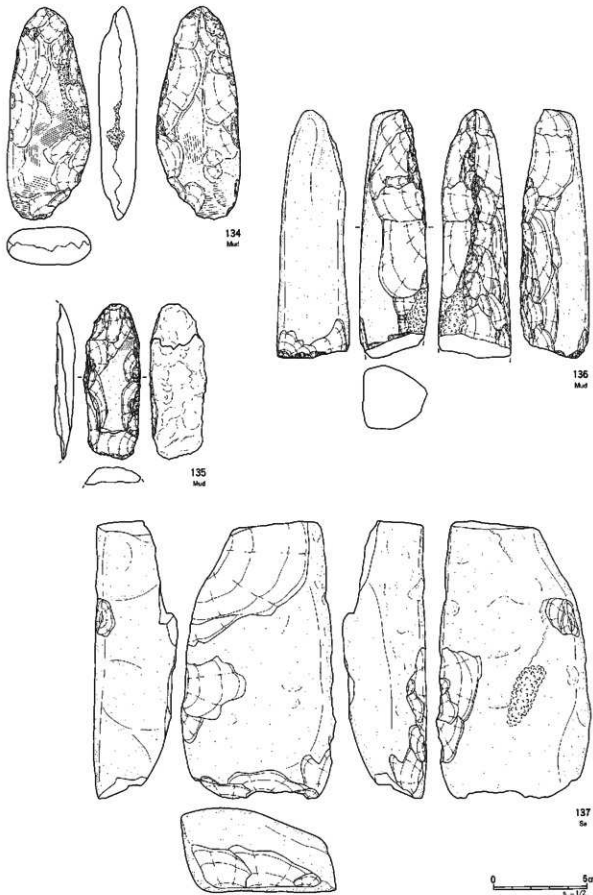
5点(4個体)出土し、全点図示した。石材は134~136が泥岩で、137は砂岩である。134は緑色泥岩製で周縁から両面に調整剥離が施され、部分的に敲打、研磨が行われる。両刃で、刃部の平面形は左右非対称となる。135は小型で、裏面のほとんどを被熱により欠失する。周縁から調整剥離が行われ、一部に研磨痕が認められる。136・137は未成品である。136は下部を欠失する。角礫を素材とし、



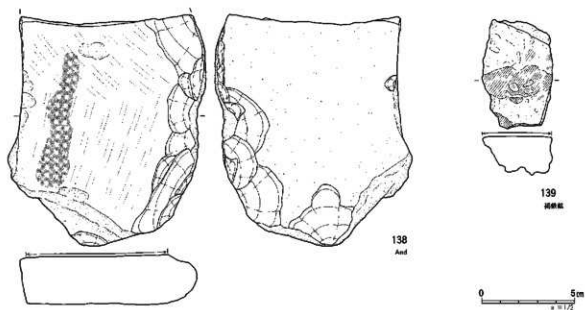
図VI-2-46 SB-3の石器(5)



図VI-2-47 SB-3の石器(6)



図VI-2-48 SB-3の石器(7)



図VI-2-49 SB-3の石器(8)

一側縁から表裏面に調整剥離が施され、下部には細かい敲打痕が認められる。137は表裏面に粗い調整剥離が施され、裏面中央付近には細かい敲打痕が認められる。

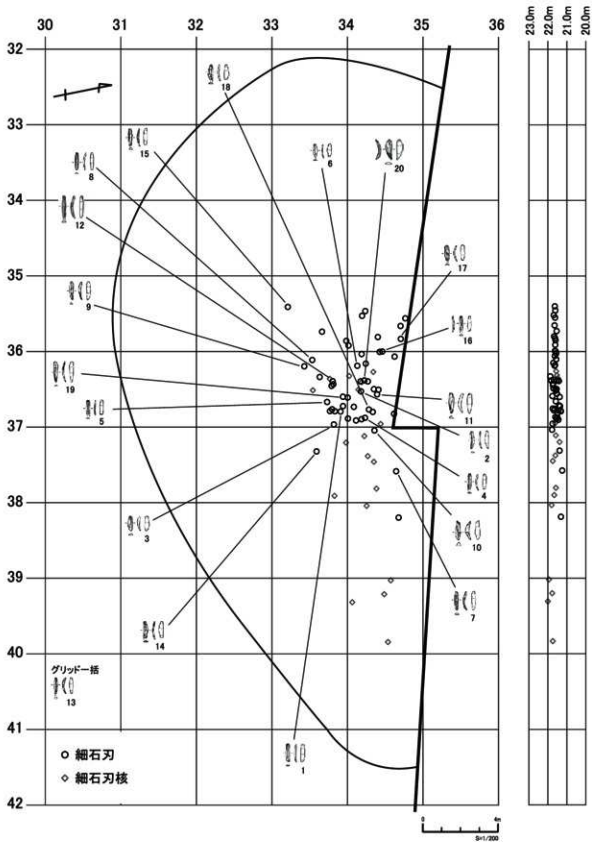
**台石・石皿** (図VI-2-49-138 図版53・114)

1点(1個体)出土し、図示した。石材は安山岩である。扁平な礫を素材とし、表裏面に周縁部から粗い調整剥離が施される。表面には弱いすり痕がみられる。一部暗赤褐色の部分(網掛け部分)が認められるが、これは赤色顔料付着による可能性がある。

**顔料関連遺物** (図VI-2-49-139 カラー図版2 図版114)

4点(4個体)出土し、1点図示した。139は正面中央付近と下部に擦痕がみられるもので、部分的に光沢が認められる。今回の調査で出土した顔料関連遺物で明確な擦痕が認められるのは139のみである。

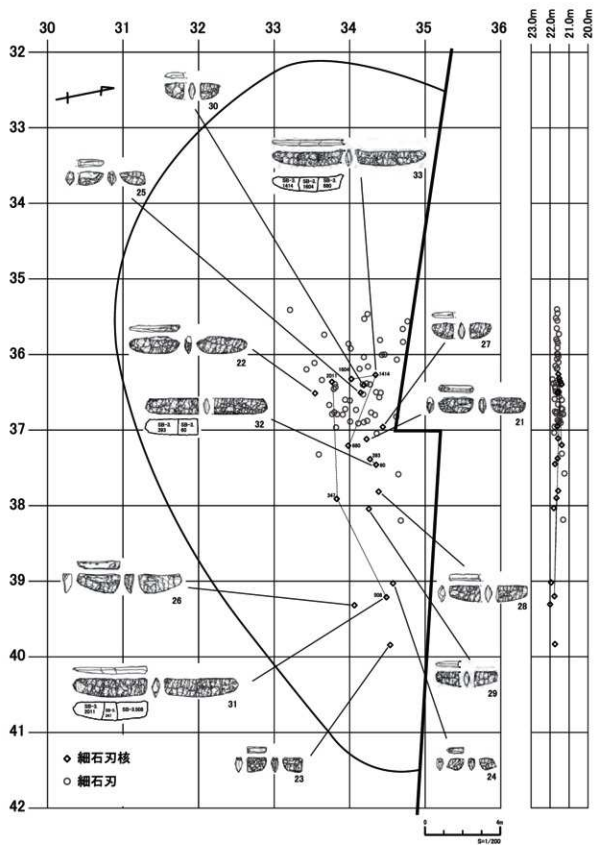
## 細石刃



図VI-2-50 SB-3器種別分布図(1)

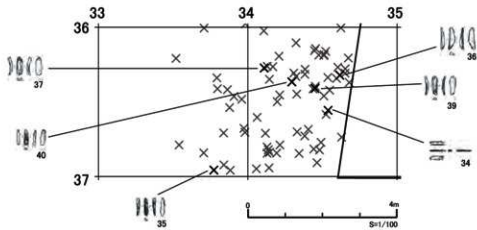
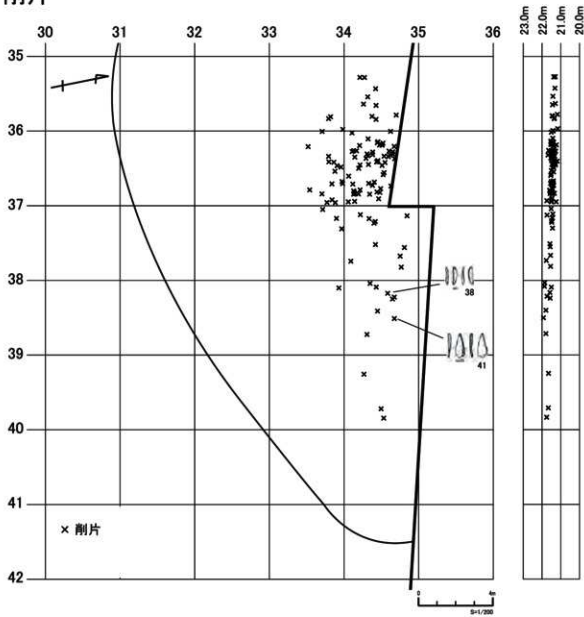


# 細石刃核



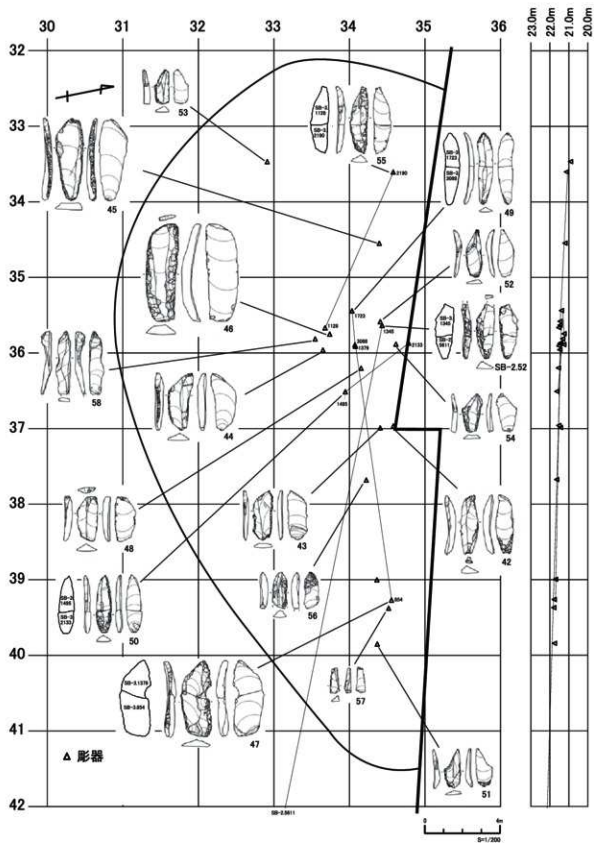
図VI-2-51 SB-3器種別分布図(2)

## 削片



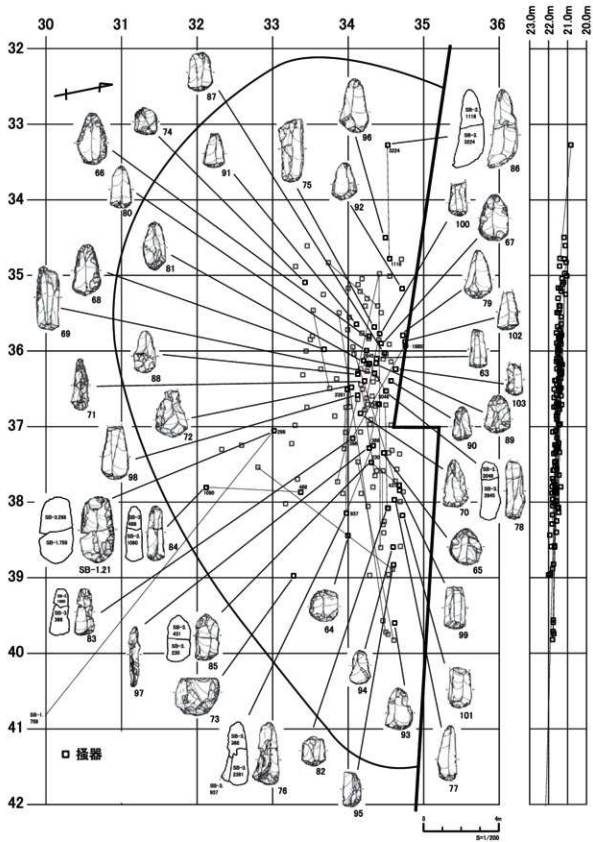
図VI-2-52 SB-3器種別分布図(3)

# 彫器



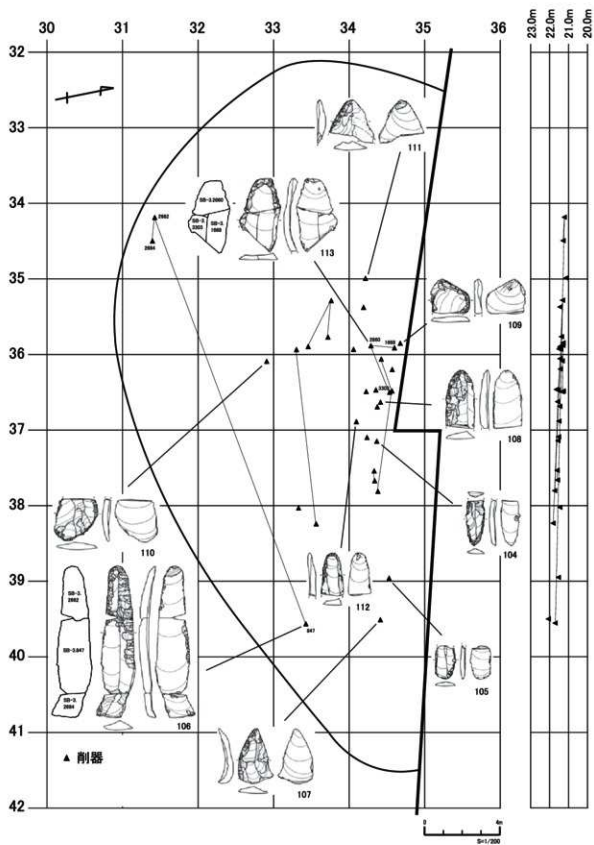
图VI-2-53 SB-3器種別分布图(4)

## 搔器



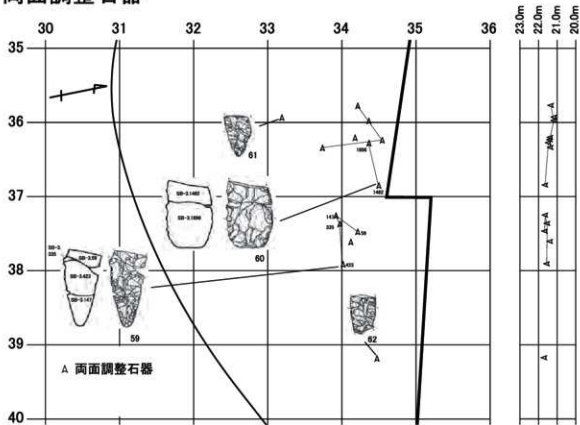
図VI-2-54 SB-3器種別分布図(5)

# 削器

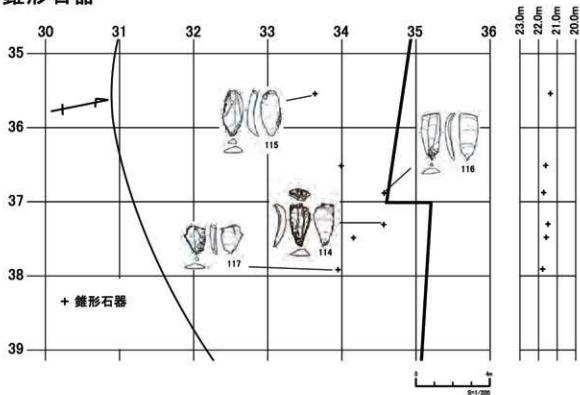


图VI-2-55 SB-3器種別分布图(6)

両面調整石器

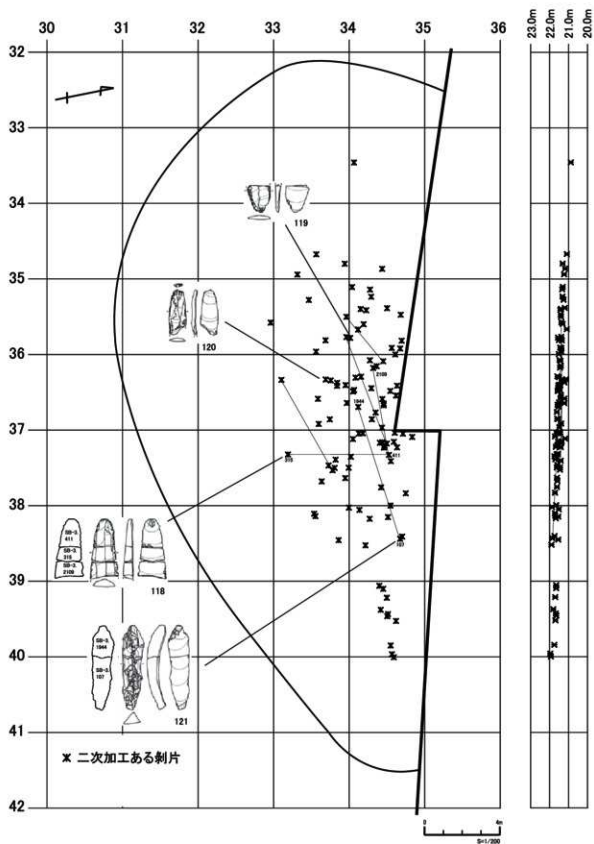


錐形石器



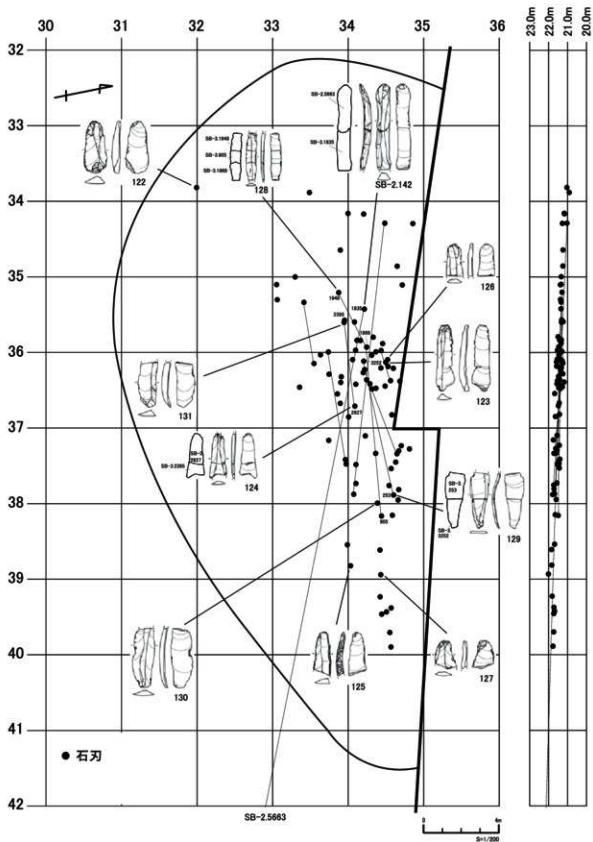
図VI-2-56 SB-3器種別分布図(7)

# 二次加工ある剥片



図VI-2-57 SB-3器種別分布図(B)

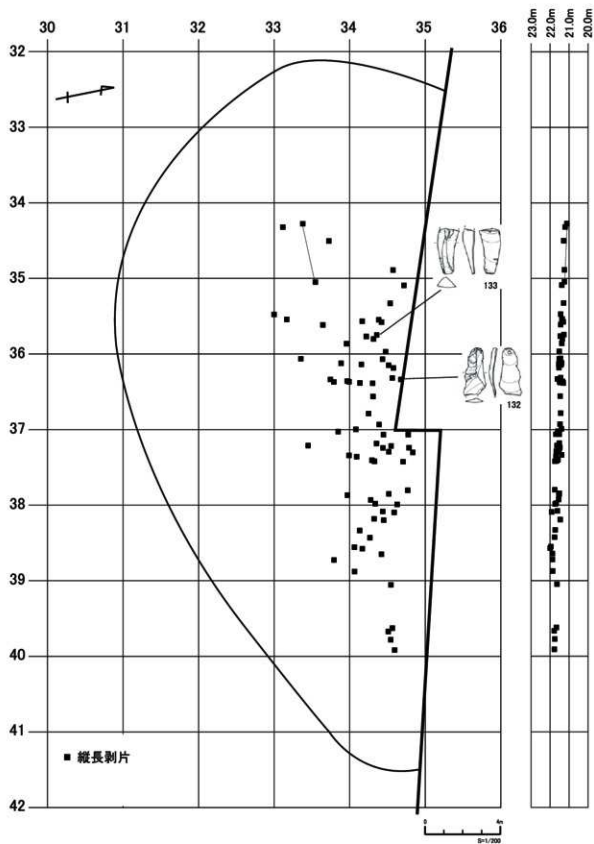
## 石刃



図VI-2-58 SB-3器種別分布図(9)

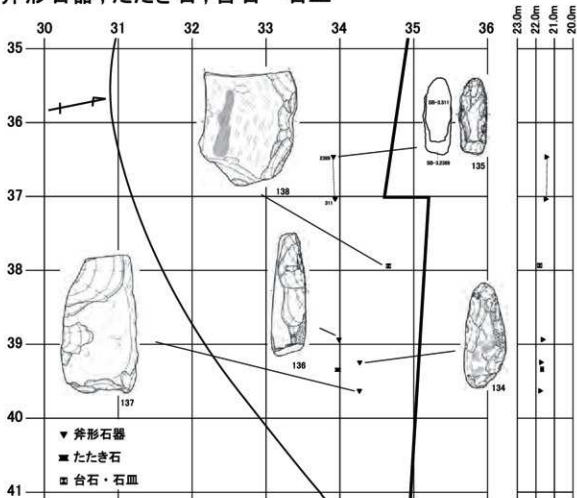


# 縦長剥片

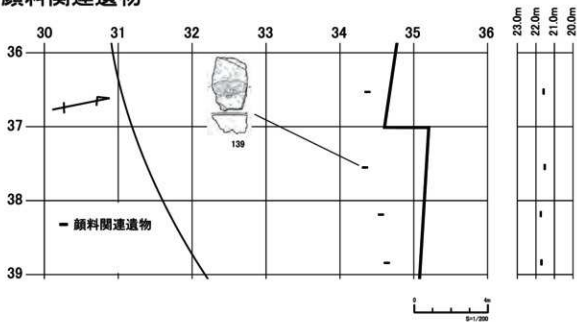


図VI-2-59 SB-3器種別分布図(10)

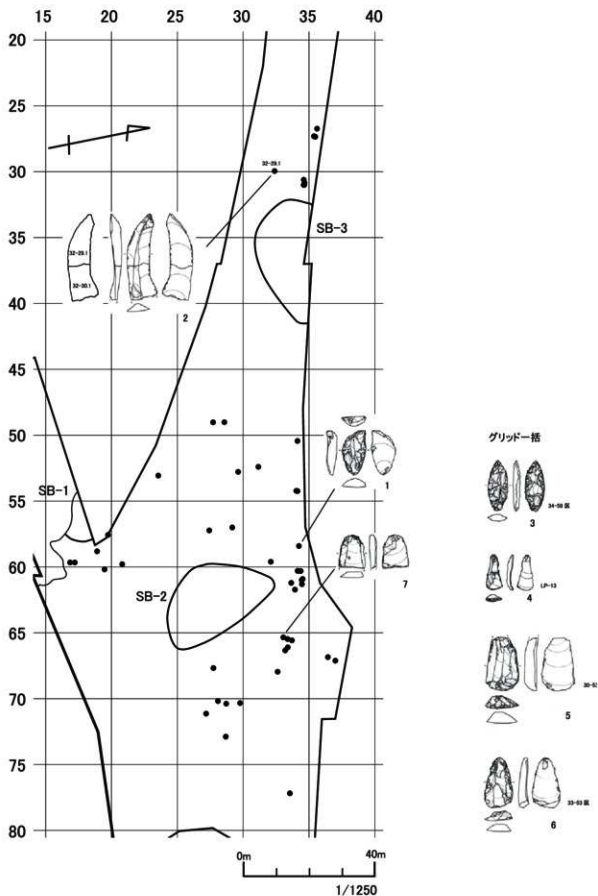
## 斧形石器, たたき石, 台石・石皿



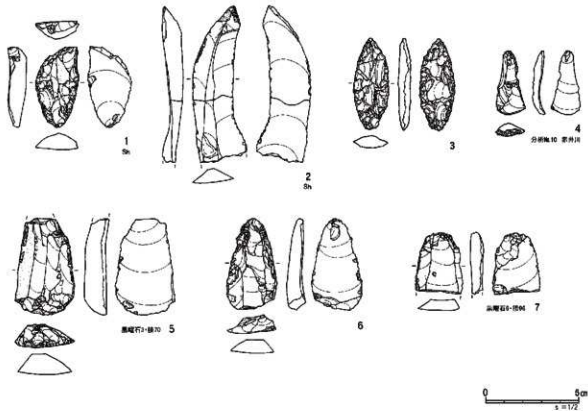
## 顔料関連遺物



図VI-2-60 SB-3器種別分布図(11)



図VI-2-61 ブロック外出土遺物分布図



図VI-2-62 ブロック外出土の石器

#### ブロック外出土の石器 (図VI-2-61・62-1～7 表VI-2-2 図版114)

ブロック外からは総点数134点、総重量1746.31gの石器が出土している。内訳は細石刃1点、削片4点、彫器3点(2個体)、尖頭器6点、両面調整石器2点、搔器12点、削器9点、二次加工ある剥片12点、石刃20点(19個体)、縦長剥片3点、剥片57点、細片4点、斧形石器1点である。層位別では、I層2点、III層5点、V層67点、VI層37点、VII層5点、縄文時代の遺構などから10点、攪乱などから8点で、V層出土が最も多くVI層が次ぐ。石材別では黒曜石110点、頁岩22点、泥岩2点となる。平面分布は25～35-47～74区のSB-2周辺に多い傾向がみられ、またSB-1・3周辺にも分布する。

1・2は彫器で石材は頁岩である。共に左斜刃型で彫刀面は腹面側に傾く。1は背面に周縁から二次加工が施される。2は石刃素材で下部を折損する。調整面を打面として削片が剥離される。また部分的に被熱による焼けはじけがみられる。3は尖頭器で、石材は黒曜石である。小型で両面に周縁から平坦な剥離が施される。4・5は搔器で石材は黒曜石である。4は小型で素材の末端部に急角度の刃部が作出される。5は石刃素材で左側面に原礫面を残す。両側縁には細かい二次加工が施される。6は削器で石材は黒曜石である。石刃素材で両側縁に急角度の刃部が作出される。7は石刃で石材は黒曜石である。両側縁には微細な剥離痕がみられ、末端部側を折損する。

### 3. 接合資料 (図VI-3-1-19 表VI-3-1・2 図版115~118)

石器の接合作業の結果、剥離面接合130例、折れ面接合266例が得られた。接合に関わる点数は1,040点(折れ面接合のみ346点、剥離面接合694点)で、遺物総点数27,106点に対し3.8%、点取り遺物総点数11,418点に対し9.3%の接合率となる。接合資料は全130個体の内30個体を図示し、剥離作業の内容別に記載した。また、接合資料を構成する個別の石器については、定型的な石器を中心にできるだけ図示するように努めた。また、横断面C地区の石器集中(F C-1)もSB-1~3と同じ忍路子型細石刃核石器群と考えられるため、接合作業は横断面C地区の旧石器についても行った。その結果、実測図等は未掲載だがF C-1出土の石刃1点が今回の調査区である25-55区出土の搔器1点と剥離面接合している。

今回出土した黒曜石の内、特徴的でさらに点数がある程度まとまっているものについて石質分類を行った。各石器ブロック出土の比較的大型で特徴が把握できる石器を中心に、細石刃などの小型の石器や剥片、細片は一部を除き対象外とした。黒曜石製の石器25,932点の内、石質別資料として2,279点(8.7%)を抽出し、8種類の石質を設定した。黒曜石の全体的な特徴は、ほとんどのものに球果が入る点である。また、透明度が比較的高く、流理構造がみられ、白線・黒線などの模様を観察できるものが多い。また、不純物を多く含み、やや質の悪いものも少量ある。また、原礫の形状は角礫が多い。これらの特徴は肉眼観察では赤井川産と推定されるものである。石質は球果の大きさ・多寡、白線・黒線などの模様、透明度、色調などから大きく8種類(黒曜石1~4・5a・5b・6・7)に分けた。また、被熱により石質分類が困難なものを便宜的に黒曜石8とした。以下に石質ごとの特徴を述べる。黒曜石1・2と黒曜石3~7は明瞭に分離できるが、黒曜石3~7は全体的に類似しており、同一母岩のものを複数の石質に分けている可能性もある。黒曜石1・2は1mm前後の比較的大きな球果が含まれるもので、球果が多いものを黒曜石1、少量のものは黒曜石2とした。黒曜石3~7は0.5mm以下の細かい球果が入るもので、さらに模様・透明度などで細分した。ただし、黒曜石3~7に分類した石器類については、1点の石器の中でも部位により、石質が変わるものもみられ、同一母岩の資料を複数の石質に分類している可能性があるものも含まれる。黒曜石3は流理構造が比較の明瞭で、模様として白線・黒線が入るものが多い。また、透明度は低めで、球果の量が多い点も特徴である。黒曜石4は流理構造が不明瞭なもので、白線の模様が少なく黒線は不明瞭である。透明度は高い。黒曜石5は流理構造が明瞭で、白線・黒線の模様が明瞭なものである。透明度は高い。白線は比較の明瞭である。球果が連続して筋状に入るもの(5a)と球果の量が少ないもの(5b)に分かれるが、同じ黒曜石の中での差異の可能性があるので、石質番号は分けずに5a・5bとした。黒曜石6は球果の量が非常に少なく、透明度が低い点が特徴である。模様は白線が入らず、黒線も不明瞭である。黒曜石7は白線・黒線の模様が明瞭なもので、透明度が高いものである。石質別の点数では黒曜石7が839点と最も多い。次いで黒曜石3が569点で、この中には比較的大型の接合資料も含まれる。他の石質の点数は比較の少ない。ツール類の点数では黒曜石7が351点と最も多く、次いで黒曜石3が235点である。各石質の石器ブロック別の点数は、SB-2が最も多く、次いでSB-3、SB-1の順になるものがほとんどだが、黒曜石6と黒曜石7はSB-3が最も多い。

接合資料の呼称は、「石質別資料名」と「接合番号」を組み合わせて、「黒曜石3・接合49」というように表示した。石質分類外の接合資料は「真岩・接合114」というように表示した。接合資料の内容は、剥片関連の接合資料が78個体と最も多く、次いで石刃関連が32個体、縦長剥片関連が12個体、削片関連が7個体、細石刃核関連と両面調整石器関連が1個体である。剥片関連の接合資料を除くと、

石刃剥離に関わる接合資料が最も多く、石刃素材の搔器の接合例も多くみられる。石材別にみると、黒曜石が108個体と最も多く、他は泥岩13個体、頁岩8個体、砂岩1個体である。石器ブロックごとの接合資料の内訳はS B-1が11個体、S B-2が59個体、S B-3が52個体、ブロック外が3個体である。その他にブロック間での接合例としてS B-1・2・3で1個体、S B-1・2で1個体、S B-2・3で2個体である。また、上述の様にブロック外の25-55区出土の搔器1点が、横断道C地区のF C-1出土の石刃1点と接合している。

#### ・石刃剥離に関わる接合資料

接合資料32個体内18個体を図示した。石材は全て黒曜石で、石刃及び石刃素材の搔器の接合資料が多い。良好な接合資料として石刃核母型製作、石刃剥離、石核の遺棄までの一連の剥離工程が確認できる、黒曜石3・接合45がある。また、石刃剥離の初期段階の接合資料としては黒曜石3・接合49や黒曜石3・接合90がある。石器ブロック間の接合例として、黒曜石3・接合61ではS B-1・2・3出土の石器が接合している。また、黒曜石3・接合49ではS B-2・3出土の石器が接合している。**黒曜石3・接合45** (図VI-3-1~3 図版115・116)

搔器8点(5個体)、彫器2点(1個体)、削器2点(1個体)、二次加工ある剥片6点(5個体)、石刃19点(10個体)、剥片57点(41個体)、石核1点で構成され、総点数95点、総重量438.40gである。角礫を原石とし、ある程度原礫面を除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されたと推定される。

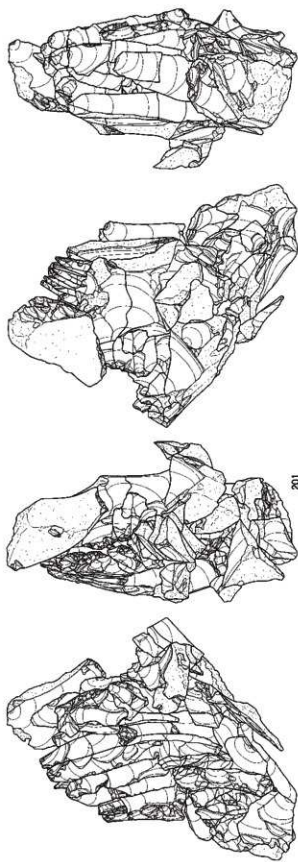
**作業内容** 主に原石の正面稜から左右側面への剥離によって石核調整が行われ、石刃核母型が製作される(段階1:201模式図網掛け部分)。石刃核母型の側面形は半月状を呈する。打面作出後、石刃は石刃核作業面に残る稜線の頂部を打点に設定し、打面調整・頭部調整を伴って剥離される。単設打面で、打面縁辺・頭部調整により打面縁辺はなだらかな山形に整形される。また、作業面下部形状の悪化に伴い作業面及び側面に調整が施される。剥離される石刃は長さ5~9cm、幅1.5~2cm程度で、遺跡内にほとんど遺棄される(段階2)。石刃核は、石刃剥離がほぼ不可能な状態で消費された後、石刃剥離の作業面から小型の不定形剥片を剥離し、最終的に遺棄される(段階3:202模式図網掛け部分)。剥離された石刃の多くを素材として、彫器(51)、搔器(96・97・103・110・121)、削器(126)などが製作される。搔器は、素材の長さが大きく減少するもの(103・110)と、さほど減少しないもの(96・97・121・126)に分かれる。

**分布** 主にS B-2の集中範囲である26~28-62~64区に分布するが、石刃核母型作成時の原礫面を残す剥片1点がブロック外の29-56区から出土している。

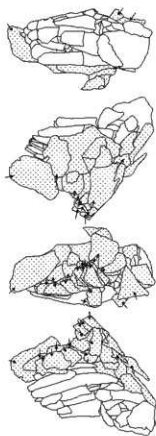
#### **黒曜石3・接合49** (図VI-3-4 図版116)

搔器10点(7個体)、石刃5点(3個体)、二次加工ある剥片1点、剥片(稜付石刃)2点で構成され、総点数18点、総重量91.53gである。接合資料に石刃核の両側面が取り込まれており、石刃核母型の稜が比較的鋭角であることから、石刃核母型は幅が狭いものである可能性が高い。

**作業内容** 稜付石刃が剥離された石刃核から石刃剥離が行われる。原石の形態は不明だが、稜下部にわずかに残る原礫面の特徴から角礫ないし亜角礫の可能性が高い。石刃核母型の形状は不明である。石刃剥離は打面調整及び頭部調整を伴い、一部稜調整も施される。剥離された石刃は、長さ5~10cm、幅1.5~2cm程度である。剥離された石刃を素材として搔器(67・77・80・109・117・120・122)が製作される。搔器の素材となる石刃は幅が広く厚みがあるものが多く、刃部は素材の末端部側に作り出されるものが多いが、120は素材の打点側に刃部が作り出される。製作された搔器は、個体により素材の長さの減少の程度が異なるが、109などは素材の長さが大きく減少する。

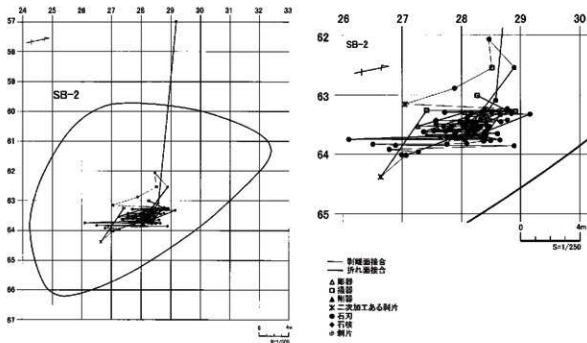
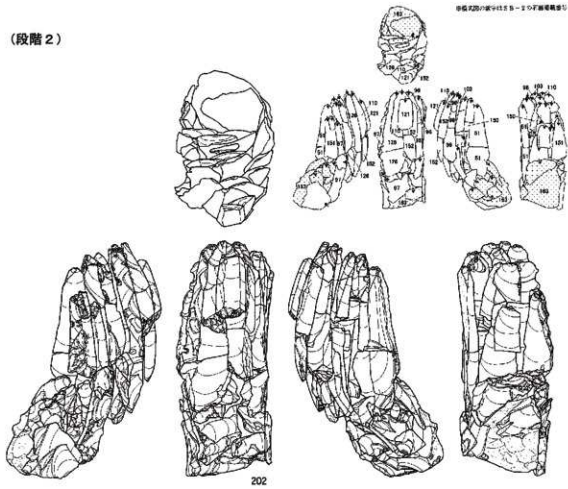


201



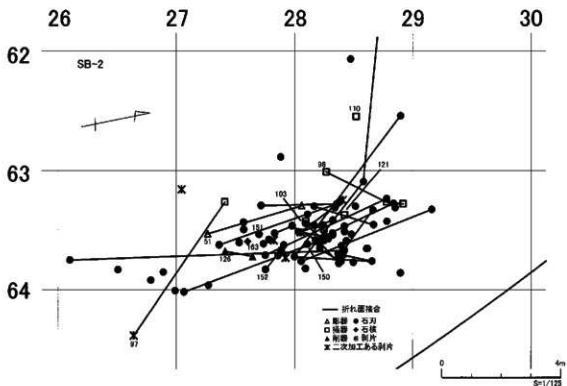
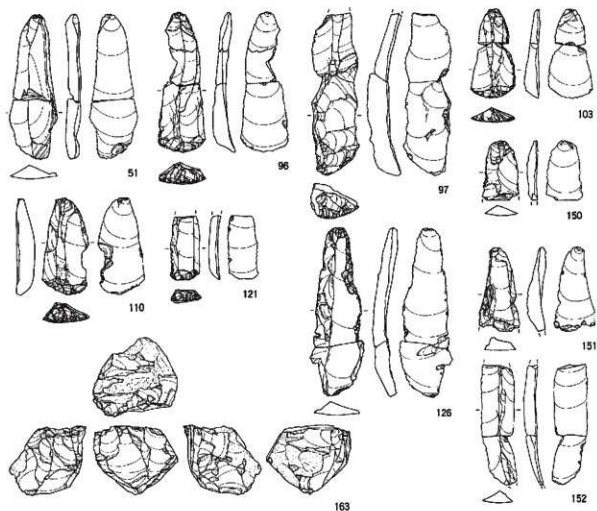
図VI-3-1 接合45 (1)

(段階 2)



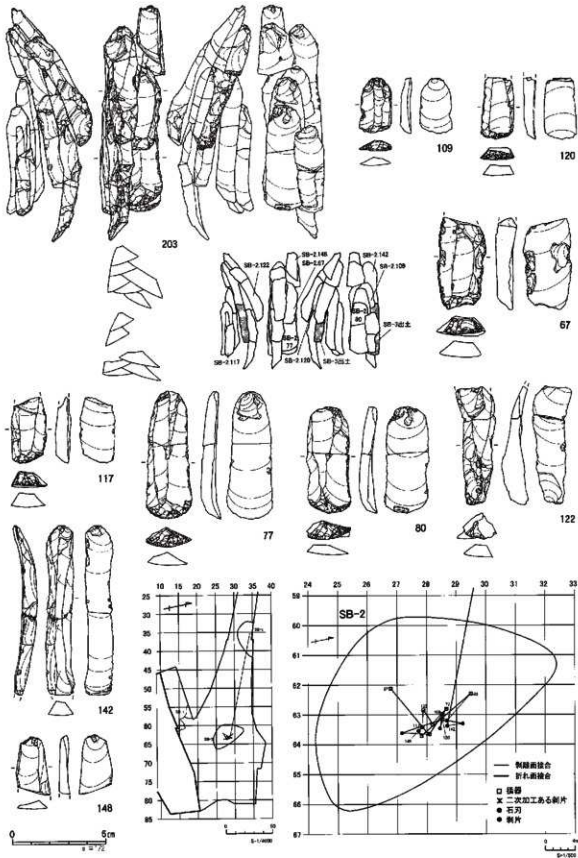
図VI-3-2 接合45(2)





图VI-3-3 接合45(3)

## 黒曜石3・接合49



図VI-3-4 接合49

**分布** SB-2・3に分布する。主にSB-2の集中範囲である26~29-62・63区に分布するが、約110m離れたSB-3の34-35区から石刃が1点(142下部)出土し、SB-2出土の石刃と折れ面接合する。

#### 黒曜石3・接合90(図VI-3-5 図版116)

削器1点、二次加工ある剥片3点(2個体)、剥片(稜付石刃)1点で構成され、総点数5点、総重量32.03gである。

**作業内容** 左右側面からの剥離により正面に稜が形成された石刃核から石刃剥離が行われる。原石の形態、石刃核母型の形状は不明である。稜部は細かい調整が施され、正面観は直線的で側面観はゆるやかな弧状を呈する。剥離される石刃はいずれも上部を折損するため長さは不明だが、幅は約2.5~3cmを測る。剥離した稜付石刃の一部を素材として削器(129)が製作される。

**分布** 主にSB-2の集中範囲である28-62・63区に分布するが、ブロック外の33-61区から石刃が1点(129上部)出土している。

#### 黒曜石5a, 5b・接合97(図VI-3-5 図版116)

搔器5点(3個体)、石刃5点(2個体)で構成され、総点数10点、総重量30.13gである。左側面に石刃核母型の側面を残す。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した上設打面の石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い、打面調整及びやや粗い頭部調整が施される。石刃の長さは9cm程度で、幅は約1.5~2.5cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器3点(95ほか)が製作される。搔器の長さには長短がみられる。

**分布** SB-2の集中範囲である26~28-62・63区に近接して分布する。

#### 黒曜石3・接合15(図VI-3-6 図版116)

搔器6点(4個体)、石刃1点で構成される。総点数は7点、総重量は35.72gである。右側面に平坦な原礫面を残すことから、原石の形態は角礫の可能性が高い。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した上設打面の石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い、打面調整及びやや粗い頭部調整が施される。石刃の幅は、約1.7~2.2cmを測る。また、剥離された石刃を素材として搔器(83・84・87・99)が製作される。搔器の長さは4~6cmと短めである。

**分布** SB-3範囲内で散漫に分布し、31-33区、32-34-35~37区から出土している。

#### 黒曜石5b・接合21(図VI-3-6 図版116)

搔器2点(2個体)、石刃1点で構成される。総点数は3点、総重量は16.02gである。右側面に石刃核母型の作業面調整と考えられる剥離痕を残している。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した上設打面の石刃核から、石刃剥離が行われる。右側面には、作業面側から細かい二次加工が施される。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。また、91・125の石刃剥離前には、作業面側から細かい側面調整が施される。石刃の幅はおおむね1.7~2.3cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器(91ほか)が製作される。左下部の搔器は未実測だが上下に刃部が作出されるものである。2点の搔器の長さは約3cmと小型である。

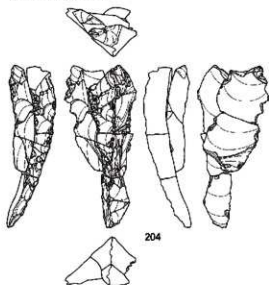
**分布** SB-3範囲内にやや離れて分布し、34-35区から搔器、34-38区から石刃が出土する。

#### 黒曜石3・接合16(図VI-3-7 図版117)

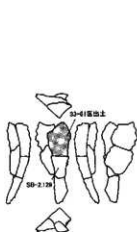
彫器2点(1個体)、石刃3点(3個体)で構成され、総点数は5点、総重量は21.24gである。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した上設打面の石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃は薄身で、長さ約8cm、幅1.5~2.2cmを測る。剥離された石刃を素材として彫器(49)が製作される。

黒曜石3・接合90



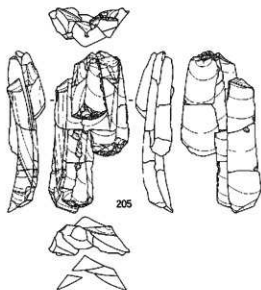
204



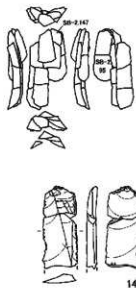
129



黒曜石5a,5b・接合97



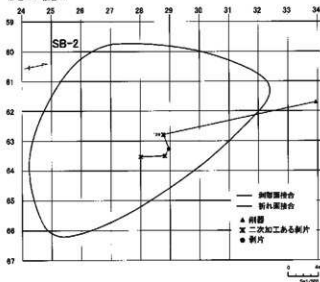
205



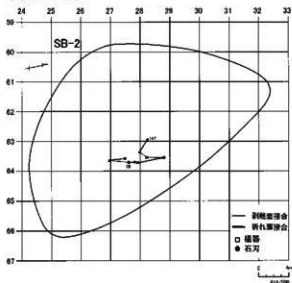
147



黒曜石3・接合90

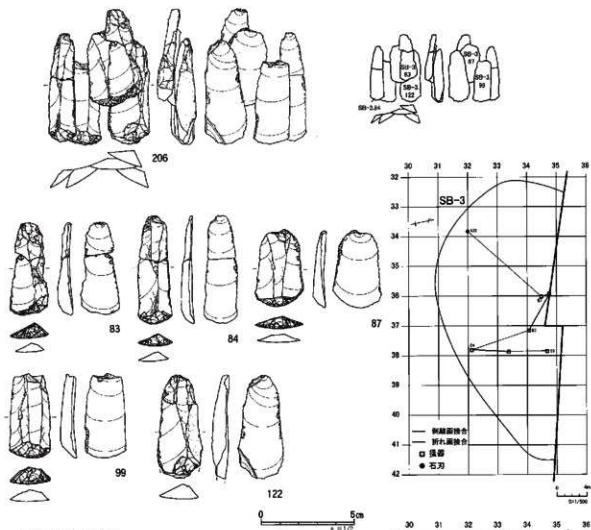


黒曜石5a,5b・接合97

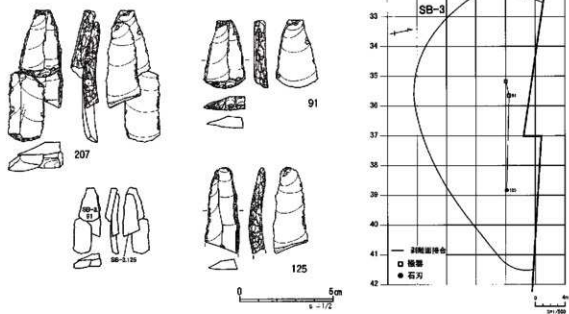


図VI-3-5 接合90・97

黑曜石3·接合15



黑曜石5b·接合21



图VI-3-6 接合15·21

**分布** 全てSB-3出土で、集中範囲内である33・34-35~37区に分布する。

**黒曜石7・接合11** (図VI-3-7 図版117)

搔器3点(2個体)の接合資料で、総重量は18.13gである。左側面に石刃核母型の剥離痕を残す。  
**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及びやや粗い頭部調整が施される。石刃は厚手で、幅は2.4~2.5cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器(81・85)が製作される。

**分布** 全てSB-3出土で、SB-3の集中範囲内である34-36・37区に分布する。

**黒曜石3・接合70** (図VI-3-8 図版117)

搔器2点(2個体)の接合資料で、総重量は35.85gである。左側面に平坦な原礫面を残すことから、原礫の形態は角礫である可能性が高い。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃は厚手で、幅は約3cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器(5・68)が製作される。

**分布** SB-3の集中範囲内である33-35区とブロック外の30-53区から出土し、約70m離れた距離で接合している。

**黒曜石6・接合96** (図VI-3-8 図版117)

石刃2点(2個体)の接合資料で、総重量は8.44gである。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃は下部を折損し、幅は2.2~2.5cmを測る。

**分布** 2点共にブロック外出土で、SB-3西側の34-31区とSB-2北東側33-65区に分布し、約130m離れた距離で接合している。

**黒曜石3・接合61** (図VI-3-8 図版117)

彫器2点(1個体)、搔器1点の接合資料で、総重量は24.34gである。右側面に平坦な原礫面を残すため、原石の形態は角礫である可能性が高い。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃の幅は1~1.8cmを測る。剥離された石刃を素材として彫器(52)、搔器(29)が製作される。彫器の彫刀面及び搔器の刃部は素材の末端側に作出される。

**分布** SB-1・2・3に分布する。搔器(29)はSB-1出土で、彫器(52)はSB-2とSB-3出土のものが折れ面接合している。SB-1・2間は約60m、SB-2・3間は約110m離れた距離で接合している。

**黒曜石5a・接合67** (図VI-3-9 図版117)

搔器5点(3個体)、二次加工ある剥片1点、石刃1点で構成され、総点数は7点、総重量は31.00gである。右側面に平坦な原礫面を残すため、原石の形態は角礫である可能性が高い。

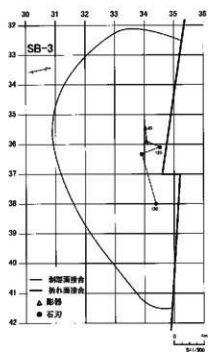
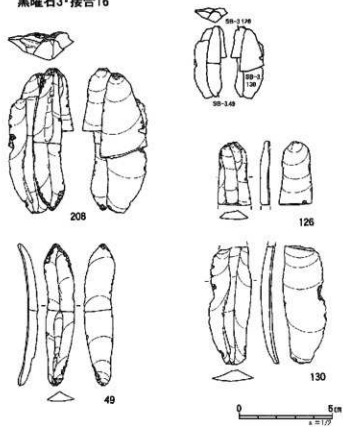
**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃の幅は1.5~2cmを測るが、接合資料背面には幅約2.5cmの石刃を剥離した痕跡が残っている。剥離された石刃を素材として、搔器(79・85・99)と二次加工ある剥片(139)が製作される。搔器の素材となる石刃は比較的厚みがある。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲内である27・28-63区に分布している。

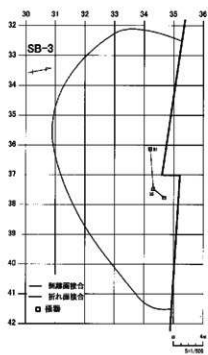
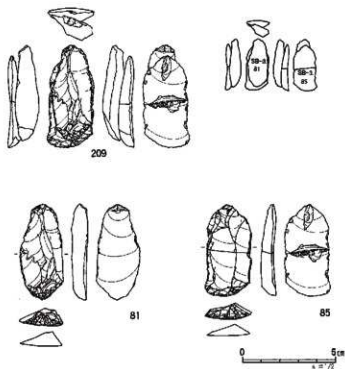
**黒曜石3・接合62** (図VI-3-9 図版117)

二次加工ある剥片3点(1個体)、石刃2点(1個体)で構成され、総点数は5点、総重量は25.27g

黑曜石3·接合16

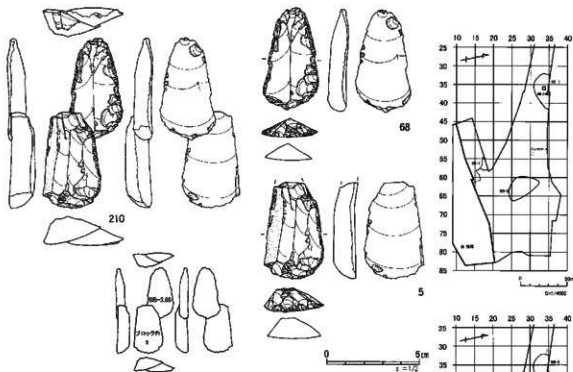


黑曜石7·接合11

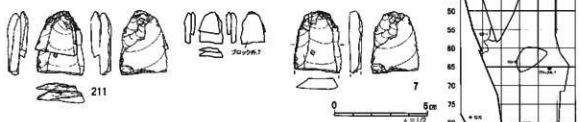


图VI-3-7 接合16·11

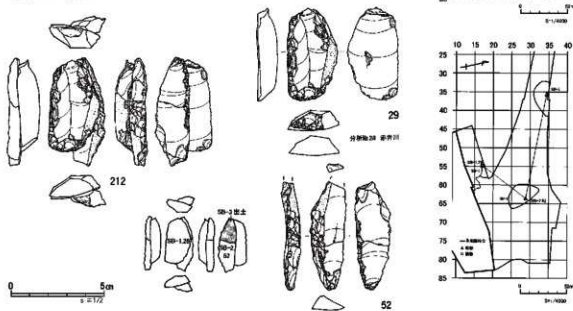
黒曜石3・接合70



黒曜石6・接合96



黒曜石3・接合61



図VI-3-8 接合70・96・61



である。左側面に石刃核母型の剥離痕を残す。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施される。石刃の幅は2.1～2.7cmを測る。剥離された石刃を素材として二次加工ある剥片が製作される。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である27・28-63区に分布している。

#### 黒曜石4・接合65(図VI-3-10 図版117)

搔器4点(3個体)で構成され、総重量は25.29gである。右側面下部に石刃核の剥離痕を残す。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から、石刃剥離が行われる。全て打点側を欠失するため打面調整及び頭部調整の有無は不明である。石刃の幅は2～2.5cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器(78・98・100)が製作される。100は78、98に比べて長さが約2.5cm短いものである。

**分布** 全てSB-3出土で、SB-3の集中範囲である34-35・36区に分布している。

#### 黒曜石5a・接合63(図VI-3-10 図版117)

搔器4点(3個体)、石刃1点で構成され、総点数は5点、総重量は23.48gである。右側面に平坦な原礫面を残すため、原石の形態は角礫である可能性が高い。

**作業内容** ある程度石刃剥離が進行した石刃核から石刃剥離が行われる。石刃剥離に伴い打面調整及び粗い頭部調整が施される。石刃の幅は2～2.8cmを測る。剥離された石刃を素材として搔器(66・83・90)が製作される。搔器の長さは4cm前後である。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26～28-63区に分布している。

#### 黒曜石3・接合81(図VI-3-11 図版117)

石刃核の打面調整剥片の接合資料である。剥片11点(5個体)で構成され、総重量は55.00gである。左側面に平坦な原礫面を残すため、原石は角礫の可能性が高い。

**作業内容** 石刃核の石刃剥離に伴い作業面側からの打面調整が6回以上行われる。剥離された剥片は大型で厚みがあるものが多い。

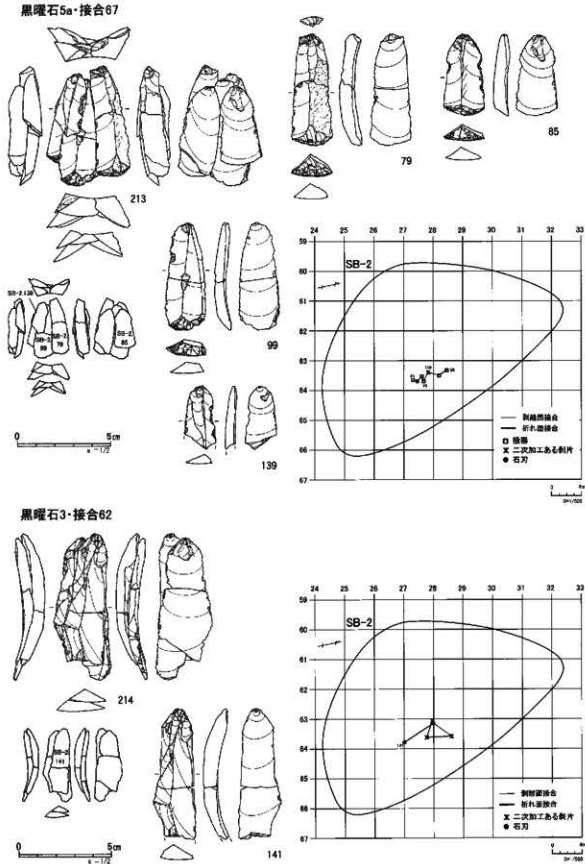
**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26～28-63区に多く分布するが、30-61区から1点出土している。

#### 黒曜石3・接合58(図VI-3-11 図版117)

石核1点、石刃5点(2個体)で構成され、総重量は105.05gである。上部と右側面を被熱による割れで欠失する。左側面、下面及び背面に大きく原礫面を残し、原石は角礫と考えられる。

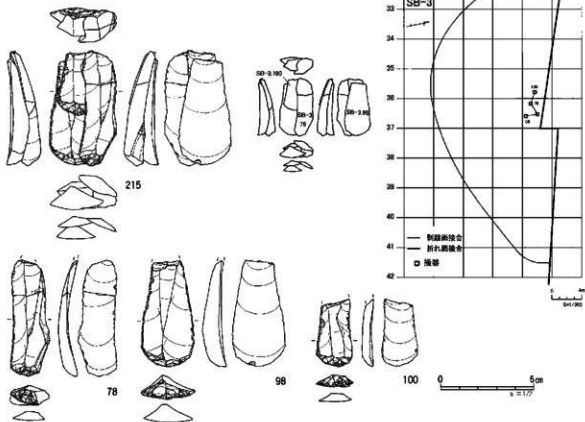
**作業内容** 石刃剥離がかなり進行した石核(石刃核)から石刃が剥離される。石刃剥離に伴い左側面下部に側面調整が行われる。石刃はやや不整で長さ約8cm、幅2.5～3cmを測る。接合した2点の石刃を剥離後、さらに1点石刃を剥離し遺棄している。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である27・28-63区に分布する。

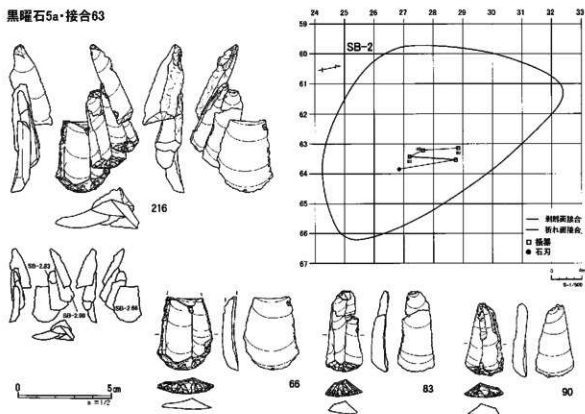


図VI-3-9 接合67・62

黑曜石4・接合65

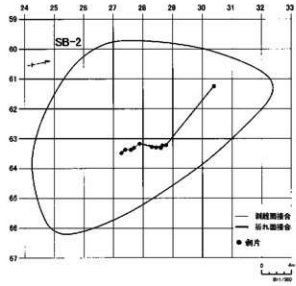
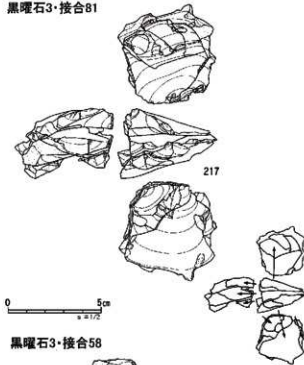


黑曜石5a・接合63

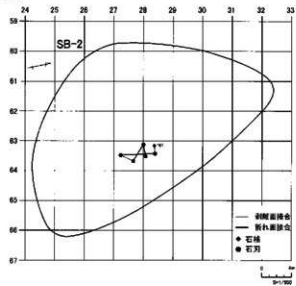
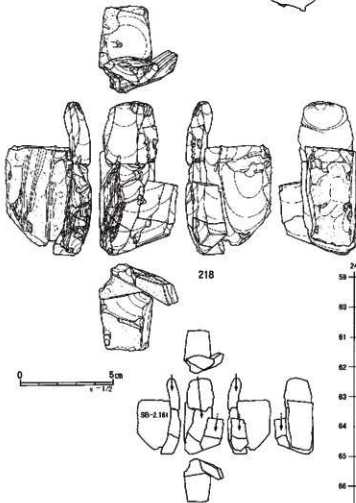


図VI-3-10 接合65・63

黒曜石・接合81



黒曜石・接合58



図VI-3-11 接合81・58

#### ・縦長剥片剥離作業関連の接合資料

接合資料12個体のうち、2個体を図示した。石材は黒曜石11個体、頁岩1個体である。縦長剥片、剥片の接合が多いが、削器、二次加工ある剥片が接合するものが少量ある。良好な接合資料は少ないが、接合点数の多いものとして黒曜石7・接合75、剥離初期段階のものとして黒曜石3・接合73が挙げられる。接合関係はブロック内で接合するものがほとんどで、SB-2でブロック外と接合するものが1例ある。

##### 黒曜石7・接合75 (図VI-3-12 図版117)

縦長剥片5点(2個体)、剥片17点(6個体)で構成される。総点数は22点で、総重量は128.59gである。原石は角礫で、筋状に穴が入る部分がみられる。

**作業内容** 角礫の稜から縦長剥片、剥片を剥離する。稜には縦長剥片剥離に先立ち一部側面調整が行われる。縦長剥片剥離に伴い打面調整及び粗い頭部調整が施されるが、後半の剥離では原礫面を打面とする。縦長剥片は長さ6~8cm、幅2~5cm程で、角礫内に広がる筋状の穴のため、剥離時ほとんどが折れている。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26~29-63・64区に分布する。

##### 黒曜石3・接合73 (図VI-3-12 図版117)

削器2点(1個体)、縦長剥片4点、剥片1点で構成される。総点数は7点で、総重量は27.40gである。正面下部から左側面にかけて平坦な原礫面を残し、原石は角礫と考えられる。

**作業内容** 縦長剥片剥離初期段階の石核から、縦長剥片、剥片を剥離する。剥離に伴い打面調整及び頭部調整が施されるが、打面の高さはほとんど変化しない。剥離された縦長剥片を素材として削器(130)が製作される。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26~28-63区に多く分布するが、削器の末端部側の破片1点がやや離れた27-60区から出土する。

#### ・不定形剥片剥離作業関連の接合資料

接合資料78個体のうち、3個体を図示した。石材は黒曜石62個体、頁岩2個体、泥岩13個体、砂岩1個体である。剥片のみの接合が多いが、搔器、削器、二次加工のある剥片が接合するものが少量ある。接合点数は5点以下のものが65個体で、個々の接合資料の点数は全体的に少量である。接合点数の多いものとして、黒曜石1・接合57が挙げられる。接合関係はブロック内で接合するものがほとんどで、一部石器ブロックとブロック外で接合するものがある。接合資料の中には石斧と剥片の接合資料も含む。石斧関連の接合資料は3個体で、接合点数は全て2点である。今回は図示していない。

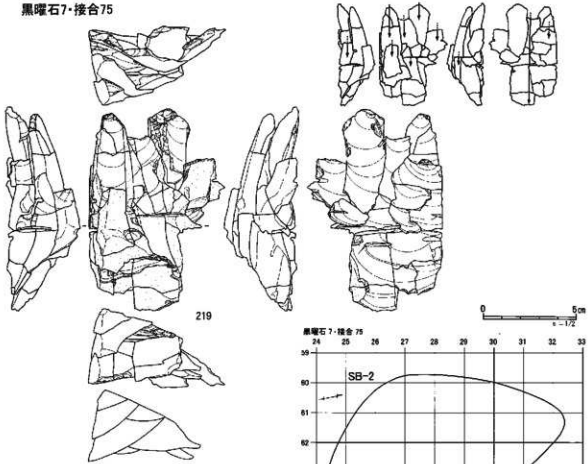
##### 黒曜石3・接合55 (図VI-3-13 図版118)

二次加工ある剥片15点(5個体)、縦長剥片4点(1個体)、剥片31点(16個体)で構成される。総点数は50点で、総重量は395.20gである。原石は角礫で、正面に原礫面を残し、粗割りした状態で遺跡内に搬入されたと考えられる。

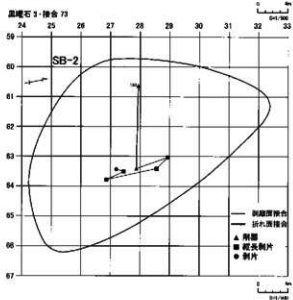
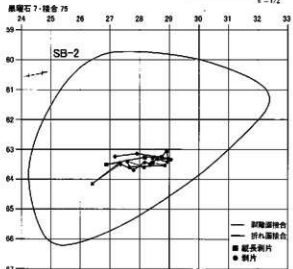
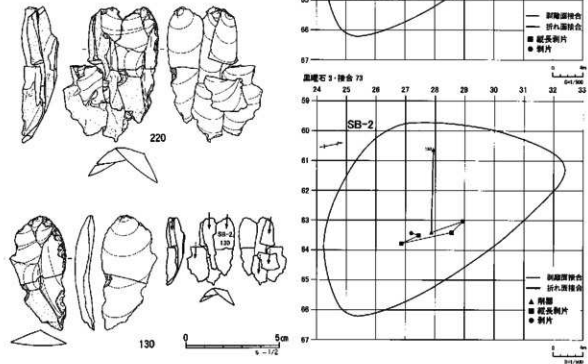
**作業内容** 原礫面を一部除去した状態の石核から、縦長剥片、剥片を剥離する。打面は上部に設定され、剥離に伴う打面調整や頭部調整は施されない。一部縦長剥片もみられるが、多くは不定形の大型剥片が剥離される。また剥離された剥片は定型的な石器の素材として利用されない。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26~29-62・63区に多く分布するが、1点のみやや離れた27-61区から出土する。

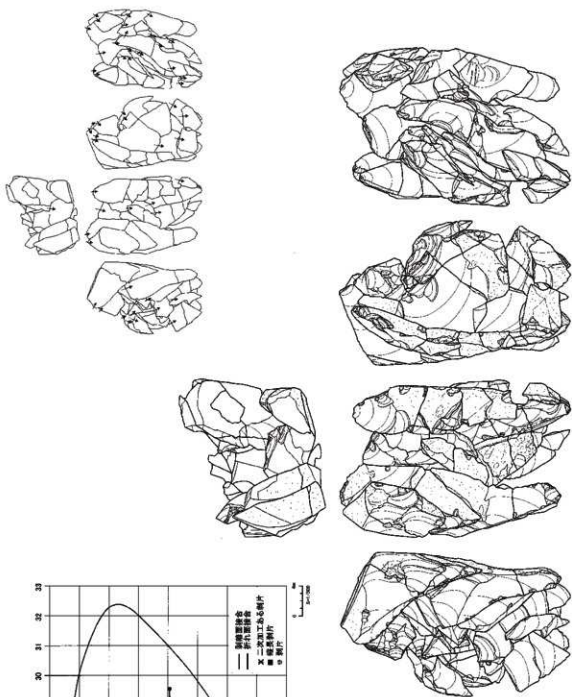
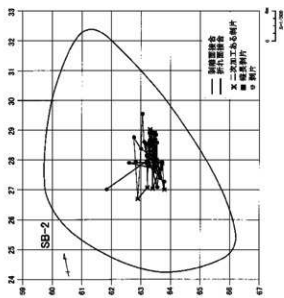
黒曜石7・接合75



黒曜石3・接合73



図VI-3-12 接合75・73



221

圖VI-3-13 接合55

**黒曜石 3・接合56 (図VI-3-14 図版118)**

錐形石器1点、剥片2点、石核1点で構成され、総重量は194.55gである。右側面及び下面に平坦な原礫面を残すため、原石は角礫と考えられる。

**作業内容** 剥離が進行した石核から剥片を剥離する。作業面は正面及び裏面の2面に設定され、正面は打面を上部に固定し縦長気味の剥片が剥離され、裏面は打面を固定せず、求心状に不定形剥片が剥離される。最終的に石核は遺跡内に遺棄される。また、剥離した剥片を素材として錐形石器(135)が製作される。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である28-63区に近接して分布する。

**黒曜石 1・接合57 (図VI-3-15・16 図版118)**

削器1点、剥片40点(39個体)、細片5点(5個体)、石核2点(2個体)で構成され、総点数は48点、総重量は355.01gである。原石は角礫で、背面側に原礫面を大きく残す。原礫面をある程度除去した状態で、遺跡内に搬入されている。

**作業内容** 最初に正面側の原礫面を除去し、その後正面左側中央付近の剥離により、大きく2個体(個体A・B)に分割される。個体Aはその後ほとんど剥片剥離が行われずに遺棄される(165)。個体Bは正面及び裏面を作業面として、不定形剥片の剥離が行われる。剥離される剥片の打面は原礫面もしくは単剥離打面のものがほとんどだが、打面調整及び頭部調整は施されるものも少量みられる。剥片を取りつきた後、多くの剥片及び小型の石核(166)は遺棄される。原礫面除去時の剥片を素材として削器(131)が製作される。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である27-29-62・63区に多く分布するが、やや離れた26-64区から2点、29-61区から1点出土する。

**黒曜石 5a・接合66 (図VI-3-16 図版118)**

削器1点、二次加工ある剥片6点(3個体)、剥片7点(3個体)で構成される。総点数は14点で、総重量は98.26gである。原石は角礫で、正面がほぼ原礫面となる。

**作業内容** 原礫面を大きく残す石核の角から剥片を剥離する。打面は上面に固定される。単剥離打面のもが多く、剥片剥離に伴い頭部調整が施される。剥離される剥片は不定形なものも多く、剥離した剥片を素材として削器(未掲載)、二次加工ある剥片(未掲載)が製作される。いずれも素材の形状を大きく変えるものではなく、側縁に細かい調整が施されるものである。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である26-28-63・64区に多く分布するが、二次加工ある剥片の破片1点がやや離れた30-61区から出土する。

**黒曜石 5a・接合78 (図VI-3-17 図版118)**

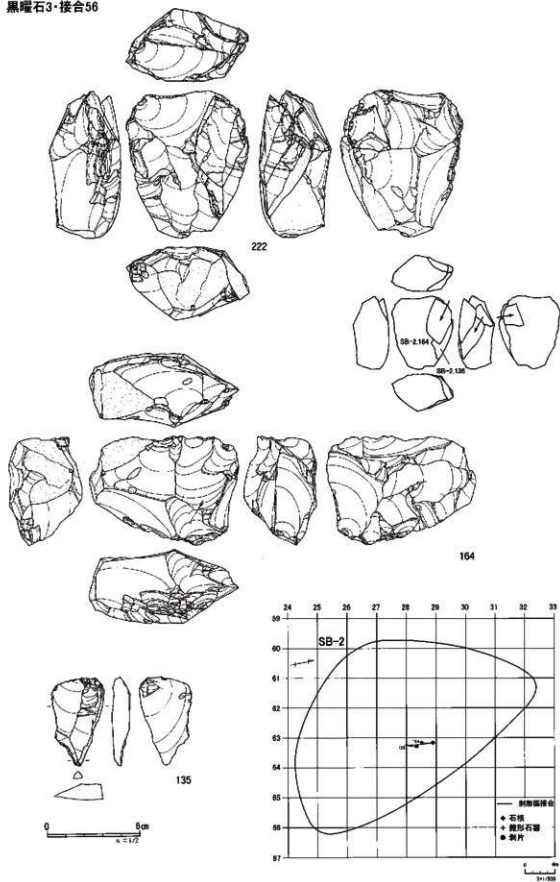
縦長剥片2点(1個体)、剥片8点(7個体)、石核2点(1個体)で構成される。総点数は12点で、総重量は68.80gである。原石は角礫で、背面に原礫面を残す。剥片剥離がある程度進行した状態で石核が遺跡内に搬入される。

**作業内容** 最初は打面を上面に設定し、細かい打面調整を行いながら剥片を剥離する。その後下面を打面としやや大型の剥片を最低4回以上剥離し、最終的に石核が割れた状態で遺棄される。作業面に接合する剥片が少量のため詳細は不明だが、作業面に残る稜線や細かい打面調整の存在から、縦長剥片もしくは石刃剥離を連続的に行っていた可能性が高い。

**分布** 全てSB-2出土で、SB-2の集中範囲である27・28-63区に多く分布するが、剥片1点がやや離れた25-64区から出土する。

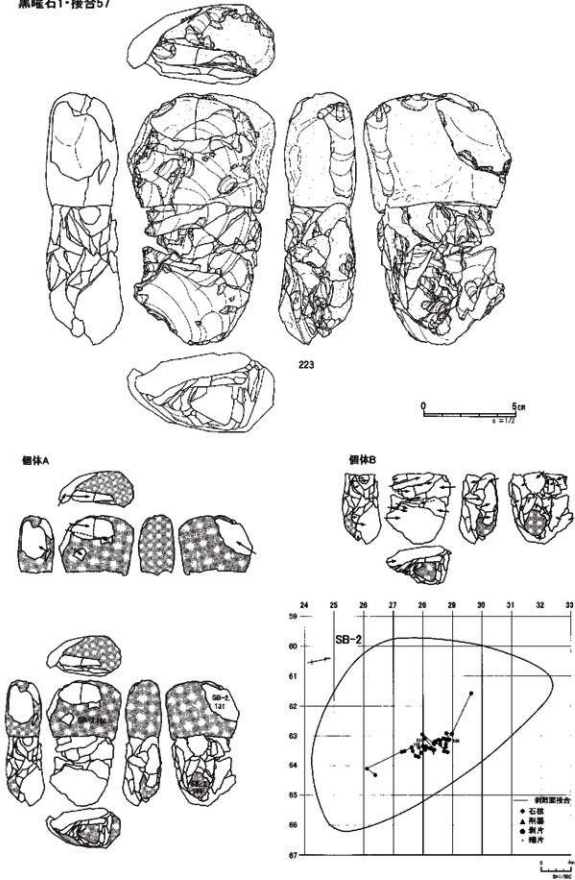


黑曜石3·接合56

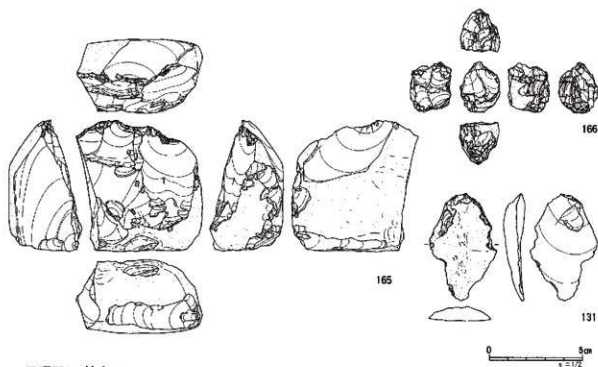


圖VI-3-14 接合56

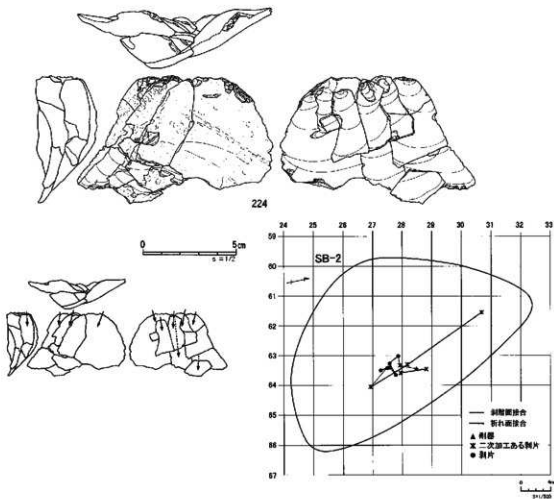
黒曜石1・接合57



図VI-3-15 接合57 (1)

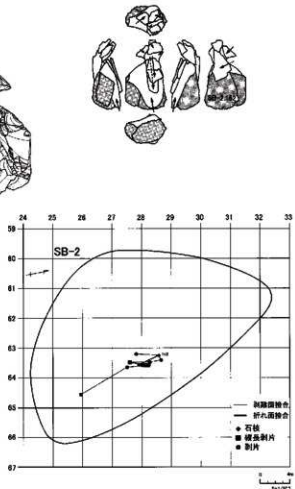
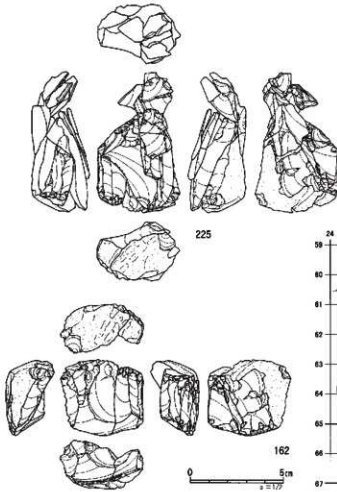


黑曜石5a·接合66

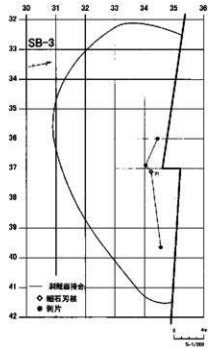
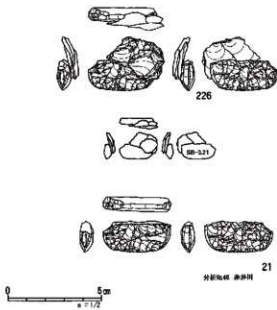


图VI-3-16 接合57(2)·66

黒曜石5a・接合78



黒曜石7・接合115



図VI-3-17 接合78・115

#### ・細石刃核製作関連の接合資料

接合資料はS B-3出土の1個体のみである。石材は黒曜石で、細石刃核と細石刃核母型製作時の調整剥片が接合している。

##### 黒曜石7・接合115 (図VI-3-17 図版118)

細石刃核1点、剥片3点(3個体)で構成され、総重量は8.27gである。遺跡内には両面調整石器の状態に搬入されている。

**作業内容** 側縁から両面に加工が施され、小型の細石刃核母型が製作される。接合資料の幅は約3cm、細石刃核の幅は約1.5cmであり、幅が約半分になるまで加工が施される。その後、細石刃核母型の長軸に沿って削片が剥離され、細石刃が両端部から剥離される。最終的に細石刃核は遺棄される。

**分布** 全てS B-3出土で、S B-3の集中範囲である34-35~37区に細石刃核を含む3点が分布するが、やや離れた34-39区から剥片が1点出土する。

#### ・両面調整石器製作関連の接合資料

接合資料はS B-3出土の1個体のみである。石材は黒曜石で、両面調整石器と両面調整石器製作時の調整剥片が接合している。

##### 黒曜石3・接合35 (図VI-3-18 図版118)

両面調整石器2点(1個体)、剥片4点(3個体)、細片1点で構成される。総点数は7点、総重量は61.30gである。両面調整石器の状態に遺跡内に搬入されている。

**作業内容** 両面調整石器の側縁から両面に加工が施される。上下を折損するため、製作中の折損により遺棄した可能性が高い。最終的に尖頭器製作を目的としていた可能性がある。

**分布** 全てS B-3出土で、S B-3の集中範囲である33・34-34~37区に分布する。

#### ・削片関連の接合資料

接合資料は7個体で、この中で彫器と削片の接合資料4個体を掲載した。他に削片のみの接合資料が3個体ある。石材別の内訳は黒曜石2個体、頁岩5個体である。全て彫器削片の接合で、細石刃核削片の接合資料はない。削片以外に彫器製作に関わる接合資料はないため、彫器は彫刀面を作出した状態で遺跡内に搬入され、遺跡内では削片剥離のみ行われた可能性が高い。接合関係はブロック内で接合するものがほとんどだが、S B-1出土の彫器とS B-2出土の削片がブロック間で接合する例が1例(頁岩・接合114)ある。

##### 頁岩・接合114 (図VI-3-18 図版118)

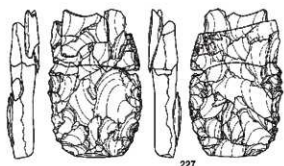
彫器1点、削片1点で構成され、総重量は38.93gである。大型の石刃を素材とする彫器から37の削片剥離後、もう一度削片剥離を行う。作出された彫刀面は腹面側に傾く。また、彫器は最終的に遺跡内に遺棄される。

**分布** 彫器(12)はS B-1出土で、削片(37)はS B-2の集中範囲である27-63a区から出土している。削片(37)は土壌水洗選別により回収されたものである。

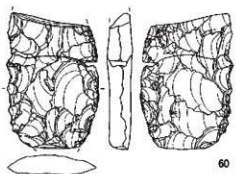
##### 頁岩・接合10 (図VI-3-19 図版118)

彫器1点、削片1点で構成され、総重量は4.59gである。石刃素材の彫器から削片剥離が行われる。作出された彫刀面は腹面側に傾く。削片剥離後に彫刀面から背面側に細かい二次加工が施される。彫器は最終的に遺跡内に遺棄される。

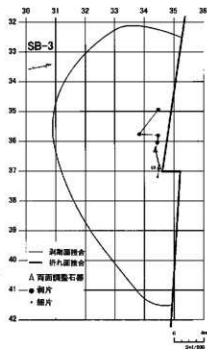
## 黒曜石・接合35



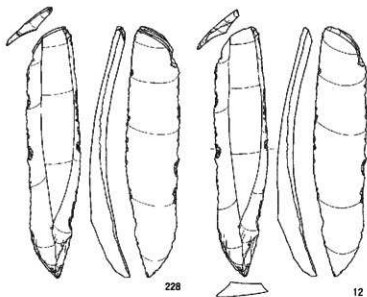
227



60

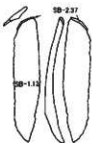


## 頁岩・接合114



228

12

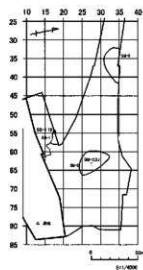


SB-237

SB-112

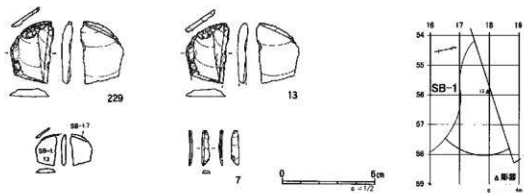


37

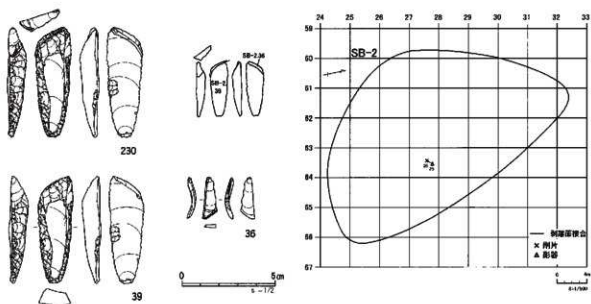


図VI-3-18 接合35・114

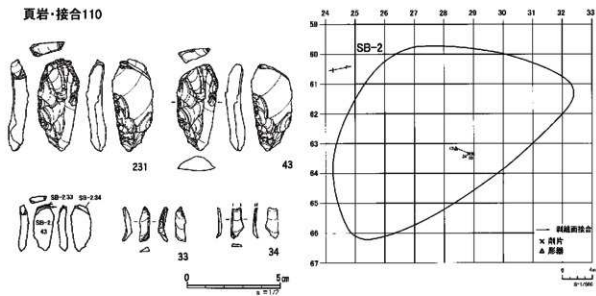
頁岩・接合10



頁岩・接合109



頁岩・接合110



図VI-3-19 接合10・109・110

**分布** 彫器 (13)、削片 (7) 共にSB-1の17-55区出土で、削片 (7) は土壌水洗選別により回収されたものである。

**頁岩・接合109** (図VI-3-19 図版118)

彫器1点、削片1点で構成され、総重量は11.55gである。石刃素材の彫器から削片剥離が行われる。作出された彫刀面は腹面側に傾く。削片剥離後、彫刀面から背面側に細かい二次加工が施される。彫器は最終的に遺跡内に遺棄される。

**分布** 彫器 (39)、削片 (36) 共にSB-2の集中範囲である27-63区出土で、近接して出土する。

**頁岩・接合110** (図VI-3-19 図版118)

彫器1点、削片2点 (2個体) で構成され、総重量は10.23gである。彫器から2回削片剥離が行われる。作出された彫刀面は腹面側に傾く。削片剥離後に彫刀面から背面側に細かい二次加工が施される。その後、再度短い削片剥離が行われるが、彫器は最終的に遺跡内に遺棄される。

**分布** 彫器 (43)、削片 (33・34) 全てSB-2の集中範囲である28-63区出土で、近接して出土する。

#### 4. まとめ

今回の調査では、忍路字型細石刃核石器群の石器集中が3か所検出された。ブロック間での接合関係があるため全体的に一括性が高く、出土点数が多い点も含めて石狩低地帯における忍路字型細石刃核石器群の良好な資料といえる。

今回出土した忍路字型細石刃核石器群の特徴は、①忍路字型細石刃核石器群の組成が把握できる点、②搔器・石刃等の接合資料が豊富である点等が挙げられる。以下に各特徴について述べる。①：細石刃・細石刃核・彫器・搔器・削器等の他に尖頭器・斧形石器・顔料関連遺物など忍路字型細石刃核石器群に伴う定型的な石器の多くが出土した。組成の特徴としては搔器が多い点が挙げられ、これは忍路字型細石刃核石器群の特徴と一致する。また搔器の中には、刃部の平面形が左肩下がりのものや、刃部際にパンチ痕がみられるものが一定数みられた。石材の特徴として、黒曜石が多く、黒曜石原産地分析や肉眼観察等からほとんどの黒曜石が赤井川産と推定される。また、彫器等については頁岩製のものが多くみられる。②：接合資料から推定される遺跡内での作業内容は、剥片剥離作業以外では、石刃剥離に関連するものが多い。石刃剥離に関しては頭部調整及び打面調整が行われるのが一般的で、角礫原石ないし粗割り状態で遺跡内にもちこみ、石刃核母型製作→石刃剥離→ツール製作、石核遺棄 (黒曜石3・接合45) するものや、石刃剥離初期段階の石刃核から石刃剥離を行うもの (黒曜石3・接合49等)、ある程度石刃剥離が進行した石刃核から石刃剥離を行うもの (黒曜石3・接合15等) などがある。また、剥離した石刃を素材として搔器の製作を行うものが多くみられる。これは遺跡内でも、石刃剥離及び搔器の製作が主体的に行われ、さらに搔器を使用した作業が行われたことが伺える。また、少量ではあるが、彫器削片剥離、細石刃核製作、両面調整石器製作、斧形石器製作を示す接合資料もあり、遺跡内でこれらの作業が行われていたと推測される。また、接合資料はないが細石刃剥離作業も行われていたと考えられる。

千歳市内において忍路字型細石刃核石器群が出土した遺跡はオサツ16遺跡、メボシ川2遺跡、丸子山遺跡、祝梅上層遺跡がある。これらの内、本遺跡と同じ小型の忍路字型細石刃核が出土しているのはオサツ16遺跡ブロック1のみである。オサツ16遺跡ブロック1は遺物が約32,000点出土し、定型的な石器の組成も本遺跡と類似する。接合作業がほとんど行われていないため、石器製作の詳細は不明



だが、黒曜石製の石刃や石刃素材の搔器が多いこと等から本遺跡と同様な石器製作を行っていた可能性が高い。本遺跡とオサツ16遺跡に加え、他遺跡の調査結果を合わせて比較、検討を行うことにより石狩低地帯における忍路子型細石刃核石器群の特徴を把握することができると思われる。

#### 黒曜石製遺物原産地推定について

今回出土した旧石器石材の多数を占める黒曜石の利用状況を知るために41点について原産地推定を行った(付篇1)。分析試料は、主に石器ブロック出土の細石刃核と黒曜石2～7の石質の定型的な石器等から抽出した。結果は全て赤井川産と判定され、これは肉眼観察の所見とも一致する。推定結果と肉眼観察から、今回出土した忍路子型細石刃核石器群の黒曜石のほとんどは赤井川産を使用していると推定され、本遺跡から比較的近い黒曜石原産地である赤井川から黒曜石を得ていたことが確認できた。

#### 年代測定結果について

S B - 1 と S B - 2 の絶対年代を知るために、石器ブロック範囲から出土した炭化物4点について3点について放射性炭素年代測定を行った(北埋調報284 付篇2)。対象試料はS B - 1 範囲内のⅦ層出土の炭化物1点、S B - 2 範囲内で検出した炭化物集中Ⅶ層出土の炭化物3点である。結果は補正年代でS B - 1 が $4580 \pm 40$ yr B P、S B - 2 は $18570 \pm 80$ yr B P、 $18500 \pm 70$ yr B P、 $18350 \pm 70$ yr B Pである。S B - 1 の年代は縄文時代に該当し、これは上位層からの混入の結果と推測される。S B - 2 の測定値はまとまりがみられるが、炭化物集中とS B - 2 との共伴関係が不明なため、測定結果をそのまま忍路子型細石刃核石器群の年代として採用するのは難しい。層位的には恵庭 a 降下軽石層(E n - a) 上位出土であるため、E n - a よりは新しいといえる。(広田)





表VI-3-1 旧石器接合資料観察表(1)

基礎石3・接合45 (図VI-3-1-3-201~202 図例115・116) 観点数5点										
検体番号	Flake No.	層別	接合	面	面番号	刃	刃長	刃幅	厚さ	備考
接合	0.0-1	30-40	V-30	側面	1	207.0	3.50	1.00	1.00	11
	0.0-1	30-40	V-30	側面	2	207.0	3.50	1.00	1.00	12
	0.0-1	30-40	V-30	側面	3	207.0	3.50	1.00	1.00	13
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	4	207.0	3.50	1.00	1.00	14
	0.0-1	30-40	V-30	側面	5	207.0	3.50	1.00	1.00	15
	0.0-1	30-40	V-30	側面	6	207.0	3.50	1.00	1.00	16
接合	0.0-1	30-40	V-30	側面	7	207.0	3.50	1.00	1.00	17
	0.0-1	30-40	V-30	側面	8	207.0	3.50	1.00	1.00	18
	0.0-1	30-40	V-30	側面	9	207.0	3.50	1.00	1.00	19
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	10	207.0	3.50	1.00	1.00	20
	0.0-1	30-40	V-30	側面	11	207.0	3.50	1.00	1.00	21
	0.0-1	30-40	V-30	側面	12	207.0	3.50	1.00	1.00	22
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	13	207.0	3.50	1.00	1.00	23
	0.0-1	30-40	V-30	側面	14	207.0	3.50	1.00	1.00	24
	0.0-1	30-40	V-30	側面	15	207.0	3.50	1.00	1.00	25
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	16	207.0	3.50	1.00	1.00	26
	0.0-1	30-40	V-30	側面	17	207.0	3.50	1.00	1.00	27
	0.0-1	30-40	V-30	側面	18	207.0	3.50	1.00	1.00	28
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	19	207.0	3.50	1.00	1.00	29
	0.0-1	30-40	V-30	側面	20	207.0	3.50	1.00	1.00	30
	0.0-1	30-40	V-30	側面	21	207.0	3.50	1.00	1.00	31
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	22	207.0	3.50	1.00	1.00	32
	0.0-1	30-40	V-30	側面	23	207.0	3.50	1.00	1.00	33
	0.0-1	30-40	V-30	側面	24	207.0	3.50	1.00	1.00	34
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	25	207.0	3.50	1.00	1.00	35
	0.0-1	30-40	V-30	側面	26	207.0	3.50	1.00	1.00	36
	0.0-1	30-40	V-30	側面	27	207.0	3.50	1.00	1.00	37
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	28	207.0	3.50	1.00	1.00	38
	0.0-1	30-40	V-30	側面	29	207.0	3.50	1.00	1.00	39
	0.0-1	30-40	V-30	側面	30	207.0	3.50	1.00	1.00	40
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	31	207.0	3.50	1.00	1.00	41
	0.0-1	30-40	V-30	側面	32	207.0	3.50	1.00	1.00	42
	0.0-1	30-40	V-30	側面	33	207.0	3.50	1.00	1.00	43
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	34	207.0	3.50	1.00	1.00	44
	0.0-1	30-40	V-30	側面	35	207.0	3.50	1.00	1.00	45
	0.0-1	30-40	V-30	側面	36	207.0	3.50	1.00	1.00	46
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	37	207.0	3.50	1.00	1.00	47
	0.0-1	30-40	V-30	側面	38	207.0	3.50	1.00	1.00	48
	0.0-1	30-40	V-30	側面	39	207.0	3.50	1.00	1.00	49
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	40	207.0	3.50	1.00	1.00	50
	0.0-1	30-40	V-30	側面	41	207.0	3.50	1.00	1.00	51
	0.0-1	30-40	V-30	側面	42	207.0	3.50	1.00	1.00	52
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	43	207.0	3.50	1.00	1.00	53
	0.0-1	30-40	V-30	側面	44	207.0	3.50	1.00	1.00	54
	0.0-1	30-40	V-30	側面	45	207.0	3.50	1.00	1.00	55
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	46	207.0	3.50	1.00	1.00	56
	0.0-1	30-40	V-30	側面	47	207.0	3.50	1.00	1.00	57
	0.0-1	30-40	V-30	側面	48	207.0	3.50	1.00	1.00	58
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	49	207.0	3.50	1.00	1.00	59
	0.0-1	30-40	V-30	側面	50	207.0	3.50	1.00	1.00	60
	0.0-1	30-40	V-30	側面	51	207.0	3.50	1.00	1.00	61
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	52	207.0	3.50	1.00	1.00	62
	0.0-1	30-40	V-30	側面	53	207.0	3.50	1.00	1.00	63
	0.0-1	30-40	V-30	側面	54	207.0	3.50	1.00	1.00	64
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	55	207.0	3.50	1.00	1.00	65
	0.0-1	30-40	V-30	側面	56	207.0	3.50	1.00	1.00	66
	0.0-1	30-40	V-30	側面	57	207.0	3.50	1.00	1.00	67
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	58	207.0	3.50	1.00	1.00	68
	0.0-1	30-40	V-30	側面	59	207.0	3.50	1.00	1.00	69
	0.0-1	30-40	V-30	側面	60	207.0	3.50	1.00	1.00	70
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	61	207.0	3.50	1.00	1.00	71
	0.0-1	30-40	V-30	側面	62	207.0	3.50	1.00	1.00	72
	0.0-1	30-40	V-30	側面	63	207.0	3.50	1.00	1.00	73
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	64	207.0	3.50	1.00	1.00	74
	0.0-1	30-40	V-30	側面	65	207.0	3.50	1.00	1.00	75
	0.0-1	30-40	V-30	側面	66	207.0	3.50	1.00	1.00	76
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	67	207.0	3.50	1.00	1.00	77
	0.0-1	30-40	V-30	側面	68	207.0	3.50	1.00	1.00	78
	0.0-1	30-40	V-30	側面	69	207.0	3.50	1.00	1.00	79
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	70	207.0	3.50	1.00	1.00	80
	0.0-1	30-40	V-30	側面	71	207.0	3.50	1.00	1.00	81
	0.0-1	30-40	V-30	側面	72	207.0	3.50	1.00	1.00	82
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	73	207.0	3.50	1.00	1.00	83
	0.0-1	30-40	V-30	側面	74	207.0	3.50	1.00	1.00	84
	0.0-1	30-40	V-30	側面	75	207.0	3.50	1.00	1.00	85
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	76	207.0	3.50	1.00	1.00	86
	0.0-1	30-40	V-30	側面	77	207.0	3.50	1.00	1.00	87
	0.0-1	30-40	V-30	側面	78	207.0	3.50	1.00	1.00	88
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	79	207.0	3.50	1.00	1.00	89
	0.0-1	30-40	V-30	側面	80	207.0	3.50	1.00	1.00	90
	0.0-1	30-40	V-30	側面	81	207.0	3.50	1.00	1.00	91
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	82	207.0	3.50	1.00	1.00	92
	0.0-1	30-40	V-30	側面	83	207.0	3.50	1.00	1.00	93
	0.0-1	30-40	V-30	側面	84	207.0	3.50	1.00	1.00	94
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	85	207.0	3.50	1.00	1.00	95
	0.0-1	30-40	V-30	側面	86	207.0	3.50	1.00	1.00	96
	0.0-1	30-40	V-30	側面	87	207.0	3.50	1.00	1.00	97
二面刃加工片	0.0-1	30-40	V-30	側面	88	207.0	3.50	1.00	1.00	98
	0.0-1	30-40	V-30	側面	89	207.0	3.50	1.00	1.00	99
	0.0-1	30-40	V-30	側面	90	207.0	3.50	1.00	1.00	100



## VII章 成果と問題点

### 1. 遺構について (図IV-1-1・2)

キウス5遺跡のV層の遺構は、住居跡44軒・土坑103基・小土坑2か所・小柱穴393か所(柱穴列)・焼土245か所(焼土列)・土器集中1か所・フレイク集中4か所・礫集中2か所を調査した。

これらは縄文時代中期後半～後期初頭のもので、本遺跡は当該期の集落跡であり、その内容をまとめておく。

竪穴住居跡は、長径10m程度以上の大型、7～5m程度の中型の大、4m程度の中型の小、小型は長径3～2m程度で、一部は土坑として調査したLPも含め大別できる。列挙すると、大型は楕円形でLH-16・18・21・26、H-10(LH-33)があり、最大はLH-16で、住居跡が位置する範囲の中央よりやや西側で、さらに柱穴列・焼土列の中心に位置するとみる。中型はLH-4・5・10・12・14・15・19・23・27・28・29がある。中型の小はLH-2・8・13・20・24・25・31・35がある。小型はLH-1・6・7・11・17AとB・22、32等、土坑ではLP-3・13・15・16・23・31・33・39・41・43・52・56・59・62・70・71・74・77・86・88等である。土坑のうち長径1m程度で、復原個体を伴うものは墓壇の可能性を考える。土坑で小さなものLP-76・78とLSP-1・2は規模や位置から小柱穴と考え、合計397か所を数える。焼土の多くは直線または曲線状の列状に位置する。

各遺構から概ねⅢ群b類土器のすべての型式が出土している、住居跡は小型～中型の小は萩ケ岡式で古く、大型のものは柏木川式、ノダブⅡ式で新しいと考える。また、調査グリッド32～34-75～82ラインの範囲は住居跡や土坑がみられず、住居群は空間を取り囲むいわゆる「馬蹄形」に位置する。

土器型式から遺構の時期を特定し、集落の変遷について等、詳細な考察はできなかったが、本遺跡の住居跡は、縄文時代中期後半の集落構造を考える上で良好な遺跡である。住居跡が集中することは、この場所でこれらの構築・建て替えが頻繁であったことを示し、その時間単位は同一土器型式内でも行われたと推測する。

小柱穴は、平成8(1996)年度の横断自動車道の調査でも、「杭穴列・柵列」として調査した遺構で、調査報告書(北埋調報116)や再考察の論考(大泰司 1997)では、これらは「シカの追い込み罠の柵列」との結論を示した。時期は、縄文時代中期の柏木川式期の竪穴住居跡を切っていると判断したことから、これよりも新しく土器型式では北筒式期以降とした。

図IV-1-2及び、小柱穴全体図をみると、IV章でも述べたが、明瞭な円形を呈する列が、小柱穴A・B・C・Dで、これらの中心は最大規模の竪穴住居跡LH-16で、この円周の内部には多くの住居跡がある。また、南側の小柱穴C・Fでは斜面に位置する住居跡LH-13近くまで直線的に続く。小柱穴の列は「曲線状」・「直線状」・「列状をなさず無作為」の三つに大まかに分けられる。一方ですべての小柱穴・杭穴列が同時期に存在したと断定できる根拠はない。これら小柱穴・杭穴列は縄文時代中期後半の竪穴住居跡・遺構が集中する区域に近接、重複してみられ、平成8(1996)年度の調査成果でも同様である(図VII-65 C地区中央部・V層の遺構位置図 北埋調報116 291頁)。

小柱穴・杭穴列の性格について。三つの可能性を指摘する。

- 1: これらの小柱穴・杭穴列の多くが同時に存在したとの仮定では、住居跡の建て替えや構築により集落としての空間が移動・拡張・縮小したと予想され、集落の外縁部を囲う曲線状の小柱穴・杭穴列は、集落空間の変化に対応するように構築し直され、結果、廃絶した遺構を切るものも生じ

たとえる。また、直線状のものは離れた住居跡へ続き、列状をなさず無作為にもは、列の変化点付近に位置し、時期は集落の時期の縄文時代中期後半と考える。

- 2: これらの小柱穴・杭穴列が同時に存在したものでないとすれば、考えられるのは個々の竪穴住居跡に付属する数本の外部柱・杭の穴等と考えられる。これらが、住居跡の建て替えに伴い、その住居跡の周辺に移動し、その累積した結果の可能性もある。しかし、この場合、小柱穴・杭穴の位置は規則性をもたず、無作為に位置すると考える。
- 3: これらの小柱穴・杭穴列の多くが同時に存在し、シカの追い込み猟の柵列であるならば、その時期は縄文時代中期後半より新しい、遺構や出土遺物から、縄文時代後期初頭・同晩期後半のいずれかであろう。まず、両調査とも覆土中にT a-cが混入しないことから、縄文時代晩期であることは否定できる。また、平成19(2007)年度の調査では、小柱穴・柵列の西側にL H-25 A (24-64区、25-63・64区)が1軒あり、これは中期後半に続く縄文時代後期初頭のもので、これ1軒のみである。この住居跡は縄文時代中期後半の住居跡(L H-25 B 萩ヶ岡式期)が埋没した上部のゆるやかなくぼみを利用したもので、シカ狩りのためとの推測もできる。

発掘調査で、黒色土層が主体の覆土であるこれら小柱穴を、V層上面でその平面を発見することは、非常に困難であり、調査の手順上、すべての調査を完了させたVII層上面で確認せざるをえなかった。特に平成21年度の調査では、小柱穴の存在を予想し、注意を払って調査したが、V層中で竪穴住居跡と小柱穴・杭穴列の切り合い・重複関係を確認することはできなかった。両者の層位的な新旧関係は不明で、平成8(1996)年度の報告(北埋調報116)の記載「すべての小柱穴・杭穴が柏木川式期の住居跡を切っている」とは断言できない。また、過年度での報告等(前掲書)にあるように、遺構が小さいため半截やその形状のまま掘るのは困難で、個々の柱穴・杭穴のすべてを正確に掘り記録することに限界があり、これらの発見や形状の分類等の発掘調査・整理作業の結果に影響を与えていることは否めないが、概ねその全容は把握できたと考えている。

なお、上記三つのうち、本発掘調査の結論で最も可能性があるのは、おそらく1.「集落の外縁部に設けられた小柱穴列・杭穴列」と結論づける。

焼土列は調査区の中央付近の「西側焼土列」と、北東側の遺構の集中する区域の「東側焼土列」、そして、これらの間に想定される「東西間の焼土」と呼称した。列の認定は、やや恣意的になることも否めないが、IV章5節で述べた列を想定した。焼土は長径が0.40~0.60m、厚みは0.1m以上のものが多く、住居外部に設けられた火床と考える。しかし、住居内部に炉跡をもつものも多く、さらに住居跡から離れた場所に位置する焼土は日常の炉として使用されたと考えがたい。

本遺跡の調査結果のみからの推論に過ぎないが、これら「焼土列は集落跡と外部を出入りするための通路を示す灯火による目印であった」可能性を指摘する。夜間に外部から集落の位置を示すことが目的で、すべての場所で火が灯されたのではなく、同時には数か所と考えられ、本集落が長期間営まれた結果、焼土も多数残され、住居跡の建替え等で集落の範囲が変わるのに伴い、これら目印(焼土)も合わせて変化したと思われ、集落と関連がうかがえる規則的な位置関係で焼土列が形成されたと考える。同時期(萩ヶ岡式期)の焼土列は、本事業により当センターが調査した千歳市 オルイカ2遺跡でも確認した(北埋調報221)。

## 2. 遺物について

### (1) 土器

本遺跡の出土の縄文時代中期後半の土器の特徴を述べる。

## 土器型式

## 手稻前田式（道央部）

- 貼付とそこに絡条体による圧痕文、刺突文等が施される。内面は丹念なミガキ調整である。破片のみの出土で、萩ヶ岡式に先行あるいは後半期は並行すると推測する。

## 萩ヶ岡式（道央部 萩ヶ岡 1・2・3式）

- 円筒土器上層式が、道央で在地化したと理解されている土器である。萩ヶ岡 1～4 式が設定されている（江別市教育委員会 1982）。ここでは 1～3 式をまとめて萩ヶ岡式とした。開口する口縁部と胴部から概ね直線あるいは筒形で底部へ至る器形であるが、一部、胴部が曲線的に張り出すものがあり、道南地方の影響を受けたと考える。
- 地文は羽状・斜行縄文で、およそ 45° で整然と施される。単節に加え、結束第 1 種、撚り戻し、複節がある。粘土紐が貼り付けられ、これへの施文が、爪と撚紐によるものが古く（萩ヶ岡 1 式）、半截竹管状工具が新しい（萩ヶ岡 2・3 式）。本遺跡では半截竹管状工具による施文が多い。
- 内面は丹念なミガキが多いが、縦位に縄文が施されるものもある。

## ノダップⅡ式（道南部）

- 器形は、口縁部が外反または広く曲線的に開口し、口唇部直下や器形の変化する部位に横環する貼付帯があり、その上は縦位に撚紐刻み、これを横位に切るように縄線文が施される。原体は L R が圧倒的に多い。
- 縄文は節が細長く整然とする。結束第 1 種や別原体（RL）の羽状縄文もごく少数みられる。後者二者は道央部の影響と考える。曲線的な器形のためか、胴部中位から下位では横走気味のものもある。
- 内面は、筋が明瞭に残るヨコナデが多い。
- 胎土は、繊維を中量程度含むものと、ほとんど含まれないものに分けられ、混和材は細粒の白色物質（岩片）が多量に含まれる。これらには「海綿骨針」もあると考える。繊維を含むものは道央部の萩ヶ岡式や柏木川式の特徴で、後者は道南地方で出土するものに類似する。
- 道南地方で出土するものと若干異なるが、これらは道央部に伝わったノダップⅡ式で、胎土等が並行する柏木川式と異なるので、土器そのものあるいは製作技法が伝わり、両型式が影響し合ったと考える。

## 柏木川式（道央部 萩ヶ岡 4 式・紅葉山式）

- 器形は、曲線的なものと直線的なものがあり、前者は道南部の影響、後者は道央部の前型式から続く特徴と考える。
- 地文は、節は不整で、条間があき施されない部分もある、浅い施文、縦走、横走気味であることが特徴である。
- 地文に綾絡文、刺突文列（横環する複数の刺突文）や押引文、縄線文、貼付、沈線文が施される。刺突文・押引文の原体はその圧痕形状から、半截竹管状工具、先端部が二又状の工具、棒状工具、稀に撚紐を用いており、これらの文様は萩ヶ岡式からの影響と考える。縄線文もみられるが、これは平行する道南部のノダップⅡ式の影響と推測する。
- 内面は、調整はやや雑なミガキで、縄文や綾絡文が縦位に施されるものもあり、萩ヶ岡式から続く特徴であろう。
- 胎土は、ノダップⅡ式と同様、繊維を中量程度含むものと、ほとんど含まれないものに分けられるが、比較的多様であり、前者は萩ヶ岡式、後者はノダップⅡ式に類似する。
- 地文が縦走・横走するのは、曲線的なノダップⅡ式の影響と推測する。



## 大木式系土器（東北地方）

- ・ 曲線的な器形である。
- ・ 口唇部に沈線文が施されるものは「榎林式」の影響を受けた可能性があり、大木8b式に相当する。
- ・ 最花式（中の平Ⅲ式 大木9式の古い段階）が出土した（図V-2-17-220）。薄手で曲線的な器形で、内面はミガキである。破片は楕円形で、周囲を打ち欠かれ成形された土製品と思われる、これと同一個体の破片がみられないことから、破片の状態で東北、道南地方から伝わったと推測する。
- ・ 榎林式、最花式はノグツツⅡ式や柏木川式と並行すると理解されている。

## 地文・胎土・器面調整

地文は、萩ヶ岡式～余市式とも、器面に地文を施した後に貼付がなされる例が圧倒的に多い、極少数、貼付と器面が同時に施文されるものもあり、道南地方の中期後半の煉瓦台式に特徴的な施文方法である。

胎土は、素地の粘土に混和材として「繊維」や「砂礫」を人為的に加えたもので、繊維は炭化し黒色を呈する有機質で「極多量・多量・中量・少量・微量・無」で区分した。砂礫は、粒径で「細粒・中粒・粗粒」に分け、鉱物、岩石、その他の物質を観察した。

器面調整は、「ナデ」、「ミガキ」、「非調整」に分けた。ナデは、複数の平行する筋で、含有する混和材が移動しその線がみられる場合もある。また、混和材が剥落し、筋状の線のみ認められる場合がある。ナデには工具の幅の止め（アタリ）の痕跡があるへらを用いたものが多い。ミガキは、平滑な面がみられ光沢を帯びる場合もある。器面を幾分か削り取るため稜線が生じるがこれがほとんど残らないものもある。「沈線文状の調整痕」は、棒状の工具を用いたナデあるいはミガキで、浅い沈線文のように器面が線状に低くなるものも多くあり、特に顕著な場合これを観察表に記した。

## 再生土製品

これら再生土製品は、Ⅲ群b類土器のすべての型式にみられ、特に萩ヶ岡式に多い。加工されたものか、遺跡での自然営力によるものなのか、厳密に特定できないものが多い。掲載した土製品は人為的に加工された可能性が高いと考えたものである。

- ・ 形状は土器本来の部位に関連するものと、そうでないものがあり、前者は突起部の形状を利用したものがある。
- ・ 土器破片の割れ口を打ち欠きまたは切り取り、さらに研磨し意図する形態に「成形」される。打ち欠きは剥離、切り取りは割れ口形状が直線的あるいは曲線的に整い、研磨は磨耗した様相を呈する。
- ・ 認めた形態は、円形（半円）・三角形・四角形（正方形・長方形・台形）・多角形（五角形）がある。二次的に加工された割れ口は他の破片と接合しないものが多い。
- ・ 切り取りの割れ口は凹凸が緩和され「平坦」で、さらに研磨が加えられると「平滑」になる。
- ・ 土器破片のほぼ中央に穿孔されるものがある。穿孔途中で貫通しないものもあるが、主に外面から穿つ例が多い。
- ・ 穿孔される場合、器壁が薄くなるように、土器の内面の対応する部分が剥離状に加工されている。
- ・ 加工方法
  1. 打ち欠き：土器破片の周縁を打ち欠き、目的の形状に成形する；通常の割れとの区別

2. 切り取り：土器を直線あるいは曲線的に切り取ったと推測する；通常の割れとの区別
  3. 研磨：土器破片の割れ口、内外面を研磨する；磨耗した破片との区別
  4. 穿孔：土器破片の内外面から孔を穿つ
- ・ 再生土製品は、①装飾品、②土器破片を利用し加工技術の練習を行ったもの、④石器等の形態等、意図する形状を示すもの、⑤土器の文様や胎土等の製作見本、⑥子供の玩具等であったと推測する。(末光)

## (2) 石器等

石器はフレイク集中LFC-4・5を遺構が集中する区域で確認し、集落内で石器製作の場があったことが判明した。本遺跡出土の特徴を指摘しておく。

石刃鎌が1点出土した。対岸のキウス9遺跡からは複数出土している(北埋調報252)。石鎌は有茎が多く、石槍・ナイフも同様である。石錐はつまみ部を有するものが数点出土した。つまみ付きナイフは頁岩の縦長剥片を素材とするものが多い。スクレイパーは形状や刃部の位置が多様である。礫石器では磨製石斧が多く出土した。破片のものが多い。使用により破損したものは、刃部再生加工やたき石等に転用され、二次的に利用されたと推測する。すり石は定型的な北海道式石冠や扁平打製石器等も少数みられ、石錘も数点ある。砥石は多数出土した。大型ものではなく手のひら程度の大ききで、複数面に砥面を有し、溝状の使用痕が明瞭なものもある。比較的軟質な砂岩が利用されている。石製品は、緑青色の蛇紋岩系の岩石に敲打、研磨、穿孔を施した玉が多数出土した。また、いかり石と呼称される大型の石製品も出土した。(愛場)

## 3. 分析の目的と結果の評価

本遺跡から出土した遺物について、次の自然科学的手法による分析を行った。

- 「黒曜石製遺物原産地推定」(本書 付篇1)
- 「石器及び玉類の岩石学的分析」(本書 付篇2)
- 「放射性炭素年代測定」(北埋調報284 付篇2)
- 「炭化樹種同定」(北埋調報284 付篇3)

分析の詳細は上記を参照していただきたい。本節では縄文時代に関する事項について、分析の目的と結果の評価を述べ、旧石器時代の遺物は第Ⅵ章で記載した。

### (1) 黒曜石製遺物原産地推定(付篇1)

#### \*目的

本遺跡では、土器の出土が多く石器が少ない特徴で、主たる時期は縄文時代中期後半である。点数が少なく時期も限られることから、同一の原産地である蓋然性が高いと想定し、これを確認するため、道南地方の大木式系やノダップⅡ式石器が出土しており、道南地方原産の黒曜石が持ち込まれているかを確認することが主な目的である。

また、1点のみ出土の縄文時代早期の石刃鎌も原産地を知る目的で行った。

#### \*結果の評価

縄文時代中期は「上土幌」判別群「上土幌」エリアが9点、「赤井川」判別群「赤井川」が6点で

表Ⅶ-3-1 黒曜石製遺物原産地推定結果一覧(縄文時代)

試料№	器種	出土地点	遺物番号	層位	時期	肉眼観察での所見	分析結果	
							判別群	エリア
1	石鏃	LH-4	5	覆土	縄文時代中期	無色部分 筋状	所山	豊戸
2	石鏃	LH-9	164	床直	縄文時代中期	古い割れ面・表面が脂肪光沢	上士橋	上士橋
3	スクレイパー	LH-9	166	床直	縄文時代中期	無色部分あり	上士橋	上士橋
4	石鏃	LH-12	351	床直	縄文時代中期	先行割れ面が脂肪光沢	上士橋	上士橋
5	石鏃	LH-14	238	覆土	縄文時代中期	粗粒の球果 数個	白滝1	白滝
6	スクレイパー	LH-18	740	覆土2	縄文時代中期	無色部分多い 粗粒の球果 無作為	上士橋	上士橋
7	石鏃	LH-18	1154	床面	縄文時代中期	原礫面 筋状の構造	豊浦	豊浦
8	石鏃	LH-21	—	床面	縄文時代中期	小球果?	上士橋	上士橋
9	Rフレイク	LP-8	—	覆土	縄文時代中期	小球果	赤井川	赤井川
11	石槍・ナイフ	LP-23	19	覆土	縄文時代中期	小球果 無作為	上士橋	上士橋
12	石鏃	LP-23	9	覆土	縄文時代中期	全体的に無色	上士橋	上士橋
13	石鏃	LP-23	—	覆土	縄文時代中期	赤色部分あり	上士橋	上士橋
14	石鏃	LP-31	10	覆土1	縄文時代中期	小球果	赤井川	赤井川
15	石鏃	LP-33	1	覆土1	縄文時代中期	原礫面 無色部分	赤井川	赤井川
16	石鏃	LP-38	18	覆土2	縄文時代中期	粗粒の球果 筋状	赤井川	赤井川
17	スクレイパー	LP-49	—	覆土	縄文時代中期	原礫面 小球果	上士橋	上士橋
18	石鏃	LP-C-3	—	V2層	縄文時代中期	粗粒の球果 無作為	赤井川	赤井川
19	石刃鏃	15-57区	—	I層	縄文時代早期	無色部分 筋状	所山	豊戸
20	石槍	29-79区	—	V層	縄文時代中期	小球果 筋状	赤井川	赤井川

表Ⅶ-3-2 石製品・玉類 岩石学的分析一覧

試料番号	分類	遺構・包含層	層位	遺物番号	時期	肉眼観察による所見	予想した岩石名	分析結果
キ5-1	石製品	LH-1	覆土	1	縄文時代中期	青~緑色 脂肪光沢 縦割 縦割 黒色部分あり	ロジン岩	緑泥石岩
キ5-2	石製品	LH-11	覆土	14	縄文時代中期	緑色 脂肪光沢 縦割 縦割	タルク岩	タルク岩
キ5-3	石製品	LH-12	覆土	1	縄文時代中期	緑色 光沢なし 縦割 縦割 黒色部分あり 白色の粒子	蛇紋岩	蛇紋岩
キ5-4	玉	LH-16	焼土上面	231	縄文時代中期	暗青色 脂肪光沢 縦割 縦割	タルク岩	緑泥石岩
キ5-5	玉	LH-18	覆土2	549	縄文時代中期	青~緑色 真珠光沢 縦割 縦割 黒色部分あり	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-6	玉	LH-18	床直	805	縄文時代中期	緑色 脂肪光沢 縦割 縦割	タルク岩	緑泥石岩
キ5-7	玉	LH-21	覆土2	—	縄文時代中期	青色 真珠光沢 縦割 縦割 灰にあってる上表面	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-8	玉	LP-23	覆土BY	1	縄文時代中期	緑色 真珠光沢 縦割 縦割 白色の粒子	ロジン岩?	緑泥石岩
キ5-9	玉	LP-23	覆土BY	2	縄文時代中期	暗青色 真珠光沢 縦割 縦割	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-10	玉	26-70区	V2層	—	縄文時代中期	暗緑色 脂肪光沢 縦割 縦割 黒色(縦割)部分多い 白色の粒子	不明	蛇紋岩
キ5-11	玉	26-71区	V2層	—	縄文時代中期	淡緑色 脂肪光沢 縦割 縦割 黒色部分筋状	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-12	玉	27-69区	V2層	—	縄文時代中期	暗緑色 脂肪光沢 縦割 縦割	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-13	玉	28-77区	FV層	—	縄文時代中期	暗青色 真珠光沢 縦割 縦割	蛇紋岩	緑泥石岩
キ5-14	玉	31-40区	Ⅲ層	—	縄文時代後期	光沢なし 軟質 縦割なし粒子少弱	凝灰岩? 凝灰質 珪化岩?	凝灰質 珪化岩
キ5-15	玉	32-67区	V1層	—	縄文時代中期	淡青色 脂肪光沢 縦割 縦割 黒色部分筋状	ロジン岩	緑泥石岩

多く、他は「所山」判別群「置戸」・「白滝1」判別群「白滝」エリア・「豊浦」判別群「豊浦」が1点ずつである。

本時期は「上土幌」・「赤井川」産の黒曜石が主に使用されたと考える。また、道南地方の「豊浦」原産の黒曜石もみられ、土器と同じく遺物そのものの移動を確認できた。

本遺跡、低位部の縄文時代早期の黒曜石の利用は、白滝地区と赤井川の原産地のものが主であることを報告した（北埋調報284）。時期ごとに主たる原産地は異なるが、道央地域の遺跡では、赤井川原産のものは時代を通して常に利用されていると推測する。縄文時代早期の石刃鎌は、「所山」判別群「置戸」エリアと特定できた。キウス川対岸のキウス9遺跡では黒曜石の石刃鎌が92点（うち2点は破片）出土し、うち89点について原産地分析を行っている（北埋調報252）。その結果は「所山」判別群「置戸」エリアが最も多く81点、「白滝1」判別群「白滝」エリアが6点、「生田原」判別群「生田原」エリアが2点で、圧倒的に「所山」判別群「置戸」エリアが多く、本遺跡出土の石刃鎌も同じ原産地であることが確認できた。

## （2）石器及び玉類の岩石学的分析（付篇2）

### \* 目的

本遺跡から石製品・玉類が堅穴住居跡や土坑、包含層から出土した（表Ⅶ-3-2）。「キ5-14」は出土層位から縄文時代晩期のもので報告済みである（北埋調報284 272頁 図Ⅶ-66-43）これ以外はすべて、遺構の時期や出土層位から縄文時代中期後半で、概して緻密な構造で緑色を呈する石材である。肉眼観察では岩石名を特定しきれないため、岩石学的鑑定を行った。石製品・玉類は普遍的にみられない岩石が用いられることが多く、石材を特定することは当時のモノの移動を示す有効な情報である。

### \* 結果の評価

鑑定結果は、緑泥石岩11点、蛇紋岩2点、タルク岩1点、凝灰岩質珪化岩1点であった。縄文時代晩期の「キ5-14」は凝灰岩質珪化岩で、「葉ろう石」がみられることから、火山性の堆積岩（凝灰岩）が変成作用により生じたもので、産地は火山活動域に存在する。本遺跡も恵庭岳・樽前山の近くであり、そう遠くない場所で入手することが可能であったと推測する。

前三者は、橄欖岩を起源とし変成作用により生じたもので、同じグループの岩石として理解できる。橄欖岩の変成作用により蛇紋岩が生じ、さらに緑泥石岩（緑泥片岩 緑泥石：輝石・角閃石・黒雲母などの変質で生じる）・タルク岩（滑石片岩：橄欖岩や蛇紋岩中に含まれ、輝石・角閃石・橄欖石などの変質で生じる）へと変成するものもある。EDS分析の結果では、試料の多くが酸化鉱物であるクロムスピネルを含んでおり、タン橄欖岩（橄欖石が90%以上）が起源であると考えられている。

北海道内で、これらの蛇紋岩系の岩石が存在するのは「神居古澤帯」であるが、「付篇2」の4. 考察）では、そこが原産地とは考えにくいとの結論である。また、この変成帯に特徴的な「ロジン岩」と鑑定された試料もない。

本遺跡は、道南や東北地方の影響がみられることから、これら石製品・玉類も搬入品で、石材の原産地は道外の可能性がある。

この蛇紋岩系の石材を用いた石製品・玉類が出土する遺跡は多いが、現状は、本稿も含め、その化学組成を分析し特徴的な鉱物から名称を特定するまでにとどまっている。また、この種の岩石は色調、光沢、緻密さ等の肉眼的な特徴は共通しており、発掘現場で正確に石材を特定することは容易でない。

表Ⅴ-3-3 キウス5遺跡 放射性炭素年代測定 暦年較正年代 (北埋調報 284)

試料番号	試料	出土 地点	層位	Code No.	前処理	暦年較正用 ( $\gamma$ BP・ $\delta$ の込み)	暦年較正 $\sigma$ ( $\gamma$ calBP)	暦年較正 $2\sigma$ ( $\gamma$ calBP)
26	木炭	LH-6	床面直上	IAMA-72098	AAA	3,047±33	1,390-1,260BC (98.2%)	1,431-1,100BC (5.0%)
46	木炭	LH-25A	床面直上	IAMA-72118	AAA	3,719±34	2,200-2,170BC (12.4%) 2,150-2,110BC (13.1%) 2,100-2,030BC (39.0%)	2,210-2,020BC (95.4%)
47	木炭	LH-25A	床面直上	IAMA-72119	AAA	3,885±33	2,480-2,400BC (68.2%)	2,470-2,280BC (93.7%)
48	木炭	LH-25A	床面直上	IAMA-72120	AAA	3,919±33	2,470-2,340BC (68.2%)	2,490-2,290BC (95.4%)
25	木炭	LH-6	HF-1	IAMA-72097	AAA	3,966±35	2,270-2,230BC (34.2%) 2,000-1,990BC (34.0%)	2,580-2,340BC (95.4%)
33	木炭	LH-15	HP-2	IAMA-72105	AAA	4,026±37	2,580-2,480BC (68.2%)	2,640-2,490BC (93.0%)
36	木炭	LH-18	HF-1	IAMA-72108	AAA	4,032±33	2,580-2,480BC (68.2%)	2,630-2,470BC (93.7%)
27	木炭	LH-12	HF-1 上面	IAMA-72099	AAA	4,066±33	2,640-2,610BC (6.9%) 2,670-2,560BC (60.1%) 2,530-2,490BC (12.7%)	2,690-2,610BC (11.2%) 2,750-2,730BC (2.1%) 2,700-2,680BC (82.1%)
43	木炭	LH-22	床面直上	IAMA-72115	AAA	4,069±34	2,640-2,610BC (6.9%) 2,670-2,560BC (60.1%) 2,530-2,490BC (10.7%)	2,690-2,610BC (12.6%) 2,750-2,730BC (2.8%) 2,700-2,680BC (80.6%)
20	木炭	LH-2	床面	IAMA-72092	AAA	4,074±34	2,640-2,610BC (6.9%) 2,670-2,560BC (60.1%) 2,530-2,490BC (7.0%)	2,690-2,610BC (14.4%) 2,750-2,730BC (3.9%) 2,700-2,680BC (77.1%)
24	木炭	LH-6	HF-1	IAMA-72096	AAA	4,084±33	2,640-2,610BC (11.5%) 2,680-2,570BC (34.3%)	2,660-2,600BC (17.6%) 2,760-2,600BC (71.0%) 2,640-2,600BC (7.4%)
23	木炭	LH-4	床面	IAMA-72095	AAA	4,080±34	2,650-2,610BC (13.4%) 2,680-2,570BC (54.8%)	2,670-2,600BC (19.4%) 2,760-2,600BC (71.0%) 2,640-2,600BC (5.0%)
18	木炭	LH-2	床面	IAMA-72090	AAA	4,080±35	2,650-2,610BC (13.4%) 2,680-2,570BC (54.8%)	2,670-2,600BC (19.3%) 2,760-2,600BC (70.4%) 2,640-2,600BC (5.7%)
41	木炭	LH-21	床面直上	IAMA-72113	AAA	4,084±30	2,640-2,610BC (13.2%) 2,680-2,570BC (55.0%)	2,660-2,600BC (20.4%) 2,760-2,600BC (70.2%) 2,640-2,600BC (2.0%)
28	木炭	LH-12	HF-1	IAMA-72100	AAA	4,084±36	2,650-2,610BC (14.6%) 2,700-2,570BC (53.6%)	2,670-2,600BC (30.4%) 2,760-2,600BC (70.2%) 2,630-2,600BC (4.2%)
21	木炭	LH-4	覆土	IAMA-72093	AAA	4,097±34	2,650-2,610BC (14.8%) 2,740-2,730BC (3.8%) 2,700-2,570BC (52.5%)	2,670-2,600BC (21.0%) 2,760-2,600BC (71.0%) 2,630-2,600BC (3.0%)
22	木炭	LH-4	床面	IAMA-72094	AAA	4,099±34	2,650-2,610BC (15.1%) 2,740-2,730BC (1.9%) 2,700-2,570BC (52.5%)	2,670-2,600BC (21.5%) 2,760-2,600BC (71.4%) 2,630-2,600BC (2.4%)
29	木炭	LH-12	HF-1 上面	IAMA-72101	AAA	4,100±32	2,650-2,610BC (14.7%) 2,700-2,570BC (53.5%)	2,670-2,600BC (21.8%) 2,760-2,600BC (71.8%) 2,630-2,600BC (1.8%)
42	木炭	LH-21	床面直上	IAMA-72114	AAA	4,100±36	2,650-2,610BC (15.6%) 2,740-2,720BC (3.7%) 2,700-2,570BC (58.1%)	2,670-2,600BC (21.6%) 2,760-2,600BC (71.3%) 2,630-2,600BC (2.8%)
45	木炭	LH-22	HF-1 上面	IAMA-72117	AAA	4,101±32	2,650-2,610BC (15.2%) 2,700-2,570BC (53.0%)	2,670-2,600BC (22.0%) 2,760-2,600BC (71.8%) 2,630-2,600BC (1.6%)
40	木炭	LH-21	床面直上	IAMA-72112	AAA	4,113±36	2,660-2,610BC (18.8%) 2,750-2,720BC (8.6%) 2,700-2,600BC (60.1%)	2,680-2,570BC (95.4%)
38	木炭	LH-18	HF-2	IAMA-72110	AAA	4,125±31	2,660-2,600BC (20.1%) 2,750-2,720BC (13.0%) 2,700-2,620BC (35.1%)	2,670-2,600BC (25.6%) 2,760-2,570BC (69.8%)
34	木炭	LH-15	HP-2	IAMA-72106	AAA	4,129±34	2,660-2,600BC (19.3%) 2,750-2,630BC (48.7%)	2,680-2,580BC (95.4%)
44	木炭	LH-22	床面直上	IAMA-72116	AAA	4,149±32	2,670-2,630BC (14.5%) 2,760-2,660BC (68.2%)	2,690-2,620BC (95.4%)
37	木炭	LH-18	HF-1	IAMA-72109	AAA	4,157±33	2,680-2,630BC (14.2%) 2,770-2,650BC (54.0%)	2,690-2,620BC (95.4%)
56	木炭	LP-30	焼土	IAMA-72128	AAA	4,164±35	2,680-2,640BC (12.1%) 2,630-2,610BC (31.6%) 2,730-2,670BC (21.6%)	2,690-2,620BC (95.4%)
39	木炭	LH-19	HF-2	IAMA-72111	AAA	4,185±35	2,680-2,650BC (14.4%) 2,620-2,610BC (34.5%) 2,730-2,660BC (14.4%)	2,690-2,630BC (22.9%) 2,620-2,600BC (70.7%) 2,680-2,630BC (1.8%)
19	木炭	LH-2	床面	IAMA-72091	AAA	4,198±37	2,690-2,650BC (18.6%) 2,610-2,600BC (38.5%) 2,750-2,700BC (11.2%)	2,690-2,630BC (36.8%) 2,620-2,600BC (68.6%)
35	木炭	LH-16	HF-2	IAMA-72107	AAA	4,245±36	2,610-2,670BC (54.7%) 2,610-2,770BC (13.5%)	2,620-2,650BC (62.9%) 2,620-2,740BC (36.7%) 2,730-2,660BC (4.2%)
55	木炭	LP-16	覆土	IAMA-72127	AAA	4,300±37	3,010-2,990BC (3.2%) 2,920-2,880BC (63.0%)	3,020-2,870BC (95.4%)
30	木炭	LH-14	覆土	IAMA-72102	AAA	4,377±34	3,025-2,920BC (32.0%) 3,080-2,970BC (42.9%)	3,090-2,900BC (95.4%)
32	木炭	LH-14	覆土	IAMA-72104	AAA	4,386±34	3,080-2,970BC (42.9%) 3,030-2,920BC (64.0%)	3,100-2,900BC (95.4%)
53	木炭	LP-3	P-2	IAMA-72125	AAA	4,395±36	3,090-2,990BC (32.7%) 3,030-2,920BC (55.7%)	3,110-2,900BC (92.0%)
31	木炭	LH-14	覆土	IAMA-72103	AAA	4,420±33	3,070-2,950BC (32.9%) 3,100-2,950BC (30.0%) 2,990-2,900BC (15.0%)	3,030-2,930BC (14.2%) 3,120-2,910BC (80.1%)
52	木炭	LP-3	P-2	IAMA-72124	AAA	4,450±34	3,330-3,230BC (31.1%) 3,180-3,160BC (4.3%) 3,130-3,090BC (13.1%) 3,070-3,020BC (34.4%)	3,340-3,000BC (92.2%) 2,980-2,930BC (3.2%)
50	木炭	LH-25B	HF-1	IAMA-72122	AAA	4,457±37	3,330-3,210BC (36.8%) 3,250-3,150BC (30.6%) 3,130-3,090BC (14.2%) 3,070-3,020BC (14.2%)	3,340-3,010BC (94.4%) 2,980-2,960BC (1.0%)
54	木炭	LP-3	P-2	IAMA-72126	AAA	4,498±32	3,340-3,260BC (27.0%) 3,250-3,210BC (13.0%) 3,190-3,190BC (13.3%) 3,140-3,100BC (12.9%)	3,360-3,090BC (95.4%)
51	木炭	LH-25B	HF-1	IAMA-72123	AAA	4,534±35	3,360-3,290BC (17.9%) 3,410-3,110BC (50.6%) 3,500-3,440BC (65.9%) 3,380-3,360BC (21.3%)	3,370-3,260BC (54.0%) 3,420-3,100BC (61.0%)
49	木炭	LH-25B	HF-1	IAMA-72121	AAA	4,620±35	3,380-3,360BC (21.3%)	3,520-3,340BC (95.4%)

分析鑑定の結果を蓄積しこれらを再検討し、さらに道内における産地の有無を調べ、既知の産地との比較分析を行う等して、縄文時代の人間活動を解明していく必要がある。

### (3) 放射性炭素年代測定結果 (AMS) (北埋調報284 付篇2)

放射性炭素年代測定は平成19(2007)年度に過年度出土分もまとめて行った。

#### \*目的

本遺跡では縄文時代中期後半～後期初頭の住居跡を確認した。出土土器から四つの時期に分けられる。すなわち、①:Ⅲ群b類「萩ヶ岡式期」、②:Ⅲ群b類「ノダツブⅡ式期」(道南系)、③:Ⅲ群b類「柏木川式期」、④:Ⅳ群a類「余市式期」である。

これらの遺構は、調査区の中央付近に位置するものと北東側部分に集中するものがあり、後者に位置するものが多い。遺構の切り合い・近接・平面重複がみられ、発掘調査でこれらの新旧関係の把握に努めたが、判断できなかったものや、調査での判断を裏付けるための傍証をえて、これらの絶対年代から新旧関係を判断することが主たる目的である。

分析試料は住居跡LHを主とし、試料は炉跡である焼土に伴う炭化物や住居の上部構造に用いられた炭化材である。なおLP-3・16は小型の住居跡、LP-30は長径約1.2mの土坑で、覆土中に焼土と炭化材がみられた。遺構が位置する調査区中央付近と東側の集中区域の中間付近に位置し、両区域に時間差がある可能性を考えた場合、その中間に位置する本遺構の年代も知る必要があると考え分析した。

#### \*結果の評価

分析結果のうち「暦年較正用(yrBP・丸め込みなし)」の数値が、上段が新しく下段へと古くなるよう並び替え(表Ⅶ-3-3)、さらに同一の遺構から複数点の試料を測定したものは、それらの結果の最新と最古の値と、年数の差を計算し簡素化したものを、表Ⅶ-3-4にまとめた。これらをもとに分析結果の評価をする。

年数の差が100年以上になる要因を特定することはできない。構築材の再利用や繰り返し居住した可能性を指摘するに留まる。おそらく一つの住居の居住年数は、最大でも50年程度であろうか。

次に、遺構の上屋構造を想定した場合、互いの位置が近接し同時期に存在したと考えがたい遺構の新旧関係を、表Ⅶ-3-4にまとめた結果から判断する。数値は「最古値」で検討する。

#### ・LH-4・5・6が近接する事例

LH-4が古く、LH-5、LH-6の順である。LH-4とLH-5は同規模の大きな住居跡で、LH-4をLH-5に構築しなおしたものと、LH-6はLH-5の廃絶後に造られたと推測する。

#### ・LH-15・16・21・22が近接する事例

LH-16が最も古く、ついでLH-22、LH-15、LH-21である。住居の規模からLH-22がLH-15(一般的な規模の住居)に、LH-16がLH-21(規模の大きな住居)に構築しなおされたと推測する。

#### ・LH-25A・Bが平面重複する事例

層位的な判断と同じで、LH-25Bが古くLH-25Aが新しい。

さらに、遺構の位置する区域分けをし、区域の新旧関係と、それぞれにおける遺構について年代測定結果と出土土器の型式との整合を確認する。

本遺跡で古い段階の住居跡は、年代測定の結果は約4,200～4,500年前に相当する。調査区南東側斜

表Ⅴ-3-4 住居跡の放射性炭素年代測定結果一覧（縄文時代）

遺跡の位置する区域	遺跡名	図	最新編 (数量小さい)	最新校正用 (YBP) (土以下及び年、省城)	最古と最新の 年数の差		遺糸系 IV群	ゴチャク体：復原土器		土器型式 前期前字体：復原した破片土器		備考
					最新編 (数量小さい)	最新校正用 (数量小さい)		遺糸系 新	遺糸系 新	遺糸系 古	遺糸系 古	
調査区 東京都西部	LP-3		4,450	4,498	48	—	—	—	—	—	—	
	LH-6		*	3,047	*	—	—	—	—	—	—	萩ヶ岡式：L.H-8・10と接合
	LH-5		3,966	4,084	118	糸市式	ノダツプⅡ式	ノダツプⅡ式～柏木川式 (総編文・産部)	ノダツプⅡ式 (産部)	萩ヶ岡式 (産部)	萩ヶ岡式 (産部)	萩ヶ岡式：L.H-10と接合 萩ヶ岡式：L.P-71と接合 萩ヶ岡式：L.H-25・L.P-59と接合 柏木川式：L.H-10と接合
	LH-4		4,080	4,099	9	—	柏木川式	ノダツプⅡ式 (大木塚の影部)	—	—	—	
	LH-2		4,074	4,198	124	—	柏木川式	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	
	LH-19		*	4,185	*	—	柏木川式	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式 (産部)	—	—	
	LH-18		4,032	4,157	125	—	ノダツプⅡ式～柏木川式 (総編文)	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	柏木川式：L.P-23と接合
	LH-22		4,069	4,149	80	—	柏木川式	—	萩ヶ岡式	—	—	萩ヶ岡式：L.F-89と接合
	LH-15		4,028	4,129	101	—	柏木川式	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	
	LH-21		4,094	4,113	19	—	柏木川式 (産部)	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式 (産部)	—	—	萩ヶ岡式 (復原細体)：L.P-31と接合
住居跡が位置する 区域の中間付近	LH-12		4,066	4,100	34	—	柏木川式	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	萩ヶ岡式：L.H-10・L.P-74と接合
	LH-16		*	4,245	*	—	柏木川式	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	萩ヶ岡式：L.H-23と接合 ノダツプⅡ式：L.H-23・26と接合 柏木川式：L.H-23と接合
	LP-30		*	4,164	*	—	柏木川式	—	—	—	—	
	LH-25 A		3,719	3,919	200	糸市式	—	—	—	—	—	
	LP-16		*	4,245	*	—	—	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	ノダツプⅡ式：L.H-23と接合
	LH-14		4,377	4,420	43	—	柏木川式	—	萩ヶ岡式	—	—	
調査区 中央付近	LH-25 B		4,457	4,620	163	—	—	ノダツプⅡ式	萩ヶ岡式	—	—	萩ヶ岡式：L.P-59と接合 萩ヶ岡式：L.P-53と接合 ノダツプⅡ式：H-10と接合

表Ⅶ-3-5 キウス5遺跡の炭化材樹種同定結果（北埋調報 284）

番号	遺構名	取り上げ No.	層位	時期	樹種
96	LH-2	CA-5	床面	縄文時代中期	トネリコ属
97	LH-2	CA-15	床面	縄文時代中期	トネリコ属
98	LH-2	CA-18	床面	縄文時代中期	トネリコ属
99	LH-2	CA-19	床面	縄文時代中期	トネリコ属
100	LH-2	CA-20	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
101	LH-2	CA-21	床面	縄文時代中期	トネリコ属
102	LH-4	CA-1	覆土	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
103	LH-4	CA-13	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
104	LH-4	CA-23	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
105	LH-14	CA-1	覆土	縄文時代中期	キハダ
106	LH-14	CA-5	覆土	縄文時代中期	トネリコ属
107	LH-14	CA-8	覆土	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
108	LH-21	1	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
109	LH-21	2	床面直上	縄文時代中期	広葉樹
110	LH-21	3	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
111	LH-21	4	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
112	LH-21	5	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
113	LH-21	6	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
114	LH-21	7	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
115	LH-21	8	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
116	LH-21	9	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
117	LH-21	10	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
118	LH-21	11	床面直上	縄文時代中期	広葉樹
119	LH-21	12	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
120	LH-21	13	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
121	LH-21	14	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
122	LH-21	15	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
123	LH-21	16	床面直上	縄文時代中期	広葉樹（散孔材）
124	LH-21	17	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
125	LH-22	1	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
126	LH-22	2	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
127	LH-22	3	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
128	LH-22	4	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
129	LH-22	5	H F-1 上面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
130	LH-22	6	H F-1 上面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
131	LH-25A	1	床面直上	縄文時代後期	不明
132	LH-25A	2	床面直上	縄文時代後期	不明
133	LH-25A	3	床面直上	縄文時代後期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
134	LP-16	51	覆土	縄文時代中期	ハンノキ属ハンノキ亜属



面部に単独で位置する小型のL P-3、調査区中央付近に位置する、L H-25 B・L H-14・小型の住居跡L P-16である。土器型式はすべて萩ヶ岡式である。次の段階は、調査区の北東側部分に集中する。約4,100～4,200年前に相当し、土器型式はノダップⅡ式・柏木川式である。住居跡がある区域の中央の土坑L P-30もこの時期と判断する。また、L H-6は測定年代結果と土器型式に整合性がない。約3,900年前の後期初頭には、L H-25 Bのくぼみを利用した余市式を伴うL H-25 Aが構築される。

以上のことから、本遺跡の集落の変遷は、Ⅲ群b類萩ヶ岡式期に構築され、その場所はキウス川が流れる低位部に面する調査区南東側斜面部と、調査区中央付近の台地の平坦部から斜面の縁付近である。その後（萩ヶ岡式期～ノダップⅡ式・柏木川式期）、住居は調査区北東側の台地平坦部の限られた区域に集約され、場所を移して再構築が繰り返された。土坑L P-30が位置する付近まで集落の外縁部と推測する。後期初頭の余市式期には単独の住居が台地平坦部と斜面部の縁に構築された。

#### （4）炭化材樹種同定（北埋調報284 付篇3）

炭化材樹種同定は平成19（2007）年度に過年度出土分をまとめて行った（表Ⅶ-3-5）。

##### \* 目的

本遺跡の縄文時代中期後半～後期初頭の竪穴住居に用いられた構造物材の樹種を知り、他の調査事例や周辺の遺跡の調査成果と比較し、本集落の特徴を把握する。また、この種の分析結果を蓄積することは、学術研究や発掘調査の成果を評価するのに、有効な基礎情報となる。

調査した住居跡の多くでは、覆土から床面にかけて住居の構造物材と考える炭化材が出土した。これらのうち、遺存状態が良好なものをサンプリングし樹種同定を行った。対象とした遺構は、L H-2（5点）・L H-4（3点）・L H-14（3点）・L H-21（17点）・L H-22（6点）・L H-25 A（3点）・L P-16（1点）で、合計38点である。

これらの遺構は、L H-14とL P-16は調査区の中央付近に位置し、これら以外は調査区の北東側部分の遺構の集中区域にある。L H-14は2軒が平面重複し、長径が6～7mと推測する規模で、L P-16は先端部ピットや炉跡があり、小型の住居跡（長径2m程度）と考えるものである。L H-2は長径が4m程度の中規模のもの、L H-4・21は長径が8～9mの大規模なもの、L H-25 Aは、L H-25 Bと平面が重複する縄文時代後期初頭で長径は約4mである。

##### \* 結果の評価

分析試料38点中、「コナラ属コナラ亜属コナラ節」が20点と最も多く、次に多いのが「トネリコ属」12点、これら以外は「キハダ」1点、「広葉樹」3点、「ハンノキ属ハンノキ亜属」1点、「不明」が1点であった。

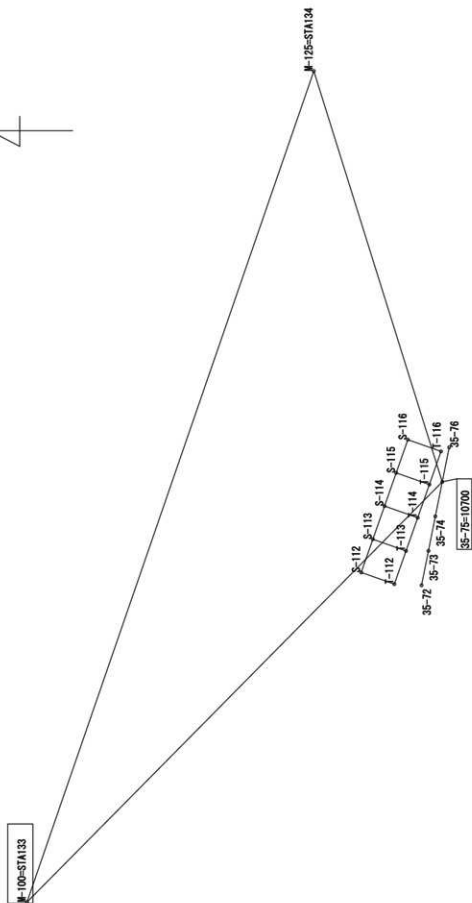
これらはすべて本遺跡周辺の現植生にみられるものである。また、擦文文化期前期の本遺跡（北埋調報284）や対岸のキウス9遺跡（北埋調報252）の樹種同定結果も同様にコナラ属が多く（北埋調報284 VI章3節（3）参照）、縄文時代と概ね同様な結果である。

キウス5遺跡の周辺では、縄文時代中期・擦文文化期前期から現代まで大きな植生の変化はないものと推測する。いずれの時期においても、竪穴住居の構築材は、特定の樹種に選択せず、集落周囲の自然環境で入手しやすいものを利用したと考える。（末光）

表Ⅶ-4-1 H-7・H-10接合座標計算表（日本測地系 4mグリッド）

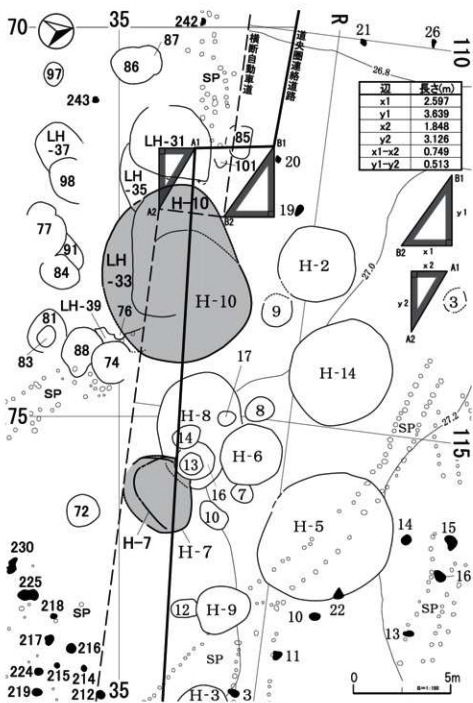
平面直角座標Ⅺ系 日本測地系 (m)			X	Y								
337号 道央圏連絡道路	与点	35-75 (10700)	-124,522.932	-43,137.081								
北海道 横断自動車道	与点	M-125 (STA-134)	-124,508.332	-43,090.360								
方向角		*	'	"	10進法換算 (°)		ラジアン換算 (Rad)		sinθ	cosθ		
337号 道央圏連絡道路	θ1	11	19	40	11.32778		0.19771		0.19642	0.98052		
北海道 横断自動車道	θ2	19	23	13	19.38694		0.33837		0.33195	0.94330		
			与点を(0,0)とした時の相対的な座標値		三角関数計算							
					θ1: 337号				θ2: 横断道			
			x	y	x·sinθ	y·sinθ	x·cosθ	y·cosθ	x·sinθ	y·sinθ	x·cosθ	y·cosθ
337号 道央圏 連絡道路	与点	35-75 (10700)	0	0	0	0	0	0	X			
	グリッド杭	35-74	0	-4	0	-0.786	0	-3.922				
		35-73	0	-8	0	-1.571	0	-7.844				
		35-72	0	-12	0	-2.357	0	-11.766				
		35-76	0	4	0	0.786	0	3.922				
北海道 横断 自動車道	与点	M-125 (STA-134)	0	0	X				0	0	0	0
	グリッド杭	S-112	-24	-52					-7.967	-17.261	-22.639	-49.052
		S-113	-24	-48					-7.967	-15.933	-22.639	-45.278
		S-114	-24	-44					-7.967	-14.606	-22.639	-41.505
		S-115	-24	-40					-7.967	-13.278	-22.639	-37.732
		S-116	-24	-36					-7.967	-11.950	-22.639	-33.959
		T-112	-28	-52					-9.294	-17.261	-26.412	-49.052
		T-113	-28	-48					-9.294	-15.933	-26.412	-45.278
		T-114	-28	-44					-9.294	-14.606	-26.412	-41.505
		T-115	-28	-40					-9.294	-13.278	-26.412	-37.732
		T-116	-28	-36					-9.294	-11.950	-26.412	-33.959
			回転座標系の計算				平面直角座標 (Ⅺ系) 日本測地系 (m)					
			$X' = -y \cdot \sin\theta + x \cdot \cos\theta$		$X = \text{原点} + X'$		$Y = \text{原点} + Y'$					
			$Y' = x \cdot \sin\theta + y \cdot \cos\theta$		X		Y					
			X'		Y'							
337号 道央圏 連絡道路	与点	35-75 (10700)	0	0	-124,522.932	-43,137.081						
	グリッド杭	35-74	0.786	-3.922	-124,522.146	-43,141.003						
		35-73	1.571	-7.844	-124,521.361	-43,144.925						
		35-72	2.357	-11.766	-124,520.575	-43,148.847						
		35-76	-0.786	3.922	-124,523.718	-43,133.159						
北海道 横断 自動車道	与点	M-125 (STA-134)	0	0	-124,508.332	-43,090.360						
	グリッド杭	S-112	-5.378	-57.018	-124,513.710	-43,147.378						
		S-113	-6.706	-53.245	-124,515.038	-43,143.605						
		S-114	-8.034	-49.472	-124,516.366	-43,139.832						
		S-115	-9.361	-45.699	-124,517.693	-43,136.059						
		S-116	-10.689	-41.925	-124,519.021	-43,132.285						
		T-112	-9.151	-58.346	-124,517.483	-43,148.706						
		T-113	-10.479	-54.573	-124,518.811	-43,144.933						
		T-114	-11.807	-50.800	-124,520.139	-43,141.160						
		T-115	-13.135	-47.026	-124,521.467	-43,137.386						
		T-116	-14.462	-43.253	-124,522.794	-43,133.613						

4



S=1 : 400

図Ⅷ-4-1 グリッド接合網図



図VII-4-2 H-7・10

#### 4. H-7・H-10接合について (図VII-4-1・2 表VII-4-1)

##### (1) 座標計算による接合

キウス5遺跡は、本事業に伴う発掘調査が平成15(2003)・16(2004)・18(2006)～平成21(2009)年度に行われた。平成21(2009)年度の調査区は、西側のA地区と東側のB地区があり、B地区は、平成8(1996)年度に北海道横断自動車道建設工事に伴う発掘調査の調査区(横断道C地区)と接する。本事業のB地区と横断道C地区の両調査区にまたがる遺構は、堅穴住居跡H-7・H-10がある(北埋調報116)。

これらの調査区を正確に接合するため、調査グリッドの割付の基点となった道路中心杭(横断道: STA. 本事業: SP; 基点からの距離 m)の平面直角座標(日本測地系による)と、二つの基点を結ぶ「基線」の方向角を点検計算し、横断道STA.133(M-100杭)とSTA.134(M-125)、道央圏連絡道路の10700(35-75)の結んだ三角形(調査区接合のための三角形)を作り、三つの辺長と角度を計算し、閉合差が0であることを確認した(北埋調報284)。

H-7・10が位置し調査区が接する部分のグリッドは、道央圏連絡道路は東西方向35ラインの72～76間、横断自動車道は東西方向S・Tラインの112～116の間である。これらの座標を計算しその結果を図化した。なお、グリッド長さは両事業ともに4mで、座標値は日本測地系で計算した。

与点は、道央圏連絡道路は「35-75」(=10700)、横断自動車道は「M-125」(=STA.134)とした。与点の座標値、与点を原点としたときの各杭の相対的な座標、方向角の差から回転座標系の計算公式を用いて、それぞれの杭の平面直角座標を算出し(表VII-4-1)、この値から図化した(図VII-4-1)。

調査区接合のための三角形は閉合差が0なので、計算誤差もなくこの結果は正しい。

しかし、報告書や工事図面、測量成果簿で描かれた図面と不整合な部分がある。それは、道央圏連絡道路の35・36-72区、横断自動車道のT・S-111区の調査区には、南西側に張り出す角部分があり、この角部分に三角形を描きその形状を比較した。数値、形状ともに異なり、紙の図面上でこれらを合致させ、調査区を接合することは整合性を確保できない。先の報告書(北埋調報 284)で述べたが、横断自動車道の道路センターが平面直角座標値上は同一直線にないことや、年度ごとに設定したグリッドの方向角の値が一致していないこと等から、本報告ではこの計算した平面直角座標の値を採用し調査区を接合した。

なお、示した数値は日本測地系であり、利用には計算プログラム(国土地理院 TKY2JGD等)を用いて世界測地系の値に変換する必要がある。

##### (2) H-7・10の構造について

以上の座標計算に基づき、H-7・10の構造を考える。

H-7は平成8年度の調査では南側の一部を残して調査し、平成21年度はこの部分を現場で確認した。調査区接合図上でこれらは概ね場所、形状が一致する。

H-10は平成8年度の調査で、北西側の一部の壁が検出できず推定線で示され、南側部分約1/4以外を調査した。平成21年度では、調査区境界でH-10を認め、その南側でこれに切られるLH-33を確認した。調査区接合図上でこれらを示した(図VII-4-2)。平成8年度調査のH-10(北側部分)とLH-33(南側部分)が一つの住居跡であると結論づける。大型の住居跡でこれと同規模の住居跡はLH-16がある。平成8年度に調査したH-10の北西側部分と平成21年度調査のH-10で検出した壁は、誤認あるいは、H-10・LH-33の覆土中に構築された遺構の可能性がある。(末光)

## 5. 遺構及び焼土の土色について（表Ⅶ-5-1）

堅穴住居跡や土坑等の遺構は、人間活動で構築により生じ、利用されなくなった後は、主に自然営力により埋没し、その過程において土層が移動・混合し生じたものと理解できる。また、焼土は、被熱により自然土層が赤色化等の変化で生じたものとする（「3 焼土という遺構について」北埋調報188 197～200頁）遺構の土層の理解には、その遺跡の各自然層の特徴を正確に把握しておく必要がある。

本遺跡の調査では、

- ①：掘り込まれて構築された遺構の覆土の各自然層の混在割合
- ②：赤色系を帯びる土層が、炉跡の焼土か、自然営力による焼土か、二次的に移動したのか、あるいは、擬似焼土\*かの判断

この二点について、色調の変化を把握するため、現場で実際に土層を混ぜ合わせ、色の階調変化を観察表（表Ⅶ-5-1）にまとめ、観察・記録した。

\*「擬似焼土」 「2 梅川4遺跡の「擬似焼土」の成因について」北埋調報253 197～200。

### ・掘り込まれた遺構の覆土

平成18（2006）年度の調査で、遺物包含層である「黒色土層（V2層）」と、いわゆる「地山」である「黄褐色土層（Ⅶ1層）（恵庭のローム層）」の粒度区分礫以下の構成物（粘土・シルト・砂）いわゆる「土」を、表Ⅶ-5-1に示す割合で完全に混ぜ合わせ、湿らせた状態の色を土色帳で特定した。Bが黒色土層で、Yが黄褐色土層である。黒色土層が40%以上を占めると全体は黒色の色調を呈し、黄褐色ローム層は90%以上でないとい黄色の色相を呈さないことがわかる。

遺構の覆土の観察・記録を行うさいに、遺構の構築により移動された自然層の量は遺構の規模から推測でき、自然堆積ならば、覆土は概ねこれらの周囲の自然土層が、様々な割合で混じり流入したものと理解される。色調を観察しこの観察表と照会、黒色土層と黄褐色土層がどの程度の割合で混じり生じたかを判断するうえで有効な情報となる。

また、Ⅵ層及びⅦ層の漸移的な色調を呈する層（Ⅵ層：漸移層）の混在を含めてモデルを作成することは複雑になる。漸移層の上位は黒色、下位は黄褐色の色調を呈するので、これらを黒色土層と黄褐色土層との二つに分け単純化するのが実践的である。

### ・焼土

平成19（2007）年度の調査で、黒色土層（V2層）と赤色土層（LF-117・R層）を、表Ⅶ-5-1に示す割合で完全に混ぜ合わせ、湿った状態の色調を土色で特定した。Bが黒色土層、Rが焼土である。明瞭な赤色を呈するのは赤色土層が90%以上の場合で、黒色土層が60%以上混在すると見た目の色調は黒色を呈する。

焼土は人為的な炉跡、自然営力によるもの、擬似焼土かを区別し、さらにこれらが二次的に移動したのかを判断する。炉跡であるとの判断には、炭化物の有無や被熱した遺物の出土等の他の情報も認定条件となる。自然営力により生じたものは、赤色が弱く硬くないとの経験則も一つの判断基準で、斜面等を移動した場合、焼土が他の土層と混じるので焼土本来の色調が変化し、いずれの場合も、色調が判断する手がかりの一つとなる。

これらの観察表は、遺跡ごとに作成し用いることで、遺跡内での遺構の土層に観察・記録に一貫性をもたせ、さらに同様な自然土層の地域内の遺跡について、同じ尺度での比較検討が可能になる。

（末光）

表Ⅳ-5-1 遺構の土色観察表

## 竪穴住居跡・土坑等遺構の覆土

混在割合	100%		90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	5%	0%
	B	Y	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
色調 (マンセル表色系)	黒色 (10YR1.7/1)			黒色 (10YR1.7/1)		黒色 (10YR1.7/1)	黒色 (10YR1.7/1)	黒色 (10YR2/1)	灰黄褐色 (10YR4/2)	褐色 (10YR4/4)	黄褐色 (10YR5/3)	黄褐色 (10YR5/6)	
	/		-	黒褐色 (10YR2/2)	-	黒褐色 (10YR2/2)	黒色 (10YR2/1)	黄褐色 (10YR4/3)	黄褐色 (10YR4/3)	黄褐色 (10YR5/4)	黄褐色 (10YR5/4)	明黄褐色 (10YR6/6)	
	/		/	/	/	/	黒褐色 (10YR2/2)	/	/	/	/	/	/

B：V層；黒色土層 (T a c 下位)

Y：Ⅳ層；黄褐色ローム層 (E n s ローム層)

## 焼土

混在割合	100%		90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	5%	0%
	B	R	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
色調 (マンセル表色系)	黒色 (10YR1.7/1)			黒色 (10YR1.7/1)		黒褐色 (7.5YR3/2)	暗褐色 (7.5YR3/3)	褐色 (7.5YR4/3)		褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	赤褐色 (5YR4/8)	明赤褐色 (2.5YR5/8)
	/		-	黒色 (10YR1.7/1)	-	/	/	褐色 (7.5YR4/4)		褐色 (7.5YR4/4)	褐色 (7.5YR4/4)	/	明赤褐色 (5YR5/8)
	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

B：V層；黒色土層 (T a c 下位)；B層採取地点：30-70坑付近のV層

R：焼土の一般的な色調；R層採取地点：L F-117

# 付 篇

自然科学的手法による分析結果





## 1. 黒曜石製遺物原産地推定

竹原弘展（株式会社 パレオ・ラボ）

## (1) はじめに

キウス5遺跡は千歳市馬追丘陵西側裾部のキウス川右岸に所在する。当遺跡出土黒曜石について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

## (2) 試料と方法

分析試料はキウス5遺跡より出土した縄文時代の黒曜石19点、旧石器時代の黒曜石41点の計60点である(表3)。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面表面の洗浄を行った。

分析装置は、(株)セイコーインスツルメンツ社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウムRh、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300sec、照射径10mm、電流自動設定(1~63μA、デッドタイムが20%未満になるよう自動的に設定)、電圧50kV、試料室内雰囲気真空に設定した。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月 2004など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) \text{Rb分率} = \text{Rb強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$2) \text{Sr分率} = \text{Sr強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$3) \text{Mn強度} \times 100 / \text{Fe強度}$$

$$4) \log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$$

そしてこれらの指標値を用いた二つの判別図(横軸: Rb分率-縦軸: Mn強度×100 / Fe強度の判別図と、横軸: Sr分率-縦軸: log(Fe強度 / K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。

表1 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢蘆頭(15)	
		白滝2	7の沢川支流(2)、11蘆頭(10)、十勝石沢蘆頭下河床(11)、アジサイの蘆頭(10)、ホロカ沢(3)	
	赤井川	赤井川	南川・土太川(12)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(10)	
	釧路	釧路山	釧路山(6)	
		所山	所山(6)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台(7)	
	名寄	名寄	忠西布川(10)	
	秋田	秋田別1	中山(75)	
		秋田別2		
		秋田別3		
	遠軽	遠軽	社名瀬川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘆	留辺蘆	ケシヨマップ川河床(6)	
	青森	網走	網走	網走市宮スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
		木造	出来島	出来島海岸(10)
	秋田	深淵	八森山	岡崎浜(7)、八森山公園(8)
		男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
岩手	北上川	北上川	船本海岸(4)	
	羽山	北上新屋2	北上川(9)	
宮城	羽山	羽山	月山荘前(10)	
	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	土蔵(18)	
	塩釜	塩釜	塩釜(10)	

この方法は、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせで算出しているため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊である出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。

なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響をまぬがれないといわれる（望月 1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$ の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$ の値が減少する（前掲書）。そのため、試料の測定面はなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

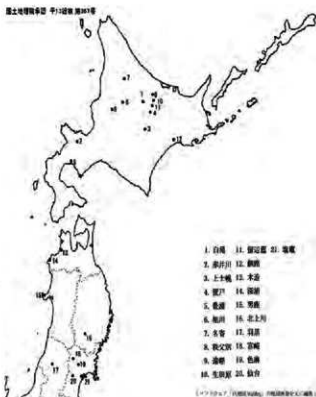


図1 北海道・東北地方黒曜石原石採取エリア

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表1に判別群一覧とそれぞれの原石採取地点及び点数を、図1に各原石のエリアの位置を示す。

### (3) 分析結果

図2および図3に、黒曜石原石の判別図に遺物をプロットした図を示す。各図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。試料60点中、赤井川群の範囲に47点、上士幌群の範囲に9点、所山群の範囲に2点、白滝1群の範囲に1点、豊浦群の範囲に1点がそれぞれプロットされた。各遺物の推定結果一覧を表3に示す。時代ごとに産地推定エリアを見てみると（表2）、縄文時代19点は赤井川エリア6点、上士幌エリア9点、置戸エリア2点、白滝エリア1点、豊浦エリア1点と多様な産地に分類された。一方、旧石器時代41点はいずれも赤井川エリアであった。

なお、筆者は過去にキウス川対岸に所在するキウス9遺跡より出土した縄文時代早期の黒曜石89点（器種はすべて石刃鏃）、旧石器時代の黒曜石3点、計92点についても同様に分析しており、縄文時代早期89点は置戸エリア81点、白滝エリア6点、生田原エリア2点、旧石器時代3点は赤井川エリア2点、白滝エリア1点という結果を得ている（竹原 2008）。また、両遺跡と同じ千歳市内に所在する祝梅川上田遺跡出土黒曜石についても分析している。

祝梅川上田遺跡の分析は、平成18（2006）年度に53点（旧石器時代49点、縄文時代5点）を、平成20（2008）年度に44点（旧石器時代または縄文時代5点、旧石器時代39点）について行い、これらの結果は、平成24年度に刊行予定の「千歳市 祝梅川上田遺跡（2）」（北理調報300）で掲載する。

（本段落 末光 正卓）



表2 時代別推定エリア

時代	赤井川	上土幌	置戸	白滝	豊浦	計
縄文時代	6	9	2	1	1	19
旧石器時代	41	—	—	—	—	41
計	47	9	2	1	1	60

(4) 終わりに

キウス5遺跡出土黒曜石60点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、47点が赤井川エリア産、9点が上土幌エリア産、2点が置戸エリア産、1点が白滝エリア産、1点が豊浦エリア産と推定された。

引用文献・参考文献

竹原弘展 2008 2 キウス9遺跡出土黒曜石の産地同定。

「千歳市 キウス9遺跡」(北埋調報252):340-343

望月明彦 1999 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。

「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2-上和田城山遺跡篇一」:172-179, 大和市教育委員会。

望月明彦 2004 用田大河内遺跡出土黒曜石の産地推定。

かながわ考古学財団調査報告167 用田大河内遺跡、511-517, 財団法人 かながわ考古学財団

(平成20(2008)年3月19日 受理)

(平成24(2012)年度 記載内容一部更新)

## 2. 石器及び玉類の岩石学的分析

アースサイエンス株式会社

## (1) キウス5遺跡分析試料一覧

試料 番号	分類	遺構・ 包含層	層位	遺物 番号	図 番号	肉眼 鑑定	写真 撮影	XRF	EDS
キ5-1	石製品	LH-1	覆土	1	IV-7-74-1	○	○	○	○
キ5-2	石製品	LH-11	覆土	14	IV-7-74-4	○	○	○	○
キ5-3	石製品	LH-12	覆土	1	IV-7-74-6	○	○	○	○
キ5-4	玉	LH-16	焼土 上面	231	IV-7-74-7	○	○	○	○
キ5-5	玉	LH-18	覆土2	549	IV-7-74-8	○	○	○	○
キ5-6	玉	LH-18	床直	805	IV-7-74-9	○	○	○	○
キ5-7	玉	LH-21	覆土2	-	IV-7-74-11	○	○	*	*
キ5-8	玉	LP-23	覆土BY	1	IV-7-82-1	○	○	○	○
キ5-9	玉	LP-23	覆土BY	2	IV-7-82-1	○	○	○	○
キ5-10	玉	26-70区	V2層	-	V-3-8-16	○	○	○	○
キ5-11	玉	26-71区	V2層	-	V-3-8-1	○	○	*	*
キ5-12	玉	27-69区	V2層	-	V-3-8-9	○	○	*	*
キ5-13	玉	28-77区	FV層	-	V-3-8-5	○	○	*	*
キ5-14	玉	31-40区	Ⅲ層	-	北埋調報284 図V-66-43	○	○	○	○
キ5-15	玉	32-67区	V1層	-	V-3-8-14	○	○	○	○
合 計						15	15	11	11

## (2) 肉眼鑑定

キウス5遺跡出土の石製品および玉15点について、肉眼鑑定を行った資料を、写真1-1・2に、また、鑑定結果を表1-1に示す。肉眼鑑定にあたっては実体鏡とルーペを併用した。



写真1-1 キウス5遺跡の鑑定資料の写真(1)

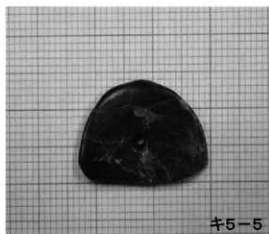


写真1-1 キウス5遺跡の鑑定資料の写真(2)

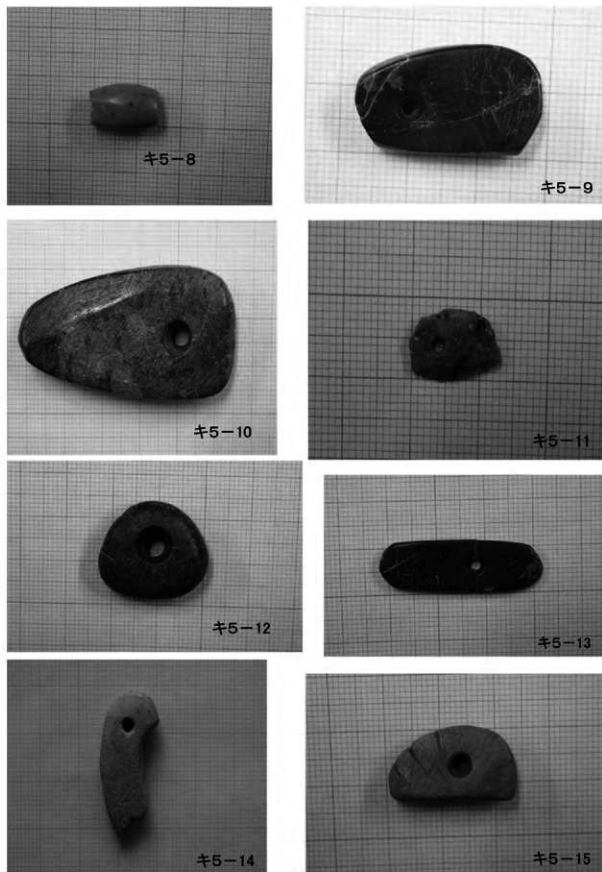


図1-1 キウス5遺跡の鑑定資料の写真(3)





図1-2 キウス5遺跡の鑑定資料の写真〔集合〕(1)

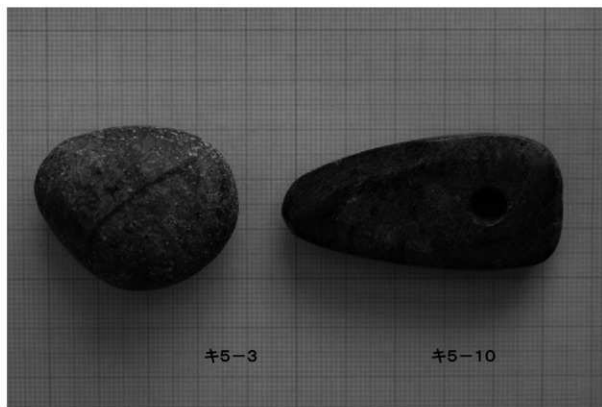


図1-2 キウス5遺跡の鑑定資料の写真【集合】(2)

表1-1 キウス5遺跡 石製品および玉の肉眼鑑定結果

試料番号	分類	遺構・包含層	層位	遺物番号	岩石名	備 考
キ5-1	石製品	LH-1	覆土	1	緑泥石岩	孔。 蛇紋岩質（緑泥石岩化蛇紋岩）。他形スピネル含む。 白色鉱物脈あり。緑灰色。
キ5-2	石製品	LH-11	覆土	14	タルク岩	孔・管。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。緑灰色。細粒。均質。
キ5-3	石製品	LH-12	覆土	1	蛇紋岩	未成品。 緑灰色不均質。自形～他形のスピネルを多く含む。
キ5-4	玉	LH-16	焼土 上面	231	緑泥石岩	孔・L字形。 蛇紋岩質。微細なスピネル含む。暗緑色。 褐色の風化鉱物生成。
キ5-5	玉	LH-18	覆土2	549	緑泥石岩	孔・薄い。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。淡緑色。細粒。均質。
キ5-6	玉	LH-18	床直	805	緑泥石岩	孔・薄い。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。淡緑色。細粒。均質。
キ5-7	玉	LH-21	覆土2	—	緑泥石岩	孔・薄い。 蛇紋岩質。スピネル認められず。帯褐色淡緑色。 ち密。白色鉱物脈。
キ5-8	玉	LP-23	覆土 BY	1	緑泥石岩	孔・管。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。帯緑灰色。細粒。均質。
キ5-9	玉	LP-23	覆土 BY	2	緑泥石岩	孔。 蛇紋岩質。スピネル含む。
キ5-10	玉	26-70区	V2層	—	蛇紋岩	孔。 緑灰色であるが褐色風化進む。メッシュ組織明瞭。 自形および他形スピネル。
キ5-11	玉	26-71区	V2層	—	緑泥石岩	孔・薄い。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。帯緑灰色。細粒。均質。
キ5-12	玉	27-69区	V2層	—	緑泥石岩	孔。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。 緑灰色と暗緑色部が入り混じり不均質。
キ5-13	玉	28-77区	FV層	—	緑泥石岩	孔。細長い板状。 蛇紋岩質。自形スピネル含む。暗緑色ち密。
キ5-14	玉	31-40区	Ⅲ層	—	凝灰質 珪化岩	擦痕・欠損。 帯緑灰白色。細粒。ち密。
キ5-15	玉	32-67区	V1層	—	緑泥石岩	孔・半円。 蛇紋岩質。自形および他形スピネル含む。 帯緑灰白色。白っぽい。

## (2) 全岩化学分析

## 2-1 分析装置及び分析条件

分析には北海道教育大学札幌校のフィリップス社製蛍光X線 (XRF) 分析装置MagiXを使用した。各元素の測定条件を表2-1に示す。X線管球はエンドウィンドウ型のRh管球を用いた。測定環境はヘリウム環境中で測定している。測定時間は一試料につき約23分である。

## 試料及び定量操作

試料は未処理のものをそのまま測定試料とした。試料測定用プラスチック製カップに、一重のポリプロピレンフィルムを装着し、試料を入れた。中の試料が動かないようにフタをして、金属ホルダーに入れ試料室にセットし測定を行った。定量分析はフィリップス社製のソフトIQ+を用いファンダメンタルパラメータ法 (FP法) によって行った。なお、本装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C, N, Oといった軽元素は検出できない。本試料の測定で用いたFP法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数 (ファンダメンタルパラメータ) の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、試料の形状・重量に関係なく前処理なしで定量できるメリットがある。

表2-1 各元素の測定条件

	Analytical element		Crystal	Detector	kV	mA	Angle ( $^{\circ} 2\theta$ )	Counting time (s)
	K $\alpha$	L $\alpha$						
1	Mo-Pr		LiF 200	Scint.	60	50	9.5-21	115
2	Zn-Mo	Re-Am	LiF 220	Scint.	60	50	27.5-62	345
3	V-Cu	Pr-W	LiF 220	Duplex	50	60	61-126	650
4	K-V	In-Ce	LiF 200	Flow	24	125	76-146	175
5	P-Cl	Zr-Ru	Ge 111	Flow	24	125	91-146	22
6	Si-Si	Rb-Sr	PE 002	Flow	24	125	100-115	5
7	Al-Al	Br-Br	PE 002	Flow	24	125	130-147.04	5.68
8	Na-Mg	Zn-Se	PX1	Flow	24	125	20-30.05	2.68

Scint : シンチレーション検出器,

Duplex : ガスフロー検出器とXeシールド型のタンデム型検出器,

Flow : ガスフロー検出器

## 2-2 分析結果

分析結果を表2-2に示す。

表2-2 キウス5遺跡出土石製品および玉の全岩化学組成(1)

試料番号	キ5-1	キ5-2	キ5-3	キ5-4	キ5-5	キ5-6
SiO <sub>2</sub>	38.10			40.90	41.72	40.03
TiO <sub>2</sub>				0.10		
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	16.44			26.35	16.20	17.79
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	12.99			11.56	7.80	6.84
MnO	0.15			0.14	0.10	0.09
MgO	31.45			19.52	33.65	34.74
CaO	0.08			0.13	0.13	0.02
K <sub>2</sub> O	0.09	※	※	0.39		
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.12			0.25	0.07	0.06
SO <sub>2</sub>	0.10			0.12	0.06	0.05
Cr	0.12			0.13	0.10	0.15
Co				0.02		0.02
Ni	0.36			0.38	0.17	0.20
Zn				0.02		0.01
Sr						
Zr						
合計	100.0			100.0	100.0	100.0
Si	6.763			7.029	7.053	6.740
Fe	1.736			1.494	0.992	0.866
Fe/(Fe+Mg)	0.17			0.23	0.10	0.09
推定岩石	緑泥石岩			緑泥石岩	緑泥石岩	緑泥石岩

表 2-2 キウス5遺跡出土石製品および玉の全岩化学組成 (2)

試料番号	キ5-7	キ5-8	キ5-9	キ5-10	キ5-14	キ5-15
SiO <sub>2</sub>		42.49	37.12		88.46	41.43
TiO <sub>2</sub>					0.33	
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		18.02	17.02		7.88	19.85
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		6.30	12.40		1.63	8.49
MnO		0.10	0.21			0.13
MgO		32.23	32.77		0.22	29.51
CaO		0.06	0.04		0.50	0.00
K <sub>2</sub> O	※	0.06		※	0.62	0.07
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		0.21	0.13		0.17	0.11
SO <sub>2</sub>		0.09	0.06		0.15	0.08
Cr		0.17				
Co						
Ni		0.28	0.23			0.32
Zn			0.03			
Sr					0.02	
Zr					0.01	
合 計		100.0	100.0		100.0	100.0
Si		7.088	6.569		12.819	7.007
Fe		0.791	1.651		0.178	1.081
Fe/(Fe+Mg)		0.09	0.16		0.79	0.13
推定岩石		緑泥石岩	緑泥石岩		凝灰質 珪化岩	緑泥石岩

\* 試料が大きいため分析できず

### (3) 鉱物分析

#### 3-1 分析方法

構成鉱物の化学分析は、走査型電子顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型X線分析装置(EDS)によった。装置は北海道教育大学札幌校の電子顕微鏡(JEOL JSM-T330A)に付設したOxford社製Link ISIS300である。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。

試料は前処理として炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線放射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。この炭素膜は測定後アセトンやアルコールにて容易に取り除くことができる。電子線は最小領域2~3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線放射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行うが、正確な定量分析を行うためには、試料表面を平滑にする必要がある。今回の分析試料は穿孔されたリングの形状をもっているが、測定にあたっては、出来るだけ平滑な部分を選んで非破壊分析を行った。合計重量が100%近くにならない場合が多いが、分析結果から推定される予想鉱物の理想化学式との対応は概ね良い。

#### 3-2 分析結果

EDSによる鉱物の分析結果を表3-1に示す。

表3-1 (1) 鉱物の分析値 [キ5-1]

	1	2	3	4	5	6	7
SiO <sub>2</sub>	0.57	0.66	36.84	29.75	40.32	40.84	39.51
TiO <sub>2</sub>	0.11	0.18	0.43	0.37	0.42	0.00	0.21
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	14.62	18.83	6.52	13.90	16.72	18.19	20.55
FeO	19.00	17.05	15.72	17.58	6.50	5.65	8.28
MnO	0.50	0.35	0.09	0.00	0.00	0.00	0.10
MgO	6.65	9.28	1.44	3.42	34.51	35.23	30.47
CaO	0.24	0.27	28.81	24.74	0.15	0.16	0.10
Na <sub>2</sub> O	0.00	0.00	0.29	0.06	0.93	0.07	0.00
K <sub>2</sub> O	0.13	0.14	0.56	2.00	0.52	0.07	0.22
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	58.18	53.21	9.58	7.53	0.09	0.11	0.16
NiO	0.02	0.13	0.00	0.86	0.00	0.02	0.79
原子比	O= 4	4	24	24	28	28	28
Si	0.018	0.021	6.137	5.038	6.67	6.667	6.539
Ti	0.003	0.004	0.054	0.048	0.05	0.000	0.027
Al	0.582	0.700	1.279	2.774	3.26	3.500	4.008
Fe	0.518	0.450	2.190	2.490	0.90	0.771	1.146
Mn	0.014	0.009	0.012	0.000	0.00	0.000	0.013
Mg	0.323	0.436	0.357	0.864	8.51	8.574	7.517
Ca	0.008	0.009	5.142	4.488	0.03	0.029	0.018
Na	0.000	0.000	0.094	0.018	0.30	0.021	0.000
K	0.005	0.006	0.120	0.431	0.11	0.015	0.047
Cr	1.499	1.326	1.282	1.008	0.01	0.014	0.021
Ni	0.000	0.003	0.000	0.089	0.00	0.002	0.105
Total	2.951	2.965	16.646	17.248	19.843	19.594	19.443
鉱物名	スピネル	スピネル	含有 スピネル	含有 スピネル	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表3-1 (2) 鉱物の分析値 [キ5-2]

	1	2	3	4	5	6
SiO <sub>2</sub>	0.94	0.61	0.78	65.34	64.59	62.45
TiO <sub>2</sub>	0.05	0.00	0.22	0.05	0.00	0.11
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.03	12.89	13.37	3.03	3.49	5.86
FeO	21.23	20.90	19.69	4.54	4.10	8.07
MnO	0.40	0.12	0.15	0.11	0.01	0.10
MgO	9.95	9.24	10.13	26.77	27.89	21.82
CaO	0.10	0.10	0.05	0.07	0.03	0.27
Na <sub>2</sub> O	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
K <sub>2</sub> O	0.00	0.00	0.05	0.03	0.20	0.96
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	54.97	56.95	55.35	0.12	0.05	0.06
NiO	0.00	0.00	0.27	0.11	0.24	0.23
原子比	O= 4	4	4	22	22	22
Si	0.030	0.020	0.025	7.977	7.87	7.806
Ti	0.001	0.000	0.005	0.004	0.00	0.011
Al	0.498	0.494	0.512	0.436	0.50	0.864
Fe	0.577	0.568	0.535	0.464	0.42	0.844
Mn	0.011	0.003	0.004	0.011	0.00	0.010
Mg	0.482	0.448	0.490	4.870	5.03	4.064
Ca	0.003	0.003	0.002	0.009	0.00	0.036
Na	0.000	0.000	0.000	0.000	0.00	0.019
K	0.000	0.000	0.002	0.005	0.03	0.154
Cr	1.411	1.465	1.421	0.012	0.01	0.005
Ni	0.000	0.000	0.007	0.011	0.02	0.023
Total	3.014	3.001	3.004	13.798	13.888	13.836
鉱物名	スピネル	スピネル	スピネル	タルク	タルク	タルク

表 3-1 (3) 鉱物の分析値 [キ5-3]

	1	2	3	4	5	6
SiO <sub>2</sub>	50.78	39.82	39.13	47.72	47.53	40.93
TiO <sub>2</sub>	0.00	0.00	0.00	0.07	0.25	0.11
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	2.29	17.43	18.21	6.51	7.39	15.79
FeO	4.10	5.45	5.69	4.20	4.66	4.81
MnO	0.16	0.20	0.15	0.01	0.05	0.08
MgO	42.21	36.82	36.80	40.82	39.09	37.96
CaO	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
Na <sub>2</sub> O	0.38	0.24	0.05	0.28	0.32	0.09
K <sub>2</sub> O	0.00	0.15	0.00	0.06	0.35	0.00
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.06	0.12	0.01	0.07	0.03	0.06
NiO	0.18	0.00	0.14	0.35	0.33	0.19
原子比	O= 14	28	28	14	14	28
Si	4.117	6.538	6.431	3.882	3.88	6.704
Ti	0.000	0.000	0.000	0.004	0.02	0.014
Al	0.219	3.373	3.527	0.824	0.71	3.048
Fe	0.278	0.748	0.782	0.286	0.32	0.660
Mn	0.011	0.027	0.021	0.001	0.00	0.011
Mg	5.100	9.011	9.014	4.950	4.76	9.289
Ca	0.000	0.000	0.000	0.000	0.00	0.000
Na	0.059	0.078	0.017	0.044	0.05	0.030
K	0.000	0.031	0.000	0.006	0.04	0.000
Cr	0.004	0.016	0.002	0.004	0.00	0.008
Ni	0.012	0.000	0.019	0.023	0.02	0.025
Total	9.801	19.822	19.813	9.825	9.793	19.788
鉱物名	蛇紋石?	緑泥石	緑泥石	蛇紋石	蛇紋石	緑泥石

表 3-1 (4) 鉱物の分析値 [キ5-4]

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	38.81	38.49	39.26	40.04
TiO <sub>2</sub>	0.10	0.31	0.02	0.20
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.19	29.03	24.78	25.89
FeO	9.28	9.24	9.54	8.55
MnO	0.10	0.17	0.18	0.12
MgO	26.97	21.68	25.20	24.40
CaO	0.10	0.11	0.23	0.12
Na <sub>2</sub> O	0.00	0.08	0.14	0.02
K <sub>2</sub> O	0.14	0.48	0.27	0.13
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.08	0.13
NiO	0.59	0.41	0.31	0.41
原子比	O= 28	28	28	28
Si	6.421	6.347	6.507	6.576
Ti	0.013	0.038	0.003	0.024
Al	4.716	5.643	4.840	5.011
Fe	1.283	1.275	1.322	1.174
Mn	0.013	0.024	0.025	0.017
Mg	6.650	5.330	6.225	5.974
Ca	0.017	0.019	0.041	0.021
Na	0.000	0.025	0.044	0.007
K	0.030	0.101	0.056	0.027
Cr	0.000	0.000	0.010	0.016
Ni	0.079	0.054	0.041	0.055
Total	19.223	18.857	19.115	18.902
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表 3-1 (5) 鉱物の分析値 [キ5-5]

	1	2	3	4	5	6
SiO <sub>2</sub>	1.91	2.09	0.95	39.39	39.05	38.93
TiO <sub>2</sub>	0.12	0.04	0.18	0.00	0.08	0.46
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.93	21.73	12.94	17.95	18.06	18.02
FeO	18.26	15.78	21.23	5.50	5.76	7.25
MnO	0.56	0.49	0.71	0.00	0.05	0.28
MgO	10.89	11.12	5.94	36.65	35.86	34.45
CaO	0.10	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00
Na <sub>2</sub> O	0.07	0.11	0.00	0.42	0.39	0.35
K <sub>2</sub> O	0.07	0.17	0.04	0.04	0.00	0.20
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	49.24	48.23	58.02	0.29	0.31	0.20
NiO	0.00	0.20	0.12	0.00	0.47	0.00
原子比	O= 4	4	4	28	28	28
Si	0.060	0.064	0.031	6.468	6.45	6.459
Ti	0.003	0.001	0.004	0.000	0.01	0.058
Al	0.697	0.785	0.503	3.474	3.51	3.524
Fe	0.477	0.405	0.586	0.755	0.80	1.006
Mn	0.015	0.013	0.020	0.000	0.01	0.037
Mg	0.507	0.508	0.292	8.971	8.82	8.519
Ca	0.003	0.001	0.000	0.000	0.00	0.000
Na	0.005	0.006	0.000	0.134	0.13	0.112
K	0.003	0.007	0.002	0.008	0.00	0.043
Cr	1.216	1.169	1.514	0.038	0.04	0.027
Ni	0.000	0.005	0.003	0.000	0.06	0.000
Total	2.985	2.964	2.956	19.847	19.828	19.785
鉱物名	スピネル	スピネル	スピネル	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表 3-1 (6) 鉱物の分析値 [キ5-6]

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	39.84	40.06	38.85	39.66
TiO <sub>2</sub>	0.09	0.05	0.07	0.16
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	17.32	17.76	18.45	19.37
FeO	5.47	8.05	8.23	5.88
MnO	0.00	0.06	0.18	0.00
MgO	36.68	35.28	35.37	34.50
CaO	0.00	0.05	0.06	0.00
Na <sub>2</sub> O	0.49	0.01	0.65	0.28
K <sub>2</sub> O	0.08	0.21	0.01	0.22
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.33	0.26	0.08
NiO	0.14	0.14	0.00	0.00
原子比	O= 28	28	28	28
Si	6.549	6.598	6.417	6.508
Ti	0.012	0.006	0.008	0.020
Al	3.355	3.448	3.591	3.745
Fe	0.752	0.834	0.861	0.807
Mn	0.000	0.009	0.025	0.000
Mg	8.988	8.662	8.709	8.437
Ca	0.000	0.008	0.011	0.000
Na	0.156	0.003	0.208	0.088
K	0.017	0.043	0.003	0.046
Cr	0.000	0.043	0.034	0.010
Ni	0.019	0.019	0.000	0.000
Total	19.848	19.674	19.867	19.661
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石



表3-1 (7) 鉱物の分析値 [キ5-8]

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	0.59	0.60	41.29	40.87
TiO <sub>2</sub>	0.09	0.01	0.00	0.00
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	5.93	6.86	17.85	18.37
FeO	20.76	20.31	5.76	7.02
MnO	0.58	0.37	0.24	0.31
MgO	6.58	7.65	33.88	32.62
CaO	0.06	0.10	0.08	0.00
Na <sub>2</sub> O	0.04	0.00	0.32	0.40
K <sub>2</sub> O	0.07	0.00	0.31	0.13
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	65.21	64.35	0.00	0.08
NiO	0.09	0.12	0.37	0.21
原子比	O= 28	28	28	28
Si	0.142	0.141	6.779	6.743
Ti	0.016	0.003	0.000	0.000
Al	1.672	1.909	3.454	3.573
Fe	4.153	4.010	0.791	0.968
Mn	0.118	0.074	0.034	0.044
Mg	2.348	2.693	8.289	8.022
Ca	0.016	0.025	0.013	0.000
Na	0.017	0.000	0.103	0.129
K	0.021	0.000	0.064	0.026
Cr	12.337	12.015	0.000	0.011
Ni	0.016	0.023	0.049	0.027
Total	20.85699	20.89407	19.57729	19.54283
鉱物名	スピネル	スピネル	緑泥石	緑泥石

表3-1 (8) 鉱物の分析値 [キ5-9]

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	35.49	40.07	37.48	39.77
TiO <sub>2</sub>	1.39	0.00	0.19	0.00
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	23.84	17.46	19.64	20.41
FeO	9.67	7.91	7.23	6.07
MnO	0.38	0.17	0.06	0.18
MgO	27.88	33.84	34.46	32.82
CaO	0.10	0.03	0.06	0.08
Na <sub>2</sub> O	0.38	0.17	0.32	0.23
K <sub>2</sub> O	0.72	0.00	0.02	0.05
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.06	0.14	0.34	0.22
NiO	0.09	0.28	0.20	0.32
原子比	O= 28	28	28	28
Si	5.977	6.646	6.232	6.527
Ti	0.176	0.000	0.024	0.000
Al	4.732	3.415	3.850	3.948
Fe	1.362	1.098	1.005	0.832
Mn	0.055	0.024	0.008	0.025
Mg	6.998	8.368	8.541	8.027
Ca	0.017	0.005	0.011	0.015
Na	0.124	0.054	0.105	0.074
K	0.155	0.000	0.004	0.010
Cr	0.008	0.018	0.045	0.029
Ni	0.013	0.037	0.026	0.042
Total	19.617	19.664	19.851	19.527
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表3-1 (9) 鉱物の分析値 [キ5-10]

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	32.48	32.36	32.47	32.69	32.62
TiO <sub>2</sub>	0.94	0.11	0.50	0.00	0.63
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	21.23	21.32	23.15	22.86	26.33
FeO	23.24	24.98	21.82	22.09	21.88
MnO	0.27	0.62	0.09	0.33	0.31
MgO	20.54	20.36	19.20	21.76	14.25
CaO	0.20	0.22	0.95	0.03	0.86
Na <sub>2</sub> O	0.40	0.00	0.91	0.00	0.83
K <sub>2</sub> O	0.46	0.29	0.70	0.19	1.85
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.20	0.00	0.47
NiO	0.30	0.00	0.01	0.25	0.00
原子比	O= 28	28	28	28	28
Si	5.856	5.855	5.822	5.817	5.85
Ti	0.127	0.015	0.068	0.000	0.09
Al	4.510	4.546	4.892	4.794	5.57
Fe	3.504	3.780	3.272	3.287	3.28
Mn	0.042	0.095	0.014	0.050	0.05
Mg	5.519	5.490	5.132	5.773	3.81
Ca	0.039	0.042	0.182	0.006	0.17
Na	0.140	0.000	0.317	0.000	0.29
K	0.105	0.066	0.161	0.044	0.42
Cr	0.000	0.000	0.029	0.000	0.07
Ni	0.043	0.000	0.002	0.036	0.00
Total	19.885	19.890	19.890	19.808	19.599
鉱物名	緑泥石 <sup>※</sup>	緑泥石 <sup>※</sup>	緑泥石 <sup>※</sup>	緑泥石 <sup>※</sup>	緑泥石 <sup>※</sup>

※: 緑泥石+水酸化鉄の可能性

表3-1 (10) 鉱物の分析値 [キ5-14]

	1	2	3	4	5	6
SiO <sub>2</sub>	91.43	89.69	66.72	66.29	92.38	88.71
TiO <sub>2</sub>	0.43	0.00	0.94	0.61	0.37	0.44
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	6.35	7.91	20.63	24.31	5.37	8.07
FeO	0.57	1.22	8.42	3.80	0.98	1.27
MnO	0.05	0.00	0.14	0.04	0.00	0.00
MgO	0.16	0.18	0.54	0.00	0.01	0.13
CaO	0.17	0.25	1.17	1.02	0.24	0.10
Na <sub>2</sub> O	0.40	0.41	0.36	1.07	0.37	0.48
K <sub>2</sub> O	0.65	0.49	0.85	3.31	0.54	0.68
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.13	0.03	0.00	0.07
NiO	0.00	0.13	0.08	0.00	0.00	0.10
原子比	1	1	24	24	1	1
Si	0.465	0.458	8.814	8.648	0.47	0.455
Ti	0.002	0.000	0.094	0.059	0.00	0.002
Al	0.038	0.048	3.212	3.737	0.03	0.049
Fe	0.002	0.005	9.930	4.415	0.00	0.005
Mn	0.000	0.000	0.016	0.005	0.00	0.000
Mg	0.001	0.001	0.106	0.000	0.00	0.001
Ca	0.001	0.001	0.166	0.143	0.00	0.001
Na	0.004	0.004	0.093	0.270	0.00	0.005
K	0.004	0.003	0.144	0.551	0.00	0.004
Cr	0.000	0.000	0.114	0.003	0.00	0.000
Ni	0.000	0.001	0.009	0.000	0.00	0.000
Total	0.518	0.521	13.597	13.832	0.516	0.523
鉱物名	石英他 <sup>※</sup>	石英他 <sup>※</sup>	パイロフィライト?	パイロフィライト?	石英他 <sup>※</sup>	石英他 <sup>※</sup>

※: 少量のパイロフィライトまたは絹雲母や長石を含むと考えられる。

表3-1 (11) 鉱物の分析値 [キ5-15]

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	39.56	39.39	33.92	37.41
TiO <sub>2</sub>	0.69	0.12	0.66	0.43
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.15	18.36	19.88	20.36
FeO	5.42	4.88	15.06	7.67
MnO	0.01	0.14	0.00	0.21
MgO	34.24	36.51	28.89	32.94
CaO	0.23	0.00	0.23	0.09
Na <sub>2</sub> O	0.79	0.41	0.51	0.30
K <sub>2</sub> O	0.75	0.14	0.90	0.17
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.20	0.00	0.20	0.16
NiO	0.00	0.07	0.00	0.25
原子比	O= 28	28	28	28
Si	6.533	6.466	5.893	6.234
Ti	0.086	0.015	0.086	0.054
Al	3.532	3.551	4.070	3.999
Fe	0.749	0.670	2.187	1.069
Mn	0.001	0.019	0.000	0.029
Mg	8.427	8.932	7.479	8.180
Ca	0.041	0.001	0.043	0.016
Na	0.252	0.132	0.172	0.098
K	0.159	0.028	0.199	0.036
Cr	0.027	0.000	0.028	0.021
Ni	0.000	0.009	0.000	0.033
Total	19.807	19.824	20.157	19.769
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

## 4. 考察

石製品3、玉12の合計15資料の分析結果は蛇紋岩2点、蛇紋岩起源と考えられる緑泥石岩が11点、同じく蛇紋岩起源と考えられるタルク岩が1点で、14試料(93%)が蛇紋岩起源の岩石であった。

これらの蛇紋岩由来岩のほとんどはクロム(Cr)を多量に含むスピネル(尖晶体)(クロムスピネル Cr-Spinel)を含んでいることから、さらにさかのぼればかんらん岩、とくに輝石を含まない「ダγκあんらん岩」(ダナイト かんらん石90%以上)が主体であったと考えられる。

すなわち、分析した試料は、かんらん岩→蛇紋岩化→緑泥石岩化またはタルク岩化というプロセスを経て形成されたものである。

北海道には神居古潭帯などに蛇紋岩が広く分布している。しかし、緑泥石岩化が岩体に広く及んでいる場所は今のところ発見されていない。神居古潭帯

では蛇紋岩にともなうロジン岩の反応帯として幅数10cm以下の規模で帯緑暗灰色の緑泥石帯が出現する(Katoh and Niida, 1983)。しかし、これは玉などに使用される緑泥石岩とは見かけが異なり、かつ極めて局所的にしか分布しないので、これらの原産地とは考えにくい。

このような大規模にAl(緑泥石は蛇紋石と異なりAlを多量に含む)が付加されるような蛇紋岩体は、地質時代に熱水変質作用を受けている古生代などの古い岩体、例えば日本では糸魚川地域を含む飛騨外縁帯(青梅-蓮華帯)やシベリアなどの大陸地域(岡村ほか, 2003)が上げられる。新潟県糸魚川地域の蛇紋岩体には大規模に緑泥石岩化した部分が報告されており(大村ほか, 1983)、今後これらとの比較検討が必要である。

残一試料(キ5-14)は凝灰質珪化岩である。これらはSiO<sub>2</sub>を88%含むほか、一定量のAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>(8%)などを含むが、鉱物分析では石英のほかパイロフィライト(葉ろう石)らしい組成の鉱物が見出された。パイロフィライトであれば、この岩石は高温の酸性熱水の条件下で形成されたものである。このような岩石は石狩低地帯より西側の中新世~鮮新世の火成活動域に局所的に分布する。

## 引用文献

- Katoh, T. and Niida, K. (1983): Rodingites from the Kamuikotan tectonic belt, Hokkaido. Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. IV, 20, 151-169.
- 岡村 聡・加藤孝幸・寺崎康史 (2003): 今金町美利河1遺跡から出土した玉類の石質と起源。「北海道考古学会」, 第39輯, 77-82.
- 大村一夫・山地英喜・岩槻 修・吉田直弘・山戸武史 (1983): 新潟県糸魚川地域の蛇紋岩-岩盤評価の前に. 応用地質, 24, 9-24.

(平成20(2008)年3月25日 受領)

(平成24(2012)年度 一部加筆)



# 写 真 图 版





平成15年度 調査状況 (南西から)



平成15年度 調査完了状況 (西から)



平成16年度 調査状況 (西から)



平成18年度 調査完了状況 (北東から)



平成19年度 調査完了状況 (東から)



平成20年度 調査完了状況 (東から)



平成21年度 A地区 調査完了状況 (東から)



平成21年度 B地区 調査完了状況 (南東から)

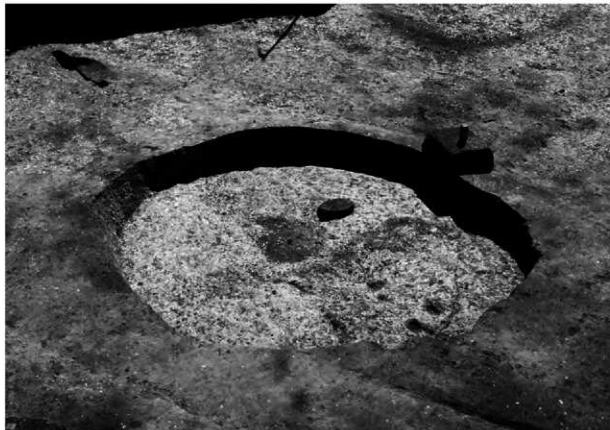
図版 2



LH-1 東西方向土層断面（南から）



LH-1 南北方向土層断面（東から）



LH-1 完掘状況（北西から）



LH-2 確認状況 (西から)



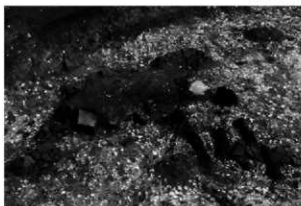
LH-2 遺物出土状況 (南から)



LH-2 東西方向土層断面 (南から)



LH-2 南北方向土層断面 (西から)



LH-2 遺物・炭化材出土状況 (南から)



LH-3 完掘状況 (西から)

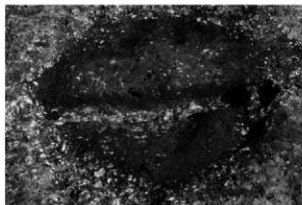




LH-2 完掘状況 (南西から)



LH-4 土層断面 (南東から)



LH-4 炉跡 HP-1 (南東から)



LH-4 土器出土状況 (南から)



LH-4 南側部分完掘状況 (南東から)



LH-4 北側部分完掘状況 (南東から)



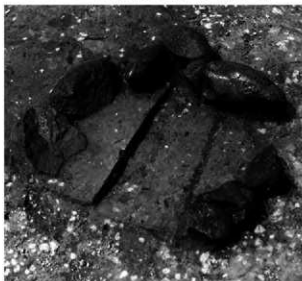
LH-5 東西方向土層断面 (南から)



LH-5 南側部分完掘状況 (南から)



LH-5 北側部分完掘状況 (南西から)



LH-5 石組炉 (南から)



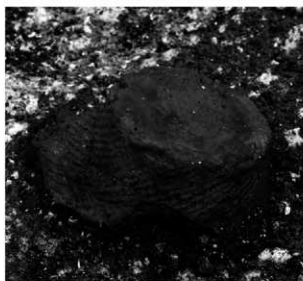
LH-5 土器出土状況 (南から)



LH-6 土層断面 (南東から)



LH-6 完掘状況 (南から)



LH-6 土器出土状況 (北西から)



LH-7 土層断面 (南東から)



LH-7・8 土層断面 (南西から)



LH-7(右)・LH-8(左) 完掘状況 (北西から)

図版 8



LH-9 遺物出土状況 (南西から)



LH-9 南北方向土層断面 (東から)



LH-9 完掘状況 (南西から)



LH-9 土器出土状況 (東から)



LH-10 土器出土状況 (東から)



LH-10 完掘状況 (東から)



LH-10 東西方向土層断面（南から）



LH-10 南北方向土層断面（東から）



LH-6～10 完掘状況・調査状況（東から）

図版10



LH-11 土層断面（南東から）



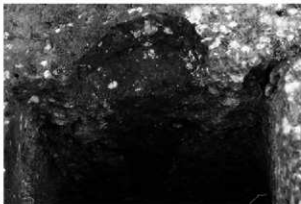
LH-11 完掘状況（南東から）



LH-12 南側部分南北方向土層断面（西から）



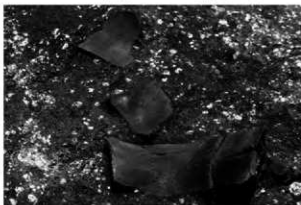
LH-12 北側部分南北方向土層断面（西から）



LH-12 柱穴HP-7（南西から）



LH-12 土器出土状況1（南西から）



LH-12 土器出土状況2（北東から）

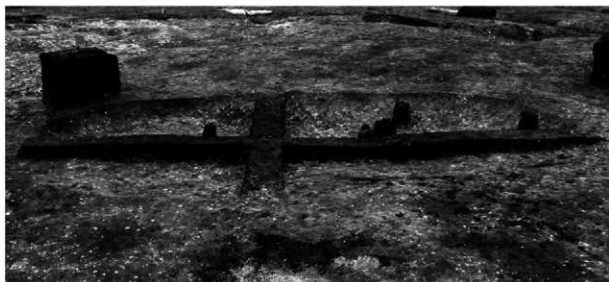


LH-12 南側部分完掘状況（南から）



LH-12 北側部分完掘状況（南西から）





LH-13 東西方向土層断面（南から）



LH-13 完掘状況（南東から）



LH-14 土層断面1（北東から）



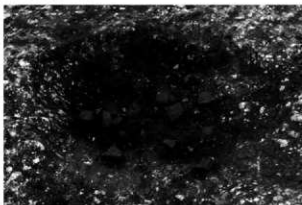
LH-14 土層断面2 (西から)



LH-14 完掘状況 (北東から)



LH-14 土器集中 (北東から)

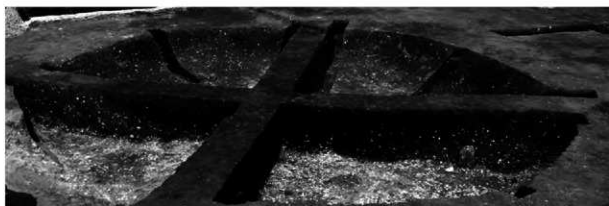


LH-14 HP-1 (北から)

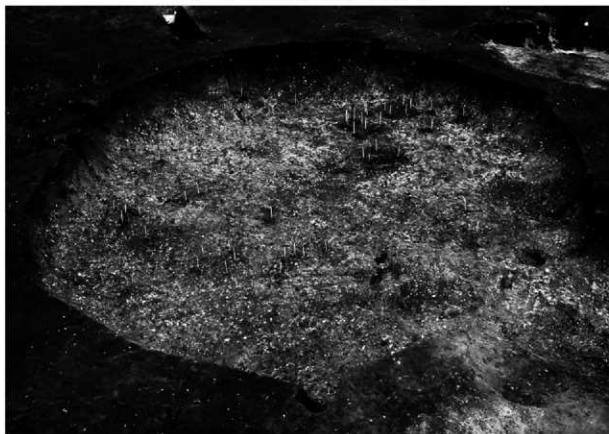
図版14



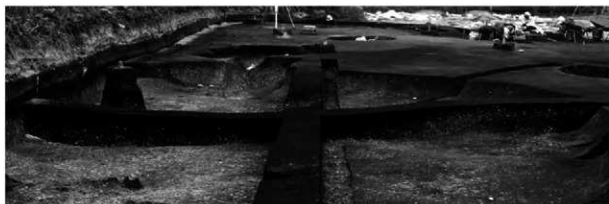
LH-15 東西方向土層断面 (南東から)



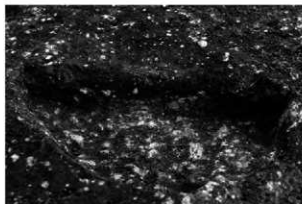
LH-15 南北方向土層断面 (南西から)



LH-15 完掘状況 (北西から)



LH-16 南北方向土層断面（西から）



LH-16 HP-2（南東から）



LH-16 南側部分完掘状況（東から）



LH-16 北側部分南北方向土層断面（西から）

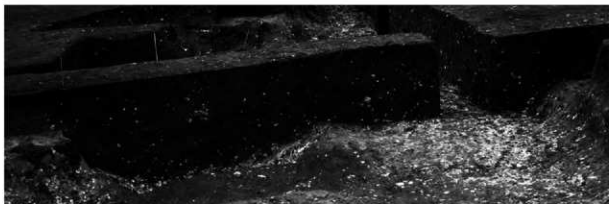


LH-16 北側部分完掘状況（南西から）

図版16



LH-17 東西方向土層断面（南から）



LH-17 南北方向土層断面（東から）



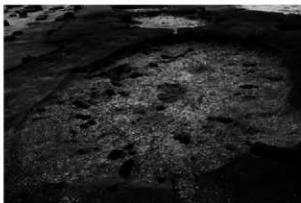
LH-17 完掘状況（西から）



LH-18 東西方向土層断面（南から）



LH-18 南北方向土層断面（西から）



LH-18 調査完了状況（北東から）



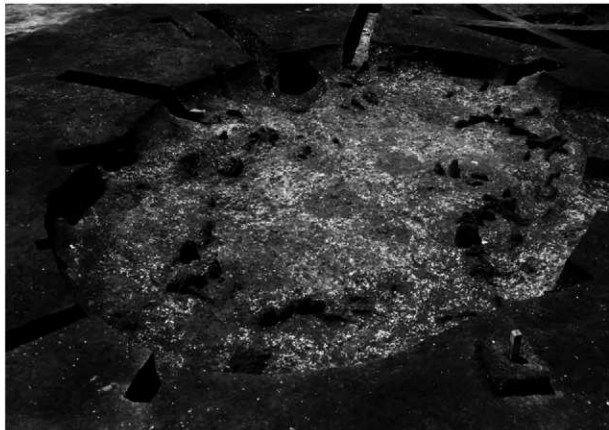
LH-18 完掘状況（南東から）



LH-19 東西方向土層断面（南から）



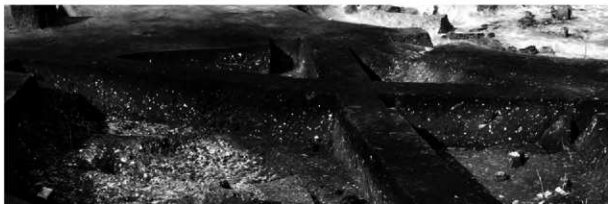
LH-19 東西方向土層断面（西から）



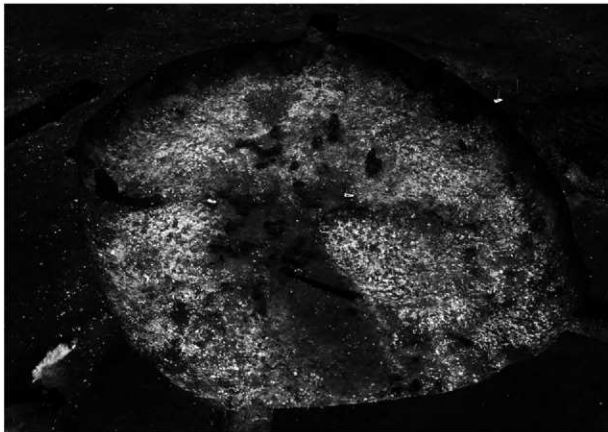
LH-19 完掘状況（北東から）



LH-20 東西方向土層断面（南西から）



LH-20 南北方向土層断面（西から）



LH-20 完掘状況（北から）

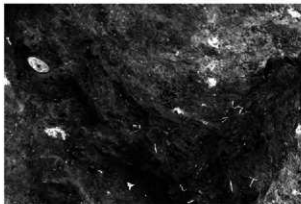




LH-21 東西方向土層断面 (南東から)



LH-21 南北方向土層断面 (南西から)



LH-21 玉・炭化材確認状況 (北から)



LH-21 土器出土状況 (東から)



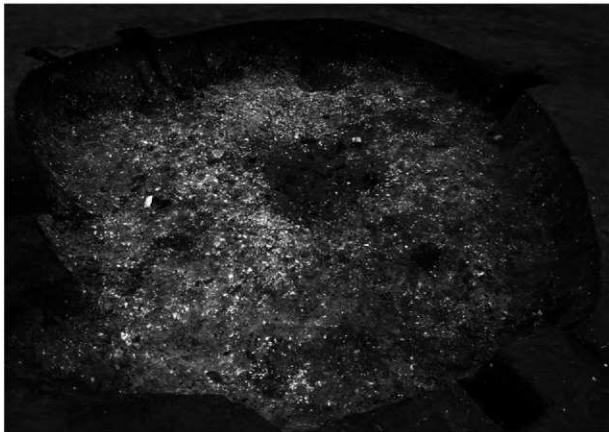
LH-21 完掘状況 (北から)



LH-22 東西方向土層断面（南から）



LH-22 南北方向土層断面（西から）



LH-22 完掘状況（北西から）



LH-23 東西方向土層断面（北西から）



LH-23 南側部分完掘状況（南西から）



LH-23 北側部分南北方向土層断面（北西から）



LH-23 北側部分完掘状況（南から）



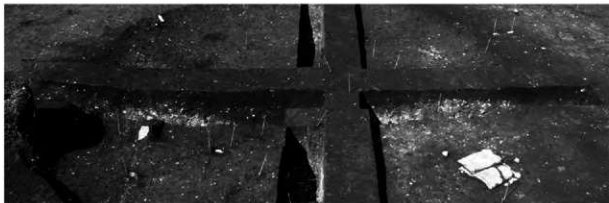
LH-24 東西方向土層断面（南から）



LH-24 南北方向土層断面（東から）



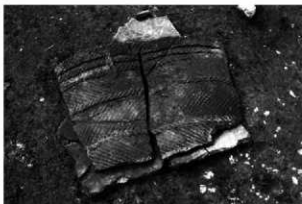
LH-24 完掘状況（西から）



LH-25A 土層断面 (南東から)



LH-25A 確認状況 (南東から)



LH-25A 土器出土状況 (北東から)



LH-25A 完掘状況 (南東から)



LH-25B 東西方向土層断面（南から）



LH-25B 南北方向土層断面（西から）



LH-25B 完掘状況（南から）



LH-26 土層断面 (東から)



LH-27 南北方向土層断面 (西から)



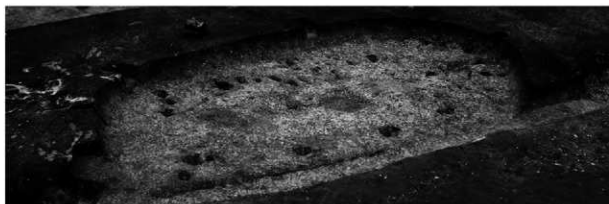
LH-26 完掘状況 (西から)



LH-27 確認状況 土層断面 (南から)



LH-27 東西方向土層断面 (南から)



LH-27 完掘状況（南から）



LH-28 東西方向土層断面（南から）

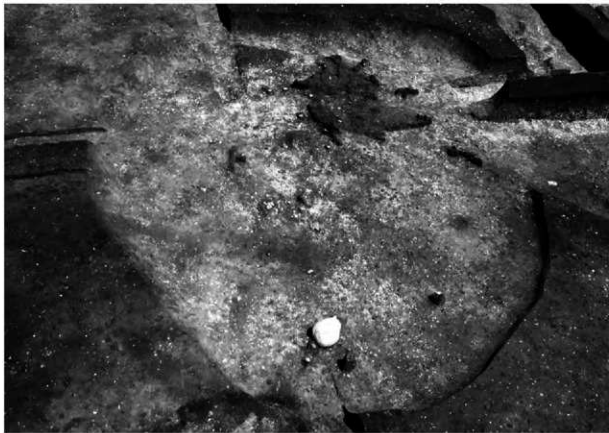


LH-28 完掘状況（西から）





LH-29 南北方向土層断面（西から）



LH-29 完掘状況（西から）



LH-30 東西方向土層断面（南から）



LH-30 南北方向土層断面（西から）



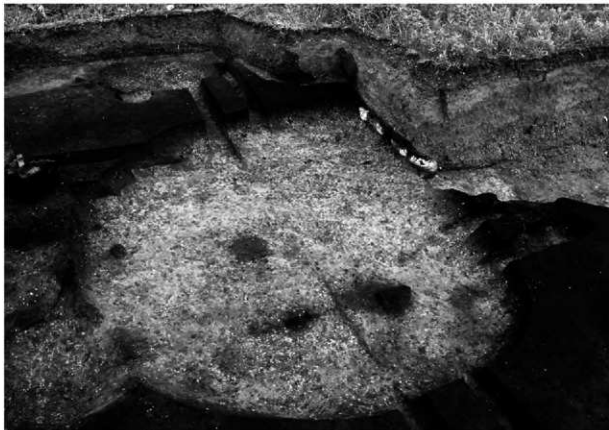
LH-30 完掘状況（南東から）



LH-31 東西方向土層断面（南から）



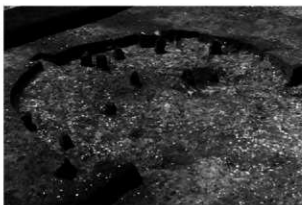
LH-31 南北方向土層断面（西から）



LH-31 完掘状況（南から）



LH-32 土層断面 (南から)



LH-32 完掘状況 (東から)



LH-33 土層断面 (西から)



LH-34 土層断面 (南西から)



LH-33 完掘状況 (南西から)



LH-35 土層断面 (南西から)



LH-36 土層断面 (南から)



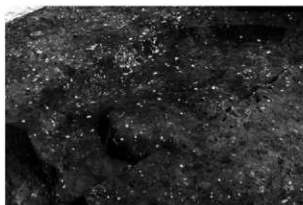
LH-35 完掘状況 (南西から)



LH-37 土層断面 (南から)



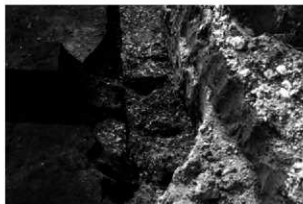
LH-37 完掘状況 (北東から)



LH-38 完掘状況 (西から)



LH-39 完掘状況 (南東から)



H-7 完掘状況 (東から)



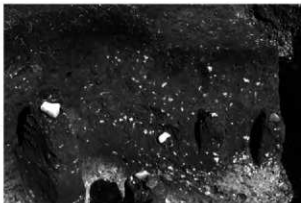
H-10 完掘状況 (西から)



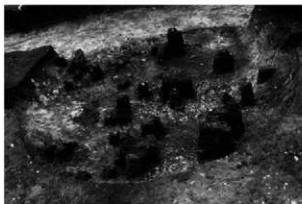
H-10 土層断面 (南西から)



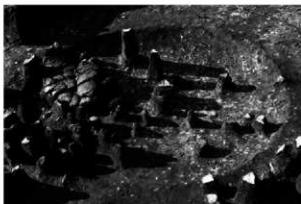
LP-1 土層断面 (西から)



LP-2 土層断面 (南から)



LP-3 完掘状況 (東から)



LP-4 遺物出土状況 (北東から)



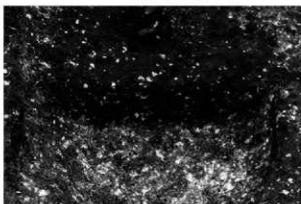
LP-5 完掘状況 (西から)



LP-6 土層断面 (東から)



LP-7 (左)・LP-8 (右) 完掘状況 (南東から)



LP-9 土層断面 (西から)



LP-10 完掘状況 (南東から)



LP-11 土層断面 (東から)



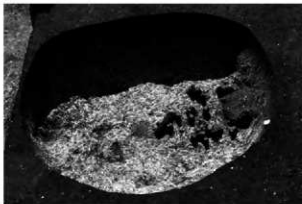
LP-12 土層断面 (南から)



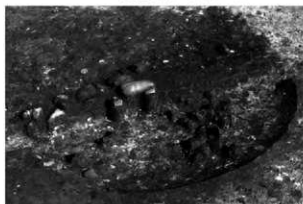
LP-13(右)・LP-14(左) 完掘状況 (北東から)



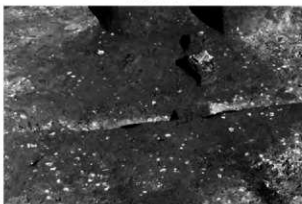
LP-15 完掘状況 (北西から)



LP-16 完掘状況 (北から)

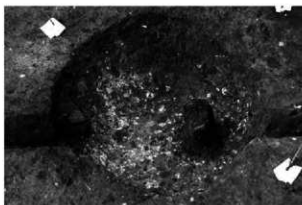


LP-17 土層断面 (南から)



LP-18 土層断面 (南西から)

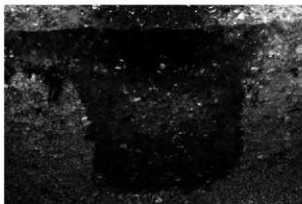




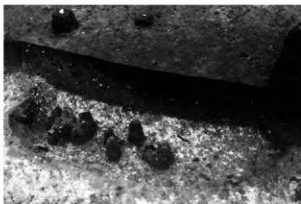
LP-19 完掘状況 (南から)



LP-20 土層断面 (東から)



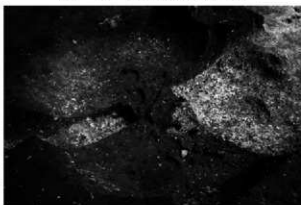
LP-21 土層断面 (東から)



LP-22 土層断面 (北から)



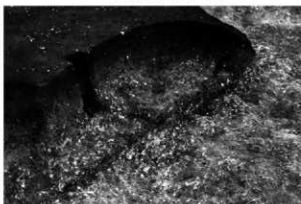
LP-23 完掘状況 (南東から)



LP-24 磨製石斧集中 (西から)



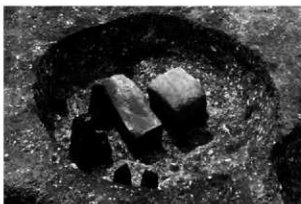
LP-25 土層断面 (西から)



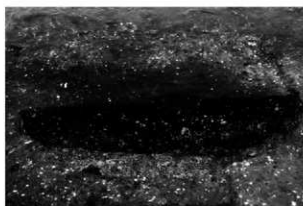
LP-25(左)・LP-40(右) 完掘状況 (西から)



LP-26(左)・LP-27(右) 完掘状況(南東から)



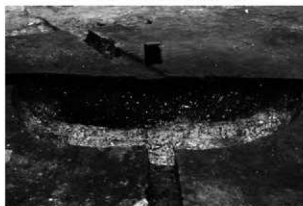
LP-28 磁集中(北東から)



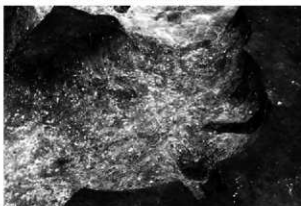
LP-29 土層断面(南から)



LP-30 焼土確認状況(南東から)



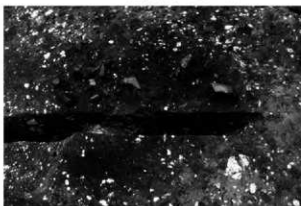
LP-31 土層断面(西から)



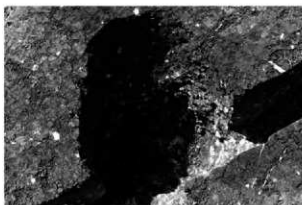
LP-32 完掘状況(北から)



LP-33 遺物出土状況(東から)



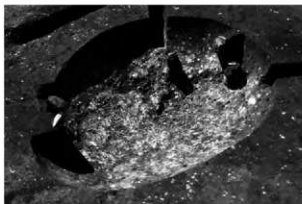
LP-34 確認状況(北東から)



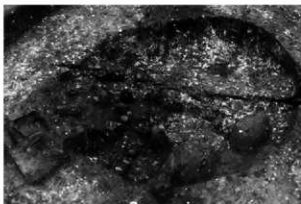
LP-35 完掘状況（北東から）



LP-36 土層断面（南東から）



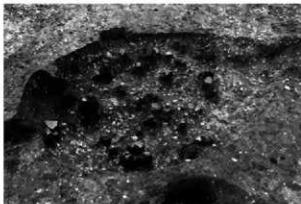
LP-37 完掘状況（北東から）



LP-38 遺物出土状況（東から）



LP-39 完掘状況（西から）



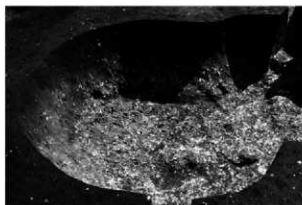
LP-40 遺物出土状況（北東から）



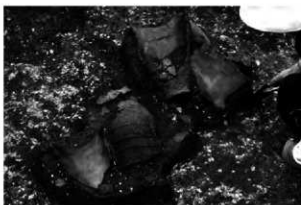
LP-41 完掘状況（南から）



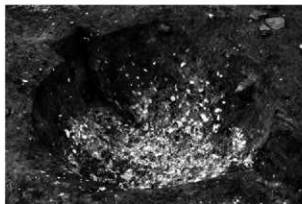
LP-42 土層断面（南から）



LP-43 完掘状況（北西から）



LP-44 土器出土状況（北から）



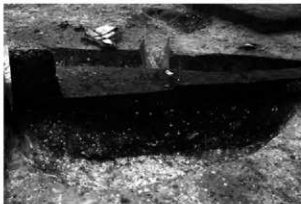
LP-45 完掘状況・LF-126（南東から）



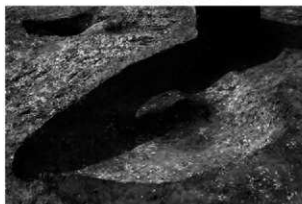
LP-46(左)・LP-47(右) 完掘状況（東から）



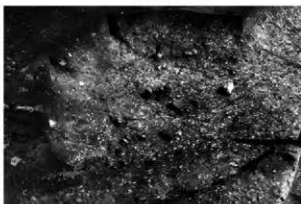
LP-49 土層断面（東から）



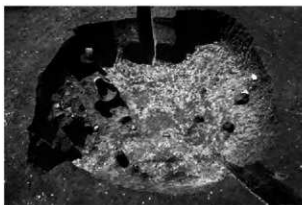
LP-50 土層断面（北から）



LP-51 完掘状況（北東から）



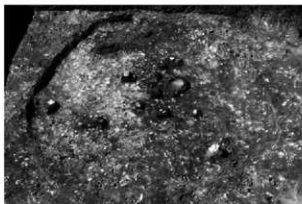
LP-52 完掘状況（南西から）



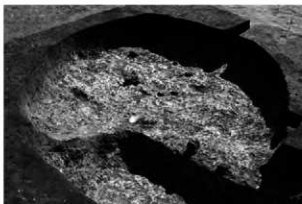
LP-53 遺物出土状況（北から）



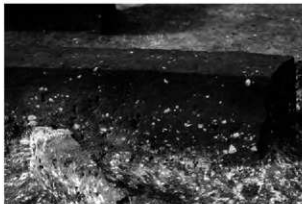
LP-54 土層断面（西から）



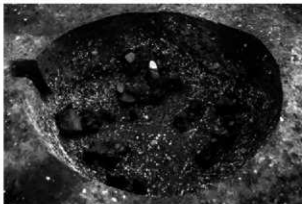
LP-55 遺物出土状況（東から）



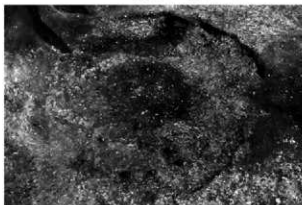
LP-56 完掘状況（北西から）



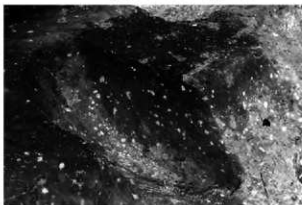
LP-57 土層断面（南西から）



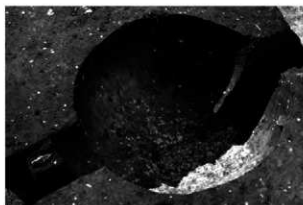
LP-58 遺物出土状況（南から）



LP-59 完掘状況（西から）



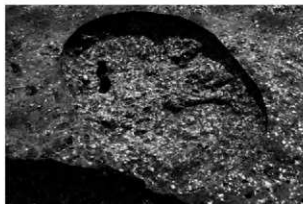
LP-60 土層断面（南西から）



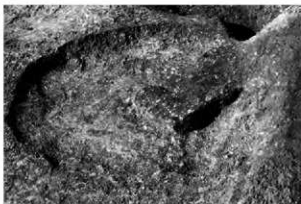
LP-61 完掘状況 (南から)



LP-62 土層断面 (南から)



LP-63 完掘状況 (北西から)



LP-64 完掘状況 (南西から)



LP-65 完掘状況 (北西から)



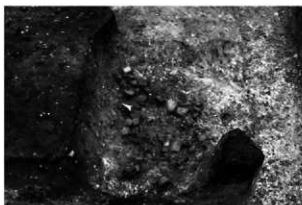
LP-66 土層断面 (西から)



LP-67 完掘状況 (南西から)



LP-68 完掘状況 (東から)



LP-69 遺物出土状況（西から）



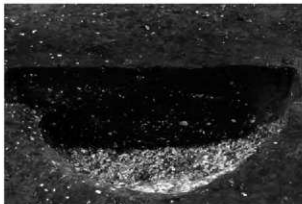
LP-70 土層断面（南東から）



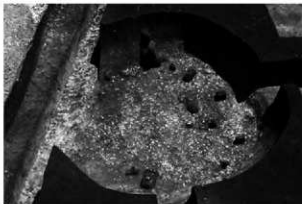
LP-71 完掘状況（南から）



LP-72 土層断面（南西から）



LP-73 土層断面（南西から）



LP-74 完掘状況（西から）



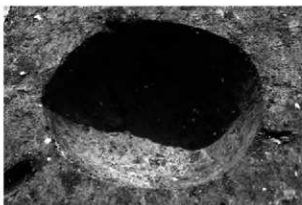
LP-75 完掘状況（南から）



LP-76 完掘状況（南から）



LP-77 土層断面 (南東から)



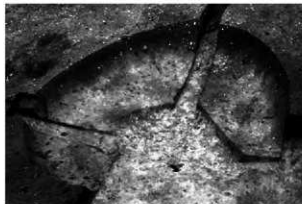
LP-78 完掘状況 (東から)



LP-79 完掘状況 (南東から)



LP-80 土層断面 (南東から)



LP-81 完掘状況 (東から)



LP-82 土層断面 (南から)

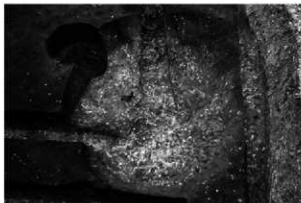


LP-83 完掘状況 (東から)



LP-84 完掘状況 (南東から)





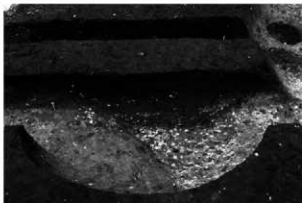
LP-85 完掘状況 (東から)



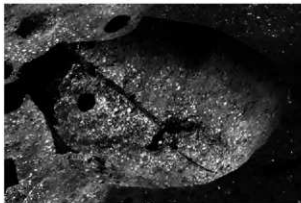
LP-86(右)・LP-87(左) 土層断面 (西から)



LP-88 完掘状況 (北から)



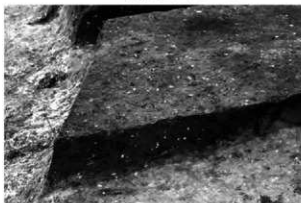
LP-89 土層断面 (南から)



LP-90 完掘状況 (東から)



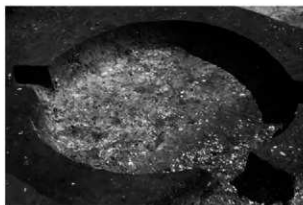
LP-91 土層断面 (北西から)



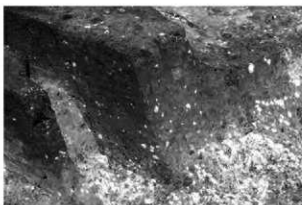
LP-92 土層断面 (東から)



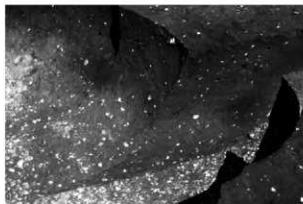
LP-93 土層断面 (西から)



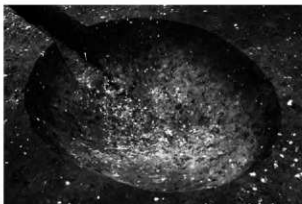
LP-94 完掘状況（南東から）



LP-95 土層断面（南西から）



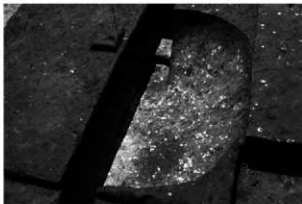
LP-96 土層断面（南西から）



LP-97 完掘状況（南東から）



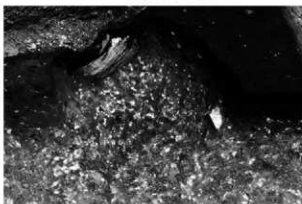
LP-98 土層断面（西から）



LP-99 完掘状況（北から）



LP-100 完掘状況（南東から）



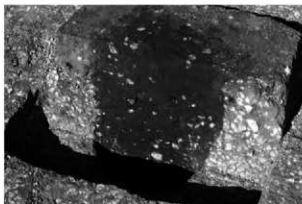
LP-101 完掘状況（西から）



LP-102 土層断面 (東から)



LP-103 土層断面 (西から)



LSP-2 土層断面 (南から)



LFC-3 確認状況 (西から)



LS-3 確認状況 (南から)



sp-256 土層断面 (南から)



sp-311 土層断面 (南から)



平成19年度 住居跡確認状況（南東から）



平成19年度 平成15年度調査区住居跡調査完了状況（南から）



平成19年度 平成15・19年度調査区住居跡調査完了状況（南東から）



平成21年度 住居跡調査完了状況（南東から）



平成18年度 焼土列（北から）



平成19年度 焼土列（南東から）



平成19年度 焼土列（南から）



平成19年度 小柱穴列（東から）



平成21年度 小柱穴列（南東から）



SB-1 遺物出土状況（南西から）



SB-1 遺物出土状況（東から）



SB-2 遺物出土状況（南から）



平成19年度 SB-3 調査状況（南東から）



平成19年度 SB-3 V層・VI層の状況（南東から）



平成19年度 SB-3 VII層の状況（南東から）





平成21年度 SB-3 VI層の状況(東から)



平成21年度 SB-3 VII層の状況(東から)



SB-1 影器出土状況(南から)



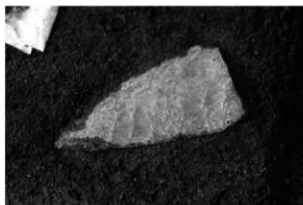
SB-2 細石刃核出土状況1(南から)



SB-2 細石刃核出土状況2(南から)



SB-2 影器出土状況(南から)



SB-2 尖頭器出土状況 (東から)



SB-2 搔器出土状況 (南東から)



SB-2 石核出土状況 (北から)



SB-3 細石刃核出土状況 1 (西から)



SB-3 細石刃核出土状況 2 (北から)



SB-3 搔器出土状況 (南から)



SB-3 斧形石器出土状況 (西から)



SB-3 台石・フレイク出土状況 (南東から)



LH-2

1



LH-5

3



LH-5

4



LH-4

2



LH-6

5



LH-10



6 LH-10

7



LH-12



8 LH-12

9



LH-14

10



LH-18

12



LH-19

13



LH-18

11



LH-21

15



LH-21・LP-31

14



LH-23・LP-43

17



LH-25

18



LH-21

16



LH-27・LH-5

19



LH-32

20



H-9

21



LP-4・LP-44

22



LP-17

23



LP-23

24



LP-33

26



LP-25

25



LP-38

27





LP-40

28



LP-44

29



LP-44・LH-25

30



LP-44

31



LP-49

32



LP-50 (LPS-6)

33



LP-52

34



LP-53

35



LP-53

36



LP-59

38



LP-54

37



LP-68

39



LP-86・LH-37・LP-74 40



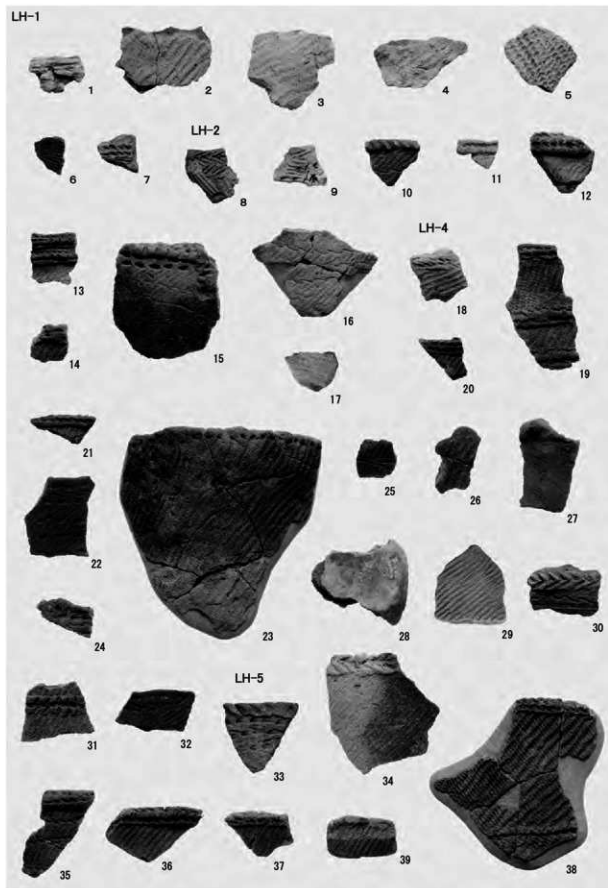
LF-207・LH-9・LH-10 42



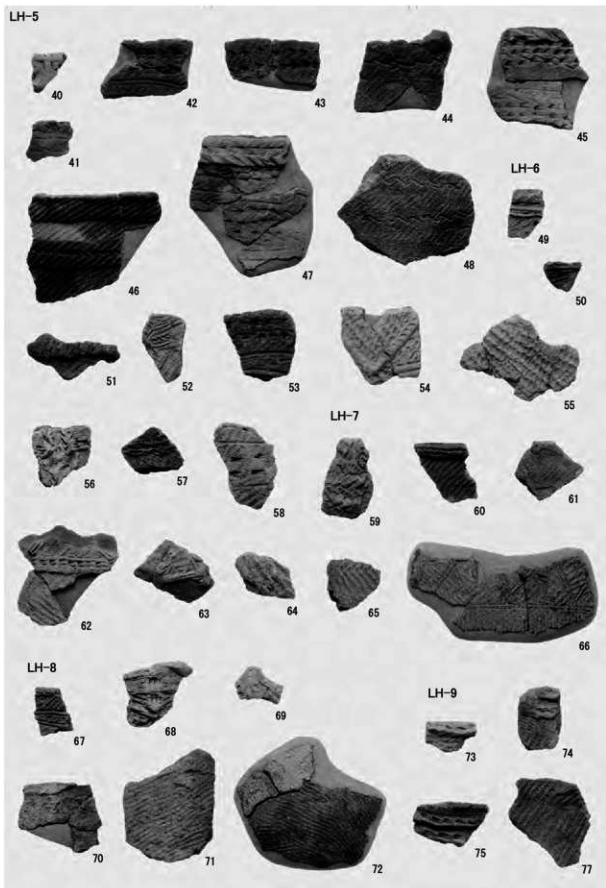
LF-163 41



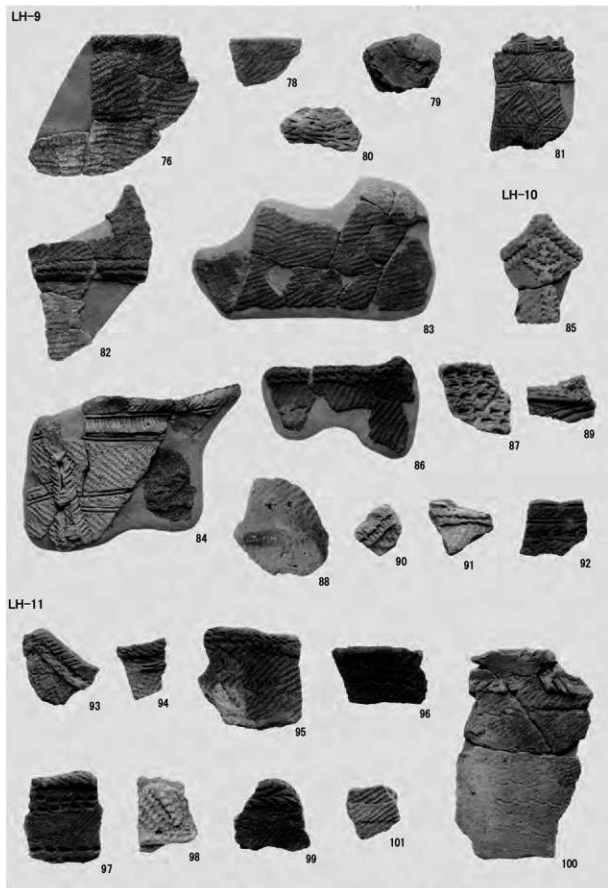
LH-25 44 LH-25 43



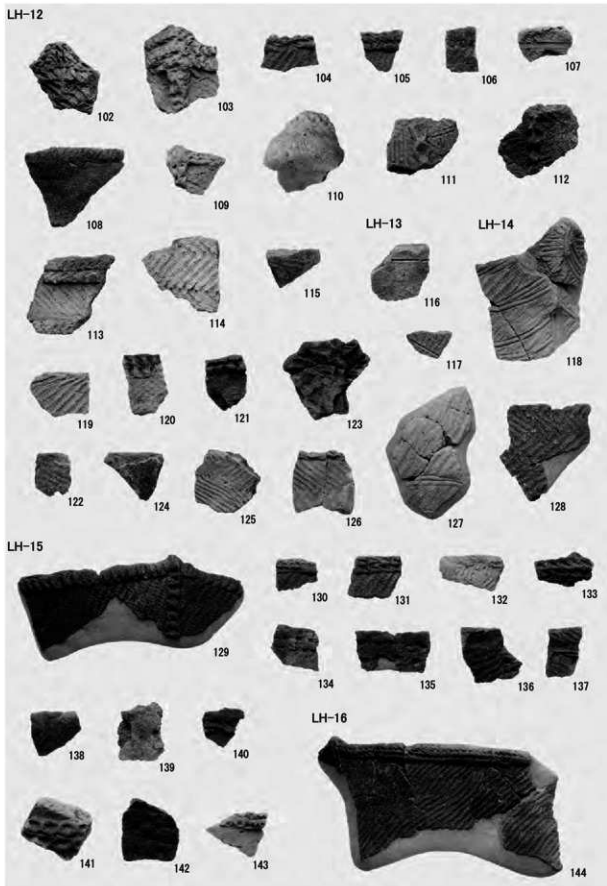
遺構の土器等 (11)



遺構の土器等 (12)



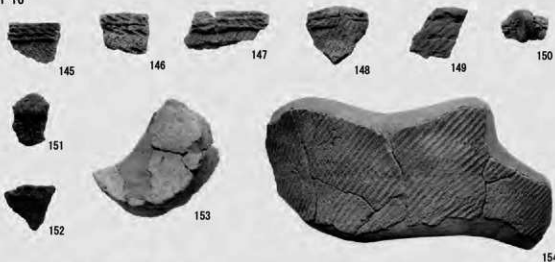
遺構の土器等 (13)



遺構の土器等 (14)



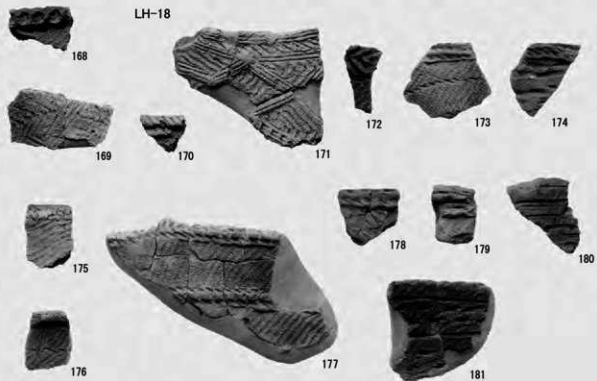
LH-16



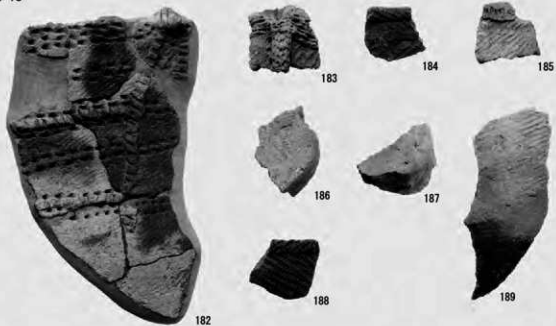
LH-17



LH-18



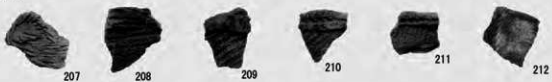
LH-18



LH-19

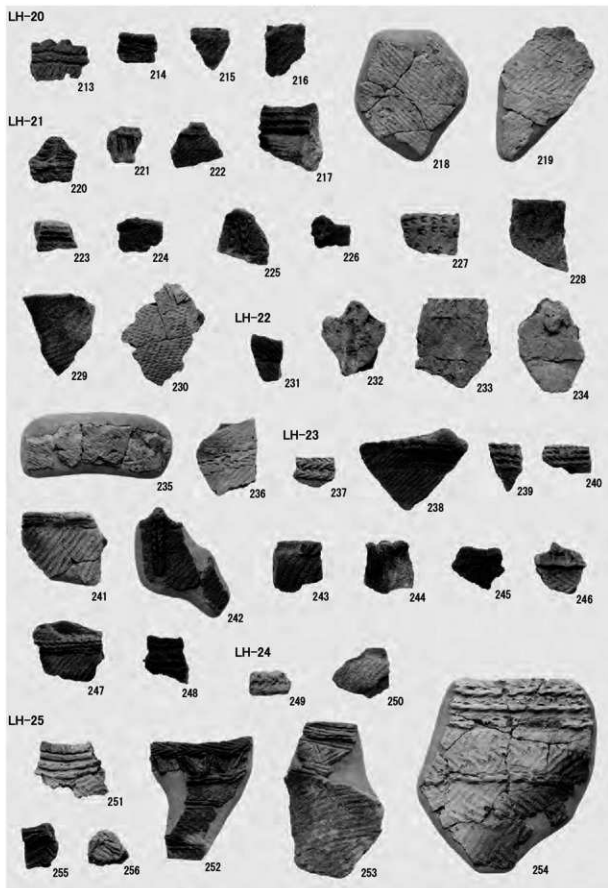


LH-20

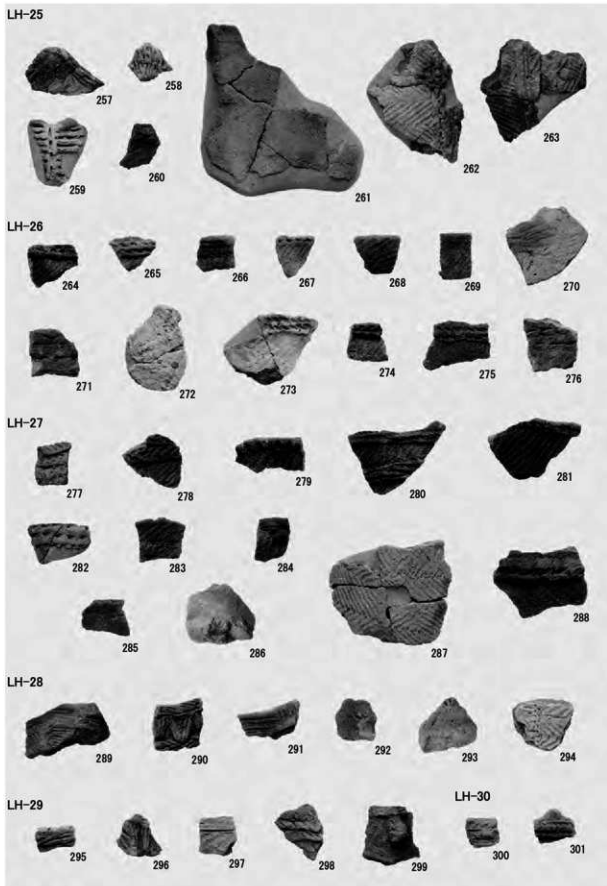


遺構の土器等 (16)

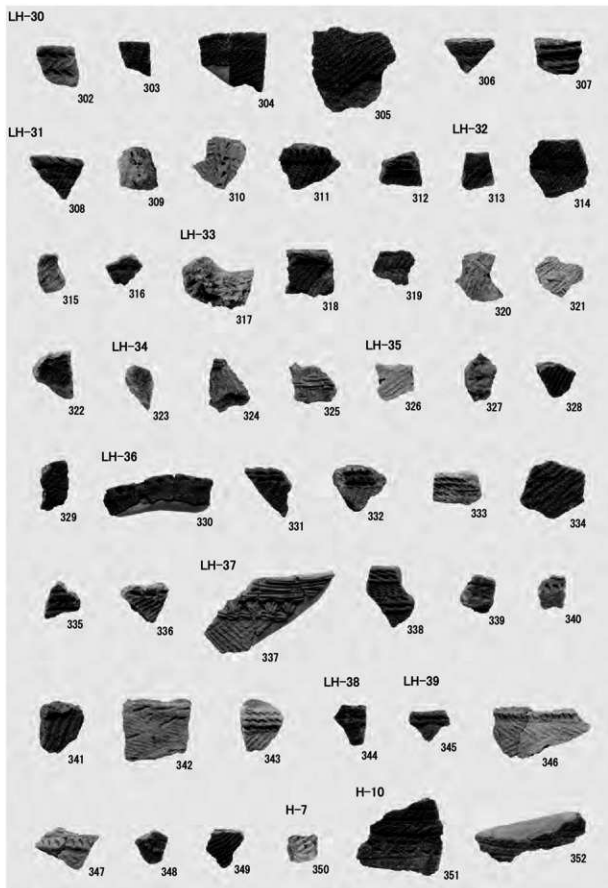
図版70

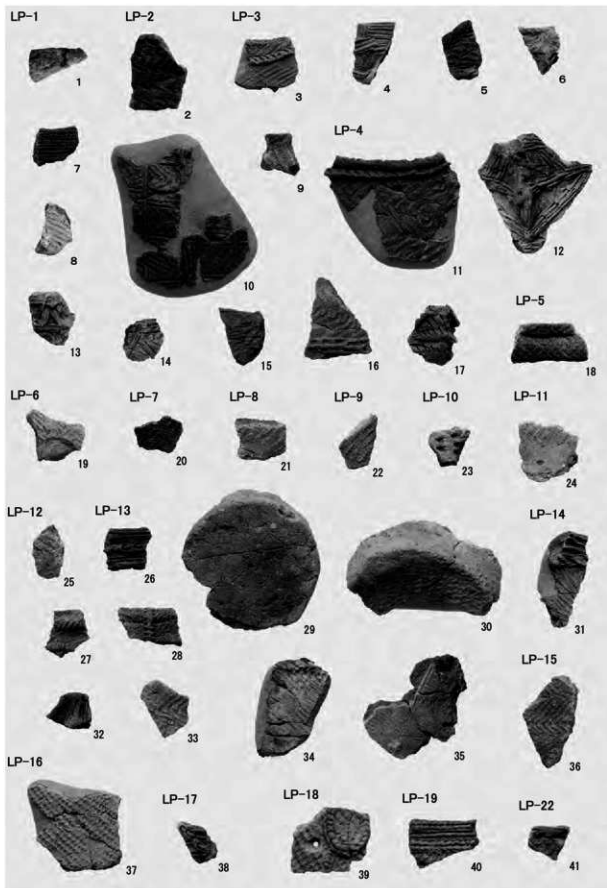


遺構の土器等 (17)

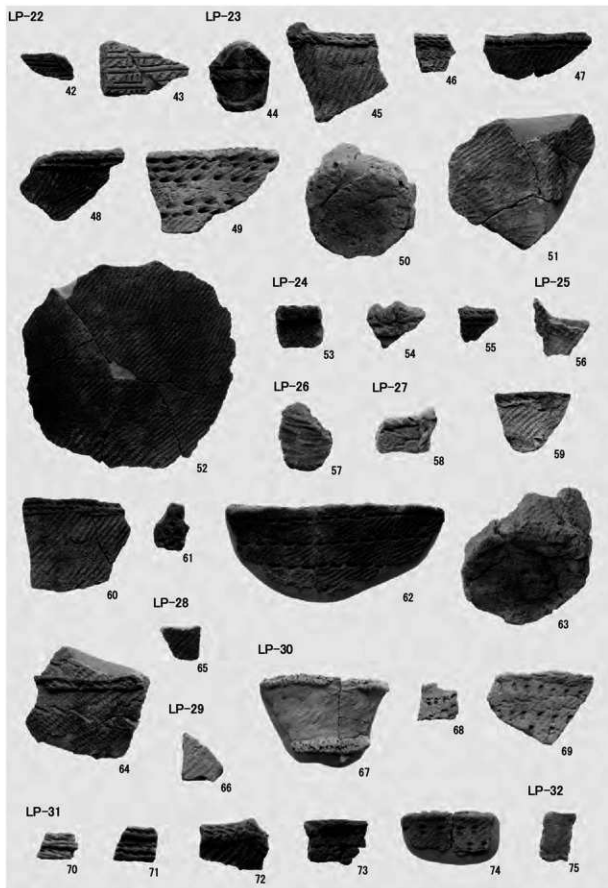


遺構の土器等 (18)

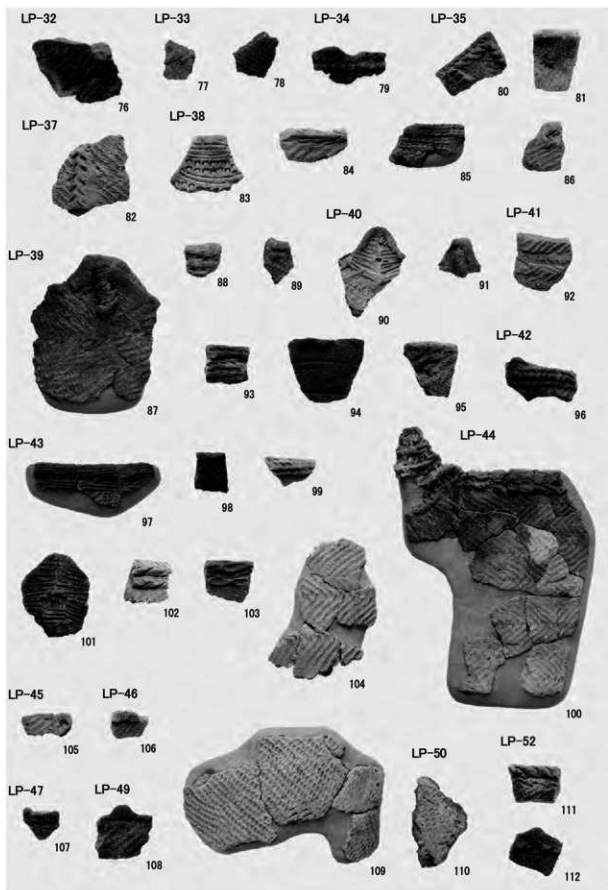




遺構の土器等 (20)

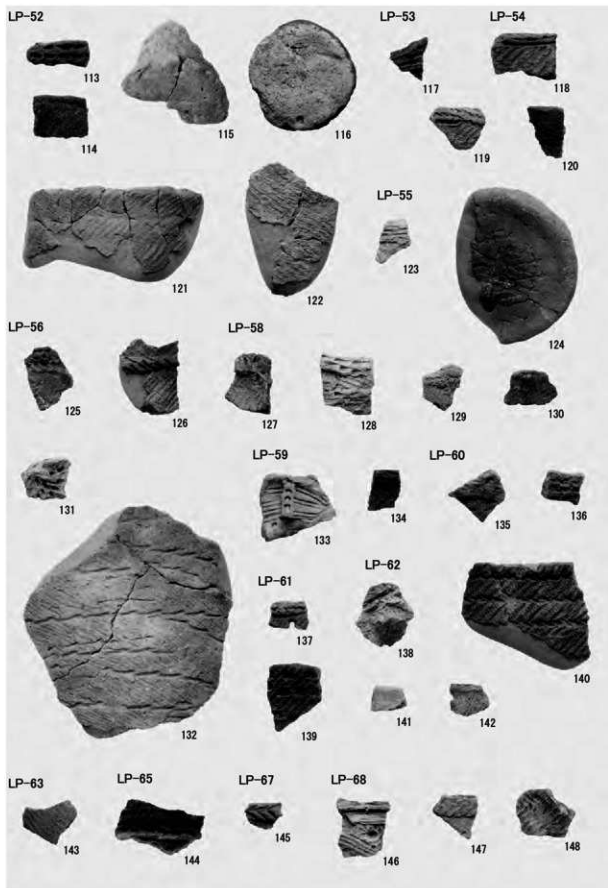


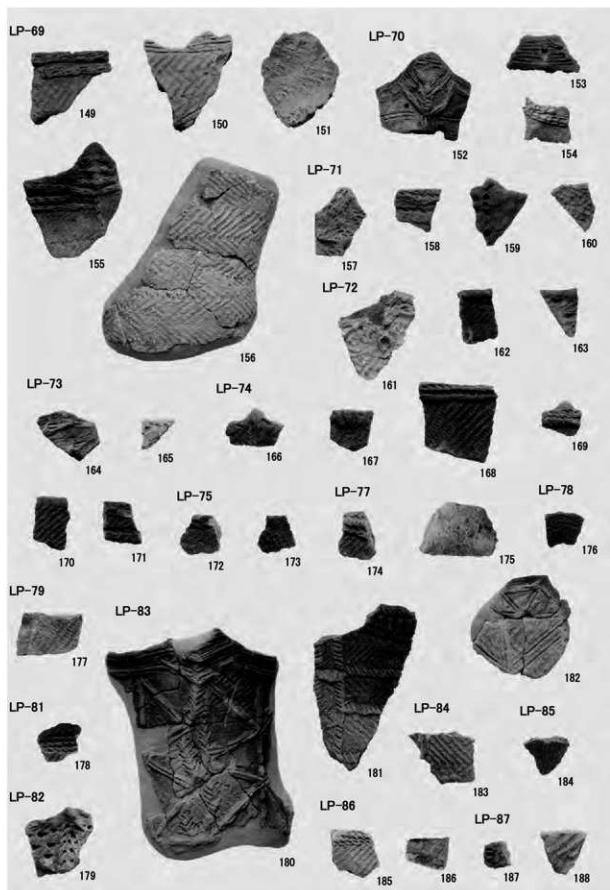
遺構の土器等 (21)



遺構の土器等 (22)

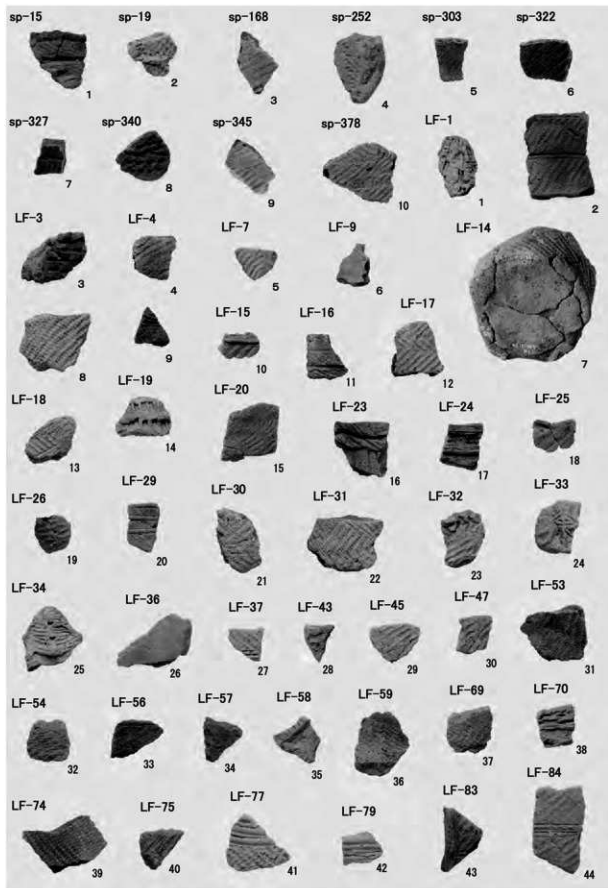




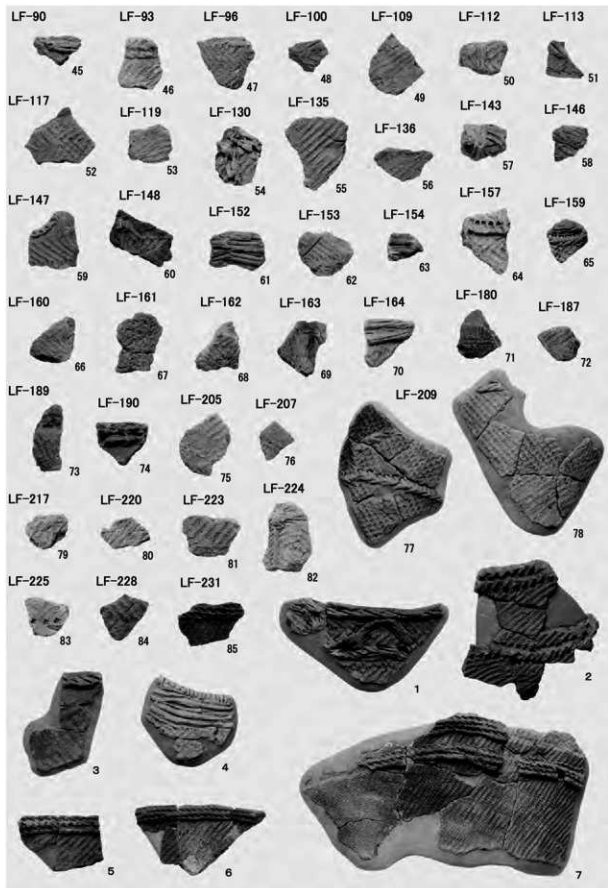


遺構の土器等 (24)

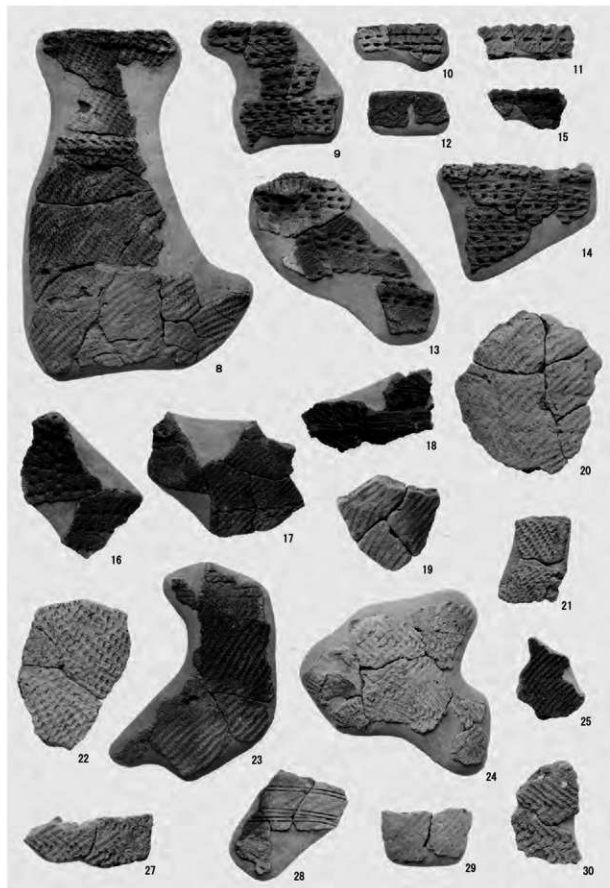




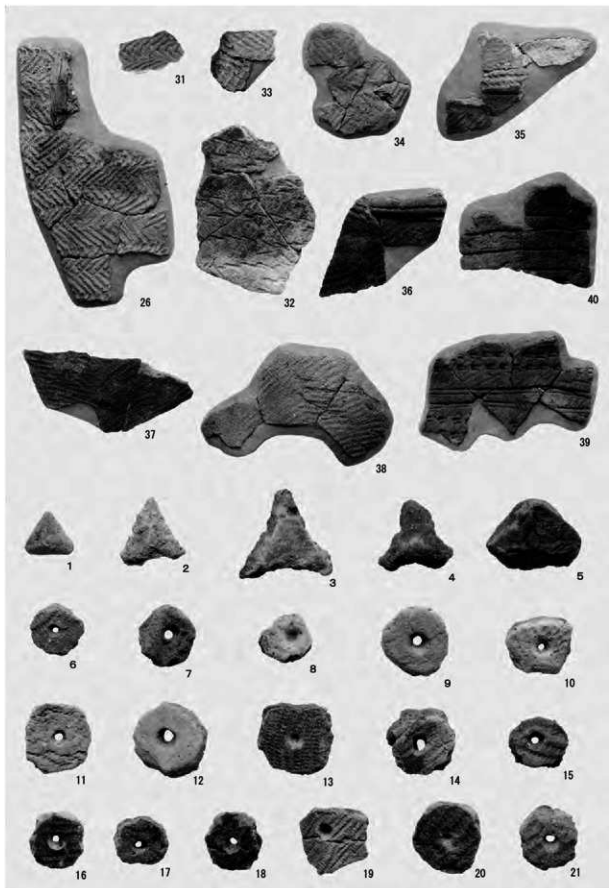
遺構の土器等 (26)



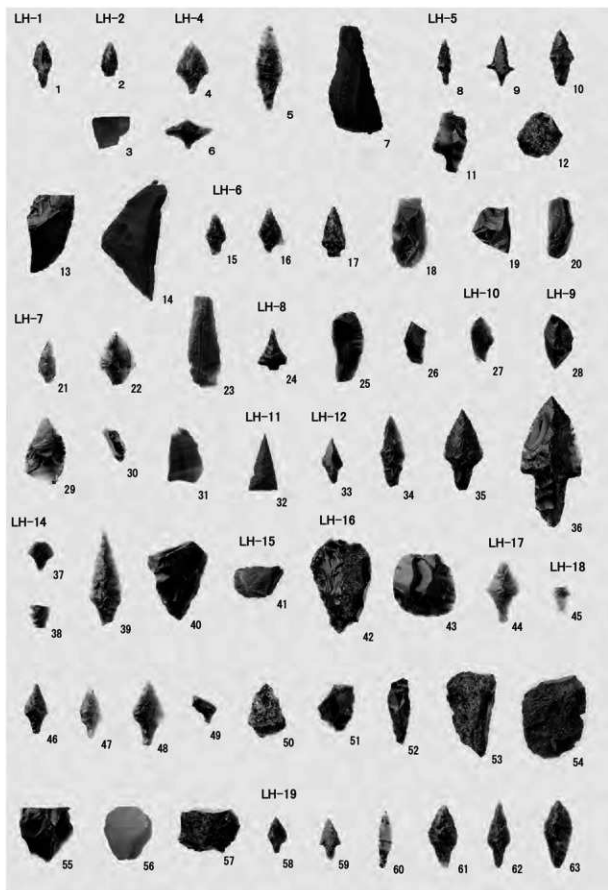
遺構の土器等 (27)



遺構の土器等 (28)

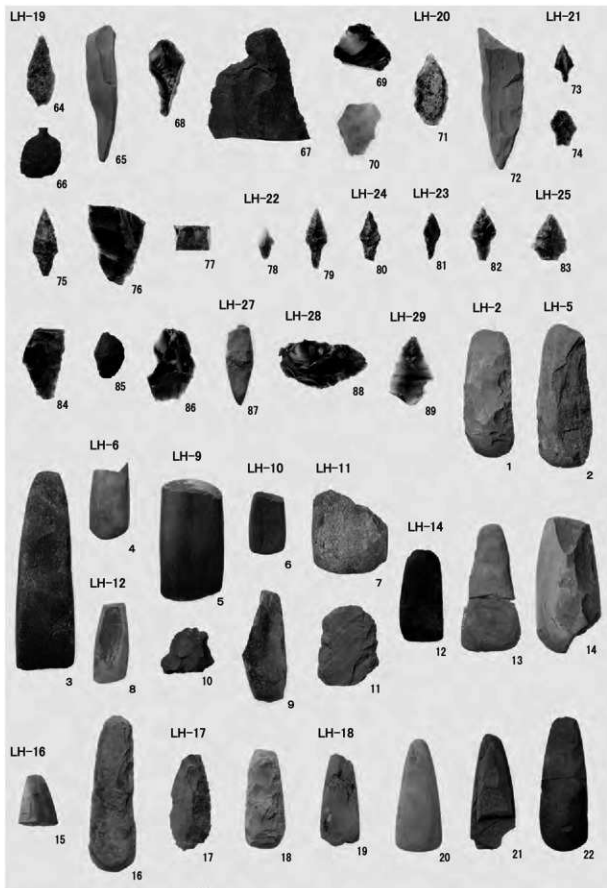


遺構の土器等 (29)

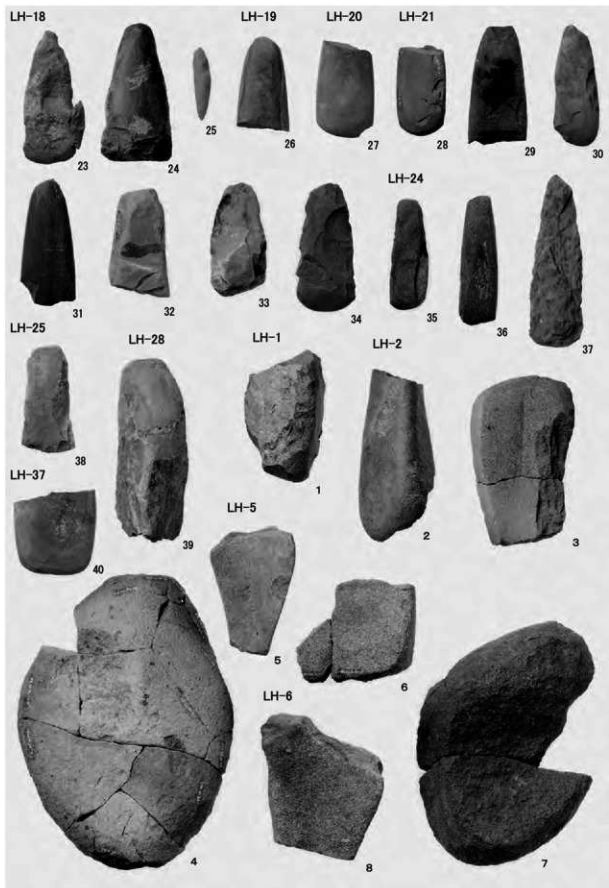


遺構の石器等（1）

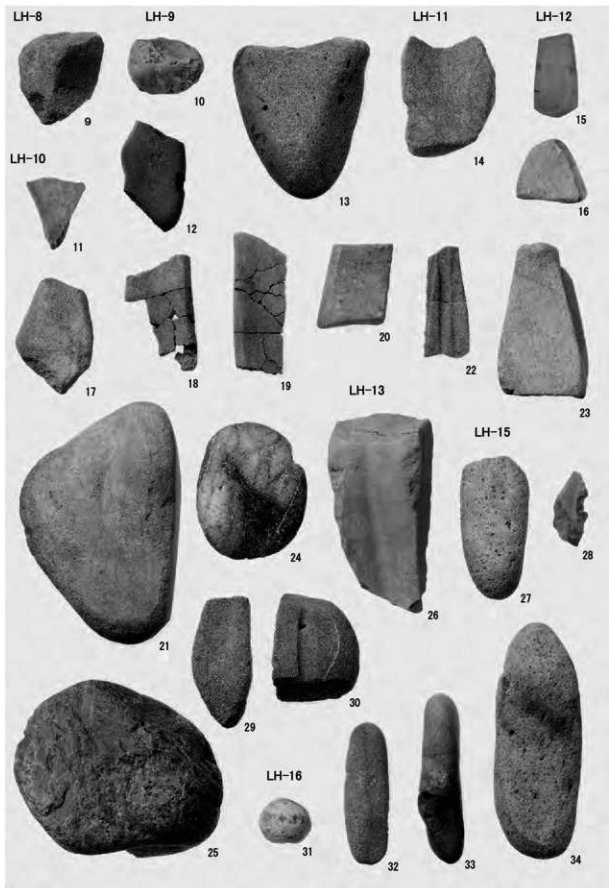




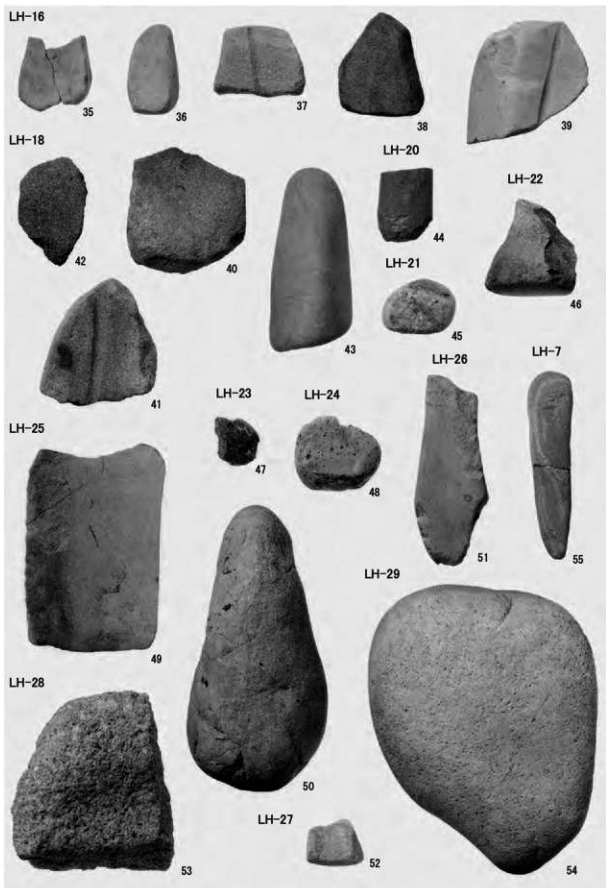
遺構の石器等（2）



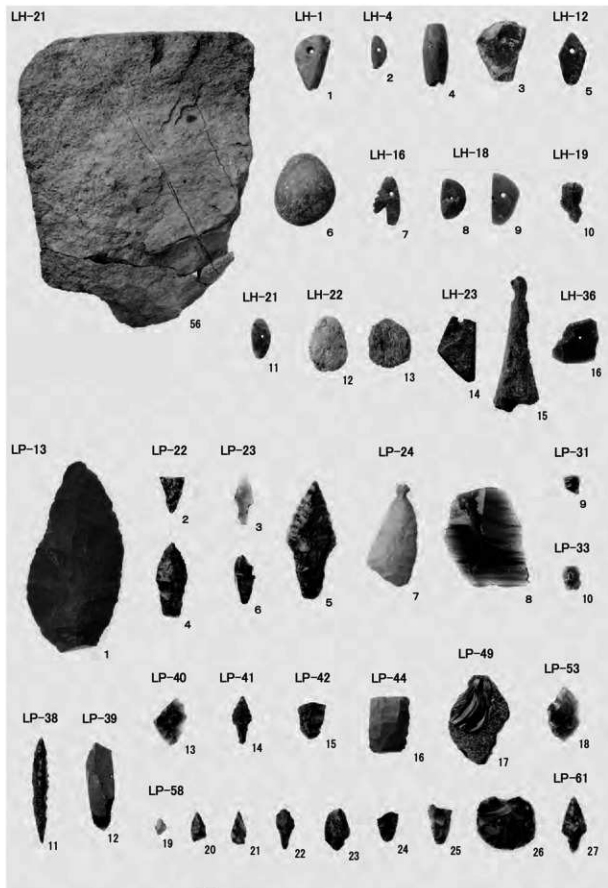
遺構の石器等 (3)



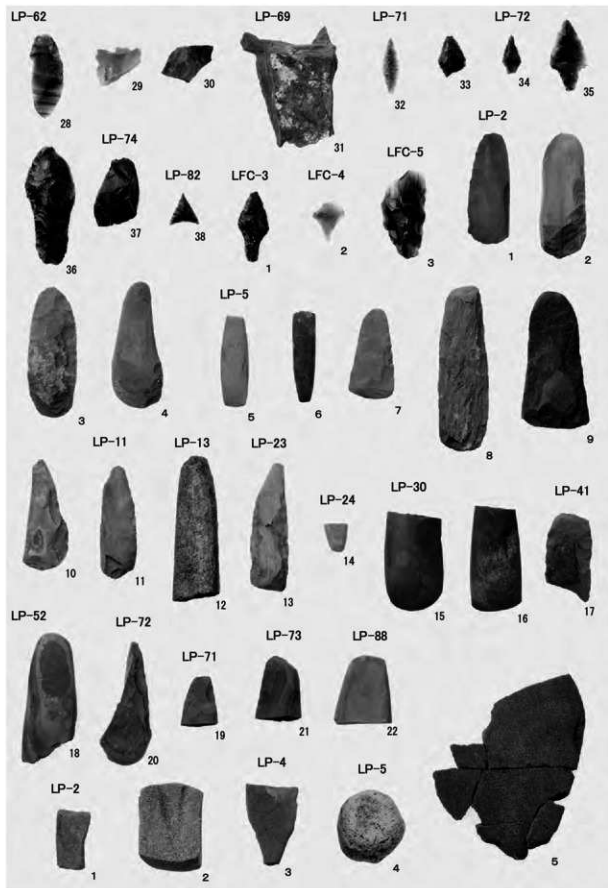
遺構の石器等（4）



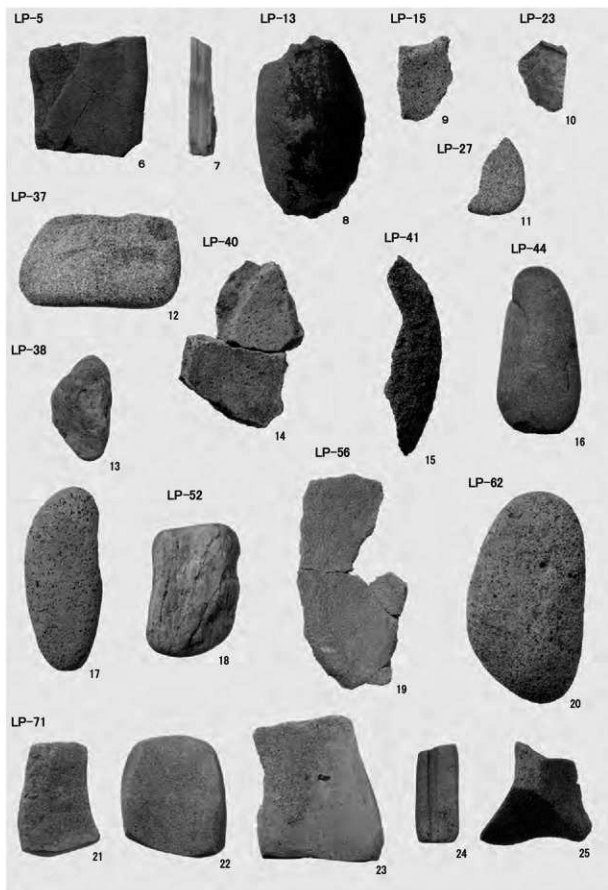
遺構の石器等（5）



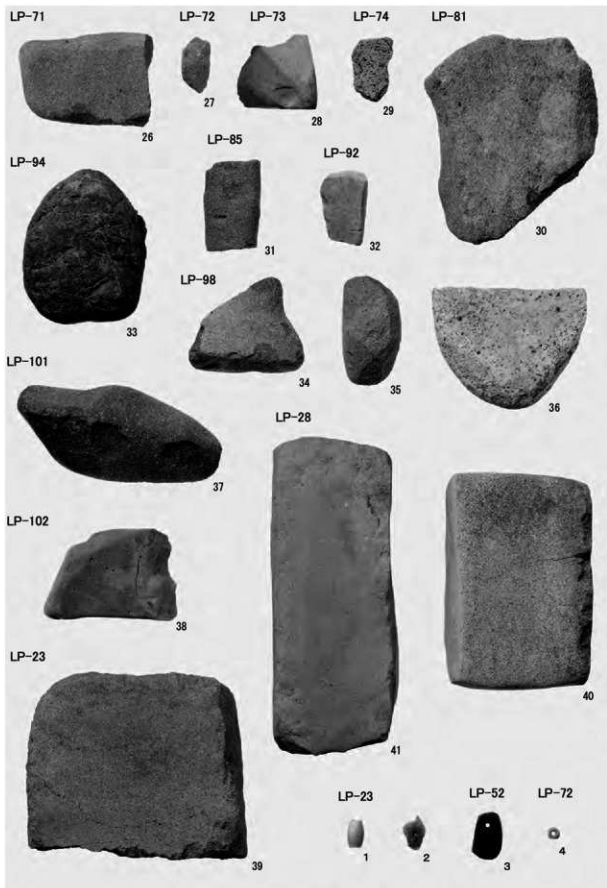
遺構の石器等 (6)



遺構の石器等 (7)



遺構の石器等（8）



遺構の石器等 (9)





1



2



4



3



5



6



7



8



9



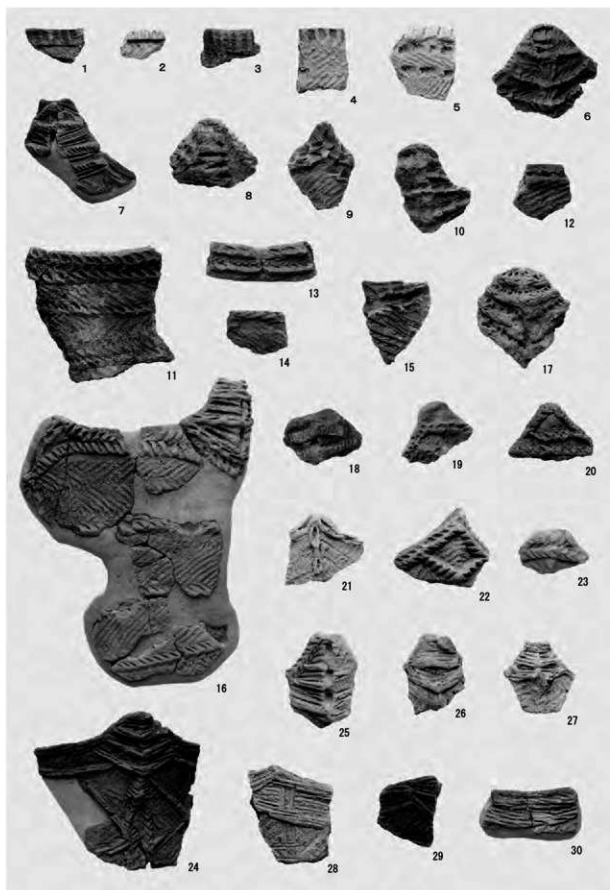
10



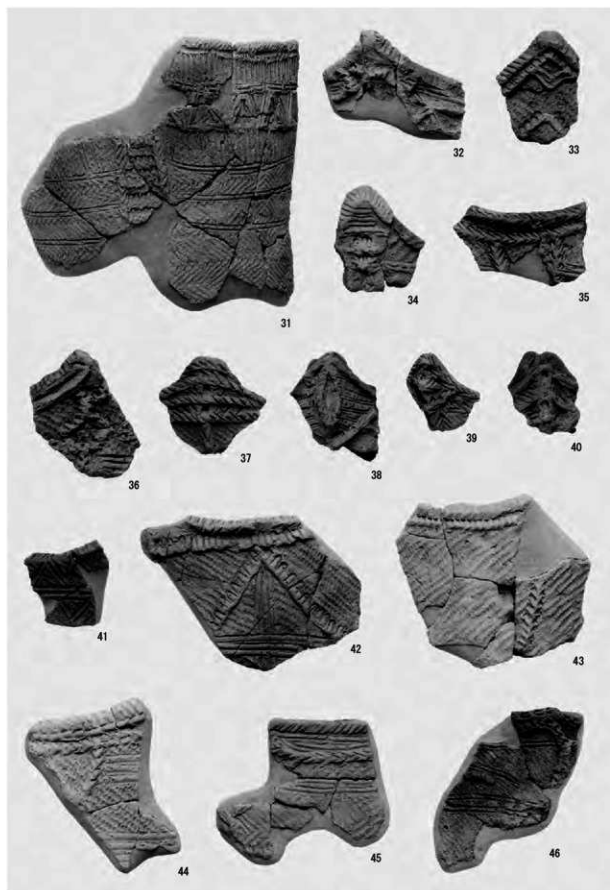
11



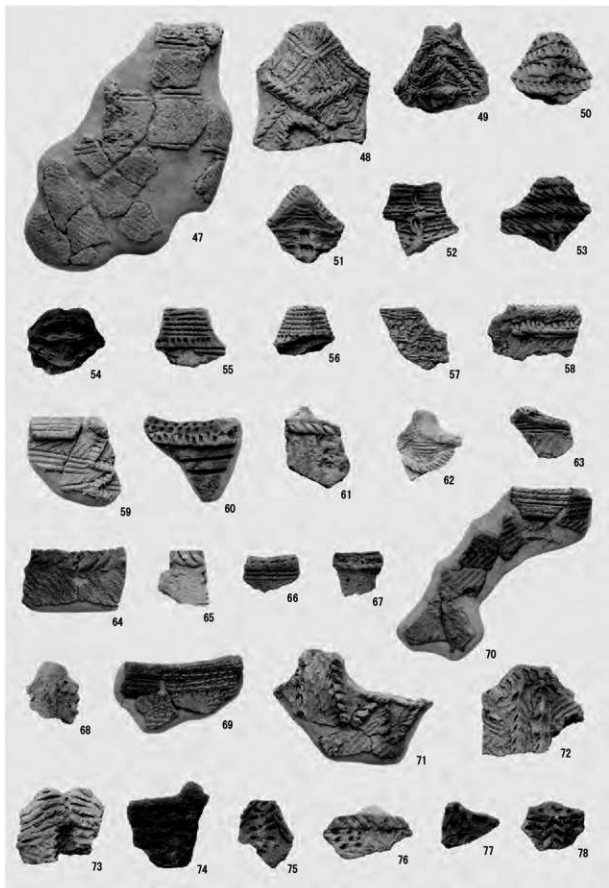
12



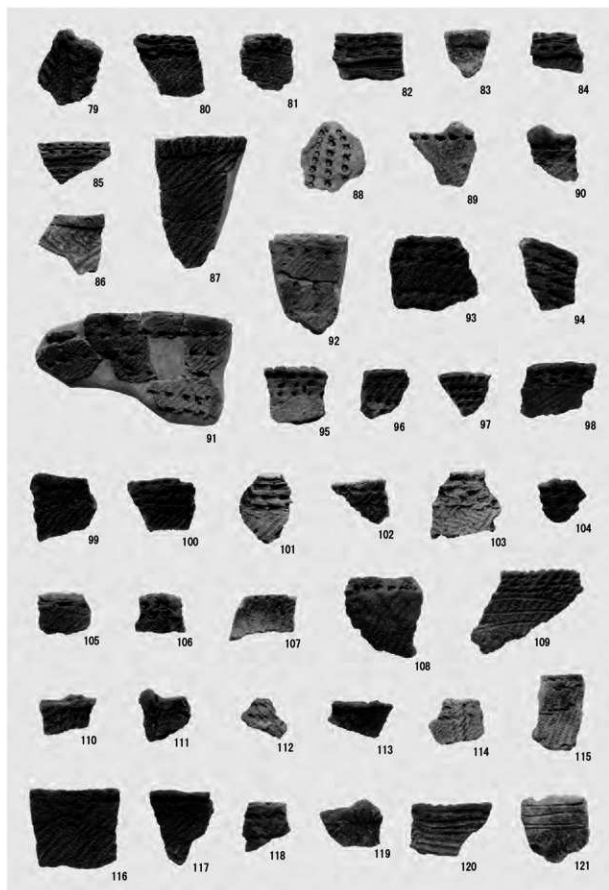
包含層の土器等（3）



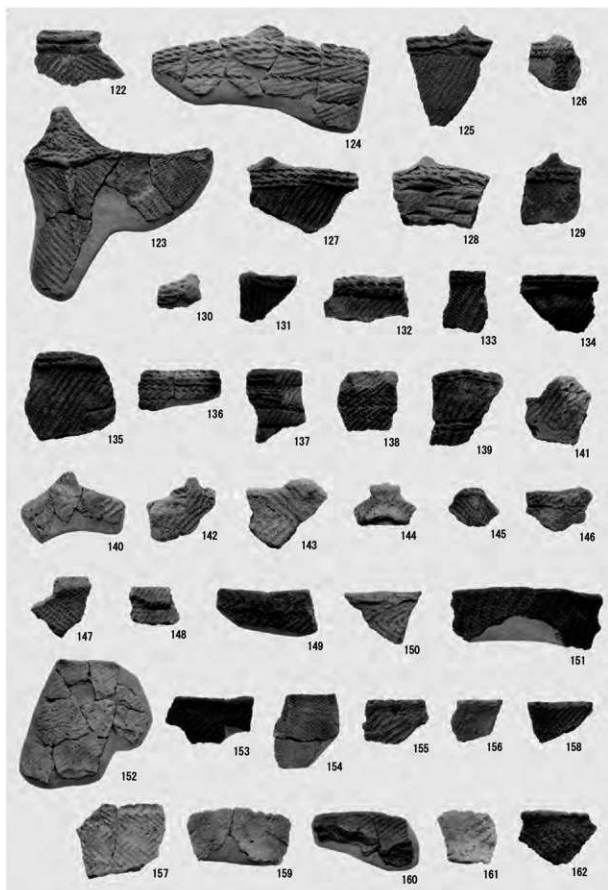
包含層の土器等（4）



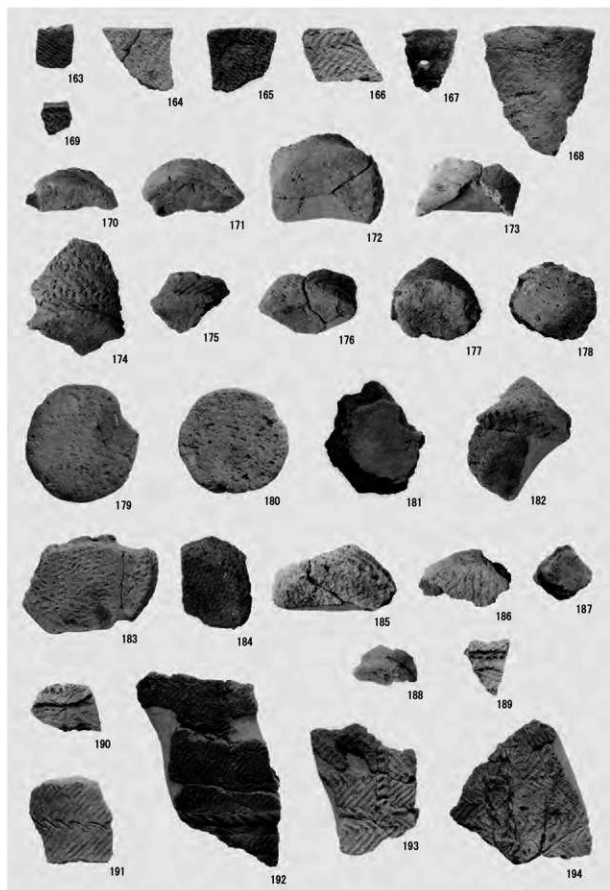
包含層の土器等 (5)



包含層の土器等（6）

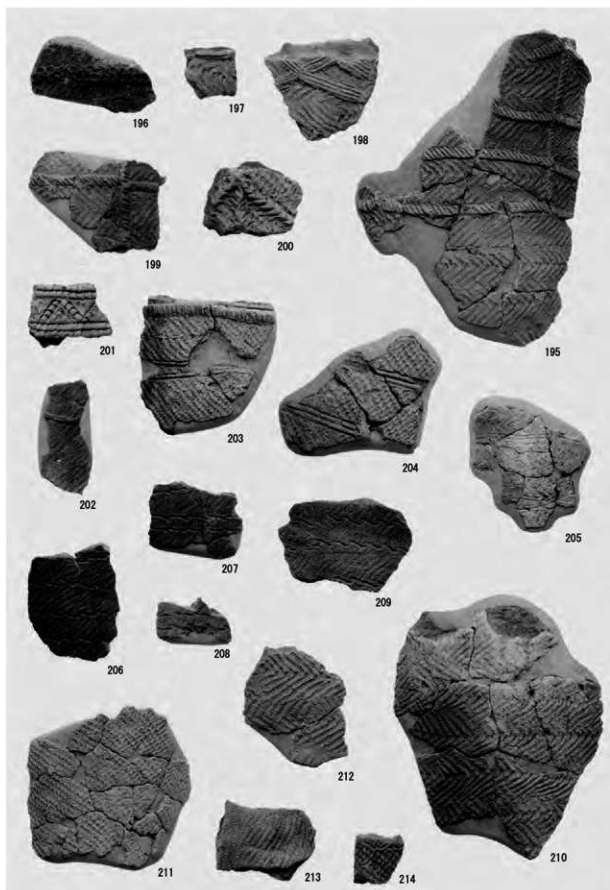


包含層の土器等（7）

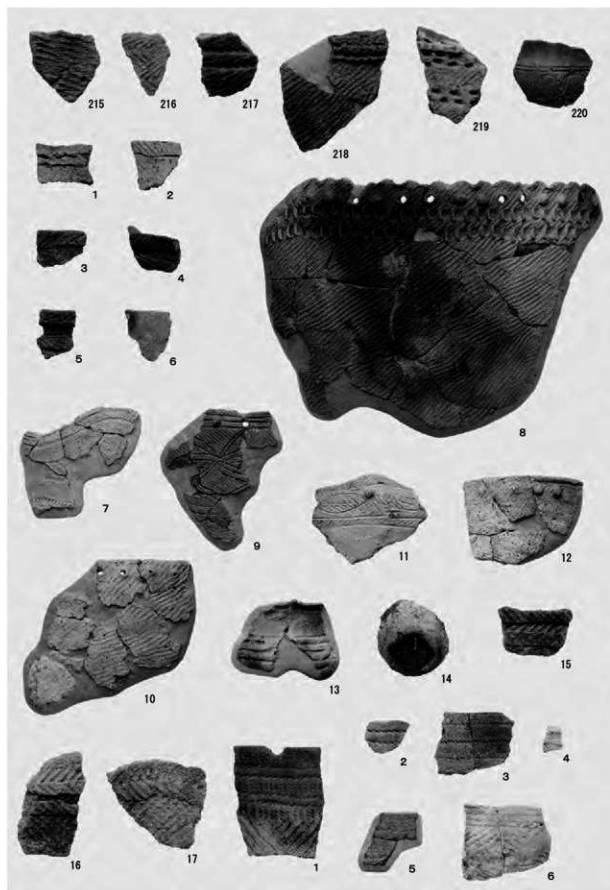


包含層の土器等 (8)

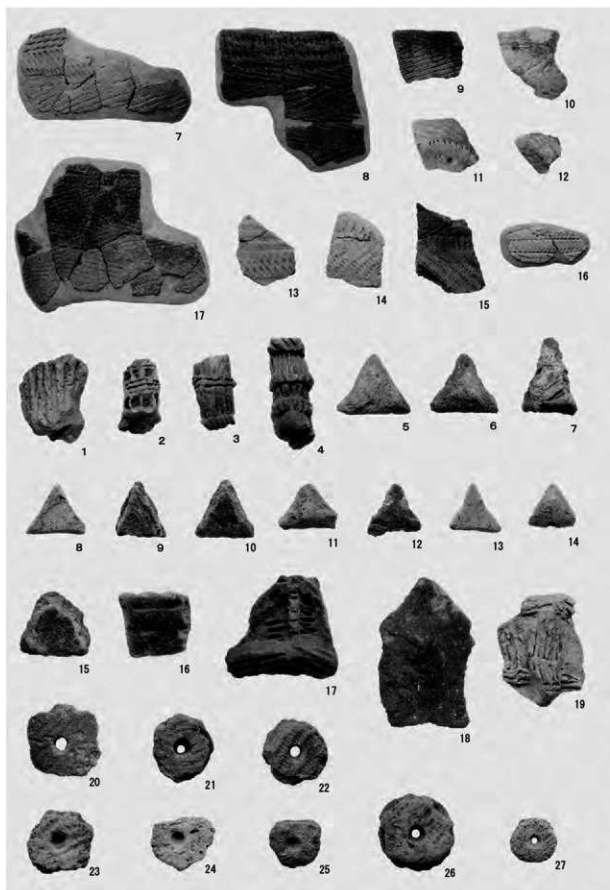




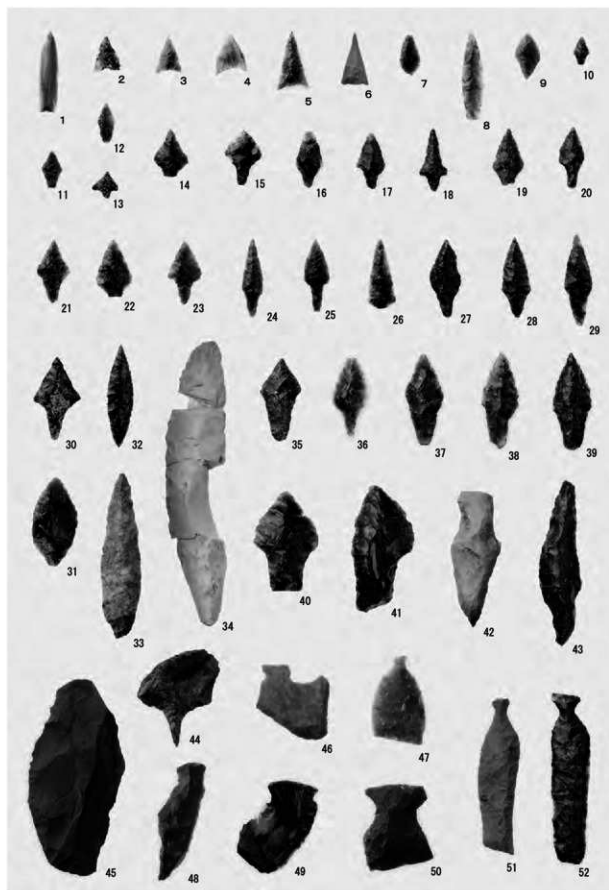
包含層の土器等（9）



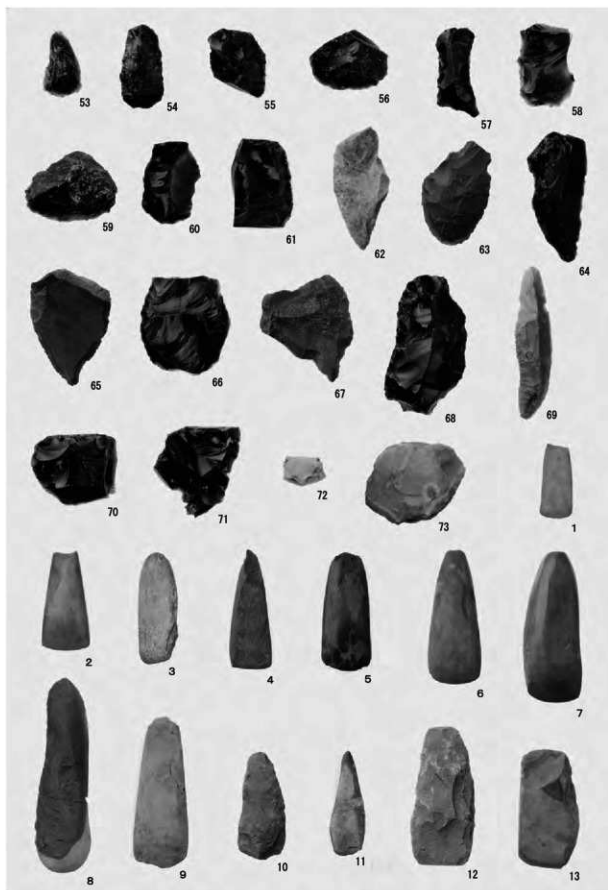
包含層の土器等 (10)



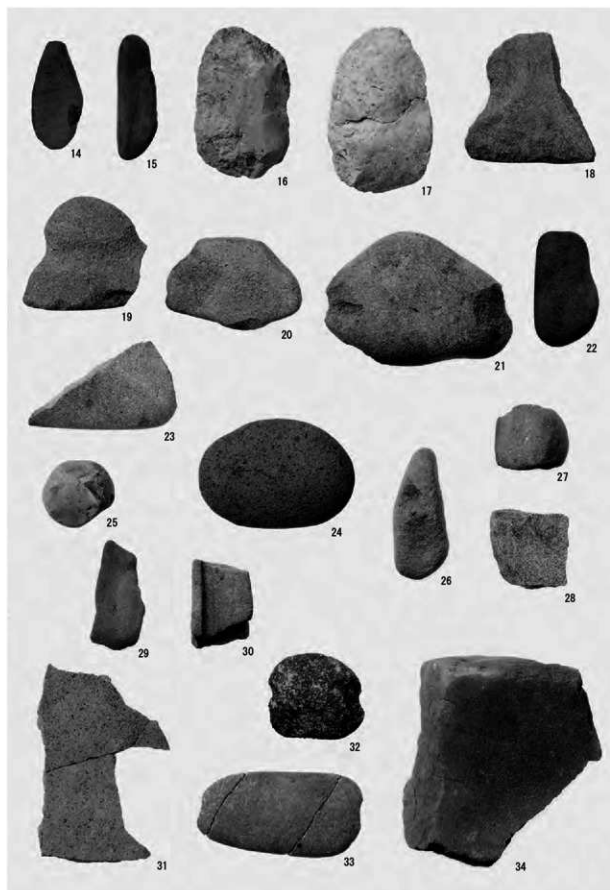
包含層の土器等 (11)



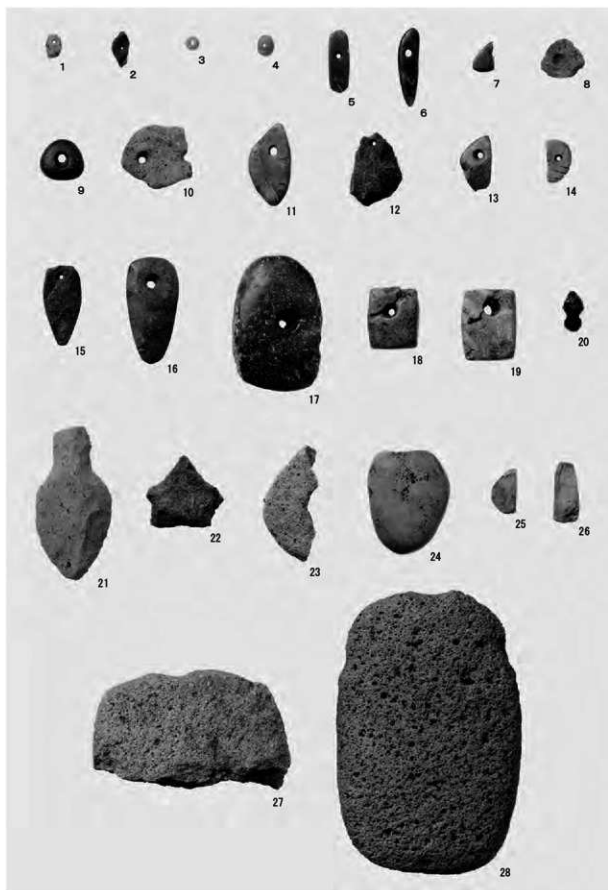
包含層の石器等 (1)



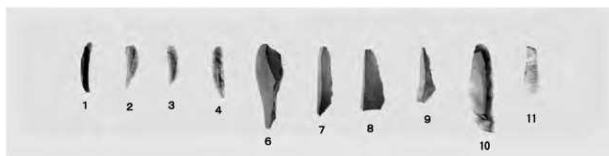
包含層の石器等（2）



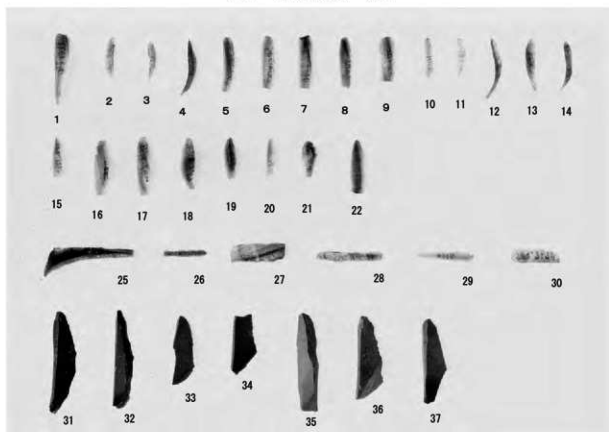
包含層の石器等（3）



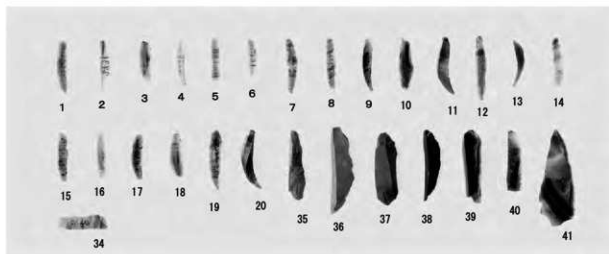
包含層の石器等（4）



SB-1 出土細石刃・削片

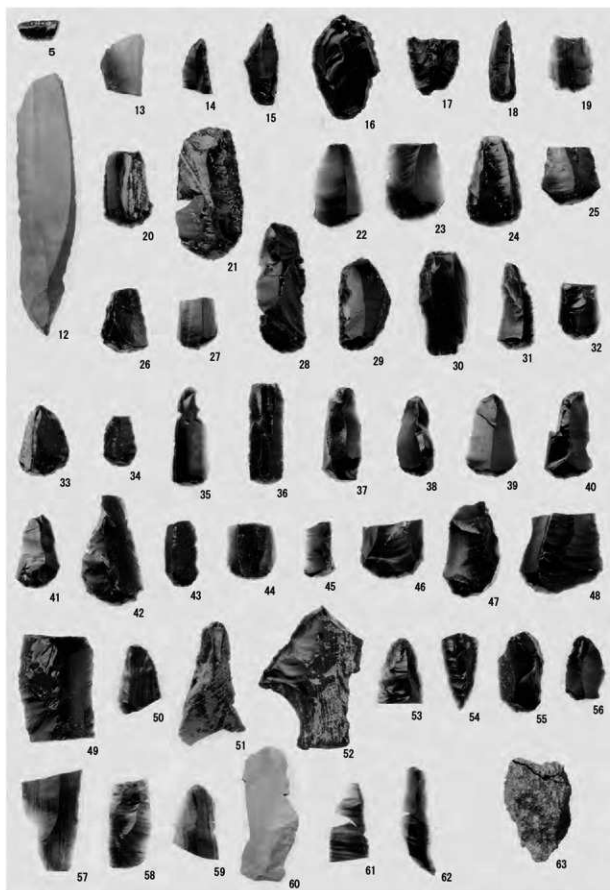


SB-2 出土細石刃・削片

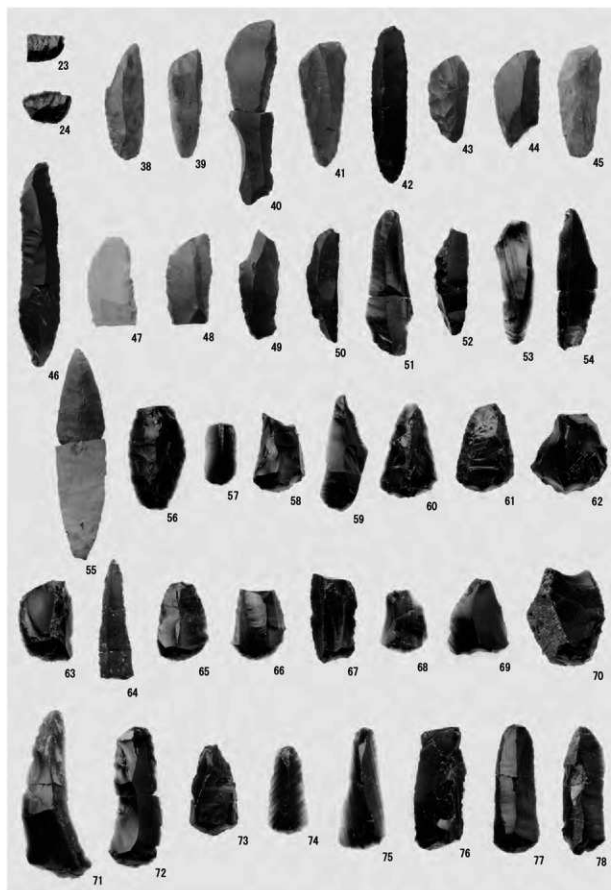


SB-3 出土細石刃・削片

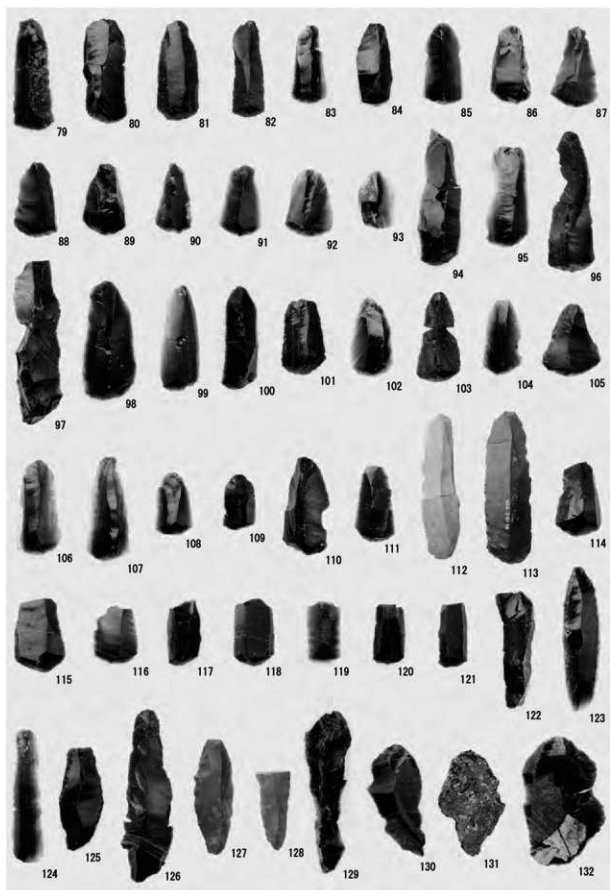




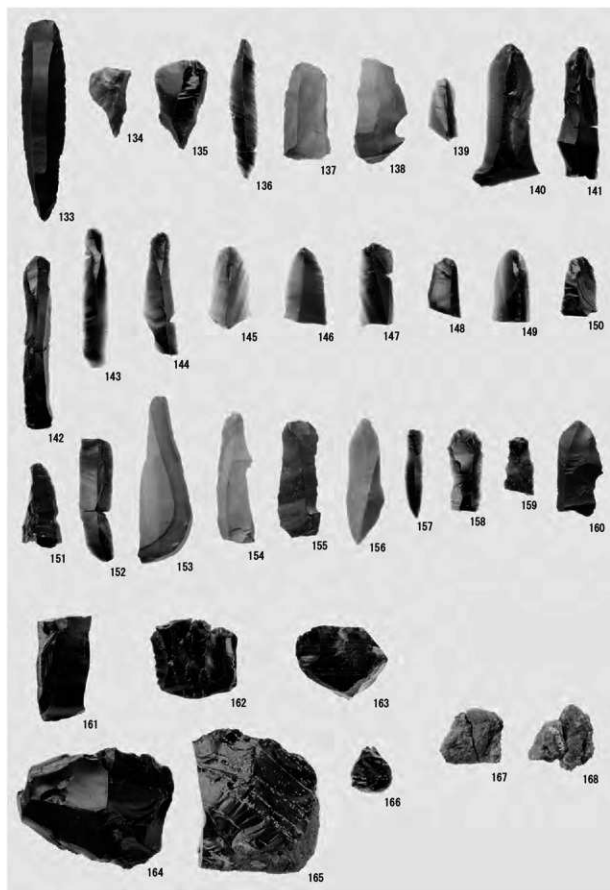
SB-1 出土石器



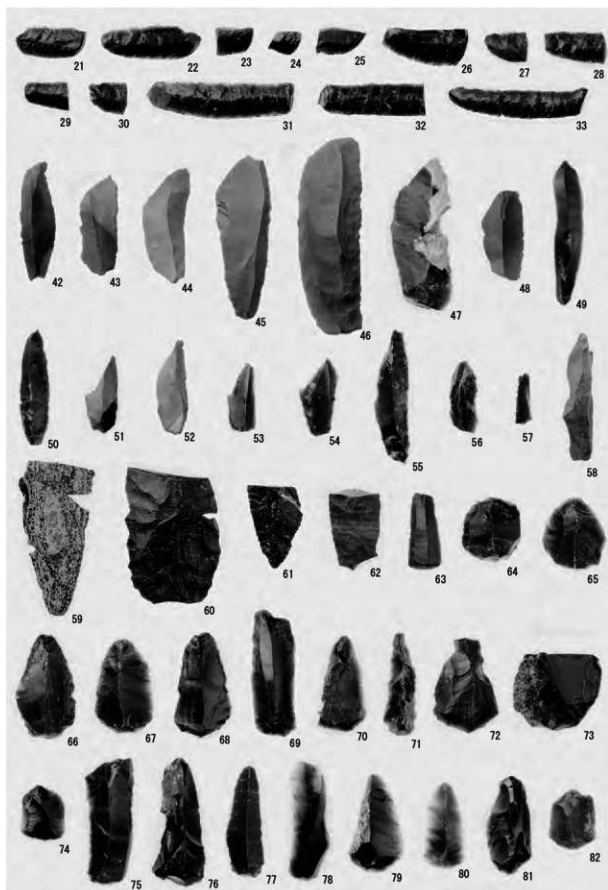
SB-2出土石器(1)



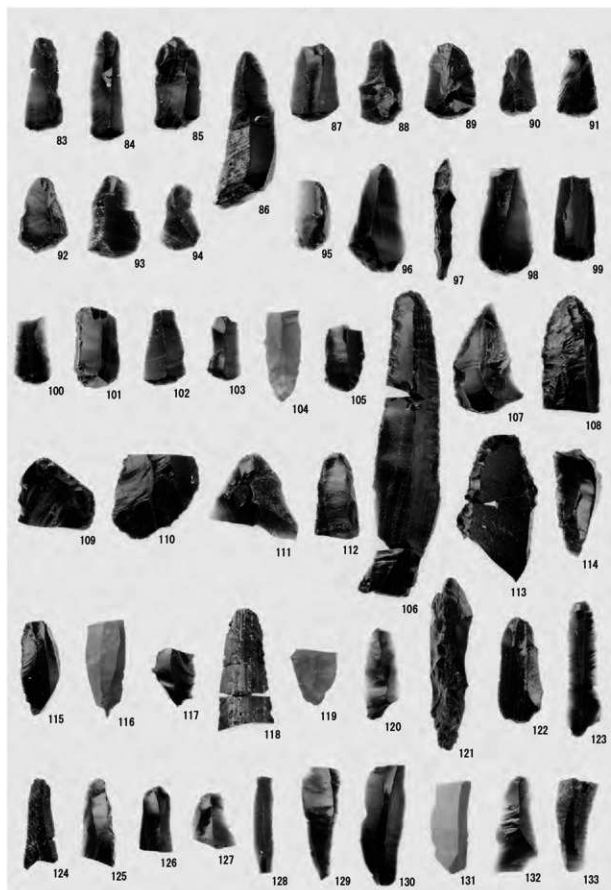
SB-2出土石器(2)



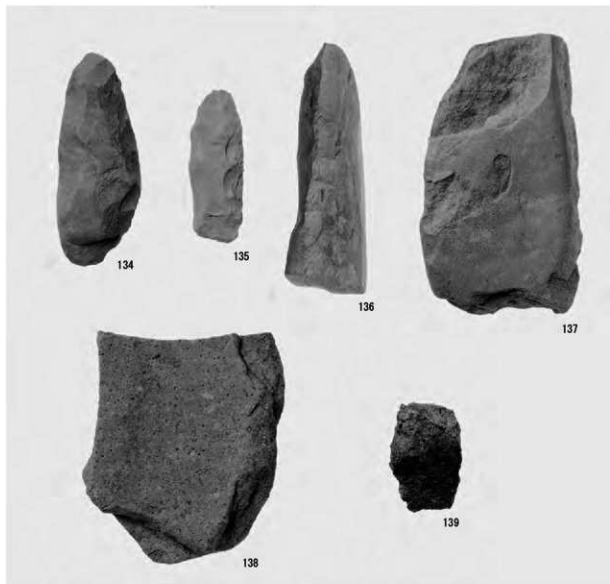
SB-2出土石器(3)



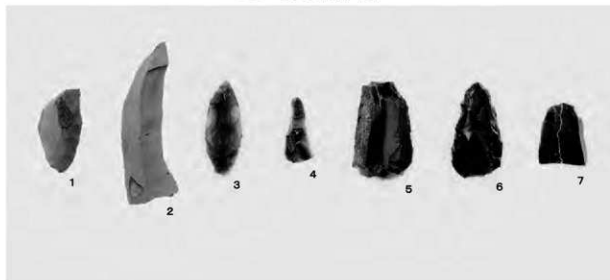
SB-3出土石器(1)



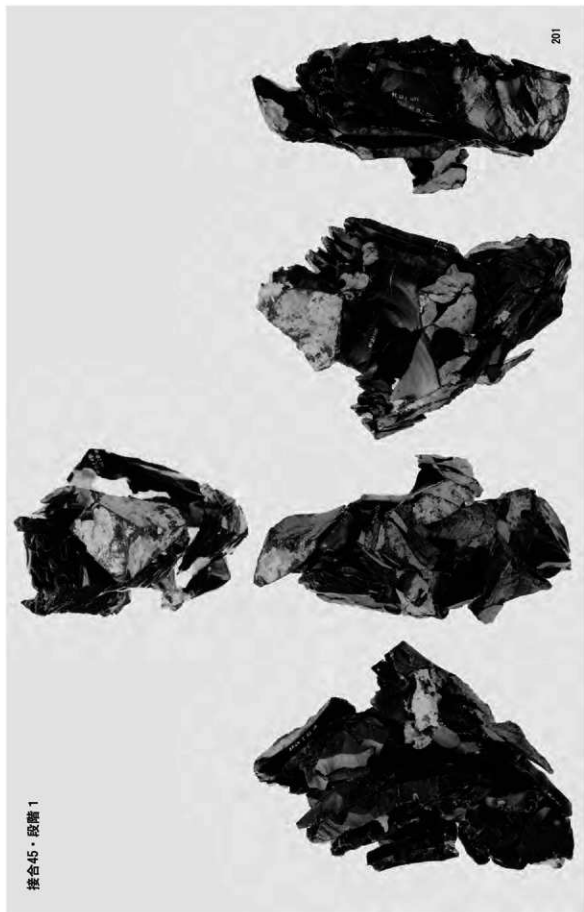
SB-3 出土石器 (2)



SB-3出土石器(3)



ブロック外出土石器



旧石器接合資料(1)



接合45・段階2



202

接合49



203

接合90



204

接合97



205

接合15



206

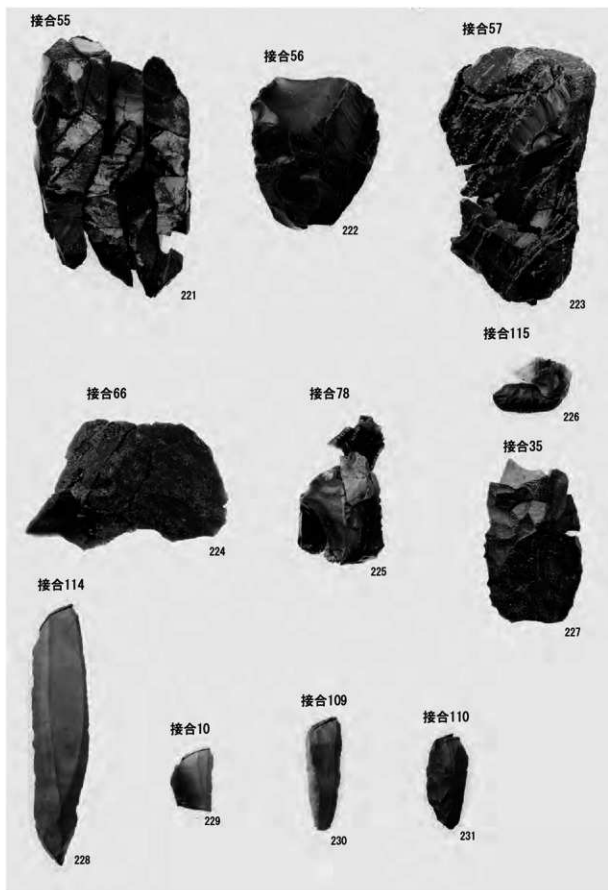
接合21



207



旧石器接合資料 (3)



## 引用参考文献

\* : キウス5遺跡に関する文献

### 論文・書籍等

- 安斎正人・佐藤宏之 編 2006 『旧石器時代の地域編年的研究』同成社
- 石川 徹 1969 「北海道千歳市キウス環状土籬外縁部墳墓について」『北海道考古学』第5輯
- \*大森司統 1997 「縄文時代のシカ狩猟の柵」『動物考古学』第9号 動物考古学会
- 大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』第66巻第4号
- 大沼忠春 1989 「北筒式土器様式」『縄文土器大観』第1巻
- 木下亀城・小川留太郎 1967 『標準原色図鑑全集 6 岩石鉱物』保育社
- 河野常吉 1918 「キウスの遺跡」『北海道史附録地図』北海道庁
- 河野常吉 1924 「キウスのチャシ」『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』北海道庁（1974復刻）
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 佐久間光年 2008 「北海道千歳市祝梅上層遺跡の石器群」考古学VI
- 鈴木克彦 1976 「東北地方北部に於ける大木系土器文化の編年的考察」『北奥古代文化』第8号
- 曾屋龍典・佐藤博之 1980 「千歳地域の地質」地質調査所
- 永田方正 1891 『北海道蝦夷語地名解』（1984復刻）草風館
- 長見義三 1976 「千歳地名散歩」北海道新聞社
- 古堅千絵ほか 2006 「樽前火山における9000年間のマグマ系の変化」『月間地球』28-6
- 町田 洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会
- 松浦武四郎 1857 『丁巳東蝦夷山川地理取調日誌』（高倉新一郎校訂 秋葉実解説 1982 北海道出版企画センター）
- 松浦武四郎 『東西蝦夷山川取調図』（1985 『アイヌ地名資料集成』別冊 草風館）
- 宮本 毅ほか 2002 「白頭山10世紀噴火の噴火推移」『月間地球号外』No.39 活動的火山
- 山田 哲 2006 『北海道における細石刃石器群の研究』六一書房

### 団体組織刊行物

- 泉郷郷土史編纂委員会 1992 『郷土史ケヌフナ物語』
- 千歳市 1969 「千歳市史」史料源蔵編
- 千歳市 1983 『増補 千歳市史』千歳市史編さん委員会編
- 千歳市 2009 『新千歳市史』千歳市史編さん委員会編
- 千歳市教育委員会 1994 「千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図」
- 千歳市教育委員会 2007 〈遺跡範囲調整〉『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図』（遺跡範囲のみ表示）
- 千歳市埋蔵文化財センター 2012 「千歳市遺跡地図 中央部 東部 1 : 25,000」
- 千歳市農業協同組合 1984 『千歳市農業協同組合史』
- 文化庁 1979 『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』文化庁文化財保護部
- ペドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社
- 北海道教育委員会 1977 『埋蔵文化財包蔵地一覧表（付 指定文化財）（全道編）』

### 埋蔵文化財発掘調査報告書

- 青森県教育委員会 1980 『中の平遺跡発掘調査報告書』
- 江別市教育委員会 1982 『砦ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書V
- 札幌市教育委員会 1975 『N309遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅱ
- 千歳市教育委員会 1967 「千歳遺跡」大場利夫・石川徹 調査
- 千歳市教育委員会 1979 「千歳市における埋蔵文化財調査（上）」千歳市文化財調査報告書V
- 千歳市教育委員会 1980 「千歳市における埋蔵文化財調査（下）」千歳市文化財調査報告書VI
- 千歳市教育委員会 1983 『メゴシ川2遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書IX
- 千歳市教育委員会 1994 『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XIV
- \*千歳市教育委員会 1998 「キウス5遺跡における考古学的調査」千歳市文化財調査報告書XXV
- 北海道第四紀研究会 1974 『西股』
- 北海道文化財保護協会 1997 「千歳市 オサツ16遺跡（2）」北海道文化財保護協会調査報告書第7集

## 北海道埋蔵文化財センター刊行物

- 北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』財団法人北海道埋蔵文化財センター15周年記念誌  
北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』財団法人北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌  
北海道埋蔵文化財センター 2004 『調査年報16 平成15年度』  
北海道埋蔵文化財センター 2005 『調査年報17 平成16年度』  
北海道埋蔵文化財センター 2007 『調査年報19 平成18年度』  
北海道埋蔵文化財センター 2008 『調査年報20 平成19年度』  
北海道埋蔵文化財センター 2009 『調査年報21 平成20年度』  
北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報22 平成21年度』

## 北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）

### 「一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査」関連

- 北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市 柏台1遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報138  
北海道埋蔵文化財センター 2002 『千歳市 チブニー1遺跡・チブニー2遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報173  
北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ1遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報188  
北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ2遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報189  
北海道埋蔵文化財センター 2004 『千歳市 オルイカ1遺跡（2）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報206  
北海道埋蔵文化財センター 2004 『千歳市 チブニー2遺跡（2）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報207  
北海道埋蔵文化財センター 2005 『千歳市 オルイカ2遺跡（2）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報221  
北海道埋蔵文化財センター 2006 『千歳市 チブニー2遺跡（3）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報225  
北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報238  
\*北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 キウス5遺跡（8）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報251  
北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 キウス9遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報252  
北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 梅川4遺跡（1）』  
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報253  
北海道埋蔵文化財センター 2010 『千歳市 オルイカ2遺跡（3）』  
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報267  
北海道埋蔵文化財センター 2010 『千歳市 アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報268  
北海道埋蔵文化財センター 2010 『千歳市 梅川4遺跡（2）』  
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報269

### 「道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査」関連

- \*北海道埋蔵文化財センター 2011 『千歳市 キウス5遺跡（9）』  
道央圏連絡道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報284  
北海道埋蔵文化財センター 2012 『千歳市 祝梅川小野遺跡（1） 梅川1遺跡（1）』  
道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報285

「北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査」関連

- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1995 『千歳市 キウス5遺跡 キウス7遺跡（2） ケネフチ8遺跡』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報92
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1996 『千歳市 キウス5遺跡（2） B地区』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報104
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5遺跡（3）』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報115
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5遺跡（4） B地区・C地区』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報116
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス5遺跡（5） A-2地区』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報125
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス5遺跡（6） B地区・C地区』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報126
- \* 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市 キウス5遺跡（7） キウス7遺跡（6）』  
北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報136



# 報告書抄録

ふりがな	ちとせし きうすゝいせき (10)
書名	千歳市 キウス5 遺跡 (10)
副書名	道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)
シリーズ番号	第299集
編著者名	三浦正人・菊池慈人・越田雅司・皆川洋一・愛場和人・末光正卓・広田良成
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地 1 Ⅷ (011)386-3231
発行年月日	西暦2013年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふりがな キウス5 遺跡	北海道 千歳市 中央	01224	A-03 -234	10600 (10-75杭)		20030624~ 20031030	800㎡	道央圏連絡道路 工事に伴う 事前調査
				42° 52' 45.6"	141° 43' 04.7"	20040906~ 20041031	1056㎡	
						20060508~ 20061031	1920㎡	
				10700 (35-75杭)		20070507~ 20071030	6100㎡	
				42° 52' 48.8"	141° 43' 05.5"	20080901~ 20081016	721㎡	
						20090507~ 20090827	3068㎡	
				世界測地系		調査面積 低地部5,480㎡除く		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
キウス5 遺跡	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居跡 土坑 小柱穴(杭穴列) 焼土 土器集中 フレイク・チップ集中	縄文土器 (中期・後期・早期) 中期 大木式土器  石鏃 石槍・ナイフ 両面調整石器 石錐 スクレイパー 磨製石斧 たたき石	・縄文時代中期 の集落跡 小柱穴(杭穴列) 焼土列 ・細石刃石器群
		散布地	縄文時代 後期・前期・早期 後期旧石器時代	旧石器ブロック	

要約	<p>キウス5 遺跡は石狩低地帯東辺の馬道(まおい)丘陵から西流するキウス川右岸の丘陵下端部とキウス川旧河道の谷底平野に立地する。当報告はこのうちの台地部分のV層より下位の層出土の遺構・遺物を対象とするものである。なお、旧河道を含む低地部は平成19(2007)年度に『千歳市 キウス5 遺跡(8)』、台地部Ⅱ層の推定文化期から縄文時代晩期は平成23(2011)年度に『千歳市 キウス5 遺跡(9)』で報告を行っている。</p> <p>台地部V層では、主に縄文時代中期の竪穴住居跡・土坑・焼土・小柱穴等の遺構を調査した。竪穴住居跡は後期初頭の1軒以外はすべて縄文時代中期後半で、当該期の集落跡と考える。住居跡・土坑は調査区東側部分で集中して確認された。焼土と柱穴は列状に位置し、前者は遺構集中区域から周囲へ延びるように、後者はこの区域を曲線的に囲むようにみられる。</p> <p>遺物は縄文時代中期後半のものが多数出土した。</p> <p>他の時期では縄文時代早期・前期の遺物が出土している。遺物は土器が多く石器は少量である。土器は道南地方のノグップⅡ式や東北地方の最花式(大木式系)が出土している。</p> <p>旧石器は忍路子型細石刃を伴う石器群である。</p>
----	--





(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第299集

## 千歳市 キウス5遺跡 (10)

— 道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25 (2013) 年 3 月 29 日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238  
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>  
[E-mail] [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

印刷 北海道印刷企画株式会社  
〒064-0811 札幌市中央区南11条西9丁目3番35号  
TEL 011(562)0075 FAX 011(562)0355  
[URL] <http://www.hpp-c.jp>  
[E-mail] [info@hpp-c.jp](mailto:info@hpp-c.jp)



